健康福祉学部

社会福祉学科

（授業科目名 五十音順）

科目名	医療的ケアⅠ	前期	2 単位
サブタイトル	医療を必要としている生活者		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
医療の発展がめざましいわが国では、病院を離れて施設や在宅で生活をする医療的ケアを必要とする人が増加し、一部の医療的ケアを介護職が医療職と連携して担うことが制度化された。「医療的ケアⅠ」はこれに続く「医療的ケアⅡ」「医療的ケアⅢ」とともにその資格取得講習会の「医療的ケア実施の基本研修（講義）（演習）」の一部にあたる。介護福祉士として安全な医療的ケアが実施できることを目的に、医療的ケアに関する制度や、医療的ケアを必要とする人の支援のために、医療チームと連携しながら必要な医療的ケアの基礎と喀痰吸引、経管栄養についての基礎的知識、実施手順を学ぶ。

[授業概要]
医療の発展がめざましいわが国では、病院を離れて施設や在宅で生活をする医療的ケアを必要とする人が増加し、一部の医療的ケアを介護職が医療職と連携して担うことが制度化された。「医療的ケアⅠ」はこれに続く「医療的ケアⅡ」「医療的ケアⅢ」とともにその資格取得講習会の「医療的ケア実施の基本研修（講義）（演習）」の一部にあたる。介護福祉士として安全な医療的ケアが実施できることを目的に、医療的ケアに関する制度や、医療的ケアを必要とする人の支援のために、医療チームと連携しながら必要な医療的ケアの基礎と喀痰吸引、経管栄養についての基礎的知識、実施手順を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
これまでに履修したなかで、解剖生理学、感染、応急処置緊急時の対応など、医療に関係深い分野の復習をする。

[授業計画]
1. 第1章（1）個人の尊厳と自立、（2）医療の倫理、（3）利用者の気持ちの理解
2. 第2章（1）保健医療に関する制度、（2）医行為に関する法律
3. 第2章（3）チーム医療と介護職員との連携、第3章（1）たんの吸引や経管栄養の安全な実施①
4. 第3章（1）たんの吸引や経管栄養の安全な実施②、（2）救急蘇生法①
5. 第3章（2）救急蘇生法②
6. 第4章（1）感染予防、（2）職員の感染予防、（3）療養環境の清潔・消毒法
7. 第4章（4）滅菌と消毒
8. 第5章（1）身体・精神の健康、（3）急変状態について
9. 第5章（2）健康状態を知る項目（バイタルサインなど）
10. 第6章（1）呼吸のしくみとはたらき
11. 第6章（2）いつもと違う呼吸状態、（3）たんの吸引とは①
12. 第6章（3）たんの吸引とは②、（4）人工呼吸器と吸引①
13. 第6章（4）人工呼吸器と吸引②
14. 第6章（5）子どもの吸引について、（6）吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
15. まとめ（振り返り）

[成績評価方法]
平常点 （70%） レポート(30%)

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 改訂 著者名：全国訪問看護事業協会 出版社：中央法規 （978-4-8058-5250-7）
介護福祉士養成テキスト4医療的ケア 著者名：日本介護福祉士養成施設協会（編集） 出版社：法律文化社 （978-4-589-03574-5）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000850 [WH4-018]

科目名	医療的ケアⅡ	前期	2 単位
サブタイトル	吸引・経管栄養		
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
吸引に関係する呼吸器系の感染と予防について説明ができる。
痰の吸引により生じる危険、事後の安全確認について説明ができる。
痰の吸引による急変、事故発生時の対応と事前対策について説明できる。
自然な食物摂取から排泄までの機序を理解した上で、経管栄養の必要な状況を説明できる。
経鼻、胃ろう、腸ろうによる栄養法、またそのしくみを理解する。
経管栄養実施上の留意点がわかり、経管栄養によって生じる危険や感染が予防できる。
経管栄養を受ける利用者(児)、家族の気持ちを理解することやその対応、説明と同意のそれぞれの重要性と方法を説明できる。
経管栄養に関しての急変や事故が予測できる。

[授業概要]
施設や在宅で医療的ケアを必要としながら生活する人が増加し、介護福祉士が一部の医療的ケアを医療職と連携して担うことが制度化された。「医療的ケアⅡ」は、「医療的ケアⅠ」に引き続き、医療的ケア実施の基本研修(講義)の一部であり、介護福祉士として、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できることを目的に、喀痰吸引の続きと経管栄養の基礎的知識、実施手順を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の授業内容を復習し次回の授業の予習として教科書の内容を確認しておくこと。

[授業計画]
1. 第6章(7)呼吸器の感染と予防(吸引と関連して)、(8)たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認①
2. 第6章(8)たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認②、(9)急変・事故発生時の対応と事前対策①
3. 第6章(9)急変・ 事故発生時の対応と事前対策②、第7章(1)たんの吸引で用いる用具、器材とそのしくみ、清潔の保持①
4. 第7章(1)たんの吸引で用いる器具、器材とそのしくみ、清潔の保持②、(2)吸引の技術と留意点①
5. 第7章(2)吸引の技術と留意点②
6. 第7章(2)吸引の技術と留意点③
7. 第7章(2)吸引の技術と留意点④、(3)たんの吸引に伴うケア①
8. 第7章 (3)たんの吸引に伴うケア②、(4)報告及び記録
9. 第8章(1)消化器のしくみとはたらき
10. 第8章(2)消化・吸収とよくある消化器の症状、(3)経管栄養とは①
11. 第8章 (3)経管栄養とは②、(4)注入する内容に関する知識
12. 第8章(5)経管栄養実施上の留意点、(6)子どもの経管栄養について①
13. 第8章 (6)子どもの経管栄養について②、(7)経管栄養に関する感染と予防
14. 第8章(8)経管栄養を受ける利用者の気持ちと対応、説明と同意、(9)経管栄養に生じる危険、注入後の安全確認
15. まとめ(振り返り)

[成績評価方法]
筆記試験90%　レポート10%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト　改訂　著者名:全国訪問看護事業協会　出版社:中央法規出版　(978-4-8058-5250-7)
配布プリント

[参考書(ISBN)]
なし

P11000860 [WH4-019]

科目名	医療的ケアⅢ	前期	1 単位
サブタイトル	医行為		
担当者	横山　正子、津田　理恵子		

[到達目標]
①経管栄養に関しての急変や事故が発生したときの対応と事前対策が説明できる。
②安全で適切な経管栄養の実施手順、留意点が説明できる。
③利用者の実施前後、注入中の状態観察、留意点が説明できる。
④報告方法と、記録の意義・内容が説明できる。

[授業概要]
施設や在宅で生活をする医療的ケアを必要とする人の増加にともない、その人と家族の支援のニーズが増加している。介護福祉士は一部の医療的ケアを医療職と連携して担うことが制度化された。「医療的ケアⅢ」は、「医療的ケアⅠ」「医療的ケアⅡ」に続く基本研修(講義)の一部で、ここでは経管栄養が安全、適切に行えるように基礎的知識、実施手順を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
これまでに履修したなかで、解剖生理学、感染、応急処置緊急時の対応など、医療に関係深い分野の復習をする。

[授業計画]
1. 第8章(10)急変・事故発生時の対応と事前対策、第9章(1)経管栄養で用いる器具・機材としくみ、清潔の保持①
2. 第9章(1)経管栄養で用いる器具・機材としくみ、清潔の保持②、(2)経管栄養の技術と留意点①
3. 第9章(2)経管栄養の技術と留意点②
4. 第9章(2)経管栄養の技術と留意点③
5. 第9章(2)経管栄養の技術と留意点④、(3)経管栄養に必要なケア①
6. 第9章(3)経管栄養に必要なケア②、(4)報告及び記録
7. まとめ(振り返り)

[成績評価方法]

平常点 (70%) レポート(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 改訂 著者名:全国訪問看護事業協会 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5250-7)
配布プリント

[参考書(ISBN)]
なし

P11000870 [WH4-020]

科目名	医療的ケアⅣ（演習）	前期	1 単位
サブタイトル	医行為		
担当者	横山　正子、津田　理恵子、横山　淳子		

[到達目標]
①吸引、経管栄養の医療的ケア5項目を医療職との連携のもとで安全・適切に実施できる技術を習得する。
②救急蘇生法を習得する。

[授業概要]
「医療的ケアⅣ」は「介護職員によるたんの吸引等の研修」の「基本研修（演習）」の部分にあたる。本学での医療的ケアの「基本研修（講義）」である科目「医療的ケアⅠ」「医療的ケアⅡ」「医療的ケアⅢ」を履修した後に、医療職と連携して、安全、適切にひとりで行えることを目的として喀痰吸引と経管栄養、救急蘇生法を演習する。「基本研修（演習）」は評価基準があり、シュミレーターを使い、テキストの「評価票」を用いて行う。たんの吸引では口腔内吸引5回以上、鼻腔内吸引5回以上、気管カニューレ内吸引5回以上を、経管栄養では胃ろうまたは腸ろう5回以上、経鼻5回以上を、また救急蘇生法1回以上を「ケア実施の手引き」の手順どおりにできると判断されるまで行うこととする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
これまでに履修したなかで、解剖生理学、感染、応急処置緊急時の対応など、医療に関係深い分野の復習をする。

[授業計画]
1. たんの吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内）演習(横山　津田　横山)
2. 口腔内吸引演習(横山　津田　横山)
3. 鼻腔内吸引演習（横山　津田　横山)
4. 気管カニューレ内吸引演習(横山　津田　横山)
5. 経管栄養法（胃ろうまたは腸ろう・経鼻）演習(横山　津田　横山)
6. 胃ろうまたは腸ろう経管栄養演習(横山　津田　横山)
7. 経鼻経管栄養演習(横山　津田　横山)
8. 救急蘇生法(横山　津田　横山)

[成績評価方法]
平常点（70%）レポート(30%)

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト　改訂　著者名：全国訪問看護事業協会　出版社：中央法規出版（978-4-8058-5250-7 ）
配布プリント

[参考書（ISBN）]
なし

P11000880 [WH4-021]

科目名	医療福祉論	後期	2 単位
サブタイトル	社会福祉と医療の接点		
担当者	諏訪田　克彦		

[到達目標]
医療と社会福祉の関係を学び、ソーシャルワークの役割を理解する。

[授業概要]
1. 医療に関連する社会保障・社会福祉制度を学び 、さらに、医療現場で起きている問題をとおして医療と社会福祉のつながりを考察する
2. 患者、家族が抱える課題をとおして、ソーシャルワーカーの役割と援助について理解する
3. 授業形態は内容に応じて演習や小グループ学習を取り入れ、一人ひとりか役割分担や発表などおこない医療福祉の理解を深める

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の配付資料や小グループ学習の振り返りを見直し、授業でとりあげたテーマを再確認する。

[授業計画]
1. 医療ソーシャルワークの援助 「医療ソーシャルワークとは」
2. 演習／ドラマウオッチング 「ﾌﾞﾗｯｸｼﾞｬｯｸによろしく」or「こうのどり」 医療現場で起きている問題を知る
　キーワード:「病院」、「病と障害」、「不妊治療」、「出生前診断」、「保育所」、「医療同意」「親権」など
3. チュートリアル①「病院」
4. チュートリアル②「染色体異常」
5. チュートリアル③「不妊治療とNICU染色体異常」
6. チュートリアル④「保育所」
7. チュートリアル⑤「医療同意」
8. チュートリアル⑥「出生前診断とインフォームドコンセント」
9. 演習／いいとこスケッチorいのちを支える
10. 医療ソーシャルワークの援助 「がん医療と終末期医療」
11. 医療ソーシャルワークの援助 「介護と医療」
12. 医療ソーシャルワークの援助 「医療倫理／延命医療を希望しなかった患者の支援」
13. 施設見学 「重症心身障害児者施設／枚方総合発達医療センター」
14. 医療福祉論のまとめ／リクエスト講義
15. テスト

[成績評価方法]
授業の参加20%、適宜の小レポート30%、テスト50%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
「医療福祉総合ガイドブック」 著者名:村上須賀子　出版社:医学書院
「よくわかる医療福祉」 著者名:小澤温　出版社:ミネルヴァ書房

P11000060 [WH3-002]

科目名	介護過程演習Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	介護過程の展開		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
ICF、利用者本意、尊厳、人権、自立支援の意味を理解し、介護過程の展開に取り入れることができる
提供された事例について実践的展開ができる
KOMI理論の示す自己実現や生活の質の向上を目指すケアの本質論を介護過程の思考に活用できる。

[授業概要]
これまで介護過程総論、ケアマネジメント論で介護過程の展開の基礎、方法論を学んだが、ここでは介護実習Ⅰの課題であった「情報収集」事例に対して、KOMI理論を理解したうえで、KOMI理論に基づいて介護過程の展開を行う。
介護過程の展開能力を習得するにあたり、これまで他科目で学習した知識や技術を統合して、対象利用者の介護計画を立案する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
介護実習Ⅰの情報収集用紙を整理しておく

[授業計画]
1.オリエンテーション
2.ICF、ICDIHの理解と実習Ⅰ事例の介護過程振り返り
3.実習Ⅰ事例の介護計画立案
4.KOMI理論の理解（介護の発祥）
5.KOMI理論の理解（介護と看護、医療と福祉、介護の定義）
6.KOMI理論の理解（理論の構成）
7.KOMI理論とKOMIチャートシステム（介護過程展開のためのアセスメントシート）
8.基本情報シート
9.生命過程の判断
10.認識過程と生活過程の判断
11.優先順位とアセスメント
12.介護計画の立案
13.チームアプローチ
14.KOMI理論の振り返り
15.まとめ

[成績評価方法]
試験（50%）、課題、発表内容などの総合評価（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
KOMI理論　著者名：金井一薫著　出版社：現代社　（ISBN4-87474-114-2）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000670 [WH3-027]

科目名	介護過程演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	KOMI理論とKOMIチャートシステム		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
現行の介護保険制度と介護過程の実際の関係が理解できる。
介護実習Ⅰでの事例、模擬事例を通して、介護過程展開の方法が理解できる。
アセスメントシートを用いて、ケーススタディを行うことができる。

[授業概要]
介護過程の一連を実践するために、介護実習Ⅰで体験した高齢者、障害者(児)事例、教員の準備した模擬事例を通し、介護過程のシステムと介護保険制度での個別援助計画との関係を学び介護過程を評価できる能力を養う。既存のアセスメントシートを用いた介護過程を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
これまでの介護に関するすべての知識を総動員してケア計画を立てるので、自信のない領域は復習をしておく。

[授業計画]
1.オリエンテーション、制度の中の介護過程の実際・介護過程のツール
2.実習体験での事例のまとめ
3.介護理論の理解1　komi理論を学ぶ
4.介護理論の理解2　komi理論を学ぶ
5.介護理論の理解3　komi理論を学ぶ
6.介護理論の理解4　komi理論を学ぶ
7.アセスメントシート1　アセスメントシートを学ぶ
8.アセスメントシート2　アセスメントシートを学ぶ
9.その他のアセスメントツール　各種のアセスメントシートを検証する
10.アセスメントツールの比較1　各種のアセスメントシートの使用
11.事例報告　アセスメントシートの活用とその発表1
12.事例報告　アセスメントシートの活用とその発表2
13.事例報告　アセスメントシートの活用とその発表3
14事例報告　アセスメントシートの活用とその発表4
15.まとめと評価

[成績評価方法]
平常点(80%)、レポート(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
KOMI理論　著者名:金井一薫著　出版社:現代社　(ISBN4-87474-114-2)

[参考書(ISBN)]
なし

P11000680 [WH3-028]

科目名	介護過程総論	後期	2 単位
サブタイトル	個別ケアのための介護過程		
担当者	木村　あい、津田　理恵子		

[到達目標]
介護過程の全体の流れが説明できる。
介護過程の各段階の内容を理解できる。
思考の過程で判断を行使していることが理解できる。
問題解決にあたり思考過程を自覚することができる。
介護に介護過程の展開が必要であることを知ることができる。

[授業概要]
科目「介護過程」では介護の対象にふさわしい自立的で、自己実現にむけた個別的な援助行うために、意図的、科学的な介護の実践方法を学ぶ。その過程を研究としてまとめ、発表し、評価することを最終目的とする。この介護過程総論はその前段階として、概要を学ぶこととなる。課題を持ったときに人は思考過程を通して判断をして解決することを知り、介護においても専門的で、効果的で、その人にふさわしい個別的な介護を提供するためには介護過程の展開が必要であることを学ぶ。介護過程とは何か、その必要性、意義、その方法の概要を学ぶ。人の生活について思考し、議論し、生活支援のために、介護理念と介護技術、知識を介護過程に結びつけ、科学と哲学が介護を支えていることを学ぶ。チームアプローチの重要性を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
履修済みの「介護」に関する科目を復習しておく。

[授業計画]
1. 介護の専門性と介護過程の意義(木村)
2. 介護過程の構造(木村)
3. ICFの視点、介護の理念、医学モデル・社会モデル・生活支援モデル(木村)
4. 観察、コミュニケーション(木村)
5. 情報収集、記録(木村)
6. 生活の仕方とアセスメント(木村)
7. 健康・機能障害(木村)
8. 活動・参加の障害(津田)
9. 生活障害(津田)
10. ノーマライゼーション、自立への支援と価値(津田)
11. 他職種との連携の必要性とチームアプローチ(津田)
12. 具体的な支援の方法課題の抽出、目標(津田)
13. 介護計画の立て方(津田)
14. 事例演習(津田)
15. まとめと評価(木村・津田)

[成績評価方法]
平常点(20%), 試験(80%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
介護過程第3版　著者名:石野育子編　　出版社:メヂカルフレンド社 (978-4-8392-3194-1)

[参考書(ISBN)]
なし

P11000650 [WH1-016]

科目名	介護総合演習Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ事前指導		
担当者	木村　あい、横山　正子、津田　理恵子		

[到達目標]
1.実習目標明確になり行動計画書を作成できる
2.実習生としての社会的スキルが身につく
3.介護老人保健施設の機能･役割が理解できる
4.利用者の個別の特性や疾病について理解を深める
5.介護福祉士の職業倫理が理解できる
6.求められるコミュニケーション能力が発揮できる

[授業概要]
介護老人保健施設の理解を深め、実習生としての基本的なスキルとなる実習態度や求められる記録･報告･コミュニケーション力について学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1)社会福祉の動向を理解する
2)実習に関連する科目の知識･技術を整理しておく

[授業計画]
1.オリエンテーション　介護福祉実習の進め方 （木村）
2.実習目的と行動 （木村）
3.実習施設の理解　介護老人保健施設 （木村）
4.実習施設の理解　法的根拠 （木村）
5.生活理解　対象者の特性と理解 （木村）
6.実習記録の意義 （木村）
7.実習目標の明確化 （木村）
8.実習目標と行動計画書 （木村）
9.介護実習記録の実際 （木村）
10.介護実習諸手続き （木村）
11.社会人、実習生としてのルール･マナー （木村･横山･津田）
12.生活支援技術の確認 （木村･横山･津田）
13.介護福祉士の倫理と求められる介護福祉士像 （木村･横山･津田）
14.コミュニケーションの工夫･生活リハビリ･レクリエーション （木村･横山･津田）
15.諸注意(事前訪問･記録と報告･実習態度) （木村･横山･津田）

[成績評価方法]
平常点(50%)　提出物(50%)の総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
介護実習の手引き
※最初の授業で配布

[参考書(ISBN)]
適宜紹介

P11000700 [WH2-027]

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導		
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
1.介護福祉士の倫理綱領が理解できる
2.自己の実習課題が明確になる
3.施設・事業所の特徴、多職種との連携、個別介護の必要性が理解できる
4.利用者個別の生活が理解できる
5.介護福祉士の倫理綱領の重要性が理解できる
6.コミュニケーションを図る目的が理解できる

[授業概要]
老人保健施設実習での学びを振り返り、目標達成を確認し、個々の課題を明確にするとともに、個別介護の重要性を確認して介護福祉士の役割や倫理について整理する中で、自己の介護観を整理していく

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
実習の振り返り、記録類の整理を自主的にしておく

[授業計画]
1.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい)
2.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい)
3.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい)
4.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい)
5.オリエンテーション (横山正子・津田理恵子・木村あい)
6.課題の整理(横山正子・津田理恵子・木村あい)
7.記録の整理(横山正子・津田理恵子・木村あい)
8.老人保健施設での実習の振り返り(横山正子・津田理恵子・木村あい)
9.施設事業所の特徴　多職種との連携(横山正子・津田理恵子・木村あい)
10.介護福祉士の役割(横山正子・津田理恵子・木村あい)
11.実習報告会の準備　まとめ(横山正子・津田理恵子・木村あい)
12.実習報告会の準備　資料作成(横山正子・津田理恵子・木村あい)
13.実習報告会Ⅰ前半(横山正子・津田理恵子・木村あい)
14.実習報告会Ⅱ後半(横山正子・津田理恵子・木村あい)
15.自己課題の明確化(横山正子・津田理恵子・木村あい)

[成績評価方法]
平常点(50%)・提出物(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
実習の手引き

[参考書(ISBN)]
適宜配布

P11000710A [WH2-028]

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
1.介護福祉士の倫理綱領が理解できる
2.自己の実習課題が明確になる
3.施設・事業所の特徴、多職種との連携、個別介護の必要性が理解できる
4.利用者個別の生活が理解できる
5.介護福祉士の倫理綱領の重要性が理解できる
6.コミュニケーションを図る目的が理解できる

[授業概要]
老人保健施設実習での学びを振り返り、目標達成を確認し、個々の課題を明確にするとともに、個別介護の重要性を確認して介護福祉士の役割や倫理について整理する中で、自己の介護観を整理していく

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
実習の振り返り、記録類の整理を自主的にしておく

[授業計画]
1.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい)
2.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい)
3.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい)
4.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい)
5.オリエンテーション (横山正子・津田理恵子・木村あい)
6.課題の整理 (横山正子・津田理恵子・木村あい)
7.記録の整理 (横山正子・津田理恵子・木村あい)
8.老人保健施設での実習の振り返り (横山正子・津田理恵子・木村あい)
9.施設事業所の特徴　多職種との連携 (横山正子・津田理恵子・木村あい)
10.介護福祉士の役割 (横山正子・津田理恵子・木村あい)
11.実習報告会の準備　まとめ (横山正子・津田理恵子・木村あい)
12.実習報告会の準備　資料作成 (横山正子・津田理恵子・木村あい)
13.実習報告会Ⅰ前半 (横山正子・津田理恵子・木村あい)
14.実習報告会Ⅱ後半 (横山正子・津田理恵子・木村あい)
15.自己課題の明確化 (横山正子・津田理恵子・木村あい)

[成績評価方法]
平常点(50%)・提出物(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
実習の手引き

[参考書(ISBN)]
適宜配布

P11000710B [WH2-028]

科目名	介護総合演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅰ 事後指導		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
1.介護福祉士の倫理綱領が理解できる
2.自己の実習課題が明確になる
3.施設・事業所の特徴、多職種との連携、個別介護の必要性が理解できる
4.利用者個別の生活が理解できる
5.介護福祉士の倫理綱領の重要性が理解できる
6.コミュニケーションを図る目的が理解できる

[授業概要]
老人保健施設実習での学びを振り返り、目標達成を確認し、個々の課題を明確にするとともに、個別介護の重要性を確認して介護福祉士の役割や倫理について整理する中で、自己の介護観を整理していく

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
実習の振り返り、記録類の整理を自主的にしておく

[授業計画]
1.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい)
2.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい)
3.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい)
4.帰校日 (実習目標の到達度・記録)(横山正子・津田理恵子・木村あい)
5.オリエンテーション (横山正子・津田理恵子・木村あい)
6.課題の整理(横山正子・津田理恵子・木村あい)
7.記録の整理(横山正子・津田理恵子・木村あい)
8.老人保健施設での実習の振り返り(横山正子・津田理恵子・木村あい)
9.施設事業所の特徴　多職種との連携(横山正子・津田理恵子・木村あい)
10.介護福祉士の役割(横山正子・津田理恵子・木村あい)
11.実習報告会の準備　まとめ(横山正子・津田理恵子・木村あい)
12.実習報告会の準備　資料作成(横山正子・津田理恵子・木村あい)
13.実習報告会Ⅰ前半(横山正子・津田理恵子・木村あい)
14.実習報告会Ⅱ後半(横山正子・津田理恵子・木村あい)
15.自己課題の明確化(横山正子・津田理恵子・木村あい)

[成績評価方法]
平常点(50%)・提出物(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
実習の手引き

[参考書(ISBN)]
適宜配布

P11000710C [WH2-028]

科目名	介護総合演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ事前・事後指導		
担当者	津田　理恵子、泉　妙子		

[到達目標]
1.居宅支援事業所の概要と訪問介護サービス内容が理解できる
2.利用者・家族の特徴や生活が理解できる
3.個別に応じたケアマネジメントが理解できる
4.地域で働く介護福祉士の役割や職種間の連携が理解できる
5.実習目標・行動計画が明確になる

[授業概要]
事前指導
1)訪問介護事業所・小規模多機能施設の機能・役割が理解できる
2)実習目標・実習行動計画書が明確になる
3)地域における居宅サービスの内容・多職種連携の必要性を学ぶ
4)地域で働く介護福祉士の果たす役割が理解できる
5)地域で生活する利用者や家族の生活ニーズにそった個別生活支援技術が実践できる
事後指導
1)自己の実習課題が明確になる
2)居宅介護事業所等在宅支援の特徴や課題が明確になる
3)地域における在宅支援の意義が理解できる

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
介護保険制度や居宅介護事業所の働きなど訪問介護サービスに必要な知識・技術を復習しておく

[授業計画]
1.オリエンテーション(泉)
2.居宅サービス・地域とのつながり住み慣れた家で暮らす条件(泉)
3.ライフヒストリーその人らしく生きることを支援するとは(泉)
4.生活者としての理解　家族の一員としての理解(泉)
5.多職種連携・チームアプローチ・求められる在宅支援(泉)
6.実習目標の明確化(津田・横山・木村)
7.実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・横山・木村)
8.実習行動計画書の作成Ⅱ(津田・横山・木村)
9.訪問時のルールとマナー・専門職の倫理と価値　(津田・横山・木村)
10.実習目標の確認と課題の明確化(津田・横山・木村)
11.帰校日(課題・記録指導)(津田・横山・木村)
12.帰校日(課題・記録指導)(津田・横山・木村)
13.帰校日(課題・記録指導)(津田・横山・木村)
14.帰校日(課題・記録指導)(津田・横山・木村)
15.記録の整理と自己課題の明確化(津田・横山・木村)

[成績評価方法]
授業態度(50%)・提出書類(50%)等の総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
介護福祉実習の手引き

[参考書(ISBN)]
適宜紹介

P11000720 [WH2-029]

科目名	介護総合演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ事前・事後指導		
担当者	横山　正子、泉　妙子		

[到達目標]
1.居宅支援事業所の概要と訪問介護サービス内容が理解できる
2.利用者・家族の特徴や生活が理解できる
3.個別に応じたケアマネジメントが理解できる
4.地域で働く介護福祉士の役割や職種間の連携が理解できる
5.実習目標・行動計画が明確になる

[授業概要]
事前指導
1)訪問介護事業所・小規模多機能施設の機能・役割が理解できる
2)実習目標・実習行動計画書が明確になる
3)地域における居宅サービスの内容・多職種連携の必要性を学ぶ
4)地域で働く介護福祉士の果たす役割が理解できる
5)地域で生活する利用者や家族の生活ニーズにそった個別生活支援技術が実践できる
事後指導
1)自己の実習課題が明確になる
2)居宅介護事業所等在宅支援の特徴や課題が明確になる
3)地域における在宅支援の意義が理解できる

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
介護保険制度や居宅介護事業所の働きなど訪問介護サービスに必要な知識・技術を復習しておく

[授業計画]
1.オリエンテーション(泉)
2.居宅サービス・地域とのつながり住み慣れた家で暮らす条件(泉)
3.ライフヒストリーその人らしく生きることを支援するとは(泉)
4.生活者としての理解　家族の一員としての理解(泉)
5.多職種連携・チームアプローチ・求められる在宅支援(泉)
6.実習目標の明確化(津田・横山・木村)
7.実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・横山・木村)
8.実習行動計画書の作成Ⅱ(津田・横山・木村)
9.訪問時のルールとマナー・専門職の倫理と価値　(津田・横山・木村)
10.実習目標の確認と課題の明確化(津田・横山・木村)
11.帰校日(課題・記録指導)(津田・横山・木村)
12.帰校日(課題・記録指導)(津田・横山・木村)
13.帰校日(課題・記録指導)(津田・横山・木村)
14.帰校日(課題・記録指導)(津田・横山・木村)
15.記録の整理と自己課題の明確化(津田・横山・木村)

[成績評価方法]
授業態度(50%)・提出書類(50%)等の総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
介護福祉実習の手引き

[参考書(ISBN)]
適宜紹介

P11000720B [WH2-029]

科目名	介護総合演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅱ事前・事後指導		
担当者	木村　あい、泉　妙子		

[到達目標]
1.事業所の概要と居宅サービス内容が理解できる
2.利用者・家族の特徴や生活が理解できる
3.在宅における個別に応じた生活支援が理解できる
4.地域で働く介護福祉士の役割が理解できる
5.実習目標・行動計画が明確になる

[授業概要]
事前指導
1)訪問介護事業所・小規模多機能施設の機能・役割が理解できる
2)実習目標・実習行動計画書が明確になる
3)地域における居宅サービスの内容・他職種連携の必要性を学ぶ
4)地域で働く介護福祉士の果たす役割が理解できる
5)地域で生活する利用者や家族の生活ニーズにそった個別生活支援技術が実践できる
事後指導
1)自己の実習課題が明確になる
2)居宅介護事業所等在宅支援の特徴や課題が明確になる
3)地域における在宅支援の意義が理解できる

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
介護保険制度や居宅介護事業所の働きなど在宅支援サービスに必要な知識・技術を復習しておく

[授業計画]
1.オリエンテーション(泉)
2.居宅サービス・地域とのつながり住み慣れた家で暮らす条件(泉)
3.ライフヒストリーその人らしく生きることを支援するとは(泉)
4.生活者としての理解　家族の一員としての理解(泉)
5.多職種連携　チームアプローチ 求められる在宅支援(泉)
6.実習目標の明確化(津田・横山・木村)
7.実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・横山・木村)
8.実習行動計画書の作成Ⅱ(津田・横山・木村)
9.ルールとマナー・専門職の倫理と価値　(津田・横山・木村)
10.実習目標の確認と課題の明確化(津田・横山・木村)
11.帰校日①(課題・記録指導)(津田・横山・木村)
12.帰校日②(課題・記録指導)(津田・横山・木村)
13.帰校日③(課題・記録指導)(津田・横山・木村)
14.帰校日④(課題・記録指導)(津田・横山・木村)
15.記録の整理と自己課題の明確化(津田・横山・木村)

[成績評価方法]
授業態度(50%)・提出書類(50%)等の総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
介護福祉実習の手引き

[参考書(ISBN)]
適宜紹介

P11000720C [WH2-029]

科目名	介護総合演習Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅲ事前指導		
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
1.自分自身の課題と実習目標・行動計画が明確になる
2.介護老人福祉施設と併設の在宅サービス、多職種の役割が理解できる
3.利用者・家族との信頼関係の築き方が理解できる
4.介護保険制度と介護サービス、社会資源が理解できる
5.専門職としての介護福祉士の役割が理解できる
6.介護過程の展開技法が理解できる

[授業概要]
介護老人福祉施設とそれに併設している在宅サービスや介護保険制度について学び、社会資源や利用者と利用者を取り巻く多職種や家族、介護過程の展開について学ぶ。さらに、専門職としての役割や信頼関係の築き方について学ぶ。そのうえで、介護福祉実習Ⅲにおける実習目標に対して、自分自身の課題や実習の行動計画を整理する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
関連科目の予習をしておく

[授業計画]
1.オリエンテーション・介護福祉実習と事例研究の概要(津田)
2.老人福祉法と介護老人福祉施設の機能と役割・介護保険制度と介護サービス(津田)
3.介護老人福祉施設と併設の在宅サービスの種類・多職種とチームアプローチ(津田)
4.利用者と家族の理解・利用者と家族との信頼関係の築き方(津田)
5.社会資源・専門職としての介護福祉士・求められる介護福祉士像(津田)
6.介護過程の展開(津田・横山・木村)
7.実習目標の明確化・実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・横山・木村)
8.実習行動計画書の作成Ⅱ(津田・横山・木村)
9.諸注意・記録と報告(津田・横山・木村)
10.帰校日(担当利用者・実習目標の到達度・記録)(津田・横山・木村)
11.帰校日(担当利用者・実習目標の到達度・記録)(津田・横山・木村)
12.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・横山・木村)
13.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・横山・木村)
14.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・横山・木村)
15.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・横山・木村)

[成績評価方法]
平常点50%・提出課題50%の総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
実習の手引き

[参考書(ISBN)]
参考資料を適宜紹介・配布

P11000730A [WH3-029]

科目名	介護総合演習Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅲ事前指導		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
1.自分自身の課題と実習目標・行動計画が明確になる
2.介護老人福祉施設と併設の在宅サービス、多職種の役割が理解できる
3.利用者・家族との信頼関係の築き方が理解できる
4.介護保険制度と介護サービス、社会資源が理解できる
5.専門職としての介護福祉士の役割が理解できる
6.介護過程の展開技法が理解できる

[授業概要]
介護老人福祉施設とそれに併設している在宅サービスや介護保険制度について学び、社会資源や利用者と利用者を取り巻く多職種や家族、介護過程の展開について学ぶ。さらに、専門職としての役割や信頼関係の築き方について学ぶ。そのうえで、介護福祉実習Ⅲにおける実習目標に対して、自分自身の課題や実習の行動計画を整理する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
関連科目の予習をしておく

[授業計画]
1.オリエンテーション・介護福祉実習と事例研究の概要(津田)
2.老人福祉法と介護老人福祉施設の機能と役割・介護保険制度と介護サービス(津田)
3.介護老人福祉施設と併設の在宅サービスの種類・多職種とチームアプローチ(津田)
4.利用者と家族の理解・利用者と家族との信頼関係の築き方(津田)
5.社会資源・専門職としての介護福祉士・求められる介護福祉士像(津田)
6.介護過程の展開(津田・横山・木村)
7.実習目標の明確化・実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・横山・木村)
8.実習行動計画書の作成Ⅱ(津田・横山・木村)
9.諸注意・記録と報告(津田・横山・木村)
10.帰校日(担当利用者・実習目標の到達度・記録)(津田・横山・木村)
11.帰校日(担当利用者・実習目標の到達度・記録)(津田・横山・木村)
12.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・横山・木村)
13.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・横山・木村)
14.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・横山・木村)
15.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・横山・木村)

[成績評価方法]
平常点50%・提出課題50%の総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
実習の手引き

[参考書(ISBN)]
参考資料を適宜紹介・配布

P11000730B [WH3-029]

科目名	介護総合演習Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル	介護福祉実習Ⅲ事前指導		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
1.自分自身の課題と実習目標・行動計画が明確になる
2.介護老人福祉施設と併設の在宅サービス、多職種の役割が理解できる
3.利用者・家族との信頼関係の築き方が理解できる
4.介護保険制度と介護サービス、社会資源が理解できる
5.専門職としての介護福祉士の役割が理解できる
6.介護過程の展開技法が理解できる

[授業概要]
介護老人福祉施設とそれに併設している在宅サービスや介護保険制度について学び、社会資源や利用者と利用者を取り巻く多職種や家族、介護過程の展開について学ぶ。さらに、専門職としての役割や信頼関係の築き方について学ぶ。そのうえで、介護福祉実習Ⅲにおける実習目標に対して、自分自身の課題や実習の行動計画を整理する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
関連科目の予習をしておく

[授業計画]
1.オリエンテーション・介護福祉実習と事例研究の概要(津田)
2.老人福祉法と介護老人福祉施設の機能と役割・介護保険制度と介護サービス(津田)
3.介護老人福祉施設と併設の在宅サービスの種類・多職種とチームアプローチ(津田)
4.利用者と家族の理解・利用者と家族との信頼関係の築き方(津田)
5.社会資源・専門職としての介護福祉士・求められる介護福祉士像(津田)
6.介護過程の展開(津田・横山・木村)
7.実習目標の明確化・実習行動計画書の作成Ⅰ(津田・横山・木村)
8.実習行動計画書の作成Ⅱ(津田・横山・木村)
9.諸注意・記録と報告(津田・横山・木村)
10.帰校日(担当利用者・実習目標の到達度・記録)(津田・横山・木村)
11.帰校日(担当利用者・実習目標の到達度・記録)(津田・横山・木村)
12.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・横山・木村)
13.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・横山・木村)
14.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・横山・木村)
15.帰校日(介護過程の展開・実習目標の到達度)(津田・横山・木村)

[成績評価方法]
平常点50%・提出課題50%の総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
実習の手引き

[参考書(ISBN)]
参考資料を適宜紹介・配布

P11000730C [WH3-029]

科目名	介護の基本Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	自立に向けた介護福祉の理念とケア		
担当者	泉　妙子		

[到達目標]
介護の基本となる倫理をベースとして、「質の高い介護とは何か」を理解し、その人らしい生活の実現に必要な知識・技術を学び実践できる能力を養う。

[授業概要]
1)本人本位の生活を支援する専門職として基本となる考え方や姿勢を学ぶ
2)自分自身の生活と照らし合わせて「暮らし」「生活」「願い」について考える
3)介護を要する人がどのような人で、どのような生活をしているのかを具体的な事例を通して学ぶ
4)自立に向けた介護とは何かを生活支援の視点から学ぶと共にその意義を学ぶ

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
介護を取り巻く状況を把握し、生活を支える介護の重要性を理解する。

[授業計画]
1.介護の現状と介護の社会化
2.介護の原則
3.生活の捉え方・私たちの生活
4.高齢者や障害を持った人たちの暮らしと介護
5.その人らしさの理解
6.生活環境の捉え方
7.生活障害の理解と生活ニーズ
8.介護とは
9.「生活支援」としての介護
10.様々な生活支援とその意義
11.尊厳を支える介護
12.ICFの考え方Ⅰ
13.ICFの考え方Ⅱ
14.リハビリテーションと介護
15.まとめ

[成績評価方法]
筆記試験70% ・学習ノート20% ・授業態度10%などの総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新介護福祉士養成講座③　介護の基本Ⅰ　第4 版　著者名:荘村明彦他　出版社:中央法規出版
(9784805853078)

[参考書(ISBN)]
脱病院化社会　著者名:イヴァン・イリッチ　出版社:晶文社　(4-7949-1262-5C0347)

P11000950 [WH1-012]

科目名	介護の基本Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	利用者理解と介護サービス		
担当者	泉　妙子		

[到達目標]
理論的な裏付けのある介護は、利用者の安全で安心できる支援となり、利用者との信頼関係の基本となる。安全で安心できる介護の提供には介護の知識や技術はもちろんのこと、直接関わる人的環境の影響は大きい。介護の質の向上には人間力・人間性が大きく影響することを理解する。

[授業概要]
1)介護の基本知識として必要な倫理観・福祉観について理解し、実践できる能力を養う
2)介護の目的や原則について理解すると共に、身体的・精神的な変化に対する観察力やコミュニケーション能力を養い、変化に速やかに対処できる知識を身につける
3)介護の基本となる倫理を理解した上で「質の高い介護とは何か」を体得し、知識・技術の大切さや他職種との連携の必要性を学ぶ

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
介護の基本Ⅰで学んだ介護福祉の理念と介護福祉士としての倫理観を身につける。

[授業計画]
1.利用者の人権と自立支援
2.介護福祉士が守るべき義務規定
3.介護福祉士の資質向上の責務
4.介護福祉士の倫理Ⅰ
5.介護福祉士の倫理Ⅱ
6.介護サービスと介護福祉士の働く場
7.介護サービスの意味と特性
8.介護サービスの種類と提供の場
9.介護サービスと介護福祉士の働く場
10.介護サービス提供の場の特性(高齢者関連)
11.障害者総合支援法Ⅰ
12.介護サービス提供の場とその特性(障害者関連)
13.介護実践における地域連携
14.他職種との連携・チームアプローチについて
15.まとめ

[成績評価方法]
筆記試験70%・学習ノート20%・授業態度10%などの総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新介護福祉養成校講座4　介護の基本Ⅱ　著者名:荘村明彦他　出版社:中央法規出版　(978-4-8058-5111-1)

[参考書(ISBN)]
ニーズ中心の福祉社会へ　著者名:上野千鶴子編　出版社:医学書院　(978-4-260-0064309C3347)

P11000960 [WH1-013]

科目名	介護の基本Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	介護福祉学総論		
担当者	泉　妙子		

[到達目標]
介護福祉士の国家資格を取得する

[授業概要]
1.介護福祉学総論として、「人間と社会」・「介護」・「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の各領域それぞれの観点から、総合的に教授することを主たる目的とする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
今まで学んだ介護福祉士養成カリキュラム「人間と社会」・「介護」・「こころとからだのしくみ」・「医療的ケア」の各領域に示された到達目標を見直し、学習内容を整理しておく。

[授業計画]
1. 人間の尊厳と自立
2. 人間関係とコミュニケーション
3. 生活と福祉
4. 社会保障制度
5. 介護保険制度と障害者総合支援法
6. 介護実践に関連する制度
7. 介護の基本
8. コミュニケーション技術
9. 生活支援技術
10. 介護過程
11. 発達と老化の理解
12. 認知症の理解
13. 障害の理解
14. こころとからだのしくみ
15. まとめ

[成績評価方法]
ミニテスト30%　筆記試験70%の総合評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
介護福祉士国家試験　合格テキスト2018　著者名：荘村明彦他　出版社：中央法規出版（978-4-8058-5358-0）

[参考書（ISBN）]
見て覚える
介護福祉士国試ナビ2018　著者名：荘村明彦他　出版社：中央法規出版（978-4-8058-5350-4C3036）

P11000970 [WH4-013]

科目名	介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）	前期	4 単位
サブタイトル	介護老人保健施設		
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
1.介護老人保健施設の機能･役割が理解できる
2.信頼関係の築き方が理解できる
3.個別ケアの必要性が理解できる
4.基本的な生活支援技術が実践できる
5.介護福祉士の職業倫理とチームアプローチの必要性が理解できる

[授業概要]
1)20日間の介護老人保健施設実習を体験し介護実習計画書に従って目標を達成する
2)対象者に応じた個々の生活リズムや特性を理解する
3)生活支援技術の実践･職種間連携･コミュニケーション等を通して介護福祉士の役割について学ぶ
4)併設されている通所リハビリにおいて在宅支援の必要性を理解する
5)職業倫理やチームアプローチの重要性を学ぶ

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
介護保険制度や授業所の概要を理解しておく。

[授業計画]
実習計画書に沿って実習目標を達成する
カンファレンスに参加する
利用者の理解を深める
通所リハビリにおいて在宅支援の必要性を理解する
実習目標達成度の指導を受ける
社会人･実習生としてのルールとマナーを身につける
現場で求められる職業倫理を身につける
コミュニケーション能力を高める
基本的な生活支援技術を身につける
課題や実習日誌･報告書を提出する
自己の課題を明確にする

[成績評価方法]
実習評価票に基づく評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
介護福祉実習の手引き

[参考書(ISBN)]
適宜配布

P11000980A [WH2-030]

科目名	介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）	前期	4 単位
サブタイトル	介護老人保健施設		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
1.介護老人保健施設の機能･役割が理解できる
2.信頼関係の築き方が理解できる
3.個別ケアの必要性が理解できる
4.基本的な生活支援技術が実践できる
5.介護福祉士の職業倫理とチームアプローチの必要性が理解できる

[授業概要]
1)20日間の介護老人保健施設実習を体験し介護実習計画書に従って目標を達成する
2）対象者に応じた個々の生活リズムや特性を理解する
3）生活支援技術の実践･職種間連携･コミュニケーション等を通して介護福祉士の役割について学ぶ
4）併設されている通所リハビリにおいて在宅支援の必要性を理解する
5）職業倫理やチームアプローチの重要性を学ぶ

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
介護保険制度や授業所の概要を理解しておく。

[授業計画]
実習計画書に沿って実習目標を達成する
カンファレンスに参加する
利用者の理解を深める
通所リハビリにおいて在宅支援の必要性を理解する
実習目標達成度の指導を受ける
社会人･実習生としてのルールとマナーを身につける
現場で求められる職業倫理を身につける
コミュニケーション能力を高める
基本的な生活支援技術を身につける
課題や実習日誌･報告書を提出する
自己の課題を明確にする

[成績評価方法]
実習評価票に基づく評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
介護福祉実習の手引き

[参考書（ISBN）]
適宜配布

P11000980B [WH2-030]

科目名	介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）	前期	4 単位
サブタイトル	介護老人保健施設		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
1.介護老人保健施設の機能･役割が理解できる
2.信頼関係の築き方が理解できる
3.個別ケアの必要性が理解できる
4.基本的な生活支援技術が実践できる
5.介護福祉士の職業倫理とチームアプローチの必要性が理解できる

[授業概要]
1)20日間の介護老人保健施設実習を体験し介護実習計画書に従って目標を達成する
2)対象者に応じた個々の生活リズムや特性を理解する
3)生活支援技術の実践･職種間連携･コミュニケーション等を通して介護福祉士の役割について学ぶ
4)併設されている通所リハビリにおいて在宅支援の必要性を理解する
5)職業倫理やチームアプローチの重要性を学ぶ

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
介護保険制度や事業所の概要を理解しておく。
生活支援技術やコミュニケーション技術の復習をしておく。

[授業計画]
実習計画書に沿って実習目標を達成する
カンファレンスに参加する
利用者の理解を深める
通所リハビリにおいて在宅支援の必要性を理解する
実習目標達成度の指導を受ける
社会人･実習生としてのルールとマナーを身につける
現場で求められる職業倫理を身につける
コミュニケーション能力を高める
基本的な生活支援技術を身につける
課題や実習日誌･報告書を提出する
自己の課題を明確にする

[成績評価方法]
実習評価票に基づく評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
介護福祉実習の手引き

[参考書(ISBN)]
適宜配布

P11000980C [WH2-030]

科目名	介護福祉実習Ⅱ（在宅介護）	後期	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習		
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
1.訪問介護事業所の機能・役割が理解できる
2.利用者の生活が理解できる
3.ケアマネジメントが理解できる
4.地域で働く介護福祉士の役割が理解できる
5.職種間の連携が理解できる

[授業概要]
5日間の訪問介護実習を行い、個々の生活リズムや個性を理解し、地域の生活の場において個別ケアを学ぶと共に、利用者とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1)事業所・施設の概要について調べる
2)訪問実習に必要な知識、技術の復習をしておく

[授業計画]
実習行動計画書にそって介護目標を達成する
訪問介護議場所の特徴を理解する
在宅居住利用者の生活ニーズを理解する
家族の多様なニーズを理解する
ケアマネジメントの流れを理解する
社会資源の活用
福祉用具の活用
介護福祉士の果たす役割
記録・報告・連絡・相談の重要性
在宅支援とコミュニケーションの工夫
在宅支援とチームアプローチ
在宅支援と介護福祉士の役割
在宅支援とと地域連携
介護福祉士の職業倫理
実習目標到達度の確認と課題

[成績評価方法]
実習評価票に基づく評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
介護福祉実習の手引き

[参考書（ISBN）]
適宜配布

P11000990A [WH2-031]

科目名	介護福祉実習Ⅱ（在宅介護）	後期	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
1.訪問介護事業所の機能・役割が理解できる
2.利用者の生活が理解できる
3.ケアマネジメントが理解できる
4.地域で働く介護福祉士の役割が理解できる
5.職種間の連携が理解できる

[授業概要]
5日間の訪問介護実習を行い、個々の生活リズムや個性を理解し、地域の生活の場において個別ケアを学ぶと共に、利用者とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1)事業所・施設の概要について調べる
2)訪問実習に必要な知識、技術の復習をしておく

[授業計画]
実習行動計画書にそって介護目標を達成する
訪問介護議場所の特徴を理解する
在宅居住利用者の生活ニーズを理解する
家族の多様なニーズを理解する
ケアマネジメントの流れを理解する
社会資源の活用
福祉用具の活用
介護福祉士の果たす役割
記録・報告・連絡・相談の重要性
在宅支援とコミュニケーションの工夫
在宅支援とチームアプローチ
在宅支援と介護福祉士の役割
在宅支援とと地域連携
介護福祉士の職業倫理
実習目標到達度の確認と課題

[成績評価方法]
実習評価票に基づく評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
介護福祉実習の手引き

[参考書（ISBN）]
適宜配布

P11000990B [WH2-031]

科目名	介護福祉実習Ⅱ（在宅介護）	後期	1 単位
サブタイトル	訪問介護実習		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
1.訪問介護事業所の機能・役割が理解できる
2.利用者の生活が理解できる
3.ケアマネジメントが理解できる
4.地域で働く介護福祉士の役割が理解できる
5.職種間の連携が理解できる

[授業概要]
5日間の訪問介護実習を行い、個々の生活リズムや個性を理解し、地域の生活の場において個別ケアを学ぶと共に、利用者とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1)事業所・施設の概要について調べる
2)実習に必要な知識、技術の復習をしておく

[授業計画]
実習行動計画書にそって介護目標を達成する
訪問介護議場所の特徴を理解する
在宅居住利用者の生活ニーズを理解する
家族の多様なニーズを理解する
社会資源の活用
福祉用具の活用
介護福祉士の果たす役割
記録・報告・連絡・相談の重要性
実習内容の確認と課題
在宅支援とコミュニケーションの工夫
在宅支援とチームアプローチ
在宅支援と介護福祉士の役割
在宅支援とと地域連携
実習内容の確認と職業倫理
実習目標到達度の確認と課題

[成績評価方法]
実習評価票に基づく評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
介護福祉実習の手引き

[参考書（ISBN）]
適宜配布

P11000990C [WH2-031]

科目名	介護福祉実習Ⅲ（老人福祉施設）	後期	6 単位
サブタイトル	特別養護老人ホーム		
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
1.介護老人福祉施設の機能・役割が理解できる
2.介護福祉士として信頼関係を築くことができる
3.介護過程が展開できる
4.根拠に基づく生活支援技術が実践できる
5.チームの一員として連携ができる

[授業概要]
32日間の介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)において、担当利用者のアセスメントを深め、介護計画に基づく実施・評価や、これを踏まえた計画の修正といった介護過程を、他科目で学習した知識や技術を統合して展開する。さらに、チームの一員としての連携や社会資源、介護福祉士の価値に基づいた利用者・家族と信頼関係の築き方について実践を通して学習する。また、老人福祉施設に併設されている在宅サービスでの実習を通し、多様な視点から利用者や利用者を取り巻く環境について学習する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1) 学習環境・生活環境を整え健康管理に留意する
2)実習場所での不明な点について自宅学習する

[授業計画]
実習計画書に沿った実習と到達度の確認
実習日誌による助言・指導
介護老人福祉施設の機能・特徴と施設サービス
実習先の施設に併設している在宅サービス
社会資源の活用
利用者・家族とのコミュニケーションと信頼関係
介護過程の展開（情報収集(アセスメント)・介護計画立案・実践・評価・修正）
チームの一員としての連携
夜勤実習（利用者の24時間の生活理解）
根拠に基づく生活支援技術・医療的ケア
専門職としての価値・倫理
目指すべき介護福祉士像

[成績評価方法]
実習評価表に基づく評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
介護福祉実習の手引き

[参考書（ISBN）]
参考資料を適宜紹介・配布

P11001000A [WH3-031]

科目名	介護福祉実習Ⅲ（老人福祉施設）	後期	6 単位
サブタイトル	特別養護老人ホーム		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
1.介護老人福祉施設の機能・役割が理解できる
2.介護福祉士として信頼関係を築くことができる
3.介護過程が展開できる
4.根拠に基づく生活支援技術が実践できる
5.チームの一員として連携ができる

[授業概要]
32日間の介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)において、担当利用者のアセスメントを深め、介護計画に基づく実施・評価や、これを踏まえた計画の修正といった介護過程を、他科目で学習した知識や技術を統合して展開する。さらに、チームの一員としての連携や社会資源、介護福祉士の価値に基づいた利用者・家族と信頼関係の築き方について実践を通して学習する。また、老人福祉施設に併設されている在宅サービスでの実習を通し、多様な視点から利用者や利用者を取り巻く環境について学習する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1) 学習環境・生活環境を整え健康管理に留意する
2)実習場所での不明な点について自宅学習する

[授業計画]
実習計画書に沿った実習と到達度の確認
実習日誌による助言・指導
介護老人福祉施設の機能・特徴と施設サービス
実習先の施設に併設している在宅サービス
社会資源の活用
利用者・家族とのコミュニケーションと信頼関係
介護過程の展開（情報収集(アセスメント)・介護計画立案・実践・評価・修正）
チームの一員としての連携
夜勤実習（利用者の24時間の生活理解）
根拠に基づく生活支援技術・医療的ケア
専門職としての価値・倫理
目指すべき介護福祉士像

[成績評価方法]
実習評価表に基づく評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
介護福祉実習の手引き

[参考書（ISBN）]
参考資料を適宜紹介・配布

P11001000B [WH3-031]

科目名	介護福祉実習Ⅲ（老人福祉施設）	後期	6 単位
サブタイトル	特別養護老人ホーム		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
1.介護老人福祉施設の機能・役割が理解できる
2.介護福祉士として信頼関係を築くことができる
3.介護過程が展開できる
4.根拠に基づく生活支援技術が実践できる
5.チームの一員として連携ができる

[授業概要]
32日間の介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)において、担当利用者のアセスメントを深め、介護計画に基づく実施・評価や、これを踏まえた計画の修正といった介護過程を、他科目で学習した知識や技術を統合して展開する。さらに、チームの一員としての連携や社会資源、介護福祉士の価値に基づいた利用者・家族と信頼関係の築き方について実践を通して学習する。また、老人福祉施設に併設されている在宅サービスでの実習を通し、多様な視点から利用者や利用者を取り巻く環境について学習する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1) 学習環境・生活環境を整え健康管理に留意する
2)実習場所での不明な点について自宅学習する

[授業計画]
実習計画書に沿った実習と到達度の確認
実習日誌による助言・指導
介護老人福祉施設の機能・特徴と施設サービス
実習先の施設に併設している在宅サービス
社会資源の活用
利用者・家族とのコミュニケーションと信頼関係
介護過程の展開（情報収集(アセスメント)・介護計画立案・実践・評価・修正）
チームの一員としての連携
夜勤実習（利用者の24時間の生活理解）
根拠に基づく生活支援技術・医療的ケア
専門職としての価値・倫理
目指すべき介護福祉士像

[成績評価方法]
実習評価表に基づく評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
介護福祉実習の手引き

[参考書（ISBN）]
参考資料を適宜紹介・配布

P11001000C [WH3-031]

科目名	家政学Ⅰ（栄養・調理）	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	松浦　紀美恵		

[到達目標]
調理支援に必要な食事・栄養に関する知識や技術を習得する。さらに、高齢者や障害者の生活支援、ADLやQOLの維持・向上のために、身体状況、健康状態や咀嚼・嚥下能力に応じた食事提供もできるような食生活支援能力を身につける。

[授業概要]
食生活支援は、人間の尊厳と深く関わる行為である。高齢者や障害者の身体状況、健康状態や個別的ニーズに合った食事提供ができるよう、調理支援に必要な食事・栄養に関する知識、調理理論や技術など、基礎から応用まで体系的に学び習得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の実習内容を良く復習し、次回の実習内容を予習しておくこと。前回の実習レポートを次回までに仕上げておく。

[授業計画]
1. 食生活における健康と栄養
2. 調理支援のための基礎知識
3. 健康的な食生活の調理（1）
4. 健康的な食生活の調理（2）
5. 健康的な食生活の調理（3）
6. 健康的な食生活の調理（4）
7. 介護食の知識
8. 介護食の調理
9. コントロール食、食品衛生の知識
10. コントロール食の調理
11. 行事食・郷土食の調理
12. 課題献立の作成
13. 非常時に備える食品と調理
14. 課題献立による実習
15. まとめ
※ ただし、多少内容に変更が生ずることもあります。

[成績評価方法]
試験（10%）、課題レポート（30%）、受講態度（60%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
生活支援のための調理実習　著者名：田﨑裕美・中川英子 編著　出版社：建帛社 （978-4-7679-3375-7）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000630 [WH4-015]

科目名	家政学Ⅱ（被服・住居）	前期	2 単位
サブタイトル	介護と衣生活・住生活		
担当者	古田　貴美子、瀬部　明		

[到達目標]
介護福祉士として高齢者や障害者の生活の質の向上に役立てることができるように、家政学実習を通して衣生活、住生活に関する基礎的技術を習得する。

[授業概要]
衣服管理はその繊維材料の種類によって管理方法が異なるため、まず繊維の種類を鑑別し、繊維素材に適した管理方法を実験により体得する。介護グッズの製作や手縫いの基礎実習により被服の手入れに必要な手縫いとミシン縫いの技術を習得する。また、被介護者の衣生活向上に向けて、既製の介護衣料について調査し、改良点を討議する。
高齢者や障害者のお世話をする仕事に就く時に必要な住まいの知識の前に、先ず自らの生活および住まいを見つめ直して実態を把握できるようにする。その上で、住宅改修の知識を身につけ、さまざまな条件を考慮した提案ができるように討議を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
要介護者の生活をよく観察し、快適に暮らすために、被服や住宅に要求される機能と環境について考える。

[授業計画]
1.　被服の機能、着装の工夫（古田）
2.　被服素材に関する実験（繊維の鑑別、燃焼実験）（古田）
3.　被服管理に関する実験実習（洗濯、漂白、しみ抜き）（古田）
4.　被服管理に関する実験実習（アイロン仕上げ、保管）（古田）
5.　手縫い基礎実習（普通まつり、たてまつり、ボタン付け等）（古田）
6.　ミシン縫い実習（布の扱い方、ミシンの使い方）（古田）
7.　ミシン縫い実習（介護グッズの製作）（古田）
8.　ミシン縫い実習（介護グッズの製作）（古田）
9.　介護衣料調査（既製の介護衣料を調査し、その問題点を探る）（古田）
10. 住まいの役割、室内環境、住まいの管理と安全（瀬部）
11. 高齢者および障害者に求められる住まい、さまざまな施設（瀬部）
12. 福祉用具、住宅改修の考え方（瀬部）
13. 住宅改修のポイント（場所別①、②）（瀬部）
14. 住宅改修のポイント（場所別③、④）（瀬部）
15. 介護保険と住宅改修および福祉用具、住宅改修の提案（瀬部）

[成績評価方法]
介護福祉士に必要な「衣」に関する基礎的な技能の習得度、住環境整備のための知識の理解度などを評価する。
授業中の課題（50%）、作品の出来映え（40%）、小テスト（10%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
介護福祉のための家政学実習　著者名：中川英子編著　出版社：建帛社　(978-4-7679-3605-5)
改訂4版福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト　出版社：東京商工会議所　(978-4-924547-59-9)

[参考書（ISBN）]
『新版介護福祉士養成講座⑧家政学概論』 著者名：福祉士養成講座編集委員会編著　出版社：中央法規出版　(978-4-8058-2706-2)
『新版介護福祉士養成講座⑫介護技術Ⅰ』 著者名：福祉士養成講座編集委員会編著　出版社：中央法規出版　(978-4-8058-2709-3)
『住環境のバリアフリーユニバーサルデザイン』 著者名：野村歡ら監修　出版社：彰国社　(978-4-395-32048-6)
「新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編集　出版社：中央法規出版

P11000640 [WH4-016]

科目名	ケアマネジメント論	前期	2 単位
サブタイトル	介護保険制度　ケアマネジメント		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
ケアマネジメントの歴史、目的、方法が理解できる。
介護保険制度と障害者自立支援法のそれぞれを理解し、それらと高齢者、障害者・児のケアマネジメントの関係が理解できる。
多職種間の連携とチームアプローチが理解できる。
ICFにもとづくケアプランの立案と介護計画が理解できる。

[授業概要]
介護保険制度の概要を知り、そのなかで「ケアマネジメント」の位置づけを学ぶ。
ケアマネジメントを支える多職種やケアマネージャーの役割について学ぶ。
ケアマネジャーの立案するケアプランと介護過程との関係や介護職の役割と連携の方法を学び、介護サービスの提供場面での「ケアマネジメント」の意義を学ぶ。
わが国での高齢者施設や在宅支援事業所などで提供されている介護保険サービスのひとつとしての生活支援サービスが、介護過程展開によって進められている実際を学ぶ。
ケアマネジメントの考え方、介護保険制度下でのケアマネジメントの実際、ケアマネジメントと介護過程の関係の実際を演習を通して学ぶ。
ケアマネジメントと介護福祉士の役割の関係を学ぶ。
介護の専門的実践の重要性に気づいて、地域社会での介護過程展開の実際について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
これまでに学んだ社会福祉政策、介護の基本、科目「介護過程総論」がこの授業の基礎知識となるので、これらについて復習をしておく

[授業計画]
1. ケアマネジメントの理解①歴史
2. ケアマネジメントの理解②定義
3. ケアマネジメントの理解③方法
4. 介護保険制度制度の理解
5. 介護保険法における介護サービス
6. ケアプランの視点（ICFと生活支援）
7. 障害者総合支援法
8. 施設におけるケアマネジメント
9. ケアプランの方法と介護過程展開
10. ケアプランに使用されるツール
11. 情報収集
12. アセスメント
13. 計画の立案
14. 評価
15. まとめ

[成績評価方法]
テスト（70%）平常点・レポート（30%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
介護過程
1年次購入済み（介護過程総論）　著者名：石野育子編　出版社：メヂカルフレンド社　（978-4-8392-3194-1）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000660 [WH2-026]

科目名	現代社会と福祉Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	現代社会における福祉制度と福祉政策		
担当者	小笠原　慶彰		

[到達目標]
①現代社会における社会福祉の意義や理念を理解する。
②社会福祉の基本的な考え方を理解する。
③社会福祉の歴史的な成り立ちを理解する。

[授業概要]
社会福祉とは何か、どのような社会福祉が望ましいのか、といった基本的な理解を可能にするため、生活の場、実践の場で生起する具体的な課題から福祉問題を捉える考え方を示す。その際に社会福祉の価値、社会福祉の制度、社会福祉のフィールドといった柱を建て、それぞれに具体的な事例などを提供しながら講義する。また関連して、社会福祉が形成されてきた歴史的背景、すなわち慈善救済、相互扶助を基盤とする制度や実践から現代的な社会福祉の体系へと展開してきた過程について、重要な人物やトピックを取り上げて考察する。その後に欧米と比較した場合のアジア諸国や日本の社会福祉の特徴も講義する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておくこと。
・毎回の授業前に教科書の指定された範囲を必ず読み、質問カードを用いて質問すること。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 現代社会の多様な問題に対応する福祉－高齢者支援・子育て支援
3. 現代社会の多様な問題に対応する福祉会－障害者支援・生活困窮者支援
4. 社会福祉の歴史と思想①：古代から近世－海外
5. 社会福祉の歴史と思想①：古代から近世－日本
6. 社会福祉の歴史と思想②：近代－海外
7. 社会福祉の歴史と思想②：近代－日本
8. 社会福祉の歴史と思想③：現代－海外
9. 社会福祉の歴史と思想③：現代－日本
10. 社会福祉を支える考え方－人権思想
11. 社会福祉を支える考え方－社会福祉思想
12. 社会福祉と法制度の関係－社会福祉ニーズ
13. 社会福祉と法制度の関係－社会福祉の法
14. 社会福祉と法制度の関係－社会福祉の制度
15. 総まとめ

[成績評価方法]
授業への取り組み態度22パーセント、予習成果として質問カードによる質問8パーセント、中間試験20パーセント、最終試験50パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。質問カードは、所定のものを用いて指定された期日までに提出する。中間試験及び最終試験は、筆記試験形式（正誤式または択一式）で実施する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
『社会福祉』（新・基礎からの社会福祉1） 著者名：室田保夫監修　出版社：ミネルヴァ書房 （978-4-623-08295-7）

[参考書（ISBN）]
『社会福祉用語辞典』第9版　著者名：山縣文治・柏女霊峰　出版社：ミネルヴァ書房 （978-4-623-06543-1）
『福祉小六法』 著者名：大阪ボランティア協会　出版社：中央法規 （978-4-8058-5611-6）

P11000140 [WH1-006]

科目名	現代社会と福祉Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	現代社会における福祉制度と福祉政策		
担当者	小笠原　慶彰		

[到達目標]
①社会福祉の分野と福祉サービスの現状・課題について理解する。
②福祉政策の構成要素、福祉政策と関連政策、福祉政策の課題について理解する。
③福祉政策と相談援助活動との関係について理解する。

[授業概要]
人権尊重、権利擁護、自立支援等の社会福祉の理念とその歴史的形成過程について講義する。さらに、社会福祉対象をどう把握するか、それに対する援助をどう展開していくか、援助を専門的な職業として展開していく場合の専門性や職業倫理とは何か、日本における社会福祉専門職としての社会福祉士や精神保健福祉士について定めた法の内容は何か、その資格制度および機能専門職も含めてそれらの専門性はどのようになっているのか、保健医療分野等関連分野の専門職との望ましい連携のあり方とはどのようなものか、援助に必要な知識としての関係法制とはどのようなものかといった具体的な内容の理解を促すようにする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておくこと。
・毎回の授業前に教科書の指定された範囲を必ず読み、質問カードを用いて質問すること。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 社会福祉制度－社会福祉事業
3. 社会福祉制度－低所得者・子ども
4. 社会福祉制度－障害者・高齢者
5. 社会福祉制度－関連法制度
6. 福祉サービスの利用支援－援助手続
7. 福祉サービスの利用支援－専門職倫理
8. 社会福祉の実践現場－措置によるもの
9. 社会福祉の実践現場－介護保険・自立支援給付によるもの
10. 社会福祉の実践現場－医療・行政・地域福祉機関
11. 社会福祉の実践現場－関連機関・学校
12. 社会福祉の担い手と資格－専門職資格
13. 社会福祉の担い手と資格－行政職員・行政協力員
14. 社会福祉の担い手と専門職資格－施設職員・社会福祉協議会職員等
15. 総まとめ

[成績評価方法]
授業への取り組み態度22パーセント、予習成果として質問カードによる質問8パーセント、中間試験20パーセント、最終試験50パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。質問カードは、所定のものを用いて指定された期日までに提出する。中間試験及び最終試験は、筆記試験形式（正誤式または択一式）で実施する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
『社会福祉』（新・基礎からの社会福祉1） 著者名：室田保夫監修　出版社：ミネルヴァ書房 （978-4-623-08295-7）

[参考書（ISBN）]
『社会福祉用語辞典』第9版　著者名：山縣文治・柏女霊峰　出版社：ミネルヴァ書房 （978-4-623-06543-1）
『福祉小六法』 著者名：大阪ボランティア協会　出版社：中央法規 （978-4-8058-5611-6）

P11000150 [WH1-007]

科目名	権利擁護と成年後見制度	後期	2 単位
サブタイトル	福祉サービス利用者の権利擁護とは		
担当者	佐々木　勝一		

[到達目標]
利用者の権利擁護に関して、①相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり、②相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）、③成年後見制度の実際、④社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解することを目標とする。

[授業概要]
まず相談援助活動と法の関わりについて、日本国憲法、行政法、民法の視点から概説し、成年後見制度や日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業について講義する。続いて権利擁護にかかわる組織・団体、同じく専門職の役割、成年後見活動や権利擁護活動の実際についても言及する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション・相談援助活動と法
2. 日本国憲法の理解
3. 行政法の理解
4. 民法の理解
5. 成年後見制度①-後見・保佐・補助
6. 成年後見制度②-法定後見の申し立て・任意後見
7. 成年後見制度③-成年後見人等の義務と責任
8. 成年後見制度④-成年後見制度の最近の動向と課題
9. 日常生活自立支援事業
10. 成年後見制度利用支援事業
11. 権利擁護にかかわる組織・団体
12. 権利擁護にかかわる専門職の役割
13. 成年後見活動の実際
14. 権利擁護活動の実際
15. 総まとめ

[成績評価方法]
授業への取り組み態度30%、中間試験20%、最終試験50%の配分で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
権利擁護と成年後見制度　著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編　出版社：中央法規出版（978-4-8058-3936-2）

[参考書（ISBN）]
授業中に適宜紹介する。

P11000250 [WH3-007]

科目名	更生保護制度	前期	1 単位
サブタイトル	犯罪・非行からの立ち直り		
担当者	廣田　玉枝		

[到達目標]
1. 更生保護制度全般について理解する。
2. 福祉との連携や保護観察処遇等について実際的な理解を深める。
3. 関連の刑事司法分野について理解する。

[授業概要]
更生保護とは、主に犯罪をした者や非行のある少年を社会内において指導しサポートすることによって、健全な社会人として更生させ、再犯・再非行を防ぐ制度であるが、その効果をあげるために、近年特に福祉分野との連携強化が重視され、社会福祉の分野でも、更生保護への理解が必要とされ、社会福祉を学ぶ上で、さらには社会福祉士を目指す上で理解が求められている。授業ではそのニーズを満たしていきたい。
なじみの薄い内容の上、1単位8回授業と回数も少ないので、授業は講義を中心に行うことになるが、実務や事例の紹介も交えてわかりやすく具体的な理解が深まるように進めたい。
毎回コミュニケーションカードの提出を求め、次回フィードバックする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 予習：授業範囲のテキストに目を通した上で受講すること。
　復習：講義内容を復習し、理解を深めること。
2. 日頃から、犯罪や非行、更生保護や刑事司法に関するニュースや新聞記事等に関心を持って、見聞きすること。

[授業計画]
1. 更生保護制度の概要①
　制度の意義、歴史、法制、刑事司法・少年司法での位置づけについて学ぶ。
2. 更生保護制度の概要②
　保護観察について学ぶ。
3. 更生保護制度の概要③
　保護観察、生活環境の調整、仮釈放等について学ぶ。
　DVDを題材に、保護観察少年の事例を考える。
4. 更生保護制度の概要④
　更生緊急保護、被害者支援、恩赦、犯罪予防活動について学ぶ。
5. 更生保護制度の担い手
　保護観察官、保護司、更生保護施設、民間協力者について学ぶ。
6. 関係機関・団体との連携
　刑事司法・少年司法関係機関、就労支援機関・団体、福祉機関・団体、その他との連携について学ぶ。
7. 医療観察制度の概要
　制度の概要、審判手続きと処遇内容、社会復帰調整官、関係機関・団体との連携について学ぶ。
8. まとめ
　更生保護の近年の動向と課題について学ぶ。
　社会福祉士試験問題の検討を行う。

[成績評価方法]
レポート（80%）
平常点（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし　講師においてテキストを作成し配布する。

[参考書（ISBN）]
なし

P11000260 [WH4-006]

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者問題と保健福祉対策		
担当者	清水　弥生		

[到達目標]
この講義では、1. 高齢者の生活実態とこれを取りまく社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む）について理解する。2. 高齢者福祉制度の発展過程について理解する。3. 介護の概念や対象及びその理念等について理解する。4. 介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。5. 終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む）について理解することを目標としている。

[授業概要]
授業の前半では、高齢者福祉の基本的知識となる高齢社会や高齢者の生活実態等について講義する。その後高齢者福祉の歴史について学習し、高齢者の医療・保健・福祉の発展について学んでいく。
後半では、認知症、および認知症高齢者へのケアについて映像資料をまじえながら講義する。最後に終末期ケアについて触れる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
新聞を毎日読む、ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習よりも復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。

[授業計画]
1. 高齢者の生活実態とこれを取りまく社会情勢
2. 高齢者の福祉需要
3. 高齢者の介護需要
4. 高齢者福祉制度の発展過程①
5. 高齢者福祉制度の発展過程②
6. 老人福祉法
7. 介護の概念や対象
8. 介護予防と介護過程
9. 認知症ケア①認知症とは
10. 認知症ケア②認知症高齢者の実際
11. 認知症ケア③認知症ケアの基本的考え方
12. 認知症ケア④認知症ケアの実際
13. 終末期ケア①終末期ケアの基本的考え方
14. 終末期ケア②終末期ケアの実際
15. まとめ

[成績評価方法]
試験（80%）、平常点（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
高齢者福祉概説　第5版　著者名：黒田研二、清水弥生、佐瀬美恵子 編著　出版社：明石書店 （978-4-7503-4334-1）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000310 [WH2-017]

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	高齢者問題と保健福祉対策		
担当者	清水　弥生		

[到達目標]
この講義では、相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解することを目標としている。

[授業概要]
授業の前半では介護保険について詳しく講義する。保険者、拠出と給付等、保険の仕組み、介護保険の手続き、サービスの種類、現在制度から生じている諸問題について学んでいく。
後半には高齢者虐待や高齢者の権利を守る仕組みなど高齢者に関するさまざまな制度についても講義する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
新聞を毎日読む、ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習よりも復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。

[授業計画]
1. 介護保険法の概要①
2. 介護保険法の概要②
3. 介護保険法の概要③
4. 介護報酬の概要①
5. 介護報酬の概要②
6. 介護保険法における組織及び団体の役割と実際
7. 介護保険法における専門職の役割と実際
8. 介護保険法におけるネットワーキングと実際
9. 地域包括支援センターの役割と実際①
10. 地域包括支援センターの役割と実際②
11. 介護保険制度の今後の課題
12. 高齢者虐待と高齢者虐待防止法
13. 高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の概要
14. 介護と住環境および高齢者の居住の安定確保に関する法律の概要
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(80%)、平常点(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
高齢者福祉概説　第5版　著者名:黒田研二、清水弥生、佐瀬美恵子 編著　出版社:明石書店 (978-4-7503-4334-1)

[参考書(ISBN)]
なし

P11000320 [WH2-018]

科目名	国際健康福祉プログラムⅢ	前期	1 単位
サブタイトル	デンマーク		
担当者	木村　あい、清水　弥生、下司　実奈		

[到達目標]
福祉国家の中で上位に位置づけられる北欧型福祉について、その仕組みや制度を学び、実際に現地で社会福祉施設，教育機関等の見学や実習を通し、高度に構築された福祉システムを学ぶ。また、北中欧の学校を訪問し、教員や学生と交流することによって、障がいのある学生がどのように学んでいるか、またそれを支える制度を体験し，国際社会福祉に対する感覚を養うことができる。

[授業概要]
北中欧諸国の福祉について、その仕組みや制度を学び事前学習のうえ、北中欧の社会福祉施設や、学校を訪問し、現地の人との交流を通して「福祉とは何か、幸せとは何か」を考える。また、現地の人たちとの触れ合いを通して、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から、授業に関するニュースに関心を持つこと。

[授業計画]

1. オリエンテーション（木村）
2. 北欧の福祉　スカンジナビアモデルとその仕組み　（清水）
3. 北欧の福祉　社会福祉，医療、労働環境の実情　（清水）
4. 北欧の社会福祉　　（清水）
5. 北欧の介護福祉（木村）
6. 北中欧の福祉　（下司）
7. 北中欧の福祉　（下司）
8. 渡航先の文化と言語（木村）
9. 海外渡航における注意事項（木村）
10. 現地における視察・実習①
11. 現地における視察・実習②
12. 現地における視察・実習③
13. 現地における視察・実習④
14. 総合討論・まとめ
15. 神戸女子大学での報告会（木村・清水・下司）

10～14は北中欧での現地授業とする（引率：木村・日程:2018年9月予定）
※現地視察に関しては参加学生に合わせて内容の変更もありうる。

[成績評価方法]
レポート（研修報告含む）(60%)・平常点の総合評価(40%)

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11001010 [WI3-019]

科目名	こころとからだのしくみⅠ	前期	2 単位
サブタイトル	こころのしくみ、からだのしくみ　死にゆくひとのこころとからだ		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
身体の成り立ち、生命活動を調節するしくみが理解できる
脳のつくり、働きが理解できる。
こころと脳のつながりが理解できる。
社会的人間としてのこころの仕組みが理解できる。
終末期、死亡時の体が理解できる。
死に対するこころの理解ができる。

[授業概要]
人は意図的にあるいは無意識に、外界からの影響を調節し、うまくこころとからだのバランスを保ちつつ、影響しあって成長・発達をし、人生を過ごしている。心身の成り立ちを理解したうえで、こころとからだの働きのしくみを学ぶ。
死にゆくときにあっては、人のこころとからだは特有の状況に変化していくこと、そのしくみを学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
科目「人体の構造と機能及び疾病」を理解しておくこと

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 身体の成り立ちの理解①
3. 身体の成り立ちの理解②
4. 生命活動を調節するしくみ
5. 外界の変化に対応し、調整するしくみ
6. 外界の変化に対応し、修復、再生するしくみ
7. 脳のつくりとはたらき
8. こころと脳のつながり
9. 人間の行動を引き起こすこころのしくみ
10. 社会的人間としてのこころのしくみ
11. 死のとらえ方
12. 終末期から危篤・死亡時のからだの困難
13. 死に対するこころの理解（学外特別講師）
14. 医療職との連携
15. まとめ

[成績評価方法]
平常点（50%）、筆記試験（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
最新介護福祉全書12　こころとからだのしくみ　著者名：小板橋喜久代　出版社：メヂカルフレンド社　（978-4-8392-3199-6）

[参考書（ISBN）]
最新介護福祉全書9　発達と老化の理解　著者名：林泰史　出版社：メヂカルフレンド社　（978-4-8392-3196-5）

P11000820 [WH1-008]

科目名	こころとからだのしくみⅡ	後期	2 単位
サブタイトル	食べること、排泄、移動に関したこころとからだ		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
1.移動・食べること・排泄に関連したこころとからだのしくみの基礎知識を理解する。
2.移動・食べること・排泄における機能低下・障害とその影響について理解する。
3.移動・食べること・排泄に関連した支援を理解する。

[授業概要]
日常生活の中の行動をこころとからだのつながりの中でとらえ、介護実践の根拠となるしくみを学ぶ。ここでは移動、食べること、排泄に関連したこころとからだのしくみについて学ぶ。さらに移動、食べること、排泄に関連した基礎知識、移動、食べること、排泄に関連した機能低下・障害が及ぼす影響や、生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携についての知識を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
科目「人体の構造と機能及び疾病」を理解しておくこと

[授業計画]
1.オリエンテーション
2.移動に関連する基礎知識
3.移動に関連したこころとからだのしくみ
4.移動することに関連した機能低下・障害の原因と影響
5.移動することに関連した生活面での変化と.医療職との連携
6.食べることに関連する基礎知識
7.食べることにに関連したこころとからだのしくみ
8.食べることにの機能低下・障害の原因と影響
9.食べることに関連した生活面での変化と医療職との連携
10.排泄に関連する基礎知識
11.排泄のに関連したこころとからだのしくみ
12.排泄することに関連した機能低下・障害の原因と影響
13.排泄することに関連した生活面での変化
14.医療職との連携
15.まとめ

[成績評価方法]
平常点10%　レポート・試験90%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
最新介護福祉全書12 こころとからだのしくみ　出版社：メヂカルフレンド社 （978-4-8392-3195-8）

[参考書（ISBN）]
最新介護福祉9全書発達と老化の理解　著者名：林　泰史　出版社：メヂカルフレンド社 （978-4-8392-3196-5
）

P11000830 [WH1-009]

科目名	こころとからだのしくみⅢ	前期	2 単位
サブタイトル	身支度・入浴・清潔保持・睡眠		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
身支度・清潔・入浴・睡眠に関連したからだとこころのしくみ、機能の低下・障害とその生活場面への影響が理解でき、支援の方法が理解できる。

[授業概要]
介護実践に必要な、身支度や清潔・入浴や睡眠に関連したこころとからだの基礎知識、高齢などに伴う機能低下・障害が及ぼす睡眠への影響や生活の変化について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
毎回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 人間にとっての身じたくの意義
3. 身じたくの基礎知識
4. 機能低下・障害が及ぼす身じたくへの影響
5. 異常発見
6. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識
7. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ
8. 機能低下・障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響
9. 入浴・清潔保持に関連した生活場面に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職との連携
10. 睡眠の時間とリズム、睡眠のしくみ、その他
11. 睡眠に関連するからだの器官、その他
12. 老化などによる睡眠の機能低下、睡眠障害とその原因
13. 睡眠障害が及ぼす生活への影響
14. 睡眠の支援、睡眠の観察、快い睡眠への援助、その他
15. まとめ

[成績評価方法]
授業態度（30%）・筆記試験（70%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
最新介護福祉全書12　こころとからだのしくみ第3版
※1年次購入済み　著者名：小板橋喜久代・松田たみ子編　出版社：メヂカルフレンド社　（9784839231996）

[参考書（ISBN）]
適宜紹介

P11000840 [WH3-008]

科目名	コミュニケーション技術	後期	4 単位
サブタイトル	コミュニケーション		
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
①他者に共感でき、相手の立場に立って考えることができるようになる。
②対人的コミュニケーションのとり方の基本が身につくようになる。
③サービス利用者や家族等の精神的支援や援助に必要な望ましい態度や応答など、介護場面における効果的コミュニケーション技術を身につけることができる。

[授業概要]
介護福祉士は、介護を必要とする高齢者や障害者だけではなく、サービス利用者の家族や関係者とも関わりを持ちながら仕事を行っています。このため、利用者や家族や関係者との望ましい関係の維持と多職種の人々との良い協力体制が、利用者の生活支援を円滑に遂行していく上での重要なファクターとなります。そこで、コミュニケーション能力や指導力を涵養していく方法を学びます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
授業内容を復習し、日頃から学習したコミュニケーション技術を活用すること。次回の授業の予習をすること。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. コミュニケーションとは何か
3. コミュニケーションとは何か
4. 自己について理解する
5. 自己開示と他者理解
6. 自己開示と他者理解
7. 価値観の受け入れ
8. コミュニケーションの構造と機能
9. 介護福祉士の価値と倫理（利用者理解を含む）
10. 介護福祉士の価値と倫理（利用者理解を含む）
11. 基本的コミュニケーションの技術・環境と基本的態度
12. 基本的コミュニケーションの技術・環境と基本的態度
13. 基本的コミュニケーションの技術・環境と基本的態度
14. 基本的コミュニケーションの技術・環境と基本的態度
15. 基本的コミュニケーションの技術・基本的かかわり行動
16. 基本的コミュニケーションの技術・基本的かかわり行動
17. 基本的コミュニケーションの技術・基本的かかわり行動
18. 基本的コミュニケーションの技術・基本的かかわり行動
19. 基本的コミュニケーションの技術・傾聴と声かけの基本
20. 基本的コミュニケーションの技術・傾聴と声かけの基本
21. 基本的コミュニケーションの技術・傾聴と声かけの基本
22. 基本的コミュニケーションの技術・傾聴と声かけの基本
23. 基本的コミュニケーションの技術・コミュニケーション効果
24. 基本的コミュニケーションの技術・コミュニケーション効果
25. 利用者の特性に応じたコミュニケーション
26. コミュニケーションにおけるフォーカシングと積極技法
27. コミュニケーション分析
28. フィードバックと自己開示
29. 効果的コミュニケーションのとり方と記録
30. まとめ

[成績評価方法]
レポート（10%）・授業態度（10%）・筆記試験（40%）・実技試験（40%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし適宜資料配布

[参考書（ISBN）]
授業の中で随時紹介します。

P11000580 [WH1-014]

科目名	在宅支援方法論	後期	2 単位
サブタイトル	その人らしい生活の実現		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
1.「生活」とはなにかを説明できる。
2.生活障害を持ちながらの在宅生活者の支援のあり方を考える。
3.生活障害を支えるための具体的な方法を理解できる。

[授業概要]
　在宅で生活する要介護者を支援するために、生活とは何かを定義していく。その定義に基づいて、個々の生活ニーズの多様性に気づき、尊厳ある生命維持のため、QOLの向上のために必要な生活の要素、生活の構成を学ぶ。
　生活支援の基本的な考え方を理解し、自立を獲得するための具体的な支援の知識、技術を習得し、在宅でのあるいは地域においての、その人らしい生活が出来るよう支援のあり方を学ぶ。また、地域の社会資源について理解し、その活用の仕方や連携のあり方について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習をしておく。

[授業計画]
1. 生活するということ
2. 在宅生活の基本
3. 在宅生活の支援と介護予防
4. 生活支援と環境
5. 介護保険と在宅福祉サービス
6. 家庭生活
7. 生活支援　掃除
8. 生活支援　調理
9. 生活支援　洗濯
10. 生活支援　衣類の補修、管理
11. 生活支援　小管理
12. 在宅介護計画と介護過程の展開
13. 地域福祉サービスについて
14. 介護業務と法律的諸問題
15. 在宅における終末期の支援

[成績評価方法]
授業の課題・レポート（40%）、テスト（60%）による総合評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編集　出版社：中央法規出版 （978-4-8058-3940-9）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000570 [WH2-023]

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	児童福祉		
担当者	曽田　里美		

[到達目標]
児童・家庭福祉の今日的課題、歴史的背景、法制度と実施体制について理解する。

[授業概要]
少子化の進行、地域や家庭における子育て機能の低下、児童虐待など児童に関するさまざまな問題が生じている。そこで、児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、児童福祉のニーズについて概観していく。また、児童・家庭福祉制度の発展過程、児童の権利保障の歩みについて学ぶ。適宜国家試験の過去問題や模擬問題を利用した小テストを行い、内容の理解と国家試験対策に努める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業内容の予習をしておくこと。次回の授業内容についてテキストを読んで臨むこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 児童・家庭の生活とこれらを取り巻く社会情勢
3. 児童福祉のニーズ
4. 子育て支援①
5. 子育て支援②
6. 児童の権利
7. 児童・家庭福祉制度の展開①
8. 児童・家庭福祉制度の展開②
9. 児童福祉の法体系
10. 児童福祉の法体系～児童福祉法～
11. 児童福祉サービスの最近の動向
12. 児童福祉の実施体制①
13. 児童福祉の実施体制②～児童相談所の役割～
14. 児童福祉施設
15. まとめ

[成績評価方法]
試験（70%）、小テスト（15%）、授業態度（15%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「社会福祉士養成講座15　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度　第6版」 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編　出版社：中央法規出版 （978-4-8058-5302-3）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000180 [WH2-007]

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	児童福祉		
担当者	曽田　里美		

[到達目標]
児童・家庭福祉にかかわる実践現場の現状と課題を現場の目線で理解することを目標とする。

[授業概要]
児童・家庭に対する相談援助を行っているそれぞれの分野で必要となる法制度や具体的サービスの内容について学ぶ。
適宜国家試験の過去問題や模擬問題を利用した小テストを行い、内容の理解と国家試験対策に努める。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業内容の予習をしておくこと。次回の授業内容についてテキストを読んで臨むこと。

[授業計画]
1. 児童健全育成サービス
2. 母子保健～母子保健法～
3. 保育サービス
4. 社会的養護サービス①
5. 社会的養護サービス②～里親制度～
6. 児童虐待～その対応～
7. 児童虐待～児童虐待の防止等に関する法律～
8. 非行問題への福祉サービス
9. ひとり親家庭への福祉サービス～母子及び寡婦福祉法、児童扶養手当法～
10. 障害児の福祉サービス～特別児童扶養手当等の支給に関する法律他～
11. DVへの対応、婦人相談～DV防止法、売春防止法～
12. 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割
13. 児童・家庭福祉制度における専門職の役割
14. 児童・家庭福祉制度における連携、ネットワーキング
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(70%)、小テスト(15%)、授業態度(15%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「社会福祉士養成講座15　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度　第6版」 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編　出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5302-3)

[参考書(ISBN)]
なし

P11000190 [WH2-008]

科目名	社会調査の基礎	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	湯川　宗紀		

[到達目標]
社会調査についての理解を深め、社会調査の必要性と社会調査に対するリテラシーを身につけることを目標とします。

[授業概要]
「社会調査」と聞くと何か難しく、普段の自分の生活とは関係無いようなものに思えるかもしれません。
しかし、社会には数多くのデータが氾濫し、自分自身も意識しないうちにカウントされ利用されている現実があります。

この授業では現代社会の実態を客観的に見ること、例えば今の日本の社会は犯罪が頻発する危険な社会なのか、若者(受講者のみなさん)の未来はどれほど暗いのか、格差社会が叫ばれる中、どれくらいの人が貧困にあえいでいるのか、どのような人がどのようなことに苦しんでいるのか等、いくつかの事例から社会調査の目的と意義、社会調査から現実社会を読み解いていきます。

なお、受講者の興味関心、習熟状況、社会動向の変化により講義内容や講義の進み具合が変わる場合があります。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
社会の現状をニュース等で関心をもっておく

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 社会調査の意義と目的
3. 統計法
4. 社会調査における倫理
5. 社会調査における個人情報の保護
6. 量的調査の方法1　量的データから見る日本の現状
7. 量的調査の方法2　量的データの分析方法
8. 量的調査の方法3　質問紙作成の留意点
9. 質的調査の方法1　様々な質的調査法の紹介
10. 質的調査の方法2　質的データから見る日本の現状
11. 質的調査の方法3　質的調査のの留意点
12. 社会調査の実施に当たってのITの活用方法1　WEBサービスを利用してのアンケート調査
13. 社会調査の実施に当たってのITの活用方法2　Excelでのデータ集計
14. 社会調査の実施に当たってのITの活用方法3　Excelでのデータ検定
15. まとめ

[成績評価方法]
中間レポート(40点)、期末レポート(60点)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新・社会福祉士養成講座〈5〉社会調査の基礎　著者名：社会福祉士養成講座編集委員会　出版社：中央法規出版　(4805837608)

[参考書(ISBN)]
必要に応じてプリント等を配布、書籍の紹介を行います。

P11000330 [WH3-012]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	社会福祉学入門ゼミ		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
社会福祉が対象としている分野は広いし、身近な問題でもある。児童、高齢者障がい者、貧困問題など各教員が得意とする分野だけでなく社会福祉全般について学習、調査や見学などを行う。
社会福祉に関心を高め、基礎的な知識を習得することを目的とする。

[授業概要]
受講生は専任教員ごとのグループに分かれます。
グループ分けの後は各教員のもとで「社会福祉入門ゼミ」をおこないます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
福祉に関する新聞記事を読み、各自で疑問点・問題点を考える。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 社会福祉へようこそ（入門）
3. 身近なところでの社会福祉
4. 児童福祉とは
5. 高齢者の福祉を考える
6. 障がい者の福祉
7. こころを病む人たちへの支援
8. 格差社会での貧困
9. グループ研究と討議①
10. グループ研究と討議②
11. グループ研究と討議③
12. 社会福祉施設・機関について
13. グループ発表①
14. グループ発表②
15. 前期のまとめと夏休みの課題提起
16. 夏休みの課題の報告①
17. 夏休みの課題の報告②
18. 後期の課題の設定と討議
19. 社会福祉施設・機関への訪問
20. ボランティアのすすめと体験
21. グループ研究と討議④
22. グループ研究と討議⑤
23. グループ研究と討議⑥
24. グループ研究と討議⑦
25. グループ発表③
26. グループ発表④
27. 福祉現場で働く先輩との交流
28. 社会福祉学専門的学習のすすめ①
29. 社会福祉学専門的学習のすすめ②
30. まとめ

[成績評価方法]
日常的な参加状況（40%）、レポート（60%）による

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
各教員から指定を行う

[参考書（ISBN）]
各教員から紹介される。

P11000010A [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	社会福祉学入門ゼミ		
担当者	清水　弥生		

[到達目標]
社会福祉について関心を高め、基礎的な知識を習得することを目的とする。そのために1. 現代社会の基礎的問題を理解し，社会を見つめる感性を高め、人間としての生き方について考える。2. 家族、衣食住、消費生活等に関する基本的知識を学習する。3. 社会保障制度を学習する。4. 学習したことを話し合い，これを通じてコミュニケーションの基礎能力を高め、人間関係の形成をめざす。

[授業概要]
受講生は専任教員ごとのグループに分かれます。
グループ分けの後は各教員のもとで「社会福祉入門ゼミ」をおこないます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
福祉に関する新聞記事を読み、各自で疑問点・問題点を考える。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 社会福祉へようこそ（入門）
3. 身近なところでの社会福祉
4. 児童福祉とは
5. 高齢者の福祉を考える
6. 障がい者の福祉
7. こころを病む人たちへの支援
8. 格差社会での貧困
9. グループ研究と討議①
10. グループ研究と討議②
11. グループ研究と討議③
12. 社会福祉施設・機関について
13. グループ発表①
14. グループ発表②
15. 前期のまとめと夏休みの課題提起
16. 夏休みの課題の報告①
17. 夏休みの課題の報告②
18. 後期の課題の設定と討議
19. 社会福祉施設・機関への訪問
20. ボランティアのすすめと体験
21. グループ研究と討議④
22. グループ研究と討議⑤
23. グループ研究と討議⑥
24. グループ研究と討議⑦
25. グループ発表③
26. グループ発表④
27. 福祉現場で働く先輩との交流
28. 社会福祉学専門的学習のすすめ①
29. 社会福祉学専門的学習のすすめ②
30. まとめ

[成績評価方法]
日常的な参加状況（60%）、レポート（40%）による

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
レジュメ・資料を作成し配布する

[参考書（ISBN）]
各教員から紹介される。

P11000010D [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	社会福祉学入門ゼミ		
担当者	曽田　里美		

[到達目標]
社会福祉が対象としている分野は広いし、身近な問題でもある。児童、高齢者障がい者、貧困問題など各教員が得意とする分野だけでなく社会福祉全般について学習、調査や見学などを行う。
社会福祉に関心を高め、基礎的な知識を習得することを目的とする。

[授業概要]
受講生は専任教員ごとのグループに分かれます。
グループ分けの後は各教員のもとで「社会福祉入門ゼミ」をおこないます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
福祉に関する新聞記事を読み、各自で疑問点・問題点を考える。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 社会福祉へようこそ（入門）
3. 身近なところでの社会福祉
4. 児童福祉とは
5. 高齢者の福祉を考える
6. 障がい者の福祉
7. こころを病む人たちへの支援
8. 格差社会での貧困
9. グループ研究と討議①
10. グループ研究と討議②
11. グループ研究と討議③
12. 社会福祉施設・機関について
13. グループ発表①
14. グループ発表②
15. 前期のまとめと夏休みの課題提起
16. 夏休みの課題の報告①
17. 夏休みの課題の報告②
18. 後期の課題の設定と討議
19. 社会福祉施設・機関への訪問
20. ボランティアのすすめと体験
21. グループ研究と討議④
22. グループ研究と討議⑤
23. グループ研究と討議⑥
24. グループ研究と討議⑦
25. グループ発表③
26. グループ発表④
27. 福祉現場で働く先輩との交流
28. 社会福祉学専門的学習のすすめ①
29. 社会福祉学専門的学習のすすめ②
30. まとめ

[成績評価方法]
日常的な参加状況（40%）、レポート（60%）による

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
各教員から指定を行う

[参考書（ISBN）]
各教員から紹介される。

P11000010E [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	社会福祉学入門ゼミ		
担当者	下司　実奈		

[到達目標]
社会福祉が対象としている分野は広いし、身近な問題でもある。児童、高齢者障がい者、貧困問題など各教員が得意とする分野だけでなく社会福祉全般について学習、調査や見学などを行う。
社会福祉に関心を高め、基礎的な知識を習得することを目的とする。

[授業概要]
受講生は専任教員ごとのグループに分かれます。
グループ分けの後は各教員のもとで「社会福祉入門ゼミ」をおこないます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
福祉に関する新聞記事を読み、各自で疑問点・問題点を考える。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 社会福祉へようこそ（入門）
3. 身近なところでの社会福祉
4. 児童福祉とは
5. 高齢者の福祉を考える
6. 障がい者の福祉
7. こころを病む人たちへの支援
8. 格差社会での貧困
9. グループ研究と討議①
10. グループ研究と討議②
11. グループ研究と討議③
12. 社会福祉施設・機関について
13. グループ発表①
14. グループ発表②
15. 前期のまとめと夏休みの課題提起
16. 夏休みの課題の報告①
17. 夏休みの課題の報告②
18. 後期の課題の設定と討議
19. 社会福祉施設・機関への訪問
20. ボランティアのすすめと体験
21. グループ研究と討議④
22. グループ研究と討議⑤
23. グループ研究と討議⑥
24. グループ研究と討議⑦
25. グループ発表③
26. グループ発表④
27. 福祉現場で働く先輩との交流
28. 社会福祉学専門的学習のすすめ①
29. 社会福祉学専門的学習のすすめ②
30. まとめ

[成績評価方法]
日常的な参加状況（40%）、レポート（60%）による

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
各教員から指定を行う

[参考書（ISBN）]
各教員から紹介される。

P11000010G [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	社会福祉学入門ゼミ		
担当者	眞野　典子		

[到達目標]
社会福祉が対象としている分野は広いし、身近な問題でもある。児童、高齢者障がい者、貧困問題など各教員が得意とする分野だけでなく社会福祉全般について学習、調査や見学などを行う。
社会福祉に関心を高め、基礎的な知識を習得することを目的とする。

[授業概要]
受講生は専任教員ごとのグループに分かれます。
グループ分けの後は各教員のもとで「社会福祉入門ゼミ」をおこないます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
福祉に関する新聞記事を読み、各自で疑問点・問題点を考える。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 社会福祉へようこそ（入門）
3. 身近なところでの社会福祉
4. 児童福祉とは
5. 高齢者の福祉を考える
6. 障がい者の福祉
7. こころを病む人たちへの支援
8. 格差社会での貧困
9. グループ研究と討議①
10. グループ研究と討議②
11. グループ研究と討議③
12. 社会福祉施設・機関について
13. グループ発表①
14. グループ発表②
15. 前期のまとめと夏休みの課題提起
16. 夏休みの課題の報告①
17. 夏休みの課題の報告②
18. 後期の課題の設定と討議
19. 社会福祉施設・機関への訪問
20. ボランティアのすすめと体験
21. グループ研究と討議④
22. グループ研究と討議⑤
23. グループ研究と討議⑥
24. グループ研究と討議⑦
25. グループ発表③
26. グループ発表④
27. 福祉現場で働く先輩との交流
28. 社会福祉学専門的学習のすすめ①
29. 社会福祉学専門的学習のすすめ②
30. まとめ

[成績評価方法]
日常的な参加状況（40%）、レポート（60%）による

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11000010H [WH1-001]

科目名	社会福祉演習 I	前期～後期	4 単位
サブタイトル	社会福祉学入門ゼミ		
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
社会福祉が対象としている分野は広いし、身近な問題でもある。児童、高齢者障がい者、貧困問題など各教員が得意とする分野だけでなく社会福祉全般について学習、調査や見学などを行う。
社会福祉に関心を高め、基礎的な知識を習得することを目的とする。

[授業概要]
受講生は専任教員ごとのグループに分かれます。
グループ分けの後は各教員のもとで「社会福祉入門ゼミ」をおこないます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
福祉に関する新聞記事を読み、各自で疑問点・問題点を考える。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 社会福祉へようこそ（入門）
3. 身近なところでの社会福祉
4. 児童福祉とは
5. 高齢者の福祉を考える
6. 障がい者の福祉
7. こころを病む人たちへの支援
8. 格差社会での貧困
9. グループ研究と討議①
10.グループ研究と討議②
11.グループ研究と討議③
12.社会福祉施設・機関について
13.グループ発表①
14.グループ発表②
15.前期のまとめと夏休みの課題提起
16.夏休みの課題の報告①
17.夏休みの課題の報告②
18.後期の課題の設定と討議
19.社会福祉施設・機関への訪問
20.ボランティアのすすめと体験
21.グループ研究と討議④
22.グループ研究と討議⑤
23.グループ研究と討議⑥
24.グループ研究と討議⑦
25.グループ発表③
26.グループ発表④
27.福祉現場で働く先輩との交流
28.社会福祉学専門的学習のすすめ①
29.社会福祉学専門的学習のすすめ②
30.まとめ

[成績評価方法]
日常的な参加状況（40%）、レポート（60%）による

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
各教員から指定を行う

[参考書（ISBN）]
各教員から紹介される。

P11000010I [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	社会福祉学入門ゼミ		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
社会福祉が対象としている分野は広いし、身近な問題でもある。児童、高齢者障がい者、貧困問題など各教員が得意とする分野だけでなく社会福祉全般について学習、調査や見学などを行う。
社会福祉に関心を高め、基礎的な知識を習得することを目的とする。

[授業概要]
受講生は専任教員ごとのグループに分かれます。
グループ分けの後は各教員のもとで「社会福祉入門ゼミ」をおこないます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
福祉に関する新聞記事を読み、各自で疑問点・問題点を考える。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 社会福祉へようこそ（入門）
3. 身近なところでの社会福祉
4. 児童福祉とは
5. 高齢者の福祉を考える
6. 障がい者の福祉
7. こころを病む人たちへの支援
8. 格差社会での貧困
9. グループ研究と討議①
10. グループ研究と討議②
11. グループ研究と討議③
12. 社会福祉施設・機関について
13. 発表①
14. 発表②
15. 前期のまとめと夏休みの課題提起
16. 夏休みの課題の報告①
17. 夏休みの課題の報告②
18. 後期の課題の設定と討議
19. 社会福祉施設・機関への訪問
20. ボランティアのすすめと体験
21. グループ研究と討議④
22. グループ研究と討議⑤
23. グループ研究と討議⑥
24. グループ研究と討議⑦
25. グループ発表③
26. グループ発表④
27. 福祉現場で働く先輩との交流
28. 社会福祉学専門的学習のすすめ①
29. 社会福祉学専門的学習のすすめ②
30. まとめ

[成績評価方法]
日常的な参加状況（40%）、レポート（60%）による

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
各教員から指定を行う

[参考書（ISBN）]
各教員から紹介される。

P11000010K [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅰ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	社会福祉学入門ゼミ		
担当者	小笠原　慶彰		

[到達目標]
社会福祉が対象としている分野は広いし、身近な問題でもある。児童、高齢者障がい者、貧困問題など各教員が得意とする分野だけでなく社会福祉全般について学習、調査や見学などを行う。
社会福祉に関心を高め、基礎的な知識を習得することを目的とする。

[授業概要]
受講生は専任教員ごとのグループに分かれます。
グループ分けの後は各教員のもとで「社会福祉入門ゼミ」をおこないます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
福祉に関する新聞記事を読み、各自で疑問点・問題点を考える。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 社会福祉へようこそ（入門）
3. 身近なところでの社会福祉
4. 児童福祉とは
5. 高齢者の福祉を考える
6. 障がい者の福祉
7. こころを病む人たちへの支援
8. 格差社会での貧困
9. グループ研究と討議①
10. グループ研究と討議②
11. グループ研究と討議③
12. 社会福祉施設・機関について
13. グループ発表①
14. グループ発表②
15. 前期のまとめと夏休みの課題提起
16. 夏休みの課題の報告①
17. 夏休みの課題の報告②
18. 後期の課題の設定と討議
19. 社会福祉施設・機関への訪問
20. ボランティアのすすめと体験
21. グループ研究と討議④
22. グループ研究と討議⑤
23. グループ研究と討議⑥
24. グループ研究と討議⑦
25. グループ発表③
26. グループ発表④
27. 福祉現場で働く先輩との交流
28. 社会福祉学専門的学習のすすめ①
29. 社会福祉学専門的学習のすすめ②
30. まとめ

[成績評価方法]
日常的な参加状況（40%）、レポート（60%）による

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
各教員から指定を行う

[参考書（ISBN）]
各教員から紹介される。

P11000010L [WH1-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	自己決定を支えるエンパワメント支援		
担当者	泉　妙子		

[到達目標]
1)世界人権宣言　権利としての自己決定とその支援の重要性について理解できる
2)ICFの概念を整理　自己決定を支えるエコロジカルソーシャルワークに基づくエンパワメントアプローチが実践できる
3)研究テーマに導く小論文（A4　4枚）を1つ作成できる

[授業概要]
テキスト「夜と霧」を輪読し、世界人権宣言にいたる背景と意味を理解する。ICFの概念に基づき　障害や高齢に伴う「できないこと」「治らないこと」によって未来を閉ざされるのではなく、当事者の自分自身に関する身近な「できること」一つ一つのニーズを、個別に承認していく肯定的な過程を日常に取り入れたエンパワメントアプローチを考察する。病気や障害ともに暮らす生活の中で「個人的なわがまま」として処理され、潜在化されていく個別の願いに対し、社会的責任と自己決定が保障・承認される支援の必要性を理解し、友愛訪問・交流・見学等取り入れることによって問題意識を啓発する。カレル・ジャーメインのエコロジカルソーシャルワーク、潜在化されたニーズの表出への支援が問題の核心だとするブラッドショウの四類型等いくつかの指導概念を整理し、自己決定を阻む障壁を考察しつつ、自らの専門性を方向付ける問題提起・課題・支援方法を小論文にまとめる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
自らの指導概念を構築するために、今まで学んだソーシャルワーク・ケアワークの理念や各種アプローチを整理しておく。

[授業計画]
前期
1.科目オリエンテーション
2.問題提起　自己決定とは
3.概念の構築1 ：V.フランクル
4.概念の構築2 ：V.フランクル
5.概念の構築3 ：V.フランクル
6.概念の構築4 ：V.フランクル
7.概念の構築5 ：カレル・B・ジャーメイン
8.概念の構築6 ：ICFの概念
9.現状の把握：友愛訪問・交流
10.現状の把握：友愛訪問・交流
11.障壁1 ：否定的な力
12.障壁2 ：なぜニーズは潜在化するのか
13.障壁3 ：隔離と囲い込み
14.問題意識の表出
15.総括
後期
1.先行研究の整理と指導概念の決定
2.論文の枠組みと構成：研究テーマを考察する
3.支援の実践：エンパワメントアプローチ
4.支援の実践：エコロジカルアプローチ
5.支援の実際1　A
6.支援の実際2　B
7.支援の実際3　C
8.問題提起1：事例を通して問題を考察する
9.問題提起2：事例を通して問題を考察する
10.小論文の作成1
11.小論文の作成2
12.小論文の作成3
13.小論文の作成4
14.小論文の作成5
15.総括

[成績評価方法]
課題50%・資料整理30%・授業態度20%などの総合評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「夜と霧」（2013）　著者名：V.E.フランクル　出版社：みすず書房　（4-622-00601-4）

[参考書（ISBN）]
エコロジカル・ソーシャルワーク　著者名：ソロモン・ジャーメインなど　出版社：学苑社ほか

P11000020 [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	障害者・高齢者のソーシャルワーク		
担当者	植戸　貴子		

[到達目標]
相談援助職（ソーシャルワーカー）に求められる基本的な姿勢（価値観・倫理観・視点・態度）を身につけることを目指す。より具体的には、新聞や専門雑誌の記事及び相談援助事例や現場実践報告などを読み・聞くことを通して、また関心のあるテーマについて研究することを通して、福祉課題を抽出し、ソーシャルワークの視点で考察できるようになることを目標とする。

[授業概要]
福祉サービス利用者やその家族に対する、生活支援や相談援助をテーマにする。まず、利用者・家族の心理・行動や社会環境の中にある生活問題を理解し、生活全体をとらえる視点を養う。その上で、利用者や家族が必要とするサービスや支援につなぐ「相談援助活動」（ソーシャルワーク）のあり方について学ぶ。そこでは特に、利用者を「できない人」「弱者」として上から見るのではなく、「対等な市民」として尊重する基本姿勢を大切にする。新聞記事を読んだり、利用者・家族や現場の社会福祉士のお話を直接伺ったり、相談援助事例を読み解いたり、また希望があれば、施設を見学したり、利用者・家族の地域での支援活動や外部の学習会に参加したりできるようにする。利用者・家族が直面するさまざまな生活課題について、またその支援のあり方について、一緒に考えていくゼミにしたいと考えている。障害者分野の生活支援・相談援助を中心とするが、高齢者等の分野も必要に応じて取り上げ、幅広い利用者の相談援助について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
社会福祉について幅広い関心を持ち、新聞記事・専門雑誌・学外セミナーやボランティア活動などを通して、様々な福祉課題について主体的に学ぶ姿勢を持つこと。

[授業計画]
（前期）
1. オリエンテーション
2. 図書館の活用法を学ぶ
3. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題①
4. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題②
5. 新聞記事から学ぶ社会福祉の課題③
6. ソーシャルワークにおける人間理解①
7. ソーシャルワークにおける人間理解②
8. ソーシャルワークにおける社会環境の理解①
9. ソーシャルワークにおける社会環境の理解②
10. 事例を通して学ぶ障害者の生活ニーズ①
11. 事例を通して学ぶ障害者の生活ニーズ②
12. 事例を通して学ぶ高齢者の生活ニーズ
13. 当事者・家族の話から学ぶ障害者の生活ニーズ（学外特別講師）
14. 当事者・家族の話を振り返ってのディスカッション
15. まとめ

（後期）
1. オリエンテーション
2. 社会福祉士等、現場の実践者の話から学ぶ（学外特別講師）
3. 事例を通して学ぶソーシャルワークの視点と価値①
4. 事例を通して学ぶソーシャルワークの視点と価値②
5. 統計資料を通して学ぶ社会福祉の課題①
6. 統計資料を通して学ぶ社会福祉の課題②
7. 自由テーマによるグループ研究の準備
8. 自由テーマによるグループ研究の発表①
9. 自由テーマによるグループ研究の発表②
10. 自由テーマによるグループ研究の発表③
11. 自由テーマによる個人研究の準備
12. 自由テーマによる個人研究の発表①
13. 自由テーマによる個人研究の発表②
14. 自由テーマによる個人研究の発表③
15. まとめ

[成績評価方法]
授業中の課題への取り組み（25%）、ゼミ発表の内容（25%）、授業内レポート（25%）、その他平常点（25%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし。授業の中で、プリント等を配付

[参考書（ISBN）]
授業の中で随時紹介します。

P11000020A [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	対人支援の実践～支援者のあり方を考える		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
・自分自身を理解し受け入れる（自己覚知）。
・他者を理解し受け入れる。
・自らが人生の主役として、大人として責任をもった行動ができるようになる。
・対人支援の実践者として、自らの実践基盤と支援者としてのあり方の確立を図る。
・社会福祉士の倫理綱領を理解し、専門職としての自覚を持つ。
・卒業論文を執筆する力を身につける。

[授業概要]
対人支援は価値、知識、技術を身につけたとしても、実践に活かされなければ意味をなさない。相手を理解し、寄り添い支援するにあたり、自らの実践基盤と支援者としてのあり方を追究する。
興味関心のあるテーマについて調べ報告するプロセスを通して、自分自身の考えを他者に理解をしてもらう方法と、他者の意見に傾聴することの重要性を学んでいく。自分と他者との価値観の違いに気づき、一人ひとりの存在を実感する。また、自らが経験した実践を振り返り、深く考察する。4年生でまとめる、卒業論文に向けて文献検索や論文の書き方、調査方法等を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日頃から授業に関する新聞、ニュース等に関心をもつこと。
関心領域のセミナー等に参加すること。

[授業計画]
1. オリエンテーション　授業の進め方、自己紹介
2. 多角面からのものの見方や考え方
3. 社会福祉の価値や倫理を考える①
4. 社会福祉の価値や倫理を考える②
5. 社会福祉とは何か
6. 文献検索の方法
7. ソーシャルワークにおける人間の理解
8. ソーシャルワークにおける環境の理解
9. 高齢者や障がいを持つ人の生活とニーズの理解
10.支援者としての視点
11. 専門職としての姿勢を学ぶ①
12. 専門職としての姿勢を学ぶ②
13. 専門職としての姿勢を学ぶ②
14. 様々な人々の生活について（ゲストスピーカー）
15. 復習とまとめ
16. 後期授業の進め方・オリエンテーション
17. 関心領域の研究を学ぶ①((フィールドワーク)
18. 関心領域の研究を学ぶ②(フィールドワーク)
19. 関心領域の研究を学ぶ③(フィールドワーク)
20. 関心領域の文献講読と発表・議論①
21. 関心領域の文献講読と発表・議論②
22. 関心領域の文献講読と発表・議論③
23. 関心領域の文献講読と発表・議論④
24. 関心領域の文献講読と発表・議論⑤
25. 論文の執筆について①
26. 論文の執筆について②
27. 論文の執筆について③
28. 卒業論文に向けて①
29. 卒業論文に向けて②
30. 復習とまとめ

[成績評価方法]
レポート(30%)、課題発表(30%)、授業態度(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし　授業中に紹介

[参考書(ISBN)]
なし

P11000020B [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	下司　実奈		

[到達目標]
自分の研究したいテーマを見つけ卒業論文へとつなぐ。

[授業概要]
ゼミのテーマ:「発達を支援する－専門家としての力量を高めるために－」
人は人らしく生きるために生涯、発達を続けます。子どもを育てる、人を育てるということは社会の大切なプロジェクトであり、同時にそれぞれが育っていくプロセスでもあります。
地域で他の専門職（保健師・教師・セラピスト等）と共に子どもや家族を支援していくことを学生の皆さんそれぞれ興味関心のある切り口から、学習していきましょう。長年勤務してきた障害児施設や、現在臨床現場で出会っている多くの子どもたちと家族の方々から学んだ実践の知識とスキルを、そして子どもの成長する力、人の成長し続ける力を信じる大切さを、臨床心理士としての視点も加えて伝えていきたいと考えています。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
社会で起きている様々な事象を知ろうとし、疑問点について皆と考える素材提出ができるよう準備する。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 文献講読とプレゼンテーション
3. 文献講読とプレゼンテーション
4. 文献講読とプレゼンテーション
5. 文献講読とプレゼンテーション
6. 文献講読とプレゼンテーション
7. 文献検索の実際
8. 文献検索の実際
9. 論文講読と発表及びディスカッション
10. 論文講読と発表及びディスカッション
11. 論文講読と発表及びディスカッション
12. 論文講読と発表及びディスカッション
13. 論文講読と発表及びディスカッション
14. 施設現場見学
15. 施設現場見学
16. 対人援助を学ぶワークショップ
17. 対人援助を学ぶワークショップ
18. 論文の書き方
19. 論文の書き方
20. 論文の書き方
21. 研究テーマに基づいた発表会
22. 研究テーマに基づいた発表会
23. 研究テーマに基づいた発表会
24. 研究テーマに基づいた発表会
25. 研究テーマに基づいた発表会
26. 研究テーマに基づいた発表会
27. 卒業論文のテーマを決める
28. 卒業論文のテーマを決める
29. 卒業論文のテーマを決める
30. 卒業論文のテーマを決める

[成績評価方法]
受講態度（50%）・レポート（50%）を総合して評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11000020C [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	社会政策的観点から考える		
担当者	清水　弥生		

[到達目標]
卒業論文執筆の準備段階として、調査、研究、発表の技法を学び、議論する中で、自分の関心のある研究分野、対象を探ることが3年次ゼミの目標となる。

[授業概要]
私たちが安心して暮らすための、生活を支えるさまざまな社会制度・政策は、実際にどのように行われ、どのような問題があるのだろうか。例えば、高齢者に関わる制度がめまぐるしく変化しているが、それはどのような影響を高齢者の生活に及ぼすのだろうか。
様々な問題を、文献講読、新聞記事、NPO等の見学等を通して、深く考え批判考察する技能を身につけていきたい。
前半では、高齢者、女性、在住外国人、北欧福祉国家の現状等に関するいくつかの社会政策の課題の中から、ゼミ生の関心・テーマに沿っていくつか選び、勉強していく。
後半では、卒業論文執筆に向けて準備し、各自のテーマに関する口頭発表とレポート執筆を行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
新聞を毎日読む、ニュースを見る等、社会を理解するための基本的な知識を身につける。その上で社会福祉関連の文献を日常的に読みこなせるよう読書習慣をつけておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 文献検索の方法
3. レジュメの書き方
4. レポートの書き方
5. ゼミ発表の要点
6. 個別のテーマに沿った文献講読と発表①
7. 個別のテーマに沿った文献講読と発表②
8. 個別のテーマに沿った文献講読と発表③
9. 個別のテーマに沿った文献講読と発表④
10. 個別のテーマに沿った文献講読と発表⑤
11. 個別のテーマに沿った文献講読と発表⑥
12. ゼミのテーマの沿った見学準備
13. 見学
14. 討論
15. 前期のまとめ
16. 各自の研究テーマ選択についてのガイダンス
17. 論文執筆に向けての指導①
18. 論文執筆に向けての指導②
19. 個別研究発表①
20. 個別研究発表②
21. 個別研究発表③
22. 個別研究発表④
23. 個別研究発表⑤
24. 個別研究発表⑥
25. 総評とディスカッション①
26. 総評とディスカッション②
27. 福祉現場で働く卒業生との交流
28. 卒業論文作成に向けて　個別指導
29. 卒業論文作成に向けて　来年度の課題
30. 後期のまとめ

[成績評価方法]
レポート(30%)、授業での発表(50%)、平常点(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
授業中に指定

[参考書(ISBN)]
授業中に指定

P11000020E [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	子どもをとりまく問題と支援		
担当者	曽田　里美		

[到達目標]
　子どもをとりまく様々な生活問題、それに対するサービスや支援について学び、その学びの中から卒業論文作成に向けて、各自関心あるテーマを見つけていく。

[授業概要]
　近年子どもをとりまく問題は、児童虐待に代表されるように、深刻かつ複雑化している。しかし、子どもは自身のしんどさやつらさを訴え、自ら解決していくことは困難である。援助者として、そのような子どもの置かれた状況や思いを理解し、それを代弁していくような力が求められる。
　本演習では、子どもをとりまく様々な問題について、その実情や背景を理解していくとともに、その支援のあり方について考察していく。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　日頃から授業に関するニュース等に関心をもつこと。

[授業計画]
＜前期＞
1. オリエンテーション
2. 子どもをとりまく問題について考える
3. 子どもをとりまく問題について考える
4. レジュメ、レポートの書き方
5. レジュメ、レポートの書き方
6. 文献講読と個別発表、ディスカッション
7. 文献講読と個別発表、ディスカッション
8. 文献講読と個別発表、ディスカッション
9. 文献講読と個別発表、ディスカッション
10. 文献講読と個別発表、ディスカッション
11. 文献講読と個別発表、ディスカッション
12. 文献講読と個別発表、ディスカッション
13. 施設見学など
14. 施設見学など
15. まとめ
＜後期＞
16. オリエンテーション
17. 各自研究テーマを決める
18. 文献検索の方法
19. 文献検索の方法
20. 自由テーマによる研究、発表
21. 自由テーマによる研究、発表
22. 自由テーマによる研究、発表
23. 自由テーマによる研究、発表
24. 自由テーマによる研究、発表
25. 施設見学など
26. 施設見学など
27. 卒業論文の作成に向けて
28. 卒業論文の作成に向けて
29. 先輩との交流
30. まとめ

[成績評価方法]
レポート（50%）、授業中の態度・ディスカッション等への参加（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
授業の中で指示する。

P11000020F [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	こころの健康・ソーシャルワーク		
担当者	眞野　典子		

[到達目標]
テーマへの取り組みにより自己覚知を深めるとともに、主体的に課題を見つけ、調べ、学び、批判し、まとめ、発表し、議論する力を身につけることを目標とする。

[授業概要]
ゼミのテーマ:
1. 社会福祉・精神保健福祉及び医療福祉についての諸問題について学ぶ。例えば①精神科ソーシャルワーク・医療ソーシャルワーク・スクールソーシャルワークなど②障害者・傷病者の支援に関わる制度・機関・サービスとその機能及び内容③PSW・MSWの機能と役割④セルフヘルプグループの意義と機能⑤関連制度・分野
2. 上記諸問題への取り組みを通して、対人援助職を目指す自分自身を知り、資質の向上を図る。
3.「関連する文献を探す・収集する」「読みこなす」「批判的に読む」「要約する」「課題を見つける」「レポートを作成する」「発表する」「議論する」力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
積極的に準備学習を進めること。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. テーマの選定
3. 関連する資料収集の方法①
4. 関連する資料収集の方法②
5. 要約・レポート作成・レジュメ作成の方法①
6. 要約・レポート作成・レジュメ作成の方法②
7. 発表のデモンストレーション
8. 各自のテーマに沿って発表・議論①
9. 各自のテーマに沿って発表・議論②
10. 各自のテーマに沿って発表・議論③
11. 各自のテーマに沿って発表・議論④
12. 各自のテーマに沿って発表・議論⑤
13. 各自のテーマに沿って発表・議論⑥
14. 各自のテーマに沿って発表・議論⑦
15. まとめ
16. 後期オリエンテーション
17. 論文を読み、発表・議論 デモンストレーション
18. 論文を読み、発表・議論①
19. 論文を読み、発表・議論②
20. 関連したテーマについてさらに学習を深め統合する①
21. 論文を読み、発表・議論③
22. 論文を読み、発表・議論④
23. 関連したテーマについてさらに学習を深め統合する②
24. レポート作成を学ぶ①
25. レポート作成を学ぶ②
26. 先輩から学ぶ①
27. 先輩から学ぶ②
28. 卒業論文作成の準備①
29. 卒業論文作成の準備②
30. 卒業論文作成の準備③

[成績評価方法]
授業参加態度(50%)・発表内容(50%)により総合的に評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし。授業中に指定する。適宜プリント資料を配布する。

[参考書(ISBN)]
なし。授業中に指定する。適宜プリント資料を配布する。

P11000020J [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	高齢者福祉		
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
①高齢者一人ひとりの福祉を追求する意義とそのための支援が理解できる。
②介護予防・介護負担軽減に向けた支援が理解できる。
③卒業論文で取り組むテーマの方向性が明確になる。

[授業概要]
高齢者の特徴や高齢期の生きがいの特徴について学んだうえで、高齢者の福祉の実現につなる生きがいの再獲得に向けた支援について学習していきます。そのための支援の１技法を習得するために、グループ回想法の演習を取り入れながら勉強していきます。
また、回想法などのアクティビティケアを通して、介護予防や高齢者のその人らしさを尊重した支援につながるアセスメント能力を育んでいきます。
そして、介護負担感の軽減にも役立つ、社会福祉専門職としての対人支援能力を習得していきます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
高齢者を取り巻くさまざまな課題について理解するために普段から新聞記事を読む。
授業内容を毎回ノートに整理して復習し、自己の問題意識が明確になるよう自主的に学習すること。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 高齢者の身体的・社会的・精神的特徴
3. 生きがい
4. 高齢者の生きがい
5. 高齢者を取り巻く課題
6. 生きがいの再獲得に向けた支援
7. 回想法とは
8. 回想法の技法
9. 高齢者の回想法の介入効果
10. 介護職員への介入効果
11. 介護負担感軽減に向けた支援
12. アクティビティ・ケア
13. 介護予防に向けた支援
14. 地域つくりへの取り組み
15. まとめ
16. オリエンテーション
17. 夏休みの課題発表
18. 自分史ノートとは
19. 個人回想法体験
20. 自分史ノート作成
20. グループ回想法体験①
21. グループ回想法体験②
22. 現場から学ぶ
23. グループワークの意義
24. 文献検索方法について
25. 自己の問題意識とテーマ
26. 先輩から学ぶ
27. 各自で問題意識を持ったテーマについて発表①
28. 各自で問題意識を持ったテーマについて発表②
29. 各自で問題意識を持ったテーマについて発表③
30. まとめ

[成績評価方法]
授業中の課題40%
参加状況30%
レポート30%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
授業の中で紹介する。

[参考書（ISBN）]
適宜資料を配布する。授業の中で紹介する。

P11000020K [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	家族福祉		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
社会と家族の変化が理解できる
伝統的家族の機能とその喪失の状況を理解することができる
社会のシステムとの関係の中で女性の生き方や、介護と育児のあり方を理解できる
これからの社会を予測分析し、家族の課題を理解できる

[授業概要]
近年の家族の変化を学び、これまでの伝統的家族の機能とその喪失の事実、家族の機能不全の状況を、マスコミの情報などから取り上げて学ぶ。特に女性の生き方の変化に伴い、介護と育児の担われ方が変化する状況や問題を、実際にその支援施設を見学したり、書籍、文献などを読んだりしながら、問題点を分析して、そのあり方を考えていきたい。分析の過程では簡単な統計処理も経験して、エクセルが使えるようにする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
新聞など、マスコミ情報から女性、高齢者、子どもの社会問題について情報収集をする。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 新聞記事,書籍などからの情報収集
3. 新聞記事、書籍などからの課題発見
4. 新聞記事、書籍などからの課題発見
5. 新聞記事、書籍などからの課題発見
6. 専門書を読む①読んで
7. 専門書を読む②まとめて
8. 専門書を読む③報告する
9. 図書館の活用
10. 文献の探し方
11. 研究の対象への関心
12. 研究の対象を探す
13. 関心のあるテーマを決める
14. 関心のあるテーマの課題発見
15. まとめ
16. 課題の絞り方
17. 新たな課題の発見
18. 研究の準備
19. 研究計画の作成方法と研究計画作成
20. 共同研究について
21. 統計を使った研究
22. 報告①
23. 報告②
24. 報告③
25. 報告④
26. 報告⑤
27. 報告⑥
28. キャリアライフプラン
29. 報告のまとめ
30. まとめ

[成績評価方法]
提出物50%授業への積極的参加50%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
適宜資料配布

[参考書（ISBN）]
適宜指定

P11000020L [WH3-001]

科目名	社会福祉演習Ⅱ	前期～後期	4 単位
サブタイトル	地域社会福祉史にみる女性の役割		
担当者	小笠原　慶彰		

[到達目標]
社会福祉専門職、あるいは社会福祉に関心ある市民として、それも特に女性としての立場から、社会福祉実践に対して果たすことのできる役割を考察できるようにする。その際に歴史的事実に着目し、そこから現在の実践にも有用な価値や倫理を見出すとともに自己のものにできることを目標とする。

[授業概要]
歴史的形成体である福祉政策・実践を、特に近代以降の日本を中心としてその歴史的展開を通して考えるため演習を行う。近代以降の社会福祉の展開は、慈善救済、相互扶助を基盤とする制度、実践から、感化救済、社会事業を経て、現代的な社会福祉の体系へと展開してきた。まずそれらの過程について、人物、特に女性を取り上げて、その人物の果たした役割を知る。さらに本学の存在する神戸を初めとする特定の地域に着目して、その社会福祉の歴史的形成に女性の果たした役割を見出す。それによって、女性が地域福祉の推進にどのように寄与できるかを考察する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
毎回の授業でやっておくべき課題を事前に伝達するので、その課題（30分程度でできる）をやってくること。

[授業計画]
[前期]
1. オリエンテーション（前期）
2. 社会福祉の歴史について①-制度史
3. 社会福祉の歴史について②-人物史
4. 社会福祉の歴史について③-実践史
5. 社会福祉の歴史について④-地域史
6. 社会福祉の歴史について⑤-思想史
7. 研究テーマを考える①-興味・関心を持てること
8. 研究テーマを考える②-もっと調べてみたいこと
9. 研究テーマを考える③-文献・資料を探してみよう
10. 研究テーマを考える④-もっと文献・資料を探してみよう
11. 研究テーマを考える⑤-文献・資料を読んでみよう
12. 研究テーマを考える⑥-さらに文献・資料を探してみよう
13. 研究テーマを考える⑦-もう一度文献・資料を読んでみよう
14. 研究テーマを考える⑧-文献・資料のリストを作ろう.
15. 前期のふりかえり、または学外学習
[後期]
16. オリエンテーション（後期）
17. 卒論の構成を考えよう①-論文の構成
18. 卒論の構成を考えよう②-論文の順序
19. 論文の作法①-注の付け方
20. 論文の作法②-引用の方法
21. 論文の作法③-文献表
22. 論文の作法④-インターネットの利用法
23. 論文の作法⑤-文章の推敲はどうするか
24. 研究テーマの発表会①-制度史
25. 研究テーマの発表会②-人物史
26. 研究テーマの発表会③-実践史
27. 研究テーマの発表会④-地域史
28. 研究テーマの発表会⑤-思想史
29. 卒業論文の執筆に向けて（卒業した先輩の経験談を聞く）
30. 後期のふりかえり、または学外学習

[成績評価方法]
授業への取り組み態度60パーセント、最終レポート25パーセント、前期・後期に各1回のミニ・レポート各5パーセント（前期は文献・資料リスト、後期は卒論の目次）の合計10パーセント、発表点5パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。最終レポートは学年末に提出する卒論の序論部分（下書き）とする。発表点は、後期に研究テーマについて発表（15分程度）したら獲得できる。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし（プリント配布）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000020M [WH3-001]

科目名	社会福祉特講Ⅰ（制度・政策）	前期	2 単位
サブタイトル	児童福祉のための基礎知識		
担当者	下司　実奈、曽田　里美、松崎　喜良、横山　正子、田中　敦子		

[到達目標]
児童福祉に関する基礎知識を学習し、支援を実行することの基盤を身につける。

[授業概要]
児童福祉がどういった歴史のもと、変化を遂げてきたのかを学び、現在、児童福祉はどういった課題に向き合っているのかを学ぶ。
乳幼児の発達を保障するために必要な基礎知識を様々な側面からアプローチして学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
次回の学習課題について調べておく。
普段の生活においても児童に関心をもち、児童と関わる機会に授業での学びを復習し活用する。

[授業計画]
1. オリエンテーション（下司）
2. 乳幼児の保健（横山）
3. 乳幼児の保健（横山）
4. 保育における心理学（下司）
5. 児童と福祉（松崎）
6. 食育と児童（田中）
7. 食育と児童（田中）
8. 食育と児童（田中）
9. 児童福祉（曽田）
10. 乳幼児保育の歴史と現状（下司）
11. 乳幼児の保健（横山）
12. 養護を必要とする児童への支援（曽田）
13. 児童教育の変遷（下司）
14. 児童と遊び（下司）
15. まとめ(下司)

[成績評価方法]
授業態度（50%）・提出物（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
授業で教員から適宜紹介します。

[参考書（ISBN）]
適宜紹介する。

P11000890 [WH2-012]

科目名	社会福祉特講Ⅱ（社会問題）	後期	2 単位
サブタイトル	高齢者に合わせたコミュニケーション・回想法		
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
高齢期の特徴や回想法の技法を理解したうえで、対人支援者として高齢者に合わせたコミュニケーションを図ることが出来る能力を身に付ける。

[授業概要]
高齢期の特徴について学ぶ。
回想法の技法について学ぶ。
高齢者支援について学ぶ。
認知症高齢者との関わり方について学ぶ。
地域ケアについて学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
普段の日常生活の中で高齢者と積極的に関わる。その際、授業で学んだことを活かして高齢者と関わり自己の関わりの振り返りから学びを深める。

[授業計画]
1. オリエンテーション
　自己紹介
2. コミュニケーションの基本
3. 高齢者の特徴
4. 認知症高齢者の特徴
5. 認知症高齢者との関わり方
6. 回想法
7. 回想法の効果
8. 回想法の技法
9. 個別回想法
10. 自分史ノート作成
11. グループ回想法
12. 高齢者施設での回想法
13. 地域での回想法
14. ユマニチュード・バリデーション
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート（60%）・受講態度（40%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
必要に応じてプリント配布

P11000900 [WH2-013]

科目名	社会福祉特講Ⅳ（直接援助）	前期	2 単位
サブタイトル	レクリエーション・コミュニケーション		
担当者	重福　京子		

[到達目標]
福祉のレクリエーションの活動を理解する。

[授業概要]
レクリエーション活動には、ゲームや歌やダンスといったグループ・レクリエーションとスポーツ活動や野外活動、趣味や旅行、文芸、あるいはクラフトのものづくりなど、多種多様な活動をとおして、豊かな時間と空間を楽しみ、精神的な安定やリラックスを得ている。そこで「楽しみの援助」について、レクリエーションの考え方と指導方法を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておくこと。
・毎回の授業前に配布された資料を予習し、質問カードを用いて質問すること。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. レクリエーションについて
3. レクリエーションと福祉
4. レクリエーションの利用者と援助
5. レクリエーション計画の作成と実行
6. レクリエーション援助者の役割
7. レクリエーション援助のための組織・環境の形成
8. 高齢者・障がい者のレクリエーション
9. レクリエーション活動の展開例（1）
10. レクリエーション活動の展開例（2）
11. レクリエーション活動の展開例（3）
12. レクリエーション活動の展開例（4）
13. レクリエーション活動の展開例（5）
14. レクリエーション活動の展開例（6）
15. まとめ

[成績評価方法]
レクリエーションの理解度（50%）、平常点（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11000920 [WH3-009]

科目名	社会福祉特講Ⅴ（分野別）	後期	2 単位
サブタイトル	健康と暮らしのセーフティネット		
担当者	松崎　喜良		

[到達目標]
地域医療にかかわる社会福祉・社会保障の諸制度の理解とその活用法の習熟

[授業概要]
少子高齢社会のなかで、寝たきりや認知症などで生き続けていくことが困難になる高齢者が増え続けている。そして、児童虐待やDV、若者の雇用不安など、あらゆる世代にわたる健康問題が深刻化し、医療や福祉のあり方を見直さなければならなくなっている。そして、地域おいては、保健・医療・福祉計画等にもとづく包括的なケアシステムが登場している。このシステムの役割・意義を理解し、地域での健康や医療にかかわる社会福祉・社会保障の諸制度の現状や課題を考え、地域における医療福祉問題の実践的専門職をめざす。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
地域医療に関する社会福祉・社会保障に関するマスコミ報道等を把握しておく

[授業計画]
1、社会福祉・社会保障の諸制度と行財政…社会福祉・社会保障制度の概要、保健・医療・福祉計画等を学ぶことを通して、国民のいのちと暮らしを守る意義や現状を理解する。
2、医療保険制度①…各医療保障制度のしくみを理解する。
3、医療保険制度②…国民の生活問題が健康に及ぼす影響を考え、医療保険制度を活用して必要な治療が受けられるようにするための課題を考える。
4、生活保護と社会福祉制度…暮らしを支えるセーフティネットのしくみを理解する。
5、介護保険制度①…制度のしくみを理化理解する。
6、介護保険制度②…介護を必要とする高齢者が増加しているが、介護保険制度を活かして、どのように高齢者の介護や医療を支えるべきかを考える。
7、年金制度…生活上の事故に対する所得保障としての年金制度について理解し、高齢や障害、遺族となった時でも安心した生活を送れるための課題を考える。
8、労働法と労働者保障制度…生活を支える労働の場面でのトラブルや事故を解決するための雇用保険、労災保険などの諸制度を学び、健康的に働いて暮らすということを考える。
9、地域包括ケア…ニーズを抱えた人々のいのちと暮らしを地域で支えるということについて学び、諸制度の活用や関係機関の連携について考える。
10、生活問題への支援方法…生きていくうえでの様々な健康上のトラブルの実際を明らかにして、苦しみや悩みなどの困難を改善する方法や支援につい考え、保健・医療・福祉計画のあり方を検討する。
11、妊婦にかかわる問題と専門的支援…飛び込み出産の事例等を紹介し、母と子が直面する課題の解決を通して「子育て支援とは」について学ぶ。
12、医療と経済問題…病気になっても医療が受けられないという人々は少なくない。生活が健康に及ぼす影響を明らかにし、地域で安心して治療が受けられるための課題について考える。
13、高齢者の生活問題…増加し続ける高齢者が直面している生活問題について様々な事例を通して明らかにし、専門職としてどのように地域で包括的な支援を行うのかを考える。
14、ターミナルケアにおける保健・医療・福祉専門職の役割…死に直面している人々の問題を明らかにして、「生きる」ための支援について考える。
15、まとめと試験…各講義について振り返り、医療福祉専門職としてどのように支援するのか、政策的課題を考えるなど、これまでの学習の到達点と課題を明らかにする。

[成績評価方法]
レポート（30%）、試験（70%）により評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11000930 [WH3-010]

科目名	社会福祉特講Ⅵ(実践・活動)	前期	2 単位
サブタイトル	女性と労働、結婚、子育て		
担当者	清水　弥生		

[到達目標]
大学卒業後必要な医療や労働についての知識を身につけ、ワークライフバランスについて理解する。

[授業概要]
医療保険、労働法、ワークライフバランス等に関する社会政策を学ぶ。
そのため、個々の法律や育児休業制度等について理解するだけでなく、女性の労働を社会的に支えている北欧、フランス等の仕組みを学び、日本に欠けている政策はなにか考える。また、卒業後の職業選択について考える機会を設ける。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
次回の学習課題について調べておく。

[授業計画]
1.オリエンテーション
2.医療保障制度について
3.公費負担医療
4.医療保険～国民健康保険
5.医療保険～健康保険
6.医療保険～後期高齢者医療制度
7.女性労働の実情－ジェンダーの視点から
8.ブラック企業・ブラックバイト～労働基準法を考える
9.日本のパートタイム労働と三歳児神話
10.育児休業法と男女雇用機会均等法
11.スウェーデンのワークファミリーバランス
12.スウェーデンの福祉と労働
13.フランスのワークライフバランス
14.私達のワークライフバランス
15.まとめ

[成績評価方法]
授業中の小レポート(20%)、レポート(70%)、その他平常点(10%)を総合して評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
資料配付

[参考書(ISBN)]
適宜紹介する

P11000940 [WH3-011]

科目名	社会保障Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ		
担当者	清水　弥生		

[到達目標]
目標は1. 個人の自立した生活を支えるためのさまざまな仕組みがあることを理解する　2. 現代社会における社会保障制度の課題(少子高齢化と社会保障制度の関係を含む)について理解する　3. 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する　4. 社会保障制度の体系と概要について理解する　5. 年金保険制度の具体的内容について理解する、の5点である。

[授業概要]
社会保障Ⅰでは、各社会福祉制度と直接間接に関わり、私たちの暮らしを支えるさまざまな制度について学ぶ。最初に、社会保障の考え方、枠組みについて説明し、社会保障の歴史について触れる。その後、年金制度ならびに、日本が直面する年金制度の課題について講義していく。適宜、新聞記事や映像資料を使用する。また、国家試験問題を利用して、小テストを行い、内容の振り返りに役立てる。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
新聞を毎日読む,ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習よりも復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。

[授業計画]
1. 現代社会における社会保障制度の課題、生活と福祉
2. 社会保障の理念、対象と制度の発達
3. 社会保障の概念と範囲
4. 社会保障の役割と意義
5. 社会保障の財源と費用
6. 社会保険と社会扶助の関係
7. 社会保障制度の体系・社会保険関連制度について
8. 日本の年金制度①年金とはなにか
9. 日本の年金制度②国民年金
10. 日本の年金制度③国民年金
11. 日本の年金制度④厚生年金
12. 日本の年金制度⑤厚生年金
13. 日本の年金制度⑥その他の年金制度
14. 年金制度の今後の課題
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(80%)、平常点(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新社会福祉士養成講座12『社会保障』第5版　著者名:社会福祉士養成講座編集委員会　出版社:中央法規出版　(978-4-8058-5300-9)

[参考書(ISBN)]
なし

P11000100 [WH3-003]

科目名	社会保障Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	私達の暮らしを支える仕組みを学ぶ		
担当者	清水　弥生		

[到達目標]
目標は1. 医療保険制度の具体的内容について理解する 2. 介護保険、労働保険、障害者総合支援制度の具体的内容について理解する 3. 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する 4. 諸外国における社会保障制度の概要について理解する 5. 個人情報保護や成年後見制度等介護実践に関連する諸制度について学ぶ、の5点である。

[授業概要]
各社会福祉制度と直接間接に関わり、私たちの暮らしを支えるさまざまな制度について学ぶ。社会保障Ⅱでは、医療制度について理解し、労働保険や介護保険等を社会保障の枠組みから学んでいく。
適宜、新聞記事や映像資料を使用する。また、国家試験問題を利用して、小テストを行い、内容の振り返りに役立てる。社会保障Ⅰを履修しておくことが望ましい。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
新聞を毎日読む,ニュースを見る等社会を理解する基本的な知識を身につけておく。予習よりも復習に重点を置き、授業で学んだ内容を教科書やプリントで確認しておく。

[授業計画]
1. 日本の医療保険制度①医療保障制度とはなにか
2. 日本の医療保険制度②国民健康保険
3. 日本の医療保険制度③国民健康保険
4. 日本の医療保険制度④健康保険
5. 日本の医療保険制度⑤健康保険
6. 日本の医療保険制度⑥各種共済組合の医療保険
7. 日本の医療保険制度⑦後期高齢者医療制度および医療保険制度の今後の課題
8. 介護保険制度の概要
9. 労働保険制度の概要①雇用保険制度
10. 労働保険制度の概要②労災保険制度
11. 公的保険制度と民間保険制度の関係
12. 諸外国における社会保障制度の概要
13. 障害者総合支援制度
14. 介護実践に関連する諸制度(成年後見制度等)
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(80%)、平常点(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新・社会福祉士養成講座12『社会保障』 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編 出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5300-9)

[参考書(ISBN)]
なし

P11000110 [WH3-004]

科目名	社会理論と社会システム	後期	2 単位
サブタイトル	現代社会と社会福祉		
担当者	猪股　祐介		

[到達目標]
社会福祉士国家試験科目「社会理論と社会システム」で、及第点（10点中6点）を得点できる知識・ノウハウを身に付ける。

[授業概要]
この授業の第一の目的は、社会福祉士国家試験科目の「社会理論と社会システム」で及第点を得点するための、基礎知識・ノウハウを身に付けることである。
「社会理論と社会システム」は他の科目に比べて出題範囲が広い。よって過去の出題傾向を分析した上で、的を絞って学習する必要がある。裏を返せば、よく出題される「社会変動」「社会システム」「社会的役割」「社会集団と組織」の基礎知識さえ身に付ければ、及第点（10点中6点）はクリアできる。授業では、社会福祉養成講座編集委員会の『社会理論と社会システム』の教科書をもとに、国家試験の出題傾向を加味したオリジナルのレジュメを配布する。さらに、試験対策として、毎回国家試験の過去問を解いてもらい、実践力を養う。
また社会学は、「社会福祉のニード」を知るために役立つ。マクロなレベルでいえば、日本は1955―73年代の高度経済成長後、脱工業化社会となり、「家族」「地域」「都市」「産業」等の構造は大きく変化した。これにより、人びとの社会福祉のニードも大きく変化した。
ミクロなレベルでいえば、社会福祉のクライアントのニードは、彼らが「家族」「施設」「地域」等の社会集団のなかで、いかなる対人関係を築いているかに大きく左右される。よってこの授業のもう一つの目的は、現代社会の変動を理解することで、社会福祉のニードを理解することである。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書指定の、社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム　第3版』（中央法規出版、2014）の序章（2-11頁）を予め読んでおくこと。

[授業計画]
1. 社会変動―近代化と脱工業化
2. 人口からみた社会変動―少子高齢化
3. 社会システム―社会システム論と社会階層
4. 法システム―応答的法と裁判員制度
5. 地域―コミュニティ・都市化・過疎化
6. 家族―現代日本の家族と福祉
7. 生活の質―ライフサイクル・ライフコース
8. 経済システム＋1. ～7. のまとめ
9. 社会的役割―シボリック相互作用論・地位
10. 社会集団と組織―集団の類型・官僚制
11. 社会的行為―行為の類型と秩序問題
12. 社会的ジレンマ―囚人のジレンマ・共有地の悲劇
13. 社会問題のとらえ方―逸脱理論から構築主義へ
14. 日本社会と社会問題―貧困・差別・家族
15. 社会関係資本＋1. ～14. のまとめ

[成績評価方法]
平常点（30%）、授業中の中間テスト（30%）、期末テスト（40%）。救済レポートを課すことあり。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム　第3版』2009　著者名：社会福祉士養成講座編集委員会　出版社：中央法規出版 （978-4-8058-3930-0）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000090 [WH1-005]

科目名	就労支援サービス	前期	1 単位
サブタイトル	人間らしい生活と就労		
担当者	松崎　喜良		

[到達目標]
1、相談援助活動における就労支援を理解する。
2、就労支援に係る組織、団体及び専門職の役割を知る。
3、就労支援を行う関係機関との連携、ネットワークづくりを理解する。

[授業概要]
人々は働くことによって生活を営むし、また働きを通して人間的な成長をはかっていく。しかし、現実の就労場面では、ワーキングプアーなどの問題に見られるように、排除されることがあるし、生活の維持が困難になる場合もある。雇用対策や労働法制の情況を知るとともに、就労支援を行っている機関や事業所、専門職の役割を理解して、福祉支援が必要な人々のための連携や個別援助のあり方を考える。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
雇用問題に関する新聞記事などに目を通しておくこと。

[授業計画]
1. ガイダンス～就労支援とは
2. 現代社会の労働市場と労働法規
　～労働者の就労情況、労働法規の概要（学外特別講師）
3. 就労支援の実施体制
　～国、地方公共団体の役割、就労支援の実施体制、専門職
4. 障害がある人への就労支援①
　～障害者雇用施策、就労支援制度、職業リハビリテーション
5. 障害がある人への就労支援②
　～就労支援分野との連携、各専門職の役割
6. 低所得者・ホームレスへの就労支援～就労支援プログラム、ホームレス対策とCWによる就労支援
7. 母子家庭・女性のための就労支援
　～女性のライフスタイルと就労
8. 高齢社会における高齢者の就労支援、まとめ

[成績評価方法]
授業への参加度（20%）、レポート（80%）による

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
MINERVA社会福祉士養成テキストブック16「就労支援 第2版」 著者名：朝日雅也　布川日佐史編著　出版社：ミネルヴァ書房 （978-4-623-05400-8）

[参考書（ISBN）]
参考になるテキストを紹介する。必要に応じてプリントを配布する。

P11000240 [WH4-005]

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	植戸　貴子		

[到達目標]
　障害の概念や障害者福祉の基本的理念を十分に理解すること、障害のある人たちの生活実態やニーズについてソーシャルワークの視点で考えることができるようになること、障害のある人の生活を支えるための相談援助・生活支援・介護・家族支援・多職種連携のあり方について理解することを目指す。

[授業概要]
1. 障害の概念、障害者福祉の基本理念、障害者福祉の歴史的展開など、障害に関する基礎的な理解を得る。
2. 障害のある人の医学的・心理学的・社会的側面についての基礎的な知識を修得する。
3. 障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助・生活支援・介護の視点を修得する。
4. 家族に対する支援や、相談援助・生活支援・介護における連携や協働について理解する。
5. 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　前回の授業内容を復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また、新聞記事・ニュースやボランティア活動等を通して、障害のある人たちの福祉課題に関心を持つこと。

[授業計画]
1. 障害の概念・範囲
2. 障害者の法的定義と障害者の実態
3. 障害者福祉の基本理念
4. 障害者福祉の歴史的展開
5. 障害のある人の医学的理解と心理学的理解：身体障害
6. 障害のある人の医学的理解と心理学的理解：精神障害
7. 障害のある人の医学的理解と心理学的理解：知的障害
8. 障害のある人の医学的理解と心理学的理解：発達障害と難病
9. 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響
10. 障害のある人の生活とこれを取り巻く社会情勢
11. 障害のある人の福祉・介護需要：介護および日常生活のニーズ
12. 障害のある人の福祉・介護需要：地域移行や就労の実態など
13. 障害のある人に対する相談援助・生活支援・介護
14. 家族の相談援助・生活支援、及び障害のある人の相談援助・生活支援・介護における連携と協働
15. まとめ

[成績評価方法]
小テスト及び授業内レポート（20%）、試験（70%）、その他平常点（10%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新・社会福祉士養成講座⑭障害者に対する支援と障害者自立支援制度　第5版 2015年　著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編　出版社：中央法規出版　(978-4-8058-5107-4)

[参考書（ISBN）]
なし

P11000200 [WH2-003]

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	植戸　貴子		

[到達目標]
　障害者福祉制度の発達過程の概要を理解すること、障害者総合支援法及び他の法制度の仕組みについて理解すること、障害者支援における組織・団体の役割と実際、専門職の役割と実際、相談支援事業所の役割と実際、多職種連携やネットワーキングの実際について理解することを目指す。

[授業概要]
1. 障害者福祉制度の発達過程について理解する。
2. 相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。
3. 障害者総合支援法の概要を理解し、法における組織及び団体の役割と実際、専門職の役割と実際、多職種連携やネットワーキングの実際について学ぶ。
4. 相談支援事業所の役割と実際について理解する。
5. 障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、発達障害者支援法、障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律、心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律、高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、障害者の雇用の促進等に関する法律、国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律等について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　前回の授業内容を復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。また、新聞記事・ニュースやボランティア活動等を通して、障害のある人たちの福祉課題に関心を持つこと。

[授業計画]
1. 障害者福祉制度の発展過程
2. 障害者総合支援法の概要：理念・考え方、自立支援給付、支給決定のプロセス、自立支援医療費、補装具費
3. 障害者総合支援法の概要：地域生活支援事業、障害福祉計画、苦情解決、審査請求、介護保険制度との関係
4. 障害児に対する支援と障害児福祉施策の現状
5. 障害者総合支援法における組織・機関の役割と実際
6. 障害者総合支援法における専門職の役割と実際
7. 障害者総合支援法における多職種連携、ネットワーキングの実際
8. 相談支援事業所の役割と実際
9. 障害者基本法
10. 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法
11. 精神保健福祉法、発達障害者支援法
12. 障害者虐待防止法、医療観察法、バリアフリー新法
13. 障害者差別解消法、障害者雇用促進法、障害者優先調達促進法
14. 障害者にかかわるその他の法律の体系及び各省庁の障害者施策等
15. まとめ

[成績評価方法]
小テスト及び授業内レポート（20%）、試験（70%）、その他平常点（10%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新・社会福祉士養成講座⑭障害者に対する支援と障害者自立支援制度　第5版 2015年　著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編　出版社：中央法規出版　(978-4-8058-5107-4)

[参考書（ISBN）]
なし

P11000210 [WH2-004]

科目名	事例研究	前期	2 単位
サブタイトル	ケーススタディ		
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
介護福祉実習Ⅲにおいて、個別介護の実践を体験した事例について、情報、アセスメント、計画の立案、実践、評価、再アセスメント、計画の修正の過程を整理し、介護過程の展開を事例研究としてまとめることができる。
事例研究を発表会で報告し、他者からの評価を受け、修正を行うことができる
他学生の事例発表について、批判的思考、意見を言うことができる。

[授業概要]
介護福祉実習Ⅲの施設の利用者を通して事例研究方法を学ぶ。
体験した個別介護の、基本情報シート、アセスメントシート、計画の実践、実践の評価を整理するとともに、これら介護過程の展開学習の自己評価、考察を行い、事例研究としてまとめる。
研究報告会を開催して、相互の発表、質疑応答を通して、多くの事例に触れて個別介護を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
介護福祉実習Ⅲ事例について、情報収集・アセスメント用紙・個別援助計画用紙・実践記録を整理しておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション　(横山　津田　木村)
2. 研究とは　事例研究とは　発表と評価　(横山　津田　木村)
3. 論文と抄録の作成(題名、はじめに、介護の実際)(横山　津田　木村)
4. 論文と抄録の作成(考察　おわりに謝辞、文献)　(横山　津田　木村)
5. 論文の確認　パワポの作成方法　(横山)
6. 抄録様式・パワポ様式確認(横山　津田　木村)
7. 論文指導　テーマ　はじめに　介護の実際　(横山　津田　木村)
8. 論文指導　評価、考察、おわりに　謝辞、文献　(横山　津田　木村)
9. 論文指導　パワーポイント　(横山　津田　木村)
10.発表指導　抄録　評価と考察　(横山　津田　木村)
11.発表指導　完成発表原稿作成　(横山　津田　木村)
12.発表指導　予演(横山　津田　木村)
13.準備　(横山　津田　木村)
14.発表　(横山　津田　木村)
15.まとめと評価　(横山　津田　木村)

[成績評価方法]
研究への取り組み過程(20%)、論文内容(45%)、発表の仕方(20%)出席(15%)の総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
資料配布

[参考書(ISBN)]
適宜紹介

P11000690 [WH4-017]

科目名	事例研究	前期	2 単位
サブタイトル	ケーススタディ		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
介護福祉実習Ⅲにおいて、個別介護の実践を体験した事例について、情報、アセスメント、計画の立案、実践、評価、再アセスメント、計画の修正の過程を整理し、介護過程の展開を事例研究としてまとめることができる。
事例研究を発表会で報告し、他者からの評価を受け、修正を行うことができる
他学生の事例発表について、批判的思考、意見を言うことができる。

[授業概要]
介護福祉実習Ⅲの施設の利用者を通して事例研究方法を学ぶ。
体験した個別介護の、基本情報シート、アセスメントシート、計画の実践、実践の評価を整理するとともに、これら介護過程の展開学習の自己評価、考察を行い、事例研究としてまとめる。
研究報告会を開催して、相互の発表、質疑応答を通して、多くの事例に触れて個別介護を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
介護福祉実習Ⅲ事例について、情報収集・アセスメント用紙・個別援助計画用紙・実践記録を整理しておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション　(横山　津田　木村)
2. 研究とは　事例研究とは　発表と評価　(横山 津田　木村)
3. 論文と抄録の作成(題名、はじめに、介護の実際、)(横山 津田　木村)
4. 論文と抄録の作成(考察　おわりに謝辞、文献)　(横山 津田　木村)、
5. 論文の確認　パワポの作成方法　(横山 津田　木村)
6. 抄録様式・パワポ様式確認(横山 津田　木村)
7. 論文指導　テーマ　はじめに　介護の実際　(横山　津田　木村)
8. 論文指導　評価、考察、おわりに　謝辞、文献　(横山　津田　木村)
9. 論文指導　パワーポイント　(横山　津田　木村)
10.発表指導　抄録　評価と考察　(横山　津田　木村)
11.発表指導　完成発表原稿作成　(横山　津田　木村)
12.発表指導　予演(横山　津田　木村)
13.準備　(横山　津田　木村)
14.発表　(横山　津田　木村)
15.まとめと評価　(横山　津田　木村)

[成績評価方法]
研究への取り組み過程(20%)、論文内容(45%)、発表の仕方(20%)出席(15%)の総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
資料配布

[参考書(ISBN)]
適宜紹介

P11000690B [WH4-017]

科目名	事例研究	前期	2 単位
サブタイトル	ケーススタディ		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
介護福祉実習Ⅲにおいて、個別介護の実践を体験した事例について、情報、アセスメント、計画の立案、実践、評価、再アセスメント、計画の修正の過程を整理し、介護過程の展開を事例研究としてまとめることができる。
事例研究を発表会で報告し、他者からの評価を受け、修正を行うことができる
他学生の事例発表について、批判的思考、意見を言うことができる。

[授業概要]
介護福祉実習Ⅲの施設の利用者を通して事例研究方法を学ぶ。
体験した個別介護の、基本情報シート、アセスメントシート、計画の実践、実践の評価を整理するとともに、これら介護過程の展開学習の自己評価、考察を行い、事例研究としてまとめる。
研究報告会を開催して、相互の発表、質疑応答を通して、多くの事例に触れて個別介護を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
介護福祉実習Ⅲ事例について、情報収集・アセスメント用紙・個別援助計画用紙・実践記録を整理しておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 研究とは　事例研究とは　発表と評価
3. 論文と抄録の作成(題名、はじめに、介護の実際)
4. 論文と抄録の作成(考察　おわりに謝辞、文献)
5. 論文の確認　パワポインとの作成方法
6. 抄録様式・パワポ様式確認
7. 論文指導　テーマ　はじめに　介護の実際
8. 論文指導　評価、考察、おわりに　謝辞、文献
9. 論文指導　パワーポイント
10.発表指導　　抄録　評価と考察
11.発表指導　完成発表原稿作成
12.発表指導　予演
13.準備
14.発表
15.まとめと評価

[成績評価方法]
研究への取り組み過程(20%)、論文内容(45%)、発表の仕方(20%)出席(15%)の総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
資料配布

[参考書(ISBN)]
適宜紹介

P11000690C [WH4-017]

科目名	事例研究	前期	2 単位
サブタイトル	ケーススタディ		
担当者	泉　妙子		

[到達目標]
介護福祉実習Ⅲにおいて、個別介護の実践を体験した事例について、情報、アセスメント、計画の立案、実践、評価、再アセスメント、計画の修正の過程を整理し、介護過程の展開を事例研究としてまとめることができる。
事例研究を発表会で報告し、他者からの評価を受け、修正を行うことができる
他学生の事例発表について、批判的思考、意見を言うことができる。

[授業概要]
介護福祉実習Ⅲの施設の利用者を通して事例研究方法を学ぶ。
体験した個別介護の、基本情報シート、アセスメントシート、計画の実践、実践の評価を整理するとともに、これら介護過程の展開学習の自己評価、考察を行い、事例研究としてまとめる。
研究報告会を開催して、相互の発表、質疑応答を通して、多くの事例に触れて個別介護を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
介護福祉実習Ⅲ事例について、情報収集・アセスメント用紙・個別援助計画用紙・実践記録を整理しておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション　(横山　泉　津田　木村)
2. 研究とは　事例研究とは　発表と評価　(横山)
3. 論文と抄録の作成(題名、はじめに、介護の実際、)(横山)
4. 論文と抄録の作成(考察　おわりに謝辞、文献)　(横山)、
5. 論文の確認　パワポの作成方法　(横山)
6. 抄録様式・パワポ様式確認(横山)
7. 論文指導　テーマ　はじめに　介護の実際　(横山　泉　津田　木村)
8. 論文指導　評価、考察、おわりに　謝辞、文献　(横山　泉　津田　木村)
9. 論文指導　パワーポイント　(横山　泉　津田　木村)
10.発表指導　抄録　評価と考察　(横山　泉　津田　木村)
11.発表指導　完成発表原稿作成　(横山　泉　津田　木村)
12.発表指導　予演(横山　泉　津田　木村)
13.準備　(横山　泉　津田　木村)
14.発表　(横山　泉　津田　木村)
15.まとめと評価　(横山　泉　津田　木村)

[成績評価方法]
研究への取り組み過程(20%)、論文内容(45%)、発表の仕方(20%)出席(15%)の総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
書く力　著者名:齋藤孝　出版社:大和書房　(4-479-79100-0C0095)

[参考書(ISBN)]
考える力　著者名:齋藤孝　出版社:大和書房　(4-479-79176-0C0095)

P11000690D [WH4-017]

科目名	人体の構造と機能及び疾病	前期	2 単位
サブタイトル	医学の基礎知識		
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
人間の心身の機能と身体構造を理解し、疾病や障害が理解できる。

[授業概要]
心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて学ぶ。
国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要について学ぶ。
リハビリテーションの概要について学ぶ。
社会福祉士や介護福祉士として現場で実践するために必要な、人体の構造・機能や医学的知識を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
毎回の授業内容を復習しノートに整理すること。授業終了後に毎回配布するミニテストに取り組み自己採点すること。次回の授業の予習として教科書を読んでおくこと。

[授業計画]
1. こころのしくみの理解(人間の欲求の基本的理解・自己概念と尊厳)
2. からだのしくみの理解(生命の維持・恒常のしくみ、ボディメカニクス、関節の可動域、人体部位の名称)
3. 心身機能と身体構造の概要－各器官の構造と機能
4. 国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)へ
5. 国際生活機能分類(ICF)の諸概念
6. 健康とは－WHO憲章による定義
7. 健康とは－その他の定義
8. 疾病の概要－悪性腫瘍、生活習慣病、感染症
9. 疾病の概要－神経・精神疾患、先天性・精神疾患、難病など
10. 障害の概要－身体障害
11. 障害の概要－発達障害、精神障害、認知症など
12. 精神疾患の診断・統計マニュアル(DSM－Ⅳ)の概要
13. リハビリテーション－定義、目的
14. リハビリテーション－対象、方法など
15. まとめ

[成績評価方法]
試験の成績(90%)　授業への取り組み(10%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新・社会福祉養成講座1　人体の構造と機能及び疾病　著者名:社会福祉士養成講座編集委員会　出版社:中央法規出版　(978-4-8058-5100-5)

[参考書(ISBN)]
適宜紹介

P11000070 [WH1-004]

科目名	心理学理論と心理的支援	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	下司　実奈		

[到達目標]
　社会福祉専門職として、より有効な支援を提供するために、相手を知ること、そして自分を知ることを心理学を通して学んでほしい。科学的な視点を基礎として、人が自分を認識しながら生きていくための様々な理論や方法を実践の場を想定しながら考えていく。

[授業概要]
　他者を知る能力と自己を知る能力は互いに高まっていく、ことを常に意識しながら、福祉現場でどういった実践を展開していくのかを、イメージできるようなカをつけていく。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　各項目について、基本的な知識と不明な用語を理解できるよう準備する。

[授業計画]
1. 心理学とは
2. 性格と人格
3. 感覚・知覚
4. 学習・記憶
5. 愛着
6. 欲求と動機づけ
7. 適応とストレス
8. 対人交流とコミュニケーション
9. 発達の概念
10. 発達の概念
11. 面接・見立て・心理療法
12. 面接・見立て・心理療法
13. 人間環境と集団
14. 脳とこころ
15. まとめ

[成績評価方法]
受講態度(20%)・レポート(20%)・筆記試験(60%)により総合的に評価する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
心理学 第5版　著者名:鹿取廣人
杉本敏夫
鳥居修晃　出版社:東京大学出版会 (978-4-13-012109-5)

[参考書(ISBN)]
講義中に適宜紹介する。

P11000080 [WH2-002]

科目名	生活支援技術Ⅰ（基礎）	後期	4 単位
サブタイトル	生活を支える介護技術の基礎		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
生活を支える介護技術の基本的な知識と技術を身煮付けることができる。
ICFの視点で生活場面における生活支援技術の意義が理解できる。
提供する技術の根拠が理解できる。
観察・アセスメント・考察できる能力を身につけることができる。
安全・安楽・プライバシーに留意した生活支援技術が提供できる。
その人らしさについて考え、自立を促す生活支援技術を身につけることができる。

[授業概要]
ICFの視点から介護福祉士に必要な生活場面における介護の基本的な知識と技術について学ぶ。生活支援技術の習得においては、介護実習室において介護者として技術を提供し、その振り返りから、その人のらしさを尊重し、潜在能力を引き出すための技法を考察する。また、利用者役の体験を通して気づいた点を自己の技術に活かしていけるよう考察する。この過程を通し、利用者の生活を支えるために必要な思考能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習をしておく。

[授業計画]
1. 介護者の心得
2. 生活と生活支援・生活支援と予防・リハビリ
3. 生活支援と福祉用具
4. ボディメカニクス・感染予防・観察
5. 居住環境の整備
6. ベッドメイキング
7. 介護の専門性
8. アセスメント・記録
9. 移動の介護①：移動の意義と目的・移動に関する利用者のアセスメント
10. 移動の介護①：移動の意義と目的・移動に関する利用者のアセスメント
11. 移動の介護②：安全で気兼ねなく動けることを支える介護・安全で的確な移動・移乗の介護
12. 移動の介護②：安全で気兼ねなく動けることを支える介護・安全で的確な移動・移乗の介護
13. 廃用症候群・シーツ交換・安楽な体位
14. 廃用症候群・シーツ交換・安楽な体位
15. 衣服の着脱①：整容：身支度の意義と目的・身支度のアセスメント
16. 衣服の着脱②：整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介護
17. 衣服の着脱②：整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介護
18. 衣服の着脱③：生活習慣と装いの楽しみを支える介護
19. 衣服の着脱③：生活習慣と装いの楽しみを支える介護
20. 食事の介護①：食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント
21. 食事の介護①：食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント
22. 食事の介護②：「おいしく食べる」ことを支える介護
23. 食事の介護②：「おいしく食べる」ことを支える介護
24. 排泄の介護①：排泄の意義と目的、排泄に関する利用者のアセスメント
25. 排泄の介護①：排泄の意義と目的、排泄に関する利用者のアセスメント
26. 排泄の介護②：気持ちよい排泄を支える介護・安全で的確な排泄介護
27. 排泄の介護②：気持ちよい排泄を支える介護・安全で的確な排泄介護
28. 排泄の介護③：気持ちよい排泄を支える介護・安全で的確な排泄介護
29. 排泄の介護③：気持ちよい排泄を支える介護・安全で的確な排泄介護
30. まとめ

[成績評価方法]
授業態度、提出物などの平常点（40%）、筆記試験と実技試験（60%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（4年間の生活支援技術Ⅰ～Ⅳの授業で使用します） 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編
出版社：中央法規出版 （978-4-8058-3940）

[参考書（ISBN）]
適宜紹介

P11000590 [WH1-015]

科目名	生活支援技術Ⅱ（応用）	前期	4 単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護		
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
人間の尊厳の保持ができ、その人の状態・状況に合った生活支援技術や知識を習得できる。

[授業概要]
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な生活支援技術を用いて、安全に支援できる技術や知識について習得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習して理解し、次回の授業の予習をしておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 入浴の意義と目的・入浴に関する利用者のアセスメント
3. 爽快感・安楽を支える介護、安全・的確な入浴・清潔保持の介護の技法
4. 利用者の状態・状況に応じた身支度の介護の留意点
　感覚機能が低下している人の介護
5. 利用者の状態・状況に応じた身支度の介護の留意点
　運動機能が低下している人の介護
6. 利用者の状態・状況に応じた身支度の介護の留意点
　認知・知覚能力が低下している人の介護
7. 睡眠の意義と目的・睡眠に関する利用者のアセスメント
8. 安眠のための介護、安眠を促す介護の技法
9. 利用者の状態・状況に応じた睡眠の介護の留意点
　感覚機能が低下している人の介護
　運動機能が低下している人の介護
10. 利用者の状態・状況に応じた睡眠の介護の留意点
　認知・知覚能力が低下している人の介護
11. 利用者の状態・状況に応じた睡眠の介護の留意点
　不眠時の対応
12. 利用者の状態・状況に応じた移動の介護の留意点
　感覚機能が低下している人の介護
13. 利用者の状態・状況に応じた移動の留意点
　運動機能が低下している人の介護
14. 利用者の状態・状況に応じた移動の介護の留意点
　認知・知覚能力が低下している人の介護
15. まとめ

[成績評価方法]
授業態度/提出物などの平常点（20%）、実技試験（40%）、筆記試験（40%）の総合評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新・介護福祉士養成講座　6　生活支援技術Ⅰ　第4版　著者名：介護福祉士養成講座編集委員会　出版社：中央法規出版　（9784805854372）
新・介護福祉士養成講座　7　生活支援技術Ⅱ　第3版　著者名：介護福祉士養成講座編集委員会　出版社：中央法規出版　（9784805839416）
新・介護福祉士養成講座　8　生活支援技術Ⅲ　第3版　著者名：介護福祉士養成講座編集委員会　出版社：中央法規出版　（9784805839423）

[参考書（ISBN）]
適宜紹介する。

P11000600 [WH2-024]

科目名	生活支援技術Ⅲ（応用）	後期	4 単位
サブタイトル	状態・状況に応じた介護		
担当者	泉　妙子		

[到達目標]
人間の尊厳の保持ができ、その人の状態・状況に合った生活支援技術や知識を習得できる。

[授業概要]
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な生活支援技術を用いて、安全に支援できる技術や知識について習得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
生活支援技術Ⅰ・Ⅱの基本を実践し評価する場を設け、基本に必要な知識と技術を身につけておく。

[授業計画]
1.オリエンテーション
2.利用者の状態・状況に応じた食事の介助の留意点
　感覚機能が低下している人の介護
　運動機能が低下している人の介護
3.利用者の状態・状況に応じた食事の介助の留意点
　認知・知覚能力が低下している人の介護
4.利用者の状態・状況に応じた食事の介助の留意点
　誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点
　脱水の予防のための日常生活の留意点
5.利用者の状態・状況に応じた排泄の介助の留意点
　感覚機能が低下している人の介護
　運動機能が低下している人の介護
6.利用者の状態・状況に応じた排泄の介助の留意点
　認知・知覚能力が低下している人の介護
7.利用者の状態・状況に応じた排泄の介助の留意点
　便秘・下痢の予防のための日常生活の留意点
　尿回数が多い人への日常生活の留意点
　失禁時の介護の留意点
8.利用者の状態・状況に応じた身支度の介助の留意点
　感覚機能が低下している人の介護
9.利用者の状態・状況に応じた身支度の介助の留意点
　運動機能が低下している人の介護
10.利用者の状態・状況に応じた身支度の介助の留意点
　認知・知覚能力が低下している人の介護
11.他の職種の役割と協働　チームアプローチ
12.緊急時の対応
13.応急手当
14.心肺蘇生法
15.実技評価・まとめ

[成績評価方法]
実技試験80点、授業態度20点などの総合評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
配布資料　著者名：荘村明彦他　出版社：中央法規出版　（978-4-8058-3941-6）

[参考書（ISBN）]
あなたは私の手になれますか　著者名：小山内美智子　出版社：中央法規出版　（978-4-8058-1548-9C3036）
介護の禁句・介護の名句　著者名：星野政明　出版社：黎明書房　（4-654-07581-XC3036）

P11000610 [WH2-025]

科目名	生活支援技術Ⅳ（個別介護技術）	後期	4 単位
サブタイトル	個別介護技術		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
・自分自身の死生観を深めることができる。
・終末期の心身状況を理解し、精神的サポートができる。
・ターミナルケアでの多職種連携、介護技術、グリーフケア等介護福祉士の役割を理解する。
・対象となる人の心身の状況を把握し理解する。
・安全を配慮するとともに、プライバシーを確保し、その人らしさや楽しみとなる生活について考え実践できる。

[授業概要]
尊厳の保持の観点から、利用者の状況に合わせ、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、個別介護技術や知識について習得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
これまで学習、実習体験で習得した生活支援技術の復習をしておく。授業内容を復習し、次回の授業の予習として教科書の内容を確認しておくこと。普段から自主的に実技の練習を心がけること。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 終末期における介護の意義
3. 医療との連携
4. 終末期における利用者のアセスメント
5. 終末期における介護
6. 臨終時の介護
7. 死生観
8. グリーフケア
9. グリーフケア
10. 自立に向けた身支度の介護（事例）①
11. 自立に向けた身支度の介護（事例）②
12. 自立に向けた身支度の介護（事例）③
13. 自立に向けた移動の介護（事例）①
14. 自立に向けた移動の介護（事例）②
15. 自立に向けた移動の介護（事例）③
16. 自立に向けた食事の介護（事例）①
17. 自立に向けた食事の介護（事例）②
18. 自立に向けた食事の介護（事例）③
19. 自立に向けた排泄の介護（事例）①
20. 自立に向けた排泄の介護（事例）②
21. 自立に向けた排泄の介護（事例）③
22. 自立に向けた睡眠の介護（事例）
23. 個別介護計画に基づく介護過程の展開①
24. 個別介護計画に基づく介護過程の展開②
25. 個別介護計画に基づく介護過程の展開③
26. 個別介護計画に基づく介護過程の展開④
27. 個別介護計画に基づく介護過程の展開⑤
28. 個別介護計画に基づく介護過程の展開⑥
29. まとめ
30.まとめ

[成績評価方法]
平常点（80%）、筆記試験（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
生活支援技術Ⅰ～Ⅲ　出版社：中央法規出版（978-4-8058-320-6・978-4-8058-3269-1・978-4-8058-3571-5）
介護福祉士養成テキスト4医療的ケア　著者名：日本介護福祉士養成施設協会（編集）出版社：法律文化社（978-4-58903574-5）

[参考書（ISBN）]
適宜紹介

P11000620 [WH3-026]

科目名	精神疾患とその治療 I	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	酒井　亮		

[到達目標]
・精神医学の基礎となる脳の働き、こころの発達について理解する。
・精神障害の概念と、精神医学の基本方法について理解する。

[授業概要]
授業は以下の通りに進められる。
1. 精神医学、精神医療の歴史について理解する。
2. 脳および神経の構成と働きについて理解する。
3. こころの発達について理解する。
4. 精神障害の概念について理解する。
5. 精神疾患の症状と診断法について理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
精神医学の基礎である「心理発達の理論」について自主学習しておく。

[授業計画]
1. 精神医学の歴史①
2. 精神医学の歴史②
3. 脳の解剖と働き①
4. 脳の解剖と働き②
5. 心理発達の理論①
6. 心理発達の理論②
7. 精神医学，精神障害の概念①
8. 精神医学，精神障害の概念②
9. 精神疾患の症候①
10. 精神疾患の症候②
11. 精神疾患の診断①
12. 精神疾患の診断②
13. 症状性，器質性，精神作用物質による精神疾患①
14. 症状性，器質性，精神作用物質による精神疾患②
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート試験（100%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11000431 [WB2-001]

科目名	精神疾患とその治療Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	酒井　亮		

[到達目標]
・代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法を理解する。
・精神医療システムにおける病院医療、地域医療の役割を理解する。

[授業概要]
授業は以下の通りに進められる。
1. 代表的な精神疾患について理解する。
2. 精神疾患の治療について理解する。
3. 病院および地域の精神医療について理解する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
代表的な精神疾患である「統合失調症」、「うつ病」、「認知症」について自主学習しておく。

[授業計画]
1. 認知症①
2. 認知症②
3. 統合失調症①
4. 統合失調症②
5. 統合失調症③
6. 気分障害①
7. 気分障害②
8. 気分障害③
9. 神経症性障害, パーソナリティー障害①
10. 神経症性障害, パーソナリティー障害②
11. 精神遅滞, 自閉症スペクトラム障害, ADHD①
12. 精神遅滞, 自閉症スペクトラム障害, ADHD②
13. 精神医学的治療①
14. 精神医学的治療②
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート試験(100%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P11000432 [WB2-002]

科目名	精神障害者の生活支援システム	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	眞野　典子		

[到達目標]
「精神保健福祉に関する制度とサービス」で学んだ知識をもとに、精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。

[授業概要]
精神障害者の地域での自立と社会参加を促進し支援するために必要な相談支援、居住支援、就労支援、権利擁護について学ぶ。精神障害者の生活を総合的・継続的に支援するシステム、精神保健福祉士の役割、関係する専門職、機関・施設の有機的な連携について学びを深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
障害者福祉、精神障害者福祉に関心をもち、日頃から関連するニュースなどに触れておくこと。復習を必ず行い、復習テストに臨むこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション・科目の位置づけ
2. 精神障害者の概念
3. 精神障害者の現状
4. DVD「私の統合失調症を語ろう」 視聴後レポート作成
5. 精神障害者と家族の現状、精神障害者と地域社会
6. 精神障害者の生活と人権
7. 精神障害者の地域生活支援システム①
8. 精神障害者の地域生活支援システム②
9. 精神障害者の居住支援①
10. 精神障害者の居住支援②
11. 精神障害者の雇用・就業支援①
12. 精神障害者の雇用・就業支援②
13. 行政における相談援助①
14. 行政における相談援助②
15. まとめ

[成績評価方法]
試験（60%）、授業内での復習テスト（15%）、平常点（15%）、レポートなど（10%）によって評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新・精神保健福祉士養成講座7　精神障害者の生活支援システム 第3版　著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　出版社：中央法規出版 （978-4-8058-5597-3）

[参考書（ISBN）]
授業中適宜指定する

P11000442 [WH3-022]

科目名	精神保健の課題と支援 Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	鈴　道幸		

[到達目標]
精神的健康（メンタルヘルス）の基礎概念を理解し、精神保健福祉士として精神障害者・家族などを支援する意義や方法等を明確化する。

[授業概要]
あらゆる対象者に対してオールラウンドに支援出来る精神保健福祉士となるため、講師の豊富な実践経験を織り交ぜながら、ライフサイクルや生活の各場面における精神保健に関する基礎知識を習得しつつ、精神保健の意義や課題を教科書に沿って理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書の該当する箇所に示されているキーワード（ゴチック体）の意味の理解と確認。

[授業計画]
1. ガイダンス・精神保健とは
2. 精神保健の歴史と課題
3. 精神保健福祉の現状と課題
4. ライフサイクルと精神の健康①
5. ライフサイクルと精神の健康②
6. ストレスと精神の健康
7. 精神保健に関する予防の概念
8. 精神保健に関する専門機関、専門職種相互の連携
9. 精神保健からみた家族・結婚・育児
10. 精神保健からみたひきこもり、介護・高齢者
11. 精神保健（福祉）に関する相談
12. 精神保健からみた学校教育
13. 勤労者の精神保健①
14. 勤労者の精神保健②
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への取り組み姿勢（授業態度等）30%　授業内レポート30%　レポート40%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援 第3版　著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集　出版社：中央法規出版 （978-4-8058-5595-9）

[参考書（ISBN）]
授業中に適宜紹介する

P11000433 [WH3-018]

科目名	精神保健の課題と支援Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	鈴　道幸		

[到達目標]
精神的健康（メンタルヘルス）の基礎概念を理解し、精神保健福祉士として精神障害者・家族などを支援する意義や方法等を明確化する。

[授業概要]
あらゆる対象者に対してオールラウンドに支援出来る精神保健福祉士となるため、講師の豊富な実践経験を織り交ぜながら、ライフサイクルや生活の各場面における精神保健に関する基礎知識を習得しつつ、精神保健の意義や課題を教科書に沿って理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書の該当する箇所に示されているキーワード（ゴチック体）の意味の理解と確認。

[授業計画]
1. 後期授業ガイダンスと発達障害
2. アルコール依存症と違法薬物依存対策
3. うつ病と自死対策
4. 認知症と社会的ひきこもり、ニート
5. 精神保健に関する精神保健福祉士の役割
6. 災害被災者、犯罪被害者の精神保健
7. 司法分野の精神保健福祉
8. 貧困問題と精神保健
9. 性同一性障害と精神保健
10. 社会調査と社会資源開発、人材育成
11. ネットワーク
12. 地域精神保健①
13. 地域精神保健②
14. 世界の精神保健
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への取り組み姿勢（授業態度等）30%　授業内レポート30% レポート40%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新・精神保健福祉士養成講座2精神保健の課題と支援 第3版　著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集　出版社：中央法規出版 （978-4-8058-5595-9）

[参考書（ISBN）]
授業中に適宜紹介する

P11000434 [WH3-019]

科目名	精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	眞野　典子		

[到達目標]
精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる

[授業概要]
①社会的排除、退院支援、地域移行、自殺、ひきこもり、貧困、ピアサポートなど課題別の精神保健福祉援助の事例を活用し、精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた総合的かつ包括的援助について実践的に習得する
②個別指導及び集団指導を実技指導を中心とする演習形態により学ぶ
③アウトリーチ、ケアマネジメント、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用･調整･開発などについて実技指導により学ぶ

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学習内容に応じて「精神疾患とその治療」「精神保健福祉に関する制度とサービス」その他専門科目、共通科目などに広く関心を持ち、知識を整理しすぐに引き出せるように準備しておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 精神保健福祉援助事例の読み解きと演習①インテーク・契約
3. 精神保健福祉援助事例の読み解きと演習②アセスメント
4. 精神保健福祉援助事例の読み解きと演習③プランニングと支援の実施
5. 精神保健福祉援助事例の読み解きと演習④モニタリング
6. 精神保健福祉援助事例の読み解きと演習⑤支援の評価・終結・アフターケア
7. 学外シンポジウムへの出席（最新の実践から学ぶ）①－1
8. 学外シンポジウムへの出席（最新の実践から学ぶ）①－2
9. 学外シンポジウムへの出席（最新の実践から学ぶ）②－1
10. 学外シンポジウムへの出席（最新の実践から学ぶ）②－2
11. 最新の実践からの学び　レポート作成・発表
12. 課題別事例から学ぶ①社会的排除
13. 課題別事例から学ぶ②退院支援・地域移行・地域生活継続・ピアサポート
14. 課題別事例から学ぶ③自殺・引きこもり・児童虐待・薬物・アルコール依存・等
15. 課題別事例から学ぶ④教育・就労

[成績評価方法]
レポート（40%）、試験（40%）、平常点（10%）、受講態度（10%）によって評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし。適宜資料を配布する

[参考書（ISBN）]
なし　適宜資料を配布する

P11000443 [WH3-023]

科目名	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	眞野　典子		

[到達目標]
精神保健福祉援助実習におけるそれぞれの個別的な体験を、精神保健福祉相談援助に係る知識と技術として一般化し、実践的な知識・技術として習得する。

[授業概要]
精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができるよう、精神保健福祉実習における体験を用いて学習する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
精神保健福祉専門科目をはじめ、共通科目他関連科目について何度も復習し、いつでも知識として取り出すことができるように準備しておくこと。

[授業計画]
1. .オリエンテーション
2. 実習における精神保健福祉援助技術に係る体験報告①
3. 実習における精神保健福祉援助技術に係る体験報告②
4. 実習における精神保健福祉援助技術に係る体験報告③
5. 実習における精神保健福祉援助技術に係る体験報告④
6. 個別援助技術の実技指導と概念化・理論化①
7. 個別援助技術の実技指導と概念化･理論化②
8. 集団援助技術の実技指導と概念化･理論化①
9. 集団援助技術の実技指導と概念化･理論化②
10. アウトリーチ･ニーズ把握の実際と実技指導
11. 地域アセスメントの実際と実技指導
12. 社会資源の活用･調整・開発の実際と実技指導
13. ケアマネジメントの実際と実技指導
14. 個別指導
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート(30%)、プレゼンテーション内容･プレゼンテーション態度(30%)、平常点(20%)、演習態度(20%)によって評価する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし　適宜資料を配布する

P11000444 [WH4-009]

科目名	精神保健福祉援助実習	前期～後期	5 単位
サブタイトル			
担当者	眞野　典子、植戸　貴子、小笠原　慶彰		

[到達目標]
精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する

[授業概要]
精神保健福祉援助実習を通して精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職の連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
既習の専門科目、共通科目、関連科目の内容に関して繰り返し学び覚えて、実習先で遭遇するさまざまな機関や機能、人々やできごとが理解できるよう、いつでも利用可能な知識になるよう準備をしておくこと

[授業計画]
1. 精神科病院等医療機関の実習においては、次の事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける
①入院時または急性期の患者及びその家族への相談援助
②退院または地域移行･地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助
③治療中の患者及びその家族への相談援助
④多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助
⑤日常生活や社会生活上の問題に関する患者及びその家族への相談援助

2. 地域の障害福祉サービス事業所の実習においては、次の事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者の指導を受ける
①利用者やその関係者、施設･機関･事業者･団体、住民やボランティアなどとの基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
②利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
③利用者やその関係者（家族･親族･友人等）との支援関係の形成
④利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価
⑤精神医療･保健･福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
⑦施設･機関･事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
⑧施設･機関･事業者･団体の経営やサービスの管理運営の実際
⑨当該実習先が地域社会の中の施設･機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用･調整･開発に関する理解

3. 巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を緊密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う

[成績評価方法]
実習先評価（50%）、実習記録の内容（20%）、巡回指導、帰校日指導等における指導内容（30%）により総合的に評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし　適宜資料を配布する

P11000448 [WH4-012]

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	眞野　典子		

[到達目標]
精神保健福祉援助実習の意義について理解する。
精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。
精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解する。
精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など総合的に対応できる能力を習得する。

[授業概要]
精神保健福祉援助実習の意義について理解し、精神保健福祉士資格取得の動機を明確にする。精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関して理解すると同時に、身につけることができるよう自己覚知を深める。,精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）と、実習機関を含む地域に関する基本的な理解を深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
既習の専門科目、共通科目、関連科目に関して関心を持ち続け、調べ整理して、いつでも利用可能な知識になるよう準備をしておくこと

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 実習の意義・目的・位置づけ
3. 実習への動機付けの吟味
4. 教員の援助実践から学ぶ
5. 望ましい精神保健福祉士像
6. 倫理綱領
7. 自己覚知
8. 精神保健医療福祉の現状の理解①
9. 精神保健医療福祉の現状の理解②
10. 実習機関を含む地域に関する基本的理解①
11. 実習機関を含む地域に関する基本的理解②
12. 学外講師：行政機関の精神保健福祉士 「行政機関と地域」
13. 学外講師：地域の福祉サービス事業所精神保健福祉士 「サービス事業所と地域」
14. 地域に関する基本的理解のまとめ
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート（30%）、プレゼンテーション内容･プレゼンテーション態度（30%）、平常点（20%）、受講態度（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
授業中に適宜指定する

P11000445 [WH3-024]

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	眞野　典子		

[到達目標]
精神保健福祉援助実習に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。具体的な体験や援助活動を専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

[授業概要]
実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解を深め、見学実習や学外講師の実践から、精神保健福祉援助の実際について学ぶ。実習における個人のプライバシー保護、守秘義務の理解、個人情報保護法の理解、実習記録の内容、記録方法に関する理解と習得を行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
既習の専門科目、共通科目、関連科目に対する関心を持ち続け、調べ整理して、いつでも利用可能な知識になるよう準備しておくこと

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 個人票と実習計画書作成
3. 実習ノートの使い方･記録方法･守秘義務･個人情報保護法
4. 学外講師:精神科病院精神保健福祉士
5. 学外講師:障害福祉サービス事業所精神保健福祉士
6. 学外講師:精神障害者当事者
7. 障害福祉サービス事業所①見学実習1
8. 障害福祉サービス事業所①見学実習2
9. 障害福祉サービス事業所①見学実習3　及びレポート作成
10. 障害福祉サービス事業所②見学実習1
11. 障害福祉サービス事業所②見学実習2
12. 障害福祉サービス事業所②見学実習3　及びレポート作成
13. 見学実習まとめ
14. 実習直前指導①
15. 実習直前指導②

[成績評価方法]
レポート(30%)、プレゼンテーション内容･プレゼンテーション態度(30%)、平常点(20%)、受講態度(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
精神保健医療福祉白書2018
2018年3月～4月に発刊予定　出版社:中央法規出版

[参考書(ISBN)]
授業中に適宜指定する

P11000446 [WH4-010]

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	眞野　典子		

[到達目標]
精神保健福祉援助実習の経験、実習記録、実習先の実習指導者の指導内容を踏まえて、精神保健福祉援助実践に向けての自分自身の課題を整理し、実習総括をする

[授業概要]
精神保健福祉援助実習の経験、実習記録、実習先の実習指導者からの指導内容を踏まえて、精神保健福祉援助実践に向けての自分自身の課題を整理し、実習総括をする

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
既習の専門科目、共通科目、関連科目の内容に関して、知識の定着を図り身についた知識となるよう準備をすること

[授業計画]
1. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導①
2. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導②
3. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導③
4. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導④
5. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導⑤
6. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導⑥
7. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導⑦
8. 精神保健福祉援助実習期間中の帰校日指導における個別指導及び集団指導⑧
9. 実習体験報告と課題整理①
10. 実習体験報告と課題整理②
11. 実習報告書作成①
12. 実習報告書作成②
13. 実習報告発表
14. 実習評価と個別指導
15. 実習総合まとめ

このほかに、精神保健福祉援助実習期間中には、1学生2ヶ所の実習につき各1回の訪問巡回指導により個別指導及び実習先の実習指導者との連絡調整を行う

[成績評価方法]
実習内容、実習態度(30%)、実習機関による評価(30%)、報告書内容、発表内容、発表態度(30%)、平常点(10%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし　適宜資料を配布する

P11000447 [WH4-011]

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	眞野　典子		

[到達目標]
精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法及び関連法などによる制度・福祉サービスについて理解する

[授業概要]
精神保健福祉専門科目の中心的な科目であり、精神保健福祉士受験資格取得のための必修科目である。精神障害は決して特別な存在ではない。どのような生活の場面・福祉援助の現場においても身近に接するであろう精神障害について学習を進めていく。精神障害者についての理解を深め、精神保健福祉法の意義と内容、福祉制度・福祉サービス・社会保障制度の概要について理解する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
障害者福祉、精神障害者福祉に関心を持ち、日頃から関連するニュース等に触れておくこと。復習を必ず行い、復習テストに臨むこと

[授業計画]
1. オリエンテーション・科目の位置づけ
2. 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法
3. 相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービスの相互作用の理解
4. 精神保健福祉法成立までの経緯①
5. 精神保健福祉法成立までの経緯②
6. 精神保健福祉法成立の意義とその後の変化
7. 障害者自立支援法成立による変化
8. 精神保健福祉法の概要①
9. 精神保健福祉法の概要②
10. 精神保健福祉士の意義、役割
11. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス①
12. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス②
13. 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業①
14. 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業②
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(60%)、授業内での復習テスト(15%)、平常点(15%)、レポートなど(10%)によって評価する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新・精神保健福祉士養成講座6　精神保健福祉に関する制度とサービス 第6版　著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　出版社:中央法規出版　(978- 4-8058-5596-6)

[参考書(ISBN)]
授業中適宜指定する

P11000439 [WH2-021]

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	眞野　典子		

[到達目標]
精神障害者の支援に関連する制度および福祉サービスの知識と支援内容について理解する。更生保護制度と医療観察法について理解し、社会資源に関する調整・開発等に係る基礎的な知識を理解する

[授業概要]
精神保健福祉専門科目の中心的な科目であり、精神保健福祉士受験資格取得のための必修科目である。精神障害は決して特別な存在ではない。どのような生活の場面・福祉援助の現場においても身近に接するであろう精神障害について学習を進めていく。更生保護制度や医療観察法について学び、関係団体や機関、専門職や地域住民との協働について学ぶ。さらに、社会資源の調整・開発に関わる社会調査の意義・目的・倫理・方法及び活用について学習する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
障害者福祉、精神障害者福祉に関心を持ち、日頃から関連するニュースなどに触れておくこと。復習を必ず行い、復習テストに臨むこと

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 障害者基本法
3. 障害者自立支援制度・障害者総合支援法
4. 精神障害者を対象とした福祉施策・事業①
5. 精神障害者を対象とした福祉施策・事業②
6. 精神障害者を対象とした福祉施策・事業③
7. 精神障害者に関連する社会保障制度の概要:
　　医療保険制度・介護保険制度・経済的支援に関する制度
8. 相談援助に関わる行政組織と民間組織
9. 相談援助に関わる福祉サービス提供施設・機関の役割・専門職や地域の支援者
10. 更生保護制度の概要
11. 更生保護制度と精神保健福祉との関係
12. 医療観察法の概要と実際①
13. 医療観察法の概要と実際②
14. 社会復帰調整官の役割と実際
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(60%)、授業内での復習テスト(15%)、平常点(15%)、レポートなど(10%)によって評価する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新・精神保健福祉士養成講座6　精神保健福祉に関する制度とサービス 第6版
(前期の同科目Ⅰで使用したものを用いる)　著者名:一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連盟　出版社:中央法規出版　(978-4-8058-5596-6)

[参考書(ISBN)]
授業中適宜指定する

P11000441 [WH2-022]

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	瀧本　優子		

[到達目標]
精神保健福祉における専門的援助技術を学び、様々な理論や事例などから具体的な援助について理解し実践していける力を身につける。

[授業概要]
1. 精神障がい者支援の実践モデルについて理解させる。
2. 精神障がい者の相談援助の過程および対象との援助関係について理解させる。
3. 相談援助活動のための面接技法について理解させる。
4. スーパービジョンとコンサルテーションについて理解させる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
授業内容の復習と、次回の予習をすること。
授業の内容に関する社会情勢やニュースに関心を持つこと

[授業計画]
1. 精神障がい・精神障がい者への支援とは
2. 精神障がい者支援の実践モデルの意味と内容
3. 治療モデルと生活モデル
4. ストレングスモデル
5. 相談援助の過程①（ケース発見・受理面接と契約）
6. 相談援助の過程②（課題分析）
7. 相談援助の過程③（支援計画と実施）
8. 相談援助の過程④（効果測定と評価、終結）
9. 相談援助のための面接の種類と原則
10. 面接技法の基礎
11. 面接技法の実践
12. スーパービジョン
13. コンサルテーション
14. DVDで学ぶ相談援助
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への取り組み姿勢（授業態度、課題レポートなど）50%、試験50%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
精神保健福祉士養成講座第4巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ　著者名：日本精神保健福祉士養成校協会　出版社：中央法規出版（978-4-8058-3946-1）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000435 [WH3-020]

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	瀧本　優子		

[到達目標]
精神保健福祉における専門的援助技術を学び、様々な理論や事例などから具体的な援助について理解し実践していける力を身につける。

[授業概要]
1. 精神障がい者を対象とした相談援助活動について理解させる。
2. 家族調整・支援とSST(Social Skills Training)について理解させる。
3. 精神障がい者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解させる。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
授業内容の復習と、次回の予習をすること。
授業の内容に関する社会情勢やニュースに関心を持つこと

[授業計画]
1. 相談援助活動について
2. 個別支援の実際
3. ICFを活用した課題分析
4. 集団支援の実際
5. 集団を活用した支援
6. SSTの基礎
7. 精神障がい者へのSSTの実際
8. 事例から学ぶ相談援助技術の実際
9. 家族調整・支援の実際
10. 家族会とセルフヘルプグループ
11. ケアマネジメントの原則
12. ケアマネジメントの意義と留意点
13. ケアマネジメントのプロセス
14. チームケアとチームワーク
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への取り組み姿勢(授業態度、課題レポートなど)50%、試験50%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
精神保健福祉士養成講座第5巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ　著者名:日本精神保健福祉士養成校協会　出版社:中央法規出版　(978－4－8058－3947－8)

[参考書(ISBN)]
なし

P11000436 [WH3-021]

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	坂本　茉衣子		

[到達目標]
精神保健福祉士は従来医療の範疇で遇されてきた精神障害者の社会的復権等が中心的な業務であったが、2010年末の精神保健福祉士法の改正により、業務の範疇をより実践に即した形で広げ、地域での実践に大きくシフトした。これにより地域生活を中心とした支援に法的な根拠が与えられ、精神保健福祉の専門的領域に加えて、地域社会あるいは地域生活を支援するというジェネリックな視点や機能が求められている。よって授業では、これまでの精神科医療偏重の制度から地域生活支援へと大きくパラダイムの変換が求められている時代に即応する精神保健福祉士の支援の在り方を「精神科リハビリテーション」の概念を通して学び、その実力を養う。

[授業概要]
指定する教科書に加え、同一出版社の同じシリーズ「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」にある「地域」や「リハビリテーション」に関する単元についても、講師の豊富な地域精神保健福祉実践を織り交ぜながら、授業を展開し理解を確実にする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
最低限度教科書のゴジック体・キーワードについて、暗記と徹底的理解を復習として求める。

[授業計画]
1.　前期授業のガイダンス
2.　精神医療保健福祉の歴史
3.　精神医療保健福祉の動向
4.　精神障害者支援の理念～地域での支援を中心に～
5.　精神障害者の人権と人権擁護
6.　精神科リハビリテーションの概念
7.　精神科リハビリテーションの理念①
8.　精神科リハビリテーションの理念②
9.　精神科リハビリテーションの構成
10. 精神科リハビリテーションのプロセス①
11. 精神科リハビリテーションのプロセス②～地域におけるリハビリを中心に～
12. 精神科医療機関におけるリバビリテーション活動の実際①
13. 精神科医療機関におけるリバビリテーション活動の実際②
14. コミュニティソーシヤルワークにおける多職種連携・協働
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への取り組み姿勢（授業態度等）30%、試験70%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新・精神保健福祉士養成講座第2版　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ　注）3年生時購入済　著者名：日本精神保健福祉士養成校協会編集　出版社：中央法規出版

[参考書（ISBN）]
授業中に適宜紹介をする

P11000437 [WH4-007]

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	坂本　茉衣子		

[到達目標]
精神保健福祉士は従来医療の範疇で遇されてきた精神障害者の社会的復権等が中心的な業務であったが、2010年末の精神保健福祉士法の改正により、業務の範疇をより実践に即した形で広げ、地域での実践に大きくシフトした。これにより地域生活を中心とした支援に法的な根拠が与えられ、精神保健福祉の専門的領域に加えて、地域社会あるいは地域生活を支援するというジェネリックな視点や機能が求められている。よって授業では、これまでの精神科医療偏重の制度から地域生活支援へと大きくパラダイムの変換が求められている時代に即応する精神保健福祉士の相談援助活動の在り方を「精神科リハビリテーション」の概念を通して学び、その実力を養う。

[授業概要]
指定する教科書に加え、同一出版社の同じシリーズ「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」にある「地域」や「リハビリテーション」に関する単元についても、講師の豊富な地域精神保健福祉実践を織り交ぜながら、授業を展開し理解を確実にする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
最低限度教科書のゴジック体・キーワードについて、暗記と徹底的理解を復習として求める。

[授業計画]
1.　後期授業のガイダンス
2.　地域移行について①
3.　地域移行について②
4.　兵庫県及び西宮市の地域移行支援
5.　地域精神保健福祉の実際
6.　地域相談援助の主体
7.　地域相談援助の実際～事例検討～
8.　地域ネットワーク
9.　地域生活支援事業と訪問援助
10. セルフヘルプ・家族会
11. 地域を基盤にした支援の具体的展開
12. 事例による地域を基盤にした支援の検討
13. コミュニティソーシャルワークからみた包括的総合的支援の意義
14. 地域生活を支援する包括的支援の意義と展開
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への取り組み姿勢（授業態度等）30%、試験70%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新・精神保健福祉士養成講座第2版　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 注）3年生時購入済　著者名：日本精神保健福祉士養成校協会編集　出版社：中央法規出版 （978-4-8058-3947-8）

[参考書（ISBN）]
授業中に適宜紹介をする

P11000438 [WH4-008]

科目名	相談援助演習Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	植戸　貴子		

[到達目標]
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。また、相談援助に必要な自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術の修得を目指す。

[授業概要]
演習形態による個別指導及び集団指導を通して、自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術について学ぶ。また、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）によって、相談援助に係る価値観、知識、技術が修得できるようにする。そして、総合的かつ包括的な援助と地域福祉の基盤整備と開発について、具体的な相談援助事例の検討を通して、体系的に理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション（相談援助演習の意義・進め方など）とアイスブレーキング
2. 自己像による自己理解
3. パーソナリティ・テストによる自己理解
4. 自分史・マッピングによる自己理解
5. 他者との関わりを通した自己理解
6. 対話を通した他者理解
7. グループ体験を通した他者理解
8. 障がい者・高齢者体験を通した他者理解
9. コミュニケーションの基本的理解
10. 言語的コミュニケーショーン
11. 非言語的コミュニケーション
12. 自己のコミュニケーション・スタイル
13. 効果的なコミュニケーションの技術
14. 相談援助におけるコミュニケーションの基本的技術
15. 社会福祉士の価値と倫理

[成績評価方法]
授業における主体的・積極的参加状況（20%）、及び課題レポート等（80%）により評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
授業の中で資料を配付

[参考書（ISBN）]
なし

P11000360 [WH2-019]

科目名	相談援助演習Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	曽田　里美		

[到達目標]
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。また、相談援助に必要な自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術の修得を目指す。

[授業概要]
演習形態による個別指導及び集団指導を通して、自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術について学ぶ。また、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）によって、相談援助に係る価値観、知識、技術が修得できるようにする。そして、総合的かつ包括的な援助と地域福祉の基盤整備と開発について、具体的な相談援助事例の検討を通して、体系的に理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション（相談援助演習の意義・進め方など）とアイスブレーキング
2. 自己像による自己理解
3. パーソナリティ・テストによる自己理解
4. 自分史・マッピングによる自己理解
5. 他者との関わりを通した自己理解
6. 対話を通した他者理解
7. グループ体験を通した他者理解
8. 障がい者・高齢者体験を通した他者理解
9. コミュニケーションの基本的理解
10. 言語的コミュニケーショーン
11. 非言語的コミュニケーション
12. 自己のコミュニケーション・スタイル
13. 効果的なコミュニケーションの技術
14. 相談援助におけるコミュニケーションの基本的技術
15. 社会福祉士の価値と倫理

[成績評価方法]
授業における主体的・積極的参加状況（20%）、及び課題レポート等（80%）により評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
授業の中で指示します。

[参考書（ISBN）]
授業の中で随時紹介します。

P11000360A [WH2-019]

科目名	相談援助演習Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉援助職入門		
担当者	松崎　喜良		

[到達目標]
主として事例等を学ぶことにより、ソーシャルワークの基本（知識・技術・倫理）を習得する。

[授業概要]
相談援助の方法、技術の基礎を理解するために、演習形態による授業を行う。まず教員が問題提起し、グループごとに事例などの問題を討議する。その後、グループ発表、教員によるまとめや学びのポイントを講義する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
福祉に関する事件にもつ。福祉現場でのボランティア体験を行う。

[授業計画]
①オリエンテーション…福祉援助職の魅力
②自分を知る…アイスブレーキング、自己理解・自己覚知
③クライエントとの関わり方…面接、コミュニケーション
④クライエントの理解…エンパワメント、ストレングスの視点
⑤福祉支援の方法…ケースワークとは
⑥福祉支援のプロセス…インテークから終結まで
⑦ケース記録の作成
⑧事例研究①＜社会的排除と包摂＞
⑨事例研究②＜虐待＞
⑩事例研究③＜DV＞
⑪事例研究④＜低所得者＞
⑫事例研究⑤＜ホームレス＞
⑬事例研究⑥＜権利擁護＞
⑭事例研究⑦＜アラカルト＞
⑮まとめ

[成績評価方法]
授業における主体的・積極的参加状況（20%）、及び課題レポート等（80%）により評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定はしない。授業ごとにレジメやプリントを配布する。

[参考書（ISBN）]
特に指定はしない。授業ごとにレジメやプリントを配布する。

P11000360C [WH2-019]

科目名	相談援助演習Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークにおける基本的態度と技術の基礎		
担当者	冨永　雅和		

[到達目標]
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。また、相談援助に必要な自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術の修得を目指す。

[授業概要]
演習形態による個別指導及び集団指導を通して、自己覚知・自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術について学ぶ。また、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）によって、相談援助に係る価値観、知識、技術が修得できるようにする。そして、総合的かつ包括的な援助と地域福祉の基盤整備と開発について、具体的な相談援助事例の検討を通して、体系的に理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
文学やドキュメントなどを通して人間の生き方への関心を高めておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション（相談援助演習の意義・進め方など）とアイスブレーキング
2. 自己像による自己理解
3. パーソナリティ・テストによる自己理解
4. 自分史・マッピングによる自己理解
5. 他者との関わりを通した自己理解
6. 対話を通した他者理解
7. グループ体験を通した他者理解
8. 障がい者・高齢者体験を通した他者理解
9. コミュニケーションの基本的理解
10. 言語的コミュニケーショーン
11. 非言語的コミュニケーション
12. 自己のコミュニケーション・スタイル
13. 効果的なコミュニケーションの技術
14. 相談援助におけるコミュニケーションの基本的技術
15. 社会福祉士の価値と倫理

[成績評価方法]
授業における主体的・積極的参加状況（20%）、及び課題レポート等（80%）により評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
毎回必要な資料を配付する

[参考書（ISBN）]
授業の中で随時紹介します。

P11000360E [WH2-019]

科目名	相談援助演習Ⅱ	前期	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術		
担当者	植戸　貴子		

[到達目標]
社会福祉士として相談援助をおこなうことが出来るように、演習授業により基本的な面接技術訓練と事例研究をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に習得することを目指す。

[授業概要]
・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。
①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。
②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
・基本的な面接技術を習得する。
・具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。取り上げる課題は、社会的排除・虐待（児童・高齢者）・家庭内暴力（DV）・低所得者・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む）などとする。
・上記の事例を題材として、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を想定した実技指導を行う。
実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する学習を含める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業の内容を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]
1. 相談援助における面接の基本的理解
2. 面接の基本的な姿勢と技術
3. 面接のロールプレイ～支援の実施（1）
4. 面接のロールプレイ～支援の実施（2）
5. 相談援助の過程
6. インテーク面接
7. アセスメントのための面接（1）
8. アセスメントのための面接（2）
9. プランニングの実際（1）
10. プランニングの実際（2）
11. モニタリングと効果測定
12. 終結とアフターケア
13. 記録の意義・方法・留意点
14. 記録の実際
15. 事例検討の意義・目的・方法・留意点
16. 事例検討の実際
17. 相談援助場面事例：高齢者の相談援助
18. 相談援助場面事例：障がい者の相談援助
19. 相談援助場面事例：児童と家庭の相談援助
20. 課題別相談援助事例：社会的排除（障がい者・高齢者）
21. 課題別相談援助事例：社会的排除（ひとり親家庭・外国人など）
22. 課題別相談援助事例：児童虐待
23. 課題別相談援助事例：高齢者虐待
24. 課題別相談援助事例：家庭内暴力（DV）
25. 課題別相談援助事例：低所得者
26. 課題別相談援助事例：ホームレス
27. 課題別相談援助事例：危機介入
28. 課題別相談援助事例：権利擁護活動
29. 課題別相談援助事例：価値のジレンマ
30. ふりかえりとまとめ

[成績評価方法]
授業内レポート（50%）、平常点（50%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
授業の中で資料を配付

[参考書（ISBN）]
なし

P11000370 [WH3-013]

科目名	相談援助演習Ⅱ	前期	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術		
担当者	曽田　里美		

[到達目標]
社会福祉士として相談援助をおこなうことが出来るように、演習授業により基本的な面接技術訓練と事例研究をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に習得することを目指す。

[授業概要]
・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。
①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。
②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
・基本的な面接技術を習得する。
・具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。取り上げる課題は、社会的排除・虐待（児童・高齢者）・家庭内暴力（DV）・低所得者・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む）などとする。
・上記の事例を題材として、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を想定した実技指導を行う。
実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する学習を含める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業の内容を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]
1. 相談援助における面接の基本的理解
2. 面接の基本的な姿勢と技術
3. 面接のロールプレイ～支援の実施（1）
4. 面接のロールプレイ～支援の実施（2）
5. 相談援助の過程
6. インテーク面接
7. アセスメントのための面接（1）
8. アセスメントのための面接（2）
9. プランニングの実際（1）
10. プランニングの実際（2）
11. モニタリングと効果測定
12. 終結とアフターケア
13. 記録の意義・方法・留意点
14. 記録の実際
15. 事例検討の意義・目的・方法・留意点
16. 事例検討の実際
17. 相談援助場面事例：高齢者の相談援助
18. 相談援助場面事例：障がい者の相談援助
19. 相談援助場面事例：児童と家庭の相談援助
20. 課題別相談援助事例：社会的排除（障がい者・高齢者）
21. 課題別相談援助事例：社会的排除（ひとり親家庭・外国人など）
22. 課題別相談援助事例：児童虐待
23. 課題別相談援助事例：高齢者虐待
24. 課題別相談援助事例：家庭内暴力（DV）
25. 課題別相談援助事例：低所得者
26. 課題別相談援助事例：ホームレス
27. 課題別相談援助事例：危機介入
28. 課題別相談援助事例：権利擁護活動
29. 課題別相談援助事例：価値のジレンマ
30. ふりかえりとまとめ

[成績評価方法]
授業内レポート（50%）、平常点（50%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
授業の中で適宜紹介します。

P11000370A [WH3-013]

科目名	相談援助演習Ⅱ	前期	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術		
担当者	下司　実奈		

[到達目標]
社会福祉士として相談援助をおこなうことが出来るように、演習授業により基本的な面接技術訓練と事例研究をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に習得することを目指す。

[授業概要]
・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。
①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。
②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
・基本的な面接技術を習得する。
・具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。取り上げる課題は、社会的排除・虐待（児童・高齢者）・家庭内暴力（DV）・低所得者・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む）などとする。
・上記の事例を題材として、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を想定した実技指導を行う。
実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する学習を含める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業の内容を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]
1. 相談援助における面接の基本的理解
2. 面接の基本的な姿勢と技術
3. 面接のロールプレイ～支援の実施（1）
4. 面接のロールプレイ～支援の実施（2）
5. 相談援助の過程
6. インテーク面接
7. アセスメントのための面接（1）
8. アセスメントのための面接（2）
9. プランニングの実際（1）
10. プランニングの実際（2）
11. モニタリングと効果測定
12. 終結とアフターケア
13. 記録の意義・方法・留意点
14. 記録の実際
15. 事例検討の意義・目的・方法・留意点
16. 事例検討の実際
17. 相談援助場面事例：高齢者の相談援助
18. 相談援助場面事例：障がい者の相談援助
19. 相談援助場面事例：児童と家庭の相談援助
20. 課題別相談援助事例：社会的排除（障がい者・高齢者）
21. 課題別相談援助事例：社会的排除（ひとり親家庭・外国人など）
22. 課題別相談援助事例：児童虐待
23. 課題別相談援助事例：高齢者虐待
24. 課題別相談援助事例：家庭内暴力（DV）
25. 課題別相談援助事例：低所得者
26. 課題別相談援助事例：ホームレス
27. 課題別相談援助事例：危機介入
28. 課題別相談援助事例：権利擁護活動
29. 課題別相談援助事例：価値のジレンマ
30. ふりかえりとまとめ

[成績評価方法]
授業内レポート（50%）、平常点（50%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
授業の中で適宜紹介します。

P11000370C [WH3-013]

科目名	相談援助演習Ⅱ	前期	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術		
担当者	冨永　雅和		

[到達目標]
社会福祉士として相談援助をおこなうことが出来るように、演習授業により基本的な面接技術訓練と事例研究をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に習得することを目指す。

[授業概要]
・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。
①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。
②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
・基本的な面接技術を習得する。
・具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。取り上げる課題は、社会的排除・虐待（児童・高齢者）・家庭内暴力（DV）・低所得者・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む）などとする。
・上記の事例を題材として、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を想定した実技指導を行う。
実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する学習を含める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業の内容を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]
1. 相談援助における面接の基本的理解
2. 面接の基本的な姿勢と技術
3. 面接のロールプレイ～支援の実施（1）
4. 面接のロールプレイ～支援の実施（2）
5. 相談援助の過程
6. インテーク面接
7. アセスメントのための面接（1）
8. アセスメントのための面接（2）
9. プランニングの実際（1）
10. プランニングの実際（2）
11. モニタリングと効果測定
12. 終結とアフターケア
13. 記録の意義・方法・留意点
14. 記録の実際
15. 事例検討の意義・目的・方法・留意点
16. 事例検討の実際
17. 相談援助場面事例：高齢者の相談援助
18. 相談援助場面事例：障がい者の相談援助
19. 相談援助場面事例：児童と家庭の相談援助
20. 課題別相談援助事例：社会的排除（障がい者・高齢者）
21. 課題別相談援助事例：社会的排除（ひとり親家庭・外国人など）
22. 課題別相談援助事例：児童虐待
23. 課題別相談援助事例：高齢者虐待
24. 課題別相談援助事例：家庭内暴力（DV）
25. 課題別相談援助事例：低所得者
26. 課題別相談援助事例：ホームレス
27. 課題別相談援助事例：危機介入
28. 課題別相談援助事例：権利擁護活動
29. 課題別相談援助事例：価値のジレンマ
30. ふりかえりとまとめ

[成績評価方法]
授業内レポート（50%）、平常点（50%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
授業の中で資料を配付

[参考書（ISBN）]
なし

P11000370D [WH3-013]

科目名	相談援助演習Ⅲ	後期	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術		
担当者	植戸　貴子		

[到達目標]
社会福祉士として相談援助をおこなうことが出来るように、演習授業により各種事例の検討や実技指導をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に修得することを目指す。

[授業概要]
・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。
①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。
②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
・地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用して実技指導を行う。具体的には地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価について実技指導を行う
相談援助実習後においては、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]
1. 相談援助実習における実習体験のふりかえり・評価
2. 相談援助実習における援助事例：高齢者施設
3. 相談援助実習における援助事例：身体障がい者施設
4. 相談援助実習における援助事例：知的障がい者施設
5. 相談援助実習における援助事例：児童福祉施設
6. 相談援助実習における援助事例：生活保護施設
7. 相談援助実習における援助事例：福祉事務所
8. 相談援助実習における援助事例：医療機関
9. 集団援助の実際：高齢者施設における集団援助
10. 集団援助の実際：障がい者施設における集団援助
11. 集団援助の実際：児童福祉施設における集団援助
12. 集団援助の実際：セルフヘルプグループへの支援
13. 地域福祉の基盤整備と開発：意義・目的・方法・留意点
14. 地域福祉の基盤整備と開発：プロセスの理解
15. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：地域住民に対するアウトリーチ
16. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：住民のニーズの把握
17. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：地域福祉の計画
18. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：ネットワーキング
19. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：社会資源の活用・調整・開発
20. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：サービスの評価
21. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：人権尊重
22. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：権利擁護
23. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：自立支援
24. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：地域生活支援
25. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：エンパワメント
26. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：ストレングス視点
27. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：パートナーシップ
28. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：チームアプローチ
29. 社会福祉専門職の課題
30. ふりかえりとまとめ

[成績評価方法]
授業内レポート（50%）、平常点（50%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
授業の中で資料を配付

[参考書（ISBN）]
なし

P11000380 [WH3-014]

科目名	相談援助演習Ⅲ	後期	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術		
担当者	曽田　里美		

[到達目標]
社会福祉士として相談援助をおこなうことが出来るように、演習授業により各種事例の検討や実技指導をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に修得することを目指す。

[授業概要]
・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。
①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。
②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
・地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用して実技指導を行う。具体的には地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価について実技指導を行う
相談援助実習後においては、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]
1. 相談援助実習における実習体験のふりかえり・評価
2. 相談援助実習における援助事例：高齢者施設
3. 相談援助実習における援助事例：身体障がい者施設
4. 相談援助実習における援助事例：知的障がい者施設
5. 相談援助実習における援助事例：児童福祉施設
6. 相談援助実習における援助事例：生活保護施設
7. 相談援助実習における援助事例：福祉事務所
8. 相談援助実習における援助事例：医療機関
9. 集団援助の実際：高齢者施設における集団援助
10. 集団援助の実際：障がい者施設における集団援助
11. 集団援助の実際：児童福祉施設における集団援助
12. 集団援助の実際：セルフヘルプグループへの支援
13. 地域福祉の基盤整備と開発：意義・目的・方法・留意点
14. 地域福祉の基盤整備と開発：プロセスの理解
15. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：地域住民に対するアウトリーチ
16. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：住民のニーズの把握
17. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：地域福祉の計画
18. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：ネットワーキング
19. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：社会資源の活用・調整・開発
20. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：サービスの評価
21. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：人権尊重
22. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：権利擁護
23. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：自立支援
24. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：地域生活支援
25. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：エンパワメント
26. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：ストレングス視点
27. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：パートナーシップ
28. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：チームアプローチ
29. 社会福祉専門職の課題
30. ふりかえりとまとめ

[成績評価方法]
授業内レポート（50%）、平常点（50%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
授業の中で適宜紹介します。

P11000380A [WH3-014]

科目名	相談援助演習Ⅲ	後期	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術		
担当者	下司　実奈		

[到達目標]
社会福祉士として相談援助をおこなうことが出来るように、演習授業により各種事例の検討や実技指導をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に修得することを目指す。

[授業概要]
・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。
①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。
②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
・地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用して実技指導を行う。具体的には地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価について実技指導を行う
相談援助実習後においては、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]
1. 相談援助実習における実習体験のふりかえり・評価
2. 相談援助実習における援助事例：高齢者施設
3. 相談援助実習における援助事例：身体障がい者施設
4. 相談援助実習における援助事例：知的障がい者施設
5. 相談援助実習における援助事例：児童福祉施設
6. 相談援助実習における援助事例：生活保護施設
7. 相談援助実習における援助事例：福祉事務所
8. 相談援助実習における援助事例：医療機関
9. 集団援助の実際：高齢者施設における集団援助
10. 集団援助の実際：障がい者施設における集団援助
11. 集団援助の実際：児童福祉施設における集団援助
12. 集団援助の実際：セルフヘルプグループへの支援
13. 地域福祉の基盤整備と開発：意義・目的・方法・留意点
14. 地域福祉の基盤整備と開発：プロセスの理解
15. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：地域住民に対するアウトリーチ
16. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：住民のニーズの把握
17. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：地域福祉の計画
18. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：ネットワーキング
19. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：社会資源の活用・調整・開発
20. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：サービスの評価
21. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：人権尊重
22. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：権利擁護
23. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：自立支援
24. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：地域生活支援
25. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：エンパワメント
26. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：ストレングス視点
27. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：パートナーシップ
28. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：チームアプローチ
29. 社会福祉専門職の課題
30. ふりかえりとまとめ

[成績評価方法]
授業内レポート（50%）、平常点（50%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
授業の中で適宜紹介します。

P11000380C [WH3-014]

科目名	相談援助演習Ⅲ	後期	4 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術		
担当者	冨永　雅和		

[到達目標]
社会福祉士として相談援助をおこなうことが出来るように、演習授業により各種事例の検討や実技指導をおこない、必要な価値観と知識と技術を実践的に修得することを目指す。

[授業概要]
・相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化して体系立てていくことができる能力を涵養する。
①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。
②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
・地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用して実技指導を行う。具体的には地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価について実技指導を行う
相談援助実習後においては、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業を復習し、相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ及び相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱで学習した理論に照らし合わせて理解しておくこと。

[授業計画]
1. 相談援助実習における実習体験のふりかえり・評価
2. 相談援助実習における援助事例：高齢者施設
3. 相談援助実習における援助事例：身体障がい者施設
4. 相談援助実習における援助事例：知的障がい者施設
5. 相談援助実習における援助事例：児童福祉施設
6. 相談援助実習における援助事例：生活保護施設
7. 相談援助実習における援助事例：福祉事務所
8. 相談援助実習における援助事例：医療機関
9. 集団援助の実際：高齢者施設における集団援助
10. 集団援助の実際：障がい者施設における集団援助
11. 集団援助の実際：児童福祉施設における集団援助
12. 集団援助の実際：セルフヘルプグループへの支援
13. 地域福祉の基盤整備と開発：意義・目的・方法・留意点
14. 地域福祉の基盤整備と開発：プロセスの理解
15. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：地域住民に対するアウトリーチ
16. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：住民のニーズの把握
17. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：地域福祉の計画
18. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：ネットワーキング
19. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：社会資源の活用・調整・開発
20. 地域福祉の基盤整備と開発の事例：サービスの評価
21. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：人権尊重
22. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：権利擁護
23. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：自立支援
24. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：地域生活支援
25. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：エンパワメント
26. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：ストレングス視点
27. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：パートナーシップ
28. ソーシャルワークの価値と視点を学ぶ事例：チームアプローチ
29. 社会福祉専門職の課題
30. ふりかえりとまとめ

[成績評価方法]
授業内レポート（50%）、平常点（50%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
授業の中で資料を配付

[参考書（ISBN）]
なし

P11000380D [WH3-014]

科目名	相談援助実習	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	清水　弥生、植戸　貴子、曽田　里美、松崎　喜良、下司　実奈、小笠原　慶彰		

[到達目標]
1. 相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。
2. 社会福祉士として求められる資質・技能・倫理・自己に求められる課題把握等、総合的に体得できる能力を修得する。
3. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

[授業概要]
1. 実習方法:指定実習同一施設・事業者・機関・団体・病院等において、180時間(23日間)実施
2. 実習時期:前期は6月に10日間、後期は10月に13日間実施
3. 実習先の選定と配属:実習要件を満たす大学指定の施設・事業者・機関・団体・病院等。但し、実習生から希望分野を聴取するとともに、通勤距離・宿泊(夜勤を含む)・必要経費等を総合的に判断して配属する。
4. 実習指導の概要:相談援助実習担当教員は、実習指導者との密接な連携のもとに、実習生が実習指導者から適切な実習指導が受けられるように連絡調整するとともに、巡回訪問指導・電話指導・メール指導・一斉登校日等を通じて実習生の実習状況を把握しながら個別指導を十分行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前日までの実習を振り返り、具体的な実習課題を意識しながら、自分の持てる力(相談援助の価値・倫理、知識、技術、及び各領域の専門知識)を最大限に発揮するよう努めること。

[授業計画]
1. 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
2. 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
3. 利用者やその関係者(家族・親戚・友人等)との援助関係の形成
4. 利用者やその関係者(家族・親戚・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価
5. 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
6. 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
7. 施設・事業者・機関・団体・病院等の経営やサービスの管理運営の実際
8. 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体・病院等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

[成績評価方法]
実習先評価(70%)、実習日誌等の内容(30%)で評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習　著者名:監修:日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター　出版社:中央法規出版　(978-4-8058-5127-2)
「相談援助実習ノート」 著者名:神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科

[参考書(ISBN)]
なし

P11000420 [WH3-017]

科目名	相談援助実習指導Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル	相談援助実習のための事前学習		
担当者	下司　実奈、清水　弥生、植戸　貴子、曽田　里美、松崎　喜良、小笠原　慶彰		

[到達目標]
この授業では、1. 相談援助実習の意義について理解する　2. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する　といったことを目標としている。

[授業概要]
相談援助実習を行うための必須の授業となっている。
教員や機関・施設職員の講義、施設見学を通し、さまざまな社会福祉施設・機関の役割や機能、利用者の特性やニーズ、またそこで働く職員の職種や仕事内容を理解していく。次年度の相談援助実習を行うため、自分に何が求められているのか、必要な技能や知識等を明確にし、準備を行うための授業である。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
これまで授業で学んだことを復習し、知識を確実なものにしておく。ボランティア等に積極的に参加し福祉現場,福祉サービス利用者をよりよく理解するための準備を行う。

[授業計画]
1. ガイダンス
2. 相談援助実習と相談援助実習指導における集団指導の意義
3. 社会福祉機関・団体・施設の動向と課題
4. 実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解、および、実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解①
5. 実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解、および、実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解②
6. 実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解、および、実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解③
7. 実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解、および、実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解④
8. 実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解、および、実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解⑤
9. 見学実習事前オリエンテーション
10. 現場体験学習および見学実習
11. 相談援助実習にあたっての心構え
12. 見学実習報告会
13. 3回生による相談援助実習報告
14. 個別実習希望調査
15. 個別実習希望調査

[成績評価方法]
授業レポート(80%)、平常点(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習　著者名:監修:日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター
出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5127-2)

[参考書(ISBN)]
授業中に指示する。

P11000390 [WH2-020]

科目名	相談援助実習指導Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	清水　弥生、植戸　貴子、曽田　里美、松崎　喜良、下司　実奈、小笠原　慶彰		

[到達目標]
1. 相談援助実習の意義について理解する
2. 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する
3. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する
4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する

[授業概要]
本科目では、相談援助実習のための事前・実習中及び事後の指導を行う。具体的には、まず相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義を理解し、実際に実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体等や対象となる利用者の特性・ニーズ・必要な支援などについて基本的な事柄を学び、実習分野・実習先についての理解を深める。また、実習先における介護や保育等の関連業務について学ぶとともに、実習先で必要とされる相談援助の知識と技術についての理解を深め、実習における個人のプライバシー保護と秘密保持についても学ぶ。さらに、実習記録ノートの記録内容及び記録方法について学習する。実習生・実習担当教員・実習指導者の三者協議を踏まえた実習計画書や、実習記録に基づく実習総括レポートを作成する。最後に、相談援助実習を振り返っての評価を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
これまで学んできた相談援助及び各分野の専門的価値・知識・技術を駆使して、実習における学びを最大限に有意義なものにできるよう、授業外においても自主学習に励むこと。

[授業計画]
1. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解①
2. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解②
3. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解③
4. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務・個人情報保護法等の理解①
5. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務・個人情報保護法等の理解②
6.「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解①
7.「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解②
8.「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解③
9. 実習生・実習担当教員による実習計画書案の検討と作成①
10. 実習生・実習担当教員による実習計画書案の検討と作成②
11. 実習先事前訪問（実習計画書案提示と意見聴取）
12. 実習生・実習担当教員による実習計画書の作成
13. 一斉登校日による実習分野別による個別指導及び集団指導
14. 巡回訪問指導
15. 前期実習の課題整理

[成績評価方法]
授業中及び巡回指導中の課題への取り組み（25%）、授業内の発表内容（25%）、実習計画書等の内容（25%）、その他平常点（25%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習　著者名：監修：日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター　出版社：中央法規出版　(978-4-8058-5127-2)
「相談援助実習ノート」 著者名：神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科

[参考書（ISBN）]
なし

P11000400 [WH3-015]

科目名	相談援助実習指導Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	清水　弥生、植戸　貴子、曽田　里美、松崎　喜良、下司　実奈、小笠原　慶彰		

[到達目標]
1. 相談援助実習の意義について理解する
2. 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する
3. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する
4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する

[授業概要]
本科目では、相談援助実習のための事前・実習中及び事後の指導を行う。具体的には、まず相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義を理解し、実際に実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体等や対象となる利用者の特性・ニーズ・必要な支援などについて基本的な事柄を学び、実習分野・実習先についての理解を深める。また、実習先における介護や保育等の関連業務について学ぶとともに、実習先で必要とされる相談援助の知識と技術についての理解を深め、実習における個人のプライバシー保護と秘密保持についても学ぶ。さらに、実習記録ノートの記録内容及び記録方法について学習する。実習生・実習担当教員・実習指導者の三者協議を踏まえた実習計画書や、実習記録に基づく実習総括レポートを作成する。最後に、相談援助実習を振り返っての報告会及び評価を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
これまで学んできた相談援助及び各分野の専門的価値・知識・技術を駆使して、実習における学びを最大限に有意義なものにできるよう、授業外においても自主学習に励むこと。

[授業計画]
1. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解①
2. 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解②
3. 実習生・実習担当教員による実習修正計画書の検討と作成①
4. 実習生・実習担当教員による実習修正計画書の検討と作成②
5.「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解①
6.「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解②
7. 一斉登校日による実習分野別による個別指導及び集団指導①
8. 一斉登校日による実習分野別による個別指導及び集団指導②
9. 巡回訪問指導
10. 実習統括報告書作成①
11. 実習統括報告書作成②
12. 実習評価分野別総括会
13. 実習報告会①
14. 実習報告会②
15. 実習評価全体統括会

[成績評価方法]
授業中及び巡回指導中の課題への取り組み（25%）、授業内の発表内容（25%）、実習計画書等の内容（25%）、その他平常点（25%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習　著者名：監修：日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター　出版社：中央法規出版　(978-4-8058-5127-2)
「相談援助実習ノート」 著者名：神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科

[参考書（ISBN）]
なし

P11000410 [WH3-016]

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク原論		
担当者	冨永　雅和		

[到達目標]
①社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解できるようになる。
②精神保健福祉士の役割と意義について理解できるようになる。
③相談援助の概念と範囲について理解できるようになる。
④相談援助の理念について理解できるようになる。

[授業概要]
社会福祉サービスと社会福祉援助活動の関係についての理解を深めるとともに、ソーシャルワーカーにとって必要な価値観（倫理）と実践理論と援助技術について学ぶ。特に、人権尊重の立場にたってサービス利用者の権利擁護や地域社会における自立支援等を総合的・包括的に行っていけるよう、社会福祉士・精神保健福祉士の人間観に焦点をあてながら、他の専門職種と緊密な連携をとりながら相談援助活動をおこなうことの重要性を理解できるようにする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書と1回目の授業で配布する冊子の該当箇所を予習しておいてください。

[授業計画]
1. 社会福祉サービスと社会福祉援助活動
2. 社会福祉援助活動と福祉専門職
（社会福祉士及び介護福祉士法と精神保健福祉士法の制定・見直しの経緯も含む）
3. ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の役割と意義
4. ソーシャルワークの形成過程
（①源流と専門化のきざし、②基礎の確立）
5. ソーシャルワークの形成過程
（③発展と各種理論の登場）
6. ソーシャルワークの形成過程
（④日本における歴史）
7. ソーシャルワークの形成過程
（⑤ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク）
8. ソーシャルワーカーの専門性の構造
9. ソーシャルワーカーの活動と倫理
（国際ソーシャルワーカー連盟等各種定義から）
10. ソーシャルワーカーの倫理綱領
（社会福祉士会等、各種団体の倫理綱領について）
11. 専門職による相談援助関係とコミュニケーション
12. ソーシャルワークの原理・原則
（各種事例からみた相談援助の理念：人権尊重、社会正義、利用者本位）①
13. ソーシャルワークの原理・原則
（各種事例からみた相談援助の理念：尊厳の保持、権利擁護、自立支援）②
14. ソーシャルワークの原理・原則
（各種事例からみた相談援助の理念：社会的包摂、ノーマライゼーション）③
15. まとめ

[成績評価方法]
単位認定試験により評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
社会福祉士養成講座編集委員会編「相談援助の基盤と専門職（第3版）」 著者名：社会福祉養成講座編集委員会編　出版社：中央法規出版 （978-4-8058-5102-9）

[参考書（ISBN）]
第1回授業で配布する冊子の中で紹介しています。

P11000160 [WH1-010]

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワーク原論		
担当者	冨永　雅和		

[到達目標]
①相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解できるようになる。
②相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解できるようになる。
③総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解できるようになる。

[授業概要]
社会福祉サービスと社会福祉援助活動の関係についての理解を深めるとともに、ソーシャルワーカーにとって必要な価値観（倫理）と実践理論と援助技術について学ぶ。特に、人権尊重の立場にたってサービス利用者の権利擁護や地域社会における自立支援等を総合的・包括的に行っていけるよう、社会福祉士・精神保健福祉士の人間観に焦点をあてながら、他の専門職種と緊密な連携をとりながら相談援助活動をおこなうことの重要性を理解できるようにする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書と1回目の授業で配布する冊子の該当箇所を予習しておいてください。

[授業計画]
1. ソーシャルワークの仕組みと体系
（社会資源とネットワーク開発についても含む）
2. 利用者の地域生活支援と相談援助活動
（利用者の生活問題把握と自立生活支援の視点）
3. ジェネラリスト・ソーシャルワークの基本的視点と特質
4. 相談援助における権利擁護の意義
5. 利用者の自己決定とエンパワーメント
6. 相談援助にかかる専門職の概念と範囲
7. 福祉行政機関におけるソーシャルワーク
8. 社会福祉施設におけるソーシャルワーク
9. 医療機関におけるソーシャルワーク
10. 組織・団体等におけるソーシャルワーク
11. 諸外国におけるソーシャルワークの動向
12. ソーシャルワーカー活動における倫理的ジレンマの構造と解決
13. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容
（ジェネラリストの視点から,多職種連携によるチームアプローチ））
14. 精神保健福祉活動における多職種連携のあり方
15. まとめ

[成績評価方法]
単位認定試験により評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
社会福祉士養成講座編集委員会編「相談援助の基盤と専門職（第3版）」 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編　出版社：中央法規出版 （978-4-8058-5102-9）

[参考書（ISBN）]
第1回授業で配布する冊子で紹介しています。

P11000170 [WH1-011]

科目名	相談援助の理論と方法 I	前期	2 単位
サブタイトル	ソーシャルワークの実践モデルと各種アプローチ		
担当者	冨永　雅和		

[到達目標]
ソーシャルワーカーにとって必要な相談援助の理論と方法について学ぶ。特に、相談援助における人と環境の交互作用に関する理論、相談援助利用者についての理解、様々な実践モデルとアプローチについて理解し活用できるようになる。
①相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解できるようになる。
②相談援助の対象と様々な実践モデルとアプローチについて理解できるようになる。

[授業概要]
社会福祉における相談援助は、社会生活上の問題を抱えた人との信頼関係を築きながら、その人のニーズを的確に把握して必要な社会資源の情報を提供し、その人自身が問題を解決することにより社会生活機能をたかめていけるように支援する活動である。このとき、社会生活上の問題は「人と環境」の関係から生じると考えられるところから、相談援助を行うソーシャルワーカーは、「人と環境」の交互作用に焦点をあてることになる。そこで授業では、相談援助サービス利用者の生活問題についての理解を深めるとともに、生活問題解決において活用されてきたさまざまな実践理論について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
第1回授業で配布する冊子の該当箇所を予習しておいてください。また、関心を持った実践理論は理論提唱者の著書等（冊子の中で紹介）に書かれている事例を読むことによって一層理解が深まります。

[授業計画]
1. 相談援助サービス利用者の生活問題
2. 相談援助サービスの構造と機能
3. ソーシャルワーク実践の思想と理論的基盤
4. ソーシャルワーク実践における「人と環境」の交互作用
5. ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの系譜
6. 心理社会的アプローチ
7. 機能的アプローチ
8. 問題解決アプローチ
9. 課題中心アプローチ、危機介入アプローチ
10. 行動変容アプローチ、エンパワーメント・アプローチ
11. システム理論、生活モデル（エコロジカル・アプローチ）
12. ストレングス・モデル、ナラティブ・モデル
13. ジェネラリスト・ソーシャルワーク
14. 相談援助における実践モデルの活用
15. まとめ

[成績評価方法]
単位認定試験により評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
第1回授業で配布する冊子の中で紹介しています。

P11000270 [WH2-015]

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	植戸　貴子		

[到達目標]
「相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」及び「相談援助の理論と方法Ⅰ」で学んだことを踏まえて、相談援助に関する理論と方法の理解を深め、本科目で修得したことを、「相談援助演習Ⅱ・Ⅲ」及び「相談援助実習」の科目で実践的に応用できるようになることを目指す。

[授業概要]
1. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス等利用計画についての理解を含む)。
2. 相談援助の過程、援助関係、面接技術について理解する。
3. ケースマネジメントとケアマネジメント、アウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発、ネットワーキング(相談援助における多職種・多機関との連携の意義と内容を含む)について理解する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の授業内容を復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。

[授業計画]
1. 相談援助の過程:受理面接(インテーク)
2. 相談援助の過程:事前評価(アセスメント)
3. 相談援助の過程:支援の計画(プランニング)
4. 相談援助の過程:支援の実施(インターベンション)
5. 相談援助の過程:経過観察(モニタリング)と評価(エバリュエーション)
6. 相談援助の過程:支援の終結(ターミネーション)と効果測定及びアフターケア
7. 相談援助における援助関係:援助関係の意義と概念
8. 相談援助における援助関係:援助関係の形成方法
9. 相談援助のための面接技法:意義・目的・方法・留意点
10. ケースマネジメントとケアマネジメント:意義・目的・方法・留意点
11. アウトリーチ:意義・目的・方法・留意点
12. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発:意義・目的・方法・留意点
13. ネットワーキング:意義・目的・方法・留意点
14. ネットワーキング:家族や近隣その他の者とのネットワーキング、サービス提供者間のネットワーキングなど
15. ネットワーキング:ケア会議の意義と留意点、及びまとめ

[成績評価方法]
小テスト及び授業内レポート(20%)、試験(70%)、その他平常点(10%)で評価。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新・社会福祉士養成講座⑦相談援助の理論と方法Ⅰ　第3版 2015年　著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編　出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5103-6)

[参考書(ISBN)]
なし

P11000280 [WH2-016]

科目名	相談援助の理論と方法Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	植戸　貴子		

[到達目標]
「相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」及び「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを踏まえて、相談援助に関する理論と方法の理解を深めることを目指す。

[授業概要]
1. 集団を活用した相談援助について理解する。
2. 相談援助におけるスーパービジョンについて理解する。
3. 相談援助における記録について理解する。
4. 相談援助と個人情報の保護の意義と留意点を理解する。
5. 相談援助における情報通信技術(IT)の活用について理解する。
6. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の授業内容を復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。

[授業計画]
1. 集団を活用した相談援助:意義・目的・方法・留意点
2. 集団を活用した相談援助:集団及びグループダイナミックスの理解
3. 集団を活用した相談援助:グループワークの価値・倫理・実践原則
4. 集団を活用した相談援助:グループワーカーの機能と役割
5. 集団を活用した相談援助:グループワークのプロセス(ⅰ)
6. 集団を活用した相談援助:グループワークのプロセス(ⅱ)
7. 集団を活用した相談援助:自助グループ・SST・回想法など
8. 相談援助におけるスーパービジョン:意義・目的・方法・留意点
9. 相談援助における記録:意義・目的・方法・留意点
10. 相談援助と個人情報:個人情報の保護の意義と留意点及び個人情報保護法の運用
11. 相談援助における情報通信技術(IT):IT活用の意義と留意点及びITを活用した支援の概要
12. 相談援助における事例分析:事例分析の意義・目的・方法・留意点
13. 相談援助における事例分析:事例分析の実際(ⅰ)
14. 相談援助における事例分析:事例分析の実際(ⅱ)
15. まとめ

[成績評価方法]
小テスト及び授業内レポート(20%)、試験(70%)、その他平常点(10%)で評価。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新・社会福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版 2015年　著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編　出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5104-3)

[参考書(ISBN)]
なし

P11000290 [WH4-002]

科目名	相談援助の理論と方法Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	植戸　貴子		

[到達目標]
「相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」及び「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを踏まえて、相談援助に関する理論と方法の理解を深め、本科目で修得したことを実践的に応用できるようになることを目指す。

[授業概要]
多様な相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習し理解するとともに、次回の授業の予習をしておくこと。

[授業計画]
1. 相談援助の意義と援助原則
2. 相談援助事例：社会的排除（障害者・高齢者など）
3. 相談援助事例：社会的排除（低所得者・ひとり親家庭など）
4. 相談援助事例：社会的排除（外国人など）
5. 相談援助事例：虐待（児童）
6. 相談援助事例：虐待（高齢者）
7. 相談援助事例：家庭内暴力（DV）
8. 相談援助事例：ホームレス
9. 相談援助事例：危機介入
10. 相談援助事例：集団に対する相談援助
11. 相談援助事例：医療における相談援助
12. 相談援助事例：教育における相談援助
13. 相談援助事例：就労における相談援助
14. 相談援助事例：司法における相談援助
15. 相談援助事例：権利擁護活動（成年後見制度など）

[成績評価方法]
小テスト及び授業内レポート（20%）、試験（70%）、その他平常点（10%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新・社会福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版 2015年　著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編　出版社：中央法規出版 （978-4-8058-5104-3）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000300 [WH4-003]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	植戸　貴子		

[到達目標]
1. 3回生の「社会福祉演習Ⅱ」において修得した各自の問題意識を卒業論文として完成させる。
2. 各自の研究テーマを授業内で分かち合い、意見交換することを通して、他の学生の研究テーマについても問題意識を持ち、知識を深めるとともに、多面的・総合的な考察力を培う。
3. 卒業論文作成のための現地調査及び文献研究、資料の分析、執筆の方法などを、グループ指導及び個別指導を通して学ぶ。
4. 教員による個別指導を通して、卒業論文のテーマに関する自分の考えを深め、視野を広げる。

[授業概要]
教員によるグループ指導及び個別指導とする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
社会福祉に関する自分の問題意識を明確に持ち、日常的にそれを探究するための自己学習を行うとともに、読解力・文章構成力の向上に努めること。

[授業計画]
【前期】
1. オリエンテーション
2. 卒業論文のテーマ設定に関する指導
3. 卒業論文の作成プロセスに関する指導
4. 論文のスタイルに関する指導
5. 卒業論文の執筆要領に関する指導
6. 文献の探し方に関する指導
7. 統計資料の読み方に関する指導
8. アンケート調査に関する指導
9. 聞き取り調査に関する指導
10. 卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導
11. 各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導①
12. 各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導②
13. 各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導③
14. 各自の卒業論文のテーマに関する発表に向けての指導④
15. 各自の卒業論文作成作業に関する指導
【後期】
1. オリエンテーション
2. 各自の卒業論文作成の指導①
3. 各自の卒業論文作成の指導②
4. 各自の卒業論文作成の指導③
5. 各自の卒業論文作成の指導④
6. 各自の卒業論文作成の指導⑤
7. 各自の卒業論文作成の指導⑥
8. 各自の卒業論文作成の指導⑦
9. 各自の卒業論文作成の指導⑧
10. 卒業論文発表会の発表資料作成に関する指導
11. 卒業論文発表会の発表資料作成の指導①
12. 卒業論文発表会の発表資料作成の指導②
13. 卒業論文発表会の準備に関する指導
14. 卒業論文発表会①
15. 卒業論文発表会②

[成績評価方法]
卒業論文作成に向けた取り組み（20%）、卒業論文の内容（50%）、卒業論文の発表（10%）、平常点（20%）で評価。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
授業の中で資料を配付

[参考書（ISBN）]
なし

P11000030 [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	木村　あい		

[到達目標]
1.社会福祉演習Ⅱにおいて修得した知識や問題を研究とし、卒業論文を執筆できる。
2.研究内容を発表し、討論することで自己の課題に気づき客観的に捉え、論理的な思考過程を身につけることができる。

[授業概要]
　各自の研究課題に基づき卒業論文を執筆する。そのために、研究テーマを決め、研究計画書を作成する。文献や資料の収集をし、調査、分析をしていく。論文の構成、論文執筆について、個別・集団で指導を受ける。また、論文の進捗状況や、内容をレジュメにまとめ報告する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　日頃から、卒業論文のテーマに関する情報を意識的に収集しておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 卒業論文のテーマ設定について
3. 卒業論文作成のプロセスについて
4. 文献、資料検索の方法と指導
5. 統計資料の読み方について
6. 調査方法について
7. 研究計画について
8. 研究計画の作成
9. 論文の構成について
10. 研究活動の発表とディスカッション①
11. 研究活動の発表とディスカッション②
12. 研究活動の発表とディスカッション③
13. 研究活動の発表とディスカッション④
14. 研究活動の発表とディスカッション⑤
15. 前期のまとめ
16. 論文作成の中間発表①
17. 論文作成の中間発表②
18. 論文作成の中間発表③
19. 論文作成の中間発表④
20. 各自の卒業論文作成の指導①
21. 各自の卒業論文作成の指導②
22. 各自の卒業論文作成の指導③
23. 各自の卒業論文作成の指導④
24. 論文要旨の作成①
25. 論文要旨の作成②
26. 卒業論文発表会の準備①
27. 卒業論文発表会の準備②
28. 卒業論文発表会①
29. 卒業論文発表会②
30. 全体のまとめ

[成績評価方法]
卒業論文に関する取り組み・発表（40%）、卒業論文（60%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11000030A [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	下司　実奈		

[到達目標]
　深めたいテーマについて過去の経験と学習した内容を踏まえ、新たな情報収集を行い、分析・考察して4年間の集大成とする。

[授業概要]
1. 研究テーマの決定
2. 先行文献検索
3. 調査・観察・記録等資料収集
4. 論文執筆

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　各自のテーマに基づいて資料を集め読む。

[授業計画]
1. 研究テーマの決定
2. 研究テーマの決定
3. 研究テーマの決定
4. 研究テーマの決定
5. 先行文献検索
6. 先行文献検索
7. 先行文献検索
8. 先行文献検索
9. 調査・観察・記録等資料収集
10. 調査・観察・記録等資料収集
11. 調査・観察・記録等資料収集
12. 論文執筆
13. 論文執筆
14. 論文執筆
15. 論文執筆
16. 論文執筆
17. 論文執筆
18. 考察
19. 考察
20. 考察
21. 考察
22. 考察
23. 論文完成
24. 振り返り
25. 資料整理
26. 発表会資料作成
27. 発表会資料作成
28. リハーサル
29. 反省
30. まとめ

[成績評価方法]
受講態度（30%）
論文（70%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11000030B [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	曽田　里美		

[到達目標]
　各自のテーマで調査研究し、論文にまとめ、期限内に提出する。作成途中で研究内容について発表することを通してプレゼンテーション能力を高める。また、他のメンバーの研究内容についてもディスカッション等を通して考察を深める。

[授業概要]
　3回生の「社会福祉演習Ⅱ」での学習内容に基づいて、各自が問題意識をもったテーマについて卒業論文を作成する。各自が研究内容についてレジメを作成して発表し、メンバー間でディスカッションを行う。その過程のなかで、お互いのテーマを通して、子どもをとりまくさまざまな問題についてその実情や援助のあり方を一緒に考えていく。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　日頃から授業や自身の研究テーマに関するニュース等に関心をもつこと。

[授業計画]
＜前期＞
1. 卒業論文を書くために
2. テーマの発表
3. テーマの発表
4. 研究計画書の作成
5. 研究計画書の発表
6. 研究計画書の発表
7. 研究計画書の発表
8. 文献検索、資料収集
9. 文献検索、資料収集
10. 研究活動の報告・発表
11. 研究活動の報告・発表
12. 研究活動の報告・発表
13. 卒業論文の書き方
14. 卒業論文の書き方
15. 夏休みの課題の確認
＜後期＞
16. 論文作成の中間発表
17. 論文作成の中間発表
18. 論文作成の中間発表
19. 論文作成の中間発表
20. 各自の論文の考察
21. 各自の論文の考察
22. 各自の論文の考察
23. 各自の論文の考察
24. 論文の要旨作成
25. 論文の要旨作成
26. 卒業論文発表会の準備
27. 卒業論文発表会の準備
28. 卒業論文発表会
29. 卒業論文発表会
30. まとめ

[成績評価方法]
卒業論文への取り組みと姿勢（20%）、卒業論文の内容（60%）、ゼミや発表会でのプレゼンテーション（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11000030D [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	社会福祉分野の基準に則った卒業論文の執筆		
担当者	泉　妙子		

[到達目標]
1.社会福祉演習Ⅱで学んだ指導概念を整理する。
2.各自興味のある分野において問題を絞り込むことができる。
3.文献研究から、問題提起・研究目的・研究方法等研究内容及び研究手法について理解を深める。
4.社会福祉分野の基準に則った卒業論文が執筆できる。

[授業概要]
1)文献研究や調査・研究を通して研究テーマを決める。
2)自ら、問題を提起し、調査・研究を通して結論をまとめる方法を習得する。
3)論文の章節構成を考え、論理的な文章を用いて卒業論文を作成する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1)興味ある分野の文献や論文を読んでおく。
2)関心を持った分野の新聞記事や資料を整理しファイリングしておく。

[授業計画]
1.卒業論文オリエンテーション
2.論文作成の目的と意義
3.文献検索の方法
4.先行文献研究①
5.先行文献研究②
6.卒業論文テーマの決定
7.研究計画書作成
8.研究計画書作成
9.引用文献・参考文献の活用の仕方
10.統計学　調査の活用方法と分析
11.研究と倫理
12.論文の章節構成と論旨展開の仕方
13.論理的な文章を作成する力
14.先行文献研究③
15.研究計画の修正・点検
16.中間発表
17.序論と問題提起
18.論文の展開
19.テーマ別卒業論文指導
20.テーマ別卒業論文指導
21.テーマ別卒業論文指導
22.テーマ別卒業論文指導
23.テーマ別卒業論文指導
24.卒業論文完成
25.論文要旨の作成
26.論文修正
27.卒業論文発表準備
28.卒業論文発表
29.卒業論文発表
30.まとめ

[成績評価方法]
卒業論文70% 授業態度30%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
適宜資料

[参考書(ISBN)]
自分が"自分"になるということ　著者名:諸冨祥彦　出版社:星雲社　(8-4-7952-2365-3)

P11000030E [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	格差社会で生き抜く		
担当者	松崎　喜良		

[到達目標]
　3年生時に学び、研究した各自のテーマをさらに深化させて、卒業論文を作成する。

[授業概要]
　定期開催されるゼミにおいて、指導教員からの問題提起を受けて議論を深める。また、各ゼミ生は、自らの研究について随時報告を行い、議論するとともに自分のテーマを深め研究に反映させる。
　自らの問題意識に基づいて、積極的に調査を行ったり、学外で開催されるセミナーなどにも参加する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・松﨑ゼミ卒業生が取り組んだ卒業論文に目を通すこと。
・自らの課題に関する先行研究や動向等の把握に努めること。

[授業計画]
　前期においては、指導教員による問題提起並びに各自からの研究報告を受けて議論を深め、より問題意識を鮮明にしていく。
　夏休み中に卒業論文の作成を行い、後期からのゼミにおいて報告する。
　後期は、論文の加筆・訂正などにより推敲を行い完成を目指す。
　次の通りの「卒業研究演習」での指導にもとづいて作成することになる。
＜前期＞
1. オリエンテーション
2. 卒業論文を書くために～テーマの探し方
3. 卒業論文を書くために～文献・資料の読み方
4. 卒業論文を書くために～論理の展開の仕方
5. 卒業論文を書くために～先輩の卒論から
6. 各自のテーマの発表①（1回目）
7. 各自のテーマの発表②（1回目）
8. 各自のテーマの発表③（2回目）
9. 各自のテーマの発表④（2回目）
10. 各自のテーマの発表⑤（3回目）
11. 各自のテーマの発表⑥（3回目）
12. テーマに基づき卒論を書く①
13. テーマに基づき卒論を書く②
14. テーマに基づき卒論を書く③
15. 夏休み中に卒業論文作成をめざすために課題の確認

＜後期＞
16. 卒論完成に向けて～中間報告①
17. 卒論完成に向けて～中間報告②
18. 卒論完成に向けて～中間報告③
19. 各自の卒業論文の検討①
20. 卒業論文提出
21. 卒業論文と今後の自分の生き方①
22. 卒業論文と今後の自分の生き方②
23. 卒業論文と今後の自分の生き方③
24. 卒業論文発表会準備①
25. 卒業論文発表会準備②
26. 卒業論文発表会予備演習①
27. 卒業論文発表会予備演習②
28. 卒業論文発表会予備演習③
29～30. 卒業論文発表会

[成績評価方法]
作成された論文の内容（80%）、ゼミや卒論発表会でのプレゼンテーション（20%）をもとに評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
教員の指導による。

P11000030G [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	眞野　典子		

[到達目標]
1. 各自の問題意識を卒業論文として完成させる。
2.「社会福祉演習Ⅱ」において習得した文献収集、資料の分析、考察方法、まとめ方を用いて論文を執筆する。
3. 教員による個別指導を通して、卒業論文のテーマに関する各自の考えを深め、視野を広げる。

[授業概要]
社会福祉・精神保健福祉・医療福祉の領域における生活支援や相談援助をテーマとする。各自の問題意識に沿って関連する情報を読解し、テーマを明確化する。そこからさらに関連文献や資料などを読み解き、課題を拡げ深め考察する。必要に応じて調査を行い分析する。ゼミ内で発表や討論を行うことによって相互に学びを深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日頃から自分及び他者のテーマに関心を持ち、感受性を高めるために文献、ニュース等に触れておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. テーマの設定について
3. 卒業論文の作成プロセスとタイムスケジュールの確認
4. 論文のスタイル
5. 文献の探し方・入手方法
6. 卒業論文のテーマと研究計画書作成
7. 卒業論文のテーマと研究計画書発表①
8. 卒業論文のテーマと研究計画書発表②
9. 卒業論文のテーマと研究計画書発表③
10. 先行研究個別指導①
11. 先行研究個別指導②
12. 先行研究個別指導③
13. 先行研究発表と討論①
14. 先行研究発表と討論②
15. 先行研究発表と討論③
16. オリエンテーション
17. 進捗状況発表と討論①
18. 進捗状況発表と討論②
19. 進捗状況発表と討論③
20. 進捗状況発表と討論④
21. 進捗状況発表と討論⑤
22. 個別指導及び集団指導①
23. 個別指導及び集団指導②
24. 個別指導及び集団指導③
25. 個別指導及び集団指導④
26. 卒業論文発表会準備①
27. 卒業論文発表会準備②
28. 卒業論文発表会準備③
29. 卒業論文発表会①
30. 卒業論文発表会②

[成績評価方法]
授業中の課題への取り組み（20%）、発表内容（15%）、討論への参加状況（15%）、論文内容（50%）で総合的に評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11000030H [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	社会政策と社会福祉		
担当者	清水　弥生		

[到達目標]
社会福祉演習Ⅱで習得した知識、問題を調べ学習、思考を深める力を発展させ、卒業論文を完成させる。
ゼミ生個人の研究内容をゼミで発表し、討論することによって、自分の研究課題を客観的に捉え、幅広い視野をもち科学的論理的に議論する力を身につける。

[授業概要]
3年生の社会福祉演習Ⅱで明確化された各自の研究課題について
1. 文献・資料を検索、収集、もしくは調査、分析する中で、いくつかの課題を設定する。
2. 研究計画、研究方法等について助言・指導を受ける。
3. それらの課題について調べ、考察した結果をゼミで発表し、討論していく。
4. 論文構成、論文執筆の方法等について助言・指導を受ける。
5. その結果を卒業論文として完成させる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前年の社会福祉演習で絞ったテーマについて,幅広く文献を読み込み、研究対象について調べておく。日常的な読書習慣をつけておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 卒業論文のテーマ設定について
3. 論文執筆の方法について
4. 文献・資料検索の方法と指導
5. 定性的調査・定量的調査について
6. 研究計画について指導①
7. 研究計画について指導②
8. 論文構成について①
9. 論文構成について②
10. 中間発表とディスカッション①
11. 中間発表とディスカッション②
12. 中間発表とディスカッション③
13. 中間発表とディスカッション④
14. 中間発表とディスカッション⑤
15. 前期のまとめ
16. 研究・執筆活動の確認①
17. 研究・執筆活動の確認②
18. 卒業論文提出に向けての指導①
19. 卒業論文提出に向けての指導②
20. 卒業論文提出に向けての指導③
21. 卒業論文提出に向けての指導④
22. 卒業論文提出に向けての指導⑤
23. 卒業論文提出に向けての指導⑥
24. 卒業論文提出に向けての指導⑦
25. 卒業論文提出前最終確認
26. 卒業論文発表会の準備①レジュメ作成
27. 卒業論文発表会の準備②予備練習
28. 卒業論文発表会①
29. 卒業論文発表会②
30. 1年間のまとめ

[成績評価方法]
授業中の課題への取り組み（50%）、卒業論文（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11000030J [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	津田　理恵子		

[到達目標]
社会福祉演習Ⅱで深めた知識をもとに、各自の深めたいテーマで卒業研究に取り組み、論文にまとめ4年間の集大成として提出期限内に卒業論文を完成させる。
卒業論文発表に向けて、プレゼンテーション能力を身につける。

[授業概要]
卒業論文に取り組む過程において、ゼミ内で自らの研究課題について発表し、意見交換を通して研究 内容を深める。
研究テーマに関する文献検索をし、ポイントを整理する。
研究方法(調査・実践・文献など)を決定し、それぞれが決定した方法にそって卒業研究に取り組む。
論文執筆に取り組み助言・指導を受ける。
卒業論文発表に向けた準備をする。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
社会福祉を取り巻く課題に興味を持ち、文章力を向上させるため普段から新聞記事や文献をを読むこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 卒業論文の進め方
3. 研究方法について
4. 卒業論文テーマの設定
5. 研究計画書の作成
6. 文献検索
7. 資料の検索
8. 文献・資料の整理
9. 研究活動①
10. 研究活動②
11. 研究活動③
12. 研究活動④
13. 研究活動⑤
14. 研究活動の整理
15. 夏休みの課題の確認
16. 卒業論文作成①
17. 卒業論文作成②
18. 中間発表・ディスカッション①
19. 中間発表・ディスカッション②
20. 卒業論文作成③
21. 卒業論文作成④
22. 卒業論文作成⑤
23. 卒業論文作成⑥
24. 論文要旨作成
25. 卒業論文発表会の準備・パワーポイント作成①
26. 卒業論文発表会の準備・パワーポイント作成②
27. 卒業論文発表会の準備・発表原稿作成と発表練習
28. 卒業論文発表会
29. 卒業論文発表会
30. まとめ

[成績評価方法]
卒業論文への取り組みの姿勢(40%)、卒業論文の内容(30%)、プレゼンテーション(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
適宜資料配布

[参考書(ISBN)]
適宜資料配布

P11000030K [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	研究		
担当者	横山　正子		

[到達目標]
卒業論文を作成する。
研究の仕方、論文の書き方が分かる。
3回生の「社会福祉演習Ⅱ」においての学んだなかで特に関心がある事象から研究課題を発見する。
文献検索、情報分析、考察、論文のまとめを指導を受けながら行い、論文を完成させる。
論文を発表する。

[授業概要]
研究の目的にあわせて各自研究計画を立て、その目標を定めて計画的に研究を進める。論文のテーマとしてあげた課題について、途中経過を発表し、意見交換や指導を受けながら、考察を深めて、その明らかになった独自性や新規性を論文として完成させる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日常的に社会福祉に関するできごとを、書籍、新聞、雑誌、ニュースなどを関心をもって自ら触れようとし、それらについて自分なりの考えを明確にする習慣を身につけておく。読解力、文章力をつけておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. テーマ設定について
3. 論文のストリー展開について
4. 調査研究、文献研究などの説明
5. 統計について
6. 研究倫理について
7. 研究計画作成
8. 文献の探し方復習
9. 文献検索
10. テーマの絞り方
11. 絞ったテーマの文献のまとめ方
12. 論文の構成
13. 論文の作成
14. 論文の作成
15. 論文のゼミ内での中間発表
16. 意見交換
17. 個別指導で論文の進め方確認
18. 論文の完成に向けて
19. 論文の完成に向けて
20. 論文の完成に向けて
21. 抄録の書き方
22. 抄録作成
23. 発表原稿の書き方
24. 発表の仕方
25. 発表ツールの作り方
26. 予発表ツールの作成
27. 予行
28. 修正
29. 発表会
30. まとめ

[成績評価方法]
卒業論文に向けた取り組み（25%）卒業論文の内容（50%）発表（25%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11000030L [WH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	地域社会福祉史にみる女性の役割		
担当者	小笠原　慶彰		

[到達目標]
社会福祉専門職、あるいは社会福祉に関心ある市民として、それも特に女性としての立場から、社会福祉実践に対して果たすことのできる役割を考察できるようにする。その際に歴史的事実に着目し、そこから現在の実践にも有用な価値や倫理を見出すとともに自己のものにできることを目標とする。

[授業概要]
歴史的形成体である福祉政策・実践を、特に近代以降の日本を中心としてその歴史的展開を通して考えるため演習を行う。近代以降の社会福祉の展開は、慈善救済、相互扶助を基盤とする制度、実践から、感化救済、社会事業を経て、現代的な社会福祉の体系へと展開してきた。まずそれらの過程について、人物、特に女性を取り上げて、その人物の果たした役割を知る。さらに本学の存在する神戸を初めとする特定の地域に着目して、その社会福祉の歴史的形成に女性の果たした役割を見出す。それによって、女性が地域福祉の推進にどのように寄与できるかを考察する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
毎回の授業でやっておくべき課題を事前に伝達するので、その課題（30分程度でできる）をやってくること。

[授業計画]
[前期]
1. 前期オリエンテーション
2. 卒論の構成を見直そう①-論文の構成
3. 卒論の構成を見直そう②-論文の順序
4. 論文の作法①-注の付け方
5. 論文の作法②-引用の方法
6. 論文の作法③-文献表
7. 論文の作法④-インターネットの利用法
8. 論文の作法⑤-文章の推敲はどうするか
9. 卒論の中間発表会①-制度史
10. 卒論の中間発表会②-人物史
11. 卒論の中間発表会③-実践史
12. 卒論の中間発表会④-地域史
13. 卒論の中間発表会⑤-思想史
14. 卒業論文の仕上げに向けて（卒業した先輩の意見を聞く）
15. 前期のふりかえり、または学外学習
[後期]
16. 後期オリエンテーション
17. 卒論の構成を確定しよう①-論文の構成
18. 卒論の構成を確定しよう②-論文の順序
19. 論文の作法①-注の付け方の最終確認
20. 論文の作法②-引用の方法の最終確認
21. 論文の作法③-文献表の最終確認
22. 論文の作法④-インターネットの利用法の最終確認
23. 論文の作法⑤-文章の推敲（最終仕上げ）
24. 卒論予備発表会①-制度史
25. 卒論予備発表会②-人物史
26. 卒論予備発表会③-実践史
27. 卒論予備発表会④-地域史
28. 卒論予備発表会⑤-思想史
29. 卒業論文の公開発表会
30. 後期のふりかえり

[成績評価方法]
卒業論文の内容60パーセント、最終発表会の内容30パーセント、前期・後期に各1回のミニ・レポート各5パーセントの配分で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし（プリント配布）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000030M [WH4-001]

科目名	地域福祉の理論と方法 Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	新しい福祉としての地域福祉		
担当者	小笠原　慶彰		

[到達目標]
新しい福祉としての地域福祉について、①その基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）に、②地域福祉の主体と対象、③地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際地域、④福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際について理解することを目標とする。

[授業概要]
新しい福祉としての地域福祉という観点から、地域福祉の主体形成、地域自立生活支援と地域福祉、コミュニティ型組織とアソシエーション型組織等の基本概念について概説し、地域福祉と福祉教育、福祉教育の概念と内容についても言及する。さらに地方分権と地域福祉計画、社会福祉協議会、社会福祉法人・特定非営利活動法人、民生委員・児童委員の役割、コミュニティー・ソーシャルワークの考え方、コミュニティー・ソーシャルワークの方法、チームアプローチ、専門職と住民の役割を理解できるように講義する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておくこと。
・毎回の授業前に教科書の指定された範囲を必ず読み、質問カードを用いて質問すること。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 地域福祉の実際
3. 地域福祉の理念
4. 地域福祉の概念
5. 地域福祉における参加の意義
6. 地域福祉における積極的接近の意義
7. 地域福祉の基盤整備と地域福祉の歴史
8. 社会福祉の再編と地域福祉
9. これからの地域福祉のあり方
10. 地域福祉の主体
11. ボランティア活動と福祉教育
12. 地域福祉に係る組織・団体の役割①-自治体・社会福祉協議会・社会福祉法人
13. 地域福祉に係る組織・団体の役割②-共同募金・民生児童委員
14. 地域福祉に係る組織・団体の役割③-NPO法人・COOP・JA
15. 総まとめ

[成績評価方法]
授業への取り組み態度22パーセント、予習成果として質問カードによる質問8パーセント、中間試験20パーセント、最終試験50パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。質問カードは、所定のものを用いて指定された期日までに提出する。中間試験及び最終試験は、筆記試験形式（正誤式または択一式）で実施する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
地域福祉論-地域福祉の理論と方法　著者名：社会福祉学習叢書編集委員会　出版社：全国社会福祉協議会
（978-4-7935-1225-4）

[参考書（ISBN）]
授業中に適宜紹介する。

P11000120 [WH2-005]

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	システムとしての地域福祉		
担当者	小笠原　慶彰		

[到達目標]
システムとしての地域福祉という観点から、①システムにおけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際、②地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について理解することを目標とする。

[授業概要]
システムとしての地域福祉を理解するために住民参加の意義、市町村行政への住民参加、ソーシャルサポートネットワーク、ソーシャルサポートとコミュニティー・ソーシャルワーク、社会資源の活用、福祉サービス開発について講義する。続いて具体的な方法として、アウトリーチ、トータルケアシステムについて概説し、ソーシャルケア従事者の研修と組織化、福祉サービスの評価、福祉サービスプログラムの評価について理解できるように講義し、イギリスやアメリカからの日本の地域福祉への影響にも言及する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておくこと。
・毎回の授業前に教科書の指定された範囲を必ず読み、質問カードを用いて質問すること。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 地域福祉の方法①−コミュニティワーク
3. 地域福祉の方法②ーケアマネジメント
4. 地域診断
5. 福祉ニーズの把握
6. 地域福祉計画
7. 地域福祉活動計画
8. 社会資源の活用・調整
9. 社会資源の開発
10. 地域福祉サービス
11. 生活困窮者支援と日常生活自立支援
12. 福祉サービス評価
13. 第三者評価
14. 地域福祉の財源
15. 総まとめ

[成績評価方法]
授業への取り組み態度22パーセント、予習成果として質問カードによる質問8パーセント、中間試験20パーセント、最終試験50パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。質問カードは、所定のものを用いて指定された期日までに提出する。中間試験及び最終試験は、筆記試験形式（正誤式または択一式）で実施する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
地域福祉論−地域福祉の理論と方法　著者名：社会福祉学習双書編集委員会　出版社：全国社会福祉協議会
（978−4−7935−1225−4）

[参考書（ISBN）]
授業中に適宜紹介する。

P11000130 [WH2−006]

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度	前期	2 単位
サブタイトル	生活保護の出番～格差社会の　セーフティネット		
担当者	松崎　喜良		

[到達目標]
①増加し続ける低所得者層の暮らしの実態を把握し、それを生み出す現代社会との関連を明らかにし、福祉需要に応えるセーフティネットを考える。
②セーフティネットとして重要な役割を果たしている生活保護制度を始めとした関連諸施策・法制度について理解し、改革すべき課題を考える。
③生活困窮者に対する相談支援活動、並びに関係機関との連携のあり方を考えるとともに、自立支援のための「自立支援プログラム」の意義と実際について理解する

[授業概要]
派遣切り、孤独死、自殺、一家心中。蒸発、離婚、家庭崩壊、ホームレス、サラ金の多重債務、ローン苦、低賃金、失業。このような語句が日常に反乱するようになった。生活保護受給者は年々新記録を更新しており、今でも福祉事務所の窓口には相談に訪れる人々が殺到している。こんな時こそ、年金や医療保険、雇用対策を充実させ、生活が困難になった人々への支援をきめ細かくしなければならないが、現実は厳しく他の社会保障・社会福祉諸制度では十分な対応はできていない。むしろ、財政問題を理由として逆行さえ起こっている。
それゆえに、社会保障・社会福祉の「最後の受け皿」と言われている生活保護が役に立つようにしなければならない。「暗い」というイメージがある生活保護ではなく、「明るくなる」というイメージをもたらすように、なによりも人々が笑って生きていけるように、生活保護制度の仕組みや課題を学習し、暮らしのセーフティネットを考えていきたい。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・生活保護制度改革の動向に注目しておくこと。
・自主的な学習に努めておくこと。

[授業計画]
1. 現代社会における貧困問題
2. 貧困・低所得者問題
3. 生活保護法の概要（目的と原理、原則）
4. 保護の基準と種類・内容
5. 法の実施体制～国と地方
6. 生活保護の決定・実施過程
7. 被保護層の動向と課題
8. 最低生活保障と自立助長
9. 関係機関との連携、ネットワーキング
10. 自立支援プログラムの意義と実際
11. 低所得者対策
12. 住宅保障とホームレス
13. 生活保護をめぐるトラブル・争訟
14. 公的扶助をめぐる日本と諸外国の状況
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への参加度（20%）、試験（80%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
MINERVA社会福祉士養成テキストブック14　公的扶助論ー低所得者に対する支援と生活保護制度　著者名：岩田正美・杉村宏編著　出版社：ミネルヴァ書房　（978-4-623-06524-0）

[参考書（ISBN）]
授業時に紹介する。

P11000220 [WH2-009]

科目名	認知症の理解 Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	認知症の人の医学・行動・心理的理解		
担当者	泉　妙子		

[到達目標]
認知症の基礎知識・症状とその対応について理解できる

[授業概要]
1)年々増加の傾向にある認知症を正しく理解し、正しく対応することで症状が改善する事を理解する
2)パーソンセンタードケア「その人中心のケア」の必要性を学ぶ
3)認知症になっても最後まで人として暮らせる環境づくりと支援方法について学びを深める

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
高齢者人口の推移や介護保険における認知症対策・サービス内容を理解しておく。

[授業計画]
1.データからみる認知症
2.認知症とは　本人本位の視点を確かなものに
3.当事者ニーズの視点を学ぶ
4.認知症ケアの歴史を学ぶ
5.認知症の理念と視点を理解する
6.認知症の基礎知識 Ⅰ
7.認知症の基礎知識 Ⅱ
8.認知症の診断方法と基準
9.認知症になる要因
10.認知症の人の中核症状を理解す
11.認知症の人の心理的理解を深める
12.認知症の人の生活を理解する
13.認知症の人の症状と環境との関係
14.自分らしい生活を続ける
15.まとめ

[成績評価方法]
筆記試験70%、学習ノート20%、授業態度10%などの総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新介護福祉士養成講座12 認知症の理解 第3版　著者名:荘村明彦他　出版社:中央法規出版 (978-4-8058-3770-2)

[参考書(ISBN)]
介護殺人の予防　著者名:湯原悦子　出版社:クレス出版 (987-4-87733-956-2C3036)

P11000800 [WH2-010]

科目名	認知症の理解Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	認知症の人に対する関わり方		
担当者	泉　妙子		

[到達目標]
　認知症の人への関わり方を理解し、人的環境となる人の人材育成の重要性、自己覚知の必要性を理解すると共に自己研鑽によって自己を高め、介護者としてよりよい人的環境が求められることを理解する。

[授業概要]
1)認知症の人への関わり方を理解し、穏やかな生活が実現するように知識や技術を習得する
2)家族の心理や認知症の人の心理・行動の特性を学びそれぞれの関わり方を理解する
3)認知症の人がその人らしく生き甲斐のある生活が出来るように支援する方法について学ぶ

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　認知症の医学知識・行動・心理症状等テキスト及び前期学習ノートを活用し復習しておく。

[授業計画]
1.認知症の人への関わり方の基本
2.気持ちの読みとり方を学ぶⅠ
3.気持ちの読みとり方を学ぶⅡ
4.認知症の早期発見・早期治療
5.認知症の進行に応じた介護Ⅰ(初期・中期)
6.認知症の進行に応じた介護Ⅱ(後期・重度)
7.人が生きることを支えるということ
8.地域の力を活かす
9.チームアプローチの実際
10.家族の力を活かすⅠ
11.家族の力を活かすⅡ
12.家族の力を活かすⅢ
13.認知症対策と介護保険制度
14.認知症高齢者の権利を保障する
15.まとめ

[成績評価方法]
筆記試験70%、学習ノート20%、授業態度10%などの総合評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新介護福祉士養成講座12 認知症の理解　著者名:荘村明彦他　出版社:中央法規出版 (978-4-8058-3770-2)

[参考書(ISBN)]
まなざしかいご　著者名:藤川幸之助　出版社:中央法規出版 (978-4-8058-3346-9C0036)

P11000810 [WH2-011]

科目名	発達心理学	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	下司　実奈		

[到達目標]
　各発達段階における心的・社会的・身体的な発達の基本的理解および、福祉医療分野でのより実践的な支援力をつけることが出来るように学ぶ

[授業概要]
　生涯発達心理学の観点から、各発達段階での心的・社会的・身体的な発達の理論について学び、それをもとに対象者への心的・社会的・身体的支援への理解を深めていく。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　前回の授業内容を復習して理解する。また、出来る限り、日々社会での出来事に興味関心を持ち、発達心理学の視点から見つめ考えることを積み重ねる。

[授業計画]
1. オリエンテーション・発達心理学とは
2. 乳児期
3. 幼児期初期
4. 愛着について
5. 遊戯期①
6. 遊戯期②
7. 学童期
8. 青年期①
9. 青年期②
10. 成人前期①
11. 成人前期②
12. 成人期
13. 老年期
14. さまざまな課題と支援
15. まとめ

[成績評価方法]
筆記試験　70%
授業への取り組み姿勢及び確認テスト　30%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
使用しない(適宜プリントを配付する)

[参考書(ISBN)]
発達心理学Ⅰ　著者名:無藤　隆　　子安増生　編　出版社:東京大学出版会　(978-4-13-012100-2)
発達心理学Ⅱ　(978-4-13-012101-9)

P11000790 [WH2-001]

科目名	福祉行財政と福祉計画	前期	2 単位
サブタイトル	福祉を進める組織と財政、福祉計画		
担当者	松崎　喜良		

[到達目標]
社会福祉が動くシステムの習熟をめざす。
①社会福祉の実施体制と専門職の役割
②福祉を裏付ける財政のしくみ
③福祉計画の立て方と現実
を理解する。

[授業概要]
社会のあらゆる分野で社会福祉の充実が求められている。しかし、担い手が足らない、育たない、財源的な問題で要望には応えられないなど、「ヒトと金」の問題が現実としてある。私たちは、社会福祉を担う一員でもあるので、ひとごととして放置することはできない。どのようにすれば、人々の要求に応えられ、私たち担い手が誇りを持って専門的な支援ができるようになるのか。福祉行財政の実施体制、行財政のありかた、福祉計画の意義、目的、方法等について理解を深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
マスコミでの税制、福祉財政、福祉・医療政策に関する報道に関心を持つ

[授業計画]
1　福祉行財政の新たな動向
2　社会福祉の体系
3　国と地方の政府間関係
4　福祉行政の組織と専門職①…相談、手続き、サービス利用
5　福祉行政の組織と専門職②…相談システム、実施体制、専門職
6　国・自治体の福祉財政と財源①…税制と配分
7　国・自治体の福祉財政と財源②…自治体の福祉財源
8　ローカルガバナンスと福祉行財政（税と社会保障の改革と自治体の福祉行財政）
9　経済・社会計画から社会福祉計画・地域福祉計画
10　社会福祉計画の意義と目的
11　個別福祉計画の種類と特徴
12　福祉計画と住民参加
13　福祉計画の策定、手法、進行管理
14　医療と介護の一体的改革
15　まとめ

[成績評価方法]
試験点（85%）
平常点（15%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
MINERVA社会福祉士養成テキストブック9 「福祉行財政と福祉計画」　著者名：市川一宏、宇野　裕、野口定久編著　出版社：ミネルヴァ書房 （978-4-623-05394-0）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000340 [WH3-006]

科目名	福祉サービスの組織と経営	前期	2 単位
サブタイトル	社会福祉サービス供給組織の仕組と課題について		
担当者	佐々木　勝一		

[到達目標]
　福祉サービス供給組織の仕組に関して、①福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）、②福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論、③福祉サービスの経営と管理運営について理解することを目標とする。

[授業概要]
　福祉サービスにおける組織・経営の意義から始めて、社会福祉法人を中心とする法人の意味、社会福祉サービス事業の戦略・計画と組織について講義する。さらに社会福祉サービス管理運営の基礎理論を概説し、サービス管理、人事管理・労務管理、会計管理・財務管理、情報管理についても言及する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持ち、自分の感想を持っておくことが大切です。

[授業計画]
1. オリエンテーション・福祉サービスの理念
2. 福祉サービスにおける組織・経営
3. 福祉サービスと制度
4. 法人とは
5. 社会福祉法人
6. 特定非営利活動法人
7. 医療法人・営利法人・公益法人・協同組合等
8. 福祉サービスの戦略
9. 福祉サービス事業の計画と組織
10. 福祉サービス管理運営の基礎理論
11. 福祉サービス管理運営の方法①－サービス管理
12. 福祉サービス管理運営の方法②－人事管理・労務管理
13. 福祉サービス管理運営の方法③－会計管理・財務管理
14. 福祉サービス管理運営の方法④－情報管理
15. 総まとめ

[成績評価方法]
授業への取り組み態度30%、中間試験20%、最終試験50パーセントの配分で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新・社会福祉士養成講座⑪福祉サービスの組織と経営 第5版　著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編　出版社：中央法規出版 （978-4-8058-5431-0）

[参考書（ISBN）]
なし

P11000350 [WH4-004]

科目名	福祉と人権	前期	2 単位
サブタイトル	人権・欠けがえのないもの		
担当者	松崎　喜良		

[到達目標]
1、現代社会における「人間」の理解を基礎とした人権の意義を知る。
2、社会福祉援助における人権の擁護の大切さを理解する。
3、様々な人権事例の検討を通して、自らの人権についても考える。
4、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について学ぶ。

[授業概要]
人権が守られてこそ、人々は幸せな生活を送ることができる。しかし、私たちが学ぶ社会福祉の対象者の人権はどうであろう。老人、障害者、児童など様々なハンディキャップを抱えた人々の暮らしの実態を学ぶなかで、人権とは何か、社会福祉に携わる者としてどのような援助が必要なのかを検討する。自分の人権とは、あなたの人権とは、そして人権を大切にする社会とは何か、事例や事件を素材として、「人権」について考える。これを通して、今後の専門科目を学ぶ視点を確立することを目標とする。人権を大切にすることを抜きにして社会福祉を学ぶことはできない。オープン科目として開講する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
マスコミなどで取り上げられた人権問題に関する講義を行うので新聞記事などに触れておくこと。

[授業計画]
1. 社会福祉と人権
2. 新聞記事と人権（新聞記者による特別講義）
3. 生活困窮者と人権
4. 児童の人権①
5. 児童の人権②
6. 障がい者の人権
7. 高齢者の人権①
8. 高齢者の人権②
9. 青年の人権
10. 女性の人権
11. ホームレスと人権
12. マイノリティの人々と人権
13. 人権侵害に対する救済と権利擁護
14. 人間の尊厳と自立
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への参加状況（20%）　試験（80%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
レジメ・資料を作成し配布する

[参考書（ISBN）]
なし

P11000040 [WH1-002]

科目名	保健医療サービス	前期	2 単位
サブタイトル	医療保険と医療保障、医療ソーシャルワーク、対人援助と自己理解、自覚		
担当者	阿江　善春		

[到達目標]
保険医療分野での相談援助業務に必要な知識の習得。
関係職種との連携・協働についての理解。

[授業概要]
本講義は社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験における共通科目であるが、医療保険をはじめとする関係諸制度の理解と保健医療制度を構成している機関や職種、それとのチームワークやネットワークについて理解を深め将来の専門職としての自己形成に資してほしいと考えている。また身体（からだ）・社会（くらし）・精神（こころ）の全体像を理解できる力をつけること、対人援助職として自身の健康保持にも留意し授業をすすめる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
WHO（世界保健機関）の「健康に関する定義」で示されている身体・精神・社会の3本の柱の理解の為にも、事前学習として国家試験科目の内、医学・医療系と心理系の授業内容を復習しておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション（WHOの健康定義から）
2. 対人援助業務の基本について
3. 保険医療分野の構成要素
4. 保険医療分野の施設体系と相互の関係
5. 保険医療分野の専門職と役割
6. 医療ソーシャルワーカーの業務指針（全般）
7. 医療ソーシャルワーカー業務指針の展開－1
8. 医療ソーシャルワーカー業務指針の展開－2
9. 医療ソーシャルワークと関係諸制度（社会保険関係）
10. 医療ソーシャルワークと関係諸制度（社会福祉・公的扶助）
11. 保健医療とチームアプローチ
12. 保健医療とネットワーク構築
13. 心理的支援の再検討
14. WHOの健康定義の再検討
15. 全体の振り返りと国試対策について

[成績評価方法]
平常点（20%）　試験（80%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新・社会福祉士養成講座⑰保健医療サービス第5版　著者名：社会福祉士養成講座編集委員会　出版社：中央法規出版　（4-8058-5432-7）

[参考書（ISBN）]
医療ソーシャルワーク　著者名：杉本敏夫　出版社：久美出版
（4-907757-24-7）

P11000230 [WH3-005]

科目名	ボランティア活動論	後期	2 単位
サブタイトル	ボランティア活動の理論と実際		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
・市民社会の一員としての市民活動・ ボランティア活動の役割が重要視されるなかで、ボランティアの理念と歴史と社会的意義について考えることができる。
・ボランティア活動の形態や分野等の基礎的知識を習得できる。
・ボランティアの実践方法と活動上の留意点が理解できる。
・自らのボランティア活動の導入・実践に結びつけることができる。

[授業概要]
ボランティア活動の理念や歴史等その基本的知識を学ぶとともに、ボランティア活動の形態・分野・活動方法・活動上の留意点 などを実践的に学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしてくること。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. ボランティアの理念
3. ボランティアの歴史
4. ボランティア活動の形態と支援
5. ボランティア活動の留意点
6. ボランティア活動の実際①（家庭におけるボランティア）
7. ボランティア活動の実際②（地域におけるボランティア）
8. ボランティア活動の実際③（福祉施設におけるボランティア）
9. ボランティア活動の実際④（災害支援におけるボランティア①）
10. ボランティア活動の実際⑤（災害支援におけるボランティア②）
11. ボランティア活動の実際⑥（海外支援におけるボランティア）
12. 青年海外協力隊の活動①
13. 青年海外協力隊の活動②
14. ボランティア活動の実際⑦（その他ボランティア）
15. ボランティア活動の課題と展望およびまとめ

[成績評価方法]
平常点（30%） レポート（70%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
配布プリントなど

[参考書（ISBN）]
なし

P11000050 [WH1-003]

科目名	リスクマネジメント論	前期	2 単位
サブタイトル	安全の確保と感染予防		
担当者	木村　あい		

[到達目標]
転倒・転落などの事故、傷害など介護サービス上のトラブル、自然災害や火災、感染症の発生など多岐にわたるリスクに対する安全の確保や予防について、考え実践することができる。

[授業概要]
介護施設、また在宅で障害者や高齢者の生活には、転倒・転落などの事故、傷害など介護サービス上のトラブル、自然災害や火災、感染症の発生などのリスクが多くある。生活支援者は、それら事故などの発生を常に念頭において、あらゆる事故を想定してリスクマネジメントをしなければならない。そのためには具体的にそれらの1つひとつについて、予防や安全管理体制を学び、実践力を養う必要がある。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
日常生活の中で、事故防止や安全対策・感染対策に関するニース等を関心を持って聞いたり、新聞の切抜きを心がけ、介護現場におけるリスクマネジメントに興味を持つこと。

[授業計画]
1. リスクマネジメントとは(安全な生活の確保)
2. 介護事故・アクシデント・インシデント
3. 介護事故とリスク(事故防止と安全対策)
4. 介護現場における危険と改善方法
5. ヒヤリハット、報告書
6. 高齢者の虐待
7. 障害者の虐待
8. 感染予防　感染症の知識と予防
9. 感染予防　手洗いやガウンテクニックの実際
10. 清潔、不潔、汚染の区別
11. 日常生活の安全
12. 災害介護・リスクマネジメント
13. 災害時の対応や避難訓練
14. 介護労働者としての健康と安全
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート30%・平常点70%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新介護福祉士養成講座4　介護の基本Ⅱ 第4版　1年次購入済み　著者名:介護福祉士養成講座編集委員会編
出版社:中央法規出版 (978-4-8058-5111-1)

[参考書(ISBN)]
適宜紹介

P11000560 [WH4-014]

科目名	リハビリテーション論	後期	2 単位
サブタイトル	リハビリテーションの諸領域		
担当者	鈴木　利明		

[到達目標]
　リハビリテーションと障害に関する基本的な考え方、サービス体系のあり方、さらに、それぞれの障害に対するリハビリテーションの実際のあり方などを学び理解する。

[授業概要]
1. リハビリテーションの理念と基本原則について理解する。
2. 社会的リハビリテーションの実施と社会資源について理解する。
3. リハビリテーションの実際と関わるスタッフについて理解する。
4. 寝たきり老人、認知老人のリハビリテーションについて理解する。
5. 各種障害に対するリハビリテーションについて理解する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　前回の授業内容を復習し、理解して、次回以降の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。

[授業計画]
1. リハビリテーション概論
　1)リハビリテーション(医学):総論
　2)医学的リハビリテーションと物理医学
　3)リハビリテーションとQOL
2. リハビリテーション各論
　4)国際生活機能分類(ICF)とリハビリテーションアプローチ
　5)活動(Activity)とADL
　6)参加と背景因子
3. リハビリテーションの実際と関わるスタッフ
　7)理学療法/作業療法/看護
　8)チーム医療
4. 寝たきり老人、認知症老人のリハビリテーション
　9)高齢化による機能障害
　10)廃用症候群
5. 各種障害に対するリハビリテーション
　11)脳卒中のリハビリテーションⅠ:総論
　12)脳卒中のリハビリテーションⅡ:各論
　13)骨・関節疾患／脊髄損傷のリハビリテーション
　14)神経・筋疾患のリハビリテーション
　15)ADLの自立性の獲得と維持、確認テストとリハビリテーション論まとめ

[成績評価方法]
試験(90%)
授業態度(10%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
リハビリテーション論　～レジュメ集～　著者名:鈴木　利明　出版社:自主出版

[参考書(ISBN)]
なし

P11000540 [WH3-025]

健康福祉学部

健康スポーツ栄養学科

（授業科目名 五十音順）

科目名	運動生理学Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直		

[到達目標]
運動生理学の基礎的な知識を習得して、運動・スポーツの実践ならびに指導に際して、常にエビデンスに基づいた判断や評価ができるようにする。

[授業概要]
運動をしている時やトレーニングを継続することによって起こる生体の一時的な変化から適応までのメカニズムを解説し、健康の維持や体力の向上にとって有効な方法を習得する。運動生理学Ⅰでは、運動・トレーニングと身体の応答、身体諸機能の変化および競技力向上のための基本理論について理解を深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する。

[授業計画]
1. 健康・体力づくりの意義と運動の効用 （健康・体力の定義、栄養・運動・休養の概念）
2. 運動の発現 （不随意運動と随意運動、運動単位）
3. 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能①
4. 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能②
5. 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能③
6. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化① （神経系・反射系）
7. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化② （筋繊維タイプ、筋収縮のメカニズム）
8. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化③ （筋の収縮様式と筋力、筋収縮のスピード）
9. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化④ （呼吸器系、酸素負債、呼吸交換比）
10. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑤ （循環器系、心拍出量）
11. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑥ （血液・体液調節、内分泌系）
12. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑦ （体温調節）
13. 運動とエネルギー代謝
14. ウェイトコントロールとファットコントロール
15. 休養と疲労回復
16. 試験

[成績評価方法]
試験（100%）により評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
Nブック 運動生理・栄養学 著者名：高松薫（編者）奥野直他（共著） 出版社：建帛社 （978-4-7679-0547-1）
プリント配布等

[参考書（ISBN）]
なし

P11100050A [WB1-002]

科目名	運動生理学Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直		

[到達目標]
　運動生理学の基礎的な知識を習得して、運動・スポーツの実践ならびに指導に際して、常にエビデンスに基づいた判断や評価ができるようにする。

[授業概要]
　運動をしている時やトレーニングを継続することによって起こる生体の一時的な変化から適応までのメカニズムを解説し、健康の維持や体力の向上にとって有効な方法を習得する。運動生理学Ⅰでは、運動・トレーニングと身体の応答、身体諸機能の変化および競技力向上のための基本理論について理解を深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する。

[授業計画]
1. 健康・体力づくりの意義と運動の効用 （健康・体力の定義、栄養・運動・休養の概念）
2. 運動の発現 （不随意運動と随意運動、運動単位）
3. 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能①
4. 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能②
5. 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能③
6. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化① （神経系・反射系）
7. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化② （筋繊維タイプ、筋収縮のメカニズム）
8. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化③ （筋の収縮様式と筋力、筋収縮のスピード）
9. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化④ （呼吸器系、酸素負債、呼吸交換比）
10. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑤ （循環器系、心拍出量）
11. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑥ （血液・体液調節、内分泌系）
12. 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑦ （体温調節）
13. 運動とエネルギー代謝
14. ウェイトコントロールとファットコントロール
15. 休養と疲労回復
16. 試験

[成績評価方法]
試験（100%）により評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
Nブック 運動生理・栄養学 著者名：高松薫（編者）奥野直他（共著） 出版社：建帛社 （978-4-7679-0547-1）
プリント配布等

[参考書（ISBN）]
なし

P11100050B [WB1-002]

科目名	運動生理学実習	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直		

[到達目標]
健康づくりや体力・運動能力の維持・向上を目的として、運動を生活に取り入れるときやスポーツトレーニングに応用する場合に必要な基礎知識、測定方法、評価手法を理解し、様々なスポーツに応用することができるようにする。測定結果を考察し、まとめる過程を通して創造的な研究を行う能力を養う。

[授業概要]
運動生理学実習は、運動によってからだに生じる生理学的現象を測定し、健康づくりやスポーツトレーニングに必要な身体運動の生理的メカニズムを具体的に理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
実習内容を復習し、理解できるようにレポートを作成する。また、次回の実習に関連する内容について予習する。

[授業計画]
1. 運動生理学実習のガイダンス 運動生理学を理解するのに必要な測定と評価の方法
2. 運動強度設定に関する最大心拍数と最大酸素摂取量の測定 （トレッドミル）
3. 持久力の簡易評価と水分補給の影響（自転車エルゴメーター、SST）
4. 骨密度の測定、ヘモグロビン濃度の測定、筋硬度の測定
5. WBGTと体温との関係、運動時の体温変化 （腋窩温、平均皮膚温、サーモグラフィー）
6. SAQ(ラダー)トレーニング、プライオメトリクストレーニング
7. 姿勢と身体の歪みの測定、関節可動域の測定、体力診断バッテリーテスト
8. アクティマーカーを用いた身体活動量、運動量、歩行数の測定、10m歩行テスト
9. 静的・動的レジスタンストレーニング、脚筋力の測定、体幹トレーニング
10. バランス能力の測定とトレーニング（重心動揺計、バランスボール）
11. ヨガ、ピラティス、エアロビックダンス
12. バランス評価トレーニングシステム（ASKPROJ.）を用いた身体機能の評価
13. グループによる自由課題①計画立案と測定
14. グループによる自由課題②測定と評価
15. グループによる自由課題③プレゼンテーション

[成績評価方法]
平常点（10%）とレポート（90%）により評価します

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布

[参考書（ISBN）]
なし

P11100360 [WI3-006]

科目名	運動プログラム論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直		

[到達目標]
　栄養士と健康運動実践指導者の立場から、健康状態に応じた適切な食事摂取と効果的な運動のプログラムが作成できるようにする。

[授業概要]
　成人から中高齢者までの健康づくりと生活習慣病予防のための安全かつ効果的な運動プログラム（運動処方）作成の基礎およびエアロビック運動の理論を理解する。また、メディカルチェックや体力・運動能力測定、および栄養・エネルギーバランスを基にした適切な運動プログラムの作成方法を理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する。

[授業計画]
1. 運動不足の悪影響、運動処方の概説、健康診断、メディカルチェックの目的と実際
2. 体力測定・運動能力測定、日常身体活動量測定、運動負荷実験の実際と評価方法
3. 健康づくりと運動プログラムの基礎（プログラムの構成内容と日常生活に及ぼす効果、メタボリックシンドローム解消のための運動）
4. 健康づくりのための運動（トレーニングの原則、ウォーミングアップとクーリングダウン、エアロビック運動の基礎）
5. 運動プログラム作成の原則と実際①　（運動強度の設定法：仕事率、METS、酸素摂取量、%HRmax、RPE及び運動時間と頻度）
6. アメリカ体力医学会が推奨する運動量とエネルギー消費量の計算
7. 運動プログラム作成の原則と実際②　（運動量とエネルギー消費との関係、エネルギー摂取量とエネルギー消費量との関係）
8. エアロビック運動とエネルギー供給源の関係
9. 有酸素性作業能力の評価指標としての最大酸素摂取量と無酸素性作業閾値の意義と測定方法
10. マラソントレーニングプログラムの作成（基礎理論と有酸素性作業能力）
11. レジスタンスエクササイズの基礎理論（運動強度、安全性の確認）
12. 運動に対するモチベーションとマイドフルネス
13. 生活習慣病に対する食事と運動療法（肥満、高血圧、糖尿病など）
14. 運動機能障害に対する運動療法、運動実践指導者取得のための運動プログラム論の解説
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート(100%)により評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「Nブック　運動生理・栄養学」 著者名：高松薫（編者）奥野直他（共著） 出版社：建帛社 （978-4-7679-0547-1）
プリント配布

[参考書（ISBN）]
なし

P11100430 [WI2-012]

科目名	栄養学実験	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	松本　衣代		

[到達目標]
　食生活が生体成分に及ぼす影響について調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。

[授業概要]
　栄養学を学ぶにあたって、ヒトの個体レベルでの栄養現象は、食品中の栄養成分の生体構成成分への代謝変換、さらに臓器間連携による体内での相互変換という一連の栄養代謝の全体として把握することが必要である。本実験では主としてラットを用いた栄養実験により、食事調整が体成分（肥満や痩せ）に及ぼす影響とそのメカニズムなどについて調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　前回の授業内容、実験結果を考察してレポートにまとめ、次回の授業の予習をしておくこと

[授業計画]
1. オリエンテーション（実験目的と内容の概要）
2. 動物実験と飼育の基礎
3. 実験動物飼育計画、実験食の調製、動物飼育①
4.実験動物飼育計画、実験食の調製、動物飼育②
5.ラットの解剖－ビデオ及びデモンストレーション
6.ラットの解剖－臓器重量の測定及びサンプリング
7. まとめとディスカッション
　（異なる摂食パターンが体重、臓器重量、体脂肪蓄積、食餌効率等に及ぼす影響について検証する。）
8～14. 異なる摂食パターンでのラットの生体成分の変化について
　1）脂質代謝に及ぼす影響について
　　①血清中のトリグリセライド、総コレステロールの定量
　　②肝臓総脂質抽出
　　③トリグリセライド、コレステロールの定量
　2）たんぱく代謝に及ぼす影響について
　　①肝臓及び血清中のタンパクの定量
　3）糖質代謝に及ぼす影響について
　　①血糖値の測定
　　②肝臓中のグリコーゲンの定量
　　③肝臓酵素グルコース-6-ホスファターゼ活性の測定
15. 実験のまとめ・ディスカッション

[成績評価方法]
レポート（80%）、課題（20%）の総合点で評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
配布資料

[参考書（ISBN）]
なし

P11100170A [WI3-001]

科目名	栄養学実験	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	松本　衣代		

[到達目標]
　食生活が生体成分に及ぼす影響について調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。

[授業概要]
　栄養学を学ぶにあたって、ヒトの個体レベルでの栄養現象は、食品中の栄養成分の生体構成成分への代謝変換、さらに臓器間連携による体内での相互変換という一連の栄養代謝の全体として把握することが必要である。本実験では主としてラットを用いた栄養実験により、食事調整が体成分（肥満や痩せ）に及ぼす影響とそのメカニズムなどについて調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　前回の授業内容、実験結果を考察してレポートにまとめ、次回の授業の予習をしておくこと

[授業計画]
1. オリエンテーション（実験目的と内容の概要）
2. 動物実験と飼育の基礎
3. 実験動物飼育計画、実験食の調製、動物飼育①
4.実験動物飼育計画、実験食の調製、動物飼育②
5.ラットの解剖－ビデオ及びデモンストレーション
6.ラットの解剖－臓器重量の測定及びサンプリング
7. まとめとディスカッション
（異なる摂食パターンが体重、臓器重量、体脂肪蓄積、食餌効率等に及ぼす影響について検証する。）
8～14. 異なる摂食パターンでのラットの生体成分の変化について
　1）脂質代謝に及ぼす影響について
　　①血清中のトリグリセライド、総コレステロールの定量
　　②肝臓総脂質抽出
　　③トリグリセライド、コレステロールの定量
　2）たんぱく代謝に及ぼす影響について
　　①肝臓及び血清中のタンパクの定量
　3）糖質代謝に及ぼす影響について
　　①血糖値の測定
　　②肝臓中のグリコーゲンの定量
　　③肝臓酵素グルコース-6-ホスファターゼ活性の測定
15. 実験のまとめ・ディスカッション

[成績評価方法]
レポート（80%）、課題（20%）の総合点で評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
配布資料

[参考書（ISBN）]
なし

P11100170B [WI3-001]

科目名	栄養学総論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能		
担当者	坂元　美子		

[到達目標]
栄養素の基本概念と、体内での役割、代謝過程が統括的に理解できるよう学習する

[授業概要]
摂取した食品の栄養素が体の構成成分となる経路、エネルギーへの変換にいたる代謝の過程を学び、ヒトの総体レベルで栄養現象を理解する。エネルギー代謝および栄養素の中間代謝経路では栄養素の体内相互変換について理解し、一連の代謝像を体系的に捉える。栄養学の基本理念と意義の理解により、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を解説する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
授業前に、前回分の教科書とノートを見直す。質問事項は、毎回の授業終了時に聞いておく。

[授業計画]
1. 栄養とは
2. 健康と栄養、食事摂取基準
3. 食物の摂取
4. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の栄養と代謝
5. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の消化と吸収
6. 栄養素の構造と機能:糖質の栄養と代謝
7. 栄養素の構造と機能:糖質の消化と吸収
8. 栄養素の構造と機能:脂質の栄養と代謝
9. 栄養素の構造と機能:脂質の消化と吸収
10.栄養素の構造と機能:水溶性ビタミン
11.栄養素の構造と機能:脂溶性ビタミン
12.栄養素の構造と機能:ミネラル(1)
13.栄養素の構造と機能:ミネラル(2)
14.水・電解質の栄養的意義
15.まとめ

[成績評価方法]
試験(80%)、提出物(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新食品成分表フーズサポーター付き2018　著者名:とうほう　出版社:東京法令出版　(978-4-8090-6310-7)
サクセス管理栄養士講座 基礎栄養学　著者名:鈴木和春他　出版社:第一出版　(978-4-8041-2)

[参考書(ISBN)]
必要に応じて随時紹介します

P11100160A [WI1-001]

科目名	栄養学総論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能		
担当者	坂元　美子		

[到達目標]
　栄養素の基本概念と、体内での役割、代謝過程が統括的に理解できるよう学習する

[授業概要]
　摂取した食品の栄養素が体の構成成分となる経路、エネルギーへの変換にいたる代謝の過程を学び、ヒトの総体レベルで栄養現象を理解する。エネルギー代謝および栄養素の中間代謝経路では栄養素の体内相互変換について理解し、一連の代謝像を体系的に捉える。栄養学の基本理念と意義の理解により、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を解説する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　授業前に、前回分の教科書とノートを見直す。質問事項は、毎回の授業終了時に聞いておく。

[授業計画]
1. 栄養とは
2. 健康と栄養、食事摂取基準
3. 食物の摂取
4. 栄養素の構造と機能：たんぱく質の栄養と代謝
5. 栄養素の構造と機能：たんぱく質の消化と吸収
6. 栄養素の構造と機能：糖質の栄養と代謝
7. 栄養素の構造と機能：糖質の消化と吸収
8. 栄養素の構造と機能：脂質の栄養と代謝
9. 栄養素の構造と機能：脂質の消化と吸収
10.栄養素の構造と機能：水溶性ビタミン
11.栄養素の構造と機能：脂溶性ビタミン
12.栄養素の構造と機能：ミネラル(1)
13.栄養素の構造と機能：ミネラル(2)
14.水・電解質の栄養的意義
15.まとめ

[成績評価方法]
試験（80%）、提出物（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新食品成分表フーズサポーター付き2018　著者名：とうほう　出版社：東京法令出版　(978-4-8090-6310-7)
サクセス管理栄養士講座 基礎栄養学　著者名：鈴木和春他　出版社：第一出版　(978-4-8041-2)

[参考書（ISBN）]
必要に応じて随時紹介します

P11100160B [WI1-001]

科目名	栄養機能食品論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	坂元　美子		

[到達目標]
近年増加の一途をたどる栄養機能食品について、正しい知識を身につけ、氾濫する情報に惑わされることなく、栄養士として正しい情報を発信できるように学習する。

[授業概要]
ヒトが生命活動を営むために体外から摂取しなければならない必須物質を栄養素といい、一般には三回の食事により通常の食品から摂取している。これらの食品は基本的に安全でなくてはならないが、食の安全については近年多数の問題が生じているのが現状である。ヒトが普段口にしている食品とはどういうものなのか、安全性、有効性、医薬品との違い、関連する法律について学習し、近年開発が進んでいる機能性食品について正しい知識を持つ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
栄養学総論、臨床栄養学、応用栄養学、公衆栄養学を復習しておく

[授業計画]
1. 食品とは
2. 保健機能食品
3. 関連法規
4. 食品の表示
5.「健康食品」の安全性と有効性の評価
6. 食品と医薬品の相互作用
7. スポーツとサプリメント、ドーピング
8. 健康とサプリメント
9. 生活習慣病とサプリメント
10. 食事摂取基準
11. サプリメント開発の立場から1(外部講師)
12. サプリメント開発の立場から2(外部講師)
13. スポーツ選手がサプリメントを利用するにあたって(外部講師)
14. 最近注目のサプリメントとその成分
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(80%)、平常点(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
NR・サプリメントアドバイザー必携　著者名:一般社団法人日本臨床栄養協会編　出版社:第一出版　(8-4-8041-1356-2)

[参考書(ISBN)]
必要に応じて随時紹介します

P11100550 [WI3-013]

科目名	栄養教育・指導論Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門		
担当者	松本　衣代		

[到達目標]
1. 栄養教育・指導の流れ(栄養マネージメント)を理解
2. 指導の技術、カウンセリングやティーチングの理解
3. 栄養アセスメントが出来ること

[授業概要]
栄養教育・指導は被指導者の行動変容を促し、その実行によりQOLの向上をめざすものである。健康・栄養状態・食行動・食環境などの情報を収集分析し、その結果に基づき、指導計画の立案、実践、評価、判定を行う能力を養う。栄養教育・指導プログラムの作成においては、生活習慣病になりやすい性格や行動パターンを理解させ、生活習慣病予防の望ましい行動変容について、適切な動機付けとその工夫を習得させる。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
人間一人当たり1日あたりの栄養必要量など、簡単な計算をしますが、各栄養素の知識がないと何について計算をしているか理解が出来なくて興味半減、そこで栄養学の基礎知識を高めておくこと

[授業計画]
1. 栄養教育の意義とその目的
2. 栄養教育行動科学理論と栄養教育
3. 指導の歴史的背景
4. 行動科学理論と栄養教育①
5. 行動科学理論と栄養教育②
6. 行動科学理論と栄養教育③
7. 食教育・栄養教育の実践(栄養教育の方法)①
8. 食教育・栄養教育の実践(栄養教育の方法)②
9. 食教育・栄養教育の実践(栄養教育の方法)③
10. 食教育・栄養教育の実践(栄養教育の方法)④
11. ライフステージ別栄養教育(妊産婦・乳幼児・学童・思春期・成人・高齢者)
12. ライフスタイル別栄養教育(健康づくりとスポーツ、特殊環境下の人の健康)
13. 諸外国の栄養状況
14. 栄養教育の取り組みとポイント
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(70%)、レポート(10%)、発表能力(10%)、受講態度(10%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
ｻｸｾｽ管理栄養士講座　栄養教育論　著者名:斉藤ﾄｼ子　出版社:第一出版　(978-4-8041-1344-9)
日本食品成分表2017 七訂 本表編　著者名:医歯薬出版編集　出版社:医歯薬出版

[参考書(ISBN)]
管理栄養士・栄養士必携―データ・資料集―〈2017年度版〉　著者名:日本栄養士会 編　出版社:第一出版　(978-4-8041-1333-3)

P11100230A [WI1-005]

科目名	栄養教育・指導論 I	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門		
担当者	松本　衣代		

[到達目標]
1. 栄養教育・指導の流れ(栄養マネージメント)を理解
2. 指導の技術、カウンセリングやティーチングの理解
3. 栄養アセスメントが出来ること

[授業概要]
栄養教育・指導は被指導者の行動変容を促し、その実行によりQOLの向上をめざすものである。健康・栄養状態・食行動・食環境などの情報を収集分析し、その結果に基づき、指導計画の立案、実践、評価、判定を行う能力を養う。栄養教育・指導プログラムの作成においては、生活習慣病になりやすい性格や行動パターンを理解させ、生活習慣病予防の望ましい行動変容について、適切な動機付けとその工夫を習得させる。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
人間一人当たり1日あたりの栄養必要量など、簡単な計算をしますが、各栄養素の知識がないと何について計算をしているか理解が出来なくて興味半減、そこで栄養学の基礎知識を高めておくこと

[授業計画]
1. 栄養教育の意義とその目的
2. 栄養教育行動科学理論と栄養教育
3. 指導の歴史的背景
4. 行動科学理論と栄養教育①
5. 行動科学理論と栄養教育②
6. 行動科学理論と栄養教育③
7. 食教育・栄養教育の実践(栄養教育の方法)①
8. 食教育・栄養教育の実践(栄養教育の方法)②
9. 食教育・栄養教育の実践(栄養教育の方法)③
10. 食教育・栄養教育の実践(栄養教育の方法)④
11. ライフステージ別栄養教育(妊産婦・乳幼児・学童・思春期・成人・高齢者)
12. ライフスタイル別栄養教育(健康づくりとスポーツ、特殊環境下の人の健康)
13. 諸外国の栄養状況
14. 栄養教育の取り組みとポイント
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(70%)、レポート(10%)、発表能力(10%)、受講態度(10%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
ｻｸｾｽ管理栄養士講座　栄養教育論　著者名:斉藤ﾄｼ子　出版社:第一出版　(978-4-8041-1344-9)
日本食品成分表2017 七訂 本表編　著者名:医歯薬出版編集　出版社:医歯薬出版

[参考書(ISBN)]
管理栄養士・栄養士必携―データ・資料集―〈2017年度版〉　著者名:日本栄養士会 編　出版社:第一出版　(978-4-8041-1333-3)

P11100230B [WI1-005]

科目名	栄養教育・指導論Ⅱ（カウンセリング論含む）	前期	2 単位
サブタイトル	食行動理論と栄養教育		
担当者	松本　衣代		

[到達目標]
指導目標の設定から、指導の実践、評価と続く一連の栄養教育指導の進め方を理解する。
栄養教育・指導の実践の過程では、行動科学に基づく理論を理解する。

[授業概要]
食教育や栄養教育の方法論を理解する。栄養教育は流れに沿った進め方が必要である。対象者の実態を把握し、そこから教育対象となる問題を検討し、且つ対象者に受け入れられる教育方法を選択する。そのためにカウンセリング理論の導入も必要となる。以上のように流れに沿う栄養指導技法を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
何（料理や食品）をどれ程（量）食べているのか、を知ることが重要となります。従って普段の食事を、写真にとるなり、メモ帳にメモる等を試みて下さい。食べる前に計量する事も準備学修です。

[授業計画]
1. 栄養教育と行動科学
　はじめに（行動科学から学習の基本的考え方を学ぶ）
2. 行動科学の理論・モデルと食教育
3. 行動変容に関する理論と食教育
4. 集団や社会の行動変容に関する教育
5. カウンセリングマインドの活用
　カウンセリングを活用した栄養教育の進め方
　その1　カウンセリングマインドの活用
6. カウンセリングを活用した栄養教育の進め方
　その2　カウンセリング技法
7. 栄養教育・指導の栄養アセスメント
8. 健康情報と栄養アセスメント
9. 食生活環境の把握
10. 食事摂取状況の把握
11. 指導計画立案
12. 指導の実施と評価
13. 食教育・栄養教育の方法論
14. 教材・媒体の種類と選択
15. 各施設での食教育

[成績評価方法]
試験（70%）、レポート（20%）、受講態度（10%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
栄養教育論　これからの食教育のために　著者名：大谷 貴美子　出版社：八千代出版　（978-4-8429-1528-9）
七訂　食品成分表2017　出版社：女子栄養大学出版部

[参考書（ISBN）]
糖尿病食事療法のための食品交換表　第7版　著者名：糖尿病学会　出版社：文光堂　（4830660465）

P11100240A [WI2-006]

科目名	栄養教育・指導論Ⅱ（カウンセリング論含む）	前期	2 単位
サブタイトル	食行動理論と栄養教育		
担当者	松本　衣代		

[到達目標]
指導目標の設定から、指導の実践、評価と続く一連の栄養教育指導の進め方を理解する。
栄養教育・指導の実践の過程では、行動科学に基づく理論を理解する。

[授業概要]
食教育や栄養教育の方法論を理解する。栄養教育は流れに沿った進め方が必要である。対象者の実態を把握し、そこから教育対象となる問題を検討し、且つ対象者に受け入れられる教育方法を選択する。そのためにカウンセリング理論の導入も必要となる。以上のように流れに沿う栄養指導技法を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
何（料理や食品）をどれ程（量）食べているのか、を知ることが重要となります。従って普段の食事を、写真にとるなり、メモ帳にメモる等を試みて下さい。食べる前に計量する事も準備学修です。

[授業計画]
1. 栄養教育と行動科学
　はじめに（行動科学から学習の基本的考え方を学ぶ）
2. 行動科学の理論・モデルと食教育
3. 行動変容に関する理論と食教育
4. 集団や社会の行動変容に関する教育
5. カウンセリングマインドの活用
　カウンセリングを活用した栄養教育の進め方
　その1　カウンセリングマインドの活用
6. カウンセリングを活用した栄養教育の進め方
　その2　カウンセリング技法
7. 栄養教育・指導の栄養アセスメント
8. 健康情報と栄養アセスメント
9. 食生活環境の把握
10. 食事摂取状況の把握
11. 指導計画立案
12. 指導の実施と評価
13. 食教育・栄養教育の方法論
14. 教材・媒体の種類と選択
15. 各施設での食教育

[成績評価方法]
試験（70%）、レポート（20%）、受講態度（10%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
栄養教育論　これからの食教育のために　著者名：大谷 貴美子　出版社：八千代出版 （978-4-8429-1528-9）
七訂　食品成分表2017　出版社：女子栄養大学出版部

[参考書（ISBN）]
糖尿病食事療法のための食品交換表　第7版　著者名：糖尿病学会　出版社：文光堂 （4830660465）

P11100240B [WI2-006]

科目名	栄養教育・指導論実習	後期	1 単位
サブタイトル	栄養教育・指導論入門		
担当者	本田　まり、松本　衣代		

[到達目標]
1. テーマ(対象者)にあった課題が抽出できる。
2. 対象者に合った準備(媒体作成等)を、計画的に段取りよく進めることができる。
3. 対象者に合った栄養教育指導を行うことができ、評価や反省が的確にできる。

[授業概要]
グループ学習を中心とします。入門として本実習では、まず集団に対する栄養教育指導の演習後，個人への栄養教育指導を演習します。計画では、対象者に対する課題(問題点)を自らで考え、教育指導の内容を立案し、対象者に合った媒体等を作成します。実際に人前で教育指導(発表)をし、また聞き手(指導される側)にもなることで、内容のみならず話し方や態度等の様々な要素についても学びます。反省を次の演習(発表)に活かすPDCAサイクルを実践し、教育指導のスキルを高めます。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
栄養教育指導の実践のために、自主的な資料の準備や、授業時間外でのグループ活動等も必要になります。期限までに仕上げることが出来るよう、事前準備に取り組んでください。

[授業計画]
1. オリエンテーション(松本)
2. 演習1　集団指導:幼児期、学童期　計画(本田)
3. 演習1　集団指導:幼児期、学童期　計画(本田)
4. 演習1　集団指導:幼児期、学童期　計画(本田)
5. 演習1　集団指導:幼児期、学童期　実施(本田)
6. 演習1　集団指導:幼児期、学童期　実施(本田)
7. 演習2　個人指導:成人期，高齢期　カウンセリング(松本)
8. 演習2　個人指導:成人期，高齢期　問題抽出(松本)
9. 演習2　個人指導:成人期，高齢期　計画，教育媒体の作成①(松本)
10. 演習2　個人指導:成人期，高齢期　計画，教育媒体の作成②(松本)
11. 演習2　個人指導:成人期，高齢期　実施と評価①(松本)
12. 演習2　個人指導:成人期，高齢期　実施と評価②(松本)
13. 演習3　個人指導:成人期，高齢期　在宅栄養管理　実践①(松本)
14. 演習3　個人指導:成人期，高齢期　在宅栄養管理　実践②(松本)
15. まとめ(本田，松本)

[成績評価方法]
授業への取り組み(50%)、指導媒体等の成果物(10%)、レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
糖尿病食事療法のための食品交換表　第7版　著者名:日本糖尿病学会　出版社:文光堂　(4830660465)

P11100250A [WI2-007]

科目名	栄養教育・指導論実習	後期	1 単位
サブタイトル	栄養教育・指導論入門		
担当者	本田　まり、松本　衣代		

[到達目標]
1. テーマ(対象者)にあった課題が抽出できる。
2. 対象者に合った準備(媒体作成等)を、計画的に段取りよく進めることができる。
3. 対象者に合った栄養教育指導を行うことができ、評価や反省が的確にできる。

[授業概要]
グループ学習を中心とします。入門として本実習では、まず集団に対する栄養教育指導の演習後，個人への栄養教育指導を演習します。計画では、対象者に対する課題(問題点)を自らで考え、教育指導の内容を立案し、対象者に合った媒体等を作成します。実際に人前で教育指導(発表)をし、また聞き手(指導される側)にもなることで、内容のみならず話し方や態度等の様々な要素についても学びます。反省を次の演習(発表)に活かすPDCAサイクルを実践し、教育指導のスキルを高めます。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
栄養教育指導の実践のために、自主的な資料の準備や、授業時間外でのグループ活動等も必要になります。期限までに仕上げることが出来るよう、事前準備に取り組んでください。

[授業計画]
1. オリエンテーション(松本)
2. 演習1　集団指導:幼児期、学童期　計画(本田)
3. 演習1　集団指導:幼児期、学童期　計画(本田)
4. 演習1　集団指導:幼児期、学童期　計画(本田)
5. 演習1　集団指導:幼児期、学童期　実施(本田)
6. 演習1　集団指導:幼児期、学童期　実施(本田)
7. 演習2　個人指導:成人期，高齢期　カウンセリング(松本)
8. 演習2　個人指導:成人期，高齢期　問題抽出(松本)
9. 演習2　個人指導:成人期，高齢期　計画，教育媒体の作成①(松本)
10. 演習2　個人指導:成人期，高齢期　計画，教育媒体の作成②(松本)
11. 演習2　個人指導:成人期，高齢期　実施と評価①(松本)
12. 演習2　個人指導:成人期，高齢期　実施と評価②(松本)
13. 演習3　個人指導:成人期，高齢期　在宅栄養管理　実践①(松本)
14. 演習3　個人指導:成人期，高齢期　在宅栄養管理　実践②(松本)
15. まとめ(本田，松本)

[成績評価方法]
授業への取り組み(50%)、指導媒体等の成果物(10%)、レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
糖尿病食事療法のための食品交換表　第7版　著者名:日本糖尿病学会　出版社:文光堂　(4830660465)

P11100250B [WI2-007]

科目名	栄養を中心とした化学Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
　食品・栄養関連の物質、現象を科学的に考察できるように、化学の基礎知識を習得することを目的とする。

[授業概要]
　化学の基礎を学ぶことは食品・栄養関連の物質・現象などを理解する上で重要である。そこで、本授業では、物質の最小単位である原子・分子の構造、物質の状態・変化、分子の性質・運動、溶液の性質、酸化・還元などについて解説する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。

[授業計画]
1. ガイダンス
2. 物質の構成①
3. 物質の構成②
4. 物質の構成の問題演習
5. 物質の構成粒子①－原子
6. 物質の構成粒子②－分子・イオン
7. 物質の構成粒子③－周期表
8. 物質の構成粒子の問題演習
9. 物質量と濃度計算①
10. 物質量と濃度計算②
11. 物質量と濃度計算の問題演習
12. 酸化と還元①
13. 酸化と還元②
14. 復習
15. まとめ

[成績評価方法]
講義中の小テスト（50%）ならびにレポート（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
絶対わかる化学の基礎知識（絶対わかる化学シリーズ） 著者名：齋藤 勝裕　著　出版社：講談社　サイエンティフィック

[参考書（ISBN）]
基礎無機化学　著者名：安井裕之・吉川豊　著　出版社：京都廣川書店

P11100850 [WS1-002]

科目名	栄養を中心とした生物Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	木村　大輔		

[到達目標]
　生物を構成する代表的な器官や組織を理解し、説明できる。細胞や遺伝子などの機能が日常生活とどのように関わってきているかを理解する。

[授業概要]
　生物学の基礎的な知識を身につけ、我々の体内の生理機能を理解する。高校の生物の内容を復習すると共に、最新の話題を追加し、本学科で学ぶ専門科目への基礎知識を身につける。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。

[授業計画]
1. ガイダンス・基礎
2. 細胞①
3. 細胞②
4. 復習・問題演習
5. 栄養と代謝①
6. 栄養と代謝②
7. 復習・問題演習
8. DNAとタンパク質合成①
9. DNAとタンパク質合成②
10. 生殖と発生
11. 復習・問題演習
12. 組織と器官①
13. 組織と器官②
14. 復習・問題演習
15. まとめ・後期授業の予習

[成績評価方法]
講義中に行う小テスト(50%)とレポート(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
医療・看護系のための 生物学(改訂版)　著者名:田村 隆明　著　出版社:裳華房

[参考書(ISBN)]
なし

P11100830 [WB1-003]

科目名	応急手当実習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	鈴木　一永		

[到達目標]
　ケガや病気により人が突然に意識障害や心肺停止になったときや、大出血により生命の危機に陥ったときの救命処置の方法、また一般的なケガの悪化防止や苦痛の軽減を目的にした応急手当について、その基本を理解し、実際に実施できるようにする。

[授業概要]
　日常生活やスポーツ活動時に起こる突然のケガや病気に対する応急処置、心肺蘇生法、止血、傷の手当、搬送、テーピング等の方法や技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　各地で開催される講習会等に参加することが望ましい。

[授業計画]
1. 応急手当と救急救命、呼吸・意識・脈拍のみかた、体位、救急車の呼び方、運動中止の判断
2. 傷病者の運び方、脱水症・熱中症
3. 低血糖、アナフィラキシーショック、過換気
4. 一次救命処置(心肺蘇生法①)
5. 一次救命処置(心肺蘇生法②)
6. 一次救命処置(自動体外式除細動器①)
7. 一次救命処置(自動体外式除細動器②)
8. 一次救命処置(総合)
9. テーピングの方法①
10. テーピングの方法②
11. 包帯の巻き方①
12. 包帯の巻き方②
13. 止血の方法
14. こむら返り・突き指、熱傷
15. まとめ

※1回は学外特別講師による授業の予定

[成績評価方法]
レポート(50%)・試験(50%)により評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
授業用にプリントを配布する。

[参考書(ISBN)]
なし

P11100480A [WB2-006]

科目名	応急手当実習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	鈴木　一永		

[到達目標]
　ケガや病気により人が突然に意識障害や心肺停止になったときや、大出血により生命の危機に陥ったときの救命処置の方法、また一般的なケガの悪化防止や苦痛の軽減を目的にした応急手当について、その基本を理解し、実際に実施できるようにする。

[授業概要]
　日常生活やスポーツ活動時に起こる突然のケガや病気に対する応急処置、心肺蘇生法、止血、傷の手当、搬送、テーピング等の方法や技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　各地で開催される講習会等に参加することが望ましい。

[授業計画]
1. 応急手当と救急救命、呼吸・意識・脈拍のみかた、体位、救急車の呼び方、運動中止の判断
2. 傷病者の運び方、脱水症・熱中症
3. 低血糖、アナフィラキシーショック、過換気
4. 一次救命処置(心肺蘇生法①)
5. 一次救命処置(心肺蘇生法②)
6. 一次救命処置(自動体外式除細動器①)
7. 一次救命処置(自動体外式除細動器②)
8. 一次救命処置(総合)
9. テーピングの方法①
10. テーピングの方法②
11. 包帯の巻き方①
12. 包帯の巻き方②
13. 止血の方法
14. こむら返り・突き指、熱傷
15. まとめ

※1回は学外特別講師による授業の予定

[成績評価方法]
レポート(50%)・試験(50%)により評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
授業用にプリントを配布する。

[参考書(ISBN)]
なし

P11100480B [WB2-006]

科目名	応用栄養学	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	松浦　紀美恵		

[到達目標]
　成長・発達・加齢における生理的特徴を理解する。各ライフステージにおける栄養アセスメント、ケアのあり方を理解する。

[授業概要]
　成長期、成人期、高齢期ならびに妊産婦、障害者や特殊業務従事者等の身体的・精神的な機能を理解し、基礎栄養学を基本に各ライフステージ・ライフスタイルに応じて、必要とされる栄養素の適切な摂取を理解する。また、生活習慣病の予防など健康づくりの視点で、栄養上の問題点や改善点を学び、効果的かつ合理的な栄養摂取方法を身につける。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　前回の授業内容を復習して、よく理解をしておく。理解できなかったことをまとめ、次回に質問する。次回の授業の予習をしておくこと。日頃から、家族、友人等の食事内容をよく観察しておくこと。

[授業計画]
1. 栄養管理の考え方・進め方
2. 栄養環境への適応
3. 日本人の食事摂取基準の基礎的理解
4. 成長・発達・加齢
5. 母性栄養
6. 乳児期の栄養
7. 幼児期の栄養
8. 学童期の栄養
9. 思春期の栄養
10. 成人期の栄養
11. 高齢期の栄養
12. 生活習慣病と食生活(原因と予防)
13. 日常的な運動におけるエネルギー消費量と必要な栄養素
14. 環境と栄養(温度・気圧・重力・ストレス)、災害時の栄養
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(80%)、授業態度(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
応用栄養学(栄養科学シリーズNEXT) 第5版　著者名:木戸康弘・小倉嘉夫・眞鍋祐之編　出版社:講談社サイエンティフィク (978-4-06-155392-7)

[参考書(ISBN)]
なし

P11100180A [WI2-001]

科目名	応用栄養学	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	松浦　紀美恵		

[到達目標]
成長・発達・加齢における生理的特徴を理解する。各ライフステージにおける栄養アセスメント、ケアのあり方を理解する。

[授業概要]
成長期、成人期、高齢期ならびに妊産婦、障害者や特殊業務従事者等の身体的・精神的な機能を理解し、基礎栄養学を基本に各ライフステージ・ライフスタイルに応じて、必要とされる栄養素の適切な摂取を理解する。また、生活習慣病の予防など健康づくりの視点で、栄養上の問題点や改善点を学び、効果的かつ合理的な栄養摂取方法を身につける。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の授業内容を復習して、よく理解をしておく。理解できなかったことをまとめ、次回に質問する。次回の授業の予習をしておくこと。日頃から、家族、友人等の食事内容をよく観察しておくこと。

[授業計画]
1. 栄養管理の考え方・進め方
2. 栄養環境の適応
3. 日本人の食事摂取基準の基礎的理解
4. 発育・発達・加齢
5. 母性栄養
6. 乳児期の栄養
7. 幼児期の栄養
8. 学童期の栄養
9. 思春期の栄養
10. 成人期の栄養
11. 高齢期の栄養
12. 生活習慣病と食生活(原因と予防)
13. 日常的な運動におけるエネルギー消費量と必要な栄養素
14. 環境と栄養(温度・気圧・重力・ストレス)、災害時の栄養
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(80%)、授業態度(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
応用栄養学(栄養科学シリーズNEXT) 第5版　著者名:木戸康弘・小倉嘉夫・眞鍋祐之編　出版社:講談社サイエンティフィク (978-4-06-155392-7)

[参考書(ISBN)]
なし

P11100180B [WI2-001]

科目名	応用栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	松浦　紀美恵		

[到達目標]
ライフステージ別の栄養ケアを考え、栄養マネジメントのための献立作成ができることを目標とする。

[授業概要]
ライフステージ別に必要とされる栄養素の適切な摂取量を決定するための科学的根拠を理解し、栄養マネジメントについて、計画、実施、評価等の過程を実習する。また、それぞれに適した食品とその調理方法をも習得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前期の応用栄養学の授業内容をしっかり復習しておくこと。前回の実習レポートを仕上げておくこと。
献立作成ができるように、栄養計算、廃棄率などの復習を行うこと。次回の実習内容の予習を行っておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション、授業概要および献立作成に関する説明
2. 軟食の栄養マネジメントと実習
3. 乳児期・幼児期の栄養マネジメントと献立作成
4. 乳児期（離乳食）の実習
5. 幼児期（幼児食）の実習
6. 学童期・思春期の栄養マネジメントと献立作成
7. 学童期・思春期（学校給食・弁当）の実習
8. 妊娠期・授乳期の栄養マネジメントと献立作成
9. 妊産期・授乳期の実習
10. 成人期・高齢期の栄養マネジメントと献立作成
11. 成人期の実習
12. 高齢期の実習
13. ライフスタイルと栄養マネジメントと献立作成
14. スポーツ栄養の実習
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート（60%）（献立作成含む）、試験（10%）、平常点（30%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新編応用栄養学実習　著者名：編集　宮澤　節子　長浜幸子執筆　伊澤正利　他　出版社：学建書院（978-4-7624-0883-0）

[参考書（ISBN）]
なし

P11100190A [WI2-003]

科目名	応用栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	松浦　紀美恵		

[到達目標]
ライフステージ別の栄養ケアを考え、栄養マネジメントのための献立作成ができることを目標とする。

[授業概要]
ライフステージ別に必要とされる栄養素の適切な摂取量を決定するための科学的根拠を理解し、栄養マネジメントについて、計画、実施、評価等の過程を実習する。また、それぞれに適した食品とその調理方法をも習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前期の応用栄養学の授業内容をしっかり復習しておくこと。前回の実習レポートを仕上げておくこと。
献立作成ができるように、栄養計算、廃棄率などの復習を行うこと。次回の実習内容の予習を行っておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション、授業概要および献立作成に関する説明
2. 軟食の栄養マネジメントと実習
3. 乳児期・幼児期の栄養マネジメントと献立作成
4. 乳児期(離乳食)の実習
5. 幼児期(幼児食)の実習
6. 学童期・思春期の栄養マネジメントと献立作成
7. 学童期・思春期(学校給食・弁当)の実習
8. 妊娠期・授乳期の栄養マネジメントと献立作成
9. 妊産期・授乳期の実習
10. 成人期・高齢期の栄養マネジメントと献立作成
11. 成人期の実習
12. 高齢期の実習
13. ライフスタイルと栄養マネジメントと献立作成
14. スポーツ栄養の実習
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート(60%)(献立作成含む)、試験(10%)、平常点(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
新編応用栄養学実習　著者名:編集　宮澤　節子　長浜幸子執筆　伊澤正利　他　出版社:学建書院　(978-4-7624-0883-0)

[参考書(ISBN)]
なし

P11100190B [WI2-003]

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥		

[到達目標]
これまでに学んだ調理理論に関する知識と技術を活かし、総合的な調理技術を習得する。

[授業概要]
　応用調理学実習Ⅰの内容に応用的な調理方法を加えた日本料理、西洋料理、中国料理などを実習し、より高度な調理理論の習得と調理技術の向上を図る。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　配布プリントを予習し、具体的な手順を想定しておくこと。また、実習前の衛生面に関して、十分な準備をして実習に臨むこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 西洋料理①：サンドイッチ　他
3. 日本料理①：栗ごはん　他
4. 西洋料理②：グラタン　他
5. インド料理：チキンカレー　他
6. 中国料理①：上海風焼きそば　他
7. エスニック料理：生春巻き　他
8. 西洋料理③：カツレツ　他
9. 中国料理②：ゆで餃子　他
10. 西洋料理④：クリスマス料理
11. 日本料理②：正月料理
12. 日本料理③：寄せ鍋　他
13. 講義：食の文化①
14. 講義：食の文化②
15. 講義：復習

[成績評価方法]
平常点（70%）、レポート（30%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布

[参考書（ISBN）]
なし

P11100330A [WI4-002]

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥		

[到達目標]
これまでに学んだ調理理論に関する知識と技術を活かし、総合的な調理技術を習得する。

[授業概要]
　応用調理学実習Ⅰの内容に応用的な調理方法を加えた日本料理、西洋料理、中国料理などを実習し、より高度な調理理論の習得と調理技術の向上を図る。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　配布プリントを予習し、具体的な手順を想定しておくこと。また、実習前の衛生面に関して、十分な準備をして実習に臨むこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 西洋料理①：サンドイッチ　他
3. 日本料理①：栗ごはん　他
4. 西洋料理②：グラタン　他
5. インド料理：チキンカレー　他
6. 中国料理①：上海風焼きそば　他
7. エスニック料理：生春巻き　他
8. 西洋料理③：カツレツ　他
9. 中国料理②：ゆで餃子　他
10. 西洋料理④：クリスマス料理
11. 日本料理②：正月料理
12. 日本料理③：寄せ鍋　他
13. 講義：食の文化①
14. 講義：食の文化②
15. 講義：復習

[成績評価方法]
平常点（70%）、レポート（30%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布

[参考書（ISBN）]
なし

P11100330B [WI4-002]

科目名	解剖生理学	後期	2 単位
サブタイトル	からだのしくみとはたらきおよび疾病の成り立ち		
担当者	鈴木　一永		

[到達目標]
運動と栄養に関わる者として、必要な身体の「しくみ」と「はたらき」についての知識を学ぶことを目標とする。

[授業概要]
人体の成り立ちをはじめ、身体運動に関連する骨格・筋系、呼吸循環系、消化器系等について、解剖学的知識（構造）を基本に生理学的知識（機能）を補足し、運動学的見地から人体を系統的に理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
あらかじめ、教科書に目を通しておくことが望ましい。
高校の生物の教科書も役に立つことがあります。

[授業計画]
1. 細胞
2. 人体を構成する物質・恒常性
3. 細胞による組織の構築・器官と器官系
4. 消化器系
5. 呼吸器系
6. 循環器系
7. 泌尿器系
8. 血液とリンパ系
9. 運動器系
10. 神経系総論・中枢神経
11. 末梢神経
12. 感覚器系
13. 内分泌系
14. 生殖器系
15. まとめ

[成績評価方法]
試験を実施する（100%）。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
ニューステージ新生物図表
1年生前期健康管理概論（倫理学を含む）でも使用。2年生前期臨床医学概論でも使用。 著者名：浜島書店編集部　出版社：浜島書店 （978-4-8343-4009-9 C7345）

[参考書（ISBN）]
なし

P11100030A [WB1-001]

科目名	解剖生理学	後期	2 単位
サブタイトル	からだのしくみとはたらきおよび疾病の成り立ち		
担当者	鈴木　一永		

[到達目標]
運動と栄養に関わる者として、必要な身体の「しくみ」と「はたらき」についての知識を学ぶことを目標とする。

[授業概要]
人体の成り立ちをはじめ、身体運動に関連する骨格・筋系、呼吸循環系、消化器系等について、解剖学的知識（構造）を基本に生理学的知識（機能）を補足し、運動学的見地から人体を系統的に理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
あらかじめ、教科書に目を通しておくことが望ましい。
高校の生物の教科書も役に立つことがあります。

[授業計画]
1. 細胞
2. 人体を構成する物質・恒常性
3. 細胞による組織の構築・器官と器官系
4. 消化器系
5. 呼吸器系
6. 循環器系
7. 泌尿器系
8. 血液とリンパ系
9. 運動器系
10. 神経系総論・中枢神経
11. 末梢神経
12. 感覚器系
13. 内分泌系
14. 生殖器系
15. まとめ

[成績評価方法]
試験を実施する（100%）。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
ニューステージ新生物図表
1年生前期健康管理概論（倫理学を含む）でも使用。2年生前期臨床医学概論でも使用。 著者名：浜島書店編集部　出版社：浜島書店 （978-4-8343-4009-9 C7345）

[参考書（ISBN）]
なし

P11100030B [WB1-001]

科目名	解剖生理学実験	前期	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る		
担当者	奥野　直、鈴木　一永		

[到達目標]
栄養士として将来、臨床や給食、スポーツに関係する施設で栄養指導等を行うとき、対象となる人に合わせて適切な指導を行わなければならない。その人の身体状況を的確に把握するための最低限の検査の意義、施行方法ならびに正常、異常を判断できる能力を身につけることを目標とする。

[授業概要]
人体の「しくみとはたらき」をより良く理解するために、身体を構成する細胞組織から、各種器官臓器の成り立ち、およびそれらの機能を把握することが必要である。本科目では、実際の自分自身の身体から、種々の計測ならびに観察機器を用いてデータを取得する方法およびその解釈、評価方法を学び、より客観的にヒトのからだの「しくみとはたらき」を理解することを目的とする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
実習内容を復習し、理解できるようにレポートを作成する。また、次回の実習に関連する内容について予習する。

[授業計画]
6班に分かれて、2～7の6項目、8～14の6項目の実験をローテーションで実施する
1～7については奥野、8～14については鈴木が担当し、15については両者でまとめを行う。
1. 2～7についてのガイダンス（奥野）
2. 尿の緩衝作用、尿検査（奥野）
3. 味覚検査、皮膚の2点閾値、体温・平均皮膚温の測定（奥野）
4. 視野、重心動揺の測定（奥野）
5. エネルギー代謝（1日の摂取量と消費量、活動量）の計算（奥野）
6. 身体計測、皮脂厚・体脂肪率の測定、体力テスト（奥野）
7. 肺活量、最大酸素摂取量、心拍数の測定（奥野）
8. 9～14についてのガイダンス（鈴木）
9. 赤血球数、ヘマトクリット値、ヘモグロビン濃度の測定（鈴木）
10. 白血球の分類、白血球数、血液比重、血漿タンパク濃度の測定（鈴木）
11. 血液型、血中尿素、血糖値の測定、（OGTT）（鈴木）
12. 心電図、血圧の測定（鈴木）
13. 人体模型による各器官臓器のスケッチ（鈴木）
14. 組織標本の観察（鈴木）
15. まとめ（奥野・鈴木）

[成績評価方法]
レポート（50%×2名）により評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新訂　解剖生理学実験　著者名：川村一男編著　出版社：建帛社 （978-4-7679-0216-6）
プリント配布

[参考書（ISBN）]
なし

P11100040A [WB2-003]

科目名	解剖生理学実験	前期	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る		
担当者	奥野　直、鈴木　一永		

[到達目標]
栄養士として将来、臨床や給食、スポーツに関係する施設で栄養指導等を行うとき、対象となる人に合わせて適切な指導を行わなければならない。その人の身体状況を的確に把握するための最低限の検査の意義、施行方法ならびに正常、異常を判断できる能力を身につけることを目標とする。

[授業概要]
人体の「しくみとはたらき」をより良く理解するために、身体を構成する細胞組織から、各種器官臓器の成り立ち、およびそれらの機能を把握することが必要である。本科目では、実際の自分自身の身体から、種々の計測ならびに観察機器を用いてデータを取得する方法およびその解釈、評価方法を学び、より客観的にヒトのからだの「しくみとはたらき」を理解することを目的とする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
実習内容を復習し、理解できるようにレポートを作成する。また、次回の実習に関連する内容について予習する。

[授業計画]
6班に分かれて、2～7の6項目、8～14の6項目の実験をローテーションで実施する
1～7については奥野、8～14については鈴木が担当し、15については両者でまとめを行う。
1. 2～7についてのガイダンス（奥野）
2. 尿の緩衝作用、尿検査（奥野）
3. 味覚検査、皮膚の2点閾値、体温・平均皮膚温の測定（奥野）
4. 視野、重心動揺の測定（奥野）
5. エネルギー代謝（1日の摂取量と消費量、活動量）の計算（奥野）
6. 身体計測、皮脂厚・体脂肪率の測定、体力テスト（奥野）
7. 肺活量、最大酸素摂取量、心拍数の測定（奥野）
8. 9～14についてのガイダンス（鈴木）
9. 赤血球数、ヘマトクリット値、ヘモグロビン濃度の測定（鈴木）
10. 白血球の分類、白血球数、血液比重、血漿タンパク濃度の測定（鈴木）
11. 血液型、血中尿素、血糖値の測定、（OGTT）（鈴木）
12. 心電図、血圧の測定（鈴木）
13. 人体模型による各器官臓器のスケッチ（鈴木）
14. 組織標本の観察（鈴木）
15. まとめ（奥野・鈴木）

[成績評価方法]
レポート（50%×2名）により評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新訂　解剖生理学実験　著者名：川村一男編著　出版社：建帛社（978-4-7679-0216-6）
プリント配布

[参考書（ISBN）]
なし

P11100040B [WB2-003]

科目名	学校栄養教育論	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教諭の職務と果たすべき役割を学ぶ		
担当者	本田　まり、大曲　美佐子、阿部　亜紀子		

[到達目標]
① 栄養教諭の役割を理解し、それに関わる制度や法規を理解している。
② 学校給食の管理と、望ましい食習慣の形成に役立つ栄養教育の手法を身に付けている。
③ 適切な栄養教育の計画を立案し、実践する力を修得している。

[授業概要]
この科目は、小学校、中学校栄養教諭免許取得のためのものである。朝食欠食、孤食、飽食の中での栄養の偏り、肥満、やせ等、児童・生徒をとりまく食生活は深刻化の一途であり、幼児期からの望ましい食習慣の形成は国民的課題である。これらの現状を把握しその要因、背景、問題解決のための学習課題を考察する。生きた教材としての学校給食の実際、管理、運営方法、教育的意義を理解する。また、児童・生徒の発達に応じた望ましい食生活、健康管理等を学習し、栄養教育に関する教材作成を行なう。そのための資料収集、現況調査と分析等の技法を学ぶ。さらに、家庭科他、各関連教科における「食」に関する「学習指導計画案」の作成法を学び、栄養教諭としての模擬学習の演習を試みる。一方、保護者や地域団体との交わり、地産地消の推進、食文化の継承・地域社会の連携方法等、学校現場で生かせる実践力を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
授業内容の復習と予習を行い、関連時事ニュースに関心を持つよう努めてください。

[授業計画]
1. 栄養教諭の役割と関連法規：食育基本法、学校給食法など（本田）
2. 栄養教諭制度、学校給食の歴史、献立の推移など（阿部）
3. 学校給食の献立作成を中心とした給食経営管理（阿部）
4. 学校給食の衛生管理と食育活動（阿部）
5. 給食の指導における実践的指導（阿部）
6. まとめ　教育実習のための課題実施（阿部）
7. 子どもの発達と食生活、カウンセリングの技法と応用（本田）
8. 個別栄養相談指導Ⅰ　肥満、生活習慣病（本田）
9. 個別栄養相談指導Ⅱ　痩せ、貧血ほか（本田）
10. 個別栄養相談指導Ⅲ　食物アレルギー（本田）
11. 家庭・地域との連携、地産地消の推進（本田）
12. まとめ（本田）
13. 家庭科等各教科における食に係る指導－学習指導要領の理解と指導の実際－（大曲）
14. 各教科における「食」に関する指導計画案の作成と学習教材（大曲）
15. 模擬授業演習－授業の構成と発表・評価－（大曲）

[成績評価方法]
授業中の課題（演習等を含む）（25%）　レポート（25%）　試験（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「三訂　栄養教諭論　理論と実際」 著者名：金田雅代　編著　出版社：建帛社 （978-4-7679-2104-4　C3037）
「中学校　学習指導要領」 著者名：文部科学省 （MEXT　1-0804）
「小学校　学習指導要領」 著者名：文部科学省 （MEXT1-0803）

[参考書（ISBN）]
「栄養教諭のための学校栄養教育論」 著者名：笠原賀子　編著　出版社：医歯薬出版株式会社 （978-4-263-70495-0）

P11100640 [WI3-016]

科目名	基礎演習 I	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直、重福　京子、松浦　紀美恵、糸井　亜弥、佐藤　誓子、松本　衣代、坂元　美子、吉川　豊、本田　まり、木村　大輔		

[到達目標]
本学科のコンセプトを多角的・総合的に理解し、自分の目標を立てていく。また、学士課程教育で求められる具体的な方法を理解し、大学としての学習スタイルを身に付ける。

[授業概要]
基礎演習は前期Ⅰ・後期Ⅱとして開講し、前後期一体型のプログラムです。基礎演習Ⅰは健康スポーツ栄養学科で学ぶ専門科目の概要を理解してもらうための基礎編で、入門ゼミという位置付けです。本学科は栄養士養成を柱として健康栄養とスポーツ栄養のカテゴリーに分かれますので、自分の目標を達成するために、4年間でどのような学習をしなければならないかをこの基礎演習を通して理解してもらいたいと思っています。また、大学は高校までと違う学士課程教育といわれる学習形態をもっています。学士課程教育において求められる内容は、学ぶ技術や学問的知識の習得、書く・読む・話す・聴くことからのコミュニケーション力や数理的分析力や情報発信力、さまざまな思考法を用いての課題解決力、自らを向上させ続ける力などであり、大学4年間の学習をスムーズに進めるために必要な「大学での学び方」についても学習していきます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
演習内容を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する。

[授業計画]
各クラスを5グループに分けて、5名の教員がゼミ形式で3週間同じグループを連続で担当し、
5グループをローテーションさせて15回実施する。
各教員の主な内容は、
奥野　「大学に求められる教育」と「考える力」の鍛え方について
佐藤　校外実習の概要
坂元　スポーツ栄養の現場から
重福　健康運動実践指導者の仕事・栄養と運動のかかわり
松本　国際栄養の概要と食を通して学ぶプレゼンテーションの手法
松浦　暮らしの中での食の探求と学び方
吉川　グループでの討論に関わる手法
本田　思考力を深める方法、原因と結果を考える、伝える方法を考える
木村　知識を知恵に変える方法、女性におけるリーダーシップを考える
糸井　書籍、文献検索の手法を学ぶ（図書館での情報検索、推薦本の選定）

実施方法についてはオリエンテーション時に説明します

[成績評価方法]
平常点（20%）と授業中の課題・レポート（80%）により評価します

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
必要に応じてプリント配布等

[参考書（ISBN）]
必要に応じてプリント配布等

P11100700 [WI1-015]

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直、重福　京子、松浦　紀美恵、糸井　亜弥、佐藤　誓子、松本　衣代、坂元　美子、吉川　豊、本田　まり、木村　大輔		

[到達目標]
学生自らが進んで課題に取組み、教員や学生同士間でのコミュニケーションをとりながら、得られた知識を整理し、発表や文章にまとめることができるようにする。また、学士課程教育で求められる内容を実行していく力がどれだけ身に付いているかを確認し、基準レベルをこえるようにする。

[授業概要]
前後期一体型のプログラムの後期（基礎演習Ⅱ）では、専門科目の概要説明を追加するとともに、専門領域への移行を視野に入れた課題演習を行っていきます。各先生のところで何らかの課題を展開して、最終的にはゼミ単位でレジュメへのまとめやプレゼンテーション、レポート作成などを行っていきます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
演習内容を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する。

[授業計画]
各クラスを5グループに分けて、5名の教員がゼミ形式で3週間同じグループを連続で担当し、
5グループをローテーションさせて15回実施する。
各教員の主な内容は、
奥野　「大学に求められる教育」と「考える力」の鍛え方について
佐藤　校外実習の概要
坂元　スポーツ栄養の現場から
重福　健康運動実践指導者の仕事・栄養と運動のかかわり
松本　国際栄養の概要と食を通して学ぶプレゼンテーションの手法
松浦　暮らしの中での食の探求と学び方
吉川　グループでの討論に関わる手法
本田　思考力を深める方法、原因と結果を考える、伝える方法を考える
木村　知識を知恵に変える方法、女性におけるリーダーシップを考える
糸井　書籍、文献検索の手法を学ぶ（図書館での情報検索、推薦本の選定）

実施方法についてはオリエンテーション時に説明します

[成績評価方法]
平常点（20%）と授業中の課題・レポート（80%）により評価します

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
必要に応じてプリント配布

[参考書（ISBN）]
なし

P11100710 [WI1-016]

科目名	基礎調理学実習	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥、佐藤　誓子		

[到達目標]
包丁の扱い方、食品の扱い方など基本的調理操作と技術の習得、各食品について調理特性を理解する。

[授業概要]
食品の調理特性を理解し、再現性のある良好な調理が行えることを目的とする。栄養価を考慮した日常食の献立を調理することにより，献立計画立案の基礎知識を修得する。また、試食によって盛り付けや配膳、基本的な食事作法を学ぶ。喫食者の嗜好なども含めた献立の評価を行う。
（糸井担当/7.5回・佐藤担当/7.5回）

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業の復習をする。
次回実習する献立について予習する。予習のためのレポートを提出する。

[授業計画]
1. オリエンテーション（調理室の使い方、実習上の諸注意、基本の調理操作、配膳など）
（佐藤誓子・糸井亜弥）
2. 栄養計算に関する演習（佐藤誓子）
3. 炊飯と汁物の基本（佐藤誓子）
4. 煮物と蒸し物及びゆでる操作の基本（佐藤誓子）
5. 焼き物と炒め物の基本（佐藤誓子）
6. 揚げ物と和え物の基本（佐藤誓子）
7. 寄せ物の基本、献立作成の演習（佐藤誓子）
8. 日本料理（白飯、魚の塩焼き、焼きししとう、高野豆腐・にんじん・しめじの含め煮、かきたま汁、わらび餅）（糸井亜弥）
9. 西洋料理（パン、クリームシチュー、トマトサラダ、レモンスカッシュ）（糸井亜弥）
10. 中国料理（白飯、乾炸鶏塊、せん切りキャベツ、涼拌海蜇、蛋花湯）（糸井亜弥）
11. 日本料理（炊き込み飯、あじの南蛮漬け、茶碗蒸し）（糸井亜弥）
12. 西洋料理（パン、鮭のムニエル、コールスローサラダ、コーンスープ、コーヒーゼリー）（糸井亜弥）
13. 中国料理（白飯、麻婆豆腐、涼拌三絲、玉米湯、奶豆腐）（糸井亜弥）
14. 選択献立の調理（佐藤誓子）
15. まとめ（糸井亜弥）
（食材等の関係でメニューが変更になる場合もある）

[成績評価方法]
レポート（40%）、実習態度（60%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「基礎から学ぶ調理実習」 著者名：新調理研究会編　出版社：オーム社 （978-4-274-06998-7）
「めざせ！栄養士・管理栄養士　まずはここからナビゲーション」 著者名：小野章史他　出版社：第一出版 （978-4-8041-1291-6）

[参考書（ISBN）]
「NEW調理と理論」 著者名：山崎清子他　出版社：同文書院 （978-4-8103-1395-6）

P11100310A [WI1-007]

科目名	基礎調理学実習	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥、佐藤　誓子		

[到達目標]
包丁の扱い方、食品の扱い方など基本的調理操作と技術の習得、各食品について調理特性を理解する。

[授業概要]
食品の調理特性を理解し、再現性のある良好な調理が行えることを目的とする。栄養価を考慮した日常食の献立を調理することにより，献立計画立案の基礎知識を修得する。また、試食によって盛り付けや配膳、基本的な食事作法を学ぶ。喫食者の嗜好なども含めた献立の評価を行う。
（糸井担当/7.5回・佐藤担当/7.5回）

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業の復習をする。
次回実習する献立について予習する。予習のためのレポートを提出する。

[授業計画]
1. オリエンテーション（調理室の使い方、実習上の諸注意、基本の調理操作、配膳など）
（佐藤誓子・糸井亜弥）
2. 栄養計算に関する演習（佐藤誓子）
3. 炊飯と汁物の基本（佐藤誓子）
4. 煮物と蒸し物及びゆでる操作の基本（佐藤誓子）
5. 焼き物と炒め物の基本（佐藤誓子）
6. 揚げ物と和え物の基本（佐藤誓子）
7. 寄せ物の基本、献立作成の演習（佐藤誓子）
8. 日本料理（白飯、魚の塩焼き、焼きししとう、高野豆腐・にんじん・しめじの含め煮、かきたま汁、わらび餅）（糸井亜弥）
9. 西洋料理（パン、クリームシチュー、トマトサラダ、レモンスカッシュ）（糸井亜弥）
10. 中国料理（白飯、乾炸鶏塊、せん切りキャベツ、涼拌海蜇、蛋花湯）（糸井亜弥）
11. 日本料理（炊き込み飯、あじの南蛮漬け、茶碗蒸し）（糸井亜弥）
12. 西洋料理（パン、鮭のムニエル、コールスローサラダ、コーンスープ、コーヒーゼリー）（糸井亜弥）
13. 中国料理（白飯、麻婆豆腐、涼拌三絲、玉米湯、奶豆腐）（糸井亜弥）
14. 選択献立の調理（佐藤誓子）
15. まとめ（糸井亜弥）
（食材等の関係でメニューが変更になる場合もある）

[成績評価方法]
レポート（40%）、実習態度（60%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「基礎から学ぶ調理実習」 著者名：新調理研究会編　出版社：オーム社 （978-4-274-06998-7 ）
「めざせ！栄養士・管理栄養士　まずはここからナビゲーション」 著者名：小野章史他　出版社：第一出版 （978-4-8041-1291-6）

[参考書（ISBN）]
「NEW調理と理論」 著者名：山崎清子他　出版社：同文書院 （978-4-8103-1395-6）

P11100310B [WI1-007]

科目名	機能運動論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直		

[到達目標]
　身体の動きを理解し、運動に関連する神経、筋、関節について学び、その障害を理解する。また運動機能の評価法を学習するとともに日常生活動作と生活関連動作を理解する。

[授業概要]
　運動のみならず、日常生活動作ならびに生活関連動作について運動の機構およびそのコントロールを理解し、運動機能の評価と障害に対する対策を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する。

[授業計画]
1. 機能解剖とバイオメカニクスの概要
2. 骨・筋肉・関節の名称と動き1（上肢）①
3. 骨・筋肉・関節の名称と動き2（上肢の関節と動き）
4. 骨・筋肉・関節の名称と動き3（下肢）①
5. 骨・筋肉・関節の名称と動き4（下肢の関節と動き）
6. 骨・筋肉・関節の名称と動き5（体幹と脊柱）
7. 身体の歪みと正しい姿勢の保持
8. 体幹の運動トレーニングと姿勢バランス
9. バイオメカニクス1（筋肉の収縮様式、筋の弾性要素・弾性エネルギー）
10. バイオメカニクス2（スポーツ力学の概要）
11. バイオメカニクス3（重心、運動量と力積）
12. バイオメカニクス4（慣性モーメント、パワーの発揮とエネルギーの伝達）
13. バイオメカニクス5（運動と流体力）
14. 運動実践指導者取得のための機能解剖学とバイオメカニクスの要点
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート(100%)により評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布

[参考書（ISBN）]
理学療養士・作業療養士・言語療養士のための解剖学　著者名：渡辺正仁　出版社：廣川書店　(4-567-51774-1 C3047)

P11100490 [WB2-007]

科目名	給食運営管理実習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤　誓子		

[到達目標]
　給食現場では、栄養管理・経営管理・衛生管理・品質管理などに係る諸問題を総合的に判断し、解決する能力が求められるが、これらに対して実践的に対応可能な知識を取得することを目標とする。

[授業概要]
　給食計画実務論で学んだ知識と、給食運営管理技術の統合を図るため、実際に大量調理を行い、給食現場における種々のマネージメントを修得することに重点をおいている。
　与えられた課題のみを解決するのではなく、自らが課題を発展的に展開する能力を養うことも重要であり、このような観点からも学修を行う。
　なお、衛生管理のために検便を数回行う。この結果により調理作業を許可しているので、日常の健康管理にも注意を払う必要がある。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　給食計画・実務論の内容を復習し、次回の実習担当部分の予習をしておくこと

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 献立作成演習
3. 作業管理、衛生管理、安全管理に係る事前教育
4. 帳票類事務演習：食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習①
5. 帳票類事務演習：食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習②
6. 帳票類事務演習：食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習③
7. 帳票類事務演習：食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習④
8. 試作、予定献立の作成
9. 発注計画、作業工程表の作成
10. 厨房内実習による給食提供：喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。①
11. 厨房内実習による給食提供：喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。②
12. 厨房内実習による給食提供：喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。③
13. 厨房内実習による給食提供：喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。④
14. 新調理システム実習、災害時給食講義
15. 全体を通しての評価、反省、まとめ

[成績評価方法]
実習中の態度80%、レポートの進捗状況20%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
日本栄養士会「給食経営管理論」 著者名：全国栄養士養成施設協会　出版社：第一出版 （978-4-8041-1347-0 C3377）

P11100290A [WI2-011]

科目名	給食運営管理実習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤　誓子		

[到達目標]
　給食現場では、栄養管理・経営管理・衛生管理・品質管理などに係る諸問題を総合的に判断し、解決する能力が求められるが、これらに対して実践的に対応可能な知識を取得することを目標とする。

[授業概要]
　給食計画実務論で学んだ知識と、給食運営管理技術の統合を図るため、実際に大量調理を行い、給食現場における種々のマネージメントを修得することに重点をおいている。
　与えられた課題のみを解決するのではなく、自らが課題を発展的に展開する能力を養うことも重要であり、このような観点からも学修を行う。
　なお、衛生管理のために検便を数回行う。この結果により調理作業を許可しているので、日常の健康管理にも注意を払う必要がある。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　給食計画・実務論の内容を復習し、次回の実習担当部分の予習をしておくこと

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 献立作成演習
3. 作業管理、衛生管理、安全管理に係る事前教育
4. 帳票類事務演習：食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習①
5. 帳票類事務演習：食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習②
6. 帳票類事務演習：食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習③
7. 帳票類事務演習：食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習④
8. 試作、予定献立の作成
9. 発注計画、作業工程表の作成
10. 厨房内実習による給食提供：喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。①
11. 厨房内実習による給食提供：喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。②
12. 厨房内実習による給食提供：喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。③
13. 厨房内実習による給食提供：喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。④
14. 新調理システム実習、災害時給食講義
15. 全体を通しての評価、反省、まとめ

[成績評価方法]
実習中の態度80%、レポートの進捗状況20%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
日本栄養士会「給食経営管理論」 著者名：全国栄養士養成施設協会　出版社：第一出版 （978-4-8041-1347-0 C3377）

P11100290B [WI2-011]

科目名	給食管理実習Ⅰ（校外）	前期～後期	1 単位
サブタイトル	特定給食施設における給食運営の実際		
担当者	佐藤　誓子		

[到達目標]
事業所・小学校・福祉施設などの特定給食施設において、各施設の組織の概要を理解して各施設での給食に係る組織と運営・業務内容の実態を把握し、給食運営管理のあり方を修得する。
なお、実習時間のうち40時間を校外にて行い、5時間を事前事後教育として学内にて行う。

[授業概要]
給食経営の資源となる、「人」「物」「金」「情報」について、それぞれの施設での運営状況を学ぶ。単なる見学ではなく、実践活動の場での課題発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
給食計画実務論、給食運営管理実習、調理科学、基礎調理学実習、応用調理学実習Ⅰの内容を復習しておくこと

[授業計画]
1. オリエンテーション（学内）
2. 各特定給食施設の特徴の把握と、自己課題作成演習（学内）
3. 大量調理実習・主として調理（校外）
4. 大量調理実習・主として調理（校外）
5. 大量調理・衛生管理（校外）
6. 大量調理・衛生管理（校外）
7. 施設の対象者に応じた食事計画演習（校外）
8. 施設の対象者に応じた食事計画演習（校外）
9. 作業工程作成演習（校外）
10. 作業工程作成演習（校外）
11. 発注計画表作成演習（校外）
12. 献立・栄養評価演習（校外）
13. 各施設での管理栄養士・栄養士の役割に関する授業（校外）
14. 実習先での反省会（校外）
15. 反省会・まとめ（学内）

[成績評価方法]
学内での事前事後教育中の平常点とレポート10%、校外での平常点90%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
管理栄養士・栄養士必携　著者名：日本栄養士会　編　出版社：第一出版（978-4-8041-1300-5 C2177）

P11100340 [WI3-005]

科目名	給食管理実習Ⅱ（校外）	前期	1 単位
サブタイトル	特定給食施設における給食運営の実際		
担当者	佐藤　誓子、鈴木　一永		

[到達目標]
病院・福祉施設などの特定給食施設において、各施設の組織の概要を理解して各施設での給食に係る組織と運営・業務内容の実態を把握し、給食運営管理のあり方を修得する。
なお、実習時間のうち40時間を校外にて行い、5時間を事前事後教育として学内にて行う。

[授業概要]
給食経営の資源となる、「人」「物」「金」「情報」について、それぞれの施設での運営状況を学ぶ。実践活動の場での課題発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。給食管理実習Ⅰ（校外）で学修した実践力をさらに充実させ，集団にある個々の対象者への対応に必要な技能を身につける。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
給食管理実習Ⅰ（校外）での学修内容を振り返ることに加え，臨床栄養学について復習しておくこと

[授業計画]
1. オリエンテーション（学内：佐藤）
2. 各特定給食施設の特徴の把握と、自己課題作成演習（学内：佐藤、鈴木）
3. 大量調理実習・主として調理（校外）
4. 大量調理実習・主として調理（校外）
5. 大量調理・衛生管理（校外）
6. 大量調理・衛生管理（校外）
7. 施設の対象者に応じた食事計画演習（校外）
8. 施設の対象者に応じた食事計画演習（校外）
9. 作業工程作成演習（校外）
10. 作業工程作成演習（校外）
11. 発注計画表作成演習（校外）
12. 献立・栄養評価演習（校外）
13. 各施設での管理栄養士・栄養士の役割に関する授業（校外）
14. 実習先での反省会（校外）
15. 反省会・まとめ（学内：佐藤）

[成績評価方法]
学内での事前事後教育中の平常点とレポート10%、校外での平常点90%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
管理栄養士・栄養士必携　著者名：日本栄養士会　編　出版社：第一出版（978-4-8041-1347-0 C3377）

P11100630 [WI4-010]

科目名	給食計画・実務論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤　誓子		

[到達目標]
　給食運営のための基礎知識を学ぶ。栄養・衛生・生産・品質・原価管理など多岐に亘る栄養士・管理栄養士業務を把握し、次期の学内実習及び校外実習に活かせる学修を目標とする。

[授業概要]
1. 給食の定義を理解する。
2. 栄養士法に示される栄養士・管理栄養士業務のうち、給食運営に関わる内容を理解する。
3. 給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経営面などのマネージメントを行う能力を養う。
4. 給食の対象となる人や集団を把握した上で、個々の対象者への対応に必要な技能について学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　調理学の知識を復習して授業に臨むこと。
　次回の授業内容を，教科書によって予習しておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 給食の概念
3. 給食における経営管理
4. 給食における栄養・食事管理(1)
5. 給食における栄養・食事管理(2)
6. 給食の組織・人事管理
7. 給食の生産(調理)管理(1)
8. 給食の生産(調理)管理(2)
9. 給食の品質管理
10. 給食の会計・原価管理
11. 給食の情報処理管理
12. 事故・災害時対策
13. 保健・医療・福祉・介護における給食の位置づけ
14. 栄養士・管理栄養士の活動の実際，献立作成演習
15. まとめ
16. 試験

[成績評価方法]
レポート15%，試験75%，平常点10%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
給食経営管理論 サクセス管理栄養士講座　著者名：全国栄養士養成施設協会・日本栄養士会監修　出版社：第一出版 (978-4-8041-1366-1)

[参考書(ISBN)]
管理栄養士・栄養士必携　著者名：日本栄養士会　編　出版社：第一出版 (978-4-8041-1357-9)

P11100280A [WI2-009]

科目名	給食計画・実務論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤　誓子		

[到達目標]
　給食運営のための基礎知識を学ぶ。栄養・衛生・生産・品質・原価管理など多岐に亘る栄養士・管理栄養士業務を把握し、次期の学内実習及び校外実習に活かせる学修を目標とする。

[授業概要]
1. 給食の定義を理解する。
2. 栄養士法に示される栄養士・管理栄養士業務のうち、給食運営に関わる内容を理解する。
3. 給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経営面などのマネージメントを行う能力を養う。
4. 給食の対象となる人や集団を把握した上で、個々の対象者への対応に必要な技能について学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　調理学の知識を復習して授業に臨むこと。
　次回の授業内容を，教科書によって予習しておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 給食の概念
3. 給食における経営管理
4. 給食における栄養・食事管理(1)
5. 給食における栄養・食事管理(2)
6. 給食の組織・人事管理
7. 給食の生産(調理)管理(1)
8. 給食の生産(調理)管理(2)
9. 給食の品質管理
10. 給食の会計・原価管理
11. 給食の情報処理管理
12. 事故・災害時対策
13. 保健・医療・福祉・介護における給食の位置づけ
14. 栄養士・管理栄養士の活動の実際，献立作成演習
15. まとめ
16. 試験

[成績評価方法]
レポート15%，試験75%，平常点10%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
給食経営管理論 サクセス管理栄養士講座　著者名：全国栄養士養成施設協会・日本栄養士会監修　出版社：第一出版 (978-4-8041-1366-1)

[参考書(ISBN)]
管理栄養士・栄養士必携　著者名：日本栄養士会　編　出版社：第一出版 (978-4-8041-1357-9)

P11100280B [WI2-009]

科目名	健康管理概論(倫理学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	鈴木　一永		

[到達目標]
　疾患、治療と関連付けて運動実践・栄養管理に基づく健康管理について理解する。また、健康に関わる職業人としての倫理観を身につける。

[授業概要]
　健康、運動、栄養、倫理について疾患、治療と関連づけて、マクロおよびミクロの視点から理解する。また、健康管理と健康づくりについて、他の関係科目と併せて理解を深める。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　人間の命・人間社会における倫理について常に考え、新聞その他の報道を含めて様々な情報を入手すること。

[授業計画]
1. 健康・病気とは何か(健康・病気、正常・異常、健康維持・健康増進・健康回復)、医療面接
2. 細胞の構造と働き(生物と細胞)
3. 細胞の構造と働き(細胞膜)、DNAとタンパク質合成
4. 炭酸同化・窒素同化
5. 細胞の働きと酵素(代謝・ATP・細胞呼吸)
6. 生態系と栄養・エネルギー
7. 感染症概論、感染症(寄生虫)
8. 感染症(原虫・細菌)
9. 感染症(真菌・ウイルス)
10. プリオン
11. 医療と倫理(生命・死)
12. 終末期医療
13. 医療倫理(インフォームドコンセント・倫理綱領・医療訴訟)
14. 医療倫理(個人情報)
15. まとめ

[成績評価方法]
試験を実施する(100%)。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
ニューステージ新生物図表
1年生後期解剖生理学でも使用。2年生前期臨床医学概論でも使用。 著者名:浜島書店編集部　出版社:浜島書店 (978-4-8343-4009-9 C7345)

[参考書(ISBN)]
なし

P11100410 [WI1-010]

科目名	健康食育論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	本田　まり		

[到達目標]
①日本における食育推進に関連した法規や施策などの基本的枠組みを理解している。
②食生活をめぐるを諸問題を理解し、家庭、学校・保育所等、地域における望ましい食育推進のあり方を理解している。
③地球環境に対して、食育の観点から取り組むべき役割を理解している。

[授業概要]
なぜ食育が必要なのか、子どもたちの心身の健康から高齢期の健康に至る食育の意義を理解し、国の施策や家庭、学校・保育所等、地域における取り組みについて具体的に学びます。また、地球環境に対して重要な食育の役割等について学び、食育を実践するための知識を深めます。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
食環境や家庭環境、地球環境、食文化などに関するニュースに目を向けておいてください。授業で使用するテキストは農林水産省が公表している「食育白書」を使用します。第1回目の授業で資料の準備について案内します。印刷の際に目を通すようにしてください。

[授業計画]
1. 健康の概念、食育基本法、保育所における食育指針など
2. 食育推進政策の現状と課題
3. 家庭、学校・保育所等、地域における食育の推進①
4. 家庭、学校・保育所等、地域における食育の推進②
5. 食育推進運動の展開、農山漁村の活性化等への取り組み
6. 食文化の継承のための取り組み
7. 食品の安全性等に関する取り組み
8. 食料自給率の現状と課題
9. 地球環境と栄養問題、食料ロス・廃棄問題
10. 日本の食文化(マナー含む)
11. 世界における食育
12. 日本の食育に関連した調査結果、食育推進基本計画に対する評価
13. 小児の健康と食育(肥満、メタボリックシンドローム、痩せ)
14. 小児疾患と食育(食物アレルギー)
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(70%)、授業態度(30%)で評価します。授業態度は、課題の実施状況や授業への積極性、質疑応答の様子も含みます。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
食育白書　平成29年版　出版社:日経印刷

[参考書(ISBN)]
なし

P11100620 [WI2-017]

科目名	健康体力評価論(含実習)	前期	1 単位
サブタイトル	体力の測定と評価		
担当者	小田　慶喜		

[到達目標]
健康・体力づくりの指導者として、健康・体力づくりの基礎的な知識を理解した上で、体力テストを実施し、結果を評価する方法を理解する。また、それらを健康・体力づくりやトレーニングに安全かつ効果的に活用する力を養う。

[授業概要]
有酸素性、無酸素性作業能力を表す指標や身体組成の測定原理とそれらの測定方法について実習を通して理解する。また、新体力テストの各項目と体力要素の関連を理解し、実習を通して体力テストの結果を評価する方法と健康・体力づくりやトレーニングなどへの活用方法を理解する。また、体力測定は、個人や集団の体力の実態を要因別、総合的に評価し健康づくり策の重要性であることを理解する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
健康運動実践指導者には、現場で対応するための多くの実践的知識の活用が必要とされます。すでに学んでいる知識を実践的に活用できるように、教科書を事前に読んで知識の整理をしておいてください。

[授業計画]
1. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について①
2. 体力の概念と構成要素、体力測定の目的や対象について
3. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について②
4. 身体組成の測定方法について①
5. 身体組成の測定方法について②
6. 新体力テストと測定方法
7. 体力測定①
8. 体力測定②
9. 測定結果の評価①
10. 測定結果の評価②
11. 測定結果からのトレーニング方法実践①
12. 測定結果からのトレーニング方法実践②
13. 体力測定③
14. 体力測定④
15. 測定結果の評価③、発表、まとめ

[成績評価方法]
授業態度(25%)、発表(25%)、個人スキル(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
健康運動実践指導者養成用テキスト　著者名:不明　出版社:(財)健康・体力づくり事業財団

[参考書(ISBN)]
なし

P11100470A [WI3-011]

科目名	健康体力評価論(含実習)	前期	1 単位
サブタイトル	体力の測定と評価		
担当者	小田　慶喜		

[到達目標]
健康・体力づくりの指導者として、健康・体力づくりの基礎的な知識を理解した上で、体力テストを実施し、結果を評価する方法を理解する。また、それらを健康・体力づくりやトレーニングに安全かつ効果的に活用する力を養う。

[授業概要]
有酸素性、無酸素性作業能力を表す指標や身体組成の測定原理とそれらの測定方法について実習を通して理解する。また、新体力テストの各項目と体力要素の関連を理解し、実習を通して体力テストの結果を評価する方法と健康・体力づくりやトレーニングなどへの活用方法を理解する。また、体力測定は、個人や集団の体力の実態を要因別、総合的に評価し健康づくり策の重要性であることを理解する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
健康運動実践指導者には、現場で対応するための多くの実践的知識の活用が必要とされます。すでに学んでいる知識を実践的に活用できるように、教科書を事前に読んで知識の整理をしておいてください。

[授業計画]
1. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について①
2. 体力の概念と構成要素、体力測定の目的や対象について
3. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について②
4. 身体組成の測定方法について①
5. 身体組成の測定方法について②
6. 新体力テストと測定方法
7. 体力測定①
8. 体力測定②
9. 測定結果の評価①
10. 測定結果の評価②
11. 測定結果からのトレーニング方法実践①
12. 測定結果からのトレーニング方法実践②
13. 体力測定③
14. 体力測定④
15. 測定結果の評価③、発表、まとめ

[成績評価方法]
授業態度(25%)、発表(25%)、個人スキル(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
健康運動実践指導者養成用テキスト　著者名:不明　出版社:(財)健康・体力づくり事業財団

[参考書(ISBN)]
なし

P11100470B [WI3-011]

科目名	健康福祉論(ライフサイクルとQOLを含む)	後期	2 単位
サブタイトル	健康と福祉の関係		
担当者	重福　京子		

[到達目標]
　人々が心身ともに健やかな状態で、障がいをもつ・もたないにかかわらず、こどもから高齢者まで、誰もがいきいきと生きることのできる健康的なくらしのあり方を理解する。

[授業概要]
　誰もが心身ともに健康で、いきいきと生きることのできる健康的な暮らしのあり方を考え、健康寿命の延伸と健康に関する生活の質(QOL)の向上をめざし、一人一人が自己の選択に基づいて健康を増進する。そして個人の活動を社会全体が支援していくことの健康日本21基本理念を理解し、子どもから高齢者に至るまで、健康を支えるための知識と実践力を身につける。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　日頃から授業に関係するニュースに関心を持つこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 健康観について
3. 健康生活について
4. 健康福祉について
5. ライフサイクルと健康福祉1
6. ライフサイクルと健康福祉2
7. ライフサイクルと健康福祉3
8. ライフサイクルと健康福祉4
9. ライフサイクルと健康福祉5
10. グループ発表1
11. グループ発表2
12. グループ発表3
13. グループ発表4
14. まとめ1
15. まとめ2

[成績評価方法]
試験(60%)、レポート(10%)、授業態度(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P11100600 [WI2-016]

科目名	公衆衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	社会・環境と健康		
担当者	鈴木　一永、木村　大輔		

[到達目標]
公衆衛生学は、人の健康の保持・増進を考える学問である。各種統計を理解し、社会環境と健康問題、国および地方公共団体により行われている施策、WHO等の国際機関の活動について学ぶ。

[授業概要]
公衆衛生とは、地域社会の組織的努力によって人間集団の健康保持・増進のための施策が展開されるものである。様々な施策を推進する上での基盤となるのが統計であり、公衆衛生学では、健康・疾病・行動に関する統計の概念を理解する必要がある。さらに、現行の公衆衛生活動ならびに生活環境により引き起こされる健康障害について学び、栄養士としての活動の基盤を形成する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
教科書は、事前に一読することが望ましい。日常の報道(新聞・TVなど)から得られる最新の話題も常に注目すること。

[授業計画]
1. 公衆衛生の基本・環境と健康(鈴木)
2. 保健統計(木村)
3. 疫学の概念・疫学研究(鈴木)
4. スクリーニング(木村)
5. 疫学研究における情報の活用・倫理(木村)
6. 公衆衛生活動の理論・モデル(木村)
7. 生活習慣の現状(木村)
8. 生活習慣病(鈴木)
9. 感染症・難病(木村)
10. 地域保健・高齢者保健・精神保健(木村)
11. 母子保健・学校保健・障害者保健・歯科保健(木村)
12. 産業保健・国際保健(鈴木)
13. 医療対策・社会保障(鈴木)
14. 保険と医療と福祉の連携(木村)
15. まとめ(木村)
順序は変更になる場合があります。

[成績評価方法]
試験を実施する(100%)。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P11100010A [WB3-001]

科目名	公衆衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	社会・環境と健康		
担当者	鈴木　一永、木村　大輔		

[到達目標]
公衆衛生学は、人の健康の保持・増進を考える学問である。各種統計を理解し、社会環境と健康問題、国および地方公共団体により行われている施策、WHO等の国際機関の活動について学ぶ。

[授業概要]
公衆衛生とは、地域社会の組織的努力によって人間集団の健康保持・増進のための施策が展開されるものである。様々な施策を推進する上での基盤となるのが統計であり、公衆衛生学では、健康・疾病・行動に関する統計の概念を理解する必要がある。さらに、現行の公衆衛生活動ならびに生活環境により引き起こされる健康障害について学び、栄養士としての活動の基盤を形成する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書は、事前に一読することが望ましい。日常の報道（新聞・TVなど）から得られる最新の話題も常に注目すること。

[授業計画]
1. 公衆衛生の基本・環境と健康（鈴木）
2. 保健統計（木村）
3. 疫学の概念・疫学研究（鈴木）
4. スクリーニング（木村）
5. 疫学研究における情報の活用・倫理（木村）
6. 公衆衛生活動の理論・モデル（木村）
7. 生活習慣の現状（木村）
8. 生活習慣病（鈴木）
9. 感染症・難病（木村）
10. 地域保健・高齢者保健・精神保健（木村）
11. 母子保健・学校保健・障害者保健・歯科保健（木村）
12. 産業保健・国際保健（鈴木）
13. 医療対策・社会保障（鈴木）
14. 保険と医療と福祉の連携（木村）
15. まとめ（木村）
順序は変更になる場合があります。

[成績評価方法]
試験を実施する（100%）。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11100010B [WB3-001]

科目名	公衆栄養学概論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	林　宏一		

[到達目標]
公衆栄養学が社会に果たす役割を理解できるようになる。
公衆栄養活動の理念を理解できるようになる。
科学的根拠に基づく公衆栄養活動の重要性が理解できるようになる。
わが国および諸外国において実施されている公衆栄養活動に共通する展開の手法を理解できるようになる。

[授業概要]
集団の健康・栄養問題を把握し、適切な公衆栄養プログラム（計画・実施・モニタリング・評価・フィードバック）をマネジメントするための理論を学習します。さらに、わが国及び諸外国においてどのような健康・栄養問題が存在し、その課題を解決するために展開されている栄養政策について学習します。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
この科目は、自然科学である栄養学の一分野ですが、同時に、社会医学である公衆衛生学の中の主要な一分野でもあります。日ごろから、報道等に接し、健康・栄養問題にかかわる社会情勢を積極的に見聞しておいてください。

[授業計画]
1．公衆栄養学の概念
　1）公衆栄養学の概念
　2）公衆栄養活動
2．公衆栄養マネジメントとアセスメント
　1）マネジメントの概念とプロセス
　2）公衆栄養アセスメントの特徴
3．公衆栄養プログラム計画と目標
　1）計画の策定
　2）目標の設定
4．公衆栄養プログラムの実施と評価
　1）対象者と実施者
　2）地域社会資源の活用と協働
　3）プログラムの評価とフィードバック
5．栄養疫学(1)
　1）栄養疫学の概要
6．栄養疫学(2)
　1）食事調査方法の種類と特徴
　2）データの評価
7．わが国の健康・栄養問題の現状と課題
　1）少子高齢社会と健康・栄養問題
　2）健康・栄養状態の変化
8．わが国の食事・食生活・食環境の変化
　1）食行動・食態度・食知識・食スキルの変化
　2）食環境の変化
9．わが国の栄養政策(1)
　1）公衆栄養活動の歴史
　2）栄養関連法規
　3）管理栄養士、栄養士養成制度
10．わが国の栄養政策(2)
　1）日本人の食事摂取基準
11．わが国の栄養政策(3)
　1）食事摂取基準活用の基礎理論
　2）集団への適用と栄養疫学
12．わが国の栄養政策(4)
　1）国民健康・栄養調査
　2）特別用途食品・保健機能食品プログラム
　3）栄養成分表示プログラム
13．わが国の栄養政策(5)
　1）食生活指針・運動指針・休養指針・睡眠指針
　2）食事バランスガイド
　3）健康日本21－結果評価と今後の展開－
　4）特定健診・特定保健指導
14．諸外国における健康・栄養問題の現状と課題
　1）諸外国の現状と課題
　2）国際機関、諸外国の健康・栄養政策
　3）諸外国の食生活指針とフードガイド
15．これからの公衆栄養学の展望と課題
16．試験

[成績評価方法]
試験（80%）、小テスト（10%）、課題レポート（10%）で評価します。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
健康・栄養科学シリーズ「公衆栄養学」改訂5版　著者名：古野純典他編　出版社：南江堂 （978-4-524-26166-6）

[参考書（ISBN）]
日本人の食事摂取基準（2015年版） 著者名：厚生労働省　出版社：第一出版 （978-4-8041-1312-8）

P11100260A [WI2-008]

科目名	公衆栄養学概論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	林　宏一		

[到達目標]
公衆栄養学が社会に果たす役割を理解できるようになる。
公衆栄養活動の理念を理解できるようになる。
科学的根拠に基づく公衆栄養活動の重要性が理解できるようになる。
わが国および諸外国において実施されている公衆栄養活動に共通する展開の手法を理解できるようになる。

[授業概要]
集団の健康・栄養問題を把握し、適切な公衆栄養プログラム（計画・実施・モニタリング・評価・フィードバック）をマネジメントするための理論を学習します。さらに、わが国及び諸外国においてどのような健康・栄養問題が存在し、その課題を解決するために展開されている栄養政策について学習します。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
この科目は、自然科学である栄養学の一分野ですが、同時に、社会医学である公衆衛生学の中の主要な一分野でもあります。日ごろから、報道等に接し、健康・栄養問題にかかわる社会情勢を積極的に見聞しておいてください。

[授業計画]
1．公衆栄養学の概念
　1）公衆栄養学の概念
　2）公衆栄養活動
2．公衆栄養マネジメントとアセスメント
　1）マネジメントの概念とプロセス
　2）公衆栄養アセスメントの特徴
3．公衆栄養プログラム計画と目標
　1）計画の策定
　2）目標の設定
4．公衆栄養プログラムの実施と評価
　1）対象者と実施者
　2）地域社会資源の活用と協働
　3）プログラムの評価とフィードバック
5．栄養疫学(1)
　1）栄養疫学の概要
6．栄養疫学(2)
　1）食事調査方法の種類と特徴
　2）データの評価
7．わが国の健康・栄養問題の現状と課題
　1）少子高齢社会と健康・栄養問題
　2）健康・栄養状態の変化
8．わが国の食事・食生活・食環境の変化
　1）食行動・食態度・食知識・食スキルの変化
　2）食環境の変化
9．わが国の栄養政策(1)
　1）公衆栄養活動の歴史
　2）栄養関連法規
　3）管理栄養士、栄養士養成制度
10．わが国の栄養政策(2)
　1）日本人の食事摂取基準
11．わが国の栄養政策(3)
　1）食事摂取基準活用の基礎理論
　2）集団への適用と栄養疫学
12．わが国の栄養政策(4)
　1）国民健康・栄養調査
　2）特別用途食品・保健機能食品プログラム
　3）栄養成分表示プログラム
13．わが国の栄養政策(5)
　1）食生活指針・運動指針・休養指針・睡眠指針
　2）食事バランスガイド
　3）健康日本21－結果評価と今後の展開－
　4）特定健診・特定保健指導
14．諸外国における健康・栄養問題の現状と課題
　1）諸外国の現状と課題
　2）国際機関、諸外国の健康・栄養政策
　3）諸外国の食生活指針とフードガイド
15．これからの公衆栄養学の展望と課題
16．試験

[成績評価方法]
試験（80%）、小テスト（10%）、課題レポート（10%）で評価します。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
健康・栄養科学シリーズ「公衆栄養学」改訂5版　著者名：古野純典他編　出版社：南江堂 （978-4-524-26166-6）

[参考書（ISBN）]
日本人の食事摂取基準（2015年版） 著者名：厚生労働省　出版社：第一出版 （978-4-8041-1312-8）

P11100260B [WI2-008]

科目名	公衆栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	田中　敦子		

[到達目標]
公衆栄養学概論の知識を踏まえ、地域や職域などの健康問題や栄養問題とそれを取り巻く様々な環境要因に関する情報を収集・分析して、それらに基づいて保健栄養計画を作成、実施、評価を実践例から学習し、総合的にマネジメントする能力を養うことを目指します。

[授業概要]
地域の保健、医療、福祉及び介護の場において、グループワークや事例分析によって、集団の健康・栄養問題の把握方法を理解し、それらを具体的に活用して、公衆栄養プログラムを作成、実施、それを総合的に評価する方法を学びます。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
住居地や出身地の自分の生活圏内で、どのような健康施策が展開されているか、日頃から興味や関心を持つこと。

[授業計画]
1 公衆栄養関係の情報収集(既存資料の活用)
2 アンケート調査の設計
3 プレゼンⅠ(アンケート調査の設計)
4 公衆栄養アセスメント
　食物摂取状況調査①(記録法)
5 食物摂取状況調査②(記録法の分析)
6 食物摂取状況調査③(24時間思い出し法)
7 食物摂取状況調査④(24時間思い出し法の分析)
8 食物摂取状況調査⑤(食物摂取頻度調査)
9 食物摂取状況のデータ解析①
10 食物摂取状況のデータ解析②
11 プレゼンⅡ(食物摂取状況及び食事調査の計画)
12 地域の栄養活動の計画・目標設定①(地域状況把握)
13 地域の栄養活動の計画・目標設定②(地域の健康・食生活状況、社会資源等)
14 地域の栄養活動の計画・目標設定③(まとめ)
15 プレゼンⅢ(地域の栄養活動)

[成績評価方法]
レポート(50%)、授業への取り組み(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「公衆栄養学実習」 著者名:井上浩一、川野因、本田栄子　出版社:建帛社 (978-4-7679-0468-9)

[参考書(ISBN)]
なし

P11100270A [WI3-004]

科目名	公衆栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	田中　敦子		

[到達目標]
公衆栄養学概論の知識を踏まえ、地域や職域などの健康問題や栄養問題とそれを取り巻く様々な環境要因に関する情報を収集・分析して、それらに基づいて保健栄養計画を作成、実施、評価を実践例から学習し、総合的にマネジメントする能力を養うことを目指します。

[授業概要]
地域の保健、医療、福祉及び介護の場において、グループワークや事例分析によって、集団の健康・栄養問題の把握方法を理解し、それらを具体的に活用して、公衆栄養プログラムを作成、実施、それを総合的に評価する方法を学びます。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
住居地や出身地の自分の生活圏内で、どのような健康施策が展開されているか、日頃から興味や関心を持つこと。

[授業計画]
1 公衆栄養関係の情報収集(既存資料の活用)
2 アンケート調査の設計
3 プレゼンⅠ(アンケート調査の設計)
4 公衆栄養アセスメント
　食物摂取状況調査①(記録法)
5 食物摂取状況調査②(記録法の分析)
6 食物摂取状況調査③(24時間思い出し法)
7 食物摂取状況調査④(24時間思い出し法の分析)
8 食物摂取状況調査⑤(食物摂取頻度調査)
9 食物摂取状況のデータ解析①
10 食物摂取状況のデータ解析②
11 プレゼンⅡ(食物摂取状況及び食事調査の計画)
12 地域の栄養活動の計画・目標設定①(地域状況把握)
13 地域の栄養活動の計画・目標設定②(地域の健康・食生活状況、社会資源等)
14 地域の栄養活動の計画・目標設定③(まとめ)
15 プレゼンⅢ(地域の栄養活動)

[成績評価方法]
レポート(50%)、授業への取り組み(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「公衆栄養学実習」 著者名:井上浩一、川野因、本田栄子　出版社:建帛社 (978-4-7679-0468-9)

[参考書(ISBN)]
なし

P11100270B [WI3-004]

科目名	国際健康福祉プログラムⅠ	前期	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program		
担当者	松本　衣代、山下　俊介、野口　和美		

[到達目標]
インドネシア・バリ島での大学病院や地域保健所等での研修や実習を通して、世界の健康・医療の問題に目を向け、運動、栄養、社会福祉と健康との関わりについて世界の現状を知り、国際感覚を身に着けて世界の舞台で活躍できる栄養や福祉の人材育成に資するきっかけを提供する。

[授業概要]
インドネシア共和国立バリ州（バリ島）にあるインドネシア国立ウダヤナ大学と神戸女子大学の提携によって企画された健康福祉プログラムで、急激な発展途上にありdouble burden of nutrition に直面するインドネシア・バリ島において、過剰と不足と言う健康問題の二極化を地域の保健所、病院、各福祉施設等の見学を通して実際に触れながら理解を深める。また、ウダヤナ大学医学部在学生との交流を通して、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと、日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと、相手国の歴史、社会情勢に関心を持ち自ら学習するために本などを読む。又、英会話の勉強を日頃よりしておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション（健康スポーツ栄養学科・松本衣代）
2. インドネシアにおける共同研究と健康・栄養調査（健康スポーツ栄養学科・松本衣代）
3. 国際協働について（神戸国際教養学科・野口和美）
4. インドネシアの医療事情（健康スポーツ栄養学科・松本衣代）
5. 英語コミュニケーション①（健康スポーツ栄養学科・山下俊介）
6. 英語コミュニケーション②（健康スポーツ栄養学科・山下俊介）
7. 英語コミュニケーション③（健康スポーツ栄養学科・山下俊介）
8. インドネシア社会と歴史・言語（健康スポーツ栄養学科・松本衣代）
9. バリ社会と歴史・言語（健康スポーツ栄養学科・松本衣代）
10. ウダヤナ大学における研修―インドネシア・バリ島の健康栄養問題講義（ウダヤナ大学医学部教員）
11. ウダヤナ大学における研修―ウダヤナ大学付属病院内研修―栄養指導・給食業務―（ウダヤナ大学医学部教員）
12. ウダヤナ大学における研修―地域保健施設訪問・見学①―（ウダヤナ大学医学部教員）
13. ウダヤナ大学における研修―地域保健施設訪問・見学②―（ウダヤナ大学医学部教員）
14. 総合討論・まとめ（修了式）（ウダヤナ大学医学部教員・健康スポーツ栄養学科松本衣代）
15. 神戸女子大学での研修報告会（健康スポーツ栄養学科松本衣代）

[成績評価方法]
レポート（研修・活動報告書を含む）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
必要に応じて文献、プリント等配布

[参考書（ISBN）]
旅の指さし会話帳〈2〉インドネシア―インドネシア語（ここ以外のどこかへ） 著者名：武部洋子　出版社：情報センター出版局 （4795845034）

P11100810 [WI3-014]

科目名	国際健康福祉プログラムⅡ	前期	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program		
担当者	松本　衣代、奥野　直、山下　俊介、狩野　恭		

[到達目標]
ドイツのリハビリテーション病院での臨床栄養・健康福祉研修等の実習を通して、世界の健康・医療の問題に目を向け、運動、栄養、社会福祉と健康との関わりについて世界の現状を知り、国際感覚を身に着けて世界の舞台で活躍できる栄養や福祉の人材育成に資するきっかけを提供する。

[授業概要]
世界的超高齢化社会を迎えた21世紀において、肥満、糖尿病等の生活習慣病の問題はドイツをはじめとしてEU諸国においても深刻である。その対応策として治療に食事療法・運動療法を効果的に取り入れ、且つ、健康・医療を社会福祉理念に基づき運営されるドイツのリハビリテーション病院（ホーエン・フロイデンシュタット病院他）における研修を行い、実学としての海外における臨床栄養、医療・社会福祉の現場を学び、また、現地の医療スタッフや患者さんたちとの交流を通して、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと、日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと、相手国の歴史、社会情勢に関心を持ち自ら学習するために本などを読む。又、英会話の勉強を日頃よりしておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション （松本）
2. ドイツ社会と歴史・言語 （狩野恭）
3. 運動療法 （奥野）
4. 生活習慣病を中心とした臨床栄養概論1 （松本）
5. 生活習慣病を中心とした臨床栄養概論2 （松本）
6. 臨床栄養学実習特論 （松本）
7. 英語コミュニケーション①（山下）
8. 英語コミュニケーション②（山下）
9. 英語コミュニケーション③（山下）
10. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修①
11. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修②
12. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修③
13. ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修④
14. 総合討論・まとめ（修了式）
＊10～14の担当はホーエン・フロイデンシュタット病院スタッフ松本とする
15. 神戸女子大学での研修報告会（松本）

[成績評価方法]
レポート（研修・活動報告書を含む）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
必要に応じて文献等プリント配布

P11100820 [WI3-015]

科目名	災害時の食事・栄養管理実習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	松浦　紀美恵		

[到達目標]
地震・風水害等の災害時の非常時に栄養士としての役割を遂行できる知識と技術を身に付ける。

[授業概要]
近年、日本で発生している災害についての基礎知識を持ち、過去に発生した災害時の食事状況を把握して、ライフラインの停止時、ライフラインの復旧後など段階別での食品の仕分けや調理方法を考え実施する。また、防災センターの見学や実際に街を歩き、避難所までの避難経路などを確認したり、自ら体験しながら学ぶように考えている。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
自然災害に関連する新聞や資料を読み、良く理解をしておくこと。コンビニやスーパーの食品売り場で保存性が高く、調理が簡単にできる食品を探しておくなど、災害時に関する予習を行っておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 災害についての基本的知識①
3. 災害についての基本的知識②
4. 災害についての基本的知識③
5. 防災センター見学①
6. 防災センター見学②
7. 災害時の「食」「生活」の対処方法①
8. 災害時の「食」「生活」の対処方法②
9. 災害時の「食」「生活」の対処方法③
10. 災害時の「食」「生活」の対処方法④
11. 災害時の「食」「生活」の対処方法⑤
12. 災害時の「食」「生活」の対処方法⑥
13. 災害時の「支援」について①
14. 災害時の「支援」について②
15. まとめ
※　順序が入れ替わる場合があります。

[成績評価方法]
授業への取り組み（60%）、レポート・献立作成（40%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11100800 [WI4-009]

科目名	社会福祉援助技術	前期	1 単位
サブタイトル	社会福祉援助の理解と実践		
担当者	曽田　里美		

[到達目標]
　社会福祉援助に係る知識、技術を実践的に修得する。また、それらの技術が対人関係において活用できるようになることを目指す。

[授業概要]
　演習を通して、自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術について学ぶ。また、具体的な社会福祉援助事例の検討を通して、援助に係る価値観、知識、技術を理解する。これらを通して社会福祉援助の特徴を修得していく。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　前回の授業内容を復習し理解しておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心をもつこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 自己理解
3. 他者理解
4. 自己理解と他者理解の関係
5. 人権
6. 差別・偏見
7. 社会的排除と社会的包摂
8. 権利擁護
9. 自立支援
10. クライエントの利益の最優先
11. 倫理的ジレンマ
12. 個別化
13. 受容と非審判的態度
14. 自己決定
15. まとめ

[成績評価方法]
授業の参加・態度（50点）と試験（50点）による。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
使用しない。プリントを配布する。

[参考書（ISBN）]
「ソーシャルワーク演習ケースブック」 著者名：ソーシャルワーク演習教材開発研究会編　出版社：みらい
2012 （978-4-86015-273-4）

P11100610 [WI4-008]

科目名	社会福祉論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉		
担当者	小笠原　慶彰		

[到達目標]
　栄養士教育における専門的基礎分野の「社会・環境（人間や生活）と健康」として、社会福祉の基本的知識を獲得するとともに、栄養士のための社会福祉について理解することを目標とする。

[授業概要]
　社会福祉とは何か、どのような社会福祉が望ましいのか、といった基本的な理解を可能にするため、生活の場、実践の場で生起する具体的な課題から福祉問題を捉え、社会福祉の価値、社会福祉の制度、社会福祉のフィールドといった柱を建てて講義する。さらに栄養士にとって社会福祉を学ぶことの意義や社会福祉の分野で働く栄養士の職務についても言及する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておくこと。
・毎回の授業前に教科書の指定された範囲を必ず読んでおくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. ライフサイクルと生活問題・社会福祉に必要な理性と感性
3. 社会福祉の発展・社会福祉サービス・制度の枠組み
4. 「社会福祉」と「社会事業」
5. 20世紀初めまでのイギリス・アメリカ・日本
6. 20世紀前半の各国
7. 社会福祉の原理・理念・先駆者たちの福祉実践思想
8. 社会福祉の人権・人間尊重の思想・新しい福祉の理念
9. 社会福祉の法や制度の意義と体系・福祉サービスの主要な法律
10. 社会保障制度・社会福祉の行財政
11. 社会福祉の専門職・社会福祉専門職の専門性と倫理・専門職制度
12. 社会福祉援助の意義・価値・原理・援助の特徴と技術の内容
13. 分野ごとの各相談機関と施設・社会資源としての非専門職パワー
14. 社会の現状と社会福祉政策・社会福祉機関の役割
15. 総まとめと最終試験・試験解説

[成績評価方法]
授業への取り組み態度22パーセント、予習成果として質問カードによる質問8パーセント、中間試験20パーセント、最終試験50パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。質問カードは、所定のものを用いて指定された期日までに提出する。中間試験及び最終試験は、筆記試験形式（正誤式または択一式）で実施する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
『社会福祉』（新・基礎からの社会福祉1）　著者名：室田保夫監修　出版社：ミネルヴァ書房　（978-4-623-08295-7）

[参考書（ISBN）]
なし

P11100020A [WH4-022]

科目名	社会福祉論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉		
担当者	小笠原　慶彰		

[到達目標]
　栄養士教育における専門的基礎分野の「社会・環境（人間や生活）と健康」として、社会福祉の基本的知識を獲得するとともに、栄養士のための社会福祉について理解することを目標とする。

[授業概要]
　社会福祉とは何か、どのような社会福祉が望ましいのか、といった基本的な理解を可能にするため、生活の場、実践の場で生起する具体的な課題から福祉問題を捉え、社会福祉の価値、社会福祉の制度、社会福祉のフィールドといった柱を建てて講義する。さらに栄養士にとって社会福祉を学ぶことの意義や社会福祉の分野で働く栄養士の職務についても言及する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・日常的に新聞、雑誌、TVニュース等で社会福祉に関する出来事に関心を持っておくこと。
・毎回の授業前に教科書の指定された範囲を必ず読んでおくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. ライフサイクルと生活問題・社会福祉に必要な理性と感性
3. 社会福祉の発展・社会福祉サービス・制度の枠組み
4. 「社会福祉」と「社会事業」
5. 20世紀初めまでのイギリス・アメリカ・日本
6. 20世紀前半の各国
7. 社会福祉の原理・理念・先駆者たちの福祉実践思想
8. 社会福祉の人権・人間尊重の思想・新しい福祉の理念
9. 社会福祉の法や制度の意義と体系・福祉サービスの主要な法律
10. 社会保障制度・社会福祉の行財政
11. 社会福祉の専門職・社会福祉専門職の専門性と倫理・専門職制度
12. 社会福祉援助の意義・価値・原理・援助の特徴と技術の内容
13. 分野ごとの各相談機関と施設・社会資源としての非専門職パワー
14. 社会の現状と社会福祉政策・社会福祉機関の役割
15. 総まとめと最終試験・試験解説

[成績評価方法]
授業への取り組み態度22パーセント、予習成果として質問カードによる質問8パーセント、中間試験20パーセント、最終試験50パーセントの配分で評価する。取り組み態度は、初回授業で配布する自己評価シートに毎回の授業後に記入し提出することで評価する。質問カードは、所定のものを用いて指定された期日までに提出する。中間試験及び最終試験は、筆記試験形式（正誤式または択一式）で実施する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
『社会福祉』（新・基礎からの社会福祉1）　著者名：室田保夫監修　出版社：ミネルヴァ書房　(978-4-623-08295-7)

[参考書（ISBN）]
なし

P11100020B [WH4-022]

科目名	障害者とスポーツ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直、重福　京子、植戸　貴子、松崎　喜良		

[到達目標]
障害を抱えた人にとって、ともすると弱くなりがちな筋肉を鍛えて残存機能を高めることは、二次的疾病等を考えると、ときには生命にもかかわる重大事である。現代社会における障害の概念、実態、障害者福祉の社会的背景、理念、目的、意義について理解し、その中で障害者に必要とされる身体活動やスポーツのあり方、スポーツの現状について考えられるようにする。

[授業概要]
4人の担当者でオムニバス形式で展開する。社会福祉学科の専任教員により、現代社会における障害の概念、実態、障害者福祉の社会的背景、理念、目的、意義についての講義を行い、その内容をベースに、健康スポーツ栄養学科の専任教員により障害者の運動時の生理学的な身体機能とスポーツの在り方と現状について教授する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する。

[授業計画]
担当者と講義回数　奥野(1～4)、重福(5～8)、植戸(9～11)、松崎(12～14)、奥野(15)
1. パラリンピック記録(WHO I AM)(奥野)
2. 障害者の体力と運動能力の獲得(奥野)
3. 障害者の身体的調節と適応(奥野)
4. 障害者の筋力と持久性トレーニング(奥野)
5. 障害者のスポーツの在り方(重福)
6. 障害者の競技種目と競技大会(重福)
7. 障害者スポーツの現状と課題　スポーツ振興と指導者の養成(重福)
8. 今後の障害者スポーツ(重福)
9. 障害のある人たちについての理解(植戸)
・「障害とは何か」「障害のある人たちとはどのような人たちか」の基本知識の理解
・障害のとらえ方の歴史的変遷
・多様な障害(身体障害・知的障害・精神障害・発達障害)について
10. 障害者福祉の歴史や基本的な理念についての理解と今日の障害者福祉の課題についての考察(植戸・学外特別講師)
11. 障害のある人の生活上のニーズについての理解とニーズに応える支援の姿勢や具体的な関わり 方・コミュニケーションの図り方等について(植戸)
12. 福祉施設・団体の役割と障害者スポーツ(松崎)
(視覚障害者施設の訪問と指導者よる障害者の特徴や問題点、課題の聴取)
13. 障害者がスポーツを行うために必要な社会資源についての理解とスポーツへの参加支援方法(松崎)
(障害者スポーツ協会へのインタビュー等による情報収集と分析)
14. 障害者のスポーツに参加と生活変化(松崎)
(講師の経験、各種文献の検討を通して意義の整理をはかる)
15. まとめ(奥野)

[成績評価方法]
レポート(25%×4名)により評価する(4人の担当者がそれぞれ25点満点のレポート課題を出し、総合点で評価する)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
必要に応じてプリント配布

[参考書(ISBN)]
なし

P11100510 [WI4-005]

科目名	生涯スポーツ科学(スポーツ心理学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直		

[到達目標]
　子どもから高齢者にわたる発育発達および健康維持を目的とする生涯スポーツに必要とされる基本的動作や身体能力および運動がもたらす生理的効果について解説できるようにする。また、心理的、社会的効果についても理解を深め、ライフデザインに応用できるようにする。

[授業概要]
　生涯にわたる発育・発達過程と基本的動作や運動能力、発達に影響する先天的・後天的要因および老化と体力の関係について理解する。また、生活習慣病予防の望ましい行動変容について理解し、運動がもたらす生理、心理、社会的な効果と関連づけながら、運動習慣の確立のための適切な動機づけについて理解する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する。

[授業計画]
1. 発育・発達の概念と生涯スポーツ
2. 年齢に応じた体力づくり(健康・体力の現状と課題)
3. 発育発達に影響する要因(遺伝・環境・運動実践の有無等)
4. 身体機能の発達(呼吸・循環器系、神経系、代謝)
5. 成長期における体力(筋力・持久的能力)と運動能力(基本的動作スキル)の発達
6. 姿勢とバランス能力
7. 高齢者・障害者の生涯スポーツ(身体機能の維持、アダプテッド・スポーツ),老化と運動(加齢に伴う体力・運動能力の低下)
8. 行動変容と運動習慣動機づけ(行動パターンと生活習慣病、動機づけの過程)
9. 運動習慣の確立　(生理・心理・社会的効果と運動継続の促進方法)
10. スポーツ心理学①(目標設定、自己決定感および自己効力感、ピークパフォーマンス)
11. スポーツ心理学②(メンタルトレーニング、イメージトレーニング、リラクゼーショントレーニング)
12. スポーツ心理学③(リーダーシップ、スポーツ集団の心理)
13. スポーツ心理学④(競技の心理、精神力と自信)
14. 運動の危険性と安全、救急処置の基本
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(100%)により評価する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
プリント配布

[参考書(ISBN)]
なし

P11100420 [WI1-011]

科目名	消費生活科学(食品商品学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル	食品の消費と流通		
担当者	水野　和代		

[到達目標]
食品流通・消費の変化、現状、課題に関する知識を習得し、食料消費と人々の健康の関連、問題解決の方法を考察する。

[授業概要]
　この授業は、我が国の「食品の消費と流通」の現状について基礎的な知識を習得し、消費者の視点で食品の選択・消費を考えます。食生活の変化や、食料消費を取り巻く課題を理解するために、様々な統計資料を読み解く力を養うと共に、多様な情報に目を向けます。フードスペシャリスト資格試験の問題演習を取り入れて講義を行います。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　食品の消費と流通について、新聞やニュース、人々の消費行動などに常に関心を持って取り組むこと、授業で配布した資料に目を通して、関連情報を得ることが望まれる。

[授業計画]
1. 授業概要の説明　家計の中の食料消費　食料消費への影響要因
2. 食料消費の変化1　食品産業・社会環境
3. 食料消費の変化2　品目・栄養バランス・摂取形態　食料消費関連統計資料
4. 食生活の多様化と社会的要因
5. 卸売流通と小売流通
6. 外食産業
7. 中食産業
8. フードマーケティング
9. 食品分類、商品分類
10. 食品流通1　米、小麦粉、生鮮品
11. 食品流通2　加工品、飲料
12. 食料消費の課題1　環境問題・食料自給率・食品ロスなど
13. 食料消費の課題2　食品の安全・食品表示・健康に関すること
14. 食料消費の課題3　人口減少・高齢化・国際化など
15. まとめ

[成績評価方法]
授業での課題提出(40%)、試験(60%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「三訂　食品の消費と流通」 著者名:(公社)日本フードスペシャリスト協会編　出版社:建帛社 (978-4-7679-0538-9)
毎回プリント配布

[参考書(ISBN)]
フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集　著者名:(公社)日本フードスペシャリスト協会編　出版社:建帛社

P11100540 [WS4-001]

科目名	食生活論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤　誓子		

[到達目標]
　食生活論では『食』を核として食の営みを学ぶことを目的としている。
　食生活を理解するためには、栄養学・食品学・食品衛生学などに関する幅広い自然科学的な知識を基礎として、食生活の歴史や食の文化、食環境、現代の食生活事情といった食に関する人文・社会科学的な側面から捉えることが必要である。この講義では、このような観点から我々の食生活を考え理解することを目標とする。

[授業概要]
　本講義では、到達目標で述べたような講義内容に加え、各種の新聞が取り上げている食に関わる記事に対する感想や意見をレポートにまとめたり、食文化についてグループ討議した内容を発表するなどの機会を設ける。
　この講義を通して、人間が生きていく上で最も重要とされる『食』について、豊かな発想で考えてみて欲しい。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　前回の授業の復習を心がけること。
　食に関する新聞記事などに関心を持つこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 食生活と健康を考える
3. 世界の食生活・日本の食文化
4. 食生活と安全
5. 21世紀における健全な食生活の展望
6. 食育の推進
7. 食生活に関するグループ討議(1)
8. 食生活に関するグループ討議(2)
9. 発表会のための資料作成
10. 発表会
11. 発表会
12. 発表会
13. 発表会, 食に関する社会的話題
14. 発表会に関する総括
15. まとめ

[成績評価方法]
平常点10%, レポート点10%, グループ討議及び発表評価30%, 最終試験50%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
栄養化学シリーズ「食育・食生活論」 著者名:山本茂　出版社:講談社サイエンティフィク (978-4-06-155368-2 C3377)

[参考書(ISBN)]
なし

P11100530 [WI3-012]

科目名	食品衛生学実験	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	木村　大輔		

[到達目標]
　食品衛生に興味と関心を持ち、食の安全性を通して健康を考える。
　また、食品中の微生物や化学物質について理解し、それらの検査のための基本的な知識と技術の習得を目的とする。

[授業概要]
　基本的な微生物取り扱い操作法、培地作成法や標本観察法等を習得した後、各種培養法や染色法、代表的な細菌の分離・同定法や食品中の生菌数測定法等の実験を通して、微生物の性質を理解する。
　また、食品中の添加物や飲料水の成分の検査方法を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
「食品衛生学」の講義内容を、必要に応じて復習すること。また、新聞や雑誌などの食品衛生や食中毒に関する記事に関心を持ち、できれば保存をしておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション(実験をするに当たっての諸注意、説明)
　基本操作・基本技術、滅菌と消毒
2. 培地作成法、各種培養法、手指の衛生実験
3. 標本作成法、グラム染色法、顕微鏡操作法・観察法
4. ブドウ球菌の分離培養・同定法
5. 腸内細菌科(大腸菌など)の分離培養・同定法
6. 食品の細菌学的検査(1)
7. 食品の細菌学的検査(2)
8. 食品からの寄生虫検出、調理器具の衛生試験
9. 微生物学的検査のまとめ、食中毒について、質疑応答
10. 理化学的検査のオリエンテーション、試薬調製
　発色剤の検査(1)
11. 発色剤の検査(2)
12. 合成着色料の検査(1)
13. 合成着色料の検査(2)
14. 飲料水の水質検査および細菌学的検査
15. 全体のまとめ、質疑応答
16. 試験

[成績評価方法]
筆記試験(70%)、レポート(15%)、平常点(15%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし、実験資料、プリント等を配布する。

[参考書(ISBN)]
なし、必要に応じて紹介する。

P11100150A [WI2-005]

科目名	食品衛生学実験	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	木村　大輔		

[到達目標]
　食品衛生に興味と関心を持ち、食の安全性を通して健康を考える。
　また、食品中の微生物や化学物質について理解し、それらの検査のための基本的な知識と技術の習得を目的とする。

[授業概要]
　基本的な微生物取り扱い操作法、培地作成法や標本観察法等を習得した後、各種培養法や染色法、代表的な細菌の分離・同定法や食品中の生菌数測定法等の実験を通して、微生物の性質を理解する。
　また、食品中の添加物や飲料水の成分の検査方法を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
「食品衛生学」の講義内容を、必要に応じて復習すること。また、新聞や雑誌などの食品衛生や食中毒に関する記事に関心を持ち、できれば保存をしておくこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション(実験をするに当たっての諸注意、説明)
　基本操作・基本技術、滅菌と消毒
2. 培地作成法、各種培養法、手指の衛生実験
3. 標本作成法、グラム染色法、顕微鏡操作法・観察法
4. ブドウ球菌の分離培養・同定法
5. 腸内細菌科(大腸菌など)の分離培養・同定法
6. 食品の細菌学的検査(1)
7. 食品の細菌学的検査(2)
8. 食品からの寄生虫検出、調理器具の衛生試験
9. 微生物学的検査のまとめ、食中毒について、質疑応答
10. 理化学的検査のオリエンテーション、試薬調製
　発色剤の検査(1)
11. 発色剤の検査(2)
12. 合成着色料の検査(1)
13. 合成着色料の検査(2)
14. 飲料水の水質検査および細菌学的検査
15. 全体のまとめ、質疑応答
16. 試験

[成績評価方法]
筆記試験(70%)、レポート(15%)、平常点(15%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし、実験資料、プリント等を配布する。

[参考書(ISBN)]
なし、必要に応じて紹介する。

P11100150B [WI2-005]

科目名	食品学実験	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
　実験を行う上での基本である、緩衝液、検量線を学ぶ。
　食品に関する実験で、食品を構成する主要成分などの特性を理解し、基本的な器具の取扱い、試薬の調製法など食品分析に必要な知識を習得し、得られた結果をまとめて考察する力をつける。

[授業概要]
　食品成分の分離、定量分析、成分変化試験などを行って得られた知見により食品の特性を考察する。この実験で得られた食品に関する科学的な知識・技術は健康な食生活に生かすことができる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコールのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。

[授業計画]

1. 実験の一般的注意、実験器具の取り扱い方、レポートの書き方
2. 実験に必要な計算方法の習得、実験データの取扱い
3. 緩衝液と検量線のガイダンス
4. 緩衝液の作成
5. 検量線の作成と未知化合物の定量
6. 7. ～10. の実験のガイダンス
7. 食品中の酸の定量
8. 食品中のカルシウムの定量
9. 食品中のビタミンCの定量
10. 食品中のポリフェノールの定量
11. 12. ～14. の実験のガイダンス
12. 脂質の変敗試験
13. 食品の非酵素的褐変
14. 食品の酵素的褐変
15. まとめ

＊機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。

[成績評価方法]
レポート

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布

[参考書（ISBN）]
臨床分析学のサブノート　著者名：安井裕之・吉川豊　著　出版社：京都廣川書店

P11100110A [WI2-002]

科目名	食品学実験	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
　実験を行う上での基本である、緩衝液、検量線を学ぶ。
　食品に関する実験で、食品を構成する主要成分などの特性を理解し、基本的な器具の取扱い、試薬の調製法など食品分析に必要な知識を習得し、得られた結果をまとめて考察する力をつける。

[授業概要]
　食品成分の分離、定量分析、成分変化試験などを行って得られた知見により食品の特性を考察する。この実験で得られた食品に関する科学的な知識・技術は健康な食生活に生かすことができる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコールのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。

[授業計画]

1. 実験の一般的注意、実験器具の取り扱い方、レポートの書き方
2. 実験に必要な計算方法の習得、実験データの取扱い
3. 緩衝液と検量線のガイダンス
4. 緩衝液の作成
5. 検量線の作成と未知化合物の定量
6. 7. ～10. の実験のガイダンス
7. 食品中の酸の定量
8. 食品中のカルシウムの定量
9. 食品中のビタミンCの定量
10. 食品中のポリフェノールの定量
11. 12. ～14. の実験のガイダンス
12. 脂質の変敗試験
13. 食品の非酵素的褐変
14. 食品の酵素的褐変
15. まとめ

＊機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。

[成績評価方法]
レポート

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布

[参考書（ISBN）]
臨床分析学のサブノート　著者名：安井裕之・吉川豊　著　出版社：京都廣川書店

P11100110B [WI2-002]

科目名	食品学総論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
栄養士として必要な食品に関する正確な知識を得、食品を科学的に理解することを目的とする。

[授業概要]
人間が健康な食生活を送るためには、食品の特性を把握しておくことが重要である。そこで、本授業では食品を構成する成分、微量成分および特殊成分（味、香、色の成分）の特性を科学的に解説する。合わせて、調理、加工、保蔵中におこる食品成分の変化、食品の物性、および機能性などについて総合的に解説する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。

[授業計画]
1. 人間と食品
2. 水分
3. ビタミン
4. 無機質（ミネラル）
5. 食品中の嗜好成分、有害成分①
6. 食品中の嗜好成分、有害成分②
7. 食品中の嗜好成分、有害成分③
8. 食品中の嗜好成分、有害成分④
9. 食品の栄養価と機能性
10. 食品成分の変化①
11. 食品成分の変化②
12. 食品の物性①
13. 食品の物性②
14. タンパク質・炭水化物・脂質
15. まとめ
16. 試験

[成績評価方法]
試験（80%）ならびに不定期に行う小テスト（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
食べ物と健康II　食品の機能　著者名：中河原俊治　出版社：三共出版

[参考書（ISBN）]
なし

P11100100A [WI1-003]

科目名	食品学総論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
栄養士として必要な食品に関する正確な知識を得、食品を科学的に理解することを目的とする。

[授業概要]
人間が健康な食生活を送るためには、食品の特性を把握しておくことが重要である。そこで、本授業では食品を構成する成分、微量成分および特殊成分（味、香、色の成分）の特性を科学的に解説する。合わせて、調理、加工、保蔵中におこる食品成分の変化、食品の物性、および機能性などについて総合的に解説する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。

[授業計画]
1. 人間と食品
2. 水分
3. ビタミン
4. 無機質（ミネラル）
5. 食品中の嗜好成分、有害成分①
6. 食品中の嗜好成分、有害成分②
7. 食品中の嗜好成分、有害成分③
8. 食品中の嗜好成分、有害成分④
9. 食品の栄養価と機能性
10. 食品成分の変化①
11. 食品成分の変化②
12. 食品の物性①
13. 食品の物性②
14. タンパク質・炭水化物・脂質
15. まとめ
16. 試験

[成績評価方法]
試験（80%）ならびに不定期に行う小テスト（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
食べ物と健康II　食品の機能　著者名：中河原俊治　出版社：三共出版

[参考書（ISBN）]
なし

P11100100B [WI1-003]

科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥		

[到達目標]
　食品の加工および保蔵の方法、加工に伴う成分変化とその安全性、加工食品の規格基準と品質表示、各種食品の製造工程などについて理解する。

[授業概要]
　現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、食品の原料や特性、加工技術を理解し、加工食品がもっている長所と短所を知り、判別する能力を養うことが必要である。本講義では、食品の加工および保蔵の方法、加工に伴う成分変化とその安全性、加工食品の規格基準と品質表示、各種食品の製造工程などについて学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
授業前に教科書を熟読し、講義に臨むこと。

[授業計画]
1. 加工食品と食生活、食品の保蔵
2. 食品加工の操作
3. 食品の包装、食品加工の新技術
4. 食品加工と成分変化
5. 加工食品と安全性
6. 保健機能食品と特別用途食品
7. 加工食品の表示と規格
8. 農産加工
9. 畜産加工
10. 水産加工
11. 発酵食品
12. 調味料・嗜好食品
13. インスタント食品
14. 食用油脂、コピー食品
15. まとめ

[成績評価方法]
試験

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
Nブックス 三訂　食品加工学　著者名:菅原龍幸, 宮尾茂雄他　出版社:建帛社 (978-4-7679-0550-1)

[参考書(ISBN)]
なし

P11100120A [WI4-001]

科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥		

[到達目標]
　食品の加工および保蔵の方法、加工に伴う成分変化とその安全性、加工食品の規格基準と品質表示、各種食品の製造工程などについて理解する。

[授業概要]
　現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、食品の原料や特性、加工技術を理解し、加工食品がもっている長所と短所を知り、判別する能力を養うことが必要である。本講義では、食品の加工および保蔵の方法、加工に伴う成分変化とその安全性、加工食品の規格基準と品質表示、各種食品の製造工程などについて学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
授業前に教科書を熟読し、講義に臨むこと。

[授業計画]
1. 加工食品と食生活、食品の保蔵
2. 食品加工の操作
3. 食品の包装、食品加工の新技術
4. 食品加工と成分変化
5. 加工食品と安全性
6. 保健機能食品と特別用途食品
7. 加工食品の表示と規格
8. 農産加工
9. 畜産加工
10. 水産加工
11. 発酵食品
12. 調味料・嗜好食品
13. インスタント食品
14. 食用油脂、コピー食品
15. まとめ

[成績評価方法]
試験

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
Nブックス 三訂　食品加工学　著者名:菅原龍幸, 宮尾茂雄他　出版社:建帛社 (978-4-7679-0550-1)

[参考書(ISBN)]
なし

P11100120B [WI4-001]

科目名	食品加工学実習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥		

[到達目標]
実際に加工食品を製造することによって、食品加工の製造原理、原材料の特徴、性質、基本的な加工技術を理解する。

[授業概要]
現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、食品の原料や特性、加工技術を理解し、加工食品がもっている長所と短所を知り、判別する能力を養うことが必要である。本実習では、身近にある食品を原料として実際に加工食品を作り、製造原理、基本的な加工技術、食の安全性、栄養成分について理解を深める。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
配布プリントならびに実習に関連する食品加工学の講義内容を予習しておくこと。また、実習前の衛生面に関して、十分な準備をして実習に臨むこと。
実習後、レポート課題に沿って復習し、レポートを作成、提出する。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 小麦粉の加工:うどん
3. 小麦粉の加工:パン
4. 小麦粉の加工:クッキー
5. 果物の加工:ジャム
6. 果物の加工:みかんのシラップ漬け
7. 食肉の加工:ソーセージ
8. 大豆の加工:豆腐
9. いもの加工:こんにゃく
10. 乳類の加工:合成酸乳飲料
11. 乳類の加工:キャラメル
12. 乳類の加工:チーズ・バター
13. 小豆の加工:和菓子
14. カカオの加工:チョコレート
15. 講義:復習

[成績評価方法]
平常点(70%)、レポート(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
プリント配布

[参考書(ISBN)]
なし

P11100130A [WI4-003]

科目名	食品加工学実習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥		

[到達目標]
　実際に加工食品を製造することによって、食品加工の製造原理、原材料の特徴、性質、基本的な加工技術を理解する。

[授業概要]
　現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、食品の原料や特性、加工技術を理解し、加工食品がもっている長所と短所を知り、判別する能力を養うことが必要である。本実習では、身近にある食品を原料として実際に加工食品を作り、製造原理、基本的な加工技術、食の安全性、栄養成分について理解を深める。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　配布プリントならびに実習に関連する食品加工学の講義内容を予習しておくこと。また、実習前の衛生面に関して、十分な準備をして実習に臨むこと。
　実習後、レポート課題に沿って復習し、レポートを作成、提出する。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 小麦粉の加工:うどん
3. 小麦粉の加工:パン
4. 小麦粉の加工:クッキー
5. 果物の加工:ジャム
6. 果物の加工:みかんのシラップ漬け
7. 食肉の加工:ソーセージ
8. 大豆の加工:豆腐
9. いもの加工:こんにゃく
10. 乳類の加工:合成酸乳飲料
11. 乳類の加工:キャラメル
12. 乳類の加工:チーズ・バター
13. 小豆の加工:和菓子
14. カカオの加工:チョコレート
15. 講義:復習

[成績評価方法]
平常点(70%)、レポート(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
プリント配布

[参考書(ISBN)]
なし

P11100130B [WI4-003]

科目名	食料経済（食品流通を含む）	前期	2 単位
サブタイトル	地産地消・地産地創・地産地送を考える		
担当者	中塚　華奈		

[到達目標]
「食べるということ」について深く理解し、「食と農」の抱える問題を発見・分析・解決する力を鍛え、併せて、私たちにとって有効で安定したフードシステムを形成するための諸条件について考える力を鍛えることを目標とします。

[授業概要]
授業では、まず「食べるということ」の意味について理解を深め、世界人口の歴史的推移を辿りながら人口と食糧の関係を考えます。次いで、世界と日本の食料事情について学びます。海外に多くの食料を依存するわが国の実態から、将来に食の不安を招かないためにも現在抱える「食と農」の問題の所在を明らかにし、これからの「食と地域」の在り方を問いかけます。
　具体的な問題として、「食の安全と安心」、「食生活の変化」、「市場の原理と市場の失敗」、「地産地消の意義」、「農業の近代化と環境」などを取り上げ、食に関する基本的理解を深めます。
　そして、戦後わが国の経済政策と食料・農業政策を辿りながら「伝統と近代の比較」や「農業と工業の根本的相違」や「食卓と家族の変遷」などの問題について学び、「これからの食と農と地域」のあり方について考えていきます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
「食と農」に関するニュースをノートに貼り付けたりスクラップしたりする習慣をつけ、常に現代社会における食事情や食環境に関心を寄せておくこと。

[授業計画]
1.食料経済学を学ぶためのプロローグ
（限りある食料をどのようにどれだけ生産、分配、消費すべきか）
2.人類の歴史概観と食生活の変遷
（地球誕生からの46億年の歴史と食生活史）
3.経済発展と農業の近代化
（経済発展に伴う化学肥料や化学農薬の普及が及ぼす影響）
4.アニメーション映画「土を喰らう」
（食・農・環境のつながりを考える）
5.現代社会と日本の食料事情
（食料輸入大国日本の食と農の実態）
6.食料の需要と供給
（市場経済と市場価格　需要と供給の価格弾力性と食料生産・食料消費の特色）
7.農産物貿易と食料の安全保障
（関税の果たす役割と農産物貿易自由化、日米駅弁プロジェクトの行方）
8.国際化時代の食と農
（グローバルとグローカルを考える）
9.フードシステムの展開
（需給構造と流通システム、食品表示制度）
10. 高度経済成長期の「食と農」
（農業基本法と食料・農業・農村基本法）
11.低成長経済期の「食と農」
（食品公害と有機農業）
12.オーガニックシネマ「みのりの茶」
（大分県臼杵市の有機茶づくり）
13.国際化時代の「食と農」
（途上国の農業事情とGAP）
14.成長経済から共生経済を求める「食と農」
（フェアトレード問題）
15.21世紀の「食と農」
（「地産地消」の実践と「食・農・医」のあり方）

[成績評価方法]
　授業中の課題（75%）、総合レポート（25%）により評価します。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
適宜、プリントを配布します。

[参考書（ISBN）]
『地産地消の経済学』 著者名：池本廣希著　出版社：新泉社　2008年

P11100520 [WI4-004]

科目名	食を中心とした化学Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
　食品・栄養関連の問題に科学的に対処できるように酸塩基の知識、有機化学の基礎知識、臨床現場における必要な統計学、化学分析手法を習得することを目的とする。

[授業概要]
　酸塩基ならびに有機化学は食を学ぶ上で避けては通れない内容である。有機化学の知識は食品・栄養学、生物化学などと関連し、それらを学ぶ上で必要不可欠である。また、臨床現場で行われている検査なども全て化学反応である。そこで、本授業では、基礎的な内容の酸塩基および有機化合物の性質について解説する。さらに、臨床現場で用いられている化学反応の原理や化学反応で得られた数値を理解できるように解説する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。

[授業計画]
1. 酸と塩基①
2. 酸と塩基②
3. 酸と塩基③
4. 酸と塩基の問題演習①
5. 酸と塩基の問題演習②
6. 有機化学①
7. 有機化学②
8. 有機化学③
9. 有機化学の問題演習
10. 臨床における化学①
11. 臨床における化学②
12. 臨床における化学③
13. 臨床における化学④
14. 復習
15. まとめ

[成績評価方法]
講義中の小テスト（50%）ならびにレポート（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
臨床分析学のサブノート　著者名：安井裕之・吉川豊　著　出版社：京都廣川書店
絶対わかる化学の基礎知識（絶対わかる化学シリーズ）（前期購入済み）　著者名：齋藤 勝裕 著　出版社：講談社サイエンティフィック

[参考書（ISBN）]
基礎無機化学　著者名：安井裕之・吉川豊　著　出版社：京都廣川書店

P11100860 [WS1-003]

科目名	食を中心とした生物Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	木村　大輔		

[到達目標]
　生体および生物の多様性、ならびに、微生物と我々の生活の関わりについて理解する。様々な生物が我々の人間社会の中でどのような役割を果たしているか説明できる事を目標とする。

[授業概要]
　生体を常に一定の状態に維持するためのしくみはどのようなものであるのか。さらには、地球上には多種多様な生物が存在し、それぞれが独特の行動様式で生活を営んでいるが、ヒトを含めた生物が我々の社会にとってどういう意味を持ち、どういう位置づけなのかも含め、多角的に生物学を理解する。高校生物の内容もおりまぜながら、大学人の教養としての生物学を学べるように講義を進める。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。

[授業計画]
1. 前期の復習・恒常性について
2. 恒常性①
3. 恒常性②
4. 復習・問題演習
5. 恒常性③
6. 恒常性④
7. 復習・問題演習
8. 恒常性⑤
9. 恒常性⑥
10. 復習・問題演習
11. 環境と微生物
12. 癌・老化
13. バイオテクノロジー
14. 復習・問題演習
15. まとめ

[成績評価方法]
講義中の小テスト(50%)とレポート(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
医療・看護系のための 生物学(改訂版)(前期購入済)　著者名:田村 隆明　著　出版社:裳華房

[参考書(ISBN)]
なし

P11100840 [WB1-004]

科目名	身体運動実習Ⅰ（エアロビックダンス）	前期	1 単位
サブタイトル	有酸素性運動		
担当者	重福　京子		

[到達目標]
健康・体力づくりを目的としたエアロビック運動（エアロビックダンス）について、その特徴や運動内容を理解する。また、目的に応じたプログラムの作成と実践力を養う。

[授業概要]
エアロビックダンスの基礎的な知識を理解した上で、安全に効果的な動きができるよう技術能力を養う。
また、性・年齢・体力に応じた運動強度の水準の違いを理解した上で目的に応じたプログラムの内容を作成し、グループワークにより実践する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日頃から健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等に関心を持つこと。

[授業計画]
1. エアロビックダンスについて
2. エアロビックダンスの特性について
3. エアロビックダンスの健康効果について
4. エアロビックダンスの指導者の役割について
5. エアロビックダンスの運動強度やエネルギー消費量の習得
6. ウォーミングアップとクールダウン
7. 安全に行うための運動プログラムの構成、実践場所、服装などについて
8. 運動前・中・後の安全性に配慮した指導を学習する
9. グループパフォーマンスのためのプログラム作成
10. グループパフォーマンス（1）
11. グループパフォーマンス（2）
12. グループパフォーマンス（3）
13. グループパフォーマンス（4）
14. グループパフォーマンス（5）
15. 発表、まとめ

[成績評価方法]
授業態度（50%）、グループ発表（10%）、個人スキル（40%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
『健康運動実践指導者養成用テキスト』（財）健康・体力づくり事業財団

[参考書（ISBN）]
授業中に指示する。

P11100440A [WI3-009]

科目名	身体運動実習Ⅰ（エアロビックダンス）	前期	1 単位
サブタイトル	有酸素性運動		
担当者	重福　京子		

[到達目標]
健康・体力づくりを目的としたエアロビック運動（エアロビックダンス）について、その特徴や運動内容を理解する。また、目的に応じたプログラムの作成と実践力を養う。

[授業概要]
エアロビックダンスの基礎的な知識を理解した上で、安全に効果的な動きができるよう技術能力を養う。
また、性・年齢・体力に応じた運動強度の水準の違いを理解した上で目的に応じたプログラムの内容を作成し、グループワークにより実践する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日頃から健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等に関心を持つこと。

[授業計画]
1. エアロビックダンスについて
2. エアロビックダンスの特性について
3. エアロビックダンスの健康効果について
4. エアロビックダンスの指導者の役割について
5. エアロビックダンスの運動強度やエネルギー消費量の習得
6. ウォーミングアップとクールダウン
7. 安全に行うための運動プログラムの構成、実践場所、服装などについて
8. 運動前・中・後の安全性に配慮した指導を学習する
9. グループパフォーマンスのためのプログラム作成
10. グループパフォーマンス（1）
11. グループパフォーマンス（2）
12. グループパフォーマンス（3）
13. グループパフォーマンス（4）
14. グループパフォーマンス（5）
15. 発表、まとめ

[成績評価方法]
授業態度（50%）、グループ発表（10%）、個人スキル（40%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
『健康運動実践指導者養成用テキスト』（財）健康・体力づくり事業財団

[参考書（ISBN）]
授業中に指示する。

P11100440B [WI3-009]

科目名	身体運動実習Ⅱ（ジョギング・ウォーキング）	後期	1 単位
サブタイトル	エクササイズ・ウォーキング		
担当者	西山　清子		

[到達目標]
健康保持・増進としたウォーキングやジョギングを目的とし、その特徴や運動内容を理解する。

[授業概要]
ジョギング・ウォーキングについて基礎的な知識を理解した上で、安全で効果的な動きができる技術能力を養う。性・年齢・体力の違いによって速度や生体反応が異なることを理解する。また、ストレッチングの理論を理解し、各部位のストレッチング方法を実践する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
ジョギングやランニングに関する記事や映像などから事前に情報を得るようにしておく。また、ジョギングやランニングで興味や関心または問題点をあらかじめ見つけておくこと。

[授業計画]
1. ウォーキングとジョギングの特性を理解し両者について説明できる。
2. ウォーキングとジョギングにより期待される健康効果について説明できる。
3. 健康づくりに必要なウォーキングとジョギングの目標時間、頻度について説明できる。
4. ウォーキングやジョギング速度の調節の仕方を教示でき、健康づくりに有効で安全な運動強度を指導できる。
5. 基本的なフォームを習得し、個人に合った正しいフォームが実践できるようサポートができる。
6. 安全に行うなめの運動前、運動中、運動後の健康管理、注意事項（水分補給）について喚起できる。
7. 至敵運動強度の指標として脈拍の正しい測り方うあRPEの利用について実践と指導ができる。
8. 起こりうる傷害を理解し、シューズや服装選択のアドバイスができる。
9. ウォーキングやジョギングに適したウォームアップ、クールダウンをプログラミングし、指導する。
10. 安全にウォーキングやジョギングを行うためのコース選択の視点について説明できる。
11. ウォーキングのプログラム作成（1）
12. ウォーキングのプログラム作成（2）
13. ジョギングのプログラム作成（1）
14、ジョギングのプログラム作成（2）
15. まとめ

[成績評価方法]
授業態度（60%）、個人スキル（10%）、運動プログラム作成（30%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
健康運動実践指導者養成用テキスト　著者名：（財）健康・体力づくり事業財団　出版社：（財）健康・体力づくり事業財団

[参考書（ISBN）]
なし

P11100450A [WI2-014]

科目名	身体運動実習Ⅱ（ジョギング・ウォーキング）	後期	1 単位
サブタイトル	エクササイズ・ウォーキング		
担当者	重福　京子		

[到達目標]
健康保持・増進としたウォーキングやジョギングを目的とし、その特徴や運動内容を理解する。

[授業概要]
ジョギング・ウォーキングについて基礎的な知識を理解した上で、安全で効果的な動きができる技術能力を養う。性・年齢・体力の違いによって速度や生体反応が異なることを理解する。また、ストレッチングの理論を理解し、各部位のストレッチング方法を実践する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
ジョギングやランニングに関する記事や映像などから事前に情報を得るようにしておく。また、ジョギングやランニングで興味や関心または問題点をあらかじめ見つけておくこと。

[授業計画]
1. ウォーキングとジョギングの特性を理解し両者について説明できる。
2. ウォーキングとジョギングにより期待される健康効果について説明できる。
3. 健康づくりに必要なウォーキングとジョギングの目標時間、頻度について説明できる。
4. ウォーキングやジョギング速度の調節の仕方を教示でき、健康づくりに有効で安全な運動強度を指導できる。
5. 基本的なフォームを習得し、個人に合った正しいフォームが実践できるようサポートができる。
6. 安全に行うなめの運動前、運動中、運動後の健康管理、注意事項（水分補給）について喚起できる。
7. 至敵運動強度の指標として脈拍の正しい測り方やRPEの利用について実践と指導ができる。
8. 起こりうる傷害を理解し、シューズや服装選択のアドバイスができる。
9. ウォーキングやジョギングに適したウォームアップ、クールダウンをプログラミングし、指導する。
10. 安全にウォーキングやジョギングを行うためのコース選択の視点について説明できる。
11. ウォーキングのプログラム作成（1）
12. ウォーキングのプログラム作成（2）
13. ジョギングのプログラム作成（1）
14、ジョギングのプログラム作成（2）
15. まとめ

[成績評価方法]
授業態度（60%）、個人スキル（10%）,運動プログラム作成（30%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
健康運動実践指導者養成用テキスト　出版社：（財）健康・体力づくり事業財団

[参考書（ISBN）]
なし

P11100450B [WI2-014]

科目名	身体運動実習Ⅲ（ｽｲﾐﾝｸﾞ&ｳｫｰﾀｰｴｸｻｻｲｽﾞ）	前期	1 単位
サブタイトル	水泳・エクササイズ		
担当者	西山　清子、重福　京子		

[到達目標]
健康・体力づくりを目的とした水泳・水中運動（ウォーターエクササイズ）について、その特徴や運動内容を理解する。また、目的に応じたプログラムの作成と実践力を養う。

[授業概要]
水泳・水中運動の基本的な知識を理解した上で、安全に効果的な動きができるよう技術能力を養う。また、各種泳法と水中エアロビクスを構成する各種運動・動作の実践力を養い、運動プログラムを作成し、指導上の注意点および安全対策を理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
水泳と水中歩行そして水中運動について、映像や体験を通して関心をたかめておく。また、興味と関心または問題点について調べておく。

[授業計画]
1. 水中運動と陸上運動の違い
2. 水泳・水中運動の特性と効果
3. 水泳・水中運動の利点と問題点
4. 水泳運動（浮き身、ストリームライン）
5. 水泳運動（腕・脚の動かし方）
6. 水泳運動（呼吸の方法）
7. 水泳運動のプログラム作成と指導上の注意点
8. 水中運動（立ち方、脚・腕を動かし抵抗感を知る）、運動強度のコントロール
9. 水中運動（歩く・走るの速さの変化）、心拍数と運動強度の関係
10. 水中運動のプログラム作成と指導上の注意点（健康人、腰痛者、妊婦などを対象）
11. 水中エアロビクス（1）
12. 水中エアロビクス（2）
13. 水中エアロビクス（3）
14. 水中エアロビクス（4）
15. 発表・まとめ

日程
8月1日（水）1～4限　水泳
9月18日（火）1・2限　水泳，3，4限　講義
9月19日（水）1～4限　水泳
9月20日（木）1・2限　水泳，3限　講義

[成績評価方法]
授業態度（50%）、発表（40%）、個人スキル（10%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
健康運動実践指導者養成用テキスト　著者名：（財）健康・体力づくり事業財団　出版社：（財）健康・体力づくり事業財団

[参考書（ISBN）]
なし

P11100460 [WI3-010]

科目名	スポーツ医学	後期	2 単位
サブタイトル	身体活動の継続のために必要な知識		
担当者	鈴木　一永		

[到達目標]
　現在ではトップアスリートのみならず、多くの人々が体力の向上のため、また、高齢者にとっては活動レベルの維持や向上のためにスポーツを行っている。スポーツ医学では「運動の医学的効果」と「スポーツに伴う総合的医療ケア」について学ぶことを目標とする。

[授業概要]
　アスリートのみならず、多くの人々が健康増進や体力維持のため、スポーツを行っている。スポーツでは過度の練習などによるオーバーユースによる傷害、選手どうしの接触、衝突による傷害、また、体力維持のための栄養学的問題など多くの問題がある。そのため、スポーツ医学は医師（スポーツドクター）のみならず、栄養士、理学療養士、マッサージ師、トレーナー、コーチ、フィットネスアドバイザー等多くの職種の専門家がチームとして参画しなければならい。スポーツ医学について基本的なことを学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　参考書を一読することが望ましい。

[授業計画]
1. スポーツ医学とは、スポーツ外傷のメカニズム（急性外傷）
2. スポーツ外傷のメカニズム（オーバーユース障害）
3. スポーツ外傷のメカニズム（スポーツ外傷の複雑性）、スポーツ外傷と見間違える症状
4. 傷害予防の原則
5. 回復
6. 診断
7. 筋骨格系の症状に対する治療法、コアスタビリティー
8. リハビリテーション
9. スポーツにおける脳震盪・頭痛
10. 女性と運動、健康維持のための運動
11. コンディショニング、メディカルチェック
12. ドーピング（アンチ・ドーピング）
13. スポーツ（アスリート）と栄養
14. メンタルヘルス
15. まとめ

[成績評価方法]
試験を実施する（100%）。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
授業用にプリントを配布する。

[参考書（ISBN）]
なし

P11100060A [WB2-004]

科目名	スポーツ医学	後期	2 単位
サブタイトル	身体活動の継続のために必要な知識		
担当者	鈴木　一永		

[到達目標]
現在ではトップアスリートのみならず、多くの人々が体力の向上のため、また、高齢者にとっては活動レベルの維持や向上のためにスポーツを行っている。スポーツ医学では「運動の医学的効果」と「スポーツに伴う総合的医療ケア」について学ぶことを目標とする。

[授業概要]
アスリートのみならず、多くの人々が健康増進や体力維持のため、スポーツを行っている。スポーツでは過度の練習などによるオーバーユースによる傷害、選手どうしの接触、衝突による傷害、また、体力維持のための栄養学的問題など多くの問題がある。そのため、スポーツ医学は医師（スポーツドクター）のみならず、栄養士、理学療養士、マッサージ師、トレーナー、コーチ、フィットネスアドバイザー等多くの職種の専門家がチームとして参画しなければならい。スポーツ医学について基本的なことを学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
参考書を一読することが望ましい。

[授業計画]
1. スポーツ医学とは、スポーツ外傷のメカニズム（急性外傷）
2. スポーツ外傷のメカニズム（オーバーユース障害）
3. スポーツ外傷のメカニズム（スポーツ外傷の複雑性）、スポーツ外傷と見間違える症状
4. 傷害予防の原則
5. 回復
6. 診断
7. 筋骨格系の症状に対する治療法、コアスタビリティー
8. リハビリテーション
9. スポーツにおける脳震盪・頭痛
10. 女性と運動、健康維持のための運動
11. コンディショニング、メディカルチェック
12. ドーピング（アンチ・ドーピング）
13. スポーツ（アスリート）と栄養
14. メンタルヘルス
15. まとめ

[成績評価方法]
試験を実施する（100%）。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
授業用にプリントを配布する。

[参考書（ISBN）]
なし

P11100060B [WB2-004]

科目名	スポーツ栄養学Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル	運動と栄養		
担当者	坂元　美子		

[到達目標]
栄養の基本概念をスポーツの現場にあてはめて考え、体や健康を維持するための栄養と、アスリートが体力を維持し、競技成績を向上させるための栄養の違いを理解する。また、栄養・健康づくりの指導者としての栄養的知識と指導方法を身につける。

[授業概要]
運動・栄養・休養は健康づくりの3要素であると同時に、アスリートの体力向上・競技力向上には欠かせない要素である。各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、アスリートに必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を身につける。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
栄養学総論の授業を復習しておく

[授業計画]
1. アスリートの食事摂取の基本
2. スポーツにおける五大栄養素の役割と主要食品の栄養成分
3. 食品・栄養素の消化・吸収の過程
4. トレーニングとエネルギー消費量
　(食事摂取基準と一日の総エネルギー消費量の構成)
5. 運動強度と栄養素の機能・代謝の関係
　(糖質・脂質の機能と代謝)
6. からだづくりのための栄養素(たんぱく質の機能と代謝)
7. コンディショニングのための栄養素(ミネラル・ビタミン)
8. アスリートの栄養(試合までの栄養と試合直前・試合後の食事)
9. アスリートの栄養(遠征、合宿時の食事)
10. アスリートの栄養(水分補給と熱中症予防)
11. アスリートの栄養(アスリートに起こりやすい障害と栄養)
12. アスリートの栄養(女性アスリートに起こりやすい疾病)
13. スポーツとサプリメントの関係
14. 生活習慣病予防・改善のための運動と栄養素
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(80%)、提出物(10%)、平常点(10%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
スポーツ・健康栄養学〈はじめて学ぶ　健康・スポーツ科学シリーズ 6〉 著者名:坂元美子編著　出版社:化学同人 (978-4-7598-1709-6)

[参考書(ISBN)]
中高生のお母さんを応援するにじ色式部活レシピ　著者名:アテーナプロジェクト編　出版社:西日本出版社 (978-4-90108-37-5)

P11100200A [WI1-004]

科目名	スポーツ栄養学Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル	運動と栄養		
担当者	坂元　美子		

[到達目標]
栄養の基本概念をスポーツの現場にあてはめて考え、体や健康を維持するための栄養と、アスリートが体力を維持し、競技成績を向上させるための栄養の違いを理解する。また、栄養・健康づくりの指導者としての栄養的知識と指導方法を身につける。

[授業概要]
運動・栄養・休養は健康づくりの3要素であると同時に、アスリートの体力向上・競技力向上には欠かせない要素である。各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、アスリートに必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を身につける。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
栄養学総論の授業を復習しておく

[授業計画]
1. アスリートの食事摂取の基本
2. スポーツにおける五大栄養素の役割と主要食品の栄養成分
3. 食品・栄養素の消化・吸収の過程
4. トレーニングとエネルギー消費量
（食事摂取基準と一日の総エネルギー消費量の構成）
5. 運動強度と栄養素の機能・代謝の関係
（糖質・脂質の機能と代謝）
6. からだづくりのための栄養素（たんぱく質の機能と代謝）
7. コンディショニングのための栄養素（ミネラル・ビタミン）
8. アスリートの栄養（試合までの栄養と試合直前・試合後の食事）
9. アスリートの栄養（遠征、合宿時の食事）
10. アスリートの栄養（水分補給と熱中症予防）
11. アスリートの栄養（アスリートに起こりやすい障害と栄養）
12. アスリートの栄養（女性アスリートに起こりやすい疾病）
13. スポーツとサプリメントの関係
14. 生活習慣病予防・改善のための運動と栄養素
15. まとめ

[成績評価方法]
試験（80%）、提出物（10%）、平常点（10%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
スポーツ・健康栄養学〈はじめて学ぶ　健康・スポーツ科学シリーズ 6〉 著者名：坂元美子編著　出版社：化学同人 （978-4-7598-1709-6）

[参考書（ISBN）]
中高生のお母さんを応援するにじ色式部活レシピ　著者名：アテーナプロジェクト編　出版社：西日本出版社 （978-4-90108-37-5）

P11100200B [WI1-004]

科目名	スポーツ栄養学Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	坂元　美子		

[到達目標]
スポーツ栄養学Ⅰで習得した知識をさらに深め、スポーツの現場で即実践できる知識と技術を習得する

[授業概要]
ジュニアからアスリートのためのスポーツ、高齢者の体力維持のための運動、生活習慣病予防のための運動など、それぞれの目的に応じたスポーツ・運動の現場で適切に栄養指導が行えるよう、スポーツ種目、ライフステージ別の栄養について学ぶ。また、栄養指導に必要な食事調査、栄養計算の方法についても実践的に学習する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
スポーツ栄養学Ⅰ、栄養学総論を復習しておく

[授業計画]
1. スポーツ選手の基本の食事
2. 試合期の食事①
3. 試合期の食事②
4. 水分補給、熱中症予防
5. 体作り期の食事①
6. 体作り期の食事②
7. 減量
8. コンディショニング①
9. コンディショニング②
10. 女性アスリートに多い障害
11. 体力維持のための運動と栄養
12. 生活習慣病予防のための運動と栄養
13. アスリートの海外でのコンディショニング(学外特別講師)
14. ジュニアアスリートのコンディショニング(学外特別講師)
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート(80%)、平常点(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
応用栄養学　栄養マネジメント演習・実習 第4版　著者名:竹中優・土江節子編　出版社:医歯薬出版株式会社　(978-4-263-70635-0)

[参考書(ISBN)]
中高生のお母さんを応援するにじ色式部活レシピ　著者名:アテーナプロジェクト編　出版社:西日本出版社　(978-4-90108-37-5)

P11100370 [WI1-008]

科目名	スポーツ栄養クッキング	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	坂元　美子		

[到達目標]
スポーツ選手に適した献立の作成と調理技術を身につける

[授業概要]
スポーツ栄養学で学んだ知識を献立作成に取り入れ、作成した献立を調理する。スポーツの現場では、食事の摂取や、食材の調達が難しい場合もあり、様々な状況でも調理ができるようなスキルを身につけ、選手が必要な栄養素を摂取できるような献立を考える。さらに、アスリートの給食現場で食事の提供を実践する。
専門演習と卒業論文で坂元研究室を希望する方はこの授業を受けることが望ましい。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく

[授業計画]
1. 授業オリエンテーション
2. 献立作成(体作り期)
3. 献立作成・プレゼンテーション準備(体作り期)
4. 献立プレゼンテーション(体作り期)
5. 献立作成(グリコーゲン・ローディング)
6. 献立作成・プレゼンテーション準備(グリコーゲン・ローディング)
7. 献立プレゼンテーション(グリコーゲン・ローディング)検討(外部特別講師)
8. 献立作成(減量時)
9. 献立作成・プレゼンテーション準備(減量時)
10. 献立プレゼンテーション(減量時)
11. 調理実習(基本の食事)
12. 調理実習(体作り期)
13. 調理実習(グリコーゲン・ローディング)
14. 調理実習(減量時)
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート(60%)、実習態度(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
応用栄養学　栄養マネジメント演習・実習 第4版(スポーツ栄養学Ⅱで購入済み)　著者名:竹中優・土江節子編
出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70635-0)

[参考書(ISBN)]
随時必要に応じて紹介します。

P11100390A [WI3-008]

科目名	スポーツ栄養クッキング	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	坂元　美子		

[到達目標]
スポーツ選手に適した献立の作成と調理技術を身につける

[授業概要]
スポーツ栄養学で学んだ知識を献立作成に取り入れ、作成した献立を調理する。スポーツの現場では、食事の摂取や、食材の調達が難しい場合もあり、様々な状況でも調理ができるようなスキルを身につけ、選手が必要な栄養素を摂取できるような献立を考える。さらに、アスリートの給食現場で食事の提供を実践する。
専門演習と卒業論文で坂元研究室を希望する方はこの授業を受けることが望ましい。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく

[授業計画]
1. 授業オリエンテーション
2. 献立作成(体作り期)
3. 献立作成・プレゼンテーション準備(体作り期)
4. 献立プレゼンテーション(体作り期)
5. 献立作成(グリコーゲン・ローディング)
6. 献立作成・プレゼンテーション準備(グリコーゲン・ローディング)
7. 献立プレゼンテーション(グリコーゲン・ローディング)検討(外部特別講師)
8. 献立作成(減量時)
9. 献立作成・プレゼンテーション準備(減量時)
10. 献立プレゼンテーション(減量時)
11. 調理実習(基本の食事)
12. 調理実習(体作り期)
13. 調理実習(グリコーゲン・ローディング)
14. 調理実習(減量時)
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート(60%)、実習態度(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
応用栄養学　栄養マネジメント演習・実習 第4版(スポーツ栄養学Ⅱで購入済み)　著者名:竹中優・土江節子編
出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70635-0)

[参考書(ISBN)]
随時必要に応じて紹介します。

P11100390B [WI3-008]

科目名	スポーツ栄養指導実習	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	坂元　美子、奥野　直		

[到達目標]
スポーツ栄養学で学んだ内容を現場で体験し、スポーツ選手のデータ収集と解析を行う。
そこから得た知識を選手にフィードバックできるよう、指導スキルを身につける。

[授業概要]
スポーツ栄養指導に必要なデータ収集と解析の方法を学び、学外のスポーツ関連施設及び、スポーツチームでの現場実習を行う。学外実習で収集したデータを授業内で解析し、スポーツ選手への指導方法を学ぶ。
専門演習と卒業論文で奥野・坂元研究室を希望する方はこの授業を必ず受けてください。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく

[授業計画]
1.授業オリエンテーション(奥野・坂元)
2.スポーツ栄養指導のデータ収集の方法（奥野）
3.栄養指導プレゼンテーション①（奥野）
4.栄養指導プレゼンテーション②(奥野)
5.栄養指導プレゼンテーション③（奥野）
6.学外実習①
7.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション①（坂元）
8.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション②(坂元)
9.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション③(坂元)
10. プレゼンテーションの実践指導(学外特別講師)
11. 学外実習②（選手へのフィードバック、栄養指導）
12. 学外実習③選手へのフィードバック、栄養指導）
13. 学外実習報告①（奥野・坂元）
14. 学外実習報告②（奥野・坂元）
15. まとめ（奥野・坂元）

[成績評価方法]
1. データ収集と解析の内容（30%）
2. 結果の発表及びレポートの作成（30%）
3. プレゼンテーションの内容（40%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
適宜資料等配布

[参考書（ISBN）]
スポーツ・健康栄養学（スポーツ栄養学Ⅰで購入済み） 著者名：坂元美子編著　出版社：化学同人 （978-4-7598-1709-6）

P11100380 [WI3-007]

科目名	スポーツ栄養情報処理演習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	坂元　美子、松本　衣代		

[到達目標]
スポーツ選手の食事内容のデータ収集と解析ができることを目指す

[授業概要]
様々な年齢、スポーツ種目の選手の食事調査をもとに食事内容を解析し、その結果からスポーツ選手に理想的な食事を考察する。
専門演習と卒業論文で坂元研究室を希望する方は、この授業を必ず受けてください。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく。
専門演習と卒業論文で坂元研究室を希望する方はこの授業を必ず受けてください。

[授業計画]
1. 統計学の基本（データの種類，平均値，標準偏差）（松本衣代）
2. 異なるグループを比較する（帰無仮説）（松本衣代）
3. 比較・独立性の検定（クロス集計票，χ 二乗検定）（松本衣代）
4. 2群の比較（2群の母平均の差の検定）（松本衣代）
5. 多群の比較（1元配置分散分析）（松本衣代）
6. 多群の比較（2元配置分散分析）（松本衣代）
7. 相関関係（松本衣代）
8. 小学生スポーツ選手の食事解析（坂元美子）
9. 中学生スポーツ選手の食事解析（坂元美子）
10. 高校生スポーツ選手の食事解析（坂元美子）
11. 大学生スポーツ選手の食事解析（坂元美子）
12. 成人スポーツ選手の食事解析（坂元美子）
13. アスリートの食事解析①（坂元美子）
14. アスリートの食事解析②（坂元美子）
15. まとめ（坂元美子）

[成績評価方法]
レポート

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
スポーツ・健康栄養学〈はじめて学ぶ　健康・スポーツ科学シリーズ 6〉（1年生時に購入済み）　著者名：坂元　美子　編著　出版社：化学同人　(978-4-7598-1709-6)

[参考書（ISBN）]
随時必要に応じて紹介します

P11100400A [WI2-004]

科目名	スポーツ栄養情報処理演習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	坂元　美子、松本　衣代		

[到達目標]
スポーツ選手の食事内容のデータ収集と解析ができることを目指す

[授業概要]
様々な年齢、スポーツ種目の選手の食事調査をもとに食事内容を解析し、その結果からスポーツ選手に理想的な食事を考察する。
専門演習と卒業論文で坂元研究室を希望する方は、この授業を必ず受けてください。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく。
専門演習と卒業論文で坂元研究室を希望する方はこの授業を必ず受けてください。

[授業計画]
1. 統計学の基本（データの種類，平均値，標準偏差）（松本衣代）
2. 異なるグループを比較する（帰無仮説）（松本衣代）
3. 比較・独立性の検定（クロス集計票，χ 二乗検定）（松本衣代）
4. 2群の比較（2群の母平均の差の検定）（松本衣代）
5. 多群の比較（1元配置分散分析）（松本衣代）
6. 多群の比較（2元配置分散分析）（松本衣代）
7. 相関関係（松本衣代）
8. 小学生スポーツ選手の食事解析（坂元美子）
9. 中学生スポーツ選手の食事解析（坂元美子）
10. 高校生スポーツ選手の食事解析（坂元美子）
11. 大学生スポーツ選手の食事解析（坂元美子）
12. 成人スポーツ選手の食事解析（坂元美子）
13. アスリートの食事解析①（坂元美子）
14. アスリートの食事解析②（坂元美子）
15. まとめ（坂元美子）

[成績評価方法]
レポート

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
スポーツ・健康栄養学〈はじめて学ぶ　健康・スポーツ科学シリーズ 6〉（1年生時に購入済み） 著者名：坂元　美子 編著　出版社：化学同人 （978-4-7598-1709-6）

[参考書（ISBN）]
随時必要に応じて紹介します

P11100400B [WI2-004]

科目名	生化学	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
　脂質・糖質・タンパク質の機能、構造、代謝について理解でき、生体内で引き起こされる反応（疾患を含む）に関して、生化学的な根拠に基づいて説明できる事を目標とする。

[授業概要]
　ヒトが日常過ごしていく上で、必ず食事を取らなければならない。その食べた食事が体内でどのように変化し、どのような役割を演じ、そして最終的にどのように排泄されていくのか？という内容を化学的に説明する学問が生化学である。特に、医学・薬学・栄養学を学ぶ上では最も重要な基礎的な学問の一つといっても過言ではない。本講義では、三大栄養素である「脂質・糖質・タンパク質」に焦点をあて、これらの構造と働き、ならびに生体内での代謝について、生化学的に概説する。さらに、疾患と人体生化学的事項との関係も適宜講義の中に取り入れ、応用できる内容も多く織り込んでいく。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。

[授業計画]
1. 栄養素の消化と吸収
2. タンパク質１;構造
3. タンパク質２;働き
4. タンパク質３;代謝
5. 糖質１;構造
6. 糖質２;働き
7. 糖質３;代謝
8. 脂質１;構造
9. 脂質２;働き
10. 脂質３;代謝
11. 酵素の働き
12. 酵素の速度論
13. 生体の恒常性とエネルギー代謝
14. 免疫と生体防御
15. 1.～14.のまとめ
16. 試験

[成績評価方法]
試験（80%）ならびに不定期に行う小テスト（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
イラスト生化学入門―栄養素の旅　＜第3版＞　著者名：相原英孝・大森正英・尾庭きよ子・竹中晃子・田村明・長村洋一・野澤義則　著、イラスト　生化学入門　出版社：東京教学社

[参考書（ISBN）]
休み時間の生化学　著者名：大西正健　著　出版社：講談社

P11100080A [WS1-001]

科目名	生化学	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
　脂質・糖質・タンパク質の機能、構造、代謝について理解でき、生体内で引き起こされる反応（疾患を含む）に関して、生化学的な根拠に基づいて説明できる事を目標とする。

[授業概要]
　ヒトが日常過ごしていく上で、必ず食事を取らなければならない。その食べた食事が体内でどのように変化し、どのような役割を演じ、そして最終的にどのように排泄されていくのか？という内容を化学的に説明する学問が生化学である。特に、医学・薬学・栄養学を学ぶ上では最も重要な基礎的な学問の一つといっても過言ではない。本講義では、三大栄養素である「脂質・糖質・タンパク質」に焦点をあて、これらの構造と働き、ならびに生体内での代謝について、生化学的に概説する。さらに、疾患と人体生化学的事項との関係も適宜講義の中に取り入れ、応用できる内容も多く織り込んでいく。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。

[授業計画]
1. 栄養素の消化と吸収
2. タンパク質１；構造
3. タンパク質２；働き
4. タンパク質３；代謝
5. 糖質１；構造
6. 糖質２；働き
7. 糖質３；代謝
8. 脂質１；構造
9. 脂質２；働き
10. 脂質３；代謝
11. 酵素の働き
12. 酵素の速度論
13. 生体の恒常性とエネルギー代謝
14. 免疫と生体防御
15. 1.～14.のまとめ
16. 試験

[成績評価方法]
試験（80%）ならびに不定期に行う小テスト（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
イラスト生化学入門―栄養素の旅　＜第3版＞　著者名：相原英孝・大森正英・尾庭きよ子・竹中晃子・田村明・長村洋一・野澤義則　著、イラスト　生化学入門　出版社：東京教学社

[参考書（ISBN）]
休み時間の生化学　著者名：大西正健　著　出版社：講談社

P11100080B [WS1-001]

科目名	生化学実験	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
生体の構成成分を知る。
また、酵素学的実験ならびに分子生物学的実験を通じて、タンパク質の性質、定量性についても学ぶ。

[授業概要]
実験は本質的に楽しいものである。ヒトは手を使う（動かす）ことによって頭脳が発達したということは良く知られている。百聞は一見に如かず。これらのことは正に実験授業の真骨頂を示すものである。
ある目的を持って計画し、自ら手を動かし、目で観察し、感動し、その結果の意義を知識と想像（創造）を持って考察し、文章、図表にまとめて表現する。このことは、少なからず学生諸君にとっては一つの発見なのである。本実験においては、生体構成成分の定性、定量実験を実施し、酵素反応、遺伝子の抽出を体験する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコールのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。

[授業計画]
1．2．～6．の実験のガイダンス
2．タンパク質の性質確認試験
3．ビューレット法によるタンパク質の定量
4．抗酸化活性の測定
5．遊離脂肪酸の定量
6．高分子化合物の分離実験
7．8．～14．の実験のガイダンス
8．酵素反応の実験①
9．酵素反応の実験②
10．酵素反応の実験③
11．酵素反応の実験④
12．細胞（組織）からのDNA分離抽出実験①
13．細胞（組織）からのDNA分離抽出実験②
14．細胞（組織）からのDNA分離抽出実験③
15．まとめ

＊機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。

[成績評価方法]
レポート

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布
臨床分析学のサブノート（1年時に購入済）　著者名：安井裕之・吉川豊　著　出版社：京都廣川書店

[参考書（ISBN）]
はじめてみよう生化学実験　著者名：山本克博　著　出版社：三共出版

P11100090A [WS2-001]

科目名	生化学実験	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
　生体の構成成分を知る。
　また、酵素学的実験ならびに分子生物学的実験を通じて、タンパク質の性質、定量性についても学ぶ。

[授業概要]
　実験は本質的に楽しいものである。ヒトは手を使う（動かす）ことによって頭脳が発達したということは良く知られている。百聞は一見に如かず。これらのことは正に実験授業の真骨頂を示すものである。
　ある目的を持って計画し、自ら手を動かし、目で観察し、感動し、その結果の意義を知識と想像（創造）を持って考察し、文章、図表にまとめて表現する。このことは、少なからず学生諸君にとっては一つの発見なのである。本実験においては、生体構成成分の定性、定量実験を実施し、酵素反応、遺伝子の抽出を体験する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコールのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。

[授業計画]
1．2．～6．の実験のガイダンス
2．タンパク質の性質確認試験
3．ビューレット法によるタンパク質の定量
4．抗酸化活性の測定
5．遊離脂肪酸の定量
6．高分子化合物の分離実験
7．8．～14．の実験のガイダンス
8．酵素反応の実験①
9．酵素反応の実験②
10．酵素反応の実験③
11．酵素反応の実験④
12．細胞（組織）からのDNA分離抽出実験①
13．細胞（組織）からのDNA分離抽出実験②
14．細胞（組織）からのDNA分離抽出実験③
15．まとめ

＊機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。

[成績評価方法]
レポート

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布
臨床分析学のサブノート（1年時に購入済）　著者名：安井裕之・吉川豊　著　出版社：京都廣川書店

[参考書（ISBN）]
はじめてみよう生化学実験　著者名：山本克博　著　出版社：三共出版

P11100090B [WS2-001]

科目名	生活習慣病と食生活	後期	2 単位
サブタイトル	肥満・メタボリックシンドロームを中心に		
担当者	鈴木　一永		

[到達目標]
適正体重を維持することは健康づくりの第一歩である。肥満に起因する疾病が急増する一方で、間違ったダイエットによる貧血・月経異常・摂食障害なども多発している現代、生涯にわたり有用な正しいダイエットの知識を身につける。

[授業概要]
正しい体重コントロールの方法について学習を進める。単なる知識にとどまらず、健康的な日常生活の実践につながる授業を目指す。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
常に、健康に関する情報を新聞等で読み関心を高めておくこと。

[授業計画]
1. 適正体重とは？BMI値によるジャストウエイトの求め方。
2.「太る」とはどういうことか。
3. 肥満と痩せの問題点。
4. 体重・体脂肪率・腹囲・隠れ肥満・りんご型肥満・洋梨型肥満。
5. 間違ったダイエットの問題点。
6. 歩数計による消費エネルギー量調べ。
7. 代謝の活発な体を作るポイントとリバウンド防止のダイエット法。
8. 正しいダイエットとは。
9. 身近な食品のエネルギー比べ。
10. スポーツと食事（学外特別講師）
11. バランスの良いメニューの立て方。バランス５点で献立作成。
12. 各自の食生活を点検してみよう。
13. おやつとの正しい付き合い方。
14. 豊かな女性のための食事学（食生活は女性から）。
15. まとめ・自分をほめよう。

[成績評価方法]
レポート（50%）および試験（50%）を実施する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
授業用に資料を配布する。

[参考書（ISBN）]
なし

P11100570 [WB2-008]

科目名	世界の食生活と健康	後期	2 単位
サブタイトル	世界の地域別食生活の差異と健康への影響		
担当者	松本　衣代		

[到達目標]
世界の様々な地域の人々の食生活の民族学的、歴史的背景を理解し、その健康への影響を学ぶ。

[授業概要]
世界の国々の地域別食生活を伝統的食生活とその変遷をビデオ等で紹介し、主食と副食、副菜等の食パターンや食材、そしてその結果としての栄養摂取状態を把握し人々の健康への影響をグループワークで調べる。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと、日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと

[授業計画]
1. 伝統的食生活と健康①:世界の主食(1)
2. 伝統的食生活と健康②:世界の主食(2)
3. 伝統的食生活と健康③:世界の地域別食生活(1)欧州
4. 伝統的食生活と健康④:世界の地域別食生活(2)アジア
5. 伝統的食生活と健康⑤:世界の地域別食生活(3)南太平洋
6. 伝統的食生活と健康⑥:世界の地域別食生活(4)北米大陸
7. 伝統的食生活と健康⑦:世界の地域別食生活(5)南米大陸
8. 伝統的食生活と健康⑧:食生活の中のハーブと漢方
9. 食生活の変遷と健康への影響①:生活習慣病について
10. 食生活の変遷と健康への影響②:栄養の二重苦とは
11. 食生活の変遷と健康への影響③:高齢者の栄養と健康 （兵庫県立リハビリテーションセンター西播磨病院 加藤順一）
12. 食生活の変遷と健康への影響④:こどもの栄養と健康
13. 現代人の食の安全性①:食の衛生問題
14. 現代人の食の安全性②:食品の衛生と健康について
15. 総合ディスカッション・まとめ

[成績評価方法]
レポート

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
プリント配布、ビデオ、スライド等

[参考書(ISBN)]
なし

P11100580 [WI2-015]

科目名	専門演習 Ⅰ	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直		

[到達目標]
　ゼミでは、大学生として必要な研究全般についての考え方や調査・測定を行う上での心構え、実施方法などを習得する。
　研究成果を研究会や学会、学術論文等で発表するためのまとめ方、プレゼンテーション方法、文章の書き方、ディスカッションの能力を習得する。
　卒業論文の研究テーマを決定するために必要な専門的知識を習得する。

[授業概要]
運動生理学の基礎と応用知識の習得に努め、最新情報の整理を行う。
論文作成の方法やプレゼンテーションの技術を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　日頃から研究テーマに関する論文や専門書を読み、得られた知識をノートに整理すること。

[授業計画]
1. ゼミ活動についてのガイダンス
2. 文献検索の方法、図書館の利用方法
3. 運動生理学の基礎・応用知識の習得①、論文購読①
4. 運動生理学の基礎・応用知識の習得②、論文購読②
5. 運動生理学の基礎・応用知識の習得③、論文購読③
6. 運動生理学の基礎・応用知識の習得④、論文購読④
7. 運動生理学の基礎・応用知識の習得⑤、論文購読⑤
8. 論文作成の進め方①、テーマつくり
9. 論文作成の進め方②、データ収集、実験方法
10. 論文作成の進め方③、データ分析
11. 論文作成の進め方④、統計解析
12. 論文作成の進め方⑤、考察の作り方
13プレゼンテーションの方法①　図、表の作り方
14. プレゼンテーションの方法②　話し方、質問の仕方
15. プレゼンテーションの方法③　まとめ

[成績評価方法]
1. ゼミへの積極的な参加（20%）
2. 報告資料作成とプレゼンテーションの内容（20%）
3. ディスカッションへの参加状況とその内容（20%）
4. 課題の提出状況とその内容（20%）
5. 文献検索量と整理（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布等

[参考書（ISBN）]
なし

P11100720 [WI3-017]

科目名	専門演習 Ⅰ	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	坂元　美子		

[到達目標]
　スポーツ選手の食事摂取状況、身体状況などから選手にとっての理想的な食事を考察できるようにする。また、理想的な食事を提供できるようにするためにはどうすればよいかを検討する。主体的に考え、行動できる力を身につける。

[授業概要]
　文献検索、食事調査、身体状況調査などから、スポーツ選手にとって理想的な食事を検討する。
　スポーツ選手と直接かかわり、食事調査をすることで、食事調査の手法を身につける。スポーツの現場で、選手のトレーニング内容を把握し、必要な栄養量を把握する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 文献検索、発表①
3. 文献検索、発表②
4. 学外実習（スポーツ選手の食事調査①）
5. 学外実習（スポーツ選手の食事調査②）
6. 学外実習（スポーツ選手の体力測定、身体測定①）
7. 学外実習（スポーツ選手の体力測定、身体測定②）
8. 学外実習（スポーツ選手のトレーニング内容の把握①）
9. 学外実習（スポーツ選手のトレーニング内容の把握②）
10. 食事調査解析①
11. 食事調査解析②
12. 体力測定、身体測定解析①
13. 体力測定、身体測定解析②
14. 選手へのフィードバック①
15. 選手へのフィードバック②

[成績評価方法]
レポート（60%）、発表（40%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
適宜資料配布

[参考書（ISBN）]
必要に応じて随時紹介します

P11100720B [WI3-017]

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤　誓子		

[到達目標]
4回生で履修する卒業論文作成を目標とし、自ら課題発見をし解決する能力を養うことを目的とする。

[授業概要]
「給食」をテーマに研究する。演習又は実習を行う。
研究テーマの例は以下の通り。
①保育所や幼稚園における食物アレルギー児への給食の栄養量と他の児童への給食の栄養量とに差があるのかについて献立を分析
②食物アレルギー児を対象とした給食のおやつについての検討
③高齢者福祉施設で提供されている実施献立の栄養量の分析
④高齢者福祉施設での行事食についての検討
これらのテーマを例として各自で研究計画を作成し、卒業論文作成の準備を進める。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
特定給食施設における給食運営について復習しておくとともに，これらに関する新聞記事などに関心を持つこと

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの決定
4. 研究計画書作成
5. 研究計画書作成
6. 研究計画書作成
7. 参考文献検索
8. 参考文献検索
9. 研究計画書作成
10. 研究計画書完成
11. 中間発表会(1)
12. テーマごとの演習又は実習
13. テーマごとの演習又は実習
14. 中間発表会(2)
15. まとめ

[成績評価方法]
平常点70%、レポート20%、中間発表成績10%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P11100720C [WI3-017]

科目名	専門演習 Ⅰ	前期	1 単位
サブタイトル	スポーツ・健康教育の調査		
担当者	重福　京子		

[到達目標]
各自のテーマで調査研究をする

[授業概要]
卒業論文に繋げるよう各自のテーマを確定し、文献と資料の収集、調査を行い論文の構成を考え、学習する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日頃から研究論文に関係する論文等に関心を持つこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 文献検索1
3. 文献検索2
4. 文献検索3
5. 文献検索4
6. 文献検索5
7. 文献検索6
8. 文献検索7
9. 文献検索8
10. 文献検索・資料収集1
11. 文献検索・資料収集2
12. 調査作成1
13. 調査作成2
14. 調査作成3
15. まとめ

[成績評価方法]
平常点（50%）、レポート（40%）、文献調査内容（10%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11100720D [WI3-017]

科目名	専門演習 Ⅰ	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	鈴木　一永		

[到達目標]
生活習慣病の予防・治療の実際について理解する。

[授業概要]
生活習慣病は日本人の生命に危険を及ぼす重大な疾患である。その予防と治療が過去・現在どのように行われ、将来はどうあるべきかを考えていく。
実験・実習とは異なり、何らかの方法を用いれば、ある結果に行き着くものではない。結果の分からない事柄に、どのように立ち向かっていくのか、その考え方を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
近隣で開催される各種研究会（医療・スポーツ・栄養関係）に、積極的に参加することが望ましい。

[授業計画]
1. 自己紹介等によるコミュニケーションの実践
2. 文献検索の実際
3. 文献抄読1
4. 他施設との連携のとり方
5. 研究テーマの構築
6. 文献抄読2
7. 蓄積されたデータの検討1
8. 検討課題の抽出1
9. 文献抄読3
10. 過去の卒業論文の理解1
11. 過去の卒業論文の理解2
12. 文献抄読4
13. 蓄積されたデータの検討2（プレゼンテーション）
14. 検討課題の抽出2（プレゼンテーション）
15. 半期のまとめ

[成績評価方法]
コミュニケーション・リサーチ・プレゼンテーションなどにつき、積極性・明確性を評価する（100%）。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
適宜、参考になる文献・資料等を提示する。

[参考書（ISBN）]
なし

P11100720E [WI3-017]

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	松浦　紀美恵		

[到達目標]
非常時の食について学びながら、自らの研究テーマを考える。

[授業概要]
子供から高齢者のライフステージに応じた食生活をテーマにアレルギーや栄養コントロール等現代社会の食の問題を考慮できる食生活のあり方についての知識を深める。また、日本の良き食文化を学び、郷土料理や行事食についての知識を習得し、伝承方法等を見出し、食について学習を行う。
非常時の食についても研究を重ね、非常時のための「必要な備え」について研究を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
普段から論文をよく読み、まとめておくこと。前回の内容をよく復習し、次回の発表に備え、レポートを作成しておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 自然災害について学ぶ①
3. 自然災害について学ぶ②
4. 災害時に関する文献を読む①
5. 災害時に関する文献を読む②
6. 災害時の備えについて考える①
7. 災害時の備えについて考える②
8. 災害時の食事を考える①
9. 災害時の食事を考える②
10. 災害時の食事を作る①
11. 災害時の食事を作る②
12. 災害時の食事を作る③
13. 災害時の食事を作る④
14. 災害時の食事を作る⑤
15. まとめ

[成績評価方法]
平常点（50%）、レポート（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11100720F [WI3-017]

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	松本　衣代		

[到達目標]
健康・栄養上の問題点を食事調査結果から抽出する手法を学ぶ

[授業概要]
明治時代の医学者高木兼寛は、和食から洋食に変更する事で当時結核と並んで2大国民病であった脚気の発症が予防できる事を発見しました。この様に、ひとつの食品、食事形態により疾病を予防する方法が明らかになる事もあります。
この演習では、世界で起こっている健康問題と栄養状態、食環境、食習慣などの因子とのかかわりを明らかにする手法である栄養疫学的アプローチの基礎を学びます。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1，2回生で学んだ栄養学の基礎を復習するようにしてください

[授業計画]
1. オリエンテーション、授業の進め方
2. 栄養疫学調査について①文献研究
3. 栄養疫学調査について②文献研究
4. 栄養疫学調査について③倫理的配慮
5. 栄養疫学調査について④研究デザインの概要
6. 栄養疫学調査について⑤プロトコール
7. 栄養疫学調査について⑥食事調査法の概要
8. 栄養疫学調査について⑦サンプリング法
9. 栄養調査に必要なスキル①調査紙の作成(1)
10. 栄養調査に必要なスキル②調査紙の作成(2)
11. 栄養調査に必要なスキル③ポーションサイズの決定
12. 栄養調査に必要なスキル④身体測定法
13. 栄養調査に必要なスキル⑤生体試料の分析
14. 栄養調査に必要なスキル⑥データの入力と分析
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート(40%)、取り組み(60%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
プリント資料

[参考書(ISBN)]
随時紹介します

P11100720G [WI3-017]

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	Cooking English		
担当者	山下　俊介		

[到達目標]
料理に関する英語表現の基礎研究と食物分野における英語コミュニケーション能力の向上

[授業概要]
Let cook English in our own way!

当ゼミでは健康スポーツ栄養学科の学生の将来的な英語コミュニケーション能力の向上を目指して、各自が各々の独自の視点と比較文化的な視座から食物分野における英語表現を研究していきます。また毎回分担を決め、各自が各々の具体的なテーマでプレゼンテーションを行います。研究課題としては例えば、以下のようなテーマが考えられます。

米国における日本料理店の店名とレシピの比較研究
料理表現における日米比較
食物を用いた慣用表現の研究
アメリカ料理とは何か
日系アメリカ人の食生活の歴史

ゼミを選択する学生は、自己の英語表現能力を磨くために、不断の努力を惜しまず、精進して下さい。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
あらかじめ決められた日時のプレゼンテーションの準備をしておくこと。
英語の単語、熟語をチェックし、内容の要約をしておくこと。

[授業計画]
1. Introduction, syllabus review, classroom language
2. Mixed Salad, Try Some Baking ①
3. Mixed Salad, Try Some Baking ②
4. Stir Crazy, Four Keys to Safer Food ①
5. Stir Crazy, Four Keys to Safer Food ②
6. Food Holding ①
7. Food Holding ②
8. Our Body and Nutrition ①
9. Our Body and Nutrition ②
10. What Teens Typically Eat in a Day ①
11. What Teens Typically Eat in a Day ②
12. Cancer Prevention ①
13. Cancer Prevention ②
14. Are You at a Healty Weight? ①
15. Are You at a Healty Weight? ②

[成績評価方法]
平常点（40%）、口頭発表（30%）、レポート（30%）などが評価の基準

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布

[参考書（ISBN）]
授業内で指示する。

P11100720H [WI3-017]

科目名	専門演習 Ⅰ	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
4回生で行う卒業論文作成のための基礎トレーニング実験、ならびに文献検索の方法を学ぶ。

[授業概要]
研究を行う上では、多くの器具や装置を使用する。それらは使用方法を誤ると、研究データが誤ったものになるだけでなく、大事故につながることもある。これらを正確かつ安全に使用できるように、また、4回生で行う卒業研究をイメージできるように基礎トレーニングを行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
必ず前日に、翌日に行う研究をイメージし、課題に取り組むこと。

[授業計画]
1. ガイダンス
2. 研究テーマを考える①
3. 研究テーマを考える②
4. 文献検索の方法①
5. 文献検索の方法②
6. 文献検索の方法③
7. ガラス器具の使い方
8. 検量線の作成方法
9. タンパク定量の方法
10. データーの取り扱い方法①
11. データーの取り扱い方法②
12. データーの取り扱い方法③
13. 実験報告書の作成方法①
14. 実験報告書の作成方法②
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P11100720J [WI3-017]

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥		

[到達目標]
4年生で作成する卒業論文の研究デザインを考え、データ収集までの調査方法を習得する。

[授業概要]
身体活動と食生活の両面から、対象者に応じた健康教育支援の一助となるよう、年齢が異なる様々な人を対象に、活動量、身体組成（体脂肪量・骨量）の測定ならびに生活活動記録、食事記録、質問紙を用いて調査を行い、活動量、身体組成、生活習慣、食事の関連を検討する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
研究テーマに関するニュース・論文などに日頃から関心をもち、情報収集に努めること。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 参考文献の収集方法①
3. 参考文献の収集方法②
4. 研究テーマの検討①
5. 研究テーマの検討②
6. 研究テーマの検討③
7. 研究デザインの検討①
8. 研究デザインの検討②
9. 研究デザインの検討③
10. 調査の準備①
11. 調査の準備②
12. 調査の準備③
13. 調査の実施①
14. 調査の実施②
15. 調査の実施③

[成績評価方法]
平常点（50%）、レポート（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布

[参考書（ISBN）]
なし

P11100720K [WI3-017]

科目名	専門演習 Ⅰ	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	本田　まり		

[到達目標]
①研究の意義・目的を理解し、活動につながっている。
②研究の目的に向かって、必要な情報収集を主体的に行っている。
③研究の目的に向かって、専門性を深めている。

[授業概要]
　下記のテーマについて、観察研究、調査研究を行う。
①栄養食事療養中の患者の臨床と食生活、身体活動、心理等に関する研究
②小児の食物アレルギーの臨床と保護者支援に関する研究
③保育施設の食物アレルギー対応の向上に関する研究
　特に①では、健康のためには、個人だけでなく個人をとりまく環境も含めた全人的サポートが必要である。栄養食事療養中の人々の臨床上の変化を観察し、その変化にどのような因子が関わっているのかを検討しながら総合的にものごとを捉え、考察できる力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　主体性が大変重要です。何事にも積極的に丁寧に取り組んでください。臨床に関連する科目や、食物アレルギーでは給食に関する科目の復習も十分に行ってください。進行状況や得た知識、疑問点等をゼミノートにまとめるようにしてください。

[授業計画]
※研究テーマによっては、内容や順番が異なる場合があります。
1. オリエンテーション、研究テーマの検討
2. 研究テーマの検討（目的と意義）、進め方のレイアウト作成
3. 書籍、文献からの情報収集、報告と質疑応答①
4. 書籍、文献からの情報収集、報告と質疑応答②
5. 書籍、文献からの情報収集、報告と質疑応答③
6. 調査等の準備①
7. 調査等の準備②
8. 中間報告
9. 調査等の準備③
10. 調査等の準備④ （集計のための準備含む）
11. 調査等の実践①
12. 調査等の実践②
13. 調査等の結果の集計①
14. 調査等の結果の集計②
15. 調査等の評価、概要の報告

[成績評価方法]
中間報告およびそれまでの取り組み50%、15回目の報告およびそれまでの取り組み50%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11100720L [WI3-017]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直		

[到達目標]
　ゼミでは、大学生として必要な研究全般についての考え方や調査・測定を行う上での心構え、実施方法などを習得する。
　研究成果を研究会や学会、学術論文等で発表するためのまとめ方、プレゼンテーション方法、文章の書き方、ディスカッションの能力を習得する。
　卒業論文の研究テーマを決定するために必要な専門的知識を習得する。

[授業概要]
健康づくりのために生活習慣病などの危険因子をどのように減らすか、運動機能や体力を維持・向上させるためにはどのようなことを行っていかなければならないか、運動生理学の知識をベースに研究する。
研究テーマに関する専門書、論文を多読・精読し、その内容を整理して、必要な知識の習得に努める。
研究内容については、各自のテーマに応じて教員の指導の下で調査や測定を進める。
定期的に研究の進捗状況を報告し、課題と問題解決の具体的方法や健全な批判的思考法をゼミ生全体で検討する。
各自の卒業論文のテーマを決定する。
大学生として、あるいは社会人になるまでに身につけておかなければならない学士力や社会人基礎力の向上を目指す。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　日頃から研究テーマに関する論文や専門書を読み、得られた知識をノートに整理すること。

[授業計画]
1.卒論テーマ選定と文献検索①
2.卒論テーマ選定と文献検索②
3.論文購読①
4.論文購読②
5.論文購読③
6. 各自の卒論テーマに応じた実験や文献整理①
7. 各自の卒論テーマに応じた実験や文献整理②
8. 各自の卒論テーマに応じた実験や文献整理③
9. 各自の卒論テーマに応じた実験や文献整理④
10. データ整理と解析①
11. データ整理と解析②
12. データ整理と解析③
13. 学士力と社会人基礎力①
14. 学士力と社会人基礎力②
15. 学士力と社会人基礎力③、まとめ

[成績評価方法]
1. ゼミへの積極的な参加と文献検索量（20%）
2. 報告資料作成とプレゼンテーションの内容（20%）
3. ディスカッションへの参加状況とその内容（20%）
4. 課題の提出状況とその内容（20%）
5. データ収集と解析の内容（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布

[参考書（ISBN）]
随時紹介します

P11100730 [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	坂元　美子		

[到達目標]
専門演習Ⅰで学習したことをさらにスキルアップさせる

[授業概要]
専門演習Ⅰで収集し、解析したデータをもとにスポーツ選手にとって理想的な栄養摂取量や食事内容を検討する。食事が摂取しにくい状況で、選手ができるだけ必要な栄養を摂取できるようにするための指導内容を検討する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 文献検索、発表①
3. 文献検索、発表②
4. 文献検索、発表③
5. 文献検索、発表④
6. スポーツ選手の調査・測定①
7. スポーツ選手の調査・測定②
8. スポーツ選手の調査・測定③
9. データ解析①
10. データ解析②
11. データ解析③
12. スポーツ選手へのフィードバック①
13. スポーツ選手へのフィードバック②
14. スポーツ選手へのフィードバック③
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート(60%)、発表(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
適宜資料配布

[参考書(ISBN)]
必要に応じて随時紹介します。

P11100730B [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤　誓子		

[到達目標]
4回生で履修する卒業論文作成を目標とし、自ら課題を発見し解決する能力を養うことを目的とする。

[授業概要]
専門演習Ⅰで立案した研究計画を基に、引き続き演習又は実習を行う。
自らの課題に対して、しかるべき根拠を示すために十分な検証を行う。
期間中、数回に亘り発表会を設け、研究経過を第三者に示す経験を積む予定である。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
特定給食施設における給食の栄養管理について復習し，これについての新聞記事などに関心を持つこと

[授業計画]
1. 専門演習Ⅰでの経過説明
2. 今後の研究計画の発表会
3. テーマごとの演習又は実習
4. テーマごとの演習又は実習
5. テーマごとの演習又は実習
6. 中間発表会
7. 論文作成準備
8. 論文作成準備
9. 研究内容の見直し
10. 追加演習又は実習
11. 追加演習又は実習
12. 専門演習Ⅰ、Ⅱを通じての最終発表会(1)
13. 専門演習Ⅰ、Ⅱを通じての最終発表会(2)
14. 次年度、卒業論文のための準備
15. まとめ

[成績評価方法]
平常点70%、レポート20%、中間発表・最終発表成績10%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P11100730C [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	スポーツ・健康教育の調査		
担当者	重福　京子		

[到達目標]
各自の研究テーマを調査する。

[授業概要]
卒業論文に繋げるよう各自の研究テーマで論文の構成を考え学習する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日頃から研究論文に関係する論文等に関心を持つこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 調査研究1
3. 調査研究2
4. 調査研究3
5. 調査研究4
6. 調査研究5
7. 調査研究6
8. 調査研究7
9. 調査研究8
10. 調査研究集計1
11. 調査研究集計2
12. 調査研究集計3
13. 調査研究集計4
14. まとめ1
15. まとめ2

[成績評価方法]
平常点（60%）、レポート・調査内容（40%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11100730D [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	鈴木　一永		

[到達目標]
生活習慣病の予防・治療の実際について理解する。

[授業概要]
生活習慣病は日本人の生命に危険を及ぼす重大な疾患である。その予防と治療が過去・現在どのように行われ、将来はどうあるべきかを考えていく。
実験・実習とは異なり、何らかの方法を用いれば、ある結果に行き着くものではない。結果の分からない事柄に、どのように立ち向かっていくのか、その考え方を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
近隣で開催される各種研究会（医療・スポーツ・栄養関係）に、積極的に参加することが望ましい。

[授業計画]
1. 他施設とのディスカッション1
2. 検討すべき課題の抽出1
3. 文献抄読1
4. 他施設とのディスカッション2
5. 検討すべき課題の抽出2
6. 文献抄読2
7. 他施設とのディスカッション3
8. 検討すべき課題の抽出3
9. 文献抄読3
10. 学年を超えてのコミュニケーション（研究テーマの引き継ぎ）1
11. 学年を超えてのコミュニケーション（研究テーマの引き継ぎ）2
12. 学年を超えてのコミュニケーション（研究テーマの引き継ぎ）3
13. 次年度に向けて（研究テーマについてのプレゼンテーション）1
14. 次年度に向けて（研究テーマについてのプレゼンテーション）2
15. 半期のまとめ

[成績評価方法]
コミュニケーション・リサーチ・プレゼンテーションなどにつき、積極性・明確性を評価する（100%）。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
適宜、参考になる文献・資料等を提示する。

[参考書（ISBN）]
なし

P11100730E [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	松浦　紀美恵		

[到達目標]
4回生で行う卒業研究のテーマを決定し、実行案を作成する。

[授業概要]
大規模災害が多発する中で、緊急時でも子供から高齢者のライフステージに応じた食生活を維持できるように取り組み、アレルギーや栄養コントロール等現代社会の問題についても考慮できる食生活のあり方についての知識を深める。また、日本の良き食文化を学び、郷土料理や行事食についての知識を習得し、伝承方法等を見出し、食について学習を行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の内容をよく復習し、次回の発表に備え、レポートを作成しておく。また、普段から新聞や関連資料をよく読んでまとめておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 文献検索①
3. 文献検索②
4. 文献検索③
5. 文献検索④
6. 資料作成、試作①
7. 資料作成、試作②
8. 資料作成、試作③
9. 資料作成、試作④
10. 資料作成、試作⑤
11. 資料作成、試作⑥
12. 資料作成、試作⑦
13. 資料作成、試作⑧
14. 資料作成、試作⑨
15. まとめ

[成績評価方法]
平常点(50%)、レポート(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P11100730F [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	松本　衣代		

[到達目標]
　食事調査結果や実験から抽出した因子を分析する力を身に着ける

[授業概要]
　1880年代、オランダ人医師クリスティアーン・エイクマンはインドネシアで脚気の原因を調査中、偶然白米で飼われていたニワトリが脚気と同様の症状を示すことを見出し、玄米で飼育したニワトリには脚気の症状が見られない事から、精米時に取り除かれる糠に脚気を予防する成分が含まれる事を明らかにし、その成分の抽出に成功しました。それが、現在ビタミンB1（チアミン）と呼ばれる物質です。この演習では、専門演習Ⅰで学んだ栄養疫学的アプローチにより抽出した健康状態に与える因子を適切な実験により明らかにする手法を学びます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　これまでに学んだ講義内容を復習しておいてください

[授業計画]
1. オリエンテーション，授業の進め方
2. 病態モデル動物①
3. 病態モデル動物②
4. 病態モデル動物③
5. 病態モデル動物④
6. 病態モデル動物⑤
7. 生体試料の分析①
8. 生体試料の分析②
9. 生体試料の分析③
10. 生体試料の分析④
11. 生体試料の分析⑤
12. 生体試料の分析⑥
13. データ分析
14. プレゼンテーション
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート（40%）、取り組み（30%）、プレゼンテーション（30%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント資料

[参考書（ISBN）]
随時紹介します

P11100730G [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	Cooking English		
担当者	山下　俊介		

[到達目標]
料理における英語表現の基礎研究と食物の分野における英語コミュニケーション能力の向上

[授業概要]
Let cook English in our own way!

当ゼミでは健康スポーツ栄養学科の学生の将来的な英語コミュニケーション能力の向上を目指して、各自が各々の独自の視点と比較文化的な視座から食物分野における英語表現を研究していきます。また毎回分担を決め、各自が各々の具体的なテーマでプレゼンテーションを行います。研究課題としては例えば、以下のようなテーマが考えられます。

米国における日本料理店の店名とレシピーの比較研究
料理表現における日米比較
食物を用いた慣用表現の研究
アメリカ料理とは何か
日系アメリカ人の食生活の歴史

ゼミを選択する学生は、自己の英語表現能力を磨くために、不断の努力を惜しまず、精進して下さい。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
あらかじめ決められた日時のプレゼンテーションの準備をしておくこと。
英語の単語、熟語をチェックし、内容の要約をしておくこと。

[授業計画]
1. A Nutrient for All Ages
2. How Much Folate Do You Need?①
3. How Much Folate Do You Need?②
4. Caution about Folic Acid Supplements①
5. Caution about Folic Acid Supplements②
6. Food Holding①
7. Food Holding②
8. Our Body and Nutrition①
9. Our Body and Nutrition②
10. Dietitians Message①
11. Dietitians Message②
12. Appendix①
13. Appendix②
14. Adult Learning①
15. Adult Learning②

[成績評価方法]
平常点（40%）、口頭発表（30%）、レポート（30%）などが評価の基準

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布

[参考書（ISBN）]
授業内で指示する。

P11100730H [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
専門演習Iで学習したことをスキルアップさせる。

[授業概要]
専門演習Iで学んだ内容を基に、実際の研究を遂行する。
研究素材として、ミネラルや食物成分を用い、生活習慣病の予防を目指した基礎的研究を行う。また、生活習慣病とミネラルとの間にどのような関係があるのかを、動物の臓器や血液ならびに種々の装置を利用して解明を行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
必ず前日に、翌日に行う研究をイメージし、課題に取り組むこと。

[授業計画]
1. ガイダンス
2. pHメーターの使い方
3. プレートリーダーの使い方
4. 原子吸光光度計の使い方
5. 骨破断機の使い方
6. 遠心機の使い方
7. 紫外可視吸光光度計の使い方
8. 実験動物の取り扱い法／解剖の方法
9. 脂肪組織から遊離される脂肪酸の測定
10. リパーゼ活性の測定
11. α グルコシダーゼ活性の測定
12. アミラーゼ活性の測定
13. ACE活性の測定
14. レポートの作成
15. まとめ

[成績評価方法]
レポート

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P11100730J [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥		

[到達目標]
　専門演習Ⅰに引き続き、データ収集までの調査方法を習得する。得られた結果を集計し、問題を抽出し、4年次の卒業論文作成に向けて検討する。

[授業概要]
　身体活動と食生活の両面から、対象者に応じた健康教育支援の一助となるよう、年齢が異なる様々な人を対象に、活動量、身体組成（体脂肪量・骨量）の測定ならびに生活活動記録、食事記録、質問紙を用いて調査を行い、活動量、身体組成、生活習慣、食事の関連を検討する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
研究テーマに関するニュース・論文などに日頃から関心をもち、情報収集に努めること。

[授業計画]
1. 調査の準備①
2. 調査の準備②
3. 調査の準備③
4. 調査の実施①
5. 調査の実施②
6. 調査の実施③
7. 収集データの集計・問題抽出①
8. 収集データの集計・問題抽出②
9. 収集データの集計・問題抽出③
10. 収集データの集計・問題抽出④
11. 収集データの集計・問題抽出⑤
12. 収集データの集計・問題抽出⑥
13. 卒業論文に向けての検討①
14. 卒業論文に向けての検討②
15. 卒業論文に向けての検討③

[成績評価方法]
平常点（50%）、レポート（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布

[参考書（ISBN）]
なし

P11100730K [WI3-018]

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	本田　まり		

[到達目標]
①研究の意義・目的を理解し、主体的な活動につながっている。
②研究の目的に向かって、必要な情報収集を主体的に行っている。
③研究の目的に向かって、さらに専門性を深めている。
④研究の準備等を、計画性をもって成し遂げることができる。

[授業概要]
専門演習Ⅰで進行中の研究をさらに発展させます。実践結果の評価だけでなく、企画評価等も交え、次につながる形成的な評価ができる力を養いながら、4年次での卒業論文をまとめることができる基礎力の獲得を目指します。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
主体性が大変重要です。何事にも積極的に丁寧に取り組んでください。テーマに対する専門性をさらに深め、まとめとしての卒業論文を仕上げることができるよう、計画性をもって進めてください。

[授業計画]
※研究テーマによっては、内容や順番が異なる場合があります。
1. オリエンテーション 他
2. 専門演習Ⅰでの集計結果等の分析と考察、文献等検索①
3. 専門演習Ⅰでの集計結果等の分析と考察、文献等検索②
4. 専門演習Ⅰでの集計結果等の分析と考察、文献等検索③
5. 研究計画(調査内容等)の再考
6. 中間報告用 プレゼンテーション等の準備
7. 中間報告用 プレゼンテーション等の準備
8. 中間報告
9. 専門演習Ⅱ 調査等の準備①
10. 専門演習Ⅱ 調査等の準備②
11. 実践①
12. 実践②
13. 調査等の結果の集計①
14. 調査等の結果の集計②
15. 集計結果の評価、概要報告

[成績評価方法]
中間報告およびそれまでの取り組み50%、15回目の報告およびそれまでの取り組み50%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P11100730L [WI3-018]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	奥野　直		

[到達目標]
　卒業論文を作成するために必要な基本的なスキルや知識、専門的技能を身につける。特に、運動生理学に関する課題に対しての問題解決能力や論理的思考力、コミュニケーションスキルを習得する。
　そして、4年間の集大成として創造性に富んだ卒業論文を完成させる。

[授業概要]
　各自が設定した研究テーマにしたがって実験や調査を行い、卒業論文を作成する。各ゼミ生は定期的に研究経過を報告し、多くのディスカッションを通して、研究内容を深めるようにする。論文作成と同時に発表形式にもまとめ、適切なプレゼンテーションができるようにする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　日頃から研究テーマに関する論文や専門書を読み、得られた知識をノートに整理すること。

[授業計画]
〔前期〕
1. 卒業論文作成の進め方とテーマ選定
2. 研究計画書の作成
3. 研究内容のポイント整理
4. 文献資料の整理
5. 実験・調査の実施①
6. 実験・調査の実施②
7. 実験・調査の実施③
8. 実験・調査の実施④、進行状況報告、データ解析①
9. 実験・調査の実施⑤、進行状況報告、データ解析②
10. 実験・調査の実施⑥、進行状況報告、データ解析③
11. データ解析④、論文作成①（背景と目的）
12. データ解析⑤、論文作成②（背景と目的）
13. データ解析⑥、論文作成③（方法）
14. 論文作成④（方法）
15. 論文作成⑤（結果）

〔後期〕
16. 論文作成⑥（結果）
17. 論文作成⑦（結果）
18. 論文作成⑧（考察）
19. 論文作成⑨（考察）
20. 論文作成⑩（考察）
21. 論文作成⑪（考察）
22. 論文作成⑫（参考文献）
23. 論文完成
24. プレゼンテーションpp作成①
25. プレゼンテーションpp作成②
26. プレゼンテーションpp作成③
27. 卒論発表①
28. 卒論発表②
29. 卒論発表③
30. まとめ

[成績評価方法]
作成された論文の内容（90%）、論文発表のプレゼンテーションの内容（10%）により評価します

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布等

[参考書（ISBN）]
なし

P11100740 [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	坂元　美子		

[到達目標]
3回生の専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて解析、分析した資料をもとに、文献検索、文章の書き方などを学び、卒業論文を完成させる。研究課題について調べたことをまとめて発表し、プレゼンテーションの方法についても深く学ぶ。

[授業概要]
各年代別、種目別のスポーツ選手の食事調査、身体活動量調査、体格測定などから、スポーツ選手にとって理想的な栄養量を導き出し、必要栄養量をとることのできる献立を考察する。また、それぞれの調査結果から、各年代、種目ごとのスポーツ選手の問題点を見出し、改善策を考察する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
論文を多く読み、論文の書き方を習得しておく

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 論文の書き方
3. 卒業論文のテーマ設定
4. 卒業論文の研究計画①
5. 卒業論文の研究計画②
6. 学外実習①
7. 学外実習②
8. 学外実習③
9. 学外実習④
10. データ解析①
11. データ解析②
12. データ解析③
13. データ解析④
14. 調理実習①
15. 調理実習②
16. 卒業論文の研究計画③
17. 卒業論文の研究計画④
18. 卒業論文の中間発表・ディスカッション①
19. 卒業論文の中間発表・ディスカッション②
20. 卒業論文の中間発表・ディスカッション③
21. 卒業論文の中間発表・ディスカッション④
22. 卒業論文の仕上げ①
23. 卒業論文の仕上げ②
24. 卒業論文プレゼンテーション準備①
25. 卒業論文プレゼンテーション準備②
26. 卒業論文プレゼンテーション①
27. 卒業論文プレゼンテーション②
28. 卒業論文プレゼンテーション③
29. 卒業論文プレゼンテーション④
30. まとめ

[成績評価方法]
レポート（70%）、発表（30%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
適宜資料配布

[参考書（ISBN）]
適宜紹介

P11100740B [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤　誓子		

[到達目標]
各自の研究テーマに添った卒業論文作成を目標とする。

[授業概要]
専門演習Ⅰ・Ⅱで立案した研究計画を基に十分な検証を行い、論文を作成する。
期間中、数回に亘り発表会を設け、研究経過を第三者に示す経験を積む予定である。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
特定給食施設における栄養管理に常に関心を持ち，新聞記事などから新しい知見を修得するよう心がけること

[授業計画]
1. 専門演習Ⅱでの経過説明(1)
2. 専門演習Ⅱでの経過説明(2)
3. 研究計画発表会準備
4. 研究計画発表会
5. 食資源に関する学外研修(1)(神戸大学大学院農学研究科付属食資源教育研究センター)
6. 食資源に関する学外研修(2)(神戸大学大学院農学研究科付属食資源教育研究センター)
7. データの再検証(1)
8. データの再検証(2)
9. データの再検証(3)
10. 調理演習(1)
11. 調理演習(2)
12. 調理演習(3)
13. 調理演習(4)
14. 研究結果まとめ(1)
15. 研究結果まとめ(2)
16. 研究結果まとめ(3)
17. 中間発表(1)
18. 中間発表(2)
19. 考察の検討(1)
20. 考察の検討(2)
21. 考察の検討(3)
22. 論文完成に向けてまとめ(1)
23. 論文完成に向けてまとめ(2)
24. 論文修正(1)
25. 論文修正(2)
26. 論文修正(3)
27. 最終発表会(1)
28. 最終発表会(2)
29. 最終発表会(3)
30. まとめ

[成績評価方法]
平常点70%、レポート20%、中間発表・最終発表成績10%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P11100740C [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	重福　京子		

[到達目標]
各自のテーマで調査研究し、論文にまとめる

[授業概要]
各自が研究課題をもったテーマについて資料収集した結果をまとめ、卒業論文を完成する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日頃から研究内容に関係する論文に関心を持つこと。

[授業計画]
1. 論文資料作成・文献検索①
2. 論文資料作成・文献検索②
3. 論文資料作成・文献検索③
4. 論文資料作成・文献検索④
5. 論文資料作成・文献検索⑤
6. 論文資料発表①
7. 論文資料発表②
8. 資料収集・個別指導①
9. 資料収集・個別指導②
10. 論文作成①
11. 論文作成②
12. 論文作成③
13. 論文作成④
14. 論文作成⑤
15. 中間発表
16. 個別指導①
17. 個別指導②
18. 個別指導③
19. 個別指導④
20. 個別指導⑤
21. 個別指導⑥
22. 論文中間発表
23. 個別指導⑦
24. 個別指導⑧
25. 個別指導⑨
26. 個別指導⑩
27. 個別指導⑪
28. 個別指導⑫
29. 卒業論文発表
30. 卒業論文発表

[成績評価方法]
論文作成過程（50%）　論文内容（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11100740D [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	鈴木　一永		

[到達目標]
生活習慣病(肥満・糖尿病など)の臨床医療・予防医療における食事・運動の効果について研究し、研究に関する論理的展開を身に付ける。

[授業概要]
医療施設との共同、学校(中学・高校)との共同、企業との共同、他学との共同により、食事・運動療法の実践および調査・研究を行うことがある。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1-3年次に解剖生理学や医学・倫理等に関する事柄を確実に身に付けておくこと。
一般社会におけるマナー・ルール・身だしなみをわきまえること。
各種学会・研究会等への積極的参加が望ましい。

[授業計画]
1. 研究テーマの抽出。論文等の検索。
2. 研究テーマの抽出。論文等の検索。
3. 研究テーマの抽出。論文等の検索。
4. 研究テーマの抽出。論文等の検索。
5. 研究テーマの抽出。論文等の検索。
6. 抽出したテーマに関する研究・調査の実践。
7. 抽出したテーマに関する研究・調査の実践。
8. 抽出したテーマに関する研究・調査の実践。
9. 抽出したテーマに関する研究・調査の実践。
10. 抽出したテーマに関する研究・調査の実践。
11. 抽出したテーマに関する研究・調査の実践。
12. 抽出したテーマに関する研究・調査の実践。
13. 抽出したテーマに関する研究・調査の実践。
14. 抽出したテーマに関する研究・調査の実践。
15. 抽出したテーマに関する研究・調査の実践。
16. 論文執筆(論理的展開の開始～修正)。
17. 論文執筆(論理的展開の開始～修正)。
18. 論文執筆(論理的展開の開始～修正)。
19. 論文執筆(論理的展開の開始～修正)。
20. 論文執筆(論理的展開の開始～修正)。
21. 論文執筆(論理的展開の修正～完成)。
22. 論文執筆(論理的展開の修正～完成)。
23. 論文執筆(論理的展開の修正～完成)。
24. 論文執筆(論理的展開の修正～完成)。
25. 論文執筆(論理的展開の修正～完成)。
26. 論文執筆(論理的展開の修正～完成)。
27. 論文執筆(論理的展開の修正～完成)。
28. 論文執筆(論理的展開の修正～完成)。
29. 論文執筆(論理的展開の修正～完成)。
30. 卒業論文の完成。

[成績評価方法]
研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P11100740E [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	松浦　紀美恵		

[到達目標]
各自のテーマに取り組み、卒業論文を完成させる。

[授業概要]
① 緊急時の「食」をテーマに対象者の年齢やアレルギー対策などにも対応できる災害・保存食を研究する。
② 料理と食材の変遷から、日本人の食生活の変化を研究する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
各自の研究テーマに合わせ、資料収集、データ整理をおこなっておくこと。次回に前回からの進行状況を必ずまとめ、報告が行えるようにしておく。

[授業計画]
＜前期＞
1. オリエンテーション
2. 卒業論文の進め方
3. 研究のテーマ決定①
4. 研究のテーマ決定②
5. テーマの文献・資料の探し方
6. テーマの文献・資料の収集①
7. テーマの文献・資料の収集②
8. テーマの文献・資料の収集③
9. 進行状況の発表
10. 目次の作成①
11. 目次の作成②
12. 進行状況の発表
13. 論文作成①
14. 論文作成②
15. 進行状況の発表

＜後期＞
1. 中間発表の準備①
2. 中間発表の準備②
3. 中間発表
4. 中間発表
5. 内容検討
6. 論文作成①
7. 論文作成②
8. 論文作成③
9. 論文作成④
10. 論文発表の準備①
11. 論文発表の準備②
12. 論文発表の準備③
13. 論文発表
14. 論文発表
15. まとめ

[成績評価方法]
研究取り組み（40%）、卒業論文（50%）、発表内容（10%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11100740F [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	松本　衣代		

[到達目標]
　実験や調査で得たデータの現状把握と分析、効率的な情報検索、データの正確な処理、データの解析と考察する能力を養う事を目指す。

[授業概要]
1. 栄養調査:フィールドワーク調査を行い、そのデータを基にした栄養教育プログラムの構築を目指す。
2. 栄養学的実験:様々な病態モデル動物(食事誘因、自然発症)を用いて、食餌、運動が実験動物の生理機能に及ぼす影響について検討する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　これまでの講義で学んだ知識を復習しておく

[授業計画]
1. オリエンテーション
2. 科学論文の検索法
3. 科学論文の読み方
4. 抄読会①
5. 抄読会②
6. 研究テーマの立案
7. 研究テーマの検討
8. 研究テーマの決定
9. 実験オリエンテーション
10. 実験計画の立案
11. 実験手技①
12. 実験手技②
13. 実験手技③
14. 実験手技④
15. 実験手技⑤
16. 予備実験
17. 予備実験結果の解析, 発表
18. 実験計画の再立案
19. 実験①
20. 実験②
21. 実験③
22. 実験④
23. データ解析①
24. データ解析②
25. 参考文献の検索①
26. 参考文献の検索②
27. 研究のまとめ方①
28. 研究のまとめ方②
29. プレゼンテーション方法
30. 卒業論文発表会

[成績評価方法]
卒業論文内容(40%)、プレゼンテーション(30%)、取組み(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
随時プリント配布

[参考書(ISBN)]
随時紹介します

P11100740G [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	山下　俊介		

[到達目標]
　各自が設定したテーマについて、論理的・分析的に思考し、その結果を論文として完成させる。

[授業概要]
　論文のテーマを設定し、それに沿って調査・研究し、ディスカッション、発表を通して論文構成・内容を明確にしていく。
　執筆作業は授業時間外の課題とし、各自がとりくみ、原稿を事前に提出し、授業時において、個別指導を行う。
　卒業論文提出後、口頭発表を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　各自の研究テーマに従って、計画的に準備し、あらかじめ決められた曜日の発表の準備をしておくこと。

[授業計画]
前期
1. はじめに
2. テーマの絞り込み （1）
3. テーマの絞り込み （2）
4. テーマの決定
5. 参考文献と先行研究の調査 （1）
6. 参考文献と先行研究の調査 （2）
7. 参考文献と先行研究の調査 （3）
8. 論文執筆上の注意 （1）
9. 論文執筆上の注意 （2）
10. 内容構成の検討 （1）
11. 内容構成の検討 （2）
12. 内容構成の検討 （3）
13. 内容構成の検討 （4）
14. 内容構成の検討 （5）
15. 中間発表、まとめ

後期
1. はじめに
2. 卒論の構成 （1）
3. 卒論の構成 （2）
4. 個別指導 （1）
5. 個別指導 （2）
6. 個別指導 （3）
7. 個別指導 （4）
8. 個別指導 （5）
9. 個別指導 （6）
10. 個別指導 （7）
11. 個別指導 （8）
12. 論文提出
13. 卒論事後指導 （1）
14. 卒論事後指導 （2）
15. 卒論発表会

[成績評価方法]
口頭発表（30%）、論文内容（70%）に基づいて評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
適宜指示する。

P11100740I [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
研究テーマの実験計画を立て、実験を行い、結果を考察して論文を作成する。
講義の空き時間には、研究室で積極的に卒業研究課題に取り組むことが必須である。

[授業概要]
専門演習ⅠとⅡでイメージした内容をもとに、研究を進める。
(1)ミネラル成分には同位体が存在するものも多く存在する。同位体について学び、運動(スポーツ・トレーニング)・疾病など、身体に負荷がかかった状態で、体内のミネラルの同位体比が変化するのか否か、動物を用いた研究から明らかにする。
(2)生活習慣病の予防を目的とした、新規ミネラル含有成分や食物成分の探索研究を行う。具体的には、糖尿病、高血圧、骨粗鬆症をターゲットに、化学試薬、酵素、動物組織を用いたin vitro実験や疾患モデル動物を用いたin vivo実験を行う。
(3)生活習慣病で生体内のミネラルレベルに変化が生じるのか？この疑問を解明するために、種々の疾患モデル動物から臓器や血液を採取し、ミネラル濃度の定量研究を行う。併せて生化学パラメータの測定も行い、ミネラルの変動と生活習慣病の網羅的解析を行う。
(4)ミネラルを用いた生活習慣病予防や治療の最先端はどのようなものなのか？文献情報を検索してまとめ、新たな生活習慣病予防の方策を提案する事を課題とする。
など

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
必ず前日に、翌日に行う研究をイメージし、卒業論文の課題に取り組むこと。

[授業計画]
研究テーマに沿って学生自身が実験計画を立て、実験を行い、得られた結果を考察するが、これらを必要に応じて個別指導する。また、これをまとめて期限内に論文を作成できるように指導する。
【前期】
1. 研究テーマ関連文献の検索(1)
2. 研究テーマ関連文献の検索(2)
3. 研究テーマ関連文献の検索(3)
4. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(1)
5. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(2)
6. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(3)
7. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(4)
8. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(5)
9. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(6)
10. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(7)
11. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(8)
12. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(9)
13. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(10)
14. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(11)
15. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(12)

【後期】
1. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(1)
2. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(2)
3. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(3)
4. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(4)
5. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(5)
6. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(6)
7. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(7)
8. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(8)
9. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(9)
10. 論文作成(1)
11. 論文作成(2)
12. 論文作成(3)
13. 論文作成(4)
14. 論文作成(5)
15. 卒業論文発表会

[成績評価方法]
平常点(40%)ならびに卒業論文(60%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P11100740K [WI4-011]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル			
担当者	糸井　亜弥		

[到達目標]
　専門演習Ⅰ・Ⅱで収集したデータを用いて、データ処理の方法ならびに研究論文作成の基本的な手法を習得し、卒業論文を完成させる。

[授業概要]
　身体活動と食生活の両面から、対象者に応じた健康教育支援の一助となるよう、年齢が異なる様々な人を対象に、活動量、身体組成（体脂肪量・骨量）の測定ならびに生活活動記録、食事記録、質問紙を用いて調査を行い、活動量、身体組成、生活習慣、食事の関連を検討する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
卒業論文テーマに関連する情報に日頃から関心をもち、参考文献等の収集に努めること。

[授業計画]
前期
1. 卒業論文テーマの決定
2. 参考文献の収集①
3. 参考文献の収集②
4. 参考文献の収集③
5. 参考文献の収集④
6. 論文作成①
7. 論文作成②
8. 論文作成③
9. 論文作成④
10. 論文作成⑤
11. 論文作成⑥
12. 論文作成⑦
13. 論文作成⑧
14. 論文作成⑨
15. 卒業論文中間提出

後期
1. 個別指導①
2. 個別指導②
3. 個別指導③
4. 個別指導④
5. 個別指導⑤
6. 個別指導⑥
7. 個別指導⑦
8. 個別指導⑧
9. 個別指導⑨
10. 卒業論文提出
11. 卒業論文発表会準備①
12. 卒業論文発表会準備②
13. 卒業論文発表会準備③
14. 卒業論文発表会準備④
15. 卒業論文発表会

[成績評価方法]
卒業論文（70%）、卒業論文発表会プレゼンテーション（10%）、平常点（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント配布

[参考書（ISBN）]
なし

P11100740L [WI4-011]

科目名	調理科学	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	松浦　紀美恵		

[到達目標]
1. 美味しさをどのように判断するのか理解する
2. 調理により食品成分がいかに変化しているのかを理解する
3. 食品素材が調理方法によって変化する状況を理解する以上の項目から調理が科学的に成り立っていることを理解し、実際の調理にその知識が生かされるようになることを目標とする。

[授業概要]
『人間と環境にやさしい調理を行うために』調理科学（Cookery science）は、調理に関する様々な事柄を総合的に学ぶものであり、人間生活にもっとも身近な位置するもので、自然科学のみではなく、社会学や人文科学的な面を加味しながら、調理過程における様々な現象にみられる性質や法則性などを見出し、実際の調理に結びつける裏付けを理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習しておくこと。理解できなかったことをまとめ、質問表を製作し、理解出来るまで質問を行うこと。次回の授業の予習をしておくこと。

[授業計画]
1. 調理科学とは
2. おいしさの科学1
3. おいしさの科学2
4. 調理と食品成分の変化1
5. 調理と食品成分の変化2
6. 調理と食品成分の変化3
7. 調理操作1
8. 調理操作2
9. 食品素材と調理1
10. 食品素材と調理2
11. 食品素材と調理3
12. 食品素材と調理4
13. 人間・環境と調理1
14. 人間・環境と調理2
15. まとめ

[成績評価方法]
試験（80%）、平常点（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
Nブックス　調理科学 〔第4版〕 著者名：森髙初恵他編著　出版社：建帛社 （978-4-7679-0583-9）

[参考書（ISBN）]
なし

P11100300A [WI1-009]

科目名	調理科学	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	松浦　紀美恵		

[到達目標]
1. 美味しさをどのように判断するのか理解する
2. 調理により食品成分がいかに変化しているのかを理解する
3. 食品素材が調理方法によって変化する状況を理解する以上の項目から調理が科学的に成り立っていることを理解し、実際の調理にその知識が生かされるようになることを目標とする。

[授業概要]
『人間と環境にやさしい調理を行うために』調理科学（Cookery science）は、調理に関する様々な事柄を総合的に学ぶものであり、人間生活にもっとも身近な位置するもので、自然科学のみではなく、社会学や人文科学的な面を加味しながら、調理過程における様々な現象にみられる性質や法則性などを見出し、実際の調理に結びつける裏付けを理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習しておくこと。理解できなかったことをまとめ、質問表を製作し、理解出来るまで質問を行うこと。次回の授業の予習をしておくこと。

[授業計画]
1. 調理科学とは
2. おいしさの科学1
3. おいしさの科学2
4. 調理と食品成分の変化1
5. 調理と食品成分の変化2
6. 調理と食品成分の変化3
7. 調理操作1
8. 調理操作2
9. 食品素材と調理1
10. 食品素材と調理2
11. 食品素材と調理3
12. 食品素材と調理4
13. 人間・環境と調理1
14. 人間・環境と調理2
15. まとめ

[成績評価方法]
試験（80%）、平常点（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
Nブックス　調理科学 〔第4版〕 著者名：森髙初恵他編著　出版社：建帛社 （978-4-7679-0583-9）

[参考書（ISBN）]
なし

P11100300B [WI1-009]

科目名	トレーニング実践演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	基礎トレーニング		
担当者	重福　京子、奥野　直、坂元　美子、鈴木　一永		

[到達目標]
トレーニング実践演習がめざすものは、種々のスポーツにおける体力づくりに応じた長い期間のトレーニングと食事管理を両立させる。トレーニング実践演習 I では「自分にあったペース」を知ったうえで「栄養に関する基礎知識を習得し実践する能力」をみにつけ「完走できる持久力」をつけることを目的とする。

[授業概要]
それぞれの専門分野における体力づくりに応じた長い期間のトレーニングと食事管理を両立させるために栄養学・スポーツ医学・生理学を中心にオムニバス講義を行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
日頃からの健康状態を良好に保つ

[授業計画]
2018年度　開講予定
1～ 4. 4月28日(土)1～4限
5～ 8. 5月26日(土)1～4限
9～12. 6月16日(土)1～4限
13～15. 7月14日(土)1～3限

1. オリエンテーション(重福京子)
2. 運動負荷テスト・基礎体力及び体組成測定(重福京子)
3. トレーニングにおけるスポーツ医学(鈴木一永)
4. トレーニング①心拍とスピードの関係を知る(重福京子)
5. 持久力・筋力トレーニングプログラムの作成(奥野直)
6. トレーニング②心拍とスピードの関係を知る(重福京子)
7. スポーツ栄養実践・食事調査(坂元美子)
8. トレーニング③フォームチェック(重福京子)
9. トレーニング④快適ベースの持久力(重福京子)
10. トレーニング⑤快適ベースの持久力(重福京子)
11. 動きづくりトレーニング、インターバル走6km(重福京子)
12. 動きづくりトレーニング、インターバル走10km(重福京子)
13. 動きづくりトレーニング、インターバル走12km(重福京子)
14. 動きずくりトレーニング、インターバル走14km(重福京子)
15. ランニング15kmタイム測定、体組成測定、栄養調査(重福京子)

[成績評価方法]
活動記録書にする身体能力評価(50%)、受講態度(30%)
レポート:基礎トレーニング理論、基礎スポーツ栄養学理論(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
随時紹介する。

P11100870 [WI1-013]

科目名	トレーニング実践演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	応用トレーニング		
担当者	重福　京子、奥野　直、坂元　美子、鈴木　一永		

[到達目標]
トレーニング実践演習Ⅱはトレーニング実践演習Ⅰの科目を履修済みとしている。
トレーニング実践演習Ⅰで身についた能力を最大限に発揮する方法を理解する。長期間のトレーニングと食生活の栄養のあり方を研究し、その効果をまとめ、長時間の持久的な運動を実践する。

[授業概要]
それぞれの専門分野における長期間のトレーニングと食生活の栄養のあり方を研究するためにスポーツ栄養学・スポーツ医学・生理学を中心にオムニバス講義を行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
日頃から健康状態を良好に保つ

[授業計画]
2018年度　開講予定
1～ 4. 9月29日(土)1～4限
5～ 8. 10月27日(土)1～4限
9～12. 11月24日(土)1～4限
13～15. 1月12日(土)1～3限

1. 長距離走に向けた体力とは:生理的見地から(奥野直)
2. 持久力・筋力とトレーニングプログラム作成(奥野直)
3.長距離トレーニングにおけるスポーツ医学(鈴木一永)
4. 基礎体力及び体組成測定、栄養指導(重福、坂元)
5. ランニングのための基礎体力確認(6～15km)①(重福京子)
6. ランニングのための基礎体力確認(6～15km)②(重福京子)
7. 持久走トレーニングと栄養との関連①(重福京子)
8. 持久走トレーニングと栄養との関連②(重福京子)
9. 持久走トレーニングと栄養との関連③(重福京子)
10. 持久走トレーニングと栄養との関連④(重福京子)
11. 持久走トレーニングと栄養との関連⑤(重福京子)
12. 持久走トレーニングと栄養との関連⑥(重福京子)
13. 持久走トレーニングと栄養との関連⑦(重福京子)
14. 体組成測定、栄養調査(重福京子)
15. まとめ(重福京子)

[成績評価方法]
活動記録書による身体的能力評価(30%)受講態度(50%)
レポート:応用トレーニング理論、応用スポーツ栄養学理論(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
随時紹介する。

P11100880 [WI1-014]

科目名	フードコーディネート論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	安原　美帆		

[到達目標]
フードコーディネートが食生活に果している役割と価値を理解することをめざします。

[授業概要]
フードコーディネートの基礎と実際の要点を理解し、ホスピタリティ(もてなしの心)とアメニティ(もてなしの形)を内包する日本のOMOTENASHIを基本としたフードコーディネートができる力を養うことを目的として講義します。そして特に、フードスペシャリスト資格認定試験に必要なフードコーディネート論の基礎知識を学び、食に関するコーディネートに必要な知識と技術と実践力を養います。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
テキストの各章冒頭の「★概要とねらい」を、授業までに読んでおいてください。
授業で指示したテキストの重要語句を整理しておいてください。

[授業計画]
1. フードコーディネートとの基本理念
2. 食事の文化(1) ①食のタブーと宗教 ②特別な日の食事
3. 食事の文化(2) ①日本の食事 ②外国の食事
4. 食卓のコーディネート(1) テーブルコーディネートの要点
5. 食卓のコーディネート(2) 食器・食具と食卓のコーディネート(日本料理・中国料理・西洋料理)
6. 食卓のサービスとマナー(1) ①サービスとマナーの基本 ②日本・中国・西洋の各料理のサービスとマナー
7. 食卓のサービスとマナー(2) ①パーティ ②プロトコルと席次
8. メニュープランニング(1) メニュープランニングの要件
9. メニュープランニング(2) 料理様式とメニュー開発の基礎
10. 食空間のコーディネート(1) 食事空間のコーディネートの基礎
11. 食空間のコーディネート(2) 食事空間とキッチンのコーディネート
12. フードサービスマネジメント(1) ①フードサービスビジネスの動向と特性 ②マネジメントの基礎
13. フードサービスマネジメント(2) フードサービス(レストラン)の起業
14. 食の企画と実践フードコーディネート
15. まとめ

[成績評価方法]
授業中の小テスト(60%)、レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「三訂　フードコーディネート論」(最新発行のもの)　著者名:(公社)日本フードスペシャリスト協会編　出版社:建帛社　(978-4-7679-0440-5)

[参考書(ISBN)]
『2018年版フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集』 著者名:(社)日本フードスペシャリスト協会編　出版社:建帛社　(978-4-7679-0627-0)
『秘められた和食史』 著者名:カタジーナ・チフィエルトカ、安原美帆　出版社:新泉社　(978-4-7877-1601-1)
プリント配布

P11100660 [WI4-006]

科目名	フードスペシャリスト論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	佐藤　誓子、松浦　紀美恵、松本　衣代、吉川　豊、木村　大輔		

[到達目標]
フードスペシャリストの仕事を理解し，認定試験に合格することを目標とする。

[授業概要]
フードスペシャリストとは、食の本質が「おいしさ」「楽しさ」「もてなし」にあることを学び、それを支える官能評価・鑑別論、調理学、食物学など食に関する総合的・体系的な知識・技術を身につけ、豊かで安全かつバランスのとれた食を消費者に提供できる力を持つ食の専門職である。
この仕事の役割を理解し、消費者から要求される知識をオムニバス講義により学修する。また、学外でのテーブルマナー講習会を受講し、国際儀礼やもてなしについて学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業の復習をしておくこと。
食に関する話題に関心を持つこと。

[授業計画]
1. オリエンテーション、フードスペシャリストとは（佐藤）
2. 食生活の変遷と消費行動（佐藤）
3. おいしさの追求（松浦）
4. 食品の品質規格（松本）
5. 人類と食環境（松本）
6. 現代の食卓の課題（松浦）
7. 食品の鮮度と熟度1（吉川）
8. 食品の鮮度と熟度2（吉川）
9. 鑑別検査の概要（吉川）
10. 食物の安全性と消費者の保護（木村）
11. 食物の安全性と消費者の保護（木村）
12. 食の消費現場とこれに対する食産業、情報と活用（佐藤）
13. テーブルマナー講習会：学外（佐藤、松本）
14. テーブルマナー講習会：学外（佐藤、松本）
15. フードスペシャリストの役割と展望、まとめ（佐藤）

[成績評価方法]
平常点50%、レポート50%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「フードスペシャリスト論」 著者名：日本フードスペシャリスト協会　出版社：建帛社 （978-4-7679-0604-1）
「三訂　食品の官能評価・鑑別演習」 著者名：日本フードスペシャリスト協会　出版社：建帛社 （978-4-7679-0506-8 C3077）

[参考書（ISBN）]
「三訂　食品の消費と流通」 著者名：日本フードスペシャリスト協会　出版社：建帛社 （9784767905389）
「フードシステムの経済学」第5版　著者名：時子山ひろみ他　出版社：医歯薬出版株式会社 （9784263706060）

P11100650 [WI4-007]

科目名	理学療法論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	成瀬　文博		

[到達目標]
　理学療法およびリハビリテーションの概要を理解し、疾病予防や健康増進の方法について理解を深める。また、様々な疾病や障害に対する評価方法、アプローチ方法やリスク管理を習得する。

[授業概要]
　生活習慣の変化にともない、それが原因となる疾患が増加している。それらの疾患の予防や治療を行ううえで運動は欠かせないものであり、重要性は高まっている。理学療法は障害を有する者への運動療法の指導や疾病予防および健康増進についての運動処方を行う。また、理学療法は全人的に対象者を考えるリハビリテーション学の一分野であり、対象者は幼児から高齢者まで多岐にわたる。それらの知識は栄養士や健康運動実践指導者にも必要であるため、本講では理学療法を通じて、運動処方および運動療法について理解を深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　運動生理学や運動学など、運動に関する基本的な分野を事前に学習していると授業内容とリンクにより学習が深まる。また、運動に関するニュースやトピックスなどの情報収集を行い、能動的に学習する意欲を高める。

[授業計画]
1. 理学療法概論およびリハビリテーション概論
2. 身体機能評価方法について
3. 運動指導時におけるリスク管理について
4. 予防医学について
5. 疾患別運動療法1　運動器疾患
6. 疾患別運動療法2　神経疾患
7. 疾患別運動療法3　内分泌・代謝疾患1
8. 疾患別運動療法4　内分泌・代謝疾患2
9. 疾患別運動療法5　循環器疾患
10. 疾患別運動療法6　呼吸器疾患
11. 小児に対する運動療法
12. 高齢者に対する運動療法
13. 女性と運動
14. 介護保険分野の運動療法
15. まとめ

[成績評価方法]
授業態度　30%
レポート　70%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし　講義中に適時配布する

[参考書（ISBN）]
なし

P11100500 [WB3-002]

科目名	臨床医学概論	前期	2 単位
サブタイトル	健康と医療		
担当者	鈴木　一永		

[到達目標]
栄養と運動に関わる者として、ヒトの体に起こる病気のしくみ（成因）や病態（現象）を理解することを目標とする。

[授業概要]
「栄養士」になるために必要な知識を身につける。「人体の構造と機能」の一分野として「臨床医学概論」を学ぶ。
人体の構造と機能＝解剖生理学+臨床医学+運動生理学+生化学

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
「解剖生理学」の知識が基本となります。解剖生理学で得た知識を確認し、さらに毎回しっかりと復習が必要です。

[授業計画]
1. 病気とは何か：病気が起こるメカニズムと病気の成り立ち
2. 栄養障害と代謝異常：栄養・代謝の概要と栄養・代謝に関わる病気
3. 消化器径の異常：消化器系の概要と消化管・肝臓・胆嚢の病気
4. 内分泌径の異常：内分泌系の概要とホルモンの病気
5. 糖尿病：糖尿病の概要と血糖コントロールと合併症
6. 循環器系の異常：循環器系の概要と心臓・血管・血圧の病気
7. 脂質異常症・メタボリックシンドローム：脂質代謝の概要と高脂血症・動脈硬化
8. 泌尿器系の異常：泌尿器系の概要と腎臓・尿路の病気
9. 神経系の異常：神経系の概要と中枢神経・末梢神経の病気
10. 呼吸器系の異常：呼吸器系の概要と気道・肺の病気
11. 血液・免疫系の異常：血液・免疫系の概要と血液・免疫の病気
12. 運動器の異常：運動器系の概要と骨・関節・筋肉の病気
13. 生殖器系の異常：生殖器系の概要と女性生殖器・男性生殖器の病気
14. 悪性腫瘍：悪性腫瘍全般のまとめ
15. まとめ

[成績評価方法]
試験を実施する（100%）。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
ニューステージ新生物図表
1年生前期健康管理概論（倫理学を含む）でも使用。1年生後期解剖生理学でも使用。 著者名：浜島書店編集部
出版社：浜島書店 （978-4-8343-4009-9 C7345）

[参考書（ISBN）]
なし

P11100070A [WB2-005]

科目名	臨床医学概論	前期	2 単位
サブタイトル	健康と医療		
担当者	鈴木　一永		

[到達目標]
栄養と運動に関わる者として、ヒトの体に起こる病気のしくみ（成因）や病態（現象）を理解することを目標とする。

[授業概要]
「栄養士」になるために必要な知識を身につける。「人体の構造と機能」の一分野として「臨床医学概論」を学ぶ。
人体の構造と機能＝解剖生理学+臨床医学+運動生理学+生化学

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
「解剖生理学」の知識が基本となります。解剖生理学で得た知識を確認し、さらに毎回しっかりと復習が必要です。

[授業計画]
1. 病気とは何か：病気が起こるメカニズムと病気の成り立ち
2. 栄養障害と代謝異常：栄養・代謝の概要と栄養・代謝に関わる病気
3. 消化器径の異常：消化器系の概要と消化管・肝臓・胆嚢の病気
4. 内分泌径の異常：内分泌系の概要とホルモンの病気
5. 糖尿病：糖尿病の概要と血糖コントロールと合併症
6. 循環器系の異常：循環器系の概要と心臓・血管・血圧の病気
7. 脂質異常症・メタボリックシンドローム：脂質代謝の概要と高脂血症・動脈硬化
8. 泌尿器系の異常：泌尿器系の概要と腎臓・尿路の病気
9. 神経系の異常：神経系の概要と中枢神経・末梢神経の病気
10. 呼吸器系の異常：呼吸器系の概要と気道・肺の病気
11. 血液・免疫系の異常：血液・免疫系の概要と血液・免疫の病気
12. 運動器の異常：運動器系の概要と骨・関節・筋肉の病気
13. 生殖器系の異常：生殖器系の概要と女性生殖器・男性生殖器の病気
14. 悪性腫瘍：悪性腫瘍全般のまとめ
15. まとめ

[成績評価方法]
試験を実施する（100%）。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
ニューステージ新生物図表
1年生前期健康管理概論（倫理学を含む）でも使用。1年生後期解剖生理学でも使用。 著者名：浜島書店編集部
出版社：浜島書店 （978-4-8343-4009-9 C7345）

[参考書（ISBN）]
なし

P11100070B [WB2-005]

科目名	臨床栄養学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養		
担当者	本田　まり		

[到達目標]
1. 各疾患の主な病態を理解している。
2. 各疾患の病態に応じた栄養アセスメントができる。
3. 各疾患の栄養アセスメントに基づき、適切な栄養療法を考えることができる。

[授業概要]
栄養補給法の基礎をはじめ、疾患・病態別の栄養食事療法を学ぶ。疾患・病態別では、どのような病気か、どのようにして評価するのか（栄養アセスメント）、どのような栄養食事療法かについて考える。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
解剖生理学、臨床医学概論などの医学的な知識や、からだの正常な状態を学ぶ生理学、応用栄養学の知識も重要です。授業は限られた時間しかないため、積極的な自己学習で学びを深めてください。

[授業計画]
1. 臨床栄養学の概念、栄養アセスメント、栄養補給法（経口、非経口栄養）
2. 消化器疾患（消化吸収と口腔、食道、胃）
3. 消化器疾患（消化吸収と大腸、肝臓）
4. 消化器疾患（胆嚢、膵臓）、周術期の栄養管理
5. 代謝疾患（糖尿病、脂質異常症）
6. 代謝疾患（痛風・高尿酸血症、肥満、メタボリックシンドローム）
7. 循環器疾患（高血圧、動脈硬化症）
8. 循環器疾患（心臓、脳血管疾患）
　生活習慣病等の概念と食事・運動の予防効果
9. 腎疾患（急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病）
10. 腎疾患（糖尿病腎症、腎不全）
11. 血液系疾患、呼吸器系疾患
12. 内分泌系疾患（甲状腺、副腎皮質）
13. 筋・骨格系疾患、老年症候群
14. 免疫・アレルギー疾患、小児・妊娠・授乳期の疾患
15. 摂食機能低下ほか
16. 試験

[成績評価方法]
試験（95%）、授業態度（5%）で評価します。授業態度は、授業への積極性や質疑応答の様子も含みます。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
栄養科学シリーズNEXTシリーズ「臨床栄養学概論」 著者名：友竹浩之／塚原丘美・編　出版社：講談社 （978-4-06-155388-0）

[参考書（ISBN）]
なし

P11100210A [WI3-002]

科目名	臨床栄養学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養		
担当者	本田　まり		

[到達目標]
1. 各疾患の主な病態を理解している。
2. 各疾患の病態に応じた栄養アセスメントができる。
3. 各疾患の栄養アセスメントに基づき、適切な栄養療法を考えることができる。

[授業概要]
栄養補給法の基礎をはじめ、疾患・病態別の栄養食事療法を学ぶ。疾患・病態別では、どのような病気か、どのようにして評価するのか（栄養アセスメント）、どのような栄養食事療法かについて考える。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
解剖生理学、臨床医学概論などの医学的な知識や、からだの正常な状態を学ぶ生理学、応用栄養学の知識も重要です。授業は限られた時間しかないため、積極的な自己学習で学びを深めてください。

[授業計画]
1. 臨床栄養学の概念、栄養アセスメント、栄養補給法（経口、非経口栄養）
2. 消化器疾患（消化吸収と口腔、食道、胃）
3. 消化器疾患（消化吸収と大腸、肝臓）
4. 消化器疾患（胆嚢、膵臓）、周術期の栄養管理
5. 代謝疾患（糖尿病、脂質異常症）
6. 代謝疾患（痛風・高尿酸血症、肥満、メタボリックシンドローム）
7. 循環器疾患（高血圧、動脈硬化症）
8. 循環器疾患（心臓、脳血管疾患）
　生活習慣病等の概念と食事・運動の予防効果
9. 腎疾患（急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病）
10. 腎疾患（糖尿病腎症、腎不全）
11. 血液系疾患、呼吸器系疾患
12. 内分泌系疾患（甲状腺、副腎皮質）
13. 筋・骨格系疾患、老年症候群
14. 免疫・アレルギー疾患、小児・妊娠・授乳期の疾患
15. 摂食機能低下ほか
16. 試験

[成績評価方法]
試験（95%）、授業態度（5%）で評価します。授業態度は、授業への積極性や質疑応答の様子も含みます。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
栄養科学シリーズNEXTシリーズ「臨床栄養学概論」 著者名：友竹浩之／塚原丘美・編　出版社：講談社 （978-4-06-155388-0）

[参考書（ISBN）]
なし

P11100210B [WI3-002]

科目名	臨床栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	本田　まり		

[到達目標]
①疾患や病態に応じた食事計画を立案することが出来る(主に献立作成)。
②疾患や病態に応じた食事を、盛り付け等にも配慮して調理することが出来る。

[授業概要]
　疾患・病態に応じた栄養食事療法の基本を確認し、献立作成や調理法を学ぶ。食事は、治療においても生活の一部としても大切であることをふまえ、美味しく作業効率も考えた治療食作りができる実践力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
臨床栄養学はもとより、応用栄養学およびその実習など関連する科目の復習を十分に行ってください。
調理に関する基礎知識や技術が必要なのは言うまでもありません。

[授業計画]
1. 臨床栄養管理、栄養補給法について
2. 一般治療食:常食、軟菜食、きざみ食の食事計画と実習
3. 一般治療食:ミキサー食、やわらかムース食の食事計画、流動食、粥の実習
4. 一般治療食:ミキサー食、やわらかムース食の実習
5. 塩分調整食:食事計画
6. 塩分調整食:実習
7. エネルギー調整食:食事計画
8. エネルギー調整食:実習
9. たんぱく質調整食:食事計画
10. たんぱく質調整食:実習
11. 脂質調整食:食事計画
12. 脂質調整食:実習
13. グループ献立:計画
14. グループ献立:実習
15. グループ献立:評価、その他検査食、まとめ

[成績評価方法]
レポート(50%)、実習への取り組み(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
管理栄養士・栄養士になるための臨床栄養学実習　食事療養実務入門―日本人の食事摂取基準(2015年版)対応 (第7版)　著者名:芦川修貳・服部富子・古畑公編著　　出版社:学建書院　　(9784760000000)
糖尿病食事療法のための食品交換表
第7版　著者名:日本糖尿病学会 編著　出版社:文光堂 (978-4-8306-6046-7)

[参考書(ISBN)]
栄養科学シリーズNEXTシリーズ「臨床栄養学概論」 著者名:友竹浩之／塚原丘美・編　出版社:講談社 (978-4-06-155388-0)

P11100220A [WI3-003]

科目名	臨床栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	本田　まり		

[到達目標]
①疾患や病態に応じた食事計画を立案することが出来る(主に献立作成)。
②疾患や病態に応じた食事を、盛り付け等にも配慮して調理することが出来る。

[授業概要]
疾患・病態に応じた栄養食事療法の基本を確認し、献立作成や調理法を学ぶ。食事は、治療においても生活の一部としても大切であることをふまえ、美味しく作業効率も考えた治療食作りができる実践力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
臨床栄養学はもとより、応用栄養学およびその実習など関連する科目の復習を十分に行ってください。
調理に関する基礎知識や技術が必要なのは言うまでもありません。

[授業計画]
1. 臨床栄養管理、栄養補給法について
2. 一般治療食:常食、軟菜食、きざみ食の食事計画と実習
3. 一般治療食:ミキサー食、やわらかムース食の食事計画、流動食、粥の実習
4. 一般治療食:ミキサー食、やわらかムース食の実習
5. 塩分調整食:食事計画
6. 塩分調整食:実習
7. エネルギー調整食:食事計画
8. エネルギー調整食:実習
9. たんぱく質調整食:食事計画
10. たんぱく質調整食:実習
11. 脂質調整食:食事計画
12. 脂質調整食:実習
13. グループ献立:計画
14. グループ献立:実習
15. グループ献立:評価、その他検査食、まとめ

[成績評価方法]
レポート(50%)、実習への取り組み(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
管理栄養士・栄養士になるための臨床栄養学実習　食事療養実務入門―日本人の食事摂取基準(2015年版)対応 (第7版)　著者名:芦川修貳・服部富子・古畑公編著　　出版社:学建書院　　(9784760000000)
糖尿病食事療法のための食品交換表
第7版　著者名:日本糖尿病学会 編著　出版社:文光堂 (978-4-8306-6046-7)

[参考書(ISBN)]
栄養科学シリーズNEXTシリーズ「臨床栄養学概論」 著者名:友竹浩之／塚原丘美・編　出版社:講談社 (978-4-06-155388-0)

P11100220B [WI3-003]

看　護　学　部

看護学科

（授業科目名 五十音順）

科目名	医療英語	前期	1 単位
サブタイトル	English for nurses		
担当者	島田　順子		

[到達目標]
Acquisition of the fundamental communication skills between nurses and patients in English

[授業概要]
As globalization continues, more foreigners have been entering Japan than ever before. Even in the medical field, the demand for the ability to communicate in English between nurses and patients, is increasing. Therefore, we live in an age where English education for doctors, nurses and caretakers is a necessity. In this course, through emphasis on communication between nurses and patients, students acquire the ability to understand patients and make them feel secure. To accomplish this goal we will focus on speaking and listening skills through the following materials. Furthermore we develop reading abilities in order to understand medical records written in English by doctors.
グローバル化が進む中、日本でも多くの外国人の入国がみられる現在となった。医療の現場でも看護師と患者との間における英語コミュニケーション能力の需要が高まっている。それゆえ医師、看護師、介護士の特別な英語教育はもはや避けて通れない時代となった。この授業では特に看護師と患者のコミュニケーションを重視して患者の立場を十分理解して安心できる対応がとれるようコミュニケーションの能力を身につける。そのためにはスピーキング、リスニングを中心に授業を進行し、さらに医者が英語で書いたカルテも理解できるようにリーディング力も養っていく。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
Read the textbook well before class and memorize the medical terms we learn in the previous class.

[授業計画]
1. Classroom activities (based on textbook lesson 1～2)(4月13日　1限目)
2. Classroom activities (based on textbook lesson 3～4)(4月13日　2限目)
3. Classroom activities (based on textbook lesson 5～6)(4月20日 1限目)
4. Classroom activities (based on textbook lesson 7～8)(4月20日　2限目)
5. Classroom activities (based on textbook lesson 9～10)(4月27日　1限目)
6. Classroom activities (based on textbook lesson 11～12)(4月27日　2限目)
7. Classroom activities (based on textbook lesson 13～14)(5月3日　3限目)
8. Classroom activities (based on textbook review lesson 1～14)(5月3日　4限目)

[成績評価方法]
Class participation 50%, Final Exam 50%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
English for Nurses　著者名：Margaret Yamanaka
Patricia Parker　出版社：ASAHI PRESS　(978-4-255-15425-1)

[参考書（ISBN）]
なし

P11200190 [NH4-001]

科目名	医療看護実習Ⅰ	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子、横内　光子、馬場　敦子、大谷　利恵、藤原　由子、元木　絵美、牛越　幸子、三苫　美和、奥井　早月、鷲田　幸一		

[到達目標]
1.病院が個人や地域に対して担う役割について考えることができる。
2.看護師の実践と役割について考えることができる。
3.入院患者の生活や病気の体験について考えることができる。
4.実習を通して今後の自分の課題を考えることができる。

[授業概要]
医療看護実習Ⅰでは、病院オリエンテーション、看護業務・看護実践の見学を通して、病院や看護師の役割について学ぶ。また、患者とのコミュニケーションを通して入院生活や病気の体験を知ることを目的とする。この実習を通して学生自身がこれから学んでいくべき課題を見出すことをねらいとしている。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
・病院実習にふさわしい身だしなみ、マナーを身につけ、心身の健康を整えて実習に臨む。
・病院実習の学びを深めるために、実習前に学内で行われるオリエンテーションや事前演習に必ず参加し、事前課題に取り組む。

[授業計画]
1.事前演習が始まる前に、各自で「実習ガイダンス資料」「医療看護実習Ⅰ実習要項」を熟読する。
2.実習前に学内で行われるオリエンテーションや事前演習に必ず出席する(日時と場所は別途伝える)。
3.充実した実習を行うために計画的に事前課題に取り組み、健康管理に気をつける。
4.病院実習初日に、実習病院の看護部門より病院の理念、組織、役割、設備、看護体制などについてオリエンテーションを受け、施設見学を行う。
5.病院実習では、看護師に同行して看護実践の場面や業務を見学する。また看護師から紹介を受け、患者とのコミュニケーションを通して入院生活や病気の体験を知る。
6.病院実習終了時には毎日デイリーカンファレンスを行う。看護師長または実習指導者に参加を依頼し、学生が主体的に行うデイリーカンファレンスでは、実習で感じたこと、気づいたこと、疑問などをメンバーとディスカッションする。
7.病院実習最終日には合同カンファレンスを行う。合同カンファレンスには看護部長または看護部の教育担当者、看護師長、実習指導者等に参加を依頼し、学生は3日間の病院実習から得た学びを報告する。
8.実習最終日は学内でカンファレンスを行う。実習を通して学んだことを学生同士で共有し、自らの成長や学習課題について考えを深める。

[成績評価方法]
目標到達度(課題レポートを含む)70%、実習への参加態度(30%)を総合的に評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P11200600 [NB1-010]

科目名	医療看護実習Ⅱ（急性期）	前期～後期	3 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤田　冬子、藤原　由子		

[到達目標]
受け持ち患者・家族に対し、看護職として適切な援助的人間関係を構築する方法を身につけるとともに、患者・家族や医療者をはじめ、関係する他者と共に学ぶ態度と、実践を通じた学び方を修得する。また、侵襲を受ける急性期、周手術期患者の生体反応および患者・家族の精神・社会面の特徴を踏まえて、悪化リスクや回復への影響要因をアセスメントし、回復を促進するために必要な援助を安全・安楽に実施・評価するプロセスを学ぶ。これらを通じて、急性期看護における他職種や他施設・機関との連携の実際を知り、急性期看護の特徴と役割について考察できる。

[授業概要]
医療施設において、周手術期あるいは急性期にある成人期から老年期の患者を受け持ち、侵襲に対する多様なリスクと生体反応、回復に影響を及ぼす患者・家族の特性をアセスメントし、苦痛を緩和して患者・家族のもつ回復力を最大限に引き出すための看護援助を学ぶことを目標とする。また、早期の社会復帰に向けたチーム医療における看護師の役割、入院前後の多職種、多施設・機関の連携の実際を理解し、より効果的な急性期医療・看護について考えることを目指す。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
既習の関連科目の復習を行うこと。特に人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、病態と治療Ⅱ、感染免疫学、栄養代謝学、薬理学などの医学的基礎知識についても十分に復習しておくこと。

[授業計画]
病院にて、以下の通り3週間の実習を行う。
1.原則として、1～2名の周手術期患者あるいは急性疾患の患者を受け持ち、看護過程を展開しながらアセスメントと援助の実際を学ぶ。
2.原則として、受け持ち患者の検査や手術、血管内治療等を見学し、検査中、手術中あるいは治療中の看護を学ぶ。
3.手術前は、術前検査、術前訓練などを、手術後は、手術後の観察、手術後清潔の援助、離床の援助、退院指導などについて、指導を受けながら実施する。
4.実習内容は、一定の様式の実習記録に記載する。
5.日々のカンファレンスにおいて、情報や学びを共有し、学習上の問題解決を図る。
6.中間カンファレンスと最終カンファレンスにおいて、実習を通じて得た具体的な学びから、周手術期あるいは急性期にある患者・家族の特徴と看護の特徴について考察する。

[成績評価方法]
目標達成度・実践記録（80%）、実習態度（10%）、カンファレンスへの参加度（10%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
成人看護１　第2版　急性期・周手術期　パーフェクト臨床実習ガイド　著者名：井上智子　出版社：照林社　（978-4796523943）

[参考書（ISBN）]
「系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論」 著者名：矢永勝彦他編　出版社：医学書院　（978-4260010887）
「系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論」 著者名：北島政樹他編　出版社：医学書院　（978-4260010931）

P11200620 [NB3-013]

科目名	医療看護実習Ⅱ（精神）	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子、大谷　利恵		

[到達目標]
1. 精神障がいをもつ人の価値観や人権を尊重しながら関わり、人間関係構築のプロセスを体験しながら、自己洞察、他者理解を深めることができる。
2. 精神障がいをもつ人の体験に寄り添い、生活援助やプログラムへの参加を通して、心身の健康状態や心理・社会的要因が生活や対人関係に及ぼす影響を理解することができる。
3. 精神障がいをもつ人のセルフケアの維持・向上、自立や自己実現に向けた看護援助について考察することができる。
4. 精神科病院や地域で行われているさまざまな治療的アプローチや支援を学び、チーム医療における看護職の役割や他職種との連携、精神障がいをもつ人が利用できる社会資源について知ることができる。

[授業概要]
精神障がいをもつ人と人間関係を構築するプロセスの中で、自己洞察、他者理解を深める。また対象者の体験に寄り添い、生活援助を実践しながら、心身の健康状態や心理・社会的要因が生活や対人関係に及ぼす影響を理解し、セルフケアの維持・向上、自立や自己実現に向けた看護援助について考察する。さらに、精神科病院や地域で行われているさまざまな治療的アプローチや支援、チーム医療における看護職の役割や他職種との連携、精神障がいをもつ人が利用できる社会資源について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・実習に臨む前に、各自で「実習ガイダンス資料」、「医療看護実習Ⅱ（精神）実習要項」、配布された実習施設関連資料を熟読する。
・オリエンテーションに必ず参加する。
・「精神看護論」、「疾病と治療Ⅳ」、「精神看護支援技術演習」で学習した内容を復習して実習に臨む。

[授業計画]
・学内オリエンテーション・学外オリエンテーション・直前オリエンテーションに必ず参加する。
[病棟実習]
・実習期間のうち4日間は病棟実習を行う。患者1名を受け持ち、原則として看護師とともに生活援助を行う。
・実習中は受け持ち患者と活動をともにし、作業療法や心理教育などの治療的アプローチ二積極的に参加する。
・実習指導者や教員の指導を受けながら、受け持ち患者と積極的にコミュニケーションをとる。
・実習指導者や教員の指導を受けながら、受け持ち患者のセルフケアに関する情報収集、アセスメントを行う。
・実習中は毎日カンファレンスを行う。それぞれの学生の体験や実習上の課題を共有し、学びを深めるためにディスカッションする。
・病棟実習最終日のカンファレンスは、4日間の病棟実習を通して学んだことを発表し、共有する。
[デイケア実習]
・実習期間のうち1日は、精神科デイケアにて実習を行う。実習担当者に指示や指導を受けながら、利用者とともにプログラムに参加する。
[地域の精神保健保健福祉施設実習]
・実習期間のうち3日間は、地域の精神保健福祉施設にて実習を行う。実習担当者や事業所職員に指示や指導を受けながら、利用者とともにプログラムや活動等に参加する。
・実習担当者や事務所職員の指示や指導を受けながら、積極的に利用者とコミュニケーションをとる。
[学内実習]
・1週目の学内実習日は、実習中に記載したプロセスレコードを用いたグループワークと、1週目に行った実習のまとめを行う。
・2週目の学内実習日は、2週目に行った実習のまとめと、全員で振り返りを行う全体カンファレンスを行う。
・全体カンファレンスでは、実習を通して学んだことを学生同意で共有し、自らの成長や学習課題について考えを深める。

[成績評価方法]
目標到達度（70%）、課題レポート（10%）、実習への参加態度（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
「精神看護学―学生-患者のストーリーで綴る実習展開　第2版」 著者名：田中美恵子　編著　出版社：医歯薬出版株式会社 （978-4-263-23673-4）

P11200610 [NB2-018]

科目名	医療看護実習Ⅱ（慢性期）	前期～後期	3 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美、奥井　早月、鷲田　幸一		

[到達目標]
1. 人はセルフケアを行う力を潜在的に持っているという視点に立ち、病気や障害に対処している慢性病患者を、一人の人として深く理解することができる。
2. 慢性病患者が健康を維持できるように必要な看護を考え、実践することができる。
3. 慢性病患者の療養を支えるチーム医療や継続看護について知ることができる。
4. 看護を実践することを通して、倫理的・道徳的態度を身につけることができる。
5. 看護の体験を通して感じたことや考えたことを学生同士で話し合い、慢性病患者の特徴や慢性病患者への看護について考えることができる。

[授業概要]
成人期から老年期にある慢性病患者を受け持ち、長期にわたり病気や障害に対処してきた患者の病みの軌跡や治療の特徴をとらえる。ライフサイクルや社会的役割など、患者が置かれた状況を病気の体験と関連づけて理解する。
症状や心身の苦痛緩和、病気の急性増悪や合併症の予防、病みの軌跡を予測し療養方法を調整するなど患者のセルフケアを支え、患者が健康を維持できるように必要な看護を実践する。
看護の体験を学生同士で共有し、科学的根拠に基づいた専門的な知識や技能と自らの能力や倫理的・道徳的態度をどのように統合すればよいか、患者の療養を支える医療ケアシステムにはどのようなものがあるか、看護師は慢性病患者の健康回復にどのようにかかわっていけるかについて討議し、考えを深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
実習期間前に行われる実習オリエンテーションに必ず参加する。
実習初日までに、「実習ガイダンス資料」「医療看護実習Ⅱ（慢性期）実習要項」を熟読する。
実習開始の2週間前から健康手帳に必要事項を記入し、健康管理に気をつける。

[授業計画]

1）実習期間前
(1) 実習初日までに、「実習ガイダンス資料」と「医療看護実習Ⅱ（慢性期）実習要項」を熟読する。
(2) 健康管理を心がけ、実習開始の2週間前から健康チェック表に必要事項を記入する。
(3) 4クール目に病院実習に臨む学生は、アレルギーがあるなど医師の診断書で証明できる場合を除き、インフルエンザの予防接種を受ける。

2）実習1週目
(1) 充実した実習を行うため、学内演習や事前課題に主体的に取り組む。
(2) 病院実習1週目は、患者を深く理解して患者と援助的関係を結び、情報を集めて患者のセルフケアに関するアセスメントができるよう行動する。
(3) 病院実習初日に実習病棟より、看護体制や行われている看護などについてオリエンテーションを受け、患者が置かれている環境を把握する。
(4) 病院実習においては、15時または15時30分から、毎日約30～60分のデイリーカンファレンスを行う。学生は主体的にカンファレンスを運営する。デイリーカンファレンスでは、実習で感じたこと、気付いたこと、疑問などについてテーマを決め、グループで討議する。

3）実習2週目
(1) 病院実習2週目は、患者のセルフケア不足に対する看護課題を明らかにする。優先度の高い看護課題から順に看護目標を設定し、看護計画の立案ができることを目指す。
(2) 実習2週目の中頃に中間カンファレンスを行う。学生は受け持った患者のセルフケア能力、セルフケア不足などについて発表し、看護課題および看護目標について考える。
(3) 実習2週目の木曜日（または水曜日）は、中間カンファレンスでの意見を踏まえ、学内で看護目標および看護計画を再考する。学生は各自で必要な資料や文献を調べ、看護計画を完成させる。

4）実習3週目
(1) 病院実習3週目は看護を実践し、看護目標の到達度を評価、あるいは次の看護につなげることができるよう行動する。
(2) 病院実習最終日には、病院最終カンファレンスを行う。学生は、看護部長または看護部の教育担当者、看護師長、実習指導者等に参加を依頼し、受け持った患者に行った看護について発表する。
(3) 実習終了時において、学生は実習指導者および担当教員と三者面談を行う。学生は自己評価表を記載して持参し、個別に実習での成長点や今後の課題などについてフィードバックを受ける。
(4) 実習最終日は、学内にて合同カンファレンスを行う。異なる医療施設で実習を行った学生と看護の学びを共有し、慢性病患者の特徴や慢性病患者への看護について理解を深める。

[成績評価方法]
目標到達度〔実践記録を含む〕（80%）、実習およびカンファレンスへの参加態度（20%）を総合的に評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「パーフェクト臨床実習ガイドーライフステージに沿った看護技術と看護の展開ー成人看護実習ガイドⅡ　慢性期・回復期・終末期」第二版　著者名：野並葉子、森菊子、藤原由子、元木絵美編　出版社：照林社（978-4-7965-2143-7）

[参考書（ISBN）]
担当した対象者に合わせ、実習前や実習中に適宜指示する。

P11200630 [NB3-014]

科目名	医療ケアシステム論	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、東　ますみ、洪　愛子		

[到達目標]
1. 保健・医療ケアシステムの基本的なしくみと、その中で看護の果たす役割を理解できる。
2. 多様な医療関連専門職の働きと、多職種の連携・協働によるチーム医療の実践方法を知り、チーム医療における看護職としてのリーダーシップ、メンバーシップの在り方を考えることができる。
3. 医療の質を維持して安全に医療を提供するしくみと、これを支える医療保険制度、ならびに国の医療政策の概要を理解できる。
7. 安全でより良い医療を提供するために、看護職として果たすべき役割と求められる能力について考えることができる。

[授業概要]
個人と家族、ならびに人々が暮らす社会の健康を支える保健・医療システムのしくみと、実際に保健・医療サービスがどのように人々に提供されているかを理解する。また、医療に携わる多種多様な専門職のはたらきを知り、より良い医療を提供するためのチーム医療の重要性と実践方法を学ぶ。医療に潜む様々な危険や事故を予防し、安全で質の高い保健・医療サービスを提供するための取り組みを学ぶ。さらに、保健・医療システムとその活動を支える医療保険制度と、保健・医療の方向性を決める国の保健医療政策の概要を理解し、広い視点から看護の果たす役割について考えを深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
日ごろから、医療に関連するニュースに関心を持って情報を得る習慣をつけておくこと。

[授業計画]
1.私たちが病気やけがをしたら：病院・診療所と救急医療システムの概要を理解する（横内光子）4/10（火）
2.看護サービス提供のためのしくみ：看護サービスの特徴とケア提供システムについて学ぶ（横内光子）4/17（火）
3.チームワークで命と健康をまもる：主な医療関連専門職とチーム医療の必要性について学ぶ（東ますみ）4/24（火）
4.チーム医療の鍵となる連携と協働：情報共有とリーダシップ・メンバーシップの在り方と実際について学ぶ（東ますみ）5/8（火）
5.安全に医療を提供するしくみ：感染管理を中心に医療安全の概念と実際を理解する（洪愛子）5/15（火）
6.医療にかかる費用と支払いのしくみ：わが国の医療保険制度の概要を理解する（洪愛子）5/22（火）
7.「良い医療」ってなんだろう？：保健・医療の質評価と質保障（洪愛子）5/29（火）
8.これからの医療にむけて：検査・検疫等国の保健医療の仕組みと体制について理解する（洪愛子）6/5（火）
9.期末試験6/12（火）

[成績評価方法]
試験の得点（100%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「系統看護学講座　総合医療論　健康支援と社会保障制度1」 著者名：小泉俊三他　出版社：医学書院 （978-4-260-01578-3）

[参考書（ISBN）]
適宜指示する

P11200520 [NB2-014]

科目名	医療と法	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	七野　敏光		

[到達目標]
医療を担う者として相応しい法的知識を身につける

[授業概要]
　この授業では医療関係諸法規の概略を示した上で、医療と法とをめぐる具体的な問題を論じていく。いわゆる守秘義務やインフォームド・コンセントの重要性は知ってのとおりだが、プライバシー権、自己決定権にかかわるものとして、より深く考えてみたい。安楽死・尊厳死といった問題も医療を担う者であれば一度は考えてみることであろう。こうした問題のもつ法的側面を授業では示す。代理出産や性同一性障害といった、あるいは一見突拍子もなく思える話題についても論じる。医療と生命倫理と法とが絡み合った問題がそこにはあるからである。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
話題となっている医療関係の報道に留意する

[授業計画]
1. はじめに （9/21）
2. 医療関係法規の概略 （9/28）
3. 医療と人権1（守秘義務、インフォームド・コンセントなど） （10/5）
4. 医療と人権2（安楽死・尊厳死、脳死判定など） （10/12）
5. 医療と生命倫理と法1（人工授精、代理出産など） （10/19）
6. 医療と生命倫理と法2（人工妊娠中絶、性同一性障害など） （10/26）
7. 医療と現代社会（医療過誤、高齢化社会と医療など） （11/2）
8. まとめ （11/16）
9. 試験 （11/23）

[成績評価方法]
筆記試験

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
適宜指示する

P11200050 [NH1-002]

科目名	栄養代謝学	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介		

[到達目標]
看護と栄養の基礎知識を学び、療養生活と栄養について対象の病態や栄養状態の特徴に基づいた適切な看護援助が正しく理解できる。

[授業概要]
人間は食物を身体に取り込み、それを物理的化学的に処理(消化、吸収、代謝)して生命維持に役立てている。
看護の対象となる人々が生きるうえでの代謝・栄養との関連を理解し、臨床実践における技術につながる健康の維持や増進、および療養生活や疾病予防について代謝・栄養に関する状況を理解し、援助につなげることができる知識を学ぶ。具体的には、栄養素の基礎知識、消化と吸収、エネルギー代謝、疾病時の栄養などを学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
疾病と治療Ⅲ(内科学)を既習しているものとして講義を進めるため、復習をしておくこと。

[授業計画]
1. 栄養代謝学を学ぶ為の基礎知識
　生体分子の構造と特徴/細胞の構造と機能/酵素(教科書1 pp.4-18、pp.132-148):9月26日(水)5限
2. 糖質代謝
　糖質の種類と役割/糖質代謝/エネルギー代謝(教科書1 pp.20-32、pp.166-190):10月3日(水)5限
3. 脂質代謝
　脂質の種類と役割/脂質代謝/ビタミンと補酵素/ホルモンと生理活性物質
　(教科書1 pp.34-48、pp.192-210、pp.150-164、pp.98-120):10月10日(水)5限
4. タンパク質代謝
　タンパク質の種類と役割/タンパク質代謝/水と無機質/血液と尿
　(教科書1 pp.50-62、pp.212-231、pp.72-96):10月17日(水)5限
5. 遺伝情報
　核酸/核酸代謝/遺伝子情報/代謝の異常(教科書 pp.4-18、pp.234-297):10月24日(水)5限
6. 健康と栄養
　健康と栄養評価/日常生活と栄養/スポーツと栄養(教科書2 pp.2-80):10月31日(水)5限
7. 疾患と栄養
　経管栄養と中心静脈栄養(教科書2 pp.254-274):11月7日(水)5限
8. 食物と栄養
　栄養素とその働き/食物の摂取と消化・吸収/ライフステージと健康教育(教科書2 pp.82-157)
　:11月14日(水)2限
9. 体格のアセスメント:演習(Bクラス:12月13日1限　F419)　(Aクラス:1月10日1限　F419)
　:(教科書2　pp.6-11)
10. 栄養のアセスメント:演習(Bクラス:12月13日2限　F311)　(Aクラス:1月10日2限　F311)
　:(教科書2　pp.2-4)
11. 栄養教育:演習(Bクラス:12月14日1限　F419)　(Aクラス:1月11日1限　F419)
　:(教科書2　pp.58-80)
12. 患者教育(1):演習(Bクラス:12月14日2限　F419)　(Aクラス:1月11日2限　F419)
　:(教科書2　pp.32-41、pp.14-18)
13. 患者教育(2):演習(Bクラス:12月20日1限　F419)　(Aクラス:1月17日1限　F419)
　:(教科書2　pp.160-188)
14. 低栄養:演習(Bクラス:12月20日2限　F419)　(Aクラス:1月17日2限　F419)
　:(教科書2　pp.200-204, pp.230-235)
15. 栄養代謝に障害がある人のセルフモニタリング方法:演習(Bクラス:12月21日2限　F419)
　(Aクラス:1月18日2限　F419):(教科書2　pp.87-91、pp.12-13)
16. 試験 (Bクラス:12月21日1限　F419)　(Aクラス:1月18日1限　F419)

[成績評価方法]
講義・演習の授業態度・課題(50%)、試験(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
系統看護学講座　生化学 人体の構造と機能②　著者名:三輪一智　出版社:医学書院 (978-4-260-01836-4)
わかりやすい　栄養学　第4版　著者名:中村美知子・長谷川恭子　編集　出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-063-3)

[参考書(ISBN)]
ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能②　臨床生化学　著者名:宮澤恵二　編　出版社:メディカ出版 (978-4-8404-4527-6)

P11200080 [NB2-001]

科目名	疫学	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二		

[到達目標]
1. 疫学の基本となる用語や指標を説明できる。
2. 疫学的研究方法を説明することができる。

[授業概要]
　疫学とは、人間集団や地域集団を対象とし、そこに発生する疾病の流行動態を明らかにすると共に、原因を探求・特定し、疾病予防を講ずる学問である。本授業科目では、疫学的研究方法、保健指標の理解と考察、疫学の効用と限界、感染症や慢性疾患の疫学等について学ぶ。さらに看護領域においては、科学的根拠に基づく看護(Evidence Based Nursing; EBN)が求められているが、この根拠を作り出す科学的方法の一つとしての疫学の基礎を理解し、これを看護の実践に適応できる能力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1. 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。
2. 日頃から授業に関係するニュース等に関心を持ち学んでおくこと。

[授業計画]
1. 疫学総論(1)・・疫学とは何か、疫学の歴史
2. 疫学総論(2)・・疫学の基本的な考え方や用語・社会保障制度とのつながり
3. 疫学で用いられる統計学・・母集団と標本集団、差の検定
4. 集団の健康事象の指標・・罹患率と有病率、人口静態、人口動態
5. 疫学的研究方法・・記述疫学
6. 分析疫学(1)・・コホート研究(相対危険度、寄与危険度)
7. 分析疫学(2)・・患者対照研究
8. 介入疫学・・特定健診、ガンの予防
9. スクリーニング検査・・集団検診の考え方や意義と目的
10. 感染症の疫学(1)・・感染症発生時の疫学的対処と健康支援
11. 感染症の疫学(2)・・感染症発生時の疫学的対処と健康支援
12. 慢性疾患の疫学・・病態の把握や制御方法と健康支援
13. ガンの疫学
14. 臨床疫学とEBN
15. まとめ
16. 試験

[成績評価方法]
成績の評価は試験の結果(90-100%)と授業中の積極的な発言(0-10%)に基づいて行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「国民衛生の動向」(1年次に購入したものを使用する)　著者名:厚生労働統計協会　出版社:財団法人　厚生統計協会

[参考書(ISBN)]
「公衆衛生学」2012　(昨年度に購入したものを使用する)　著者名:吉田勉 他　出版社:学文社　(978-4-7620-2539-6)

P11200140 [NB2-003]

科目名	家族看護論	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、藤田　冬子、横内　光子、大谷　利恵、元木　絵美		

[到達目標]
1.看護の対象としての家族を理解することができる。
2.様々な状況にある家族をアセスメントすることができる。
3.様々な状況にある家族への援助を考えることができる。

[授業概要]
看護の対象として、家族をユニットとして理解し、家族の定義、家族看護の成り立ちを学ぶ。
家族を理解するための諸理論（家族システム、家族発達、家族機能、家族エンパワーメント等）を学習し、援助方法について学ぶ。
さらに、様々な状況にある人（疾患をもつ子ども、急性期の健康状態にある患者、慢性期の健康状態にある患者、高齢者、精神障がいをもつ人）の家族アセスメントと家族支援について学習する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
既習の実習において、対象者の家族に目を向けておくこと。
各自、自分にとっての家族の意味を考えておくこと。

[授業計画]
1.家族や家族看護の定義について学び、家族看護の成り立ちについて概観し、家族の機能や発達段階を理解する。（内正子） 4/19
2.家族を理解、援助するための理論について学び、家族のアセスメント、介入の方法について理解する。家族を支える資源について概観し、他職種と連携・協働することを通して看護の役割を理解する。（内正子） 4/26
3.疾患をもつ子どもの家族を理解し、家族への援助について学ぶ。（内正子） 5/10
4.急性期の健康状態にある患者の家族を理解し、家族への援助を学ぶ。（横内光子） 5/17
5.慢性期の健康状態にある患者の家族を理解し、家族への援助を学ぶ。（元木絵美） 5/24
6.高齢者の家族や在宅で介護をしている家族を理解し、家族への援助を学ぶ。（藤田冬子） 5/31
7.精神障がいをもつ人の家族を理解し、家族への援助を学ぶ。（大谷利恵） 6/7
8.家族介入の方法について事例を通して学ぶ。まとめ（内正子） 6/14

[成績評価方法]
課題レポート（40%） 授業中の課題（60%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「家族看護学　理論と実践」 著者名：鈴木和子編著　出版社：日本看護協会出版会 （978-4818016972）

[参考書（ISBN）]
適宜配布

P11200680 [NB3-016]

科目名	課題探究	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ、野並　葉子、藤田　冬子、玉木　敦子、横内　光子、内　正子、笹谷　真由美、丸山　有希、馬場　敦子、大谷　利恵、藤原　由子、元木　絵美、菅野　由美子		

[到達目標]
1. 専門的知識や技能、最新の研究結果を用いた看護の一連のプロセスを展開することができる。
2. 臨地の看護課題に探索的に取り組み、その成果をまとめることができる。
3. 看護の総合的な能力を高め、看護専門職としての姿勢・倫理的態度を身につけることができる。

[授業概要]
　臨床における看護課題を焦点化していく演習とその課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるための実習を組み合わせて行うことで、実践への深い関心と看護への探求心を育成する。
(演習2単位:60時間)
　学生個々が捉えた臨床における看護課題を焦点化し、その課題を探求していくための方法とプロセスについて演習を行う。
(実習2単位:80時間)
　学生個々の看護課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるためのフィールドワークや情報収集のための実習を行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
事前に実習する施設の利用者の特徴を調べ、利用者の看護を行うための事前学習をしたうえで臨むこと。健康状態を十分調整したうえで参加すること。

[授業計画]
1. 合同講義:看護研究とは、リサーチクエスチョンをたてる、研究における倫理的配慮(下敷領須美子)　4/6(金)1限目
2. 合同講義:研究デザイン、研究の設計と方法の選択(東ますみ)　4/6(金)2限目
3. 合同講義:データの収集(玉木敦子)　4/12(木)3限目
4. 合同講義:データ分析(横内光子)　4/12(木)4限目
5. 合同講義:情報の検索と吟味、文献レビューとその方法(内正子)　4/19(木)3限目
6. 合同講義:研究を伝える、ケースレポート・事例研究の進め方(藤田冬子)　4/19(木)4限目
7. 合同講義:研究計画書の作成(魚里明子・東ますみ)　4/26(木)3限目
8. 合同講義:研究計画書の作成(魚里明子・東ますみ)　4/26(木)4限目

9. 地域や在宅での患者の在り方の実際を知った経験から、学生個々が関心のある臨地における看護課題について、意見交換を行う。
10. 臨地における看護課題を探求していくために、その課題に関連する研究を検索する。
11. 探し出した研究を持ち寄り、学生個々の看護課題との関連について意見交換を行う。
12. 新たに必要となったエビデンスを持ち寄り、看護課題を明確にしていくために意見交換を行う。
13. 臨地での課題に対して、問題意識をもって選択し、テーマを焦点化する。
14. 看護課題を探求していくための計画を立てる。
15. 計画を発表し、意見交換を行う。

実習(10日間)
・実習オリエンテーション
・フィールドワークなどの計画について施設へ説明
・フィールドワーク
・情報収集(インタビュー、参加観察など)
・フィールドワーク終了についてのまとめ

16. 情報の分析①
17. 情報の分析②
18. 個別指導①
19. 個別指導②
20. 個別指導③
21. 情報の分析③
22. 情報の分析④
23. 結果をまとめる①
24. 結果をまとめる②
25. 結果について、看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる①
26. 結果について、看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる②
27. グループ内で発表し、意見交換を行う。
28. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する①
29. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する②
30. 課題探究の成果をポスターにまとめて発表する12/22(土)
教室　合同講義:F301
　　合同講義以外:指導教員の指示に従うこと

[成績評価方法]
目標到達度(40%)、実習態度(20%)、討議への参加度(20%)、課題レポートの内容(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
系統看護学講座　別巻　看護研究(第1版)　著者名:坂下玲子他　出版社:医学書院　(987-4-260-02182-1
)
実習要項、プリントは別途配布する

[参考書(ISBN)]
適宜授業内で紹介する

P11200860 [NB4-009]

科目名	課題探究	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子、小路　浩子、福山　敦子		

[到達目標]
1. 地域看護の専門的知識や技能、最新の研究結果を用いた看護の一連のプロセスを展開することができる。
2. 臨地の健康課題に探索的に取り組み、その成果をまとめることができる。
3. 看護の総合的な能力を高め、看護専門職としての姿勢・倫理的態度を身につけることができる。

[授業概要]
臨地における健康課題を焦点化していく演習とその課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるための実習を組み合わせて行うことで、実践への深い関心と看護への探求心を育成する。

(演習2単位:60時間)
学生個々が捉えた臨地における健康課題を焦点化し、その課題を探求していくための方法とプロセスについて演習を行う。
(実習2単位:80時間)
実習では、学生個々が捉えた地域における個人・家族、集団、組織、地域の健康課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるために、地域看護の場(行政保健・産業保健・在宅看護)でフィールドワークや情報収集を行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
事前に実習する地域及び集団・組織の特徴を調べ、地域看護を展開するための事前学習をしたうえで臨むこと。健康状態を十分調整したうえで参加すること。

[授業計画]
1.合同講義:看護研究とは、リサーチクエスチョンをたてる、研究における倫理的配慮　4/6(金)1限目
2.合同講義:研究デザイン、研究の設計と方法の選択　4/6(金)2限目
3.合同講義:データの収集　4/12(木)3限目
4.合同講義:データ分析　4/12(木)4限目
5.合同講義:情報の検索と吟味、文献レビューとその方法　4/19(木)3限目
6.合同講義:研究を伝える、ケースレポート・事例研究の進め方　4/19(木)4限目
7.合同講義:研究計画書の作成　4/26(木)3限目
8.合同講義:研究計画書の作成　4/26(木)4限目
9.地域や在宅での人々の在り方の実際を知った経験から、学生個々が関心のある臨地における健康課題について、意見交換を行う。
10. 臨地における健康課題を探究していくために、その課題に関連する研究を検索する。
11. 探し出した研究を持ち寄り、学生個々が捉えた臨地における健康課題との関連について意見交換を行う。
12. 新たに必要となったエビデンスを持ち寄り、臨地における健康課題を明確にしていくために意見交換を行う。
13. 臨地での健康課題に対して、問題意識をもって選択し、テーマを焦点化する。
14. 臨地における健康課題を探求していくための計画を立てる。
15. 計画を発表し、意見交換を行う。

実習(10日間)
・実習オリエンテーション
・フィールドワークなどの計画について施設へ説明
・フィールドワーク
・情報収集(インタビュー、参加観察など)
・フィールドワーク終了についてのまとめ

16. 情報の分析①
17. 情報の分析②
18. 個別指導①
19. 個別指導②
20. 個別指導③
21. 情報の分析③
22. 情報の分析④
23. 結果をまとめる①
24. 結果をまとめる②
25. 結果について、地域看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる①
26. 結果について、地域看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる②
27. グループ内で発表し、意見交換を行う①
28. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する①
29. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する②
30. 課題探究の成果をポスターにまとめて発表する。

[成績評価方法]
目標到達度(40%)、実習態度(20%)、討議への参加度(20%)、課題レポートの内容(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
系統看護学講座別巻　看護研究(第1版　著者名:坂下玲子他　出版社:医学書院　(987-4-260-02182-1
)
実習要項、プリントは別途配布する。

[参考書(ISBN)]
適宜授業内で紹介する

P11200860A [NB4-009]

科目名	課題探究	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子、田村　康子、牛越　幸子		

[到達目標]
1. 母性看護学や助産学の専門的知識や技能、最新の研究結果を用いた看護の一連のプロセスを展開することができる。
2. 臨床の看護課題に探索的に取り組み、その成果をまとめることができる。
3. 看護の総合的な能力を高め、看護専門職としての姿勢・倫理的態度を身につけることができる。

[授業概要]
臨床における看護課題を焦点化していく演習とその課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるための実習を組み合わせて行うことで、実践への深い関心と看護への探求心を育成する。

(演習2単位:60時間)
学生個々が捉えた臨床における看護課題を焦点化し、その課題を探求していくための方法とプロセスについて演習を行う。
(実習2単位:80時間)
助産選択の学生は、助産学実習との連動において課題探究に関する実習を行う。学生個々の看護課題を実践における探索的な取り組みへと繋げるためのフィールドワークや情報収集のための実習を行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
母性看護論、助産学概論、助産診断技術論の内容を復習し理解しておくこと。母子保健に関する社会資源や実習する施設の利用者の特徴を調べ、利用者への支援を行うための事前学習をしたうえで臨むこと。健康状態を十分調整したうえで参加すること。

[授業計画]
1.合同講義:看護研究とは、リサーチクエスチョンをたてる、研究における倫理的配慮(下敷領須美子) 4/6(金)1限目
2.合同講義:研究デザイン、研究の設計と方法の選択(東ますみ) 4/6(金)2限目
3.合同講義:データの収集(玉木敦子) 4/12(木)3限目
4.合同講義:データ分析(横内光子) 4/12(木)4限目
5.合同講義:情報の検索と吟味、文献レビューとその方法(内正子) 4/19(木)3限目
6.合同講義:研究を伝える、ケースレポート・事例研究の進め方(藤田冬子) 4/19(木)4限目
7.合同講義:研究計画書の作成(魚里明子・東ますみ) 4/26(木)3限目
8.合同講義:研究計画書の作成(魚里明子・東ますみ) 4/26(木)4限目

9.地域において女性や妊産婦がどのように生活しているのかを知った経験から、関心のあるテーマ、看護課題を選択し、意見交換を行う。
10.臨地における看護課題を探求していくために、その課題に関連する研究を検索する。
11.探し出した研究を持ち寄り、学生個々の看護課題との関連について意見交換を行う。
12.新たに必要となったエビデンスを持ち寄り、看護課題を明確にしていくために意見交換を行う。
13. 臨地での課題に対して、問題意識をもって選択し、テーマを焦点化する。
14. 看護課題を探求していくための計画を立てる。
15. 計画を発表し、意見交換を行う。

実習(10日間)
・実習オリエンテーション
・フィールドワークなどの計画について施設へ説明
・フィールドワーク
・情報収集(インタビュー、参加観察など)
・フィールドワーク終了についてのまとめ

16. 情報の分析①
17. 情報の分析②
18. 個別指導①
19. 個別指導②
20. 個別指導③
21. 情報の分析③
22. 情報の分析④
23. 結果をまとめる①
24. 結果をまとめる②
25. 結果について、看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる①
26. 結果について、看護にまつわる現象や援助の方法、看護者の役割について検討し、まとめる②
27. グループ内で発表し、意見交換を行う。
28. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する①
29. 実習と演習を実施した結果から課題レポートを作成する②
30. 課題探究の成果をポスターにまとめて発表する。

[成績評価方法]
目標到達度(40%)、実習態度(20%)、討議への参加度(20%)、課題レポートの内容(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
系統看護学講座　別巻　看護研究(第1版)

著者名:坂下玲子他　出版社:医学書院 (987-4-260-02182-1)

[参考書(ISBN)]
適宜授業内で紹介する

P11200860B [NB4-009]

科目名	学校保健Ⅰ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	丸山　有希		

[到達目標]
学校保健の目的・意義を理解し、学校教育の基礎となる児童生徒の保健管理と保健教育について基本的知識を習得する。

[授業概要]
文部科学省は、「学校保健とは、児童生徒の健康の保持増進を図ること、集団教育としての学校保健活動に必要な健康や安全への配慮を行うこと、自己や他者の健康の保持増進を図ることができるような能力を育成することなど学校における保健管理と保健教育である」と述べている。また児童生徒の心身の健康は、教育の基本的な到達目標として位置づけられており、学校保健は学校教育の一環として明確に制度化されている教育活動である。ここでは、このような認識のもと、学校現場においての保健活動の意義と特殊性について理解するため、まず、学校保健の制度と歴史を概観し、続いて児童生徒を取り巻く健康や環境に関する課題を取り上げ、その概要を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
授業内容に関連する箇所の予習および、前回の授業の復習を心がける。

[授業計画]
1. 学校保健の歴史と意義、および学校保健組織について学ぶ(1月9日・水／1限)
2. 学校保健計画と学校安全計画について、法令に基づく学校での活動と学校教育における
　ヘルスプロモーションの理念を学ぶ （1月9日・水／2限）
3. 感染予防と健康管理について、学校での実践方法について学ぶ(1月11日・金／3限)
4. 子供の虐待の背景や現状を知り、心のケアについて学ぶ（1月11日・金／4限）
5. 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育についてその意義と具体的な進め方を学ぶ（1月15日・火／4限）
6. 学校における性教育について、その意義と教育課程に基づく指導について学ぶ （1月15日・火／5限）
7. 学校における食育および、食物アレルギーへの対応について学ぶ （1月16日・水／1限）
8. 特別な配慮の必要な子供と家族の現状を理解し、医療的ケアを含む支援のあり方を学ぶ （1月16日・水／2限）
9. 試験 （1月21日・月／1限）

F210

[成績評価方法]
授業への取組み姿勢（課題レポート、授業態度等）50%、試験　50%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
学校保健ハンドブック第6次改訂　著者名：教員養成系大学保健協議会　出版社：ぎょうせい （978-4-324-09800-4C3037）

[参考書（ISBN）]
なし

P11200420 [NI3-003]

科目名	学校保健Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	丸山　有希		

[到達目標]
学校における保健管理や保健教育の特性を理解し、実態が把握できる。
児童生徒等の健康課題の現状を把握し、その対応についてイメージできる。

[授業概要]
学校保健Ⅱでは、学校保健Ⅰの内容をふまえ、学校保健活動を展開するに当たって基礎となる児童生徒の保健管理と保健教育の理論と実際を学ぶ。
具体的には、「保健管理」の一環である、健康診断、環境衛生、救急処置など、子供達の健康の保持増進を目的とする活動および、「保健教育」の一環である、保健指導や保健学習といった、健康についての認識や実践力を養う活動について、特性や実態を把握し、総合的な学校保健活動が展開できる知識や態度を養う。
また、心身の健康・発達・行動上の課題を有する子供と家族への支援のあり方にも触れ、保護者・地域・専門機関も視野に入れた学校保健のあり方について考察したい。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
授業内容に関連する箇所の予習および、前回の授業の復習を心がける。

[授業計画]
1. 健康診断について、法的根拠と健康診断の実施の詳細を学ぶ （1月21日・月／2限）
2. 環境衛生検査と施設設備の衛生管理について具体的な手法を学ぶ （1月22日・火／4限）
3. 学校で行われている救急処置活動の実際について事例から学ぶ（1月22日・火／5限）
4. 子供の発育・発達を考慮した学校保健活動の展開と保健指導について学ぶ（1月28日・月／1限）
5. 保健指導について学校における位置づけと具体的な展開方法を学ぶ （1月28日・月／2限）
6. 心臓疾患、腎臓疾患、糖尿病等、慢性的な 疾患を持つ子どもの学校での健康管理について学ぶ （1月29日・火／4限）
7. 学校・保護者・地域・専門機関との連携のあり方について学ぶ （1月29日・火／5限）
8. まとめ・保健指導の実践発表会 （2月4日・月／1限）
9. 試験 （2月6日・水／3限）

F210

[成績評価方法]
授業への取組み姿勢（課題レポート、提出物、授業態度等）60%、試験　40%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
学校保健ハンドブック第6次改訂　著者名：教員養成系大学保健協議会　出版社：ぎょうせい （978-4-324-09800-4C3037）

[参考書（ISBN）]
なし

P11200170 [NI3-002]

科目名	看護学概論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子、洪　愛子		

[到達目標]
1. 看護の基本について理解する。
2. 看護職は何をする人なのか探求する。
3. チーム医療の中の看護の役割について理解する。

[授業概要]
看護の成り立ちと発展の歴史を学び、看護とは何か、看護を専門職としていくとはどういうことかについて理論や指針、基準より学ぶ。看護の対象となる人、家族、集団、地域、社会の健康課題について検討し、看護の重要な使命である健康の増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和について考察を深める。それらの考察をもとに、健康に生きること、病気を生きること、死ぬということを取り上げ、よりよく生きることの可能性について探求する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1. 自身の身の回りの人々はどのように生活しているのか、問いをもって参加観察をし、自身の感性を磨く。
2. 患者体験の本を読み、想像力を持つ。
3. 厚生労働省ホームページに入り、看護に関連する政策を調査する。

[授業計画]
1. わが国における保健・医療・福祉と看護の発展の歴史を概観する(野並葉子)
2. 看護の定義と看護の主要概念から看護理論の発展を学ぶ(野並葉子)
3. 看護の対象である生活者であり、健康を生きぬく人について看護理論から学ぶ(野並葉子)
4. わが国における健康課題と保健・医療の現状について現実的な課題を検討する(野並葉子)
5. 人が病気になることや死ぬこと、ウエルビーングに生きることを理解する(野並葉子)
6. 健康に生きる基本的権利でと健康の増進及び疾病の予防について学ぶ(野並葉子)
7. 看護実践の中心にある疾病の回復に向かって支援する活動について学ぶ(野並葉子)
8. 病気からくる苦悩や苦痛に寄り添い、緩和し、生きていくことを支えることを学ぶ(野並葉子)
9. ケアについて、「ケアの本質」(メイヤロフ)を題材にして学ぶ(野並葉子)
10. 保助看法を中心に、看護の倫理的実践と法の遵守の基本を学ぶ(洪愛子)
11. 看護実践のプロセス(看護ヘルスアセスメント・看護課題の検討・目標の設定・看護プランの作成・看護実践・評価)と考え方を学ぶ(野並葉子)
12. 看護専門職の役割と機能について、看護専門職の実際の活動をもとに学ぶ(洪愛子)
13. 国際地域看護活動-Think Globally、 Act Locally-　森口郁子特別講師(兵庫県立大学名誉教授)
14. 看護実践の発展のための看護コミュニティの育成及び実践コミュニティについて学ぶ(野並葉子)
15. チーム医療の中の看護の役割について学ぶ(洪愛子)

[成績評価方法]
事前課題(25%)、ノート･テイキング(25%)、事後課題(25%)、ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議への参加・役割遂行(10%)、出席時レポート(15%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「ケアの本質」2004　著者名:ミルトン・メイヤロフ　出版社:ゆみる出版　(978-4-946509-11-7)
「看護学概論」第3版　著者名:ライダー島崎玲子他　出版社:医歯薬出版株式会社　(978-4-263-23575-1)
「看護覚え書」7版　著者名:フロレンス・ナイチンゲール(湯槙・小玉訳)　出版社:現代社　(978-4-87474-142-9)
看護者の基本的責務　著者名:手島恵　監修　出版社:日本看護協会出版会　(978-4-8180-1932-4)

[参考書(ISBN)]
別途指示する

P11200200 [NB1-003]

科目名	看護情報学	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[到達目標]
情報の電子化やネットワーク化の普及により、看護を取り巻く状況は変化している。膨大な情報から、目的に応じた情報を収集し看護に活かすための基礎的知識を理解する。

[授業概要]
安全で質の高い看護を実践するため、また、チーム医療において情報は必要不可欠である。看護情報学は、1980年に初めて定義された新しい学問であり、医療機関における電子カルテの導入や、地域医療連携における患者情報のネットワーク化、遠隔医療・遠隔看護の推進など、看護を取り巻く情報システムの変化は著しい。本講義では、看護情報学の定義の変遷、看護の臨床現場における情報活用の概要、情報倫理と医療で取り扱う個人情報の特徴、医療情報システムの種類と役割、遠隔医療や遠隔看護の国内外における実践例、看護用語の標準化への取り組みについて学ぶことで、看護の質や効率、安全性を高めるための看護情報学について理解を深める。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
これまで講義や実習で学んできた看護に、情報がどのように活用されていたか復習しておくこと。また、情報通信技術の医療への活用について、日頃からニュースに関心を持つこと。

[授業計画]
1. 看護情報学の専門性を理解し、看護実践への情報の活用について概要を知る(12/18)
2. 看護情報学を取り扱うために必要となる、コンピュータリテラシーや情報リテラシーを習得するための基礎的知識や考え方を理解する(12/18)
3. データと情報と知識の関係を知り、看護で取り扱う情報の特徴や活用について理解する(1/8)
4. 情報倫理の概念を理解し、医療で取り扱う個人情報の特徴や個人情報保護法の要点と関連するガイドライン、倫理指針について理解する(1/15)
5. 医療情報システムの種類と役割を理解し、電子カルテの看護への活用例を学ぶ(1/22)
6. 地域看護における情報通信技術の導入と活用の可能性を学び、遠隔医療・遠隔看護の現状や実用化に向けた課題について理解する(1/29)
7. 看護用語の標準化の取り組みとして、NANDA、ICNPの概要を知り、分類体系の目的と利用方法について理解する(1/29)
8. 看護の質と効率、安全性を高めるための、看護情報学の発展について検討する(1/30)
9. 試験(2/5)
教室　F210

[成績評価方法]
試験(70%)、授業態度(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「エッセンシャル 看護情報学 第2版」 著者名:太田勝正・前田樹海編著　出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-23586-7)
適宜プリントを配布する。

[参考書(ISBN)]
「系統看護学講座　別巻　看護情報学」 著者名:中山和弘　他6名共著　出版社:医学書院 (978-4-260-02771-7)
必要に応じて適宜紹介する。

P11200240 [NB3-002]

科目名	看護倫理	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子、藤田　冬子、玉木　敦子、下敷領　須美子、菅野　由美子		

[到達目標]
1. 倫理原則について理解する。
2. 倫理的な看護実践の展開について思考を深めることが出来る。
3. 実習で担当した事例を倫理的実践の観点から検討し、学習の展開が出来る。
4. 医療者の倫理について思考を深めることが出来る。

[授業概要]
倫理の原則（善行と無害、正義、自律、誠実、忠誠）をもとに、看護実践上の重要な倫理的概念（アドボカシー・責務と責任、協力、ケアリングなど）を学ぶ。その上で、看護師の倫理的責任について看護師の機能と役割の観点から探求する。さらに、看護倫理の実践への応用について老人看護・精神看護・母性看護・小児看護領域の臨床事例を元に検討し、看護の実践そのものが安全性、公正性、透明性が求められることを深く理解する。そのため、看護ケアを実践するとき、協力・協働するコミュニティの育成や学習の発展の必要性を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・授業までに、倫理原則や倫理的概念に関する教科書の該当ページを読み学習する。
・老年、精神、母性、小児分野の既習の授業での倫理に関する内容について復習する。

[授業計画]
第1回（11/6　3限）
倫理原則をもとに看護の倫理的実践に伴う重要な概念を紹介する（野並葉子）
第2回（11/13 3限）
看護師の倫理的責任について看護師の機能と役割の観点から探求する（野並葉子）
第3回（11/20 3限）
老年看護分野における倫理的実践とアドボカシーについて臨床事例を展開する（藤田冬子）
第4回（11/27 3限）
精神看護分野における倫理的実践と尊厳について臨床事例を展開する（玉木敦子）
第5回（12/4　3限）
母性看護分野における倫理的実践と生命倫理について臨床事例を展開する（下敷領須美子）
第6回（12/11 3限）
小児看護分野における倫理的看護とケアリングについて臨床事例を展開する（菅野由美子）
第7回（12/18 3限）
薬害被害をうけられた当事者から医療者の倫理について学ぶ（外部特別講師）
第8回（12/18 4限）
看護実践の倫理的課題について討議する（野並葉子）

[成績評価方法]
小テスト（6回）（60%）、最終課題レポート（40%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
日本看護協会監修：看護者の基本的責務　定義・概念・基本法・倫理、日本看護協会出版会<
2017年度版＞　著者名：手島恵　出版社：日本看護協会出版会　（4818020001）

[参考書（ISBN）]
講義中に提示

P11200250 [NI4-003]

科目名	感染免疫学	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二		

[到達目標]
1. 感染症と人類の戦いの歴史を理解できる。
2. 感染症とその原因である病原微生物を結びつけることができる。
3. 人体の持つ免疫機構による感染発症のメカニズムを理解できる。

[授業概要]
人類は長い歴史の中で常に微生物感染症との闘いを続けてきた。本授業科目では、感染(症)の原因となる微生物の種類とそれらの特徴、宿主側の防御機構と疾病の成り立ち、検査法や診断法、治療の概要と回復の促進に加えて、感染予防法等を学ぶことによって、感染とこれを防ぐ宿主の免疫応答などの相互関係を理解する。これらに加えて本授業科目では、人獣共通感染症、新興・再興感染症、さらには感染症法などといった今日的諸問題や保健医療福祉行政とのつながりについても学習する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。

[授業計画]
1. 感染症の現状と歴史・・ミアズマ説、天然痘、ペスト、黄熱 (9/24)
2. 寄生虫学総論･各論・・特徴、感染経路、引き起こす疾患(10/1)
3. 細菌学総論・・・グラム染色性、薬剤耐性(10/8)
4. 細菌学各論・・・感染経路、引き起こす疾患(10/15)
5. ウイルス学総論･各論・・特徴、感染経路、新興感染症(10/22)
6. 感染と免疫(1)・・自然免疫と獲得免疫(10/29)
7. 感染と免疫(2)・・液性免疫と細胞性免疫(11/5)
8. 感染と免疫(3)ワクチンの種類や基本的特徴(11/12)
9. 寄生虫学演習(1)・・アニサキス、回虫(A:11/19, B:12/3)
10. 寄生虫学演習(2)・・マラリア、赤痢アメーバ(A:11/19, B:12/3)
11. 衛生動物演習(1)・・ハウスダストとダニ抗原(A:11/20, B:12/4)
12. 衛生動物演習(2)・・濁水の凝集とダニ観察(A:11/20, B:12/4)
13. 細菌学演習(1)・・大腸菌群と大腸菌、グラム染色(A:11/26, B:12/10)
14. 細菌学演習(2)・・リゾチーム、黄色ブドウ球菌(A:11/26, B:12/10)
15. 細菌学演習(3)・・培養結果の判定とまとめ(A:11/27, B:12/11)
16. 試験　12/17(月) 2限

[成績評価方法]
成績の評価は学期末試験の結果(60-70%)と授業中の積極的な発言(0-10%)、演習のレポート(30点)に基づいて行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし(講義や演習時に資料を手渡す)

[参考書(ISBN)]
なし(授業中に適宜紹介する)

P11200510 [NB2-013]

科目名	急性期看護論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子		

[到達目標]
1.手術を受ける患者の身体面、精神面、社会面の特徴を理解できる。
2.麻酔と手術操作によって発生する手術中・手術後の合併症、苦痛、セルフケアの障害とその援助方法
について理解できる。
3.様々な手術の部位や手術方法によって生じる看護上の問題とその援助方法について理解できる。
4.個人にとって、病気の経過や療養生活の中で手術を受けるという体験の意味を考え、長期的視点に
なって手術を受ける患者の看護について考えることができる。

[授業概要]
地域社会で生活を送る個々人が、何らかの病気になり、手術をはじめとする身体に負担の大きい治療をうける際の、身体・精神・社会的な特徴を理解する。また、個人や家族にとって、生命・健康が危機状態におかれる体験の意味を理解し、そのような患者と家族に必要な看護援助について学ぶ。手術など身体に大きな負担をかける治療によって、人の身体や心はどのように反応しながら回復するのかを、これまでに学習した身体のしくみと機能、病態などの知識を活用して理解する。この理解に基づいて、患者の回復状態を綿密に評価しながら、順調な回復と患者の望む社会復帰に向けた援助の方法を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
各回に関連する教科書の内容を読み予習を行うこと。人体のしくみと機能(解剖と生理)の部分は、特に十分に復習しておくこと。

[授業計画]
1.急性期看護学概論:急性期にある患者の特徴と看護:4/6(金)3限
2.手術を受ける患者・家族の特徴と看護の役割:4/13(金)3限
3.周手術期にある患者の看護過程:事例検討:4/20(金)3限
4.手術中の看護:手術・麻酔中の安全・安楽を維持する看護:4/27(金)3限
5.手術後の看護1)侵襲・生体防御反応と術後合併症に対する看護:5/9(水)1限
6.手術後の看護2)生命維持、苦痛の緩和と合併症予防、セルフケア回復のための看護・退院に向けた看護:5/9(水)2限
7.手術前の看護:術前アセスメントと準備状態を整える看護:5/11(金)3限
8.低侵襲手術を受ける患者の特徴と看護:5/18(金)3限
9.運動器(手足、脊椎)の手術を受ける患者の特徴と看護:5/25(金)3限
10.消化管(食道・胃・腸)の手術を受ける患者の特徴と看護:5/30(水)1限
11.消化器(胆嚢・肝臓・膵臓)の手術を受ける患者の特徴と看護:5/30(水)2限
12.頭頚部の手術を受ける患者の特徴と看護:6/1(金)3限
13.心臓の手術を受ける患者の特徴と看護:6/8(金)3限
14.肺、内分泌器官(乳腺・甲状腺)の手術を受ける患者の特徴と看護:6/15(金)3限
15.泌尿器、生殖器の手術を受ける患者の特徴と看護:6/22(金)3限
16.期末試験:6/29(金)3限

[成績評価方法]
小テストと課題(全5回:1回に付き10点満点で平均点を10%換算):10%
試験の得点:90%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論」 著者名:矢永勝彦　出版社:医学書院 (978-4260010887)
「系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論」 著者名:北島政樹　出版社:医学書院 (978-4260010931)
「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　運動器」 著者名:加藤 光寶　出版社:医学書院 (978-4260021760)

[参考書(ISBN)]
「成人看護学　成人看護技術」 著者名:野崎真奈美他編　出版社:南江堂 (978-4524262847)
「成人看護学　急性期看護論」 著者名:池松裕子他編　出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4902085129)

P11200530 [NB3-009]

科目名	健康相談活動	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	丸山　有希		

[到達目標]
　養護教諭の職務の特性や保健室の機能を生かした健康相談活動について理解し、健康相談活動の基礎的な実践能力を身につける。

[授業概要]
　近年の社会環境や生活様式の急激な変化の中で、子供達の心身両面にわたる健康問題が複雑化、深刻化している。養護教諭はこのような子供達の健康問題にいち早く気づくことのできる立場であり、養護教諭が実施する健康相談活動は重要な役割を担っている。
　ここでは、養護教諭の行う健康相談活動の基礎・基本を学び、具体的な事例を挙げながら、ロールプレイやグループワーク等を取り入れて、要因の把握や解決のための支援のあり方、関係者との連携等について学んでいく。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
授業内容に関連する箇所の予習および、前回の授業の復習を心がける。

[授業計画]
1.健康相談活動とは何か、意義・目的と概要を学ぶ　11/6　1限
2.養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談活動のあり方を学ぶ　11/6　2限
3.児童生徒の心身の健康問題の現状と背景について学ぶ　11/7　1限
4.心身の発達について理解し、予防教育と環境調整について学ぶ　11/7　2限
5.健康相談の基礎、対象理解、問題理解、相談方法の理解について学ぶ　11/14　3限
6.健康相談活動に必要なカウンセリング技法について学ぶ　11/14　4限
7.健康相談活動の実際、相談活動の進め方、プライバシーの保護と危機管理について学ぶ　11/21　3限
8.不定愁訴、心身症について理解し、適切な対応のあり方を学ぶ　11/21　4限
9.いじめ、虐待について理解し、適切な対応のあり方を学ぶ　11/28　3限
10.薬物乱用, 飲酒・喫煙行動について理解し、適切な対応のあり方を学ぶ　11/28　4限
11.保健室登校について、背景や現状を理解し適切な対応のあり方を学ぶ　12/5　3限
12.病弱者、慢性疾患を持つ児童生徒の理解と適切な対応のあり方を学ぶ12/5　4限
13.性の問題行動について、背景や現状を理解し、適切な対応のあり方を学ぶ　12/12　3限
14.健康相談活動の記録と評価について学ぶ　12/12　4限
15.まとめ　12/14　1限
16.試験　　12/18　2限

[成績評価方法]
授業への取組み姿勢(課題レポート、授業態度等)50%、試験　50%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「養護教諭の行う健康相談」 著者名:大谷尚子・森田光子編　出版社:東山書房 (978-4-8278-1486-6)

[参考書(ISBN)]
なし

P11200160 [NI4-001]

科目名	公衆衛生学	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二		

[到達目標]
1. 医学の中での衛生学・公衆衛生学、予防医学の位置づけが説明できる。
2. 公衆衛生活動の実際や行政組織・法制度等について説明出来る。
3. 母子保健、成人保健、老人保健や生活環境について理解･説明出来る。

[授業概要]
衛生学・公衆衛生学は、全ての国民が生来の権利としての健康と長寿を可能にすべく、その理論と技術を組織化・体系化した学問である。そのため本授業科目では、衛生学・公衆衛生学とわが国の衛生・公衆衛生の現状を踏まえて、健康支援や社会保障制度、母子保健、学校保健、生活習慣病の疫学と予防対策、あるいは老人保健など健康に関する極めて広い範囲を取り扱うことになる。このことはすなわち、「本授業科目が我々の日常生活と如何に密接に関連しているのか」を学ぶことであると言い換えることが出来る。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。

[授業計画]
1. 概論・医療保健制度…意義と歴史や社会保障(9/26)
2. 予防医学・・予防医学の3段階(10/3)
3. 母子保健・学校保健・・妊産婦や胎児の保健、学校保健行政(10/10)
4. 成人保健(1)・・生活習慣病総論・各論、疫学(10/17)
5. 成人保健(2)・・生活習慣病総論・各論、疫学(10/24)
6. 生活環境（1）・・上水,下水,水質汚染(10/31)
7. 生活環境（2）・・廃棄物、公害(11/7)
8. まとめ(11/14)
9. 試験(11/21)

[成績評価方法]
成績の評価は試験の結果（90-100%）と授業中の積極的な発言（0-10%）に基づいて行う。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
公衆衛生学　著者名：吉田　勉他　出版社：学文社　(978-4-7620-2539-6)
国民衛生の動向　著者名：厚生労働統計協会　出版社：財団法人　厚生統計協会

[参考書（ISBN）]
なし

P11200130 [NB1-002]

科目名	公衆衛生看護演習	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	小路　浩子		

[到達目標]
1. 地域社会で暮らす様々なライフステージ・健康レベルの個人・集団に対する援助方法を習得する。
2. 個別保健指導と集団保健指導の違いや特徴を理解し、援助技術を習得する。

[授業概要]
地域社会の中で生活および健康課題を解決するために、公衆衛生看護活動における保健指導技術を習得する。地域で生活している人々の健康の保持・増進のために、ヘルスプロモーションおよびセルフケアの考え方に基づき、地域住民が自ら健康に関する課題を解決できる力を身につけられるような保健指導の方法を学ぶ。地域看護活動の対象となる様々なライフステージ・健康レベルの個人や家族、集団、組織の支援をするために、家庭訪問・健康相談といった個別保健指導技術と健康教育・グループ学習といった集団保健指導技術を習得し、実践できるように演習を行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。

[授業計画]
1.(4/9月1限)保健師活動の支援方法と技術:個人・家族、集団、組織
2.(4/9月2限)保健指導に関する理論
　(個別保健指導技術)
3.(4/10火1限)個人・家族への保健指導技術①:健康診査、健康相談、家庭訪問
4.(4/10火2限)個人・家族への保健指導技術②:健康診査・健康相談の演習(学外特別講師:子どもの発達相談に関わる臨床心理士・主担当も同席)
5.(4/12木1限)個人・家族への保健指導技術③:健康診査・健康相談の演習
6.(4/16月1限)個人・家族への保健指導技術④:家庭訪問の演習
7.(4/16月2限)個人・家族への保健指導技術⑤:家庭訪問の演習
8.(4/17火1限)個人・家族への保健指導技術⑥:家庭訪問の演習
9.(4/17火2限)個人・家族への保健指導技術のまとめ
　(集団保健指導技術)
10.(4/19木1限)グループ・集団に対する保健指導技術①:グループワーク、健康教育
11.(4/23月1限)グループ・集団に対する保健指導技術②:グループワークの演習
12.(4/23月2限)グループ・集団に対する保健指導技術③:グループワークの演習
13.(4/24火1限)グループ・集団に対する保健指導技術④:健康教育の演習
14.(4/24火2限)グループ・集団に対する保健指導技術⑤:健康教育の演習
15.(4/26木1限)グループ・集団に対する保健指導技術⑥:健康教育の演習
16.(5/1火1限)試験
使用教室　F202(地域・在宅実習室)

[成績評価方法]
試験(70%)、演習態度(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
標準保健師講座　地域看護技術　第3版　著者名:中村裕美子他　出版社:医学書院　(978-4-260-02193-7)
公衆衛生看護活動論　技術演習第2版　　著者名:岩本里織他　出版社:クオリティケア　(978-4-904363-41-6)
第5版　乳幼児健診マニュアル　著者名:福岡地区小児科医会　出版社:医学書院　(978-4-260-02158-6)

[参考書(ISBN)]
随時紹介する

P11200370 [NB4-001]

科目名	公衆衛生看護学概論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子		

[到達目標]
1. 地域看護・公衆衛生看護の理念、歴史、役割、公衆衛生看護学活動の対象を理解する。
2. 公衆衛生看護の動向と公衆衛生看護学活動の展開を理解する。
3. 公衆衛生看護学の理論的背景を理解する。

[授業概要]
地域看護・公衆衛生看護の理念、歴史および公衆衛生看護学に重要な概念や理論を学ぶ。
公衆衛生看護活動の特性および場と対象、日本の健康政策の変遷と社会的背景、集団の健康を支える保健師活動、関係法規・施策、行政のしくみを理解する。また、地域で生活している人々を、個・家族・集団・地域社会という多重構造で捉え、生活者としての視点で考えることができる。さらに、より身近に地域社会とそこに生活している人々の健康課題を考えてもらうために、自分の生まれ育った地域の情報収集やフィールドワークを取り入れた学習を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。

[授業計画]
1.公衆衛生看護の理念：地域看護学および公衆衛生学を学ぶにあたっての基本概念である、公衆衛生、健康の概念、コミュニティの捉え方について理解する。(4/9・2限)
2.公衆衛生看護学の基盤となる理論：公衆衛生看護学の基盤となる理論を理解することによって、公衆衛生看護活動に活用することを考えることができる。(4/16・2限)
3.フィールドワーク：住民の健康課題を理解するために、自分の生まれ育った地域のフィールドワークを行い、健康課題を考察する。(4/23・2限)
4.公衆衛生看護の歴史：公衆衛生看護活動の歴史を学ぶことによって、健康支援や医療・社会保障システムにおける保健師の機能や役割を理解する。(5/7・2限)
5.地域看護・公衆衛生看護の場：地域看護・公衆衛生看護活動の活動分野（行政保健、学校保健、産業保健、在宅看護）と看護職の役割、法的根拠や社会保障制度、保健・医療・福祉関係者の連携について理解する。(5/7・3限)
6.公衆衛生看護活動の展開①：公衆衛生看護の特性・機能・役割、さまざまなライフステージ、健康レベルに応じた公衆衛生看護活動の対象、活動方法について理解する。(5/14・2限)
7.公衆衛生看護活動の展開②：地域母子保健活動や成人保健活動等公衆衛生看護活動を理解するための関係法令や制度・システムづくりについて理解する。(5/14・3限)
8.公衆衛生看護活動の展開方法①：個人・家族の捉え方と援助について事例を用いて考察する。(5/21・2限)
9.公衆衛生看護活動の展開方法②：集団の捉え方と援助について事例を用いて考察する。(5/21・3限)
10.公衆衛生看護活動の展開方法③：地域全体を対象とした援助について事例を用いて考察する。(6/4・2限)
11.社会環境の変化と健康課題：各健康指標や社会背景、ライフスタイル、さまざまな価値観について学び、地域の人々の健康との関連を考えることができる。(6/4・3限)
12.フィールドワーク発表・ディスカッション：フィールドワークでまとめた自分の地域の健康課題について発表し、ディスカッションを通じて学びを深める。(6/11・2限)
13.健康課題から地域保健計画を策定し、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源の開発やシステム作りに向けての公衆衛生看護活動を考察し、学びを深める。(6/11・3限)
14.公衆衛生看護活動を推進するにあたっての今日の現状と課題を踏まえて、地域で働く看護職としての健康支援の方向性を考察する。(6/18・2限)
15.まとめ(6/18・3限)
16.試験 (6/25・2限)

[成績評価方法]
試験 (70%)、小テスト・レポート課題(30%)

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
健康と社会・生活　第4版　著者名：平野かよ子他　出版社：メディカ出版 (978-4-8404-4912-0)
標準保健師講座①　公衆衛生看護学概論　第4版　著者名：標美奈子他　出版社：医学書院 (978-4-260-02004-6)
国民衛生の動向2015/2016　著者名：厚生労働統計協会　出版社：厚生労働統計協会 (491-0038540859-02315)
公衆衛生がみえる2016-2017
　著者名：今村知明他　出版社：メディックメディア (978-4-89632-608-6)

[参考書(ISBN)]
看護法令要覧平成30年度版　著者名：勝又浜子他　出版社：日本看護協会出版会 (978-4-8180-2016-0)
保健師業務要覧 第3版　著者名：井伊久美子他　出版社：日本看護協会出版会 (978-4-8180-20283)

P11200340 [NB3-005]

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	小路　浩子		

[到達目標]
保健師活動を展開するのに必要な知識と技術を理解する。
1.ライフステージや健康レベルをふまえ、それぞれの対象の特性や場に応じた知識と技術を理解する。
2.健康障害を持つ人々および健康危機状態の人々の特性や対象の置かれている状況を理解し、それぞれの対象の特性や場に応じた知識と技術を理解する。

[授業概要]
保健師活動を展開するための具体的方法論について学ぶ。母子保健・成人保健・介護予防・地域精神保健・難病保健・感染症予防・国際保健などで展開される保健師活動について、一次・二次・三次予防の視点およびヘルスプロモーションの考え方に基づいた公衆衛生看護活動について学ぶ。生活習慣病発症・重症化予防、虐待問題、健康危機管理、高齢者問題など複雑多様化している健康課題に対し、地域で活動する看護職に期待されている内容について理解・実践できるように、事例を用いた学習を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。

[授業計画]
1.(1/7月1限)保健師活動を展開するための知識と技術とは
2.(1/7月2限)災害時保健活動を展開するための知識と技術
3.(1/12土1限)母子保健活動を展開するための知識と技術①
4.(1/12土2限)母子保健活動を展開するための知識と技術②
5.(1/17木4限)産業保健活動を展開するための知識と技術
6.(1/18金3限)成人保健活動を展開するための知識と技術①
7.(1/18金4限)成人保健活動を展開するための知識と技術②
8.(1/26土3限)高齢者保健活動を展開するための知識と技術①
9.(1/26土4限)高齢者保健活動を展開するための知識と技術②
10.(1/31木3限)感染症保健活動を展開するための知識と技術①
11.(1/31木4限)感染症保健活動を展開するための知識と技術②
12.(2/1金3限) 難病保健活動を展開するための知識と技術
13.(2/1金4限) 地域精神保健福祉活動を展開するための知識と技術
14.(2/5火1限) 国際保健における保健師活動を展開するための知識と技術
15.(2/5火2限)まとめ
16.(2/7木1限)試験
使用教室　F210

[成績評価方法]
試験70%、小テスト・レポート課題30%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
公衆衛生看護活動論　技術演習第2版　著者名：岩本里織他　出版社：クオリティケア　(978-4-904363-20-1)
標準保健師講座　対象別公衆衛生看護活動　第4版　著者名：松田正己　出版社：医学書院　(978-4-260-03187-5)
「国民衛生の動向2018/2019」＊最新版　出版社：厚生労働統計協会

[参考書（ISBN）]
随時紹介する。

P11200380 [NB3-007]

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子		

[到達目標]
1.地域組織活動の特徴を捉え、地域の中の様々な住民組織があることを理解する。
2.セルフヘルプグループの特徴と支援方法を理解する。
3.地域ケアシステムの構築と展開における看護職の役割を理解する。

[授業概要]
地域の健康課題を理解し、健康の保持・増進に向けて組織的に解決する活動方法を学ぶ。母子保健ネットワークやフォロー体制、障害者(児)対策や社会での支援システム、介護予防施策など、地域で展開されている集団や組織における看護職の役割・機能、地域看護活動の実践を学び、地域看護過程の展開方法について理解する。さらに、地域ヘルスケアシステムの構築、地区組織活動の具体的方法と地域ネットワークづくり、支援体制づくり、地域で展開されている保健活動と実践技術を理解する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。

[授業計画]
1.地域におけるグループ支援・組織化と地域ケアシステム、地域組織活動の歴史と社会背景、特徴 (1月9日(水)／5限)
2.地域組織活動にかかわる概念、地域組織活動で活用できる理論・方法論 (1月11日(金)／2限)
3.グループ・組織の特性、グループの成長過程・組織化とその支援 (1月12日(土)／3限)
4.当事者組織とその支援、住民の自立支援と地域組織活動の実際 (1月12日(土)／4限)
5.地域ケアシステムの構築:地域ケアシステムの概念、地域ケアシステム構築に必要な基本概念、構造的転換 (1月18日(金)／2限)
6.地域ケアシステム構築の実際と看護職の役割 (1月30日(水)／5限)
7.ネットワーク化と調整活動:ソーシャルネットワークとは、地域ケアの調整活動、社会資源の活用 (2月1日(金)／1限)
8.地域保健医療福祉ネットワーク形成と看護職の役割 (2月1日(金)／2限)
9.試験　(2月6日(水)／4限) F304

[成績評価方法]
試験70%、小テスト・レポート課題30%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
標準保健師講座②　公衆衛生看護技術　第3版　著者名:中村裕美子他　出版社:医学書院 (978-4-260-02193-7)

[参考書(ISBN)]
公衆衛生看護活動論技術演習第2版　著者名:岩本里織他　出版社:クオリティケア (978-490-4363416)

P11200390 [NB3-008]

科目名	公衆衛生看護活動論実習	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子、小路　浩子、馬場　敦子、小林　愛、髙橋　秋絵、溝畑　智子		

[到達目標]
1. 地域で生活している人々の実態に触れ、様々な健康レベル・ライフステージにある人々の健康課題を把握し、地域全体の課題としてとらえることができる。
2. 地域で展開される保健師活動の実際をとおして、個人・家族、集団、地域全体を対象とする支援方法、支援技術を学び、保健師の機能や役割を理解することができる。
3. 地域における社会資源とその活用について理解し、保健師による社会資源の開発について理解することができる。
4. 地域の健康課題の解決に向けた保健師と他（多）職種・他（多）機関との連携について理解できる。

[授業概要]
地域で生活しているさまざまな健康レベル・ライフステージにある対象（個人・家族・集団・地域）の特性に合わせて展開される地域保健活動の実際に触れ、地域で生活する人々の実態や健康課題を把握するとともに、地域の人々の健康の保持増進に向けた取り組みや保健指導等の技術の基本を学び、公衆衛生看護活動に必要な実践能力を養う。また、個人・家族・集団のセルフケア能力を高める保健指導技術、他機関・他職種との連携、ケアマネジメント等の公衆衛生看護活動における保健師の機能と役割を理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
実習に関連する授業内容を復習し理解して、事前学習を十分にして実習に臨むこと。実習目的を明らかにし、記録は提出期限を守ること。日頃から住民生活に関係するニュース等に関心を持つこと。

[授業計画]
1. 実習効果を上げるために、公衆衛生看護管理論実習と合わせて行う。
2. 保健所およびその管轄する市町村または区からひとつの市町村あるいは区を担当し、実習する。
3. 保健所が管轄する地域での組織や集団等、地域の多様な場で行う。
4. 担当する保健所および管轄する地域において展開されている様々な健康レベル、ライフステージの保健・福祉事業に参加し、実習する。
5. 保健所が管轄する地域で実施されている保健・福祉事業に関するオリエンテーションを受ける。
6. 健康教育、家庭訪問、健康診断、健康相談などの事業を見学すると共に、学生でグループ又はペアで保健指導を担当し、計画、実施、評価を行う。
7. 地域で展開されている地域組織活動の場や自主グループなど地域の多様な場での実習を行う。
8. 保健所で実習のまとめの発表会を行い、保健師からの助言を受け、学びを深める。
9. 実習終了時のカンファレンスで、保健師の役割や関連職種との連携、地域ケアシステム等について学びを共有し、自己の課題を探索、レポートにまとめる。

[成績評価方法]
受講態度（10%）、実習評価（70%）、レポート（20%）により総合評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
国民衛生の動向2017/2018　著者名：厚生労働統計協会　出版社：厚生労働統計協会　（491-0038540873-02315 ）
授業で使用した教科書
実習要項、プリントは別途配布する

[参考書（ISBN）]
適宜紹介する

P11200430 [NB4-004]

科目名	公衆衛生看護管理論	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子		

[到達目標]
1. 公衆衛生看護活動における地域看護診断の目的と展開方法を理解する。
2. 地域看護診断に必要な理論と知識を理解し、具体的な技術を習得する。

[授業概要]
行政における保健活動を展開するために必要な公衆衛生看護管理の概念や理論、公衆衛生看護活動の展開技術の具体的な方法について学ぶ。実際の地域を事例に用いて、既存データの分析や地区踏査により地域看護診断を行い、健康課題を抽出する技法を使用する。さらに地域看護過程およびPDCAサイクルを理解するために、地域看護診断によって把握、分析した情報から、課題解決のための地域看護活動計画を立案するプロセスを学び、また、PDCAサイクルを理解するために、評価・改善も考えられる模擬事例を用いた学習を行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。行政のしくみについて理解しておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。

[授業計画]
1. 地域全体を視野に入れた公衆衛生看護活動とは:PDCAサイクル(4/9・3限)
2. 地域看護診断の概念と理論、展開方法(4/9・4限)
3. 地域看護診断の展開技術①:既存資料の分析(4/12・2限)
4. 地域看護診断の展開技術②:既存資料の分析(4/16・3限)
5. 地域看護診断の展開技術③:地区踏査(4/16・4限)
6. 地域看護診断の展開技術④:地域看護診断(4/19・2限)
7. 地域看護診断の展開技術⑤:地域看護活動計画の作成(4/23・3限)
8. 地域看護診断の展開技術⑥:発表とディスカッション、まとめ(4/23・4限)

[成績評価方法]
小テスト・出席状況・学習態度(50%)　課題レポート・ワークシート(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
地域看護アセスメントガイド　著者名:佐伯和子　出版社:医歯薬出版　(978-4-263-23495-2)
標準保健師講座①　公衆衛生看護学概論　第4版　著者名:標美奈子他　出版社:医学書院　(978-4-260-01183-9)
国民衛生の動向2017/2018
著者名:厚生労働統計協会　出版社:厚生労働統計協会　(978-4875117322)

[参考書(ISBN)]
地域看護診断 第2版　著者名:金川克子他　出版社:東京大学出版会　(978-4130624084)

P11200400 [NB4-002]

科目名	公衆衛生看護管理論実習	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子、小路　浩子、小林　愛、髙橋　秋絵、溝畑　智子		

[到達目標]
1. 保健師活動の基本となるPDCAサイクルの実際について理解し、説明できる。
2. 既存の地域ケアシステムにおける保健師の機能や役割を理解し、地域ケアシステムの構築や施策化に向けた公衆衛生看護活動について理解し、説明できる。
3. 実習地の地域診断を行い、地域保健計画をたてることができる。
4. 地域の健康危機管理について理解し、説明できる。

[授業概要]
保健所や市町村保健センター等の行政機関での実習をとおして、保健所等の保健行政機関の役割と機能、行政機関における看護職の役割について学ぶ。また、地域の健康課題把握のための地域診断、課題改善に向けた計画立案や事業開発、保健医療福祉の連携・協力体制の構築などの公衆衛生看護管理技術を学ぶとともに、公衆衛生看護管理に不可欠なPDCAサイクルの展開方法や地域ケアシステムづくり、危機管理体制について理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
実習に関連する授業内容を復習し理解して、事前学習を十分にして実習に臨むこと。実習目的を明らかにし、記録は提出期限を守ること。日頃から住民生活に関係するニュース等に関心を持つこと。

[授業計画]
1.実習効果をあげるために、公衆衛生看護活動論実習とあわせて行う。
2.保健所等の行政機関において実習を行う。
3.保健所とその管轄する市町村または区からひとつの市町村あるいは区を担当し、実習を行う。
4.保健所において、保健所の機能と役割、地域特性と健康課題、保健師活動の概要等のオリエンテーションを受ける。
5.担当する市町村あるいは区の資料やデータに基づいて事前学習し、レポートにまとめ、地域特性と健康課題、保健師活動の概要等のオリエンテーションを受ける。
6.PDCAサイクルに基づいて実習する。
1）保健所の管轄するひとつの市町村あるいは区を担当し、地域診断を行う。
2）担当した市町村あるいは区の地域診断結果から、健康課題を抽出し、保健計画をたてて、実施可能なものは実施、評価する。
3）担当した保健所及び市町村の地域ケアシステムや保健医療計画等について自己学習した上で、保健師からの助言を受け、学びを深める。
7.実習地でおこなわれている様々な健康危機対策について、.保健師および関係者からオリエンテーションを受ける。

[成績評価方法]
受講態度（10%）、実習評価（70%）、レポート（20%）により総合評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
国民衛生の動向2017/2018
　著者名：厚生労働統計協会　出版社：厚生労働統計協会　（491-0038540873-02315）
授業で使用した教科書
実習要項、プリントは別途配布する

[参考書（ISBN）]
適宜紹介する

P11200440 [NB4-005]

科目名	国際保健	前期	1 単位
サブタイトル	グローバル化時代の健康問題と向き合うために		
担当者	倉田　誠		

[到達目標]
1、国際社会における健康問題と保健医療の状況について理解できる。
2、保健に関する国際的な枠組みや関連する国際機関や組織の役割について概説できる。
3、具体的な資料や統計にもとづいて世界や各社会における健康問題を検討できる。
4、日本および諸外国において多様な文化的背景をもつ人びとの生活を理解し、それらに即した支援や関与のあり方を考えることができる。
5、日本および諸外国におけるニーズを把握し、国際社会における保健活動の役割や貢献について考えることができる。

[授業概要]
国際保健は、国境を跨いで対処してゆく方法を考える学問である。そこでは、関係諸機関の活動、開発援助や医療協力の理論と現実、様々な健康問題の背景と対策などについての知識が必要とされる。また、それらの知識を組み合わせ、足りない部分を調べながら、自ら考えてゆく能力も要求される。本講義では、国際保健に関する基礎的な知識を身につけるとともに、それらをもとにして具体的な問題を考えてゆく力をつけることを目標としている。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
授業では、いくつかの具体的な課題を提示し、それに関する参考文献やデータを提示する。また、自ら関心のある国や地域の健康状況や社会状況を予め調べておくと、授業で役立つと思います。

[授業計画]
第1回　オリエンテーション　7/14（土）1限
　　地球規模での健康問題、国際保健の考え方、隣接分野との関係性
第2回　国際保健の歴史と方法　7/14（土）2限
　　国際連合、WHO、NGO、開発、プライマリー・ヘルスケア、人間の安全保障
第3回　課題1「報告書や保健統計から見えるもの」 7/14（土）3限
　　質的／量的データ、人口動態、貧困、疾病負担
第4回　課題1「報告書や保健統計から見えるもの」 7/14（土）4限
　　感染症対策、生活習慣病対策、母子保健
第5回　課題2「ケーススタディ(1):在日外国人と母国社会」 7/21（土）1限
　　ホスト社会としての日本、社会適応、マイノリティの健康問題
第6回　課題2「ケーススタディ(1):在日外国人と母国社会」 7/21（土）2限
　　文化的背景、母国社会の健康問題、グローバル化
第7回　課題3「ケーススタディ(2):サモア社会の糖尿病」 7/21（土）3限
　　ライフスタイル、食生活、健康観念、社会変化
第8回　課題3「ケーススタディ(2):サモア社会の糖尿病」 7/21（土）4限
　　PCM手法、利害調整、保健資源、適正技術、国際協力

[成績評価方法]
授業への参加や課題への取り組みを重視します。
・講義やグループワークへの参加　30%
・授業中の課題評価・ピア評価　30%
・レポート　40%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
国際保健医療学　著者名：日本国際保健医療学会　出版社：杏林書院　（978-4764405318）

[参考書（ISBN）]
図表でみる世界の保健医療 OECDインディケータ(2015年版)　著者名：OECD（鐘ヶ江葉子訳）　出版社：明石書店　（978-4750345406）

P11200180 [NI4-002]

科目名	こころの健康増進と看護	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子		

[到達目標]
1.現代社会におけるストレスと精神的諸問題について理解できる。
2.身体疾患をもつ患者のこころの健康問題とこころのケアについて理解できる。
3.周産期の女性のメンタルヘルスとこころのケアについて理解できる。
4.看護職のストレスとストレスマネジメントについて理解できる。

[授業概要]
人間は日々生活する中でさまざまなストレスを体験し、人生を生きる中でさまざまな危機に遭遇する。この授業では、自分自身の体験や実習での体験をもとに、さまざまな場や状況で人間が体験するストレスや危機、起こりうる精神的諸問題を理解し、その中でどのようにこころの健康を維持・増進するかを理解する。さらにそこでの看護職の役割を考察する。
主なテーマは、現代社会におけるストレスとこころの健康、身体疾患により療養生活を送る患者のこころの健康と看護、周産期の女性のこころの健康と看護、看護職のこころの健康とストレスマネジメントである。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
授業内容の復習と、次回の予習をすること。事前に指定された課題について、自分自身の体験や実習での体験をもとに取り組んだうえで、授業に臨むこと。

[授業計画]
1.現代社会のさまざまな場(家庭、学校、職場など)におけるストレスと精神健康問題を概観する(12/18(火)1限)
2.ストレスに関する理論を学び、看護学生や看護職が体験するストレスを概観する(12/18(火)2限)
3.周産期にみられる精神健康問題やそれに対する治療的アプローチについて概観する(1/8(火)1限)
4.産後うつ病のスクリーニングと産後うつ状態にある女性への看護援助について学ぶ(1/8(火)2限)
5.視聴覚教材を通して身体疾患をもつ患者の体験を理解し、危機理論に基づいてこころの危機を理解する(1/15(火)1限)
6.身体疾患をもつ患者が体験する不安、うつ、せん妄など理解し、必要とされる精神看護援助を学ぶ(1/15(火)2限)
7.理論に基づいたストレスマネジメントの実際を体験的に学ぶ(1/22(火)1限)
8.現代社会でトピックとなっている精神健康問題を取り上げ、その背景要因を理解し、看護の役割と課題を検討する(1/22(火)2限)
9.試験(1/29(火)1限)

[成績評価方法]
試験(50%)、レポート(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
精神看護学Ⅰ第6版　著者名:吉松和哉他編　出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-064-0)

[参考書(ISBN)]
なし

P11200580 [NB3-012]

科目名	コミュニケーション論（表現学）	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	笹原　寿峰、北川　勝利		

[到達目標]
　対人コミュニケーションついて理論的な枠組みを理解し、伝達表現能力を養い、社会に出てから必要なコミュニケーション能力を身につける。

[授業概要]
　人と人が社会の中でどうやって言葉を使っているかについて、様々なテーマを取り上げ、重要な点を整理・考察する。授業の中では、敬語や丁寧表現といった円滑なコミュニケーションを図る手段や、多様化するコミュニケーシの現状を解説したうえで、問題点などを考察する。更に面談等のコミュニケーション実習を体験することで、医療現場で役立つ、コミュニケーション表現能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　日常から会話に興味を持ち、どうすれば自己の考え方が人に伝わるかのを考察し、家族や友人と話しをする際も様々な工夫を試す。テレビ番組を観たり音楽を聴いたりした際に独自に感想を考えておく。

[授業計画]
1.　導入：コミュニケーションについて 〈北川〉
2.　コミュニケーション表現の基礎について 〈笹原〉
3.　円滑なコミュニケーション1（自己紹介とは ）〈北川〉
4.　円滑なコミュニケーション2（他者紹介とは ）〈北川〉
5.　CMなどにおけるコミュニケーション表現について〈北川〉
6.　現役アナウンサーによる話し方のテクニック 実習1(テレビ局にて学外実習)〈笹原〉
7.　現役アナウンサーによる話し方のテクニック 実習2(テレビ局にて学外実習)〈笹原〉
8.　社会におけるミュニケーション表現について〈北川〉
9.　コミュニケーション表現力を高める〈北川〉
10.　コミュニケーション・マネージメントについて〈北川〉
11.　日本語の特性と非言語(ノンバーバル)の重要性〈北川〉
12.　業務コミュニケーション〈北川〉
13.　実社会(医療現場)でコミュニケーション表現を活かすテクニック 〈北川〉
14.　自己伝達演習〈笹原〉
15.　まとめ〈笹原〉

[成績評価方法]
授業中課題

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11200060 [NH1-003]

科目名	コミュニティ看護実習 I	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	東 ますみ、魚里 明子、藤田 冬子、笹谷 真由美、小路 浩子、馬場 敦子、福山 敦子、小林 愛、服部 めぐみ、溝畑 智子、三苫 美和		

[到達目標]
1. 高齢者の活動の特性と活動の場を学ぶ。
2. 施設での高齢者の生活や施設に通う高齢者の状況について理解を深める。
3. 施設で提供されているリハビリテーション支援や障害予防支援のための看護ケアを理解する。

[授業概要]
何らかの健康障害により、自宅での生活が困難となった高齢者の施設での生活について理解を深める。また、高齢者の活動の特性と活動の場を学び、ケアに見学・参加することを通して、生活施設におけるリハビリテーション支援や疾病・障害予防のための看護ケアを理解する。さらに、施設の役割と機能、施設内の他職種間の連携、医療機関との連携体制、介護予防活動などについても学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
・介護老人保健施設実習にふさわしい身だしなみ、マナーを身につけ、健康状態を整えたうえで実習に臨む。
・介護老人保健施設実習の学びを深めるために、実習前に学内で行われるガイダンスや事前演習に必ず参加し、事前課題に取り組む。

[授業計画]
1. 施設実習に臨む前に、「実習ガイダンス資料」「コミュニティ看護実習 I 実習要項」を熟読する。
2. 実習前に学内で行われるガイダンスや事前演習に必ず出席する。事前演習では、事前課題を課す。
3. 実習初日は、実習施設ごとのオリエンテーションを受け、高齢者体験を実施する。
4. 介護老人保健施設において実習を行い、高齢者の生活について理解を深め、必要な看護を考える。
   ・施設オリエンテーション
   ・入所部門や通所サービス部門の見学
   ・高齢者への看護、リハビリテーション・レクリエーション場面の見学
   ・高齢者とコミュニケーションをとる
5. 施設実習中は毎日デイリーカンファレンスを行い、実習で感じたこと、気づいたこと、疑問などをディスカッションし、メンバーと共に学びを深める。
6. 施設実習最終日には、合同カンファレンスを行い、3日間の実習から得た学びを報告する。
7. 実習最終日は、学内でカンファレンスを行い、高齢者の生活を支える看護と自らの課題について考えを深める。

[成績評価方法]
実習の目標に関する到達度(80%)、レポート・記録物の提出(20%)を総合的に評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
別途実習要項とプリント配布。

[参考書(ISBN)]
「ナーシンググラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害」第5版 著者名:堀内ふき、大渕律子、諏訪さゆり 出版社:メディカ出版 (978-4-8404-5379-0)

P11200320 [NB1-007]

科目名	コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子、笹谷　真由美、服部　めぐみ		

[到達目標]
1.老年期にある患者の加齢に伴う変化、疾病について理解し、高齢者の全体像を理解することができる。
2. 老年期にある患者の療養の場、治療・ケアが与える影響について理解し、その場で実践される老年看護についての考え方を学ぶことができる。
3. 高齢者と家族、高齢者をとりまく多職種の関わり、医療・介護制度について学びを深めることができる。
4. 主体的にに学び、受け持ち患者に関わる責任を自覚し、真摯に取り組むことができる。

[授業概要]
施設（病院等）において治療を受ける老年期の患者を受け持ち、発達段階、加齢による身体機能への影響、健康障害、生活障害および心理・社会的側面で受けている影響を理解する。また、高齢者がケアを受ける中でもつ健康上の課題をアセスメントする能力を養う。また老いに直面する高齢者の意思を尊重し、高齢者の全体像を理解する。これらをふまえた情報およびアセスメントをもとに必要な看護の方向性を明らかにする。さらに、1年次の「コミュニティ看護実習Ⅰ」で学んだことを基に、地域、介護施設に住む高齢者と比較、福祉施設で実施している看護・介護ケアと医療施設での看護ケアの相違点、保険制度の違いによる医療、福祉に関わる体制、サービス等の違いについて、基本的な内容を理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
既習の関連科目の復習しておくこと。特に、老人看護論、治療看護論、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、疾病と治療Ⅰ、コミュニティケアシステム論、コミュニティヘルスケア技術演習Ⅰ・Ⅱなどの科目について必ず復習をしておくこと。高齢者の主な疾患と看護に関する事前課題に取り組むこと。

[授業計画]
施設（病院等）にて、以下のとおり2週間の実習を行う。
1.実習オリエンテーションに出席し、事前課題にて高齢者の特徴、高齢者ケアの理解を深める。
2.原則として、1～2名の高齢患者を受け持ち、個別性を尊重した情報収集･アセスメント等をおこない、実習記録を活用しながら、高齢者の状況をアセスメントし、全体像を捉える。
3.受け持ち患者と援助的関係を築く
4.日常的な生活援助を見学・実施するにあたり患者に説明し同意を得て、指導のもとで実施する
5.実習に必要な事前課題および実習内容は一定の様式の実習記録に記載する
6.日々のカンファレンスにおいて、情報や学びを共有し、学習上の問題解決を図る
7.中間カンファレンスと最終カンファレンスにおいて、実習で得た具体的な学びと健康障害を持つ高齢者および高齢者へのケアの特徴について考察する

[成績評価方法]
1.事前課題・レポート（30%）
2.実習内容（高齢者の理解、アセスメント、記録、コミュニケーション、積極性、体調管理、連絡、報告、課題提出期限の厳守など）（70%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護<第2版>　著者名：正木治恵　出版社：照林社　(978-4-7965-2409-4)
生活機能からみた　老年看護過程+病態・生活機能関連図 第3版　著者名：山田律子 他　出版社：医学書院　(978-4-260-02836-3)

[参考書（ISBN）]
緊急度・重症度からみた　症状別看護過程＋病態関連図　著者名：山田律子　他　出版社：医学書院　(978-4-260-02071-8)
看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　著者名：秋葉公子、江崎フサ子、玉木ミヨ子、村中陽子　出版社：ヌーヴェルヒロカワ　(978-4-86174-056-5)

P11200330 [NB2-007]

科目名	コミュニティケアシステム論	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子、丸山　有希、福山　敦子、藤原　由子、牛越　幸子		

[到達目標]
1.コミュニティケアとは何かを理解できる
2.個人・家族と地域という重層的な関係と支援方法について理解できる
3.対象に応じたコミュニティケアの構築と展開について理解できる

[授業概要]
コミュニティで暮らす人々が抱える健康問題や、それらを地域住民が社会全体で支え合い問題解決していけるための方法、保健・医療・福祉に関する基本的概念、看護が担うべき役割や機能について学ぶ。また、住民主体・住民参加について理解するとともに、協働活動を推進する支援方法を理解する。さらに、そのための社会システムやその活用、環境調整及び連携について、それぞれの領域からの視点で事例も交えながら学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
授業で学んだ内容が、学生が住むあるいは住んでいたコミュニティではどのようになっているのかについて関心をもつこと。前回の授業内容を復習し理解しておくこと。

[授業計画]
1.人々の生活と健康及び健康問題を支えるために、コミュニティで暮らす人々を総合的に理解できる考え方、保健・医療・福祉に関する基本的概念を学ぶ(4/10　藤田冬子)
2.健康障害を持つ人々あるいは健康障害を予防するために、コミュニティで暮らす人々を社会全体で支援するために保健・医療・福祉の計画の企画及び評価、関係する職種の役割について学ぶとともに、必要な看護の役割やケアの考え方を学ぶ(4/17　藤田冬子)
3.地域によるコミュニティケアシステムの具体例を用いて、健康障害に応じた社会資源の活用を学ぶとともに看護職の役割や活動を学ぶ(4/24　藤田冬子)
4.慢性疾患を持つ人々及びその家族に対して、地域を基盤として展開するケアマネジメント及びコミュニティケアシステムを学ぶ(5/1　藤原由子)
5.小児及びその家族に対して、地域を基盤として展開するケアマネジメント及びコミュニティケアシステムを学ぶ(5/8　丸山有希)
6.高齢者及びその家族に対して、地域を基盤として展開するケアマネジメント及びコミュニティケアシステムを学ぶ(5/15外部講師)
7.精神障がい者及びその家族に対して、地域を基盤として展開するケアマネジメント及びコミュニティケアシステムを学ぶ(5/22　福山敦子)
8.妊産婦及びその家族に対して、地域を基盤として展開するケアマネジメント及びコミュニティケアシステムを学ぶ(5/29　牛越幸子)
9.試験(6/5)

[成績評価方法]
試験(60%)、授業後のミニレポート・参加状況(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「ナーシング・グラフィカ　健康支援と社会保障(1):健康と社会・生活　第4版」 著者名:長崎県立大学 副学長・看護栄養学部教授 平野 かよ子

明星大学 人文学部人間社会学科教授 渡戸 一郎
　出版社:メディカ出版 (104-8404-4912-0)
「ナーシング・グラフィカ　在宅看護論:地域療養を支えるケア　第5版」 著者名:長崎県立大学 副学長・看護栄養学部教授 平野 かよ子

明星大学 人文学部人間社会学科教授 渡戸 一郎
　出版社:メディカ出版 (10: 4-8404-4921-X)

[参考書(ISBN)]
適宜指示する

P11200350 [NB2-008]

科目名	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子、魚里　明子、笹谷　真由美、馬場　敦子、福山　敦子		

[到達目標]
1. 対象者とコミュニケーションをとりながら、看護技術を実施する。
2. 看護の知識と技術を使用しながら、患者・看護師体験を行うことができる。
3. 基本的な看護技術の提供に必要な環境、道具、人について学ぶことができる。

[授業概要]
医療施設、在宅の場で病にある人を援助するにあたり、生活援助に必要な基本的知識を使い、援助を実践していく過程を学習する。看護者側だけでなく、療養者の立場で援助を受ける体験をし、援助を受ける意味を考え、振り返り評価することを行う。基本的看護技術のうち、病床環境を整えること、基本的活動・排泄援助、対象とのコミュニケーション、バイタルサインの測定に関する知識、技術を身につける。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
演習時は、「身だしなみチェックリスト」の基準に沿ったヘアスタイル、服装等で授業に参加する。時間内で有効に演習ができるよう、必要な知識や手順は理解した上で授業に臨む。授業時間以外に技術練習、技術チェックの時間を設ける。少なくとも、5/18・7/6・7/13の各Ⅰ・Ⅱ限には参加すること。

[授業計画]
使用教室:F417・419
1. 日常生活援助を行ううえでの看護の機能と役割:看護技術を適切に実践するための要素、看護技術の習得方法。
看護師の日常的手洗いの方法。病室環境の理解と環境整備の方法。(藤田冬子、魚里明子、馬場敦子)(4/13(金)Ⅰ限)
2. ベッドメーキング・リネン交換①:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自患者・看護師役となり、技術を実施する。(馬場敦子)(4/20(金)Ⅰ限)
3. ベッドメーキング・リネン交換②:各自患者・看護師役となり、技術を実施しながら、教員のフィードバックを受ける。(馬場敦子)(4/20(金)Ⅱ限)
4. 体位変換①:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自患者・看護師役となり、技術を実施する。(馬場敦子)(4/27(金)Ⅰ限)
5. 体位変換②:各自患者・看護師役となり、技術を実施しながら、教員のフィードバックを受ける。(馬場敦子)(4/27(金)Ⅱ限)
6. ベッドメーキング・リネン交換、体位変換に関するまとめとグループディスカッション:基本的な知識・技術のポイントを理解する。演習体験を踏まえ、看護援助を行う際に必要となる自らの態度・姿勢について学びを深める。(馬場敦子)(5/11(金)Ⅰ限)
7. 看護技術の根拠:ボディメカニクス、生活姿勢と人体の抗重力メカニズムを中心に、看護技術の習得方法についての学びを深める。(藤田冬子、笹谷真由美)(5/11(金)Ⅱ限)
8. 患者の移動・移送を援助する①:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自患者・看護師役となり、技術を実施する。(藤田冬子、笹谷真由美)(5/25(金)Ⅰ限)
9. 患者の移動・移送を援助する②:各自患者・看護師役となり、技術を実施しながら、教員のフィードバックを受ける。(藤田冬子、笹谷真由美)(5/25(金)Ⅱ限)
10. 排泄における援助①:手袋・マスクのつけ方・外し方。事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自患者・看護師役となり、技術を実施する。(福山敦子)(6/1(金)Ⅰ限)
11. 排泄における援助②:(各自患者・看護師役となり、技術を実施しながら、教員のフィードバックを受ける。福山敦子)(6/1(金)Ⅱ限)
12. バイタルサインの測定:生命活動と日常生活動作、体温測定、脈の取り方、血圧測定の方法1(馬場敦子)(6/8(金)Ⅰ限)
13. バイタルサインの測定:生命活動と日常生活動作、体温測定、脈の取り方、血圧測定の方法2(馬場敦子)(6/8(金)Ⅱ限)
14. 口腔ケア:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自患者・看護師役となり、技術を実施し、教員のフィードバックを受ける。(馬場敦子)(6/15(金)Ⅰ限)
15. 排泄援助、口腔ケアに関するまとめグループディスカッション(プライバシーの保護についての学びを深める)。
対象の身体を観察すること:対象とのコミュニケーション、ヘルスアセスメント、インタビュー(健康歴の聴取)(魚里明子、福山敦子、馬場敦子)(6/15(金)Ⅱ限)
16. 試験　(6/22(金)Ⅰ限)

[成績評価方法]
授業への取組み(20%)、課題レポート(20%)、試験(60%)
＊指定の技術チェックへの合格を単位認定の必須条件とする。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「≪系統看護学講座 専門分野Ⅰ≫基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(第16版) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-01999-6)
「≪系統看護学講座 専門分野Ⅰ≫基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(第17版) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-02760-1)
「看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術」 著者名:医療情報科学研究所 (編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32511-9)
「看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術」 著者名:医療情報科学研究所 (編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32459-4)
「フィジカルアセスメントがみえる」 著者名:医療情報科学研究所 (編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32566-9)

[参考書(ISBN)]
「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 著者名:編集:任和子　秋山智弥、編集協力:京都大学医学部附属病院看護部 出版社:医学書院 (978-4-260-01928-6)
「新版　生活健康科学」 著者名:小田切陽一・飯島純夫・小山勝弘・石原逸子共著 出版社:三共出版 (978-4-7827-0618-3)
適宜指示、および適宜プリントを配布する

P11200300 [NB1-006]

科目名	コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子、魚里　明子、笹谷　真由美、馬場　敦子、福山　敦子		

[到達目標]
1. 療養者の生活上に必要な健康上の課題に関する知識と技術を習得する。
2. 事例設定において必要な知識・援助を考えながら援助のプロセスを考えることができる。
3. 対象者の生活行動への援助を対象者の状態と場面に合わせて実践できる。

[授業概要]
何らかの要因により、健康レベルの低下によってもたらされる療養者の生活上の健康課題に対し、対象者の状況に応じた援助を行うことができるように、必要な知識と援助方法を学習する。人の身体観察方法を身につけ、フィジカルアセスメントを病室の環境を設定したスペースだけでなく、在宅や施設などでの生活の場を設定したスペースで実践し、それぞれの対象者の生活場面への援助技術に応用していく。成人期・老年期にある患者の援助に必要な知識と方法をもとに、具体的にその人に見合った援助方法を検討し、実践する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
教科書や動画などをもとに必要な知識や手順は理解した上で、技術の実施イメージがもてる状態となるまで事前学習を行う。授業後は演習における患者・看護師体験をもとに、対象者に及ぼす影響を振り返るとともに、疑問点を解決できるよう自己学習を行うこと。

[授業計画]
1. 対象者に合わせた生活場面の援助を行うことの機能と枠組み:健康レベルの低下によってもたらされる療養者のADLとQOLの理解および、生活援助の対象となる患者とその家族への説明(藤田冬子、魚里明子、福山敦子) (9/21(金) 3限)
2. 清潔・排泄におけるグループワーク①:健康レベルや環境に合わせた清潔の意義、「清潔にする」ことの社会的・文化的な意味、「清潔にする」ことに関する習慣(福山敦子) (9/21(金) 4限)
3. 排尿・排便困難時の援助②:対象者に合わせたオムツ交換、紙オムツの選択(馬場敦子) (9/24(月) 3限)
4. 排尿・排便困難時の援助①:排泄を援助するために使用する道具、便器・尿器を使った排泄援助、浣腸、摘便(馬場敦子) (9/24(月) 4限)
5. 清潔・排泄におけるグループワーク②:健康レベルや環境に合わせた清潔援助に求められる視点をつかむ、対象者の活力回復に向けた「清潔にする」看護援助とは(馬場敦子) (9/24 (月) 5限)
6. 清潔援助①:生活環境における全身清拭、部分清拭、足浴、陰部洗浄(福山敦子) (9/28(金) 3限)
7. 清潔援助②:生活環境における入浴、シャワー浴、洗髪(福山敦子) (9/28(金) 4限)
8. 食べることへの意味と看護支援:食べることの意義と看護の視点、食べる機能と嚥下反射、食欲の仕組み(藤田冬子、笹谷真由美) (10/1(月) 3限)
9. 食生活支援・食事介助①:食べる姿勢と食べやすさ、ベッド傾斜角度と食べやすさ(笹谷真由美) (10/1 (月) 4限)
10. 食生活支援・食事介助②:食べるにかかわる援助の基本(笹谷真由美) (10/1 (月) 5限)
11. 経管栄養・流動食①:摂食・嚥下機能とその破綻、摂食・嚥下のしくみと機能障害、摂食・嚥下過程の進行(福山敦子) (10/5(金) 3限)
12. 経管栄養・流動食②:PEGの管理、経管栄養法の技術(福山敦子) (10/5(金) 4限)
13. . 吸引・気管切開にある人の援助①:気道クリアランス技術について;排痰ケア、吸引、吸入(気道内加湿法)(福山敦子) (10/8(月) 3限)
14. 吸引・気管切開にある人の援助②:気管切開部の保護と手当て(福山敦子) (10/8(月) 4限
15. 食べることへの支援におけるグループワーク①:食と臭いに関する分析、食にかかわる文化的行事(藤田冬子、笹谷真由美) (10/12(金) 3限)
16. 食べることの支援におけるグループワーク②:食べることへの支援とは、患者役, 看護師役の体験からの気づき(藤田冬子、福山敦子) (10/12(金) 4限)
17. 皮膚を保護し、統合性を維持するための看護:感覚受容器を備えた皮膚、老化による皮膚機能の変化、栄養状態と皮膚(笹谷真由美) (10/15(月) 3限)
18. 褥瘡への対処と予防①:褥瘡のできやすい部分とその保護(笹谷真由美) (10/15(月) 4限)
19. 褥瘡への対処と予防②:体圧測定とエアーマットの使用(笹谷真由美) (10/15(月) 5限)
20. 医療安全・転倒①:安全確保の技術、転倒・転落予防(笹谷真由美) (10/19(金) 3限)
21. 医療安全・転倒②:侵襲的処置の介助、ドレーン・チューブの自己抜去(笹谷真由美) (10/19(金) 4限)
22. 身体の可動性を維持し硬縮を予防するための看護:筋緊張の評価、異常筋緊張に対する看護援助(笹谷真由美) (10/22(月) 3限)
23. 関節可動域訓練・廃用性症候群予防①:人間が「寝たきり」になるとどうなるのか、関節のメカニクス、関節可動域評価(笹谷真由美) (10/22(月) 4限)
24. 関節可動域訓練・廃用性症候群予防②:関節拘縮を予防する訓練、リハビリテーションへの看護(笹谷真由美) (10/22(月) 5限)
25. 麻痺などの障害のある人の体位変換・点滴ラインのある人の寝衣交換①:運動麻痺の種類と症状、身体の観察(笹谷真由美) (10/26(金) 3限)
26. 麻痺などの障害のある人の体位変換・点滴ラインのある人の寝衣交換②:運動麻痺のある人の生活援助、寝衣交換における実践(笹谷真由美) (10/26(金) 4限)
27. 移動・活動におけるリスクカンファレンス　グループワーク①:日常生活およびベッド上で安全を確保する技術について(魚里明子、馬場敦子) (10/29(月)3限)
28. 移動・活動におけるリスクカンファレンス　グループワーク②:身体拘束をしないための工夫に関して(魚里明子、馬場敦子) (10/29(月)4限)
29. 事例に基づいた知識・技術を統合した援助の実践①:老年期にある人のケーススタディ(魚里明子、福山敦子) (11/2(金) 3限)
30. 事例に基づいた知識・技術を統合した援助の実践②:在宅で疾患をかかえながら生活している人のケーススタディ(魚里明子、福山敦子) (11/2(金) 4限)
31. 試験(11/5(月)3限)
※演習はF417・419　演習室、グループワークはF304室で行う

[成績評価方法]
授業への取組み(30%)、課題レポート(20%)、試験(50%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「≪系統看護学講座 専門分野Ⅰ≫基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(第16版) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-01999-6)
「≪系統看護学講座 専門分野Ⅰ≫基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(第17版) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-02760-1)
「看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32511-9)
「看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32459-4)
「生活機能からみた 老年看護過程」 著者名:山田律子(編集) 出版社:医学書院 (978-4-260-02836-3)

[参考書(ISBN)]
「フィジカルアセスメントがみえる」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-89632-556-9)
パーフェクト臨床実習ガイドーライフステージに沿った看護技術と看護の展開ー老年看護実習ガイド 著者名:正木治恵(編集) 出版社:照林社 (978-4-7965-2409-4)
根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 著者名:編集:任和子 秋山智弥、編集協力:京都大学医学部附属病院看護部 出版社:医学書院 (978-4-260-01928-6)

P11200310 [NB2-006]

科目名	災害看護	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	東 ますみ、魚里 明子、玉木 敦子、横内 光子、内 正子、田村 康子、元木 絵美		

[到達目標]
災害時要援護者の看護の特徴や災害サイクルに応じた看護を学ぶとともに、災害への備えや災害と情報について学ぶことで、人々の生命と生活を守る災害看護の基礎的知識と技術を理解する。また、健康危機管理における保健所の役割を理解する。

[授業概要]
健康危機発生の未然防止、健康危機発生時に備えた準備、健康危機への対応、健康危機による被害の回復の4つ側面を踏まえた上で、災害の定義と分類、災害時の社会制度を理解し、災害時要援護者である高齢者、障害者、妊産褥婦、子どもや慢性疾患患者等に対する看護の特徴と、災害サイクルに応じた活動現場別の看護について学ぶ。また、災害被災者や救護者のこころと身体の健康に及ぼす影響を理解し、その支援方法について学ぶ。さらに、災害と情報について理解し、情報の利点を減災に活かす重要性について学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
日頃から、災害や災害医療に関連する報道に関心を持ち、被災者や被災地の医療者、ボランティア活動を行った医療者の声から災害時における医療や看護に求められているものを模索しておいて欲しい。

[授業計画]
1.トリアージや挫滅症候群、救命処置などの災害直後の被災者への看護ケアを学び、災害フェーズごとの保健活動について理解する(横内光子)4/9(月)
2. 健康危機管理の定義や保健所の役割、健康危機管理の4つの側面について理解する(魚里明子)4/11(水)
3. 災害の定義や分類、災害に関わる各種社会制度を学ぶ。災害看護の歴史的変遷や看護職のネットワーク構築などについて理解する(東ますみ)4/11(水)
4. 避難所や仮設住宅における慢性疾患等の高齢者の心身の状態把握や、看護ケアについて理解する(元木絵美)4/16(月)
5. 成長発達の途上である子どもが被災したことへの理解深め、中・長期的な看護ケアの必要性について学ぶ(内正子)4/18(水)
6. 災害時の妊産褥婦や胎児・乳幼児にみられた反応を学び、妊産婦に対する看護・助産ケアについて理解する(田村康子)4/18(水)
7. 心的外傷とストレス反応について学び、被災者と救護者への精神的な看護ケアを理解する。精神障害者に対する援助の要点を学ぶ。(玉木敦子)4/23(月)
8. 防災計画や災害への備えの具体策を知り、災害の情報伝達体制や災害時の通信手段など災害と情報に関する最近の動向を学ぶ。まとめ。(東ますみ)4/25(水)
9. 試験 4/25(水)
教室 F301

[成績評価方法]
試験(70%)、授業態度(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「災害看護学習テキスト・概論編」 著者名:南裕子・山本あい子編集 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1271-4)
「災害看護学習テキスト・実践編」 著者名:南裕子・山本あい子編集 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1257-8)
適宜プリントを配布する。

[参考書(ISBN)]
「ナース発 東日本大震災レポート」 著者名:日本看護協会出版会編集部編 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1611-8)
「大槌町 保健師による全戸家庭訪問と被災地復興」 著者名:村嶋幸代・鈴木るり子・岡本玲子編集 出版社:明石書店 (978-4-7503-3556-8)
必要に応じて適宜紹介する。

P11200410 [NB4-003]

科目名	在宅看護論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	福山　敦子、魚里　明子		

[到達目標]
1.在宅看護における社会背景及び在宅看護の意義が理解できる。
2.在宅で療養する人々と介護する家族の生活について理解できる。
3.在宅ケアをとりまく在宅医療システムのネットワークと機能を理解する。
4.在宅看護の対象と支える制度及び医療福祉機器について理解する。
5.看護の継続性、在宅ケアマネジメントについて理解できる。

[授業概要]
高齢社会、疾病構造の変化、療養者のQOLの追求と療養生活についての自己決定、家族機能の変化などを背景にして、在宅看護の必要性は高まりつつある。人の一生涯を、生活する場で、どのように生き、どのように死ぬかを考えることが在宅看護のテーマであり、在宅看護の概念と「生活者」としての対象理解、活動方法の特徴について学ぶ。また、小児、高齢者、ターミナル期などの在宅療養者の看護に必要な知識・技術の統合能力を身につけ、在宅療養者と介護する家族の特徴を捉え、継続看護や在宅での生活支援方法を学ぶ。さらに、在宅看護の展開に必要な法・制度・施設・職種、医療機関と訪問看護および他職種との連携、在宅ケアシステムや社会資源の活用およびマネジメント機能について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
政治や地域の社会的問題、在宅医療の必要な療養者の生活などの新聞ニュースを、自ら積極的に取り込んで、主体的に学習すること。

[授業計画]
1.在宅看護における社会的背景、在宅看護の役割と機能を学ぶ（福山敦子、魚里明子）（4/10(火)3限）
2.在宅看護の歴史や在宅看護に関連する諸制度の変遷を学ぶ（福山敦子）（4/10（火）4限）
3.在宅療養が必要となる疾病や障害、家族の状況を踏まえ、在宅看護の多様性を学ぶ（福山敦子）（4/17（火）3限）
4.在宅看護の特徴をもとに、在宅看護における看護師の役割を学ぶ（福山敦子）（4/17（火）4限）
5.訪問看護サービスの種類や法的根拠を踏まえ、訪問看護の主な活動を学び、訪問看護師の責任について学ぶ（福山敦子）（4/24（火）3限）
6.地域で療養する人を支える社会資源の種類や関連職種を知り、連携の必要性と連携方法に ついて学ぶ（福山敦子）（4/24（火）4限）
7.在宅看護の現状や社会の動向を踏まえ、在宅看護（訪問看護）が抱える問題と課題について考える（福山敦子）（5/1（火）3限）
8ケアマネジメントの定義、在宅ケアシステム、ケアマネジメントの構成要素、社会資源について、ケアマネジメントの展開過程について学ぶ（福山敦子）（5/1（火）4限）
9..疾病のある小児とその家族の支援を、事例を用いて考察する（福山敦子）（5/8（火）3限）
10.在宅療養者とその家族の生活状況、家族による介護状況、援助者による援助の状況、その地域における健康課題に対する支援のアセスメント及び顕在化・潜在化した健康課題明確化への取り組み状況等について理解を深める（福山敦子・学外特別講師）（5/15（火）3限）
11.慢性疾患をもつ人とその家族の支援を、事例を用いて考察する（魚里明子、福山敦子）（5/22（火）3限）
12.特定疾患のある人とその家族の支援を、事例を用いて考察する（福山敦子）（5/29（火）3限）
13.終末期にある人とその家族の支援を、事例を用いて考察する（福山敦子・学外特別講師）（6/5（火）4限）
14.さまざまな障がいのある人とその家族の支援を、事例を用いて考察する（福山敦子）（6/12（火）3限）
15.まとめのグループワーク・発表（福山敦子）（6/12（火）4限）
16.試験（6/19（火）3限）

※教室はF210を使用する

[成績評価方法]
受講態度（50%）、レポート（30%）、試験（20%）により総合的に評価する

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新体系看護学全書「在宅看護論」 著者名：河野あゆみ編著　出版社：メヂカルフレンド社 （978-4-8392-3315-0）
ナーシンググラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア　著者名：臺有桂　ほか　出版社：メディカ出版 （978-4-8404-4921-2）

[参考書（ISBN）]
見てできる臨床ケア図鑑　在宅看護ビジュアルナーシング　著者名：東京訪問看護ステーション協会　出版社：学研メディカル秀潤社 （978-4-7809-1192-2）
写真でわかる　訪問看護アドバンス　著者名：押川真喜子　出版社：インターメディカ （978-4-89996-337-0）

P11200290 [NB3-004]

科目名	実践看護論	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子		

[到達目標]
1. 重要な看護理論を学び、看護理論の実践への活用について理解する。
2. 看護の本質について、深く考える。

[授業概要]
看護学を構成している概念（人間・健康・環境（状況）・看護実践）と看護理論の構造から看護学の特徴について学び、実践に役立つ看護理論をわかりやすく解説する。ドロセア・オレムのセルフケア不足看護理論を中心に看護実践への適用のために開発された看護理論の基礎的な考えや実践を展開するための考え方を学ぶ。その上で、実際の臨床事例をもとに、実践においてどのように看護が展開されるのか、看護過程について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1.一年次のテキスト「看護学概論」、ナイチンゲール「看護覚え書」,
バージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を読み返し、看護の構成概念について復習する。
2.テキスト:「セルフケア不足看護理論へのアプローチ」をよく読んで事前課題を必ず実施し、提出する。

[授業計画]
1. 看護学の構成概念と看護理論の概観(4月11日)
2. ヘンダーソンから人間の基本的欲求と看護について学ぶ(4月18日)
3. オレムのセルフケア不足看護理論から人間の持つ能力を知る(4月25日)
4. オレムのセルフケア不足看護理論におけるセルフケアについて理解する(5月2日)
5. 治療的セルフケア・デマンドとセルフケア・エージェンシーについて理解する(5月9日)
6. 看護エージェンシーと看護システムについて理解する(5月16日)
7. 臨床看護事例から看護の展開を学ぶ(1)(5月23日)
8. 臨床看護事例から看護の展開を学ぶ(2)(5月30日)

[成績評価方法]
最終課題レポート(40%)グループワーク参加度(20%)ミニ課題(20%)読本課題(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「オレム看護論入門 セルフケア不足看護理論へのアプローチ」 著者名:コニー・M・デニス(小野寺杜紀監訳) 出版社:医学書院 (978-4-260-34388-6)

[参考書(ISBN)]
別途提示する

P11200260 [NB2-004]

科目名	疾病と治療 I	前期	1 単位
サブタイトル	老年学		
担当者	安田　尚史		

[到達目標]
超高齢社会を迎えたわが国の現状を把握し高齢者に対する医療の重要性を理解する。

[授業概要]
超高齢社会を迎えたわが国の現状を把握し高齢者に対する医療の重要性を理解することを達成目標として、高齢者および高齢者に特徴的な症候や疾病およびその病態などについて概説することで十分な理解に努める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習して理解して、次回の授業の予習をしておくこと。教科書の学習とともに、わが国の現状を踏まえた関連分野のニュース等に日頃から関心を持ち、積極的な自己学習を期待する。

[授業計画]
授業計画としては、以下の通りで、
1. 超高齢社会と高齢者の特徴（4/12）
2. 老年症候群とCGA（5/31）
3. 各論：循環器疾患（6/7）
4. 各論：脳血管障害と呼吸器疾患（6/21）
5. 各論：メタボリック症候群（6/28）
6. 各論：糖尿病・代謝疾患（7/5）
7. 各論：骨・筋疾患（7/12）
8. 各論：消化器疾患（7/19）
これらを中心に計8回の講義を行う予定である。

[成績評価方法]
成績評価は試験の成績が主(80%)となるが、授業への取り組む姿勢(20%)も考慮して行う。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
老年医学 系統講義テキスト　著者名：日本老年医学会　出版社：西村書店
老年医学テキスト 改訂第3版　著者名：日本老年医学会

[参考書（ISBN）]
プリント配布等。

P11200470 [NB2-009]

科目名	疾病と治療Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	外科学		
担当者	佐古　辰夫、髙橋　玲比古、眞庭　謙昌、田中　優子、吉田　泰久、水野　敏行		

[到達目標]
手術や治療というストレスが生体に与える影響、その回復過程を知り、24時間患者と接する看護師としてその知識を生かし看護ケアに生かすことを到達目標とする。

[授業概要]
疾患に対する手術的治療が対象となる外科的疾患について学ぶ。外科的疾患とは脳神経外科、胸部外科、消化器外科、整形外科など多岐にわたる。外科学ぶことで看護に必要な外科学的知識を修得できることを目的とする。
外科的疾患全般に関わる病態・臨床動態を学び、各種疾患の原因、症状、治療について基礎と実際の臨床現場の実践方法を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
「人体のしくみ機能Ⅰ」「人体のしくみと機能Ⅱ」を既習したものとして講義を進めるため、復習をしたうえで臨むこと。

[授業計画]
1. 外科総論(佐古辰夫)4月10日(火)3限
手術侵襲と生体の反応、炎症
2. 腫瘍、外傷とショック、麻酔法(佐古辰夫)4月17日(火)3限
3. 整形外科疾患(1)(水野敏行)4月20日(金)1限
骨の構造と病態生理、関節の構造と病態生理
4. 消化器疾患(1)(佐古辰夫)4月24日(火)3限
食道の疾患、胃・十二指腸の疾患
5. 脳神経外科疾患(1)(吉田泰久)4月24日(火)5限
脳の疾患
6. 整形外科疾患(1)(水野敏行)4月27日(金)1限
運動器疾患への治療と処置
7. 消化器疾患(2)(佐古辰夫)5月1日(火)3限
腸・腹膜の疾患
8. 脳神経外科疾患(2)(吉田泰久)5月1日(火)5限
脊髄の疾患
9. 消化器疾患(3)(佐古辰夫)5月8日(火)3限
肝臓および肝外胆道系の疾患、膵臓の疾患、門脈の疾患、副腎の疾患
10. 脳神経外科疾患(3)(吉田泰久)5月8日(火)5限
末梢神経の疾患、脳神経疾患の看護観察
11. 心臓疾患、血管疾患(1)(高橋玲比古)5月11日(金)1限
心臓の構造と機能、心臓の疾患
12. 呼吸器疾患、胸壁疾患(眞庭謙昌)5月15日(火)3限
肺構造と働き、気胸およびその治療、肺がんおよびその治療
13. 心臓疾患、血管疾患(2)(高橋玲比古)5月18日(金)1限
心臓の構造と機能、血管の疾患
14. 乳腺疾患、内分泌疾患(田中優子)5月24日(木)5限
乳腺の疾患、甲状腺の疾患・副腎の疾患
15. 心臓疾患、血管疾患(3)(高橋玲比古)6月1日(金)1限
先天性心疾患、小児の外科
・試験　6月5日(火)3限予定
・再テスト　6月12日(火)3限予定

[成績評価方法]
授業態度20%、試験80%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
系統看護学講座 別巻　臨床外科看護総論(第11版)　著者名:北島政樹、江川幸二編集　出版社:医学書院　(978-4-260-02769-4)
系統看護学講座 別巻　臨床外科看護各論(第9版)　著者名:矢永勝彦、小路美喜子編集　出版社:医学書院　(978-4-260-02765-6)
『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学10　運動器 第14版』　著者名:加藤光寶ら著　出版社:医学書院　(978-4-260-01367-3)
カラーで学べる病理学 (第4版)　著者名:渡辺照男編集　出版社:ヌーヴェルヒロカワ　(978-4-86174-062-6)

[参考書(ISBN)]
『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学5　消化器 第14版』　著者名:松田明子著　出版社:医学書院　(978-4-260-02000-8)
『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学3　循環器 第14版』　著者名:吉田俊子著　出版社:医学書院　(978-4-260-01987-3)
『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学7　脳・神経 第14版』　著者名:竹村信彦著　出版社:医学書院　(978-4-260-01369-7)

P11200480 [NB2-010]

科目名	疾病と治療Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	内科学		
担当者	加治　秀介		

[到達目標]
患者の身体の理解やケアの実践につなぐことができるために、正確な臨床内科学の知識を身につけることができる。

[授業概要]
臨床で内科的治療を行っている患者を把握するため、病態、臨床症状、検査所見、治療の方法について系統的に学ぶ。主として呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液疾患などの病態、症状、身体所見、検査、診断、治療法について学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
人体のしくみと機能Ⅰ、人体のしくみと機能Ⅱを既習であることを前提に講義を進めるので、上記の講義の復習を行っておくこと

[授業計画]
1. 循環障害と炎症
炎症とは/基本病変/メカニズム/種類/経過に影響する因子/慢性炎症と肉芽腫性病変/全身への影響/充血とうっ血/旁側循環/出血/血液凝固と血栓症/塞栓症/虚血と梗塞/体液の調節障害/ショック/高血圧
(教科書2　pp.33-65):4月11日
2. 感染症・免疫・アレルギー疾患
感染症とは/人体における微生物の分布/病原微生物の種類と特徴/感染経路および潜伏期間/感染防御能/各種感染症と起炎微生物/AIDSと日和見感染症/抗菌化学療法、耐性菌、菌交代現象/新興感染症と再興感染症/予防処置と感染防御生体における免疫系の役割/免疫系のしくみと働き/アレルギー/自己免疫疾患/免疫不全症/移植免疫(教科書2　pp.67-95):4月18日
3. 呼吸器疾患(1)
呼吸器の解剖と生理/疾患の症候/検査と治療/主な疾患:①呼吸器感染症②アレルギー・免疫疾患
(教科書1　pp.2-44):4月25日:小テスト①
4. 呼吸器疾患(2)
主な疾患:③慢性閉塞性肺疾患④間質性肺疾患⑤肺循環疾患⑥換気異常/呼吸リハビリテーション
(教科書1　pp.45-69):5月2日
5. 循環器疾患(1)
循環器の解剖と生理/疾患の症候/検査と治療/主な疾患:①心不全②不整脈
(教科書1　pp.72-108):5月9日:小テスト②
6. 循環器疾患(2)
主な疾患:③虚血性心疾患④心筋梗塞⑤動脈疾患/心臓リハビリテーション
(教科書1　pp.109-150):5月16日
7. 血液疾患
解剖と生理/疾患の症候/検査と治療/主な疾患①赤血球と白血球の疾患②出血性疾患
(教科書1　pp.486-526):5月23日
8. 消化管疾患
消化器の解剖と生理/疾患の症候/検査と治療/主な疾患①食道の疾病②胃・十二指腸疾患
③腸(小腸、大腸)の疾病④肛門の疾患(教科書1　pp.152-209):5月30日:小テスト③
9. 肝臓・胆道・膵臓疾患
肝/胆/膵の解剖と生理/疾患の症候/検査と治療/主な疾患:①肝臓疾患②胆道疾患③膵疾患
(教科書1　pp.212-267):6月6日
10. 代謝(栄養)疾患
解剖と生理/疾患の症候/検査と治療/主な疾患:①糖尿病②脂質異常症③骨粗鬆症
(教科書1　pp.272-307):6月13日
11. 内分泌疾患
解剖と生理/疾患の症候/検査と治療/主な疾患:①視床下部・下垂体疾患②甲状腺疾患③副腎疾患
(教科書1　pp.310-346):6月20日
12. 腎/泌尿器疾患
解剖と生理/疾患の症候/検査と治療/主な疾患:①慢性腎臓病②糸球体腎炎③続発性腎炎④腎不全
(教科書1　pp.350-411):6月27日
13. 眼/耳鼻咽喉疾患
解剖と生理/疾患の症候/検査と治療/主な疾患:①緑内障・白内障②めまい・難聴③鼻・副鼻腔炎
(教科書1　pp.690-72):7月4日
14. 脳/神経系疾患
解剖と生理/疾患の症候/検査と治療/主な疾患:①神経変性疾患②機能性疾患
(教科書1　pp.417-483):7月11日:小テスト④
15. 運動器疾患
解剖と生理/疾患の症候/検査と治療/主な疾患:①脊椎・脊髄の疾患②下肢の疾患③外傷
(教科書1　pp.618-669):7月18日
16. 試験:7月25日

[成績評価方法]
授業態度10%、試験90%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
看護のための臨床病態学　第3版　著者名:浅野嘉延　吉山直樹　編集　出版社:南山堂　(978-4-525-50513-4)
カラーで学べる　病理学 第4版　著者名:渡辺照男　編集　出版社:ヌーヴェルヒロカワ　(978-4-86174-062-6)

[参考書(ISBN)]
なし

P11200490 [NB2-011]

科目名	疾病と治療Ⅳ	前期	1 単位
サブタイトル	精神医学		
担当者	橋本　健志		

[到達目標]
精神医学領域の疾病と治療について基本的知識を習得する。

[授業概要]
精神医学史と精神医療の現状、精神科症候学、診断学・疾病分類、精神科面接法、精神科検査学、精神科治療学、ならびに共同体及び地域のメンタルヘルスに関する基礎的な知識を授業から習得する。代表的な精神疾患については、疫学、病因、症状、鑑別診断、経過、治療、予後を学び、将来の看護臨床に役立つレベルまで知識を深める。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
学生は、教科書・参考書として提示された教本を読み、授業に積極的に参加し授業内容を深く理解できるよう準備する。

[授業計画]
1. 精神医学総論(4月9日, 4限)
2. 精神科面接法・検査学・治療学・精神科救急(4月16日, 4限)
3. 身体因性精神障害・薬物関連障害(4月16日, 5限)
4. 気分障害(4月23日, 4限)
5. 統合失調症(5月7日, 4限)
6. 神経症性障害・パーソナリティーディスオーダー・心理的発達の障害(5月7日, 5限)
7. 日本の精神科医療史、精神保健福祉の現状と課題、精神障害リハビリテーション(5月14日, 4限)
8. まとめ(5月14日, 5限)
9. 試験(6月4日,4限)

[成績評価方法]
試験(80%)、授業への取り組み(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
精神看護学Ⅰ第6版　著者名:吉松和哉他編集　出版社:ヌーヴェルヒロカワ　(978-4-86174-064-0)
精神看護学Ⅱ第6版　出版社:ヌーヴェルヒロカワ　(978-4-86174-065-7)

[参考書(ISBN)]
「看護のための精神医学 第2版」 著者名:中井久夫[ほか]著　出版社:医学書院　(978-4260333252)
「精神医学テキスト 改訂第4版」 著者名:上島国利[ほか]編集　出版社:南江堂
「ICD-10精神および行動の障害 新訂版」2005　著者名:World Health Organization[編]　融道男ほか監訳　出版社:医学書院
DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引　著者名:原著:American Psychiatric Association　日本語版用語監修:日本精神神経学会　監訳:高橋　三郎／大野　裕　出版社:医学書院
＊なお、上記参考書に加えて、授業内容に関連した一般書、映画、DVD等を紹介する。

P11200500 [NB2-012]

科目名	疾病と治療Ⅴ	後期	1 単位
サブタイトル	周産期学		
担当者	山崎　峰夫		

[到達目標]
　次世代の成長を支援することを目的とした母子への看護を実践できるために必要な知識を得ることを到達目標とする。

[授業概要]
　次の内容について概説する。①妊娠・分娩・産褥の各過程における母体の生理機能の変化とそれらに伴う各種病態、②不妊や不育など妊孕能そのものの異常、③妊孕現象と密接に関連する女性生殖機能調節機構の異常や女性生殖器の器質的疾患、④女性のライフステージという概念と身体生理機能の変調との関連。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
予習は特に必要なし。講義終了後、教科書の講義内容該当項目を読むことで理解を深めて下さい。講義内容について疑問点があれば、積極的に質問してください。

[授業計画]
1. 月経周期、無月経、排卵障害、月経の異常、不妊症、不育症 (9/28(金) 1限)
2. 女性生殖器の炎症性疾患、子宮腺筋症、子宮筋腫、子宮頚癌、子宮体癌 (9/28(金) 2限)
3. 卵巣腫瘍、子宮内膜症、多嚢胞卵巣症候群、子宮位置異常 (10/12(金) 1限)
4. 性感染症、更年期障害、産科診断学 (10/12(金) 2限)
5. 切迫流産・流産、子宮外妊娠、胞状奇胎、切迫早産・早産 (10/26(金) 1限)
6. 前置胎盤、常位胎盤早期剥離、妊娠高血圧症候群、多胎 (10/26(金) 2限)
7. 胎児の異常、合併症妊娠、母子感染 (11/9(金) 1限)
8. 難産、産科手術、産科出血、産褥期の異常 (11/9 (金) 2限)
9. 試験(11月16日 (金) 2限)

[成績評価方法]
筆記試験(100%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「病気がみえるvol.9婦人科・乳腺外科　第3版」平成25年3月発行　著者名:医療情報科学研究所　出版社:MEDIC MEDIA (978-4-89632-462-4)
「病気がみえるvol.10産科　第3版」平成25年3月発行　著者名:医療情報科学研究所　出版社:MEDIC MEDIA (978-4-89632-463-1)
毎回の講義で使用するパワーポイントファイル内容のプリントも配布します

[参考書(ISBN)]
「標準産科婦人科学　第4版」平成23年5月発行　著者名:岡井崇・綾部琢哉編　出版社:医学書院 (978-4-260-01127-3)

P11200640 [NB2-019]

科目名	疾病と治療Ⅵ	後期	1 単位
サブタイトル	小児学		
担当者	西尾　久英		

[到達目標]
小児の成長発達、症候、疾患について基本的な見方、考え方を身につける。

[授業概要]
受講生が小児の成長発達、症状、疾患に関する基本概念を理解するように、授業計画として、成長発達の評価、症候に基づく疾患鑑別、新生児の生理、新生児疾患、染色体・遺伝子異常、遺伝カウンセリング、先天代謝異常スクリーニング、小児の代謝・内分泌疾患の診断・治療、小児の免疫・アレルギー疾患の診断・治療、小児期感染症、呼吸器疾患、消化器疾患の診断・治療、小児期循環器疾患、血液・腫瘍疾患の診断・治療、小児神経・筋疾患の診断・治療の内容を講義する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
学生は、シラバスによって、講義内容を知ることができる。講義をうける前に、教科書、その他の本や 雑誌、インターネットを通じて情報を集め、予習をしておくことが望ましい。 講義の後の復習は、さらに重要である。教科書、ノートの見直しを励行してもらいたい。

[授業計画]
1. 小児の成長発達 (9/21・Ｖ限)
(成長発達の概念を理解し、さらにそれらの評価方法について学ぶ)
2. 新生児疾患 (9/28・Ｖ限)
(新生児の生理全般を理解し、さらに新生児の呼吸・栄養管理について学ぶ)
3. 染色体異常、遺伝性疾患 (10/5・Ｖ限)
(染色体異常、遺伝性疾患、遺伝カウンセリングについて学ぶ)
4. 小児の代謝疾患、内分泌疾患 (10/12・Ｖ限)
(先天代謝異常スクリーニングを理解し、内分泌疾患＜クレチン症、副腎性器症候群等＞の診断・治療を学ぶ。)
5. 小児の感染症、ワクチン、免疫疾患 (10/19・Ｖ限)
(小児期の代表的な感染症＜麻疹、風疹等＞、免疫疾患＜気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アナフィラキシー等＞の診断・治療を学ぶ)
6. 小児の循環器疾患、消化器疾患 (10/26・Ｖ限)
(小児期の代表的な循環器疾患＜ファロー4徴、川崎病等＞、消化器疾患＜食道閉鎖、胆道閉鎖等＞の診断・治療を学ぶ)
7. 小児の腎臓疾患、血液・腫瘍疾患 (11/2・Ｖ限)
(小児期の代表的な腎臓疾患＜ネフローゼ、糸球体腎炎等＞、血液・腫瘍疾患＜白血病等＞の診断・治療を学ぶ)
8. 小児の神経疾患、筋疾患、まとめ (11/16・Ｖ限)
(小児期の代表的な神経疾患＜熱性けいれん、てんかん等＞、筋疾患＜筋ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症等＞の診断・治療を学ぶ。最終試験も行う。)

[成績評価方法]
講義中におこなう小試験(筆記試験)、レポート、試験(筆記試験)の成績を総合して評価する。評価基準は、小試験40%、レポート10%、試験50%である。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
ナースの小児科学(改訂6版) 著者名:佐地　勉、竹内義博、原　寿郎編著 出版社:中外医学社 (978-4-498-07579-5)

[参考書(ISBN)]
なし

P11200650 [NB2-020]

科目名	社会福祉・社会活動論	後期	1 単位
サブタイトル	いのちと暮らしに笑顔をもたらす		
担当者	松崎　喜良		

[到達目標]
さまざまな生活問題に取り組める保健・医療・福祉専門職をめざす

[授業概要]
少子高齢社会のなかで、寝たきりや認知症などで生き続けていくことが困難になる高齢者が増え続けている。そして、児童虐待やDV、若者の雇用不安など、あらゆる世代にわたる生活問題が深刻化し、医療や福祉のあり方を見直さなければならなくなった。このような中で、地域においては保健・医療・福祉計画等にもとづく包括的なケアシステムが登場している。これらのサービスを必要としている人々の生活問題について、事例の検討を通して、問題の把握の仕方と問題点の整理、問題解決・改善を図るための支援方法と各専門職の役割、対象者に関わる機関や専門職の連携のあり方などについて学び、政策的課題を考える。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
マスコミ報道等で福祉・医療事件に関心を持っておく

[授業計画]
1、生活問題への支援方法…生きていくうえでの様々な生活上のトラブルの実際を明らかにして、苦しみや悩みなどの困難を改善する方法や支援について考え、保健・医療・福祉計画のあり方を検討する。(12/17Ⅲ限)
2、児童の発達保障…児童虐待事例を通して児童の貧困の現状を明らかにし、親と子どもが地域の中で生き生きと暮らしていける課題②ついて考える。。(12/17Ⅳ限)
3、妊婦にかかわる問題と専門的支援…飛び込み出産の事例等を紹介し、母と子が直面する課題の解決を通して「子育て支援とは」について学ぶ。(1/7Ⅲ限)
4、医療と経済問題…病気になっても医療が受けられないという人々は少なくない。生活が健康に及ぼす影響を明らかにし、地域で安心して治療が受けられるための課題を考える。(1/7Ⅳ限)
5、障がい者の医療・介護・福祉…障害の治療を通して障がい者として生きていくための支援を考える。(1/21Ⅲ限)
6、高齢者の生活問題…増加し続ける高齢者が直面している生活問題について様々な事例を通して明らかにし、専門職としてどのように包括的な支援をするのかを考える。(1/21Ⅳ限)
7、ターミナルケアにおける保健・医療・福祉専門職の役割…死に直面している人々の問題を明らかにして、「生きる」ための支援について考える。(1/28Ⅲ限)
8、まとめ…各講義について振り返り、これまでの学習の到達点と課題を明らかにする。(1/28Ⅳ限)
9、試験

＊指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容
別表1:「保健医療行政論」
別表2:「地域母子保健」
別表3:「健康支援と社会保障制度」

[成績評価方法]
レポート(20%)、試験(80%)により評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
毎回、プリントを配布する

[参考書(ISBN)]
授業時に紹介する。

P11200120 [NH3-001]

科目名	社会福祉・社会保障論	前期	1 単位
サブタイトル	いのちと暮らしのセーフティネット		
担当者	松崎　喜良		

[到達目標]
社会福祉・社会保障の諸制度の理解とその活用法の習熟

[授業概要]
少子高齢社会のなかで、寝たきりや認知症などで生き続けていくことが困難になる高齢者が増え続けている。そして、児童虐待やDV、若者の雇用不安など、あらゆる世代にわたる問題が深刻化し、医療や福祉のあり方を見直さなければならなくなった。地域においては、保健・医療・福祉計画等にもとづく包括的なケアシステムが登場している。このシステムの役割・意義を理解し、社会福祉・社会保障の諸制度の現状や課題を考える。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
社会福祉・社会保障に関するマスコミ報道等を把握しておく

[授業計画]
1. 社会福祉・社会保障の諸制度と行財政…社会福祉・社会保障制度の概要、保健・医療・福祉計画等を学ぶことを通して、国民のいのちと暮らしを守る意義や現状を理解する。(6/1)
2. 児童福祉、児童手当、母子保健…子育て家庭の生活問題を改善・緩和する諸制度を理解して、親と子どもへのサポートを保健や生活から考える。(6/8)
3. 労働法と労働者保障…生活を支える労働の場面でのトラブルや事故を解決するための諸制度を学び、健康的に働いて暮らすということを考える。(6/15)
4. 年金制度…生活上の事故に対する所得保障としての年金制度について理解し、高齢や障害、遺族となった時でも安心した生活を送れるための課題を考える。(6/22)
5. 医療保険制度…国民の生活問題が健康に及ぼす影響を考え、医療保険制度を活用して必要な治療が受けられるようにするための課題を考える。(6/29)
6. 介護保険…介護を必要とする高齢者が増加しているが、介護保険制度の理解を通してどのように介護や高齢者医療を支えるべきかを考える。(7/6)
7. 地域包括ケア…ニーズを抱えた人々のいのちと暮らしを地域で支えるということについて学び、諸制度の活用や関係機関の連携について考える。(7/13)
8. まとめ…各講義について振り返り、これまでの学習の到達点を明らかにし政策的課題を考える。(7/20)
9. 試験

[成績評価方法]
レポート(20%)、試験(80%)により評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
プリントを配布する

[参考書(ISBN)]
「はじめての社会保障ー福祉を学ぶ人へ」 著者名:椋野美智子、田中耕太郎著　出版社:有斐閣アルマ　(978-4-641-22021-8)

P11200110 [NH2-001]

科目名	小児看護論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[到達目標]
1. 成長・発達の原理を理解することができる。
2. 小児期における各発達段階の特徴と健康増進・疾病予防への支援を理解することができる。
3. 子どもの入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、援助を考えることができる。
4. 子どもに起こりやすい症状とその看護を理解することができる。

[授業概要]
人が成長する、発達するということはどういうことか、その原理について学ぶ。子どもとはどのような存在か。社会における子どもの権利について学ぶ。
小児期における各発達段階(乳児期、幼児期、学童期、思春期)の身体的、社会的、認知的特徴を理解し、その育ちに影響する環境について学習する。そして、子どもが健康に生活するための支援について学ぶ。
昨今の子どもを取り巻く社会、子どもが育つ段階での教育、医療と福祉との関係などについて学習する。
子どもに起こりやすい症状とその看護、子どもにとっての入院の意味を学習する。
少子化である今日、子どもと関わる機会が少ない。そのため、講義では視聴覚教材を多く用い、子どもの行動や子どもとのコミュニケーションについて学ぶことができるようにする。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
授業内容について教科書の該当する項目は、授業前に読んでおくこと。
日頃から、子どもに関するニュース、新聞報道等に関心をもっておくこと。

[授業計画]
1.小児看護が対象とする子どもの存在について概観し、小児看護の歴史、子どもの権利について理解する。 9月25日(火)1限
2.小児に関連する社会統計を学び、小児保健、母子保健を理解する。 9月25日(火)2限
3.成長と発達の定義を学び、それらに影響する要因を理解する。 9月26日(水)1限
4.小児看護に関連する理論(発達、セルフケアなど)について理解する。 9月26日(水)2限
5.乳児期の子どもの特徴(愛着、母子関係など)と生活援助について学び、個々の対象者に沿った保健指導ができるよう、健康課題への支援を計画・立案することを理解する。 10月2日(火)1限
6.幼児期の子どもの特徴(基本的生活習慣・言語・社会性の獲得、遊びなど)と生活援助(予防接種や健診のシステムを含む)を理解する。 10月2日(火)2限
7.学童期の子どもの特徴と健康課題を理解し、健康の維持・増進、疾病予防についての援助を理解する。 10月3日(水)1限
8.思春期の子どもの特徴と健康課題を理解し、成人期に移行する援助を理解する。10月3日(水)2限
9.各発達段階にある子どもとのコミュニケーションの特徴と援助関係を築く方法について検討する。 10月9日(火)1限
10.子どもを取り巻く社会について学ぶ。子どもの成長発達に適した生活環境(家族を含む)、地域における子育て支援(母性・父性の育成を含む)を学び、今後の課題を検討する。10月9日(火)2限
11.子どもを取り巻く医療・福祉・教育の在り方を学ぶ。他職種との連携・調整を通して、看護の役割を理解する。 10月16日(火)2限
12.子どもの入院が子どもに及ぼす影響について学び、必要となる援助の視点を理解する。 10月23日(火)1限
13.子どもの入院が家族(同胞を含む)に及ぼす影響について学び、必要となる援助の視点を理解する。 10月23日(火)2限
14.子どもに起こりやすい症状(発熱、脱水、下痢、嘔吐)とその看護について理解する。 10月30日(火)1限 F305、306、307、308使用
15.子どもに起こりやすい症状(咳嗽、呼吸困難、けいれん)とその看護について理解する。 10月30日(火)2限 F305、306、307、308使用
16.試験　11月6日(火)2限 F304

[成績評価方法]
試験(80%)、課題レポート(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「小児看護学概論」 著者名:二宮啓子編著　出版社:南江堂 (978-4524268511)

[参考書(ISBN)]
「小児の発達と看護」 著者名:中野綾美編著　出版社:メディカ出版 (978-4840449182)

P11200660 [NB2-021]

科目名	小児療養看護論	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	菅野　由美子		

[到達目標]
1. 小児期の特徴的な疾患と疾患から生じる症状、疾患をもつ子どもと家族の特徴を理解することができる。
2. 検査・処置を受ける子どもが主体的に取り組める援助について理解し、考察することができる。
3. さまざまな疾患や障がいをもつ子どもと家族の抱える問題を理解し、必要な看護について考察することができる。
4. さまざまな疾患や障がいをもつ子どもと家族がコミュニティで生活する上で、長期的に必要となる看護について理解することができる。

[授業概要]
さまざまな疾患や障がいを持って生活する子どもを理解し、子どもと家族への看護援助を学ぶ。
　健康逸脱することにより、こどもは診療を受けたり、検査や処置、治療を受けたりすることになる。それぞれの子どもと家族にとっての体験の意味を理解し、子どもが主体的に取り組むことができるような援助方法を学ぶ。
　子どもに多く見られる急性期の状況の理解とともに、それに対しての援助、慢性期疾患を持つ子どもと家族に対するセルフケア獲得に向けての援助方法を学ぶ。さらに、医療施設内での看護のみならず、コミュニティで療養生活を過ごす子どもと家族への看護を学習する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1. 翌週授業までに、配布された事前課題に取り組み、提示された教科書の該当ページを熟読しておくこと。(取り組んだ事前課題をもとに授業を展開します)
2. 毎回の授業で学んだことを復習し、それぞれの発達段階ではどのような援助が必要か、各自で考え復習をしておくこと。

[授業計画]
第1回　4月11日　4限　外来における子どもと家族の援助
第2回　4月18日　4限　検査や処置を受ける子どもと家族への援助
第3回　4月25日　4限　急性期にある乳児期の子どもと家族への援助
第4回　5月　2日　4限　先天性疾患をもつ子どもと家族への援助
第5回　5月　9日　4限　手術を受ける幼児期の子どもと家族への援助
第6回　5月16日　4限　慢性疾患をもつ学童期にある子どもと家族への援助①
第7回　5月23日　4限　慢性疾患をもつ学童期・思春期にある子どもと家族への援助②
第8回　5月30日　4限　障がいをもつ子どもと家族への援助
(試験) 6月　6日　4限

[成績評価方法]
本試験70点満点、事前課題　30点満点

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
系統看護学講座　小児臨床看護各論②　著者名:奈良間美保　出版社:医学書院　(978-4-260-01990-3)

[参考書(ISBN)]
小児看護学概論-子どもと家族に寄り添う援助-　著者名:二宮啓子　出版社:南江堂　(978-4-524-26851-1)

P11200670 [NB3-015]

科目名	食品学総論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊		

[到達目標]
食品に関する正確な知識を得、食品を科学的に理解することを目的とする。

[授業概要]
人間が健康な食生活を送るためには、食品の特性を把握しておくことが重要である。そこで、本授業では食品を構成する成分、微量成分および特殊成分（味、香、色の成分）の特性を科学的に解説する。合わせて、調理、加工、保蔵中におこる食品成分の変化、食品の物性、および機能性などについて総合的に解説する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。

[授業計画]
1. 人間と食品
2. 水分
3. ビタミン
4. 無機質（ミネラル）
5. 食品中の嗜好成分、有害成分①
6. 食品中の嗜好成分、有害成分②
7. 食品中の嗜好成分、有害成分③
8. 食品の栄養価
9. 食品の機能性
10. 食品成分の変化①
11. 食品成分の変化②
12. 食品の物性①
13. 食品の物性②
14. タンパク質・炭水化物・脂質
15. まとめ
16. 試験

[成績評価方法]
試験（80%）ならびに不定期に行う小テスト（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
食べ物と健康II　食品の機能　著者名：中河原俊治　編著　出版社：三共出版

[参考書（ISBN）]
なし

P11200070 [NI1-002]

科目名	助産学概論	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	田村　康子		

[到達目標]
助産学の基礎となる知識を習得・理解し、助産師としての視座を養い、多様な角度から客観的・批判的に考察し、助産実践の基礎となる能力を養成する。

[授業概要]
助産に関する定義、歴史的変遷、助産師の業務について知識を習得し、職業としての助産に関する理解を深める。助産師が行うケアに関する様々な理念について、授業では意思決定への支援について理解を深める。また、生殖医療に伴う倫理的課題について考察する。出産では、女性が自身の持つ産む力を最大限に活かすことが助産師には求められる。講義や実際の出産体験を聞くことを通し、産む力とは何か、産む力を支える助産師のケアとは何かを考察し、助産を実践する上での感受性を養う。また、日本および世界における出産や女性を取り巻く近年の動向や課題を学び、それらに関する法律・施策、社会資源に関する知識を得る。女性、妊産婦、乳幼児は災害時要支援者（配慮者）と位置づけられ、災害において特に配慮が必要となる。母子と災害をテーマに災害の心身への影響や支援、備えについても学ぶ。
これらを通して、助産師としての視座を養い、多様な角度から課題を客観的・批判的に考察し、助産実践の基礎を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
疾病と治療Ⅴ（周産期学）、母性看護論、社会福祉・社会保障論、小児看護論、女性の健康増進と看護の理解が基盤になるため、十分に復習すること。

[授業計画]
1. 助産師とは：助産師の定義、助産師の業務、助産師の教育、助産師と研究（4/10・Ⅰ限）
2. 出産と助産に関する歴史的変遷（4/10・Ⅱ限）
3. 助産師が行うケアの理念：女性の意思決定への支援、助産実践の倫理：生殖医療と倫理的課題（4/17・Ⅰ限）
4. 産む力とケア①：女性の産む力とそれを支えるケアとは何か（4/17・Ⅱ限）
5. 産む力とケア②：出産と助産師のケアの体験から学ぶ（4/24・Ⅱ限）
講師：古宇田千恵先生、他学外講師3名（日本妊産婦支援協議会　りんごの木）
6. 災害と助産：災害への備えや災害発生時の対応について、助産師として提供できるケアや対応を学ぶ。（5/8・Ⅱ限）
7. 母子を支える社会資源：日本と外国における国・地域・民間における母子を支える制度や社会資源について学ぶ（5/15・Ⅱ限）
8. 世界における母子保健の動向と課題、出産と文化：母子の健康課題とその要因を学び、グローバルな視点で母子の状況を理解する。世界的課題に対する国際的取組やその役割を担う機関について理解する（5/22・Ⅱ限）
9. 試験（5/29・Ⅱ限）

[成績評価方法]
課題への取り組み（30%）、試験（70%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「助産師基礎教育テキスト2018
年版　第1巻　助産概論」 著者名：工藤美子編集　出版社：日本看護協会出版会 （不明）
「助産師基礎教育テキスト2018
年版　第3巻　周産期における医療の質と安全」 著者名：成田伸編集　出版社：日本看護協会出版会 （不明）

[参考書（ISBN）]
適宜提示します

P11200770 [NB3-020]

科目名	助産学実習	前期	8 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子、田村　康子、牛越　幸子、岡本　恵		

[到達目標]
妊産婦と胎児・新生児の心身の経過を判断し、ニーズや健康課題・問題をアセスメントし、必要な援助を計画・実践・評価する能力を養う。安全・安楽・満足を配慮した分娩期の援助技術を習得する。異常経過の予測と判断および適切な対処に関する能力を養う。対象者がより正常な経過をたどれるよう、対象者のセルフケア能力を高め、必要な保健指導が行える能力を養成する。

[授業概要]
妊産婦と胎児・新生児の心身の経過を判断し、ニーズや健康課題・問題をアセスメントし、必要な援助を計画・実践・評価する能力を養う。特に、10例以上の産婦への直接分娩介助を含む分娩期の援助を通して、正常分娩を中心とした助産援助を安全・安楽・満足を考慮して実践するために必要な基礎的能力（知識・技術・態度）を習得し、発展させる。母子および家族の妊娠期から子育て期まで受け持ち、継続看護を展開する。正常な経過に加えて、異常の予測と判断ができ、適切な対応や援助ができる能力を習得する。
保健指導見学や受け持ち妊産婦への関わりを通して、妊産婦・新生児へ必要な保健指導を実践できる能力を養う。これらを通して、対象のセルフケア能力に働きかけ、経過をより正常へと導くための援助能力を養成する。また、チーム医療、多職種との連携を理解し、助産師としての責務についても学びを深め、助産師の役割について考察を深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
疾病と治療ⅴ（周産期学）、母性看護学、助産学に関する科目を復習し、十分理解して実習に臨むこと。健康自己管理を十分に行うこと。

[授業計画]
実習期間中に下記を実施する。
・正常分娩の直接分娩介助、間接介助および出生直後の新生児ケアの実施
・直接分娩介助を行った母子の産褥期・新生児期のケアおよび保健指導
・妊娠期から出産後を通して継続的に母子を受け持ち、助産過程を展開する。
・実習施設の病棟および外来で提供されている妊婦の健康診査、1か月健診、保健指導、子育て支援活動の見学

[成績評価方法]
実習への取り組み（20%）　実習目的の達成度（80%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
周産期学、母性看護学、助産学に関する科目で使用されたすべての教科書

[参考書（ISBN）]
・適宜提示する

P11200810 [NB4-008]

科目名	助産管理	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子		

[到達目標]
助産業務及び運営に関する法的制度を理解し、周産期における医療の質と安全を考慮した業務の運営、調整及び評価ができるための基本的知識を習得し、管理的視点を養う。

[授業概要]
助産業務及び運営に関する法的制度を理解し、業務の運営、効果的な助産業務遂行のための管理の原則と方法、調整及び評価ができる能力を養う。加えて、産科領域における医療事故の特徴を理解し、助産に関わる安全確保と医療事故への対応、危機管理について学ぶ。
助産師外来や院内助産所における助産業務管理、病院及び助産所の運営と管理の相違、助産業務の評価を学び、現状と課題を学ぶことを通して、助産業務に関する管理的視点を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
授業の予習を行い、疑問点を明確にした上で授業に参加すること

[授業計画]
教室:F204
1.日本における周産期医療システム:出産の「安全性」と「快適性」に関する医療改革の歴史、医療の質とその評価、周産期医療の現状と課題、周産期医療連携、周産期医療機関の機能と役割、周産期医療対策整備事業、オープンシステム(4/10・Ⅰ限)
2.助産管理の基本概念:管理とマネジメントの定義、概念(質、顧客・要求、製品・サービス、マネジメントサイクルなど)、助産管理の定義、組織化(業務基準、質評価)(4/10・Ⅱ限)
3.助産所における助産サービス管理:助産師の開業、開業の多様な機能と役割、助産所における妊産婦管理の実際、助産所の経営とスタッフ管理、サービス管理、構造と設備、監督(4/16・Ⅲ限)(特別講師:永原郁子先生)
4.助産と関連法規:医療法、保健師助産師看護師法、医師法、母子保健法、母体保護法、薬事法、児童福祉法、地域福祉法、戸籍法、刑法、民法、労働法
助産と法的責任:応召、証明書の交付、助産録の記載、届出、守秘義務(4/17・Ⅱ限)
5.病院・診療所における助産サービス管理:病産院における助産サービスの現状と課題(混合病棟における現状と課題)、周産期医療システム、母体搬送に伴う他職種との連携、院内助産・助産外来の運営と実際(4/24・Ⅰ限)(特別講師:藤原瑞枝先生)
6.地域における助産サービス管理:地域における助産サービスの目的と特徴、関連する母子保健行政、地域での助産サービスの実際(4/24・Ⅱ限)(特別講師:住岡まどか先生)
7.周産期におけるリスクマネジメント:医療事故と医療過誤、医療法による安全管理体制、医療安全のための情報公開とインフォームドコンセント、リスクマネジメント(病院、助産所、職能団体)、感染におけるマネジメント、災害におけるマネジメント(5/8・Ⅰ限)
8.助産と医療経済・社会保障:医療保険制度と助産業務、助産業務の診療報酬、分娩費用、経営上の会計の仕組み(5/8・Ⅱ限)
9.試験(5/15・Ⅱ限)

[成績評価方法]
試験(100%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「助産管理」助産学講座10　著者名:我部山キヨ子編集　出版社:医学書院　(978-4-260-02175-3　C3347)

[参考書(ISBN)]
授業中に提示

P11200800 [NB4-007]

科目名	助産診断技術論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	牛越　幸子		

[到達目標]
妊婦、産婦、褥婦、新生児とその家族の健康状態および正常性とその逸脱のリスクをアセスメントし、助産過程の展開に必要な診断と援助を行うための必要な知識が習得できる

[授業概要]
助産師として妊婦、産婦、褥婦および新生児とその家族の健康状態や正常経過の判断、正常から逸脱するリスクをアセスメントするための必要な知識を習得する。妊娠・分娩・産褥の生理を理解し、助産過程の展開に必要な診断と援助を行うために必要な知識について講義を中心とした授業を行う。
　特に、分娩期では、分娩経過を正しく判断し、適切な分娩介助が出来るために必要な産科学的知識や助産診断技術、助産技術の基本を理解する。また、正常から逸脱した場合や、緊急時の判断などの助産診断や対処が出来るようにハイリスク妊娠・異常分娩・産褥期異常や産科救急、新生児蘇生に関する知識を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
母性看護論、疾病と治療Ⅴ、女性の健康増進と看護、小児看護論、家族看護論の内容を復習して授業に参加すること

[授業計画]
1.(1月7日・月/5限)　妊娠期の診断とケア（妊娠の生理と確定診断、関連諸検査）
2.(1月10日・木/5限)妊娠期の診断とケア（妊婦の心理社会的側面のアセスメントと親準備・出産準備へのケア）
3.(1月11日・金/5限) 妊娠期の診断とケア(妊娠経過に対応したケア)
4.(1月12日・土/5限) 妊娠期の診断とケア(妊婦の日常生活におけるケア)
5.(1月16日・水/5限) ハイリスク妊娠とそのケア
6.(1月18日・金/5限) 分娩期の診断とケア（分娩経過の診断とアセスメントの視点）
7.(1月21日・月/5限) 分娩期の診断とケア（分娩第1期のアセスメントとケア）
8.(1月28日・月/5限) 分娩期の診断とケア（分娩第2期のアセスメントケア、分娩介助技術）
9.(2月1日・金/5限) 分娩期の診断とケア（分娩第3・4期のアセスメントとケア）
10.(2月2日・土/1限) 分娩期の診断とケア（出生直後の新生児のケアとアセスメント）
11.(2月2日・土/2限) 産褥期の診断とケア（産褥期のアセスメントとセルフケア）
12.(2月4日・月/4限) 産褥期の診断とケア（母乳育児支援と家族計画）
13.(2月4日・月/5限) 新生児期の診断とケア（新生児の適応生理とフィジカルイグザミネーションおよびそのケア）
14.(2月5日・火/4限) ハイリスクへの対処(分娩期・産褥期の異常とそのケア)
15.(2月5日・火/5限) ハイリスクへの対処(新生児の異常とそのケア、心理社会的ハイリスク妊産婦へのケア)
16.(2月8日・金/2限)　試験
教室はF204

[成績評価方法]
試験(100%)

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「助産師基礎教育テキスト　第4巻　妊娠期の診断とケア」 著者名：森恵美編集　出版社：日本看護協会出版会　(978-4-8180-1464-0)
「助産師基礎教育テキスト　第5巻　分娩期の診断とケア」 著者名：町浦美智子編集　出版社：日本看護協会出版会　(978-4-8180-1465-7)
「助産師基礎教育テキスト　第6巻　産褥期のケア　新生児期・乳幼児期のケア」 著者名：横尾京子編集　出版社：日本看護協会出版会　(978-4-8180-1466-4)
「助産師基礎教育テキスト　第7巻　ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」 著者名：遠藤俊子編集　出版社：日本看護協会出版会　(978-4-8180-1467-1)

[参考書（ISBN）]
「今日の助産」改訂第3版　著者名：北山眞理子　内山和美編　出版社：南江堂　(978-4-524-26377-6)
「最新産科学（正常編）」 改訂第22版　著者名：荒木勤著　出版社：文光堂　(978-4-8306-3119-1)
「最新産科学（異常編）」改訂第22版　著者名：荒木勤著　出版社：文光堂　(978-4-8306-3121-4)
「分娩介助学」第2版　著者名：進純郎　出版社：医学書院　(978-4-260-01886-9)

P11200780 [NB3-021]

科目名	助産診断技術論演習	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	牛越　幸子、下敷領　須美子、田村　康子		

[到達目標]
妊産褥婦と胎児・新生児の健康水準を診断できる能力を養い、助産過程の展開に必要なアセスメントおよび援助技術を習得し、実践能力を養う。

[授業概要]
妊産褥婦と胎児・新生児の健康水準を診断できる能力を養い、助産過程の展開に必要なアセスメントおよび援助技術の具体的な方法を学ぶ。アセスメントでは主に妊娠・分娩期を中心とした事例学習により、関連情報の統合と理解、経過とリスクの予測、必要な看護支援やリスク対応に関する計画立案を学び、実習に向けた実践能力を獲得する。援助技術演習では、分娩介助に必要な環境や物品準備、分娩介助技術、出生直後の新生児ケア、保健指導技術などを含む。加えて、女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する相談・教育・保健指導、受胎調節指導に必要な知識と援助技術の具体的な方法を学ぶ。いずれも小グループでディスカッションや発表を中心として学習を進める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
周産期学、母性看護論、女性の健康増進と看護、助産学概論、助産診断技術論の復習を行い、十分理解して授業に臨むこと。

[授業計画]
1.妊娠期における助産診断過程 （4月6日：金Ⅲ）
2.妊娠期における助産診断過程 （4月6日：金Ⅳ）
3. 妊娠期における助産診断過程 （4月9日：月Ⅲ）
4. 妊娠期における助産診断過程 （4月9日：月Ⅳ）
5. 妊娠期および産褥期・子育て期における準備物品や資源 （4月11日：水Ⅳ）
6. 妊娠期および産褥期・子育て期における準備物品や資源 （4月11日：水Ⅴ）
7. 胎児心拍モニタリングと評価（4月13日：金Ⅲ）
8. 分娩期における助産診断過程<正常経過の事例> （4月13日：金Ⅳ）
9. 分娩期における助産診断過程<正常経過の事例> （4月16日：月Ⅰ）
10. 分娩期における助産診断過程<正常経過の事例>（4月16日：月Ⅱ）
11. 分娩期における助産診断過程<正常経過の事例>（4月18日：水Ⅳ）
12. 分娩期における助産診断過程（正常から逸脱した経過）（4月18日：水Ⅴ）
13. 分娩期における助産診断過程（正常から逸脱した経過） （4月20日：金Ⅲ）
14. 分娩期における助産診断過程（正常から逸脱した経過） （4月20日：金Ⅳ）
15. 分娩介助技術① （4月23日：月Ⅰ）
16. 分娩介助技術② （4月23日：月Ⅱ）
17. 分娩介助技術③ （4月25日：水Ⅳ）
18. 分娩介助技術④ （4月25日：水Ⅴ）
19. 分娩介助技術⑤ （4月27日：金Ⅲ）
20. 分娩介助技術⑥ （4月27日：金Ⅳ）
21. 会陰切開、会陰の創傷と縫合技術、新生児蘇生（鼻腔および口腔の吸引、気道確保） （5月7日：月Ⅰ）
22. 周産期における運動① （5月7日：月Ⅱ）
23. 周産期における運動② （5月9日：水Ⅰ）
24. 出産後～子育て期における身体・心理・社会的ニーズと支援①（5月9日：水Ⅱ）
25. 出産後～子育て期における身体・心理・社会的ニーズと支援②（5月11日：金Ⅲ）
26. 出産後～子育て期における身体・心理・社会的ニーズと支援③（5月11日：金Ⅳ）
27. 保健指導・相談の運営と展開① （5月14日：月Ⅰ）
28. 保健指導・相談の運営と展開② （5月14日：月Ⅱ）
29. 保健指導・相談の運営と展開③ （5月16日：水Ⅳ）
30. 保健指導・相談の運営と展開④ （5月16日：水Ⅴ）
試験(5月18日：金Ⅲ)
教室はF209

[成績評価方法]
授業への取り組み・課題　50%、試験50%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「助産師基礎教育テキスト　第4巻　妊娠期の診断とケア」（3年後期「助産診断技術論」と同じ）
「助産師基礎教育テキスト　第5巻　分娩期の診断とケア」（3年後期「助産診断技術論」と同じ）
「助産師基礎教育テキスト　第6巻　産褥期のケア　新生児期・乳幼児期のケア」（3年後期「助産診断技術論」と同じ）
「助産師基礎教育テキスト　第7巻　ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」（3年後期「助産診断技術論」と同じ）

[参考書（ISBN）]
授業中に適宜提示する。

P11200790 [NB4-006]

科目名	女性の健康増進と看護	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子		

[到達目標]
女性の健康に関する特性と影響要因、成長発達や加齢に伴う変化を理解する。さらに、性と生殖にかかわる健康と人権についての理解を深め、それらを考慮にいれた健康増進への効果的な支援が行える能力を養う。

[授業概要]
女性の健康を考える上で必要な概念、ならびに女性の健康に影響する社会・環境要因、ライフサイクルに伴う健康課題を理解し、女性が自らの能力を生かしてより健康に過ごすために必要な看護を学ぶ。女性の健康について、生涯を通した一連の発達的変化を、生物学的側面のみならず心理・社会・文化的側面からも理解を深める。また、性と生殖における健康と人権について現状と課題を理解し、健康増進への支援を学び看護援助ができる能力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
生殖関連医学、母性看護論について復習し、理解しておくこと。特に解剖学・生理学(生殖機能、性周期、内分泌等)に関する知識の復習を行うこと。

[授業計画]
1.ウイメンズヘルスとは何か、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの尊重と看護 F210 (4/11/・3限)
2.セクシュアリティの理解と支援F210 (4/18・3限)
3.マイノリティへのケア:性暴力、DV被害者、子ども虐待の予防と早期発見F210 (4/25・3限)
4.女性のライフサイクル各期の身体的・心理社会的特徴と健康課題:GW発表:①思春期、②成熟期、③更年期、④老年期 F210(5/9・3限)
5.テーマ別GW発表Ⅰ:⑤月経と健康、⑥女性と摂食障害、⑦性感染症、⑧意図しない妊娠・人工妊娠中絶 F210 (5/16・3限)
6.テーマ別GW発表Ⅱ:⑨家族計画・受胎調節、⑩子育て期の女性の健康、⑪不妊、⑫ペリネイタル・ロス F210 (5/23・3限)
7.テーマ別GW発表Ⅲ:⑬更年期障がい、⑭在日外国人の母子保健、⑮災害時の女性支援、⑯先天異常をもつ子を出産した家族への支援 F210 (5/30・3限)
8.女性の健康増進と看護活動 (ソーシャルサポート、自己決定、エンパワメント、セルフヘルプグループ、ピアカウンセリング・ピアエデュケーション)F210 (6/6・3限)
9.試験 (6/13・3限)

[成績評価方法]
課題レポート(20%)、発表(10%)、試験(70%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
母性看護学Ⅰ2015　著者名:有森直子編著　出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-23668-0　C3047)

[参考書(ISBN)]
「女性のライフサイクルとナーシング　女性の生涯発達と看護」 著者名:高橋真理　村本淳子編集　出版社:ヌーヴェルヒロカワ (978-4-86174-041-1C3347)
「性の健康と相談のためのガイドブック」 著者名:性の健康医学財団編集　出版社:中央法規出版 (978-4-8058-3987-4　C3047)

P11200710 [NI3-004]

科目名	人体のしくみと機能Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介		

[到達目標]
正常な人体の諸器官における仕組みと機能について知識が修得できる。
正常な機能と構造から、異常となるメカニズムを推測できる。

[授業概要]
看護学の最も基本となる正常な人体のしくみと機能について基本的知識を習得する。今後の疾病と治療を学ぶにおいて、正常な人体のしくみと機能から、そのつながりを考えることができるようになることを目指す。また、生命について、生きることについての視点も合わせて学びながら考察していく。人体のしくみと機能Ⅰでは、主に消化器、呼吸器、循環器、造血器について学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
多岐にわたり学習を行うため、予習・復習をしておくこと。

[授業計画]
1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識(1)
形からみた人体/素材からみた人体:(教科書 pp.8-55):4月12日
2. 解剖生理学を学ぶための基礎知識(2)
機能からみた人体(教科書pp.55-60):4月19日
3. 栄養の消化と吸収(1)
口・咽頭・食道の構造と機能(教科書pp.66-75):4月26日
4. 栄養の消化と吸収(2)
腹部消化管の構造と機能(教科書pp.76-94):5月3日
5. 栄養の消化と吸収(3)
膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能/腹膜(教科書pp.96-105):5月10日
6. 呼吸のはたらき(1)
呼吸器の構造(教科書pp.109-119):5月17日:小テスト①
7. 呼吸のはたらき(2)
内呼吸と外呼吸/呼吸器と呼吸運動/呼吸器量/ガス交換とガスの運搬(教科書pp.120-132):5月24日
8. 呼吸のはたらき(3)
肺の循環と血流/呼吸運動の調節/呼吸器系の病態生理(教科書pp.133-141):5月31日
9. 血液のはたらき(1)
血液の組成と機能/赤血球/白血球(教科書pp.141-155):6月7日:小テスト②
10. 血液のはたらき(2)
血小板/血漿タンパク質/血液の凝固と線維素溶解/血液型(教科書pp.155-164):6月14日
11. 血液の循環とその調節(1)
心臓の構造/.心臓の拍出機能/心電図/心臓の収縮(教科書pp.168-193):6月21日:小テスト③
12. 血液の循環とその調節(2)
末梢循環系の構造/血管の構造/肺循環の血管/体循環の血管(教科書pp.193-205):6月28日
13. 血液の循環とその調節(3)
血液の循環調節/血圧/血液の循環/血圧・血流量の調節(教科書pp.206-219):7月5日
14. 血液の循環とその調節(4)
血液の循環調節/微小循環/循環器系の病態生理/ リンパとリンパ管(教科書pp.220-228):7月12日
15. まとめ:小テスト④:7月19日
16. 試験:7月26日

[成績評価方法]
授業態度(20%)、試験(80%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
系統看護学講座　解剖生理学　人体の構造と機能[1]　著者名:坂井建雄　岡田隆夫　出版社:医学書院　(978-4-260-03171-4)

[参考書(ISBN)]
ナーシング・グラフィカ　人体の構造と機能(1):解剖生理学　第4版　著者名:林正健二　出版社:メディカ出版　(978-4-8404-5374-5)

P11200450 [NB1-008]

科目名	人体のしくみと機能Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介		

[到達目標]
正常な人体の諸器官における仕組みと機能について知識が修得できる。
正常な機能と構造から、異常となるメカニズムを推測できる。

[授業概要]
　看護学の最も基本となる正常な人体のしくみと機能について基本的知識を習得する。今後の疾病と治療を学ぶにおいて、正常な人体のしくみと機能から、そのつながりを考えることができるようになることを目指す。また、生命について、生きることについての視点も合わせて学びながら考察していく。人体のしくみと機能Ⅱでは、泌尿器、内分泌、骨格・運動器、脳・神経機能、生殖器について学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　人体のしくみと機能Ⅰを既習しているものとして講義を進めるため、復習をしておくこと。

[授業計画]
1. 体液の調節と尿の生成(1)
　腎臓の構造と機能/糸球体の構造と機能/尿細管の構造と機能/傍糸球体装置/
　クリアランスと糸球体濾過量/腎臓から分泌される生理活性物質(教科書 pp.233-248):9月27日
2. 体液の調節と尿の生成(2)
　排尿路/体液の調節(教科書 pp.248-258):10月4日
3. 内臓機能の調節(1)
　自律神経による調節/自律神経の機能/自律神経の構造/自律神経の神経伝達物質と受容体/
　内分泌系による調節/内分泌とホルモン/ホルモンの化学構造と作用機序
　(教科書 pp.264-276):10月11日:小テスト①
4. 内臓機能の調節(2)
　全身の内分泌腺と内分泌細胞/視床下部－下垂体系/甲状腺と副甲状腺/膵臓/副腎/性腺
　(教科書 pp.277-297):10月18日
5. 内臓機能の調節(3)
　ホルモン分泌の調節(教科書 pp.299-305):10月25日
6. 身体の支持と運動(1)
　骨格/骨の連結/骨格筋(教科書 pp.309-323):11月1日:小テスト②
7. 身体の支持と運動(2)
　体幹の骨格と筋/上肢の骨格と筋/下肢の骨格と筋(教科書 pp.324-360):11月8日
8. 身体の支持と運動(3)
　頭頸部の骨格と筋/筋の収縮(教科書 pp.361-380):11月15日
9. 情報の受容と処理(1)
　神経系の構造と機能/脊髄と脳/脊髄神経と脳神経(教科書 pp.385-418):11月22日:小テスト③
10. 情報の受容と処理(2)
　脳の高次機能/運動機能と下行伝導路/感覚機能と上行伝導路(教科書 pp.418-435):11月29日
11. 情報の受容と処理(3)
　眼の構造と視覚/耳の構造と聴覚・平衡覚/味覚と嗅覚/ 疼痛(教科書 pp.435-459):12月6日
12. 外部環境からの防御
　皮膚の構造と機能/生体の防御機構/非特異的防御機構/免疫/代謝と運動/体温とその調節
　(教科書 pp.463-490):12月13日　3限
13. 生殖・発生と老化のしくみ(1)
　男性生殖器/女性生殖器(教科書 pp.495-508):12月20日　3限:小テスト④
14. 生殖・発生と老化のしくみ(2)
　受精と胎児の発生/成長と老化(教科書 pp.510-532):1月10日　3限
15. まとめ:1月17日　3限
16. 試験:1月31日

[成績評価方法]
授業態度(20%)、試験(80%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
系統看護学講座　解剖生理学　人体の構造と機能[1]　著者名:坂井建雄　岡田隆夫　出版社:医学書院　(978-4-260-03171-4)

[参考書(ISBN)]
ナーシング・グラフィカ　人体の構造と機能(1):解剖生理学　第4版　著者名:林正健二　出版社:メディカ出版　(978-4-8404-5374-5)

P11200460 [NB1-009]

科目名	成育看護技術演習 I	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、下敷領　須美子、田村　康子、牛越　幸子、菅野　由美子		

[到達目標]
1. 療養生活を送る子どもの状況に応じた援助技術を理解し、実践する能力を修得する。
2. 周産期にある母子の健康状態のアセスメントや新生児の日常生活に関する援助技術を理解し、実践する能力を習得する。

[授業概要]
成育看護分野における基盤的な看護技術を学ぶ。
小児看護では、子どもの成長・発達のアセスメントや療養生活を支援するために必要な技術として、身体計測、バイタルサインの測定、フィジカルアセスメント、清拭、輸液管理について演習を行う。学生は事前に各演習項目の概要（目的、必要物品、手順、留意点など）についてレポートを作成する。演習では小グループに分かれて、モデル人形もしくは学生同士で技術を学ぶ。
母性看護では、周産期における母子の健康状態を理解するために必要な技術として、妊婦のヘルスアセスメント（レオポルド触診法、胎児心音の聴取）、褥婦のヘルスアセスメント（退行性変化の観察、授乳ケア）、新生児のヘルスアセスメントやケア（衣類の着脱、おむつ交換、沐浴など）について演習を行う。演習は小グループに分かれて行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
「小児看護論」の内容を復習し、理解しておくこと。演習の前の事前レポートを作成し、演習で実施する各技術の概要を理解しておくこと。
「母性看護論」の内容を復習し、事前課題に基づき演習の予習を行う。

[授業計画]
●小児看護における援助技術：（内正子、菅野由美子）
1. 身体計測と発育評価①：各発達段階（乳児、幼児、学童以降）における身体計測について、モデル人形を用いて実施する。
2. 身体計測と発育評価②：事例を用いた身体計測を実施し、その発育評価を行い、子ども・家族に対する支援を考える。
3. フィジカルアセスメント①：小児のフィジカルアセスメントを理解し、子どもに対して適切に実施できる方法を学ぶ。（F202.209.304使用）
4. フィジカルアセスメント②：ロールプレイおよびモデル人形を用いて、バイタルサイン測定を実施する。（F202.209.304使用）
5. 事例を用いたフィジカルイグザミネーションを行い、アセスメントを行う。
6. モデル人形を用いて全身清拭を実施する。
7. 持続点滴中の看護について理解し、輸液管理の技術を学ぶ。

●母性看護における看護技術（下敷領須美子、田村康子、牛越幸子）
8.妊婦のヘルスアセスメント技術：妊婦モデルを用いてレオポルド触診法、胎児心音聴取を実施する。
9.妊婦のセルフケア支援：様々な動作における妊婦体験を通し、妊婦へのセルフケア支援を考える。
10.褥婦のヘルスアセスメント技術：子宮復古モデルを用いて、退行性変化の観察とアセスメントを学ぶ。
11.授乳支援：乳房・乳頭の観察や授乳姿勢、新生児の抱っこの仕方について、新生児モデルや乳房モデルを用いながら実施し、母親が授乳を円滑に行うための支援方法を学ぶ。
12.新生児の生理と看護ケア
13.新生児のヘルスアセスメント：新生児モデルを用いて新生児の観察（バイタルサイン測定、全身の観察）およびアセスメントを行う。
14.新生児のケア：沐浴に関する基礎の理解と実施、更衣・おむつ交換、臍消毒
15.家庭における沐浴の実際と支援：家庭環境を想定した沐浴を実施し、退院する母子や家族への支援を考える。

＊演習は2グループに分かれて行う。グループによって、日程が異なるので、初日のオリエンテーションで確認すること。全日程は以下の通り。

平成30年9月27日（木）2限,
10月17日（水）1,2限、18日（木）1,2限、12月18日（火）1,2限、12月19日（水）1,2限、
平成31年1月9日（水）1,2限、10日（木）3,4限、11日（金）3,4,5限、15日（火）1,2限、16日（水）1,2限、22日（火）1,2限、28日（月）1,2限、29日（火）1,2限、30日（水）1,2限、31日（木）1,2,3限

＊F202、209、304使用 （9/27：オリエンテーション　F304）

[成績評価方法]
小児(50%)：事前課題(20%)、演習レポートおよび演習への取り組み(30%)
母性(50%)：事前課題(20%)、事後課題(30%)

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「小児看護技術」 著者名：今野美紀編著　出版社：南江堂 （978-4524268528）
「母性看護技術」 著者名：石村由利子編集　出版社：医学書院 （978-4-260-01137-2）

[参考書（ISBN）]
適宜配布

P11200720 [NB2-023]

科目名	成育看護技術演習Ⅱ	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子、内　正子、田村　康子、牛越　幸子、菅野　由美子		

[到達目標]
1.周産期における母子とその家族の看護ニーズを明らかにし、必要な看護援助を展開するための能力を習得する。
2.療養生活を送る子どもの看護ニーズを導き、子どもとその家族の状況に応じた看護計画を立案する能力を修得する。

[授業概要]
成育看護分野における看護過程を学ぶ。
母性看護では、出産後早期にある母子とその家族の事例を用いて、褥婦・新生児・家族について健康状態、母子や家族の関係性、親役割取得の視点から情報の整理、解釈・分析、看護計画立案を行う。これらは教員の助言を受けながらグループワークを中心として展開する。この一連の過程を通し、母性看護の特徴であるウエルネスの視点について学ぶ。
小児看護では、各発達段階とさまざまな状況（急性期や慢性期）に沿った看護を修得するために、多様な子どもの事例を通してグループワークを行う。小児看護における看護過程の概要を学んだ後に、事例を活用して情報収集、分析、看護目標・看護計画の立案、実施のプロセスについてグループワークを行う。情報収集や実施などは学生同士や教員とのロールプレイを通して行っていく。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
小児看護論および母性看護論を復習し、理解しておくこと。

[授業計画]
母性看護における看護過程（下敷領須美子、田村康子、牛越幸子）
1. 講義・演習オリエンテーション：母性領域におけるウェルネス看護診断。4月9日（月）Ⅰ限、F210
2. 全体・グループワーク：事例による情報収集と情報の関連づけ・整理。4月13日（金）Ⅰ限、F210 F305 F306 F307 F308
3. 全体・グループワーク：母子の健康状態や家族発達・ウェエルネスの視点から情報を分析し関連づける。G発表 4月13日（金）Ⅱ限、F210 F305 F306 F307 F308
4. 全体・グループワーク：褥婦・新生児の事例を基に、分析した結果から看護課題を明らかにする。4月20日（金）Ⅰ限、F210 F305 F306 F307 F308
5. 全体・グループワーク：アセスメント、看護課題の発表。4月20日（金）Ⅱ限、F210 F305 F306 F307 F308
6. グループワーク：看護目標と看護計画の立案。4月27日（金）Ⅰ限、F210
7. 看護計画の発表、全体ディスカッション。5月11日（金）Ⅰ限、F210

小児看護における看護過程（内正子、菅野由美子）
8. 講義：小児における看護過程について。グループワーク：情報の整理とアセスメント。４月６日Ⅱ限、F210、F305 F306 F307 F308
9. グループワーク：情報の整理、全体像の作成。５月18日Ⅰ限、F305 F306 F307 F308
10. グループワーク：看護計画の立案。５月25日Ⅰ限、F305 F306 F307 F308
11. グループワーク：発表準備。6月1日Ⅰ限、F305 F306 F307 F308
12. 発表：乳児の事例。6月8日Ⅰ限、F210
13. 発表：幼児の事例。6月8日Ⅱ限、F210
14. 発表：学童の事例。6月15日Ⅰ限、F210
15. 発表：思春期の事例。6月15日Ⅱ限、F210

[成績評価方法]
小児50点：グループ課題（70%）、発表（プレゼンテーション）（10%）、個人課題（20%）
母性50点：グループ課題（40%）、個人課題（40%）、発表（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」第3版　著者名：太田操編著　出版社：医歯薬出版株式会社（ISBN978-4-263-23534-8）

[参考書（ISBN）]
適時資料配布

P11200730 [NB3-017]

科目名	成育看護実習Ⅰ	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、下敷領　須美子、田村　康子、丸山　有希、牛越　幸子、菅野　由美子、岡本　恵、西方　弥生		

[到達目標]
1. 乳幼児との間で援助的人間関係がとれる。
2. 乳幼児の成長・発達が理解できる。
3. 乳幼児の生活について理解できる。
4. 健康な生活のための支援について考察できる。
5. 援助者としての態度、学習姿勢が修得できる。

[授業概要]
既習の生活援助についての知識や技術を地域で生活する子どもへの看護実践に適用し、看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を学ぶ。
具体的には、地域にある保育所・幼稚園において実習を行い、乳幼児とのコミュニケーションを体験し、発達段階における成長・発達、健康な生活のあり方を理解し、その支援について学ぶ。
保育士・幼稚園教諭の乳幼児への接し方や支援を見学し、援助者としての態度を養う。
多職種との連携・協働を通して、看護の役割を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
実習施設の概要やその地域の特性を調べておくこと。
既習の実習を振り返り、援助関係について復習しておくこと。

[授業計画]
事前にオリエンテーションを受けて、実習の進め方、留意事項など理解する。

1. 実習場は神戸市内の保育所・幼稚園とする。
2. 臨地でオリエンテーションを受け、各クラスに配置する。乳幼児が生活する場としての設備や環境について理解する。（1日目）
3. 乳幼児の生活（遊び、食事、更衣、清潔、休息など）を見学し、それぞれの年齢に沿った成長発達について理解する。（2日目、3日目）
4. 乳幼児に対する保育士・幼稚園教諭の活動を理解する。（2日目、3日目）
5. 乳幼児とコミュニケーションを図り、援助的関係を築く。（2日目、3日目、4日目）
6. 保育士・幼稚園教諭の指導の下、生活援助に参加する。（2日目、3日目、4日目）
7. 乳幼児にとっての健康な生活のあり方とその援助について理解する。（3日目）
8. 看護師と保育士・幼稚園教諭との連携や情報共有について理解する。（4日目）
9. 多職種との連携・協働を通して、看護の役割について理解する。（4日目）
10. 看護職としての援助的態度を探索する。（4日目）
11. 実習後にカンファレンスを行い、学びを共有し学びを深める。（5日目）
12. 実習目標の達成度を確認、今後の学習の課題を明らかにする。（5日目）

[成績評価方法]
実習達成度（70%）、課題レポート（20%）、実習態度（10%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
実習要領　著者名：成育看護領域　出版社：小野高速印刷

[参考書（ISBN）]
適宜配布

P11200740 [NB1-011]

科目名	成育看護実習Ⅱ（小児）	前期～後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、丸山　有希、菅野　由美子、西方　弥生		

[到達目標]
1.子どもを全人的に理解することができる。
2.健康逸脱や療養生活が子どもとその家族におよぼす影響を理解することができる。
3.子どもが体験している療養生活について理解し、援助できる。
4.子どもとその家族に対して看護過程を展開することができる。
5.小児医療の中での看護師の役割が理解できる。
6.子どもやその家族と援助的人間関係を築くことができる。
7.看護職として倫理的に判断・行動するための基本的能力を習得することができる。

[授業概要]
小児看護に関する既習の知識・技術を用いて、看護の理論と実践を結び付けて理解できる能力を養う。看護実践の場で、様々な成長発達段階にある子どもの理解、様々な健康状態にある子どもへの看護を学ぶ。
具体的には、子どもが入院している施設で2週間の実習を行い、原則1人の子どもを受け持つ。そして、医療施設で療養する子どもを身体的、心理的、社会的側面から全人的に理解する。子どもとその家族との援助的人間関係を築き、関わりを通して、必要な看護を判断し、安全かつ安心できる看護実践能力の基礎を習得する。
また、子どもと家族がよりよい療養生活を送るための、社会資源や多職種連携のあり方について学び、それらを通して看護師の役割について理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
実習先の医療施設の概要について調べておくこと。
実習に必要な知識、技術の復習をしておくこと。

[授業計画]
事前にオリエンテーションを受けて、実習の進め方、留意事項など理解する。
1.実習の場は子どもが入院している施設とする。
2.病棟の管理者からオリエンテーションを受け、子どもが療養する場としての施設の環境について理解する。（1日目）
3.原則として1人の子どもを受け持つ。（1日目）
4.受け持ちとの援助関係を築き、それを発展させる。（2～9日目）
5.受け持ちを通して、看護過程を展開する。
・子どもとその家族から情報を収集し、アセスメントを行う。（2～4日目）
・看護目標、看護計画を立案し、看護実践を行う。（3～9日目）
・子どもや家族の反応をとらえて、評価を行う。（3～9日目）
・実習内容の記録を行う。（2～9日目）
6.チームの一員としての報告・連絡・相談をする。（2～9日目）
7.受け持ち以外でも、子どもの看護について、可能な限り見学や、体験をし、看護師の役割を理解する。（6～9日目）
8.看護師が多職種と協働している場面に参加する。（6～9日目）
9.実習期間中、1日は外来での実習を行い、継続看護、在宅支援などを理解する。
10.日々の学びを共有するとともに、次の日の課題とそれを解決するための方策をグループで話し合う。（2～8日目）
11.学びの共有と実践の振り返りのため、カンファレンスを行う。（10日目）
12.実習目標の達成度を確認、今後の学習の課題を明らかにする。（10日目）

[成績評価方法]
実習到達度（70%）、レポート（20%）、実習態度（10%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
実習要項　小児看護関連の既習科目の教科書　著者名：小児看護分野　出版社：小野高速印刷

[参考書（ISBN）]
適宜配布

P11200750 [NB3-018]

科目名	成育看護実習Ⅱ（母性）	前期～後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子、田村　康子、牛越　幸子、岡本　恵		

[到達目標]
1.妊産婦と新生児の心身における生理的変化や生活環境が健康状態に及ぼす影響を理解する。
2.妊産婦と新生児の健康課題や健康問題に対する看護援助（アセスメント・計画・実施・評価）を実施する。
3.母児の愛着形成および親役割取得を促進するための援助について理解する。
4.妊娠期・産褥期における教育的支援を理解する。
5.母子と家族に関係する社会資源や制度について考える。
6.これらの目標を通して母性看護の役割とは何かを考える。

[授業概要]
周産期にある母子との関わりや周産期看護に携わる看護職との関わりを通して、母子の生理的変化や心身の適応過程ならびに健康課題・健康問題を理解し、健康状態の維持・促進や親役割を取得するうえで必要な看護の知識・技術・態度を学ぶことを目標とする。母親と同様に親となる過程にあるパートナーやその家族のニーズにも目を向け、看護者としての関わりを考える。実習を通して、母子の健康生活を支援するための保健医療制度・社会資源についても学ぶ。これらを統合して、母性看護における看護師の役割について考察する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
疾病と治療Ⅴ、Ⅵ（周産期学、新生児）、母性看護論、成育看護技術演習Ⅰ、成育看護技術演習Ⅱ、女性の健康増進と看護について復習し、十分理解した上で実習に臨むこと。母性看護技術は自主的練習を行うこと

[授業計画]
病院にて以下の通り2週間の実習を行う。
1.産科病棟では1組の母子を受け持ち、看護過程を展開する。
2.産科外来では妊婦健康診査を受ける妊婦との関わりを通して、妊娠期における心身の経過や適応、出産準備について理解する。
3.病棟および外来での保健指導や周産期に特有な検査、出産準備教育や育児支援活動を見学する。
4.日々のカンファレンスでは、その日の実習を通して得た学びを学生間で共有する。加えて、テーマを決めて討議することにより、疑問や困難の解決や自己の学びの明確化を図り、実習課題の達成に向けた学習を行う。

[成績評価方法]
実習への取り組み（20%）、実習記録（60%）、課題レポート（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
適宜、提示する

P11200760 [NB3-019]

科目名	生活援助論	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	馬場　敦子		

[到達目標]
1. 日常生活援助における看護の役割と枠組みについて述べることができる。
2. 病床環境、衣生活、清潔のニードやそれらが対象者に及ぼす因子について述べることができる。
3. 病床環境、衣生活、清潔への看護援助の意義について述べることができる。
4. 病床環境、衣生活、清潔のニードを充足するための看護援助技術を習得する。

[授業概要]
対象者の個別性に応じた基本的ニードを充足し、健康状態をより望ましい状態に調整する基本的な日常生活援助として、清潔・衣生活、苦痛の緩和・安楽確保の知識と技術について学ぶ。演習においては、看護援助に必要な技術、姿勢を習得するための訓練を行う。また、看護技術の提供および看護の受け手の体験を通し、自身の看護の姿勢が対象者におよぼす影響や看護技術の根拠について考え、生活を援助する意義を理解できるようにする。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
演習時は、「身だしなみチェックリスト」の基準に沿ったヘアスタイル、服装等で授業に参加する。教科書や動画をもとに、必要な知識や手順は理解した上で授業に臨む。演習で行う技術の実施イメージがもてる状態となるまで、事前学習を行う。授業時間以外に技術練習、技術チェックの時間を設けるので参加すること。

[授業計画]
1. 日常生活行動と看護の役割と枠組み:人がもつ基本的ニードの充足という視点から、日常生活援助における看護の専門性について学ぶ。(10/24(水)Ⅲ限)F310
2. 全身清拭・寝衣交換①:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自患者・看護師役となり、技術を実施する。(10/31(水)Ⅲ限)F417・419
3. 全身清拭・寝衣交換②:各自患者・看護師役となり、技術を実施しながら、教員のフィードバックを受ける。(10/31(水)Ⅳ限) F417・419
4. 陰部洗浄①:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自患者・看護師役となり、技術を実施する。(11/7(水)Ⅲ限) F417・419
5. 陰部洗浄②:各自患者・看護師役となり、技術を実施しながら、教員のフィードバックを受ける。
(11/7(水)Ⅳ限) F417・419
6. 全身清拭・寝衣交換、陰部洗浄に関するまとめとグループディスカッション:演習体験をふまえ、安全で心地よい清潔・衣生活援助に求められる視点をつかむ。対象者の健康状態をより望ましい状態に調整するための看護援助の意義について学びを深める。(11/14(水)Ⅲ限) F310
7. 部分浴(手浴・足浴)・爪切り①:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自患者・看護師役となり、技術を実施する。(11/21(水)Ⅲ限) F417・419
8. 部分浴(手浴・足浴)・爪切り②:各自患者・看護師役となり、技術を実施しながら、教員のフィードバックを受ける。(11/21(水)Ⅳ限) F417・419
9. 洗髪①:事前学習を踏まえ、基礎的な知識、技術の手順やポイントを確認する。各自患者・看護師役となり、技術を実施する。(11/28(水)Ⅲ限) F417・419
10. 洗髪②:各自患者・看護師役となり、技術を実施しながら、教員のフィードバックを受ける。
(11/28(水)Ⅳ限) F417・419
11. 安楽を援助する①:ベッド上臥位の人のパーソナルスペースを理解する。「睡眠」への看護援助について考える。(12/5(水)Ⅲ限) F417・419
12. 安楽を援助する②:温・冷罨法について、各自患者・看護師役となり、技術を実施しながら教員のフィードバックを受ける。安楽の援助に関するまとめ。(12/5(水)Ⅳ限) F417・419
13. 部分浴、爪切り、洗髪、安楽への援助に関するまとめとグループディスカッション:演習体験をふまえ、対象者に安全で心地よい体験をもたらす看護援助の視点をつかむ。対象者の健康状態をより望ましい状態に調整するための看護援助の意義について、自身の言葉で説明できるようにする。(12/12(水)Ⅲ限)F310
14. 日常生活に関する看護計画立案①:課題事例に対し、必要な日常生活に関する看護計画を立案する。(12/19(水)Ⅲ限) F417・419
15. 日常生活に関する看護計画立案②:立案した看護計画を発表し、日常生活援助に関する看護の学びを深める。(12/19(水)Ⅳ限) F417・419
16. 試験 (1/9(水)Ⅲ限)

[成績評価方法]
授業への取り組み(40%)、課題レポート(20%)、試験(40%)
＊指定の技術チェックへの合格を単位認定の必須条件とする。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「看護の基本となるもの」 著者名:ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳、 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-818-01996-6)
「≪系統看護学講座 専門分野Ⅰ≫基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(第17版) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-02760-1)
「看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32511-9)
「看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32459-4)
「フィジカルアセスメントがみえる」 著者名:医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア (978-4-896-32566-9)

[参考書(ISBN)]
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 著者名:編集:任和子　秋山智弥、編集協力:京都大学医学部附属病院看護部 出版社:医学書院 (978-4-260-01928-6)
「新版　生活健康科学」 著者名:小田切陽一・飯島純夫・小山勝弘・石原逸子共著 出版社:三共出版 (978-4-7827-0618-3)
「≪系統看護学講座 専門分野Ⅰ≫基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(第16版) 著者名:有田清子他 出版社:医学書院 (978-4-260-01999-6)
適宜指示、および適宜プリントを配布する。

P11200220 [NB1-005]

科目名	生活概論	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ、野並　葉子、馬場　敦子		

[到達目標]
　看護の対象である人間を、豊かな感情を持ち、相互関係の中で育まれ、社会生活を営む生活者として捉え、生活を構成するさまざまな要素と健康の関係や、健康レベルの低下した生活者に対する看護援助についての基礎的知識を理解する。

[授業概要]
　看護の対象となる人間を生活者の視点で捉え、生活の概念規定や生活と健康との関係について学び、健康レベルの低下した生活者に対する看護援助の必要性を理解する。また、自己の生活体験を見つめ、身近な人と比較することで日常生活行動の個別性を知り、生活者に対する理解を深める。さらに、生活者を個人・家族・集団・地域の視点で捉え、健康増進や改善を目指す教育方法について理解する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　自分自身の日常生活を振り返るとともに、家族や友人の日常生活と比較して、問題点や改善点を見つけておくこと。

[授業計画]
1. 日常生活が健康に及ぼす影響について、自身や身近な人の体験から考察する(東ますみ)　4/6
2. 人々を取り巻く生活環境(公共交通機関、上下水道、買物、働く場所等)と健康の関わりを学び、改善点を明らかにする(東ますみ)　4/13
3. 看護は、生活(食・排泄、睡眠・休息、清潔、運動)の観点から人々の健康を支えるという基本を学ぶ(東ますみ)　4/20
4. 住環境や療養環境が健康に及ぼす影響について、参加観察の手法を用いて考察する(東ますみ)　4/27
5.「働くこと」が健康を支えることであり、また「働くこと」で不健康になることの意味について深く学ぶ(東ますみ)　5/11
6. 看護職は対象者を生活の側面から支援する専門家であることを理解し、生活及び生活者の概念について学ぶ(野並葉子)　5/18
7. 教科書「看護の基本となるもの」をもとに、人の基本的欲求について学ぶ(野並葉子)　5/25
8. 社会システムの中で、個人・家族・集団・地域の健康増進や改善のための具体的な方法について学ぶ(馬場敦子)　6/1
9. 試験　6/8
教室　F310

[成績評価方法]
試験(70%)、授業態度(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「新版　生活健康科学」 著者名:小田切陽一　他3名共著　出版社:三共出版 (978-4-7827-0618-3)
「国民衛生の動向　2017/2018年版」 出版社:一般財団法人厚生労働省統計協会
「看護の基本となるもの」再新装版　著者名:ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳、 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1996-6)
適宜プリントを配布する。

[参考書(ISBN)]
「系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔1〕看護学概論」16版　著者名:茂野香おる　出版社:医学書院 (978-4-260-02181-4)
必要に応じて適宜紹介する。

P11200210 [NB1-004]

科目名	精神看護支援技術演習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	大谷　利恵、玉木　敦子		

[到達目標]
1. 精神科領域における治療的アプローチと看護の役割について理解できる。
2. さまざまな精神障がいの病態、症状、治療などが生活や対人関係に及ぼす影響と、精神障がいをもつ人の体験が理解できる。
3. 精神健康状態のアセスメント技術が理解できる。
4. 精神障がいをもつ人への看護実践について、セルフケアモデルに沿ったアセスメントと看護援助方法が理解できる。
5. ロールプレイやプロセスレコードを用いて、他者理解、自己洞察、相互作用の理解を深めながら、人間関係を構築するための態度とコミュニケーション技術を習得する。

[授業概要]
さまざまな精神障がいの病態、症状、治療などが生活や対人関係に及ぼす影響と、精神障がいをもつ人の体験を理解する。また精神障がいをもつ人への看護実践について、精神健康状態のアセスメント技術、セルフケアモデルに沿ったアセスメントと看護援助方法を学ぶ。さらにロールプレイやプロセスレコードを用いて、他者理解、自己洞察、相互作用の理解を深めながら、人間関係を構築するための態度とコミュニケーション技術を習得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
指示された授業前課題ワークシートを必ず行って授業に臨むこと、また授業内容を復習すること。
精神障がいをもつ人の体験について、手記やドキュメンタリー・映画を積極的に視聴し理解に努めること。

[授業計画]
1. 精神科領域における治療的アプローチと看護援助を概観する（玉木敦子）9/21（金） 1限
2. 精神状態をアセスメントする方法を事例と視覚教材を用いながら具体的に学ぶ（玉木敦子）9/21（金） 2限
3. 急性期の統合失調症患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ（大谷利恵）9/26 3限
4. 慢性期の統合失調症患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ（大谷利恵）9/26 4限
5. 気分障害をもつ患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ（大谷利恵）10/3 3限
6. 不安障害をもつ患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ（大谷利恵）10/3 4限
7. 発達障害をもつ患者について、障害特性が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ（玉木敦子）10/10 2限
8. アルコール依存症患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ（大谷利恵）10/10 3限
9. パーソナリティ障害をもつ患者について、症状や治療が生活に及ぼす影響を理解し、必要とされる看護援助を学ぶ（大谷利恵）10/10 4限
10. 患者-看護師関係と治療的コミュニケーションについて、ロールプレイを通して体験的に学ぶ（大谷利恵）10/17 3限
11. プロセスレコードを用いたコミュニケーション演習を行い、治療的コミュニケーションについて学ぶ（大谷利恵）10/17 4限
試験　10/24 3限
12. 精神看護における看護展開について少人数グループで事例演習を行う（①患者情報をセルフケアモデルに基づいて整理する）（大谷利恵）10/24 4限
13. 精神看護における看護展開について少人数グループで事例演習を行う（②セルフケアモデルに基づいたアセスメントを行う）（大谷利恵）10/31 3限
14. 精神看護における看護展開について少人数グループで事例演習を行う（③アセスメントに基づいて看護援助を考察する）（大谷利恵）10/31 4限
15. 精神看護における看護展開について少人数グループで事例演習を行う（④事例演習のまとめ）（大谷利恵）11/7 2限

[成績評価方法]
試験（70%）、レポート（30%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「精神看護学Ⅰ―精神保健学―　第6版」 著者名：吉松和哉・小泉典章・川野雅資　編集　出版社：ヌーヴェルヒロカワ （978-4-86174-064-0）
「精神看護学Ⅱ―精神臨床看護学―　第6版」 著者名：川野雅資　編集　出版社：ヌーヴェルヒロカワ （978-4-86174-065-7）
「精神看護学―学生-患者のストーリーで綴る実習展開　第2版」 著者名：田中美恵子　編著　出版社：医歯薬出版株式会社 （978-4-263-23673-4）
「僕らのことばをぽけっとに」 著者名：こころの絵本プロジェクト実行委員会　特定非営利法人すまみらい

[参考書（ISBN）]
なし

P11200590 [NB2-017]

科目名	精神看護論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子、大谷　利恵		

[到達目標]
1.精神看護学の定義、目標がわかる。
2.精神看護学の基盤となる理論や知識（心に関する諸理論、対人関係理論、セルフケア理論など）が理解できる。
3.精神医療保健福祉に関する法制度、歴史・現状と課題が理解できる。
4.精神保健医療福祉におけるチームアプローチと他職種との連携、看護の役割について理解できる。
5.精神科病棟、地域精神保健、リエゾン精神看護などさまざまな場における精神看護の役割と機能について考察を深める。

[授業概要]
精神看護学の定義と目標、精神看護実践の基盤となる理論や知識（心に関する諸理論、対人関係理論、セルフケア理論など）、倫理的態度について学ぶ。また精神医療保健福祉に関する歴史、法制度、精神医療におけるチームアプローチと他職種との連携について学ぶ。さらに精神障がい者と家族を取り巻く現状、サポートシステムを学び、課題を検討する。精神科病棟、地域精神保健、リエゾン精神看護などさまざまな場における精神看護の役割と機能について考察を深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　授業内容の復習と、次回の予習をすること。自分自身や家族の心の健康、また精神状態と生活との関連に関心を持って授業内容の理解に努めること。

[授業計画]
1.精神看護学の定義と目標を学び、精神看護に必要とされる知識と技術を概観する（玉木敦子） 4/6
2.精神力動論に基づいてこころの働きを心理学的側面から理解する（玉木敦子） 4/13
3.視聴覚教材を用いて、脳科学的視点からこころの働きを理解する：（玉木敦子） 4/20
4.患者-看護師関係と治療的コミュニケーションに関する理論を理解し、それに基づいた精神看護の実践を学ぶ（玉木敦子） 4/27
5.心身相関の考え方を基盤に身体疾患をもつ人の心のケアを実践・研究するリエゾン精神看護の役割と実践の基本について学ぶ（兵庫県立大学・竹原歩先生）（玉木敦子） 5/11
6.セルフケア理論を理解し、それに基づいた精神看護の実践を学ぶ（玉木敦子） 5/18
7.リカバリーモデルを理解し、それに基づいた精神看護の実践を学ぶ（玉木敦子） 5/25
8.ウィメンズ・メンタルヘルスについて学ぶ（玉木敦子） 6/1
9.視聴覚教材や体験記を用いて、精神障がいをもつ人とその家族の体験を理解する（大谷利恵） 6/8
10.精神障がいをもつ患者の看護援助の実際について、当事者の体験から理解する（大谷利恵） ※ゲストスピーカー 6/15
11.精神医療保健福祉に携わる多職種の役割やチームアプローチについて学ぶ（大谷利恵） 6/22
12.精神障害のある人とその家族の体験をもとに家族への看護援助を学ぶ（玉木敦子） 6/29
13.精神障害のある児童・思春期の患者への看護について学ぶ（玉木敦子） 7/6
14.精神保健医療福祉の現状を概観し、課題と看護の役割について検討する（玉木敦子） 7/13
15.精神看護におけるリスクマネジメントと人権擁護について学ぶ（玉木敦子） 7/20
16.試験 7/27

[成績評価方法]
テスト（80%）：小テスト15%、期末テスト65%
レポート（20%）
＊20分以上の遅刻は欠席として取り扱う

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「精神看護学Ⅰ 第6版」 著者名：吉松和哉他編集　出版社：ヌーヴェルヒロカワ （978-4-86174-064-0）
「精神看護学Ⅱ 第6版」 出版社：ヌーヴェルヒロカワ （978-4-86174-065-7）
精神看護学第2版―学生-患者のストーリーで綴る実習展開　出版社：医歯薬出版株式会社 （978-4-263-23673-4）
「僕らのことばをぽけっとに」 著者名：こころの絵本プロジェクト実行委員会　特定非営利法人すまみらい

[参考書（ISBN）]
なし

P11200570 [NB2-016]

科目名	生命倫理	後期	2 単位
サブタイトル	多様な生死観と倫理観		
担当者	狩野　恭		

[到達目標]
生命倫理について多様な考え方があることを学ぶ

[授業概要]
まず、「倫理」とは何かを考えます。「人〔場合によっては人以外の生き物〕にかかわる善悪の論理」そこには様々な問題があります。それらの問題を考えるてがかりとして、西欧の倫理思想、インドの倫理思想、中国の倫理思想を概観します。さらに、生きとし生けるものの「生命」、人間の「生命」についても同様に考えます。思想史をふりかえってみると「生命」に対する考え方にも様々なものがあったことがわかります。＜いのち＞の連鎖、かけがえのない＜いのち＞、＜魂＞などなど。その上で、具体的に、臓器移植、中絶、安楽死など現実の問題について考えてみます。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
各回での内容を復習し、与えられた課題について次回の授業までに、考えをまとめておくこと。

[授業計画]
1.「哲学」と「倫理学」：生命倫理を考える上で基礎となる哲学一般について簡単に学び、さらに、倫理学との関係を理解する。
2.「倫理」とは何か？：「倫理」には「善」「自由」「意志」など様々な要素があることを学ぶ。
3. 西洋の倫理思想：キリスト教的倫理思想について学ぶ。
4. 東洋の倫理思想：仏教や儒教的倫理思想について学ぶ。
5.「生命」「いのち」「魂」①（二元論）：＜身体＞と＜こころ＞＜生命＞との関係について様々な考え方があることを学ぶ。
6.「生命」「いのち」「魂」②（生命の連続）：出産、遺伝子など生命の連続性について考える。
7. 西洋の生死観：主としてキリスト教的世界観のなかで、「生」と「死」がどのように考えられてきたかを学ぶ。
8. 東洋の生死観：主としてインド的世界観（輪廻転生）の中で、「生」と「死」がどのように考えられてきたかを学ぶ。
9. 出産：＜生命を生み出す＞ことの意味と覚悟を女性の立場から考える。
10. 中絶：＜生命を断つ＞ことの意味をさまざまな倫理から考える。
11. 安楽死：「安楽死」をとおして「生きる」質と量と価値との関係を考える。
12. 脳死と臓器移植：「死」をどのように定義し、どのように他の生に生かせるかを考える。
13. 人間の生命と生態系：人間が他の生命体と共存する道について考える。
14. 生命と環境問題：生命体とそれを取り巻く環境との関係について考える。
15. まとめ

[成績評価方法]
毎回のレポート(70%)、最終レポート,・試験(30%)

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
プリント資料を配布する。

[参考書（ISBN）]
授業中に紹介する。

P11200030 [NI1-001]

科目名	総合実習（地域・在宅）	前期	4 単位
サブタイトル			
担当者	魚里 明子、東 ますみ、野並 葉子、藤田 冬子、玉木 敦子、横内 光子、内 正子、下敷領 須美子、笹谷 真由美、田村 康子、丸山 有希、小路 浩子、馬場 敦子、福山 敦子、大谷 利恵、藤原 由子、元木 絵美、牛越 幸子、菅野 由美子、小林 愛、髙橋 秋絵、服部 めぐみ、溝畑 智子、奥井 早月、鷲田 幸一、岡本 恵、西方 弥生		

[到達目標]
1. 対象者を全人的に理解し、健康課題と生活との関連性を考えることができる
2. 対象の特性に応じた計画的な看護を実践しながら、地域・在宅における看護の継続性を考えることができる
3. 対象者の生活背景に応じた援助、社会資源の活用、多職種や多施設との連携・調整を学ぶことができる
4. 実習での体験や学びとこれまで学んだ知識や技術を統合し、看護専門職としての役割を考察することで、自己の課題を明らかにすることができる

[授業概要]
地域で生活しているさまざまな健康レベルの対象者を全人的に理解し、その特性に応じた計画的な看護を実践する能力を養うとともに、地域・在宅における看護の継続性を学ぶ。保健医療福祉施設における入退院調整や地域・在宅での看護活動の場面にできるだけ参加し、生活背景に応じた援助、社会資源の活用、多職種や多施設との連携・調整などさまざまな看護活動を学び、担当する対象者への看護に統合していく。また、看護専門職としてさまざまな健康レベルの対象者やその人を取り巻く保健・医療・福祉システムにおける課題を見出だし、よりよい看護を実践するための視点と態度を養う。さらに、実習での体験や学びとこれまでに学んだ知識や技術を統合し、看護専門職としての役割を考察することで、自己の課題を明らかにする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
事前に実習する施設の利用者の特徴を調べ、利用者の看護を行うための事前学習をしたうえで臨むこと。健康状態を十分調整したうえで参加すること。

[授業計画]
・原則として、複数の対象者を受持ち、個別的な看護過程を展開する。
・地域・在宅における看護の継続性を視野に入れながら看護過程を学ぶ。
・学生は対象者の支援チームや多職種とのコミュニケーションをとり、チームカンファレンスやミーティングに参加できるよう調整する。
・学生の受け持つケースへのカンファレンスに可能な限り参加し、看護援助の検討、調整について学ぶ。
・地域・在宅における看護の継続性について理解できるよう、地域連携の場面や専門外来の見学などに可能な限り同席する。
・患者教育、健康教育、保健指導などの場面に可能な限り参加し、それらの実際や主体的な健康の維持・増進を促すための取り組みについて学ぶ。
・保健医療施設における退院調整や地域・在宅での看護活動の場面などに可能な限り同行し、地域で人がどのように療養し、どのような援助が必要であるかを学ぶ。

[成績評価方法]
実習のねらいに関する到達度（80%）レポート・記録物の提出（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
各教員から適宜提示する。実習要項、プリントは別途配布する。

[参考書（ISBN）]
適宜指導教員が紹介する。

P11200870 [NB4-010]

科目名	地域看護活動論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	小路　浩子		

[到達目標]
1.地域看護および公衆衛生看護活動における看護の基本と展開方法を理解する。
2.各ライフステージ、発達課題、健康レベル、場の特性に応じた保健活動を理解する。
3.対象別保健活動の法的根拠や制度、関係機関との連携、社会資源の活用について理解する。

[授業概要]
わが国における健康課題と地域特性・対象特性との関連を理解すると共に、課題解決にむけた地域看護活動を学ぶ。地域で生活しているさまざまな健康レベル・ライフステージにある対象の特性にあわせて展開されている看護活動を学ぶ。さらにグローバルな視点を持つために、国際・災害看護についても学ぶ。母子保健・成人保健・高齢者保健・精神保健・障害者（児）保健・難病保健・感染症対策・国際看護・k健康危機管理（災害看護含む）・産業保健・学校保健におけるヘルスケアシステムや施策、関係法規、社会資源等と保健活動を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。

[授業計画]
1.(4/6金4限)地域看護の考え方と位置づけ：各ライフステージにおける発達課題と看護、ライフステージ　における保健・医療・福祉の構造、法律・制度を理解する
2.(4/6金5限)母子保健における発達課題、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ
3.(4/13金4限)成人保健における発達課題、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ
4.(4/20金4限)高齢者保健における発達課題、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ
5.(4/20金5限)難病保健における難病の定義、社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ
6.(4/27金4限)国際看護における社会背景、法律、制度、保健活動について学ぶ
7.(4/27金5限)在宅ケア・在宅看護における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ
8.(5/11金4限)障害者（児）保健における障害の定義、主要な概念、社会背景、法律、制度、　保健活動　の展開を学ぶ
9.(5/11金5限)産業保健における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ
10.(5/18金4限)感染症対策における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ
11.(5/18金5限)精神保健福祉における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ（学外特別講　　師：行政機関の精神保健担当保健師・主担当も同席）
12.(5/25金4限)地域看護活動の現状と課題について考察する
13.(6/1金4限)健康危機管理における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ
14.(6/1金5限)学校保健における社会背景、法律、制度、保健活動の展開を学ぶ
15.(6/8金4限)まとめ
16.(6/8金5限)試験
使用教室　F210

[成績評価方法]
試験（70%）、小テスト・レポート課題（30%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「標準保健師講座　対象別公衆衛生看護活動」第4版　著者名：松田正己　出版社：医学書院　(978-4-260-03187-5)
「国民衛生の動向2015/2016」厚生統計協会

[参考書（ISBN）]
「看護法令要覧」2018年版　著者名：勝又浜子他　出版社：日本看護協会出版会
「新版　保健師業務要覧」2018年版　出版社：日本看護協会出版会

P11200360 [NB3-006]

科目名	治療看護論	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	元木　絵美		

[到達目標]
1.看護ヘルスアセスメントの意義と重要性を理解できる。
2.授業で学んだフィジカルアセスメントを含む身体・生活・心理的な変化を捉える技術を正確かつ安全に実施できる。
3.薬物療法を中心とする治療支援方法（薬物療法や効果判断に関する検査、治療選択における自己決定、病気を捉えていくうえでの情報管理など）について学習し、対象者の理解に必要な看護ヘルスアセスメントを考えられる。

[授業概要]
適切な治療や看護を行うためには、人は自らの病気や症状をどのように受け止めているかといった、その人独自の病気の体験をつかんでおく必要がある。本科目では、生理学や病態学で学んだ知識を活用して人の病気の体験を理解する方法を学び、人の健康回復を支援するために必要な知識と技術を習得することを目的とする。具体的にはフィジカルアセスメントを含んだ看護ヘルスアセスメントを実践できるよう、身体・生活・心理的な変化を捉える技術、薬物療法を中心とする治療支援、治療選択における自己決定、病気を捉えていくうえでの情報管理などについて学習する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
既習科目の中でも特に、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、看護学概論、生活概論、生活援助論を復習すること。同学期に学ぶ疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学との関連にも関心を持って参加すること。

[授業計画]
1.看護ヘルスアセスメントの概念と目的　ヘルスアセスメントの概念や目的を学び、ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの違いを考える。(4/11・3限・F304)
2.身体の変化を捉える技術1-1呼吸器機能をアセスメントする。（肺や気管など呼吸器系の変化に伴っておこる身体・生活・心理的な変化を考える。）(4/18・3限・F304とF417)
3.身体の変化を捉える技術1-2呼吸器機能をアセスメントする。（呼吸機能に問題を抱える患者のヘルスアセスメント技術を演習で習得する。）(4/18・4限・F417)
4.身体の変化を捉える技術2-1循環器機能をアセスメントする。
（心臓や血管は生体に酸素や栄養の供給を行う役割を持ち、呼吸器系と同じく生命維持には欠かせない。循環器系の変化に伴っておこる身体･生活・心理的な変化を検討する。）(4/25・3限・F304とF417)
5.身体の変化を捉える技術2-2循環器機能をアセスメントする。（循環器機能に問題を抱える患者のヘルスアセスメント技術を演習で習得する。）(4/25・4限・F417)
6. 身体の変化を捉える技術3-1消化器機能をアセスメントする。
（口から肛門までつながる消化器は、生体の栄養供給に不可欠である。消化器系の変化に伴っておこる身体・生活・心理的な変化を考える。）(5/2・3限・F304とF417)
7. 身体の変化を捉える技術3-2消化器機能をアセスメントする。（消化器機能に問題を抱える患者のヘルスアセスメント技術を演習で習得する。）(5/2・4限・F417)
8.身体の変化を捉える技術4-1脳神経/知覚/運動機能をアセスメントする。（脳神経や運動器の変化に伴っておこる身体・生活・心理的な変化を考える。）(5/16・3限・F304とF417)
9.身体の変化を捉える技術4-2脳神経/知覚/運動機能をアセスメントする。（脳神経や運動機能に問題を抱える患者のヘルスアセスメント技術を演習で習得する。）(5/16・4限・F417)
10.身体の変化を捉える技術5-1皮膚/リンパ系/生殖器をアセスメントする。（皮膚やリンパ、生殖器系の変化に伴っておこる身体・生活・心理的な変化を検討する。(5/30・3限・F304とF417)
11.身体の変化を捉える技術5-2皮膚/リンパ系/生殖器をアセスメントする。（皮膚、リンパ系、生殖器機能に問題を抱える患者のヘルスアセスメント技術を演習で習得する。(5/30・4限・F417)
12. 身体・生活・心理的な変化を捉える技術のひとつである、面接による問診の技術を学ぶ。(6/6・3限・F304とF417)
13.治療支援の実際　急に倒れた人に対して、その場に居合わせた人が救急隊や医師に引継ぐまでの間に行う応急手当のことを一次救命処置（Basic Life Support：BLS）という。成人および子どもを対象としたBLSに必要な知識と、適切な技術を学ぶ。(6/6・4限・F417)
14.治療支援の実際　リウマチ膠原病の薬物療法について学び、リウマチ膠原病患者の身体・生活・心理的な変化を捉える技術を学ぶ。。(Aクラス：6/13・3限・F419、Bクラス：6/13・4限・F419)
15.治療支援の実際　がん化学療法治療について学び、がん化学療法を受けている患者の身体・生活・心理的な変化を捉える技術を学ぶ（Aクラス：6/13・4限・F304、Bクラス：6/13・3限・F304）
16.筆記試験（6/20・3限・F304）

[成績評価方法]
筆記試験（60%）、授業への参加状況（30%）、授業中の課題やレポート（10%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「日常生活行動からみえるヘルスアセスメント 第1版」,2016　著者名：大久保暢子　出版社：日本看護協会出版会 (978-4-8180-1985-0)
「フィジカルアセスメントがみえる 第1版」,2015　著者名：医療情報科学研究所 (編集)　出版社：メディックメディア (978-4-89632-566-9)

[参考書（ISBN）]
「実践基礎看護学」,2002　著者名：中西睦子監修　出版社：建帛社 (978-4767934013)

P11200550 [NB2-015]

科目名	治療療養支援技術演習	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美		

[到達目標]
1.看護技術の対象となる人の身体機能や生活に合わせた看護技術の展開を、考えることができる。
2.演習で学んだ看護技術を、練習用モデル人形に正確に実施することができる。
3.看護技術の根拠を追求する姿勢や、仲間と協力して学ぶ態度を身につけることができる。

[授業概要]
本科目では、医療機関で治療を受ける人の健康回復に必要な看護技術（与薬、静脈内注射、筋肉注射、輸液管理、酸素療法、吸引、導尿）と、健康状態をモニタリングするために必要な看護技術（静脈採血、心電図）の習得を目指す。さらに、看護技術の対象となる人の身体機能や生活に合わせて看護技術を展開することができるよう、看護技術の根拠を追求する姿勢や態度についても学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
既習科目のなかでも特に、人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、看護学概論、生活概論、生活援助論、疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学を復習しておくこと。

[授業計画]
1.静脈採血に関する知識（Aクラス:4/11・1限・F205／Bクラス：4/11・2限・F205）
医療機関で静脈採血が必要とされる状況を知り、静脈採血を安全に行うために必要な知識を学ぶ。また採血や注射に使用する道具の選び方、針を穿刺する部位や刺入角度など静脈採血技術のポイントを学び、練習用モデル人形に行う。
2.心電図（Aクラス：4/11・2限・419／Bクラス：4/11・1限・F419）
心電図を記録する目的を知り、心電図を記録する方法と心電図の読み方を学ぶ。
3. 清潔操作（Aクラス：4/18・1限・F210／Bクラス4/18・2限・F210）
医療器材を適切に使用するために必要な消毒と滅菌、清潔区域と不潔区域などの定義を学び、目的に応じて必要な無菌操作を実施できるよう、滅菌物の取り出しや滅菌包みの開け方、滅菌手袋を装着する技術のポイントを学ぶ。
4.静脈採血（Aクラス：4/18・2限・F419／Bクラス：4/18・1限・F419）
1で学んだ知識と技術を活用し、静脈採血を学生同士で行う。
5.筋肉注射（Aクラス：4/25・1限・F205／Bクラス：4/25・2限・F205）
筋肉内に薬物を安全に注入するために必要な知識を学ぶ。アンプルからの薬液の吸い上げ、滅菌操作針を穿刺する部位と刺入角度、筋肉内に薬液を注入する速度や主な合併症など筋肉注射技術のポイントを学び、練習用モデル人形に行う。
6.静脈内注射（Aクラス：4/25・2限・F419／Bクラス：4/25・1限・F419）
静脈内に薬物を安全に注入するために必要な知識を学ぶ。バイアルからの薬液の吸い上げ、滅菌操作、翼状針の固定方法と薬液を注入する速度や主な合併症など、静脈内注射技術のポイントを学び、練習用モデル人形に行う。
7.技術チェック①（5/2・1限・F419とF421とF210）
これまで学習した採血、心電図の手順や技術ポイントを踏まえて練習用モデル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。
8.技術チェック②（5/2・2限・F419とF421とF210）
これまで学習した筋肉注射、静脈内注射技術の手順や技術ポイントを踏まえて練習用モデル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。
9. 吸引（Aクラス：5/16・1限・F419／Bクラス：5/16・2限・F419）
人工呼吸器を装着しているなど、呼吸機能の低下や障害に対して治療を受けている患者を対象とした吸引技術に必要な知識と技術ポイントを学び、練習用モデル人形に行う。
10.輸液管理（Aクラス：5/16・2限・F205／Bクラス：5/16・1限・F205）
輸液療法が必要になる患者の状態を理解し、輸液を管理するために必要な知識と学ぶ。人の体液バランスの計算のしかた、輸液療法に関する滴下数を調整する技術や側管から薬物を注入する技術のポイントを学び、練習用モデル人形に行う。
11. 導尿・膀胱留置カテーテル法（Aクラス：6/6・1限・F417／Bクラス：6/6・2限・F417）
膀胱留置カテーテル法による導尿が必要になる患者の状態を理解し、合併症を予防するなど安全に導尿を行うための知識を学ぶ。滅菌操作、患者の羞恥心や苦痛への配慮など導尿技術のポイントを学び、練習用モデル人形に行う。
12. 酸素療法（Aクラス：6/6・2限・F419／Bクラス：6/6・1限・F419）
酸素吸入療法が必要になる患者の状態を理解し、酸素吸入療法を効果的に行うための知識と技術のポイントを学ぶ。酸素吸入療法に使用される道具や、酸素ボンベの扱い方についても学ぶ。
13. 技術チェック③（6/13・1限・F417と419とF421とF210）
これまで学習した、輸液管理、吸引の手順や技術ポイントを踏まえて練習モ用デル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。
14.技術チェック④（6/13・2限・F417と419とF421とF210）
これまで学習した、導尿、酸素療法技術の手順や技術ポイントを踏まえて練習用モデル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。
15.最終技術チェック（6/20・2限・F419とF421）
これまで学習した看護技術の手順や技術ポイントを踏まえて練習用モデル人形に実施し、教員からフィードバックを受ける。
16.筆記試験（6/20・1限・F210）

[成績評価方法]
筆記試験（30%）、技術チェックの結果（40%）、演習への参加態度と事前学習や事後学習
提出状況（30%）を総合して評価を行う。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第1版,2014　著者名：任和子／秋山智弥編集　出版社：医学書院 （978-4-260-01928-6）
「系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　第16版」,2013　著者名：任和子編集　出版社：医学書院 （978-4-260-01579-0）

[参考書（ISBN）]
なし

P11200560 [NB3-011]

科目名	特別化学	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	上曽山　博		

[到達目標]
高等学校で学んだ化学の基礎を整理・復習すると共に、専門科目に必要な基礎知識としての化学を理解する。

[授業概要]
生物は数多くの物質によって構成されていることから、今後、生化学を学ぶ上での基礎となる有機、無機化学について知識を深める為に、主に有機化学について講義を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
毎回、前回の授業内容についての小テストを行うので、授業内容の理解を深めておくこと。

[授業計画]
1. はじめに
2. 元素
3. 分子と原子
4. 化学結合
5. 炭素化合物
6. 有機化合物－糖質
7. 有機化合物－脂質
8. 有機化合物－アミノ酸
9. 有機化合物－タンパク質
10. 核酸
11. 酸と塩基
12. 化学平衡
13. 拡散
14. 化学反応
15. まとめ

[成績評価方法]
講義毎の小テスト（40%）、試験（60%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11200020 [NS1-001]

科目名	特別生物	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	上曽山　博		

[到達目標]
専門科目の理解に必要不可欠な生物学の基本的な知識を理解する。更に医療現場に導入されつつある先端バイオ技術に対応できるように、細胞生物学や分子生物学についても理解する。

[授業概要]
医療関連の職種において必要不可欠な生物学の基礎的および発展的な知識や生命の基本となる細胞とその活動について講義を行う。又、最近の医療現場の状況をふまえて、最新の細胞生物学や分子遺伝学についても述べる.。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
毎回、前回の授業内容についての小テストを行うので、復習をしておくこと。

[授業計画]
1. はじめに
2. 生命の起源
3. 細胞の生物学
4. 電子伝達系
5. 酵素と反応速度
6. 遺伝子と遺伝情報
7. 遺伝子の構造と発現
8. 細胞分裂と分化・再生
9. 組織と階層性
10. 情報伝達
11. 消化・吸収
12. ホメオスタシス
13. 生体防御機構
14. 遺伝子組換え
15. まとめ

[成績評価方法]
講義毎の小テスト（40%）、試験（60%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11200010 [NB1-001]

科目名	発達心理学	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	伊藤　篤		

[到達目標]
　生涯にわたって発達する人間の姿を個人・集団（組織）・地域社会のエンパワメントという観点から理解できるようになる。

[授業概要]
　従来、人は成人期を過ぎると様々な面で衰退すると捉えられていた。しかし、私たちは加齢とともに、自己の変化と外界との関係を踏まえて、最適な行動を選択・工夫することによって自己を発達させつづける存在であることが明らかにされてきた。そこで、期間の前半は、科学的根拠にもとづきながら、成人期に至るまでの乳幼児・子ども・青年がどのように自己を発達させていくのかを、彼らが育つ環境（家庭環境や教育環境など）のあり方との関係の中で論じていく。期間の後半は、大人が就職、結婚・出産・育児、子の独立、退職などの重要なライフイベントを契機に、どのように自己を発達させていくのかを、社会の変化も踏まえながら論じる。最終的には、人の外界に対する統制感（自己決定）と積極的社会参加が、生涯発達にとって主要な機能であることを理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　授業の予定に応じて、事前にキーワード調べ（所定用紙に記入し授業開始時に提出）を課す。

[授業計画]
1. オリエンテーション／発達心理学を学ぶ意義
2. 自ら環境に働きかける乳幼児（1）：ひと・もの・ことの理解
3. 自ら環境に働きかける乳幼児（2）：社会の一員となっていく過程
4. 自己理解・他者理解にもとづく子どもの社会性
5. 多様な学びを通して発達する子どもの有能さ
6. 教育システムを通した子ども・青年の自己形成
7. これまでの自分とこれからの自分のはざまで悩む青年
8. 講義前半のまとめ（＋中間コメント）
9. 大人の自己形成（1）：就業を契機とした役割アイデンティの発達
10. 大人の自己形成（2）：学校での有能さ・職場での有能さ
11. 大人の自己形成（3）：妊娠・出産・育児と女性のエンパワメント
12. 大人の自己形成（4）：育児・家事参加を通した男性のエンパワメント
13. 大人の自己形成（5）：ワークライフバランスと夫婦関係の成熟
14. 大人の自己形成（6）：地域活動への参加を通したエンパワメント
15. 講義全体のまとめ（＋最終コメント）

[成績評価方法]
予習として課す「キーワード調べ」の内容（30%）、毎回の講義時間の最後に記述・提出する「ミニコメント」の内容（40%）、講義期間の中ごろに提出する「中間コメント」の内容（10%）、「最終コメント」の内容（20%）によって評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
教科書は使用しない。毎回、講義内容に応じたレジメ・資料を配布する。

[参考書（ISBN）]
講義の進展に応じて、適宜講義中に参考文献・資料等を紹介する。

P11200040 [NH1-001]

科目名	フィジカルフィットネス	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	野之上　操		

[到達目標]
日常生活に必要な健康や体力の維持・向上を図る。

[授業概要]
より良く幸せで充実した人生を送るためには、多様な面から探求し実践していくことが必要である。古来より、「心身一如」や「健全なる精神には健全なる肉体が宿る」といわれるように、体と心は一対のものとして考えられてきた。昨今は、ストレス社会といわれ、心身のバランス（ボディ・マインド・スピリチュアル）の大切さをただ単に頭で理解しているだけではなく、自分のからだと対話することが求められている。それは、自身の体の気づきと心の気づき・・・この「気づき」学習の方法として、主に太極拳動作を用いての身体操作法、呼吸法、ヨガや気功法（中国医療気功）等を学び、人間本来が持っている自然治癒力を高め、良い生活習慣を身につけることを実践していく。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業に体調よく参加できるように日々の生活を送ること。

[授業計画]
1. 基本姿勢・呼吸法について （9/27）
2. 太極拳基本動作実践(1) （10/4）
3. 太極拳基本動作実践(2) （10/11）
4. 中国医療気功実践(1) （10/18）
5. 中国医療気功実践(2) （10/25）
6. ヨガ基本と実践(1) （11/1）
7. ヨガ基本と実践(2) （11/8）
8. まとめ （12/20）

[成績評価方法]
毎回授業後の振り返りレポート（50%）、実技（30%）、参加態度姿勢（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
なし

P11200090 [NI2-001]

科目名	保健統計学	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二		

[到達目標]
1.看護職にとって必要とされる基本的な保健統計調査の概要を説明できる。
2.健康科学における調査の設計・実施・分析・評価の方法が理解できる。

[授業概要]
健康の維持・増進、あるいは疾病予防などに関する種々のデータを理解するためには統計的手法が用いられることが多いが、このような分野を保健統計と呼ぶ。本授業科目ではまず統計学の基礎を学ぶと共に、わが国の衛生関係の統計資料の概要を理解する。さらに人々の健康に関連した指標や疾病予防の観点から、保健・医療における実践や研究に不可欠な統計的データの収集、分析方法などについての基礎的知識や技術を学習する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1.前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。
2.日頃から授業に関係するニュース等に関心を持ち学んでおくこと。

[授業計画]
1. 看護における保健統計学の役割 (9/25)
2. 保健指標(死亡率、罹患率と有病率、指標の標準化、生命表、年次推移の観察など) (9/25)
3. 保健統計の見方 (1)人口統計: 人口静態統計と人口動態統計(9/27)
4. 保健統計の見方 (2)疾病統計: 患者調査と国民生活基礎調査(9/27)
5. 保健統計の見方 (3)その他(感染症発生動向,学校保健統計) (12/19)
6. 衛生統計の種類と意義・・わが国の現状と国際比較(12/19)
7. 基本となる保健統計(12/20)
8. 母集団と標本(標本抽出法)(12/20)
9. データ整理(1)(平均値、最頻値、中央値)(1/8)
10. データ整理(2)(分散、標準偏差、範囲)(1/8)
11. 平均値の差の検定(t検定)及び割合の検定(χ 2検定)(1/9)
12. 相関と回帰直線(1/9)
13. 看護のアンケート調査法(1)(調査対象の定義や実施)(1/16)
14. 看護のアンケート調査法(2)(質問事項、点推定と区間推定) (1/16)
15. まとめ(1/17)
16. 試験(1/30)

[成績評価方法]
成績の評価は学期末試験の結果(90-100%)と授業中の積極的な発言(0-10%)に基づいて行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし(講義中に資料を手渡す)

[参考書(ISBN)]
国民衛生の動向(購入済みのものを用いる)　著者名:厚生労働統計協会　出版社:厚生労働統計協会 (978-4-7620-2539-6)

P11200150 [NI3-001]

科目名	母性看護論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	田村　康子		

[到達目標]
母性看護の対象を理解し、基本的知識を習得すると共に、母子とその家族に関する法律、施策、社会資源を学ぶ。周産期における母子および家族の心身社会的な経過および健康状態のアセスメントと看護ケアを理解する。

[授業概要]
周産期にある女性と新生児、父親、家族の健康に関連する諸問題を概観し、次世代の健全な育成を支援する母性看護の役割を理解する。愛着理論や相互作用、役割移行理論など、母性・父性とは何かを考え、母子の健康を理解する上で基盤となる諸理論や母子保健関連法律、施策、社会資源を学ぶ。周産期の母子に生じる生理的変化や正常からの逸脱、それらに伴う対象の反応に関する理解を深め、これらを体験しながら生活している対象が、自らの能力を活かしてこの時期をより健康に過ごすために必要な看護援助ができる能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
女性の身体に関する解剖と生理について十分復習すること、周産期学、新生児については疾病と治療Ⅵ（小児医学）とも関連させながら予習や復習を行い、授業に参加すること。成人における内分泌の生理も復習しておくことで、妊娠期の内分泌変化について理解しやすくなります。

[授業計画]
1.母性看護とは何か：母性の定義、母性看護に関連する概念・理論（母子相互作用、役割移行、母親役割取得過程に関する理論）（9/25・Ⅲ限）

2.生殖器の形態と機能：女性の外性器・内性器、男性生殖器、月経周期
妊娠の成立：妊娠の定義、妊娠の成立、性分化、妊娠の診断、妊娠時期と分娩予定日の診断、妊娠期間の分類（9/25・Ⅴ限）

3.妊娠による身体の変化：生殖器、内分泌、全身における変化（9/27・Ⅲ限）

4.胎児と胎児付属物：胎児の発育と生理、胎児付属物の機能と生理、胎児の健康状態評価
妊娠による心理社会的変化：妊娠初期・中期・後期における妊婦や家族の情緒的変化（10/4・Ⅲ限）

5.妊娠期における看護①：妊娠期のヘルスアセスメント、セルフケアと支援（栄養、排泄、清潔、衣生活、活動と休息など（10/9・Ⅴ限）

6.妊娠期における看護②：マイナートラブルと対応、出産育児準備（10/23・Ⅲ限）

7.分娩の生理：分娩の定義、分類、分娩の3要素、分娩機序、正常分娩の経過（10/23・Ⅴ限）

8.分娩期における心身の状態と看護①：分娩が母児に及ぼす影響、分娩経過に影響する因子、産痛、産婦と家族の心理的特性（10/25・Ⅱ限）

9.分娩期における心身の状態と看護②：分娩経過のアセスメント、分娩各期のニーズや健康課題に応じた看護の変化と看護（10/25・Ⅲ限）

10.産褥期の身体的特徴：内分泌、性器の復古、全身に関する変化、母乳分泌、アセスメントの視点（10/30・Ⅲ限）

11.産褥期のニーズや健康課題に応じた看護：産褥期の健康課題、産褥期の心理的特徴と支援、退院に向けた生活調整への支援や社会資源（10/30・Ⅴ限）

12.母乳育児支援：母乳栄養の意義、授乳のアセスメントと看護（10/31・Ⅰ限）

13.新生児の生理：新生児の定義、分類、子宮外環境への適応と生理（10/31・Ⅱ限）

14.新生児の看護：出生直後および24時間以内のケア、早期新生児期におけるケア（11/6・Ⅴ限）

15.健康リスクを持つ母子への看護　（11/8・Ⅲ限）

16.試験（11/15・Ⅲ限）

[成績評価方法]
試験（100%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
母性看護学Ⅰ概論　著者名：有森直子編著　出版社：医歯薬出版株式会社 （978-4-263-23668-0）
母性看護学Ⅱ周産期各論　著者名：有森直子編著　出版社：医歯薬出版株式会社 （978-4-263-23669-7）

[参考書（ISBN）]
授業中に適宜紹介する。

P11200700 [NB2-022]

科目名	学びのグループゼミⅠ	前期～後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	野並 葉子、東 ますみ、魚里 明子、宇賀 昭二、藤田 冬子、洪 愛子、玉木 敦子、横内 光子、内 正子、下敷領 須美子、笹谷 真由美、田村 康子、丸山 有希、小路 浩子、馬場 敦子、福山 敦子、大谷 利恵、藤原 由子、元木 絵美、牛越 幸子、菅野 由美子		

[到達目標]
1. 学びのグループへの参加を通して、看護や看護の対象となる人々へ関心を向けることができる
2. 看護に向き合う姿勢や態度を学ぶことができる
3. 第Ⅰ段階の実習に向けての準備性(レディネス)を整えることができる
4. 自身の将来への大まかな見通しが想像できる

[授業概要]
学びのグループゼミは、8つの学びのグループ(1グループは1～4年次生が各10名ずつの40名からなる)を編成し、授業を行う。それぞれの学びのグループには、教員が学生の学びを焦点化するためのアドバイザーとして4～5名参加する。
学びのグループゼミⅠでは主に、自身あるいは2～4年次生の実習体験を聴くことを通して、看護の対象となる人やその人の生活状況、そこで提供されている看護について考えを深めていく。また自身も学びのグループのなかで、年間学習目標や実習体験を表明する機会を得て、他者の考えを聴く姿勢や自身の考えを相手に伝える方法を学んでいく。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
学びのグループゼミⅠの授業概要を理解し、各回の授業目的を意識して必要な事前準備を行ったうえで授業に参加すること。

[授業計画]
1. 学びのグループゼミⅠの意図や授業概要、到達目標についての説明、自己紹介を行う。
(4月12日木曜日5限)
2. 自身の将来を想像しながら、今年度1年間の学習目標をまとめ、発表する。事前課題として学習目標のレポートを書く。(4月13日金曜日5限)
3. 第Ⅰ段階(コミュニティ看護実習Ⅰ／成育看護実習Ⅰ)の実習における2年次生の体験やディスカッションを、興味をもったことや疑問に思ったことをメモに取るなどして関心を持って聴く。(4月19日木曜日5限)
4.医療看護実習Ⅱ(精神)／コミュニティ看護実習Ⅱ(老年)の実習における3年次生の看護実践報告を聴くことや、疑問に思ったことやわからないことを積極的に質問し、ディスカッションに参加する。(4月26日木曜日5限)
5. 医療看護実習Ⅰで出会った患者の入院環境、受けていた看護など、見学したことを学びのグループで発表・共有し、2、3年次生からアドバイスをもらいながらディスカッションを行う。グループメンバーに見学して分かったことがより深く伝わるよう、発表の内容や方法を工夫する。(9月20日木曜日5限)
6.第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)における4年次生の看護実践報告を聴くことや、疑問に思ったこと、分からないことを積極的に質問し、ディスカッションに参加する。(9月27日木曜日5限)
7. 医療看護実習Ⅱ(急性期・慢性期)／成育看護実習Ⅱ(小児・母性)の実習における3年次生の看護実践報告を聴くことや、アドバイザー兼ロールモデルとして参加している学外特別講師の意見を聴く中で、疑問に思ったことやわからないことを積極的に質問しながら、ディスカッションに参加する。(12月22日土曜日1限)
8.3年次生の発表を聴き、質問をする。3年次生の発表や学外特別講師の意見から、ディスカッションに参加することを通して、看護や看護の対象となる人々へ関心を高め、次年度に向けての準備を行う。(12月22日土曜日2限)
使用教室　F304、F102、F205、F210、F301、F302、F310、F529

[成績評価方法]
目標到達度(60%)、課題レポートの内容(40%)を総合的に評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
適宜授業内で紹介する。

P11200820 [NI1-003]

科目名	学びのグループゼミⅡ	前期～後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	野並 葉子、東 ますみ、魚里 明子、宇賀 昭二、藤田 冬子、洪 愛子、玉木 敦子、横内 光子、内 正子、下敷領 須美子、笹谷 真由美、田村 康子、丸山 有希、小路 浩子、馬場 敦子、福山 敦子、大谷 利恵、藤原 由子、元木 絵美、牛越 幸子、菅野 由美子		

[到達目標]
1. 看護についての問いを持ち、聴くことや書くことを通して、「他者の体験から学ぶ」姿勢を身につけることができる
2. 学びのグループへの参加を通して、看護実践の思考過程と倫理的判断について考えることができる
3. 学びのグループへの参加を通して、看護の役割や拡がり（予防から治療、地域・在宅への看護の拡がり）に気づくことができる

[授業概要]
学びのグループゼミは、8つの学びのグループ（1グループは1～4年次生が各10名ずつの40名からなる）を編成し、授業を行う。それぞれの学びのグループには、教員が学生の学びを焦点化するためのアドバイザーとして4～5名参加する。
学びのグループゼミⅡでは主に、診断や治療のために入院している人への看護実践（第Ⅱ段階の実習）を学びのグループで発表・共有し、自他の看護実践における学びを記述することを通して、看護の役割や拡がりを理解するとともに、看護の思考過程や倫理的判断について考える。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学びのグループゼミⅡの授業概要を理解し、各回の授業目的を意識して必要な事前準備を行ったうえで授業に参加すること。

[授業計画]
1. 学びのグループゼミⅡの意図や授業概要、到達目標についての説明、自己紹介を行う。
(4月12日木曜日5限)
2. 1年次に掲げた学習目標と第Ⅰ段階の実習経験を踏まえ、、今年度1年間の学習目標をまとめ、発表する。事前課題として学習目標のレポートを書く。(4月13日金曜日5限)
3. コミュニティ看護実習Ⅰあるいは、成育看護実習Ⅰで出会った人々が生活していた環境、受けていた看護や支援など見学したことを1年次生にもイメージできるような工夫をしながら学びのグループで発表し、自由にディスカッションを行う。(4月19日木曜日5限)
4.医療看護実習Ⅱ（精神）／コミュニティ看護実習Ⅱ（老年)の実習における3年次生の看護実践報告を聴く。学習が深まるよう、グループメンバーの発言に関心を持って聴くことや、質問することを通して「他者の体験から学ぶ」姿勢を身につける。(4月26日木曜日5限)
5. 1年次生の医療看護実習Ⅰにおける体験を聴き、自身の知識や経験を生かして実習における思いや体験に共感を示しながらディスカッションに参加する。(9月20日木曜日5限)
6. 第Ⅲ段階の実習である総合実習（地域・在宅）における4年次生の看護実践報告を聴く。学びの記述を繰り返し、「他者の体験から学ぶ」姿勢を身につける。(9月27日木曜日5限)
7.医療看護実習Ⅱ（急性期・慢性期）／成育看護実習Ⅱ（小児・母性）の実習における3年次生の看護実践報告を聴くことや、アドバイザー兼ロールモデルとして参加している学外特別講師の意見も聴く中で、予防や治療、退院後の地域における看護の役割について意識しながらグループディスカッションに参加する。(12月22日土曜日1限)
8.3年次生の発表や学外特別講師の意見を聴いて学びを記述しながら、看護実践の思考過程と倫理的判断について考える。(12月22日土曜日2限)
使用教室　F304、F102、F205、F210、F301、F302、F310、F529

[成績評価方法]
目標到達度（60%）、課題レポートの内容（40%）を総合的に評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
適宜授業内で紹介する。

P11200830 [NI2-003]

科目名	学びのグループゼミⅢ	前期～後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	野並 葉子、東 ますみ、魚里 明子、宇賀 昭二、藤田 冬子、洪 愛子、玉木 敦子、横内 光子、内 正子、下敷領 須美子、笹谷 真由美、田村 康子、丸山 有希、小路 浩子、馬場 敦子、福山 敦子、大谷 利恵、藤原 由子、元木 絵美、牛越 幸子、菅野 由美子		

[到達目標]
1.看護実践を表現すること、伝えることを通して、他者の存在により自己の学びを成長させることができる
2.学びのグループのディスカッションに参加し、看護実践の思考過程と倫理的判断を探求できる
3.看護専門職について考えることができる

[授業概要]
学びのグループゼミは、8つの学びのグループ(1グループは1～4年次生が各10名ずつの40名からなる)を編成し、授業を行う。それぞれの学びのグループには、教員が学生の学びを焦点化するためのアドバイザーとして4～5名参加する。
学びのグループゼミⅢでは主に、これまでの講義・演習と第Ⅱ段階の実習の学びの体験の進展を元に、看護実践事例のプレゼンテーション・ディスカッションを通して、他者に伝える力、企画する力を伸ばすとともに、看護専門職としての思考力を身につける。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
学びのグループゼミⅢの授業概要を理解し、各回の授業目的を意識して必要な事前準備を行ったうえで授業に参加すること。

[授業計画]
1. 学びのグループゼミⅢの意図や授業概要、到達目標についての説明、自己紹介を行う。
(4月12日木曜日5限)
2. これまでの講義・演習や実習での経験を踏まえ、今年度1年間の学習目標をまとめ、発表する。事前課題として学習目標のレポートを書く。(4月13日金曜日5限)
3. 第Ⅰ段階(コミュニティ看護実習Ⅰ／成育看護実習Ⅰ)の実習における2年次生の体験やディスカッションを聴き、これまでの経験や学びを踏まえて2年次生にアドバイスする。
(4月19日木曜日5限)
4.医療看護実習Ⅱ(精神)／コミュニティ看護実習Ⅱ(老年)の学びのグループでの学びをさらに深めることができるよう、2年次生にアドバイスしながら、看護実践の思考過程と倫理的判断について話し合うべきテーマを提案するなどし、ディスカッションに参加する。。(4月26日木曜日5限)
5. 1年次生の医療看護実習Ⅰにおける体験を聴き、ディスカッションに参加する中で、これまでに学習した知識や自己の体験を活用しながら1年次生にアドバイスをする。
(9月20日木曜日5限)
6. 第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)における4年次生の看護実践報告を聴くことや、、疑問に思ったことやわからないことは積極的に質問しながら、ディスカッションに参加する。また、看護実践の思考過程と倫理的判断についてこれまでに学習した知識や技術、経験を活用して質問し、検討すべき課題を提案したりするなど、グループ全体の学びを促進する。(9月27日木曜日5限)
7. 学びのグループで医療看護実習Ⅱ(急性期/慢性期)、成育看護実習Ⅱ(小児/母性)の看護実践を表現すること、伝えることを通し自己の学びを深める。さらにアドバイザー兼ロールモデルとして参加している学外特別講師の意見も聴く中で、ディスカッションを深め、看護実践の思考過程と倫理的判断を探求する。(12月22日土曜日1限)
8.話し合ったことについて発表し、学びのグループでの意見交換や学外特別講師の意見から、看護専門職について思考する。(12月22日土曜日2限)
使用教室　F304、F102、F205、F210、F301、F302、F310、F529

[成績評価方法]
目標到達度(60%)、課題レポートの内容(40%)を総合的に評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
適宜授業内で紹介する。

P11200840 [NI3-005]

科目名	学びのグループゼミⅣ	前期～後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	野並 葉子、東 ますみ、魚里 明子、宇賀 昭二、藤田 冬子、洪 愛子、玉木 敦子、横内 光子、内 正子、下敷領 須美子、笹谷 真由美、田村 康子、丸山 有希、小路 浩子、馬場 敦子、福山 敦子、大谷 利恵、藤原 由子、元木 絵美、牛越 幸子、菅野 由美子		

[到達目標]
1.看護の学習者として自立することができる
2.学びのグループへの参加を通して、仲間と共同する重要性を学ぶことができる
3.看護を職業としていくことや将来のキャリアについて目標を持つことができる

[授業概要]

学びのグループゼミは、8つの学びのグループ(1グループは1～4年次生が各10名ずつの40名からなる)を編成し、授業を行う。それぞれの学びのグループには、教員が学生の学びを焦点化するためのアドバイザーとして4～5名参加する。
学びのグループⅣでは、2年次生及び3年次生が行う第Ⅱ段階の実習経験の発表において、助言者の役割を引き受ける。さらに、看護を実践していく仲間や仲間と共同する重要性についても学ぶ。実習で掴んだ臨床の看護課題への取り組みや、そのプロセスを発表して、看護の学習者として自立することについて考えを深め、看護を職業としていくことや将来のキャリアについて目標を見出す。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
学びのグループゼミⅣの授業概要を理解し、各回の授業目的を意識して必要な事前準備を行ったうえで授業に参加すること。

[授業計画]
1. 学びのグループゼミⅣの意図や授業概要、到達目標についての説明、自己紹介を行う。
(4月12日木曜日5限)
2. これまでの講義・演習や実習での経験を踏まえ、今年度1年間の学習目標をまとめ、発表する。事前課題として学習目標のレポートを書く。(4月13日金曜日5限)
3. 第Ⅰ段階(コミュニティ看護実習Ⅰ／成育看護実習Ⅰ)の実習における2年次生の体験やディスカッションを聴き、これまでの経験や学びを踏まえて2年次生にアドバイスする。(4月19日木曜日5限)
4.医療看護実習Ⅱ(精神)／コミュニティ看護実習Ⅱ(老年)の学びのグループでの学びをさらに深めることができるよう、2年次生にアドバイスしながら、看護実践の思考過程と倫理的判断について話し合うべきテーマを提案するなどし、ディスカッションに参加する。(4月26日木曜日5限)
5. 1年次生の医療看護実習Ⅰにおける体験を聴き、ディスカッションに参加する中で、これまでに学習した知識や自己の体験を活用しながら1年次生にアドバイスをする。(9月20日木曜日5限)
6. 第Ⅲ段階の実習である総合実習(地域・在宅)で掴んだ臨床の看護課題を探索的に取り組んだプロセスと結果を報告する。他年次生に看護の学習者としての自立や看護を職業としていくことについて身をもって示し、将来のキャリアについて目標を見出す。(9月27日木曜日5限)
7. 学びのグループで医療看護実習Ⅱ(急性期/慢性期)、成育看護実習Ⅱ(小児/母性)の実習における3年次生の看護実践報告を聴くことや、アドバイザー兼ロールモデルとして参加している学外特別講師の意見も聴く中で自己の学びを深める。さらにアドバイザー兼ロールモデルとして参加している学外特別講師の意見も聴く中で、ディスカッションを深める。(12月22日土曜日1限)
8.話し合ったことについて発表し、学びのグループで意見交換や学外特別講師の意見から、看護を職業としていくことや将来のキャリアについて思考する。(12月22日土曜日2限)
使用教室　F304、F102、F205、F210、F301、F302、F310、F529

[成績評価方法]
目標到達度(60%)、課題レポートの内容(40%)を総合的に評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
適宜授業内で紹介する。

P11200850 [NI4-004]

科目名	慢性期看護論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	藤原　由子		

[到達目標]
1.成人期にある慢性疾患をもつ人をどのように理解していくかが分かる。
2.慢性期・終末期にある人の病気の体験や看護アセスメントから、健康障害による身体をどのように見ていくかが理解できる。
3.生活習慣病や難病、炎症性疾患、がんなどの慢性疾患にある人の健康の維持・回復、苦痛緩和への援助の方法を理解できる。

[授業概要]
成人期にある人の特有な健康問題のうち、慢性期・終末期の健康障害と病気と共に生きる人の体験を理解し、ケアリングの考えを基盤にした看護援助について学ぶ。慢性期にある人の病気の体験や看護アセスメントから、健康障害による身体の変化を理解する。生活習慣病や難病、炎症性疾患、がんなどの慢性疾患の人の身体理解と事例展開を通して、健康の回復・苦痛の緩和への看護援助の理論と実践、成人期にある人の健康の増進、生活習慣病の予防の看護援助の理論と実践を理解する。さらに、健康障害により終末期にある人の理解と苦痛の緩和への看護援助の実践を学ぶことにより、治療とともに終末を迎える人や緩和治療について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
各授業において該当する教科書の内容を読んでくること。また前回の授業内容を復習し、十分に理解したうえで次回の授業へ臨むこと。

[授業計画]

1. 成人看護学概論
4月9日（月）3限
2. 慢性疾患の定義と特徴
4月9日（月）4限
3. 呼吸器疾患のある人の看護：在宅酸素療法、呼吸リハビリテーションにおける看護
4月16日（月）3限
4. 肝疾患のある人の看護：慢性肝炎を抱えながら生きる人を支援する、肝硬変に至った患者の支援
4月16日（月）4限
5. 循環器疾患のある人の看護（1）：虚血性心疾患・心不全のある人の身体の理解、心臓リハビリテーションにおける看護
4月23日（月）3限
6. 循環器疾患のある人の看護（2）：循環器疾患のある人の事例における身体アセスメ
ントと看護ケアの展開
4月23日（月）4限
7. 自己免疫疾患のある人の看護：自己免疫疾患のある人の身体の理解、甲状腺機能亢進症の事例における看護ヘルスアセスメント
5月7日（月）4限
8. 障害受容と疾病認識、神経難病のある人の看護、病気の受容と在宅ケアの調整
5月14日（月）4限
9. がん看護総論　学外講師　がんセンター　がん専門看護師　橋口周子先生
5月21日（月）4限
10. 化学療法・放射線療法を受ける人の看護
5月28日（月）3限
11. 病院における患者体験とヘルスケアシステム：慢性疾患の鍵となる問題（長期、不確か、多大な努力、重複疾患、侵害的、費用がかかる）と基本的方略
5月28日（月）4限
12. セルフケア支援を促す患者教育：成人学習理論、自己効力を高めるための方略、患者のセルフケアを支援する教育的アプローチ
6月4日（月）4限
13. 腎疾患のある人の看護：慢性腎臓病とともに生活する人への支援、慢性腎不全（保存期）に至った人への支援、人工透析を受ける人への支援
6月11日（月）4限
14. アレルギー疾患のある人の看護：アレルギー疾患による身体の変化の理解、アトピー性皮膚炎患者の生活の理解、アレルギー疾患がある人のセルフケア支援
6月18日（月）4限
15. 終末期にある人の理解と看護：終末期における看護技術、疼痛のアセスメント、疼痛緩和
6月25日（月）3限
16. 試験
6月25日（月）4限

[成績評価方法]
授業参加態度（10%）、試験（90%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「パーフェクト臨床実習ガイドーライフステージに沿った看護技術と看護の展開－成人看護実習ガイドⅡ　慢性期・回復期・終末期」 著者名：野並葉子編集　出版社：照林社 （9784796524124）
系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学[1] 「成人看護学総論」(第14版) 著者名：小松浩子他　出版社：医学書院 （9784260018067）
その他、プリント配布

[参考書（ISBN）]
「慢性疾患を生きる　ケアとクオリティライフの接点」 著者名：ストラウス著、南裕子訳　出版社：医学書院 （978-4260348614）
慢性疾患の病みの軌跡　著者名：コービン＆ストラウス著、黒江ゆり子　出版社：医学書院 （978-4-260-34172-1）

P11200540 [NB3-010]

科目名	薬理学	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	平岩　英培		

[到達目標]
　薬が作用する過程を理解するために必要な受容体などの薬の作用点や情報伝達系などの基礎的知識を修得する。さらに、薬物治療に応用できるように、神経系に作用する薬、炎症・アレルギーに対する薬物、抗菌薬や抗悪性腫瘍薬などの作用機構について具体的に理解する。

[授業概要]
　疾病の薬物治療において、医師、薬剤師および看護師は、それぞれの立場で協同して治療にかかわらなければならない。そのためには、薬がどのように生体に作用するのかを十分に理解しておく必要がある。「薬理学」は、疾病の治療や予防の目的で使用される薬が、生体にどのように働きかけるのかを科学的に理解しようとする学問である。
　本科目では、薬が作用する過程を理解し、治療薬がどこにどのように作用して疾患や症状に対する治療効果をもたらすかを解説する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　薬理学を効率よく学ぶためには、「人体のしくみと機能Ⅰ」「人体のしくみと機能Ⅱ」「疾病と治療(内科学)」「栄養代謝学」の理解が必要である。これらの科目を十分に理解すること。
　前回の授業内容を復習し、次回の授業の予習をしておき、日頃から医療に関するニュース等に関心を持つこと。

[授業計画]
1. 薬理学総論①　4/9
　生理機能と薬理作用の関係および薬はどのように作用するかを学ぶ。
2. 薬理学総論②　4/16
　薬の作用点としての受容体と情報伝達機構を学ぶ。
3. 薬理学各論①　4/23
　自律神経系に作用する薬物(その1:交感神経系)の作用を学ぶ。
4. 薬理学各論②　5/7
　自律神経系に作用する薬物(その2:副交感神経系)の作用を学ぶ。
5. 薬理学各論③　5/14
　中枢神経系に作用する薬物(催眠薬、全身麻酔薬など)の作用を学ぶ。
6. 薬理学各論④　5/21
　抗炎症薬の作用を学ぶ。
7. 薬理学各論⑤　5/28
　抗アレルギー薬の作用を学ぶ。
8. 薬理学各論⑥　6/4
　抗菌薬および抗悪性腫瘍薬の作用を学ぶ。
9. 試験　6/11

[成績評価方法]
試験結果(100%)に基づいて評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
系統看護学講座　薬理学　著者名:吉岡充弘ほか　出版社:医学書院　(978-4-260-01814-2)

[参考書(ISBN)]
なし

P11200100 [NB2-002]

科目名	養護概説	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	丸山　有希		

[到達目標]
　養護教諭の行う学校保健活動を理解し、養護教諭の専門性と役割、学校での健康支援の方法を修得する。

[授業概要]
「児童生徒の養護をつかさどる」専門職である養護教諭は、教育職員の一員として専門性を生かし、学校保健推進の中核的役割を果たしている。
　養護教諭の活動は広範囲で多岐にわたり、求められる役割は勤務する校種や対象となる子供たちの発達段階、学校を取り巻く地域の状況によっても変化する。養護教諭の職務の専門性と、養護教諭独自の職務である養護活動について具体的な展開方法を学び、発育・発達段階にある子供たちの健康問題の理解、およびそれらに対する援助方法を習得する。
　また、それら養護教諭が行う学校保健活動の実際を学ぶ中で、専門職として果たすべき役割を論究する。学校内の他の職種や、学校外の専門機関および、保護者・地域との連携についても合わせて学習し、対象に合わせ、保健室の機能を生かした職務を実践できる能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業内容の予習をしておくこと。

[授業計画]
1. 養護教諭とは？歴史と職務内容、関係法規について学ぶ
2. 学校保健安全計画と学校保健管理の意義、作成上の留意点を学ぶ
3. 保健室経営について、実際の保健室での活動例を参考にしながら学ぶ
4. 健康観察と疾病管理について、意義と手法について学ぶ
5. 健康診断の意義と法的根拠、検診項目と実施手順の概要を学ぶ
6. 内科検診・歯科検診・耳鼻科検診・眼科検診、法に定められたその他の検診について、意義、目的および、学校で実施する際の手順等を学ぶ
7. 学校でよく見られる感染症とその対応、および危機管理について概要を学ぶ
8. 養護教諭のフィジカルアセスメントと救急処置について、外科的事例をあげ、具体的な対応を学ぶ
9. 養護教諭のフィジカルアセスメントと救急処置について、内科的事例を挙げ、具体的な対応を学ぶ
10. 養護教諭のフィジカルアセスメントと救急処置について、心身症・その他の事例をあげ、具体的な対応を学ぶ
11. 幼児期～青年期における子どもの健康課題とその対応について学ぶ
12. 保健教育についての概要、および基本的生活習慣・感染予防について、保健教育と保健指導の手法を学ぶ
13. 歯科保健・性教育・安全教育・その他について、保健教育と保健指導の手法を学ぶ
14. 健康相談の法的根拠と、養護教諭が行う健康相談の進め方について学ぶ
15. 組織としての学校の活動のあり方、また家庭・地域の連携について学ぶ
16. 試験

F102

[成績評価方法]
授業への取組み姿勢（授業態度、課題レポート等）（60%）、試験（40%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「養護教諭の活動の実際」 著者名：静岡県養護教諭研究会　編著　出版社：東山書房 （978-4-8278-1487-3）

[参考書（ISBN）]
なし

P11200690 [NI2-002]

科目名	予防看護論	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	馬場　敦子		

[到達目標]
1.生活習慣病と関連する生活習慣(生活行動)について述べることができる。
2.生活習慣病予防に関する施策と看護の関連性について述べることができる。
3.生活習慣変容に関する諸理論と対象者自身が捉える主観的な生活との違いを理解する。
4.集団への看護と個への看護の関連性を述べることができる

[授業概要]
生活習慣病の一次予防に焦点をあて、食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等と疾患の発症や進展との関連を理解し、健康的な生活習慣づくりを支援する看護についての学びを深める。生活習慣病という概念の形成につながる大規模臨床研究結果、関連施策等を理解し、それらと看護における生活理解との関連性について理解する。生活習慣変容に関する諸理論(保健信念モデル、エンパワメントモデル、変化ステージモデル、自己効力理論等)を概観し、様々な看護のアプローチ法があることを知る。さらに客観的に捉えることを目指したそれら諸理論と対象者が主観的に捉える生活には違いがあることを知り、対象者とともに対象者が望む健康生活を創造する看護とはどのようなものかについて理解を深める。また、疾病管理の考え方をもとに、集団への看護と個への看護の関連性について理解し、様々な施策と臨床現場での具体的な看護援助との関連性を理解する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
準備学修　関連する文献等を読み理解し、自身の考えを整理しておく。日頃から自分自身や他者の生活に関心を持ち、様々な視点で生活を捉えることを試みる。

[授業計画]
1.生活習慣病と生活行動。大規模臨床研究結果および生活習慣病の関連施策
自身の生活習慣変容への取り組み課題の説明(12/20(木) Ⅰ限)
2.生活習慣変容に関する諸理論の概観①(12/20(木) Ⅱ限)
3.生活習慣変容に関する諸理論の概観②
生活習慣変容への取り組み課題についての考察①:自身の生活習慣変容への取り組みを各種理論と関連させて考察する(1/10(木) Ⅰ限)
4.客観的な生活理解と主観的な生活理解との違いと看護援助(1/10(木) Ⅱ限)
5.集団への看護と個への看護(1/11(金) Ⅰ限)
6.生活習慣変容への取り組み課題についての考察②:自身の生活習慣変容への取り組みを各種理論と関連させて考察し、対象者とともに対象者が望む健康生活を創造する看護とはどのようなものかについて理解を深める(1/17(木) Ⅰ限)
7. まとめ①:糖尿病事例を用いて、一次予防、二次予防、三次予防に対する看護を考える(1/17(木) Ⅱ限)
8.まとめ②:糖尿病事例を用いて、一次予防、二次予防、三次予防に対する看護を考える(1/30(水) Ⅰ限)
9.試験(2/7(木) Ⅱ限)

[成績評価方法]
課題レポート(30%)、受講態度(30%)、試験(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　生活習慣病を中心に」 著者名:松本千明著　出版社:医歯薬出版株式会社 (978-4-263-23337-5)
「生活習慣病のしおり」 著者名:社会保険出版社編　出版社:社会保険出版社 (978-4-7846-0301-5)

[参考書(ISBN)]
「国民衛生の動向　2016/2017年版」 出版社:一般財団法人厚生労働省統計協会
「新しい慢性疾患ケアモデル―ディジーズマネジメントとナーシングケースマネジメント」 著者名:森山美知子編
出版社:中央法規出版 (978-4-805-82935-6)
適宜プリントを配布する。

P11200230 [NB3-001]

科目名	老年看護実践方法論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	笹谷　真由美		

[到達目標]
1.老年期に起こり易い加齢・虚弱、慢性疾患に関する健康問題、またそれらが日常生活に及ぼす影響を理解できる。
2.高齢者個々人による違いやこれまでの生活背景や人生観・価値観など全体像を含めたアセスメント、看護計画立案の知識を得て、高齢者への援助技術が習得できる。

[授業概要]
健康を障害された高齢者の状態を総合的にアセスメントできる能力を養うために、高齢者が陥りがちな健康障害に応じた看護援助を展開するための方法を学ぶ。授業では老年期に起こりがちな健康障害である脳血管障害、認知症、心疾患、呼吸器系の疾患、パーキンソン病、骨・関節疾患等のケアを行うためのアセスメントと看護について、また、健康障害を悪化させやすい症状である脱水・栄養障害、せん妄、褥瘡等のアセスメントや予防・看護援助について学ぶ。さらに地域で自立して暮らす高齢者、あるいは介護を受けながら暮らす高齢者においても、健やかに老いを迎えられるための支援、終末期を迎える高齢者についての理解も深める。授業では「コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）」で学んだ内容を振り返り、講義と実習で学んだ内容を統合し学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
授業を受けるにあたり、準備する内容、事前課題などについては適宜指示する。

[授業計画]
1.オリエンテーション
老年看護論で学んだ内容の振り返り、老人看護を実践するため知識の統合及び授業の取り組み、学習方法を学ぶ(9/26)
2.加齢の影響および虚弱高齢者の健康状態の特徴を理解するとともに必要のとなるアセスメントと看護について学ぶ(9/26)
3.呼吸器・循環器の機能低下やこれらの疾患をもつ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(9/28)
4.運動機能の低下・骨折・脳神経疾患等を持つ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(9/28)
5.運動機能に障害を持つ高齢者へのアセスメント及び日常生活援助の方法を学ぶ(12/19)
6.摂食嚥下機能に障害を持つ高齢者へのアセスメントと日常生活援助の方法を学ぶ(12/19)
7.排泄機能に障害を持つ高齢者へのアセスメント及び日常生活援助の方法を学ぶ(12/21)
8.認知症・精神疾患等を持つ高齢者を理解するとともに必要となるアセスメントと看護について学ぶ(12/21)
9.老いと死、高齢者の終末期の特徴、死にかかわる権利、死を看取る場所、および終末期の看護について学ぶ(1/10)
10.健康障害がある高齢者の看護過程を展開するために必要な情報収集及びアセスメントの方法、アセスメントの活用と援助計画の立案について学ぶ(1/10)
11.健康障害がある高齢者の看護過程における援助計画の実施と評価の方法について学ぶ(1/17)
12.健康障害がある高齢者の事例を用いて、情報収集・アセスメント・看護計画を立案する (1/26)
13.健康障害がある高齢者の事例で立案した看護計画でのケア提供及びその結果の情報をもとに、看護過程を評価修正する(1/26)
14.高齢者の機能回復や生活を支援するリハビリテーションおよび各職種の役割について学ぶ (1/31)
15.高齢者の地域での生活を支えるケアスタッフ、保健・医療・福祉等の他職種との連携との協働・マネジメントについて学ぶ (1/31)
16.試験（2/4）

[成績評価方法]
1. 授業の後のレポート（20%） 2. 試験（60%） 3. 参加状況および態度等（20%）
上記項目にて総合的に評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践」 著者名：堀内ふき　他　出版社：メディカ出版 (978-4-8404-5380-6)

[参考書（ISBN）]
「生活機能からみた 老年看護過程+病態・生活機能関連図」第3版　著者名：山田律子　他　出版社：医学書院 (978-4-260-02836-3)
「パーフェクト臨床実習ガイド　老年看護」 著者名：正木治恵　出版社：照林社 (978-4-7965-2409-4)

P11200280 [NB3-003]

科目名	老年看護論	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子		

[到達目標]
1. 加齢による人間の反応を理解できる
2. 老年期を生きる人々と看護の役割を理解できる
3. 高齢者を取り巻く社会制度と課題について理解できる
4. 高齢者にかかわる倫理的課題について理解できる

[授業概要]
加齢のプロセスや老年期の特徴、加齢と健康の関連及び発生する健康障害と疾病予防について理解する。高齢者が健やかに老いるために求められる看護の役割や機能、高齢者を支える保健・医療・福祉や社会制度の変遷、高齢者が持つ価値観、高齢者が生きてきた時代とこれからの人生、高齢者ケアにまつわる倫理的問題についても学ぶ。これらを統合し健康障害がある高齢者を理解できるように学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
授業内容について教科書の該当するところを、熟読し理解を深めておくておくこと。
授業前には身近な高齢者の生活やニュース、新聞記事などに関心を持っておくこと。
前回の授業内容を復習しておくこと。

[授業計画]
1. 加齢によるライフサイクルの変化の理解、老年期における健康と危機、発達課題、加齢による心身の変化と生活への影響、高齢者に必要となる援助の視点、高齢者を支える社会制度を概観する(4/12)
2. 高齢者のQOLと加齢による心身の変化に対する日常生活上での対処及び工夫、必要な援助の視点を学ぶ(4/19)
3. 高齢者の基本的看護を実施するためアセスメントを学ぶ(4/26　2限)
4. 健康障害を持つ高齢者の情報をもとに基本的欲求が満たされているか事例を用いて学ぶ(4/26 3限)
5. 高齢者の暮らしを支える保健・医療・福祉等の他職種との協働･マネジメントの活動を概観し今日の課題を考える(外部講師)(5/10)
6. 健康障害を持つ高齢者の基本的欲求の分析・解釈から看護過程の展開を学ぶ(5/17 2限)
7. 事例を用いて健康障害を持つ高齢者の情報の確認、分類・整理の分析・解釈等について学ぶ(5/17 3限)
8. 高齢者の生きてきた時代と価値観を学び、今後の高齢者およびこれから高齢者となる人の人生の考え方、倫理的課題とその対応の実際を理解する(5/24)
9. 試験(6/7)

[成績評価方法]
1. 試験(60%)
2.授業前後・授業中の課題への取り組み(24%)
(課題提出時は指定された用紙で指定期限までに出されたもののみ評価)
3.授業参加度(16%)
上記項目にて総合的に評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
「ナーシング・グラフィカ　老年看護学①:高齢者の健康と障害」第5版　著者名:佐久大学 看護学部看護学科 堀内 ふき、佐久大学 看護学部看護学科 大渕 律子、千葉大学大学院 看護学研究科訪問看護学領域教授 諏訪 さゆり
出版社:メディカ出版 (104-8404-5379-9)
「最新 老年看護学」第3版(2018年版) 著者名:水谷信子監修　出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-2085-6)
看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　著者名:秋葉 公子 (著)、玉木 ミヨ子 (著)、村中 陽子 (著)、江崎 フサ子 (著) 出版社:ヌーベルヒロカワ (ISBN-10: 4861740568)

[参考書(ISBN)]
なし

P11200270 [NB2-005]

教　職　科　目

（授業科目名 五十音順）

科目名	栄養教育実習	前期	1 単位
サブタイトル	実践力のある栄養教諭を目指して		
担当者	松崎　隆幸		

[到達目標]
　各学校での教育実習を通じて、教育の実際を学び、確実な栄養教育指導や授業などの教育実践ができる力を身につける。

[授業概要]
　各学校での管理職をはじめ校務担当教員の講話、学級担任・教科担任・栄養担当教職員の指導を受けて、観察実習、授業実践、栄養指導などを行う。また、生徒指導をはじめとする校務にも携わり、実践的な指導力の向上を図る。事後の指導では、教育課題への対応の仕方、実習後の課題の整理などを行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　栄養教育指導法、栄養教育学習指導案の作成、人権・学級経営・生徒指導等の児童生徒の学習指導に必要な事項について、その概要を復習しておくこと。

[授業計画]
学校実習（1週間）
　・管理職の講話、校務担当教職員の講話と指導
　・実習校の学級担任・教科担任の指導と観察実習
　・栄養担当職員の指導と指導案の作成及び実践授業
　・栄養教育指導の実際
　・大学教員、実習校教職員の指導等
　・研究授業と反省
　・実習のまとめ
事後指導（3単位時間）
　・実習後の課題の整理等

[成績評価方法]
実習状況（40%）、実習校からの評価資料（40%）、実習記録等（20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
適宜プリント等を配布

[参考書（ISBN）]
各自調達のこと

P19010060 [CH4-006]

科目名	栄養教育実習指導	後期	1 単位
サブタイトル	有意義な栄養教育実習のために		
担当者	松崎　隆幸、谷山　優子、榎元　十三男		

[到達目標]
栄養教育実習に参加するに当たり、教育実習の目的・意義、授業の指導力、児童生徒との対応力等を学び、教育実習に必要な実践力を身につけ、有意義な教育実習ができる力をみにつける。

[授業概要]
教育実習の目的・意義、教育実習への心構え、授業の実際、学習指導案の書き方、実習校での活動、実習記録のとり方、教育課題への対応の仕方等を学ぶ。また、実習後の課題の整理などを行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
栄養教育指導法、栄養教育学習指導案の作成、人権・学級経営・生徒指導等の児童生徒の学習指導に必要な事項について、その概要を復習しておくこと。

[授業計画]
(事前指導)
1. 教育実習の依頼について(松崎)
2. 教育実習に向けて(松崎)
3. 先輩の実習体験談の聴講(松崎)
4. 教育実習の様子(松崎)
5. 教育実習の目的・意義(松崎)
6. 教育実習の心得(榎元)
7. 課題教育「特別支援教育・人権教育」(谷山)
8. 生徒指導(谷山)
9. 指導案の書き方(谷山)
10. 学級経営(谷山)
11. 授業の実際(松崎)
12. 教育実習と採用試験(松崎)
13. 実習直前講話(榎元)
14. 実習ノートの記入(榎元)
15. 教育実習の方法(松崎)
(事後指導)
1. 実習後の情報交換会(松崎)
2. 課題の整理、今後に向けて(松崎)
3. まとめ(松崎)

[成績評価方法]
授業への取組態度(40%)、授業への参加度(30%)、平常点等(30%)を総合して評価

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
適宜プリント等を配布

[参考書(ISBN)]
各自調達のこと

P19010070 [CH3-016]

科目名	教育課程総論	前期	2 単位
サブタイトル	教育課程の意義及び編成の方法を考える		
担当者	松崎　隆幸		

[到達目標]
戦後の教育改革の概要を知り、これからの教育の方向性を考える力を身につける。また、現行の学習指導要領の内容を理解するとともに、教育課程編成の基礎知識を身につける。

[授業概要]
教職をめざす者にとり、教育の本質、教育の目的、教育の内容等について正しく理解させる。そのために教育活動の基盤である教育課程の定義および各教科の教育課程編成の実際を把握し、道徳・特別活動・総合的な学習時間の在り方、意義について学習指導要領をもとに学ばせたい。また、教科の授業研究として学習指導の基礎や授業のデザイン・スキルを理解させたい。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
前回の授業内容を復習し、次回の授業の予習をしておくこと。また、日頃から授業に関連する新聞記事などに関心を持って見ておくこと。

[授業計画]
1. 教育課程とは―教育課程とカリキュラム　教育課程の構造―
2. 戦後の教育課程の歩み―経験カリキュラムと教科カリキュラム　個性化・多様化―
3. 学習指導要領の改訂―背景、方向性、理念等―
4. カリキュラムの編成―カリキュラムの編成・実施・評価　構成―
5. 教育課程の構成①―学習指導要領総則(総説　改訂の要点　教育課程の基準等)―
6. 教育課程の構成②―学習指導要領総則(道徳教育)―
7. 教育課程の構成③―学習指導要領総則(各教科・科目の単位数　履修　授業時数等)―
8. 教育課程の構成④―学習指導要領総則(教育課程の編成・実施の配慮事項　手順と評価・改善)―
9. 教育課程の構成⑤―学習指導要領(総合的な学習の時間)
10. 教育課程の構成⑥―学習指導要領(特別活動)
11. 学力と教育評価―新学力観　OECDコンピテンシー　絶対評価と相対評価―
12. 学校マネジメントと学校評価―教育課程と学校マネジメント　その課題―
13. 教育課程の創造①―授業研究①　学習スタイルと授業形態―
14. 教育課程の創造②―授業研究②　授業をつくる技術・授業のデザイン―
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(50%)、レポート等(20%)、受講態度等(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
『教育課程論』 著者名:田中智志・橋本美保監、山内紀幸編　出版社:一藝社 (978-4-86359-058-8)
『高等学校学習指導要領解説　総則編』　著者名:文部科学省　出版社:東山書房 (978-4-8278-1480-4)

[参考書(ISBN)]
随時指示する。

P19000070 [CH3-009]

科目名	教育基礎論Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	教育の理念・思想・歴史・実践		
担当者	保田　その		

[到達目標]
　教育の歴史、教育のあり方に関する思想についての知識をもち、現在の教育を取り巻く状況について理解を深める。

[授業概要]
　この講義では、「教育」とは何かということを検討し、次いで「教育」がどのように行われてきたか、行われているかということを、過去の事例（歴史）、外国の事例なども含めて解説し、「教育」を支える理念や思想についても学ぶようにする。後半では、現在の教育に関する動向をについて学び、「これによって、「教育」を多角的に捉えて考える力、必要や興味関心に応じて自ら調査、研究を行う力をつけることを目的としている。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　文部科学省のホームページなどを見て教育政策について関心を持つようにしておく。高校までの歴史教科書を見直し、日本史、世界史についての基本的な知識を復習しておく。

[授業計画]
1. 教育とは何か
2. 教育の歴史と思想　世界1(19世紀まで、コメニウス、ルソー、ペスタロッチなど)
3. 教育の歴史と思想　日本1(古代から江戸時代までの教育、江戸時代の教育思想)
4. 教育の歴史と思想　世界2(義務教育の成立、19-20世紀の教育思想、デューイ、パーカーストなど)
5. 教育の歴史と思想　日本2(明治から昭和戦前までの教育制度、教育思想)
6. 教育の歴史と思想　日本3(戦後教育史、学習指導要領の変遷)
7. 近年の教育改革と次期学習指導要領
8. 教育の方法について 「主体的、対話的で深い学び」とは
9. 道徳教育、有権者教育
10. 特別活動、課外活動
11. 生徒指導・教育相談
12. 学校、学級内の人間関係といじめ
13. 共生社会において求められる学校教育（特別支援教育など）
14. 義務教育のあり方と不登校問題
15. 社会の中の学校～家庭、職場、地域との関係

[成績評価方法]
講義中の提出物(ミニッツペーパー,manabaへの提出など)、講義参加(発言、ディスカッションなど)(40%)　試験(60%)

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし

[参考書（ISBN）]
やさしい教育原理　著者名：田嶋一、中野新之佑、福田須美子、狩野浩二
　出版社：有斐閣 (978-4-641-22081-2)
『学習指導要領　総則』
生徒指導提要
教育の力　著者名：苫野一徳　出版社：講談社現代新書

P19000020 [CH2-035]

科目名	教育行政学	後期	2 単位
サブタイトル	現代の教育行政・教育制度を理解する		
担当者	山下　晃一		

[到達目標]
教職に必要な教育行政・教育制度に関する基礎概念、諸学説，基本的論点、課題に関する理解を深め、これからの学校制度のあり方を見通す手がかりを得る。

[授業概要]
毎日の教育は、教室のなかだけで完結するものではない。社会と深くつながって成立する。
学校で働く教職員（ヒト）、校舎・机・いす・教科書など施設・設備・教材（モノ）は、自然に集まるのでなく、誰かが計画的に整備しなければならない。それには当然、費用（おカネ）も必要になる。
さらに世間の人々が、どのように学校教育を見つめ、また手助けしようとしているのか・いないのか、そういった意識も、学校に大きな影響を与える。
これらヒト・モノ・おカネ・意識など、社会に渦巻く様々な資源やエネルギーを、よりよい学校教育の実現のために取りまとめ、うまく動かそうとするのが、教育行政という仕事の本質である。この講義では、教育を支える制度と行政のしくみ・働きを説明しながら、今の教育の課題や可能性を考えていく。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
前回の授業内容を復習し、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から、教育関係の新聞記事やニュースに関心を持ち、教育行政や教育制度を具体的に理解できるようにする。

[授業計画]
1. 中央の教育行政(1) －教育を受ける権利の保障－
2. 中央の教育行政(2) －教育法制の基本枠組－
3. 中央の教育行政(3) －現代教育政策の問題－
4. 地方の教育行政(1) －教育委員会制度の理想－
5. 地方の教育行政(2) －教育委員会制度の現実－
6. 地方の教育行政(3) －政治・首長からの影響－
7. 学校の管理運営(1) －学校組織とリーダーシップ－
8. 学校の管理運営(2) －児童・生徒への「処分」－
9. 学校の管理運営(3) －いじめ問題への対応－
10. 教育行政と教員(1) －教員の資格・採用－
11. 教育行政と教員(2) －教員の服務・研修－
12. 教育行政と教員(3) －教員政策のゆくえ－
13. 教育行政と教育改革(1) －学校制度の改革－
14. 教育行政と教育改革(2) －格差社会と教育－
15. 教育行政と教育改革(3) －開かれた学校づくり－

[成績評価方法]
講義への出席状況・受講態度および講義各回における小レポートの内容と提出状況を併せた平常点（65%），試験または期末レポート（35%）の合計

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
教育のための法学　著者名：篠原清昭編著　出版社：ミネルヴァ書房 （978-4623067480）

[参考書（ISBN）]
なし

P19000260 [CH1-050]

科目名	教育社会学	後期	2 単位
サブタイトル	社会との関係から考える教育		
担当者	保田　その		

[到達目標]
　教育にかかわる様々な現象を、社会との関連で理解し、考察を深めることができるようになること。

[授業概要]
　教育と社会との関連について、身近な教育問題を例として取り上げ、それらを社会学の立場から分析する。具体的には、組織や制度といった教育の社会的側面や、また経済や政治や家族など教育を取り巻く社会との関連に着目して考えるようにしたい。さらに世の中に流布している教育に関する常識や「べきだ」論からは一歩距離を置いて相対化する力、さまざまな資料を理解し多角的に分析する力をつけることも期待される。
　統計資料、新聞や雑誌の記事、研究書などの文献を実際に扱い、これらの読み方、分析の仕方についても学習していきたい。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教育基礎論の内容を復習しておくこと。
教育問題を扱った新聞記事を日ごろから読むようにしておくこと。

[授業計画]
1. 教育社会学の考え方
2. 研究の方法について
3. 教室の人間関係といじめ
4.不登校問題、フリースクールなど
5. 少年犯罪・少年非行
6. 青少年をとりまくメディア
7. ジェンダーと教育
8. 子育て・家庭教育
9. 学校と職業
10. 教育拡大について
11. 教育にかかる費用
12. 教育機会の不平等
13/14/15　①レポートの発表　③ディスカッション

教室　D404

[成績評価方法]
講義中の提出物(ミニッツペーパー,manabaへの提出)、講義への参加(発言、ディスカッションなど)(40%)
最終レポート(60%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
指定しない

[参考書(ISBN)]
『現代教育社会学』 著者名：岩井八郎・近藤博之(編)　出版社：有斐閣ブックス　(978-4-641-18382-7)
『教育と社会　子ども・学校・教師』 著者名：陣内靖彦・穂坂明徳・木村敬子(編著)　出版社：学文社　(978-4-7620-2257-9)

P19000040 [CH3-007]

科目名	教育心理学Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中島　實		

[到達目標]
　子どもの発達、学習と学習指導、教育評価、障害児について心理学からの理解を深め、よりよい教育活動のあり方について考察し、子どもの発達および教師の役割を発展的に考えることが、この授業の到達目標である。

[授業概要]
　本講は、学校教育場面にかかわる諸テーマについて主として心理学のさまざまな分野の知見、特に児童生徒の発達、学習と学習指導、学習の動機づけ、教育評価、障害児について理解を深め、よりよい教育活動を行う上で必要な知識と方法を学んでいく。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　前回の授業内容および該当する教科書(プリント)の関連個所を復習し、次回の予定内容に関連する教科書の該当箇所を予習すること。

[授業計画]
1.教育心理学のねらいと概要
2.発達の概念
3.発達の規定因―遺伝と環境
4.発達の理論―発達課題
5.発達の理論―発達段階
6.学習の基礎理論―条件づけ理論
7.学習の基礎理論―観察学習と洞察
8.学習の動機づけ
9.学習指導―プログラム学習と発見学習
10.学習指導―有意味受容学習と協同学習
11.教育評価の目的と種類
12.教育評価の方法
13.障害児の種類と特徴
14.発達障害と特別支援教育
15.まとめ

[成績評価方法]
試験(100%)とともに、授業時の質疑への対応も考慮して評価を行なう。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
精選コンパクト教育心理学　著者名:北尾倫彦ほか　出版社:北大路書房 (4762825220)

[参考書(ISBN)]
なし

P19000030 [CH2-036]

科目名	教育相談	前期	2 単位
サブタイトル	学校における教育相談の意義と理論		
担当者	谷山　優子、前田　研史		

[到達目標]
・学校における教育相談の意義と課題を理解している。
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解している。
・教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解している。
・いじめ、不登校、虐待、非行、発達障がい等の教育課題への教育相談の進め方を理解している。

[授業概要]
学校現場では、いじめ、不登校、非行、学級崩壊といった教育課題にどう対処するかが重要になっている。児童・生徒一人ひとりの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格を成長させる支援が教員に求められている。
この授業では主体的で深い学びをめざし、アクティブ・ラーニングやロールプレイなどを用いる。学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談の意義や基本的な技法、教育相談の進め方などを事例から学習し身に付けることをめあてとする。また、発達障がいのある子どもの理解や支援の方法、保護者や関係機関との望ましい連携の在り方（カウンセリングの基礎的知識を含む）を身に付けることをめあてとして授業を行う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・事前に「教育相談」「カウンセリング」に関する書物を読んでおくこと。
・最近の教育課題についての概要を把握しておくこと。
・授業で出された課題について探究的に取り組むこと。

[授業計画]
1.教育相談の意義（個性の伸長と人格の成長）（谷山） 4/9
2.教育相談校内体制作り（目標の立て方や進め方）（谷山） 4/16
3.自己理解と好ましい人間関係の構築（谷山） 4/23
4.教育相談の進め方①（カウンセリングマインド）（谷山）5/7
5.教育相談の進め方②（いじめ、不登校、虐待、非行等）（谷山） 5/14
6.教育相談に関わる心理学の基礎理論（前田） 4/14 1限
7.問題行動の心理的背景（前田） 4/14 2限
8.発達障がいの理解（前田） 4/14 3限
9.スクールカウンセラー・関係諸機関との連携（前田） 4/21 1限
10.教育相談で用いるカウンセリング技法（前田） 4/21 2限
11.教育相談の進め方③（進路や生き方）（谷山） 5/21
12.教育相談の進め方④（保護者との連携）（谷山） 5/28
13.アサーショントレーニングとストレスマネージメント（谷山） 6/4
14.「ケース会議」のロールプレイ（谷山） 6/11
15.まとめ（谷山） 6/18

[成績評価方法]
試験（50%）、授業中の課題（50%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
『生徒指導提要』 著者名：文部科学省　出版社：教育図書 （978-4-87730-274-0）

[参考書（ISBN）]
授業進度に応じて紹介

P19000210 [CH3-014]

科目名	教育方法の理論と実践	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	和田　清美、竹田　和恵		

[到達目標]
・教育の方法と技術の基本を学び、授業設計・授業実践の力を磨く。
・実際に学校で確実な授業実践(ICTの活用含む)ができる力を身につける。

[授業概要]
　授業とは何か。文部科学省では「教育の情報化」をビジョンに掲げ、情報教育、教科指導におけるICTの活用、校務の情報化の3つを柱として、教育の質の向上を目指している。
本講義では、ICTの活用にも注目しつつ現代の教授理論、教育情報、教育方法等の基本的事項、授業実践例を学び、ディスカッション、レポート、模擬授業などにより、子どもの成長を考えた授業の創造、授業を組立てる力の習得を図る。さらに、より工夫された授業の組立て・授業の展開ができるよう、授業実践力の向上を目指す。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
授業後に配付プリント等を読み返すなどして復習をする
免許に係る新聞記事や実践的な取組など、平素から情報の収集に努めること。

[授業計画]
1.授業とは何か(和田) 4/12
2.教育課程の基礎(和田) 4/19
3.現代の教授理論①(和田) 4/26
4.現代の教授理論②(和田) 5/3
5.授業の設計と評価(和田) 5/10
6.教育の情報化に関する手引き(竹田) ※
7.教育情報機器・ソフトウェアの開発と活用(竹田)※
8.教育方法と学校・学級の経営(和田) 5/17
9.教育活動と評価(和田) 5/24
10.授業実践の事例研究(電子黒板、タブレット端末等のICT技術の活用事例含む)(竹田)※
11.ICTを活用した教育のまとめ(竹田)※
12.教育方法の基本問題と教育実践(和田)5/31
13.学習指導案の作成演習(和田) 6/7
14.模擬授業①(和田) 6/14
15.模擬授業②・まとめ(和田) 6/21

※4/21　3～4限　2回生 看護・3回生 栄養
※5/12　3～4限　2回生 看護・3回生 栄養

[成績評価方法]
試験(60%)、レポートと課題演習(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
『教育の方法』 著者名:佐藤学　出版社:左右社 (978-4-903500-34-8 C0337)
『教育方法学』 著者名:佐藤学　出版社:岩波書店 (9784000260053)

P19010190 [CH3-012]

科目名	教職実践演習(栄養教諭)	後期	2 単位
サブタイトル	教職のまとめと実践力のさらなる向上		
担当者	重福　京子、佐藤　誓子、本田　まり、松崎　隆幸		

[到達目標]
栄養教諭の職務に必要な、食に関する指導と学校給食の管理を一体のものとして、その重要性を理解する。さらに、演習を通じて教員としての自己の課題を自覚し、必要に応じた知識や技能を補い、定着を図る。

[授業概要]
学校見学や栄養教諭の講義等で、学校現場の実情を学び、実務に当たっての心構えを学ぶ。また、指導計画・模擬実施、地場産業や食文化の調査等から、栄養教諭としての必要な知識を学ぶ。これらによって、教員としての自己の課題を自覚するとともに、必要な知識・技能の定着を図る。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
栄養教育指導法、人権教育、生徒指導等、学校現場での学習指導に必要な事項を中心に、実際の教員生活を想定した学習の仕上げであることを意識して復習しながら受講すること。

[授業計画]
1. オリエンテーション(松崎)
2. 教職の意義と教員の役割(松崎)
3. 学校現場における実務実習(食材の調達、管理)(重福)
4. 学校現場における実務実習(学校給食の運営・管理)(重福)
5. 学校現場における実務実習(教職員、家庭との連絡調整)(重福)
6. 実務実習のまとめ(学校での実務のまとめ)(重福)
7. 地場産業、食文化等に関する模擬授業の試み①情報収集(本田)
8. 地場産業、食文化等に関する模擬授業の試み②指導案作成等の授業準備(本田)
9. 地場産業、食文化等に関する模擬授業の試み③模擬授業及び討議(本田)
10. 地場産業、食文化等に関する模擬授業の試み④模擬授業及び討議(本田)
11. 学校給食経営管理①学校給食法と個別対応(佐藤)
12. 学校給食経営管理②給食を活用した献立作成(佐藤)
13. 学校給食経営管理③給食献立を活用した食育発表会(佐藤)
14. 特別支援学校での給食経営(佐藤)
15. まとめ(グループ発表、指導助言)(松崎)

[成績評価方法]
授業の理解度(30%)、取組姿勢(30%)、課題レポート(20%)、発表等(20%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
適宜プリント等を配布

[参考書(ISBN)]
なし

P19010010 [CH4-005]

科目名	教職実践演習(養護教諭)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	丸山　有希、榎元　十三男、松崎　隆幸		

[到達目標]
　養護教諭としての使命や職務内容の重要性を理解し、具体的な実践演習の展開を通して養護教諭に関する専門性を広く学ぶことで、教育現場に適応する知識とスキルを習得する。

[授業概要]
「養護教諭としての実践的な知識とスキルの習得を目指す」をテーマに、以下の項目について、調査、分析、討議、ロールプレイ、事例研究等の方法で、演習授業を展開し、実践的な指導力を養う。
① 養護教諭としての使命感や責任感、教育的愛情に関する事項
② 他の教職員との連携と調整に関する事項
③ 児童生徒理解および、ヘルスプロモーションについて
④ 養護教諭が行う保健指導と保健管理
⑤ 適切な保健室経営
本演習は4年生の後期に実施されるものであり、受講者はすでに養護実習を終了している。これまでに授業で学んだこと、および実習校で学んだ養護教諭の職務に関する学びの集大成として、これまでの復習を兼ね、学校現場で即対応できる能力の研鑽の場としたい。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
　過去の関連項目の授業を復習し、当日の授業に臨むこと。

[授業計画]
1.オリエンテーション(松崎　隆幸)11/7　3限
2.教職の意義と教員の役割(松崎　隆幸)11/7　4限
3.養護教諭の職務内容について、グループ討論で意見を出し合う。(丸山有希)11/13　1限
4.グループで討議しながら学校保健計画案・保健室経営計画案を作成する。
(丸山有希)11/13　2限
5.模擬検診を実施し、健康診断の実践と事後措置を学ぶ。(丸山有希)11/20　1限
6.壁面掲示と保健だよりの作成例を見て、その意義について学ぶ。(丸山有希)11/20　2限
7.救急処置について、事例を挙げながら対応を学ぶ。その1(丸山有希)11/27　1限
8.救急処置について、事例を挙げながら対応を学ぶ。その2(丸山有希)11/27　2限
9.学校での緊急時を想定し、ロールプレイで対応について学ぶ。(丸山有希)12/4　1限
10.重い障害がある子供の健康管理、軽度の障害がある子供の支援と養護教諭の担う役割を学ぶ。(丸山有希)12/4　2限
11.児童生徒の現代的な健康課題に関するケースを挙げ、それについての対応を検討する。(丸山有希)12/11　1限
12.児童生徒理解と健康相談活動について、グループ討議で意見を出し合う。
(丸山有希)12/11　2限
13.「私の考える理想の養護教諭」のテーマで考えを発表し合い、学びを深める(丸山有希)12/14　2限
14.社会人としての基本、保護者対応をロールプレイで検証する。(榎元十三男)12/14　3限
15.資質能力の確認、まとめ(榎元十三男)　12/14　4限

[成績評価方法]
授業への取組み姿勢(授業態度・発表内容等)60%
課題レポート40%

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P19010160 [CH4-010]

科目名	教職論	後期	2 単位
サブタイトル	教職について概観する		
担当者	松崎　隆幸		

[到達目標]
　学校教育全般についての理解を深めるとともに、「教職とは何か」について、教職の意義、内容などを概観する。また、期待される教職像を探求し、将来の教職の基礎を作る。

[授業概要]
　教育を取り巻く学校・社会の変化を概観し、「教育とは」「学校とは」「教育者とは」を考える。また、学習指導要領、教育法規、教育の現状を紹介し、これからの教育、教育者の在り方等を考え、課題解決のための教師としての資質や能力について考え、将来の教職に基礎としたい。
（注意）栄養教諭・養護教諭の免許状取得予定者は必修である。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　教科書における本時の授業範囲を各自が再読することによって復習する。また、次回の授業範囲を読み、授業に関係するニュース等を収集しておく。

[授業計画]
1. 教育の目的、意義　－なぜ人間は教育が必要か－
2. 教職の意義　－教職とは、教師の仕事－
3. 教職への道　－教員免許状、教員養成、採用試験－
4. 教師の資質・能力　－教師観の変遷、これからの教師－
5. 教えるということ　－教師の指導とは－
6. 授業とは　－教授と学習、授業構想－
7. 児童生徒理解・生徒指導
8. 専門職としての教師　－専門職とは、専門職のコミュニティー
9. 学校とは　－公教育、学校力、地域と学校－
10. 組織人としての教師　－教職員組織、マネジメント－
11. 教育公務員としての教師　－任用、身分、服務－
12. 教師の勤務　－勤務実態、勤務条件等－
13. 学校・家庭・地域の連携　－地域での学校の役割、家庭地域の教育力－
14. 学び続ける教師　－研修、キャリア・デザイン－
15. まとめ　－教育の今日的課題－

[成績評価方法]
試験（50%）、レポート等（20%）、受講態度等（30%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
『教職概論』教師教育講座第1巻　著者名：曽余田浩史編著　出版社：協同出版　(978-4-319-10670-7)

[参考書（ISBN）]
随時指示する。

P19000010 [CH1-049]

科目名	人権教育	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	田中　美紀子、伊藤　昇		

[到達目標]
「生きる力」を育む教育活動において重要となる、基本的な人権に関する知識を習得し、現実に人権問題に直面した時に的確な判断を行い対処できる能力が身につく。

[授業概要]
本講義では西洋近代における自然法思想における「自然権」を始点として、18世紀啓蒙思想における人権の意義と人権尊重の理念を把握し、人権という概念が、自由の概念とともに確立されてきたことを歴史的に認識する。さらに現代の日本に目を向け、学校、家庭および地域社会の中で様々な状況において台頭する人権の問題を、身近な例を取り上げながら学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
指定された文献・資料に目を通して疑問点をみつけておく。日頃から人権に関する時事問題に関心を持つように努めること。

[授業計画]
8月27日(月)
1時限: ①人権とは何か。人権問題とは何か。(田中)
2時限: ②人権の意義と理念(1) ロック、ホッブスにおける自然権(田中)
3時限: ③人権の意義と理念(2) ルソーとフランス革命(田中)
8月28日(火)
1時限: ④人権の意義と理念(3) 国連世界人権宣言(田中)
2時限: ⑤人権の尊重(1) 日本国憲法(田中)
3時限: ⑥先住民および在日外国人の人権(田中)
8月29日(水)
1時限: ⑦人権の尊重(2) 自由と平等(伊藤)
2時限: ⑧同和教育(伊藤)
3時限: ⑨子供の人権(伊藤)
8月30日(木)
1時限: ⑩女性の人権(1) 家庭における女性(田中)
2時限: ⑪女性の人権(2) 社会における女性(田中)
3時限: ⑫情報社会における人権(伊藤)
8月31日(金)
1時限: ⑬障害者の人権(田中)
2時限: ⑭高齢者の人権(田中)
3時限: ⑮試験(田中)

[成績評価方法]
試験(100%)と授業態度を総合的に評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし。別途プリント配付。

[参考書(ISBN)]
『人権をめぐる十五講—現代の難問に挑む (岩波現代全書)』2013年　著者名:辻村 みよ子　出版社:岩波書店
これでわかった!部落の歴史—私のダイガク講座　著者名:上杉聡　出版社:解放出版社　(978-4759240405)

P19000050 [CH3-008]

科目名	生徒指導論(栄教・養教)	後期	2 単位
サブタイトル	生きる力を育む生徒指導力を身につける		
担当者	榎元　十三男		

[到達目標]
自己実現を目指した在り方生き方の指導をテーマに、児童生徒の理解の方法、生徒指導の技法をはじめ、生徒指導の概念と実際について理解する。特に、現実的課題である体罰、いじめについての洞察を深める。また、自己の在り方生き方を考える機会とし、栄養教諭・養護教諭としての姿勢や態度を育成する。

[授業概要]
生徒指導の概要、教育上の位置、現状の課題を概観し、「教師と児童生徒の信頼関係と児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒が自主的に判断・行動し積極的に自己を生かすことができるよう指導と援助を行う」という、生徒指導の目的を達成するための方法や技量を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
児童心理、発達過程等、子どもの成長過程における心の変化や行動様式について学修しておくことが望ましい。また、生徒指導関係の新聞報道等に注意しておくこと。

[授業計画]
1. 生徒指導の意義・内容・方法
2. 生徒指導と教育課程・歴史・理論
3. 各教科指導や食育等と生徒指導との関連
4. 生徒指導の校内体制と教育相談体制
5. 児童生徒の発達課題と心理
6. 発達障害についての理解・アセスメント
7. 生徒指導の今日的課題(規範意識・貧困・児童虐待等)
8. 生徒指導の理論及び方法(集団指導・個別指導)
9. 生徒指導と法制度(校則・懲戒・ゼロトレランス・コンプライアンス)
10. 問題行動(いじめ・不登校等)の現状と課題
11. 問題行動(いじめ・不登校等)への対応・ロールプレイ
12. 生徒指導における自己指導能力の育成
13. 関係機関との連携・学校安全管理
14. 生徒指導における栄養教諭・養護教諭の役割・カウンセリングの基礎
15. まとめ

[成績評価方法]
試験(50%)、課題演習等(20%)、受講態度(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
生徒指導提要　著者名:文部科学省　出版社:教育図書　(978-4-87730-274-0)

[参考書(ISBN)]
なし

P19010120 [CH3-017]

科目名	道徳教育の理論と実践	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	田中　美紀子		

[到達目標]
教育活動全体を通じて行われる道徳教育の意義を考え、道徳教育の内容を把握し、教育の現場における様々な状況を想定しながら、実践的な指導力が身につく。

[授業概要]
本講義では『学習指導要領』に明記される道徳教育の意義と目標、道徳教育の内容、道徳教育の実践を主要な柱として扱う。児童・生徒の発達段階に応じて、道徳心を培うために選択した資料を用いて学習指導案を考案・作成する。それに基づいて模擬授業を行い、実践的能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
指定されたテキスト・資料をあらかじめ読んでおくこと。

[授業計画]
第1回：オリエンテーション、道徳教育の意義
第2回：道徳教育の目標
第3回：道徳教育の内容①　自分自身に関すること
第4回：道徳教育の内容②　人とのかかわり
第5回：道徳教育の内容③　集団や社会とのかかわり：公平、公正、社会正義
第6回：道徳教育の内容④　生命、自然、崇高なものとのかかわり
第7回：道徳の指導法について
第8回：学習教材・資料の分析
第9回：学習指導案の考案・作成
第10回：模擬授業①
第11回：模擬授業②
第12回：模擬授業③
第13回：模擬授業④
第14回：模擬授業⑤
第15回：総括および授業に関する反省と評価

[成績評価方法]
学習指導案と模擬授業（20%）、期末試験（80%）の割合で総合的に評価

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」平成27年7月 文部科学省
{中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編,http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1375633_8.pdf}
著者名：文部科学省　出版社：URL
「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」平成27年7月　文部科学省
{小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編,http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1375633_6.pdf}
著者名：文部科学省　出版社：URL

[参考書（ISBN）]
なし

P19010180 [CH3-010]

科目名	特別活動論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	長瀬　善雄		

[到達目標]
1. 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。
2. 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。
3. 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。
4. 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。

[授業概要]
特別活動は教科、道徳、総合的な学習の時間とともに教育活動を担う重要な領域である。特別活動の意義及び目的を学習指導要領の中で確認し理解する。さらに、特別活動の歴史的発展をみることで今日の特別活動の意味を明確にする。また、特別活動の学級活動・ホームルーム活動、児童会活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事などのそれぞれの特質を概説する。その上で、現在の学校の病理と特別活動の関連を考察し、特別活動の実践的指導力を身に付けることの重要性を認識できる学修にする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 学習指導要領の概要及び学習指導要領解説「特別活動編」を熟読すること。
2. 合意形成に向けた話合い活動、意思決定につながる指導の在り方、集団活動の意義について事前に学修しておくこと。

[授業計画]
1. 特別活動の歴史的変遷と教育課程上の意義
2. 教育課程における特別活動の位置付けと教科等との関連
3. 特別活動の目標と各活動・学校行事の目標との関連
4. 活動に特別おける方法原理
5. 発達段階に応じた話合い活動の指導について
6. 特別活動と学級経営
7. 学級活動の内容と指導
8. 学校行事の内容と家庭・地域との連携
9. 児童会・生徒会活動、クラブ活動の内容と指導の在り方
10. 特別活動における評価の在り方
11. 特別活動と生徒指導との関連
12. 学校行事の指導計画の作成について
13.「学級活動（2）」における模擬実践①
14.「学級活動（2）」における模擬実践②
15. まとめ

[成績評価方法]
試験（60%）、レポートと模擬実践（30%）、受講態度（10%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
『小学校学習指導要領解説　特別活動編』 著者名：文部科学省　出版社：東洋館出版社 （4491023794）

[参考書（ISBN）]
なし

P19000180 [CH3-011]

科目名	特別支援学校体験活動	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	丸山　有希		

[到達目標]
幼児・児童生徒の障害特性と特別支援学校での活動を知り、養護教諭を含む教職員の支援のあり方を考えることができる。

[授業概要]
学校現場には、特別支援学校だけでなく通常の学校においても、何らかの障害を有する子供たちが在籍している。これらの子供たちの健やかな成長発達と有意義な学校生活を保障するため、学校現場では決め細やかな配慮が求められる。
「特別支援学校体験活動」では、特別支援学校にて各学校での管理職、学級担任、養護教諭等の指導を受けて、観察実習を行う。子供たちとともに活動することにより、特別支援学校の現状に触れ、養護教諭にとって必要不可欠な、「子供たちの障害(特性)理解」、「障害に応じた適切な関わり」について学ぶ。また、特別支援学校の保健室および養護教諭の活動に触れ、特別支援教育における養護教諭の役割を理解する。事前・事後の指導では、教育実習の意義、実習記録の取り方、教育課題への対応の仕方、実習後の課題の整理などを行う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
脳性まひ、自閉症、ダウン症候群など、特別支援学校に多く在籍している子供たちの障害について予め学習し、最低限の知識を持って活動に臨むこと。

この科目は養護教諭1種免許を取得しようとするものを対象とする。受講希望者は1年次後期までの教職必修科目の単位をすべて修得していなければならない。

[授業計画]
＜事前指導(大学にて)＞
1. 特別支援学校体験活動の目的と意義
2. 学生としての心構え

＜体験活動（各特別支援学校にて）＞
＊特別支援学校において5日間の体験活動を実施する。
3. 管理職の講話、校務担当教員の講話と指導
4. 児童生徒の健康管理および保健室来室者への対応と救急処置の実際・保健室の整備および備品の管理について
5. 教室等における学習場面の参観および児童生徒理解
6. 児童生徒の介助体験
7. 慢性疾患や障害のある児童生徒への配慮の実際・学校安全管理と救急体制の実際　等

＜事後指導(大学にて)＞
8. 体験活動で学んだことを各自がレポートにまとめ、発表することで、参加者間で学びを共有する。

[成績評価方法]
目標達成度(活動記録、レポートを含む)(75%)
事前・事後指導を含む体験活動への参加態度(25%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P19010170 [CH2-038]

科目名	養護実習A	後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	丸山　有希、榎元　十三男、松崎　隆幸		

[到達目標]
実習校の教育環境や状況を理解し、学校組織の実際と、その中での学校保健の位置づけを学び、養護教諭の役割について理解する。実際に子供と対応し、養護教諭としての児童生徒への適切な接し方を身につける。

[授業概要]
養護実習Aでは、大学で学んだ理論・技術を実習校での実際の体験を通じて応用し、さらに深く理解することを目的とする。各学校での管理職をはじめ、校務担当教員の講話、学級担任、教科担任、養護教諭の指導を受けて、学校教育や、児童生徒理解、児童生徒の健康課題について学び、それらに関わる養護教諭の役割について理解する。観察実習、保健指導、救急処置等を行い、また、生徒指導をはじめとする校務にも携わり、実践的な指導力の向上を図る。事前指導では教育実習の意義、実習記録のとり方、教育課題への対応の仕方などを学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
過去の授業内容を復習しておく。学校現場に出る上では、一社会人として、また一教員としての自覚を持ち、誠実な態度で実習に臨むこと。

[授業計画]
事前指導(大学にて)
　教育実習の目的と意義、実習生としての心構え等

教育実習(各実習校にて)
1. 管理職の講話、校務担当教員の講話と指導
2. 学級担任、教科担任の指導
3. 保健室の整備および備品の管理について
4. 教室等における学習場面の参観および児童生徒観察の実際
5. 保健室来室者への対応と救急処置の実際
6. 学校安全管理と環境衛生管理の実際
7. 学校救急体制の実際
8. 児童生徒の健康管理
9. 慢性疾患や障害を抱える児童生徒への配慮
10. 教職員の健康管理の実際
11. 学校行事、児童生徒保健委員会活動
12. 健康教育の実際　等

[成績評価方法]
実習の成績評価票に基いた実習校の指導者の評価(70%)
実習記録の内容等(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P19010140 [CH4-008]

科目名	養護実習B	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	丸山　有希、榎元　十三男、松崎　隆幸		

[到達目標]
実習校の教育環境や状況を理解し、学校組織の実際と、その中での学校保健の位置づけを学び、養護教諭の役割について理解する。実際に子供と対応し、養護教諭としての児童生徒への適切な接し方を身につける。

[授業概要]
養護実習Bでは、大学で学んだ理論・技術を実習校での実際の体験を通じて応用し、さらに深く理解することを目的とする。各学校での管理職をはじめ、校務担当教員の講話、学級担任、教科担任、養護教諭の指導を受けて、学校教育や、児童生徒理解、児童生徒の健康課題について学び、それらに関わる養護教諭の役割について理解する。観察実習、保健指導、救急処置等を行い、また、生徒指導をはじめとする校務にも携わり、実践的な指導力の向上を図る。事前指導では教育実習の意義、実習記録のとり方、教育課題への対応の仕方などを学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
過去の授業内容を復習しておく。学校現場に出る上では、一社会人として、また一教員としての自覚を持ち、誠実な態度で実習に臨むこと。

[授業計画]
事前指導(大学にて)
　教育実習の目的と意義、実習生としての心構え等

教育実習(各実習校にて)
1. 管理職の講話、校務担当教員の講話と指導
2. 学級担任、教科担任の指導
3. 保健室の整備および備品の管理について
4. 教室等における学習場面の参観および児童生徒観察の実際
5. 保健室来室者への対応と救急処置の実際
6. 学校安全管理と環境衛生管理の実際
7. 学校救急体制の実際
8. 児童生徒の健康管理
9. 慢性疾患や障害を抱える児童生徒への配慮
10. 教職員の健康管理の実際
11. 学校行事、児童生徒保健委員会活動
12. 健康教育の実際　等

[成績評価方法]
実習の成績評価票に基いた実習校の指導者の評価(70%)
実習記録の内容等(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
なし

[参考書(ISBN)]
なし

P19010150 [CH4-009]

科目名	養護実習指導	前期	1 単位
サブタイトル			
担当者	丸山　有希、榎元　十三男、松崎　隆幸		

[到達目標]
　養護教育実習生として必要な心得や行動、救急処置や保健指導の実際、保健室経営に携わる素地を身につけ、養護教諭としての責務を理解する。また、それぞれの教育実習に臨む前に自己の課題を見出し、より効果的な実習ができるように準備をする。

[授業概要]
「養護教育実習」参加の前提として、事前の履修が課せられている。
　本講義では、教育職員免許法の趣旨に基づき、これまでに学習した関係科目の内容の総合的理解を図り、教育実習生として必要な心得や行動を学ぶ。それとともに、保健指導や保健管理の実際、保健室経営などの養護教諭の職務に携わる素地を身につける。また、模擬授業の実施により、学習指導案の書き方や保健指導の方法等も整理する。合わせて、養護教諭の職務の中核をなす救急処置について演習を行い、学校現場で即対応できる技術を身につける。
　それに加え、これらの養護教諭の多様な職務に関して、教育活動の一環としてその機能を果たすために、どのように職務をとらえ、展開するのかを、学校での実際の活動場面に即して理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
　これまでに学んだ関連分野の内容について、復習して理解を深めておく。

[授業計画]
1.実習の目的・意義・心得（松崎隆幸）4/5
2.生徒指導・学級経営について（榎元十三男）4/5
3.特別支援教育・人権教育（丸山有希　谷山優子）4/5
4.授業・指導案・採用試験について（榎元十三男）4/5
5.養護教諭の職務と役割について学び、求められる養護教諭像を考える（丸山有希）4/6
6.保健指導の実際、指導案の書き方、および実習記録の書き方について学ぶ（丸山有希）4/6
7.保健指導案に沿って実際の指導を体験する4/11（丸山有希）
8.学校における安全管理と養護教諭の役割、救急対応について学ぶ（丸山有希）4/11
9.けがの手当て、救急処置についての講習（丸山有希）4/18（F529）
10.学校現場でよく見られるけがや病気の対応について学ぶ（丸山有希）4/18（F529）
11.人形を使い、演習形式で心肺蘇生法を学ぶ　その1（丸山有希）4/25（F529）
12.人形を使い、演習形式で心肺蘇生法を学ぶ　その2（丸山有希）4/25（F529）
13.実習生の実習報告（松崎隆幸）12/1
14.今後の課題・レポート作成（松崎隆幸）12/1
15.まとめ（松崎隆幸）12/1

[成績評価方法]
授業への取組み姿勢50%　授業内での小テスト20%　レポート課題30%

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし（適宜指示する）

[参考書（ISBN）]
適宜指示する

P19010130 [CH4-007]